

第7回自然環境保全基礎調査

浅海域生態系調査（干潟調査）
報告書

平成19（2007）年3月

環境省自然環境局 生物多様性センター



厚岸湖 (写真:向井宏)



松島湾 (写真:鈴木孝男)



谷津干潟 (写真:飯島明子)



江奈湾 (写真:飯島明子)



五ヶ所湾 (伊勢路川) (写真:西川輝昭)



男里川 (写真:古賀庸憲)



四万十川 (写真:和田恵次)



和白干潟 (写真:逸見泰久)



永浦 (写真:逸見泰久)



浦内川 (写真:藤井晴彦)



ホソウミナ *Batillaria cumingi*
(写真:鈴木孝男)



ウミナ *Batillaria multiformis*
(写真:鈴木孝男)



フトヘナタリ *Cerithidea (Cerithidea) rhizophorarum*
(写真:鈴木孝男)



センバイアワモチ *Plateindex sp.*
(写真:西川輝昭)



カワゴカイ類 *Hediste sp.*
(写真:鈴木孝男)



ツバサゴカイ
Chaetopterus cautus
(写真:風呂田利夫)



タマシキゴカイ *Arenicola basiliensis*
(写真:風呂田利夫)



タテジマユムシ
Listriolobus sorbillans
(写真:木村妙子)



スジホシムシモドキ *Siphonosoma cumanense*
(写真:風呂田利夫)



マメコブシガニ *Philyra pisum*
(写真:鈴木孝男)



モクズガニ *Eriocheir japonicus*
(写真:西川輝昭)



ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus*
(写真:鈴木孝男)



ハマガニ *Chasmagnathus convexus*
(写真:木村妙子)



アシハラガニ *Helice (Helice) tridens tridens*
(写真:鈴木孝男)



チゴガニ *Ilyoplax pusilla*
(写真:鈴木孝男)



ソデカラッパ *Heikea japonica*
(写真:木村妙子)



カブトガニ *Tachypleus tridentatus* (写真:佐藤正典)



ミドリシャミセンガイ *Lingula anatina*
(写真:木村妙子)

目次

| | |
|---------------------------|-----|
| はじめに | 1 |
| 執筆者一覧・調査責任者一覧・同定責任者一覧 | 2 |
| 第1章 調査の背景と目的 | 4 |
| 第2章 方法 | 6 |
| 第3章 海域ごとの生物相と干潟の現状・過去との比較 | 19 |
| 第4章 干潟底生生物の地理的な特徴 | 128 |
| 第5章 注目種の分布状況 | 146 |
| 第6章 結果の考察と今後の課題 | 232 |
| 巻末別表1 出現種総リスト | |
| 巻末別表2 地域別出現種リスト | |
| 巻末図 主要種・注目種の分布図 (30種) | |

はじめに

自然環境保全基礎調査は、わが国における自然環境の現状及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するために、自然環境保全法第4条に基づき昭和48（1973）年から環境庁（現環境省）が実施してきたものである。

干潟をはじめとした浅海域は、生産力が高く、また生物多様性が高いことで知られており、南北に長い日本列島においては、変化に富んだ気象条件と暖流（黒潮・対馬暖流）及び寒流（親潮）の影響の下に、海域ごとに多様な底生動物相が見られる。しかし全国の干潟における底生動物相を比較するためには、統一的な手法による調査が必要であり、これまではそのような大規模な調査は例がなかった。

本調査では、自然環境保全基礎調査の一環である浅海域生態系調査（干潟調査）として、平成14（2002）年度より、全国の代表的な干潟における底生動物相について統一的な手法により情報の収集把握を行ったものであり、この成果は、近年注目されているわが国の沿岸域における自然環境保全の基礎的資料として、関係各面で活用されることが期待される。

なお、本調査は、環境省生物多様性センターからの請け負いにより、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合が実施した。

最後に、本調査の実施及び報告書作成に携わった調査担当者及び検討委員各位に厚くお礼を申し上げる次第である。

平成19（2007）年3月
環境省自然環境局
生物多様性センター

執筆者一覧（50音順，*：執筆者代表）

朝倉 彰
千葉県立中央博物館

飯島 明子
NPO法人日本国際湿地保全連合

伊谷 行
高知大学教育学部

今岡 亨

岩田 明久
京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科

内田 紘臣
串本海中公園センター

小川 数也

加藤 真
京都大学大学院人間・環境学研究科

木村 妙子
三重大学生物資源学部

古賀 庸憲
和歌山大学教育学部

駒井 智幸
千葉県立中央博物館

佐藤 正典
鹿児島大学理学部

鈴木 孝男
東北大学大学院生命科学研究所

高島 義和

西川 輝昭
名古屋大学博物館

布村 昇
富山市科学文化センター

福田 宏
岡山大学農学部

風呂田 利夫
東邦大学理学部

逸見 泰久
熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

松政 正俊
岩手医科大学教養部

向井 宏
北海道大学北方フィールド圏研究センター

森野 浩
茨城大学理学部

大和 茂之
京都大学フィールド科学教育研究センター

山口 寿之
千葉大学理学部

山西 良平
大阪市立自然史博物館

和田 恵次*
奈良女子大学理学部

調査責任者一覧

| 地域 | 氏名（所属） | |
|----------|--------|-----------------------|
| 北海道 | 向井 宏 | （北海道大学北方フィールド圏研究センター） |
| | 五嶋 聖治 | （北海道大学水産学部） |
| 東北・日本海 | 鈴木 孝男 | （東北大学大学院生命科学研究科） |
| | 松政 正俊 | （岩手医科大学教養部） |
| 関東・日本海 | 風呂田 利夫 | （東邦大学理学部） |
| | 飯島 明子 | （NPO法人日本国際湿地保全連合） |
| 中部東海 | 西川 輝昭 | （名古屋大学博物館） |
| | 木村 妙子 | （三重大学生物資源学部） |
| 近畿 | 和田 恵次 | （奈良女子大学理学部） |
| | 古賀 庸憲 | （和歌山大学教育学部） |
| 中国四国・日本海 | 和田 恵次 | （奈良女子大学理学部） |
| | 福田 宏 | （岡山大学農学部） |
| 九州 | 逸見 泰久 | （熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター） |
| | 佐藤 正典 | （鹿児島大学理学部） |
| 沖縄 | 鈴木 孝男 | （東北大学大学院生命科学研究科） |
| | 木村 妙子 | （三重大学生物資源学部） |
| | 藤井 晴彦 | （NPO法人エコ・ビジョン沖縄） |

同定責任者一覧

| 分類群 | 氏名（所属） | |
|-----------|--------|--------------------------|
| 軟体動物門腹足綱 | 福田 宏 | （岡山大学農学部） |
| 軟体動物門二枚貝綱 | 加藤 真 | （京都大学大学院人間・環境学研究科） |
| 環形動物門多毛綱 | 山西 良平 | （大阪市立自然史博物館） |
| 同上 | 佐藤 正典 | （鹿児島大学理学部） |
| 節足動物軟甲綱 | 和田 恵次 | （奈良女子大学理学部） |
| その他無脊椎動物 | 西川 輝昭 | （名古屋大学博物館） |
| 脊索動物門硬骨魚綱 | 岩田 明久 | （京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科） |

第1章 調査の背景と目的

飯島明子・和田恵次

日本列島の沿岸域は、南からの暖流（黒潮・対馬暖流）と北からの寒流（親潮）の影響により、生物多様性がきわめて高いことが知られている。特に陸と海の移行帯である潮間帯は、干出時間の差異・地形・底質・淡水の影響などの環境条件の差が大きいため、多様な底生動物群集が育まれる。

内湾や河口などの波穏やかな遠浅の堆積海岸では、潮間帯に干潟が形成される。干潟には、底質中に埋没したり巣穴を掘って生活する底生動物が多く見られる。これらの底生動物は、砂や泥などの底質の差異・水条件の差異・淡水の影響の強さ・外洋の影響の強さなどによって生息できる範囲が種によって異なるため、複数の環境勾配を持つ干潟では、その生物多様性はきわめて高くなる。また、二枚貝類やある種の甲殻類をはじめ、干潟に生息する多くの生物は、水中に懸濁した有機物や植物プランクトン、底生珪藻類などを摂食することにより、内湾の有機汚濁解消に大きく貢献している。さらに多毛類や大型甲殻類などの巣穴は、干潟の底質内部に複雑な空間構造を出現させ、底質内部まで酸素を供給することによってバクテリア活性を高め、脱窒作用を向上させ、有機汚濁の原因である窒素を空中に戻す役割も果たしている。また干潟は、干出時にはシギ類など鳥類の摂食場所でもあり、冠水時には稚魚の成育場所でもあり、人間にとっては漁労の場でもある。

しかし、平坦で肥沃な堆積層の先端に存在する干潟は、人口増加と共に干拓や埋立の危機にさらされ続けてきた。特に1960年代以降、大都市周辺を中心とする大規模な埋立で、多くの干潟が失われてしまった。近年では、諫早湾の堤防締切による大規模な干潟消失が記憶に新しい。その後も小規模な埋立や護岸工事により、多くの干潟が危機的な状況にある。また、河川上流域でのダム建設や護岸工事により、河川による土砂供給が減少し、干潟の底質が変化したり干潟そのものが消失するなどの影響も出始めている他、埋立などの行われていない干潟においても、水質の悪化や人間の乱獲などにより多くの種が減少・衰退傾向にある。

これら人為的開発等による干潟生物の変化を全国的に把握し、保全のための対策を講じるには、互いに比較が可能なように統一的な手法で全国規模の干潟生物調査を行う必要がある。またその調査では、多様性に関する評価を行うために、生物同定の精度が高くなければならない。そこで第7回自然環境保全基礎調査として、2002年から2004年にかけて、北海道から沖縄までの干潟において、干潟底生動物の生態・分類の専門家により統一的な手法による分布調査が実施された。調査責任者がその場で同定できた種以外は、分類学専門家に同定を依頼し、現段階での最新の分類学的知見に基づく同定結果を元に調査結果を整理した。

この報告書では、第2章で調査地配置を示し、本調査で用いた統一的な手法について述べる。第3章では各海域の調査結果をまとめ、海域ごとの生物相と干潟の現状を示す。また当該海域における過去データとの比較も可能な限り行う。第4章では本調査で出現した干潟生物の総種リスト、及び

各種の出現地をまとめた総分布表を示し，出現種の地理的特徴についていくつかの視点から概説する．第 5 章では今回の調査で出現した種の内，普通種・希少性の高い種・絶滅が危惧される種・消滅したと思われる種・分類学的検討が必要な種・移入種など注目すべき種群について，全国的な分布状況をそれぞれの分類群ごとに述べる．第 6 章では調査結果全体についてのまとめと今後の課題について述べる．

第2章 方法

飯島明子

第7回自然環境保全基礎調査（干潟調査）は、2002年4月から2004年9月にかけて、北海道から沖縄まで全国157ヶ所の干潟で行われた（表2-1, 図2-1, 2-2）。調査地は、「日本の重要湿地500」（環境省, 2001）に選定された干潟を中心に、全国万遍なく配置した。

調査は、調査責任者（巻頭, 調査責任者一覧参照）1名以上を含む3名以上で行った。各干潟において、岸から汀線にかけて3本のラインを設定し、そのライン上で最も陸寄り・最も汀線寄り・その中間の3ポイントを設定した。ライン, ポイントは地図上に記入し, GPSにて緯度経度を測定した。ライン名はアルファベットで表記し, 内湾干潟の場合には湾口部（外側）から湾奥部に向かってA, B, Cと取った（図2-3）。また河口干潟の場合は, 河口部（海側）から河上流に向かってA, B, Cと取った。ただし, 現場の地形・面積などから判断し, ラインとポイントの数は増減させる場合もあった。従って2ラインしか取らない場合はA, Bのみとなり, 5ライン取った場合はA, B, C, D, Eとなった。ライン上のポイントは数字で表記し, 潮間帯の上部から下部に向かって, 1, 2, 3と取った。ライン上に2ポイントしか取らない場合は, 1, 2となる。ヨシ原やマングローブなど塩性湿地内のポイント名は「植生」とし, 主な構成植物を記録した。

ライン単位で写真を撮影し, その他底質や生物についても調査者の任意で撮影した。植生の写真も撮影した。

調査ポイントでは5m × 5m の方形枠を設定した。ただし地形によっては, 25 m²であっても正方形でない場合もあった。調査者は最初の5分間, 調査ポイントの方形枠内の底質表面で見られる底生動物の種と個体数の多寡（後述）, 干潟表面の植生や底質の状況を記録した。次いで, 調査者2名が10分間, 統一規格のスコップ（金象印根堀, スコップ部の幅14cm）を用い, 約20cmの深さまで底質を掘り返し, 目視で発見できた底生動物を採集した。現場で同定できる種については, 種名と個体数の多寡を記録してから放逐した。個体数の多寡は各種について, 以下のとおりとした。

A（多）：スコップで1回掘り返した中に1個体以上出現する。

C（普通）：全掘り返し回数の中で2個体以上出現するが, Aよりも少ない。

R（少）：全掘り返し回数の中で1個体のみ出現する。

現場で調査責任者に種名の判別できない種については, 液浸標本を作成し, 同定責任者（巻頭, 同定責任者一覧参照）に送付した。同定責任者は必要に応じて各分類群の専門家に依頼し, 同定を行った。

塩性湿地（「植生」ポイント）の場合は, 調査者2名が植生内を20分間歩き回り, 採集・確認した生物について種名と個体数の多寡を記録した。個体数の多寡は各種について, 以下のとおりとした。

A（多）：10個体以上出現する。

C（普通）：2～9個体出現する。

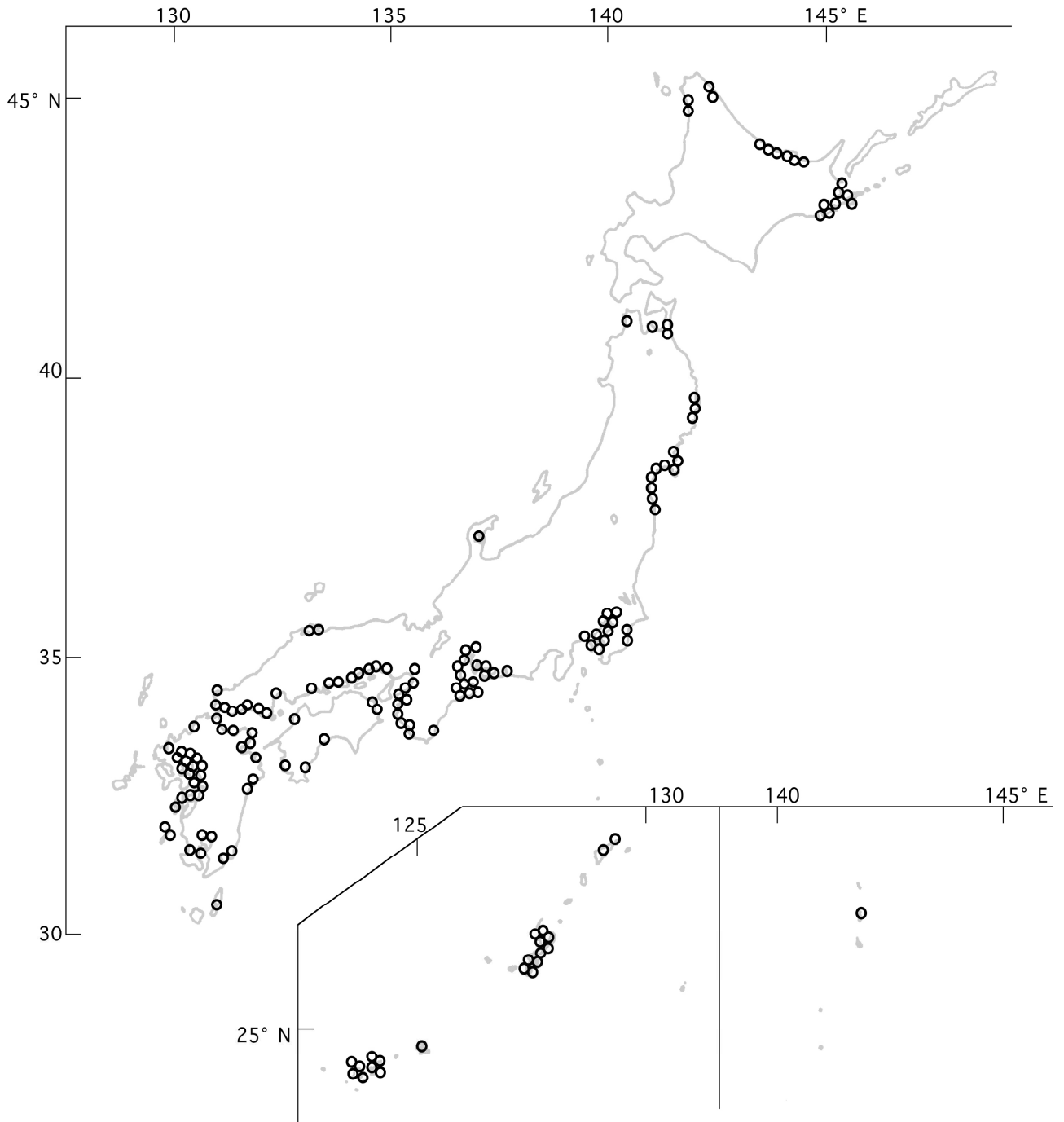
R (少) : 1 個体のみ出現する.

ここでも種名が判別できない種については標本を同定者に送付した.

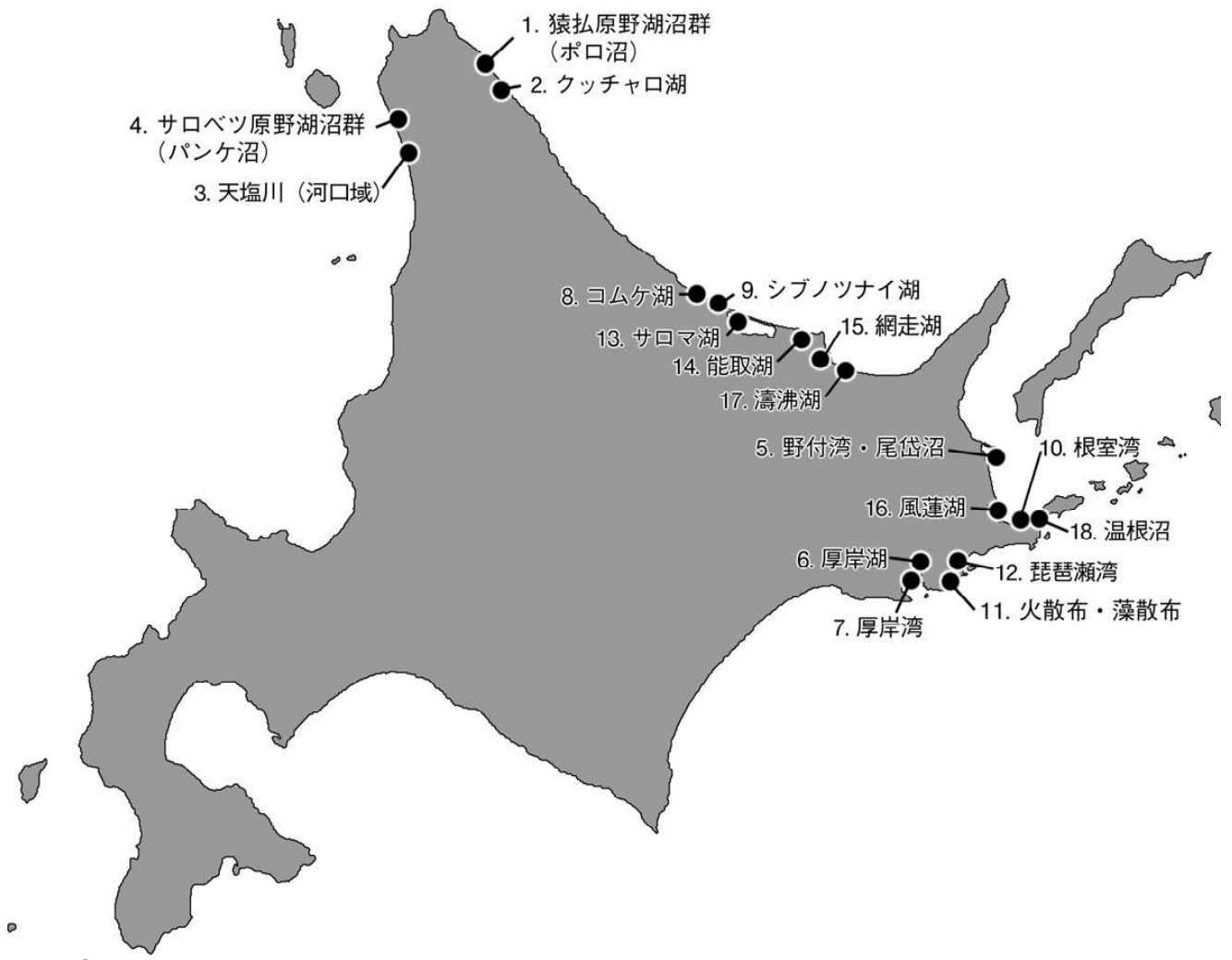
表2-1 全国干潟調査 調査地一覧

| 地域名 | 通し番号 | 干潟名 | 所在地 (都道府県) | 地域名 | 干潟名 | 所在地 (都道府県) | | |
|------|------|---------------------------|---------------|---------|-------------------|---------------|-----|-----|
| 北海道 | 1 | 猿払原野湖沼群 (ポロ沼) | 北海道 | 79 | 千種川 | 兵庫県 | | |
| | 2 | クッチャロ湖 | 北海道 | 80 | 有田川 | 和歌山県 | | |
| | 3 | 天塩川 (河口域) | 北海道 | 81 | 田辺湾 (内之浦) | 和歌山県 | | |
| | 4 | サロベツ原野湖沼群 (パンケ沼) | 北海道 | 中国四国 | 82 | 島田川 | 山口県 | |
| | 5 | 野付湾・尾岱沼 | 北海道 | | 83 | 笠戸島・小深浦 | 山口県 | |
| | 6 | 厚岸湖 | 北海道 | | 84 | 山口湾・壱野川 | 山口県 | |
| | 7 | 厚岸湾 | 北海道 | | 85 | 秋穂湾 | 山口県 | |
| | 8 | コムケ湖 | 北海道 | | 86 | 厚狭川 | 山口県 | |
| | 9 | シブノツナイ湖 | 北海道 | | 87 | 有帆川 | 山口県 | |
| | 10 | 根室湾 | 北海道 | | 88 | 木屋川 | 山口県 | |
| | 11 | 火散布・藻散布 | 北海道 | | 89 | 四万十川 | 高知県 | |
| | 12 | 琵琶瀬湾 | 北海道 | | 90 | 浦ノ内湾 | 高知県 | |
| | 13 | サロマ湖 | 北海道 | | 91 | 永江川 | 岡山県 | |
| | 14 | 能取湖 | 北海道 | | 92 | 水門湾 | 岡山県 | |
| | 15 | 網走湖 | 北海道 | | 93 | 笠岡湾 | 岡山県 | |
| | 16 | 風蓮湖 | 北海道 | | 94 | 高梁川 | 岡山県 | |
| | 17 | 濤沸湖 | 北海道 | | 95 | 吉野川 | 徳島県 | |
| | 18 | 温根沼 | 北海道 | | 96 | 勝浦川 | 徳島県 | |
| 東北 | 19 | 小湊浅所 | 青森県 | | 97 | 僧都川 | 愛媛県 | |
| | 20 | 小川原湖沼群 (鷹架沼) | 青森県 | | 98 | 細ノ洲 | 広島県 | |
| | 21 | 小川原湖沼群 (高瀬川) | 青森県 | | 99 | 宮島 | 広島県 | |
| | 22 | 陸中リアス海岸 宮古湾津軽石川河口 (金浜) | 岩手県・宮城県 | 100 | 重信川 | 愛媛県 | | |
| | 23 | 松島湾 | 宮城県 | 九州 | 101 | 筑後川 | 福岡県 | |
| | 24 | 松川浦 | 福島県 | | 102 | 冲端川 | 福岡県 | |
| | 25 | 鶴住居川 | 岩手県・宮城県 | | 103 | 矢部川 | 福岡県 | |
| | 26 | 陸中リアス海岸 山田湾雄笠川河口 | 岩手県・宮城県 | | 104 | 和白干潟 | 福岡県 | |
| | 27 | 長面浦 | 宮城県 | | 105 | 曾根干潟 | 福岡県 | |
| | 28 | 北上川河口 | 宮城県 | | 106 | 諫早湾北岸 | 長崎県 | |
| 29 | 万石浦 | 宮城県 | 107 | | 諫早湾南岸 | 長崎県 | | |
| 30 | 蒲生 | 宮城県 | 108 | | 中津港周辺 | 大分県 | | |
| 31 | 井土浦 | 宮城県 | 109 | | 笠利湾 | 鹿児島県 | | |
| 32 | 広浦 | 宮城県 | 110 | | 住用川 | 鹿児島県 | | |
| 関東 | 33 | 鳥の海 | 宮城県 | 111 | 喜入町メヒルギ林湿地 | 鹿児島県 | | |
| | 34 | 富津 | 千葉県 | 112 | 重富海岸 | 鹿児島県 | | |
| | 35 | 三番瀬 | 千葉県 | 113 | 長井浜 | 福岡県 | | |
| | 36 | 相模川河口 | 神奈川県 | 114 | 六角川 | 佐賀県 | | |
| | 37 | 野島 | 神奈川県 | 115 | 永浦 | 熊本県 | | |
| | 38 | 谷津干潟 | 千葉県 | 116 | 大野川 | 熊本県 | | |
| | 39 | 江戸川 | 千葉県 | 117 | 緑川 | 熊本県 | | |
| | 40 | 盤洲 | 千葉県 | 118 | 守江湾 | 大分県 | | |
| | 41 | 夷隅川 | 千葉県 | 119 | 小深江漁港周辺 | 大分県 | | |
| | 42 | 一宮川 | 千葉県 | 120 | 臼杵 | 大分県 | | |
| | 43 | 葛西沖 | 東京都 | 121 | 本城川 | 宮崎県 | | |
| | 44 | 小網代湾 | 神奈川県 | 122 | 志布志湾 | 鹿児島県 | | |
| 小笠原 | 45 | 江奈湾 | 神奈川県 | 123 | 天降川 | 鹿児島県 | | |
| | 46 | 二見湾 | 東京都 | 124 | 田古里川 | 佐賀県 | | |
| | 日本海 | 47 | 十三湖 | 青森県 | 125 | 塩田川 | 佐賀県 | |
| | | 48 | 七尾湾 | 石川県 | 126 | 伊万里湾 | 佐賀県 | |
| | | 49 | 油谷湾 | 山口県 | 127 | 菊池川 | 熊本県 | |
| | | 50 | 中海 | 鳥取県・島根県 | 128 | 塩屋海岸 | 熊本県 | |
| | | 51 | 宍道湖 | 島根県 | 129 | 本渡干潟 | 熊本県 | |
| 中部東海 | | 52 | 浜名湖 | 静岡県 | 130 | 氷川 | 熊本県 | |
| | | 53 | 汐川干潟 | 愛知県 | 131 | 熊ノ江 | 宮崎県 | |
| | 54 | 矢作川河口 | 愛知県 | 132 | 北川・五ヶ瀬川 | 宮崎県 | | |
| | 55 | 三河湾 (一色干潟) | 愛知県 | 133 | 万之瀬川 | 鹿児島県 | | |
| | 56 | 雲出川河口 | 三重県 | 134 | 浦内湾 (上鶴島) | 鹿児島県 | | |
| | 57 | 櫛田川河口 | 三重県 | 135 | なまこ池・貝池 | 鹿児島県 | | |
| | 58 | 祓川河口 | 三重県 | 136 | 八坂川 | 大分県 | | |
| | 59 | 藤前干潟 | 愛知県 | 137 | 大浦川河口 マングローブ干潟 | 鹿児島県 | | |
| | 60 | 木曾三川 | 三重県 | 138 | 羊角湾 | 熊本県 | | |
| | 61 | 安濃川河口 | 三重県 | 沖縄 | 139 | 羽地内海 (饒平名) | 沖縄県 | |
| | 62 | 志登茂川河口 | 三重県 | | 140 | 羽地内海 (呉我) | 沖縄県 | |
| | 63 | 英虞湾 (小才庭南) | 三重県 | | 141 | 羽地内海 (我部井) | 沖縄県 | |
| | 64 | 英虞湾 (登茂山) | 三重県 | | 142 | 泡瀬 | 沖縄県 | |
| | 65 | 五ヶ所川 | 三重県 | | 143 | 佐敷 | 沖縄県 | |
| | 66 | 五ヶ所湾 (伊勢路川) | 三重県 | | 144 | 具志・大嶺 | 沖縄県 | |
| | 67 | 伊川津 | 愛知県 | | 145 | 塩屋・大保川 | 沖縄県 | |
| | 近畿 | 68 | 田辺湾 (立ヶ谷・藤島) | | 和歌山県 | 146 | 大浦 | 沖縄県 |
| | | 69 | 西広海岸 | | 和歌山県 | 147 | 億首川 | 沖縄県 |
| 70 | | 湯川ゆかし潟 | 和歌山県 | | 148 | 漫湖 | 沖縄県 | |
| 71 | | 紀ノ川 | 和歌山県 | 149 | 与那覇湾 | 沖縄県 | | |
| 72 | | 和歌川 | 和歌山県 | 150 | 宮良湾 | 沖縄県 | | |
| 73 | | 田辺湾 (池田浦) | 和歌山県 | 151 | 崎枝湾 | 沖縄県 | | |
| 74 | | 日高川 | 和歌山県 | 152 | 船浦 | 沖縄県 | | |
| 75 | | 男里川 | 大阪府 | 153 | 浦内川 | 沖縄県 | | |
| 76 | | 淀川 | 大阪府 | 154 | 川平湾 | 沖縄県 | | |
| 77 | | 加古川 | 兵庫県 | 155 | 名蔵湾 | 沖縄県 | | |
| 78 | | 新舞子海岸 | 兵庫県 | 156 | 前良・後良川 | 沖縄県 | | |
| | | | 157 | 星立 | 沖縄県 | | | |

図2-1 調査地全国配置



北海道地域



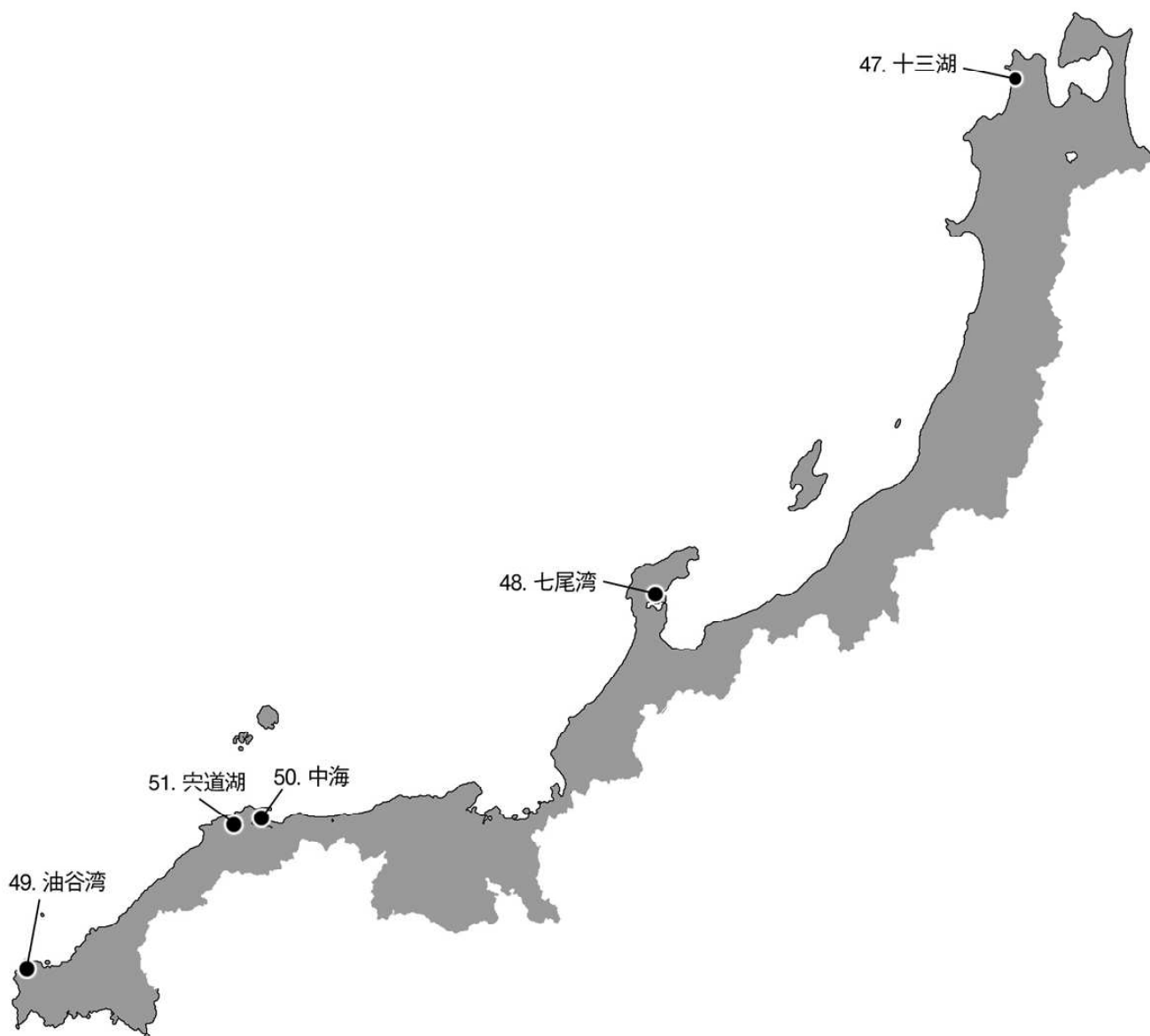
東北地域



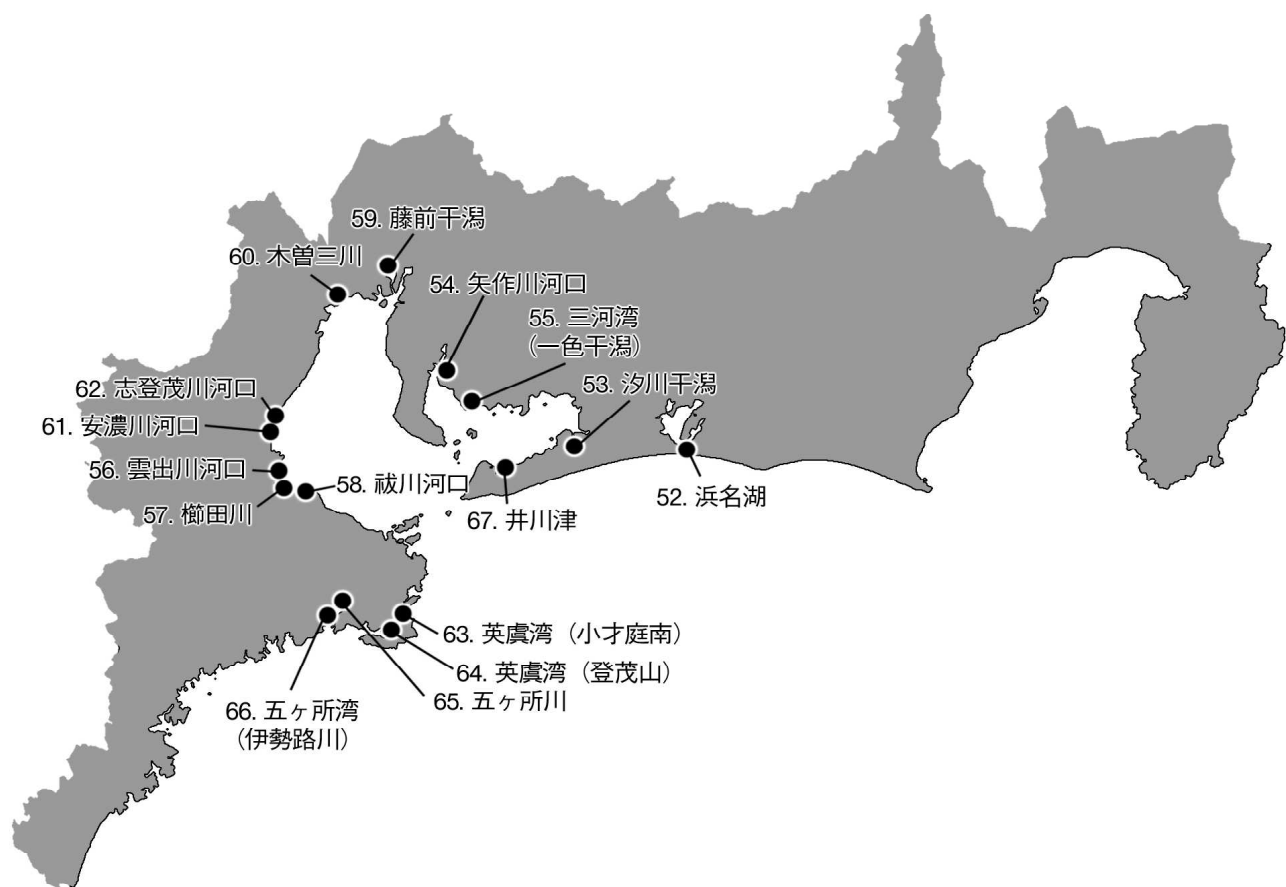
関東・小笠原地域



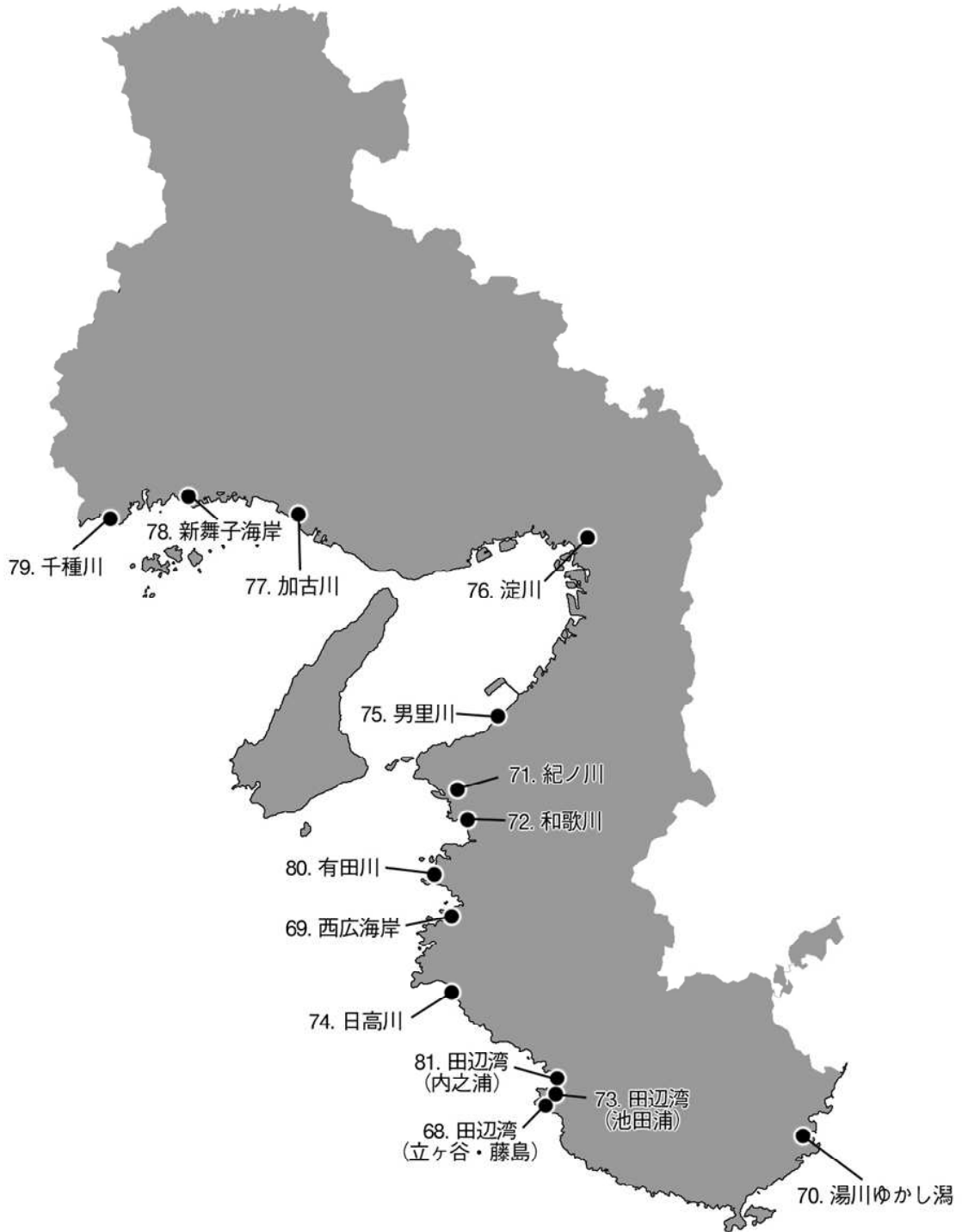
日本海地域



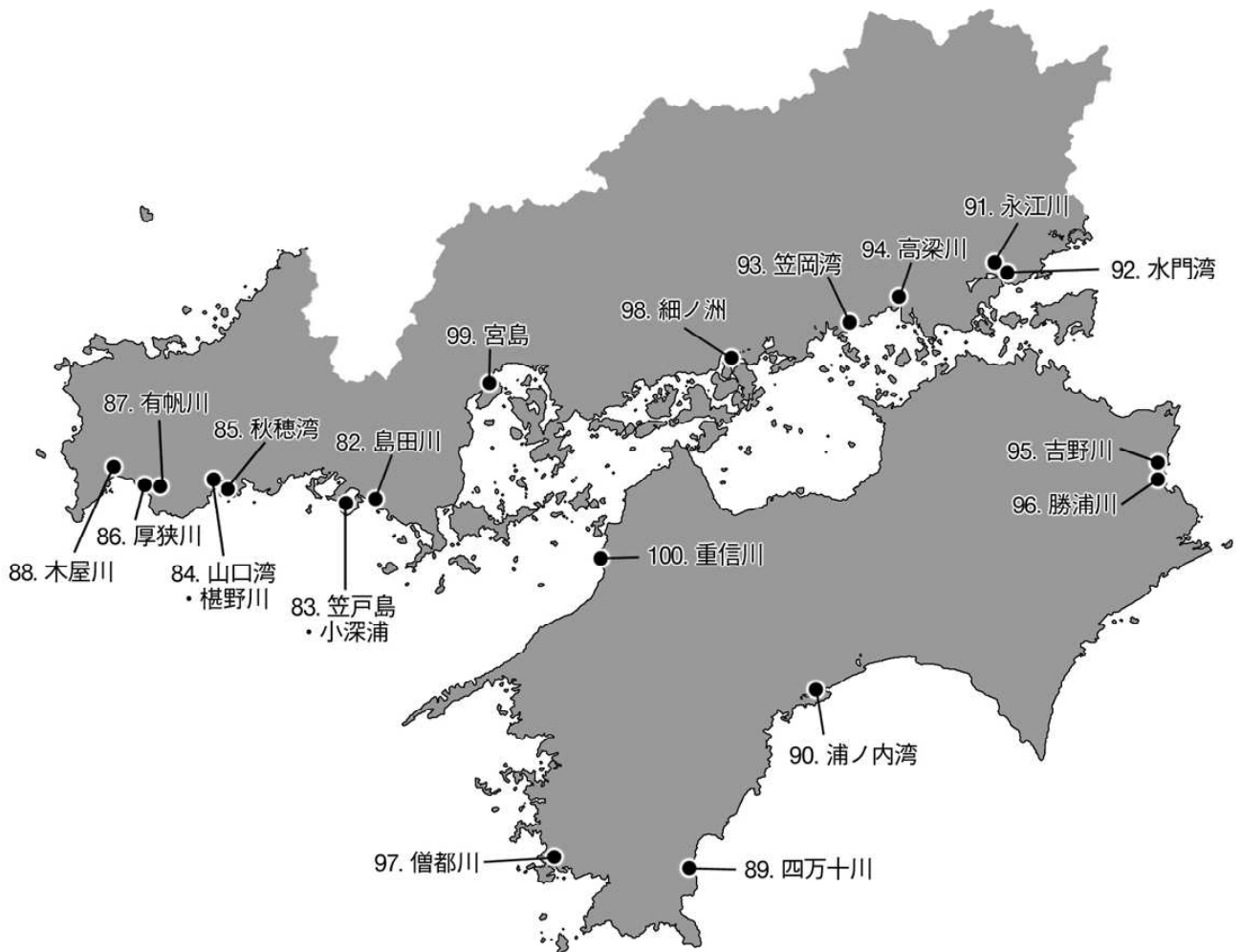
中部東海地域



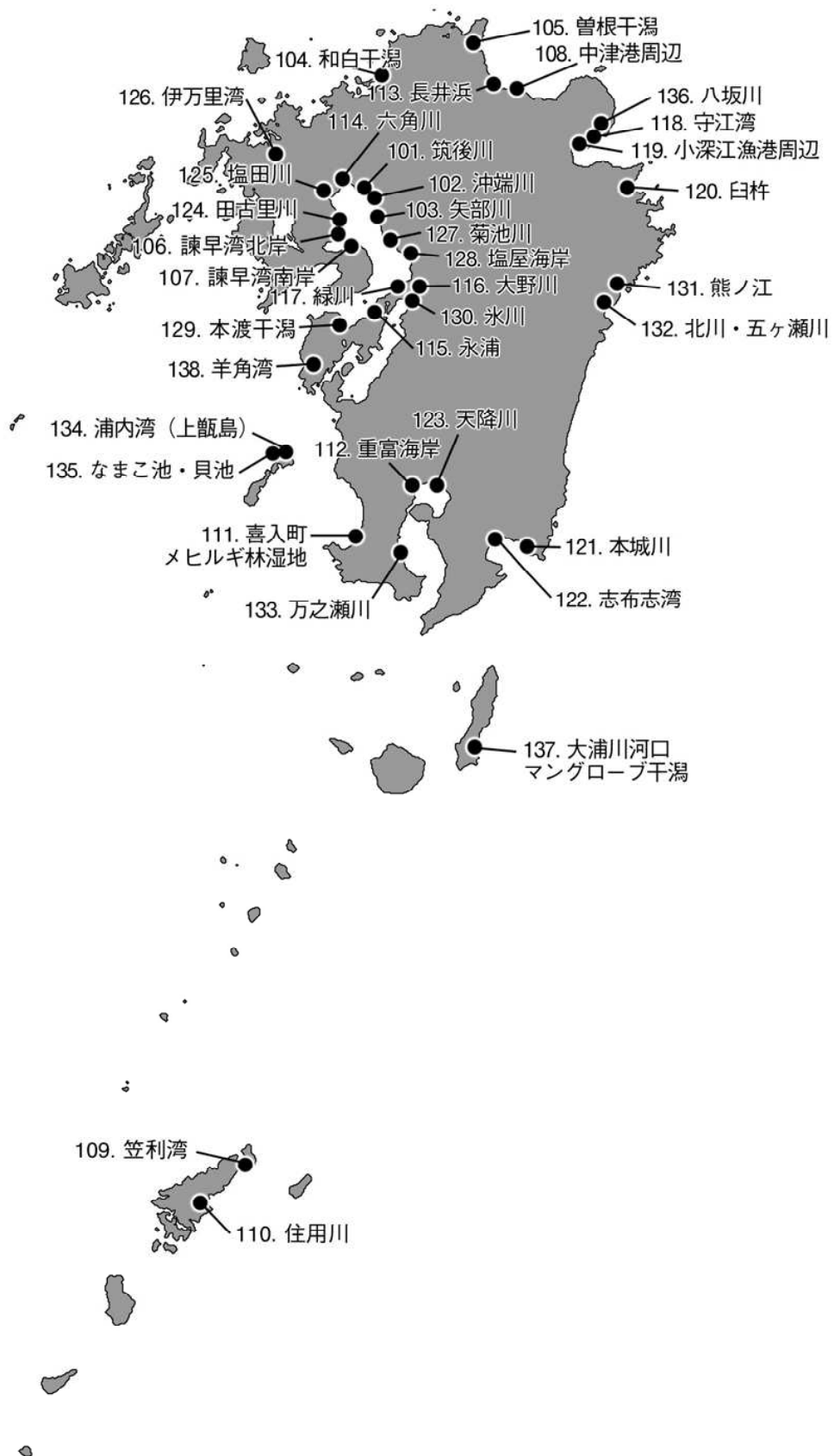
近畿地域



中国四国地域



九州地域



沖縄地域

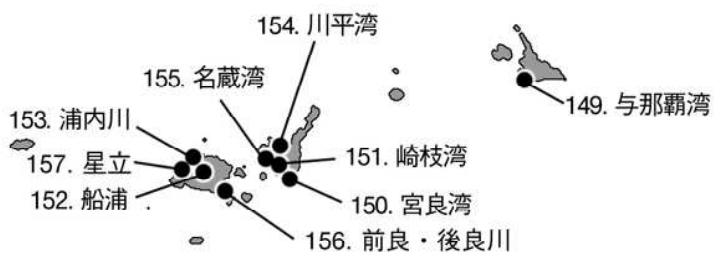
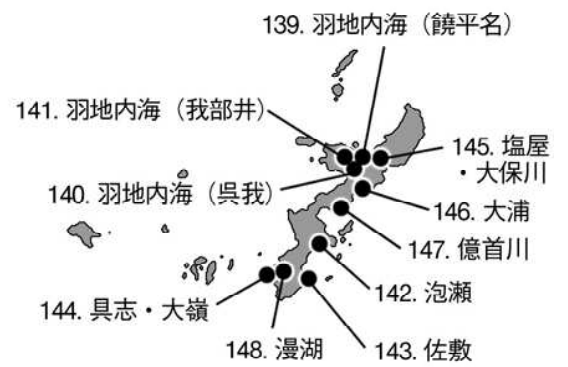
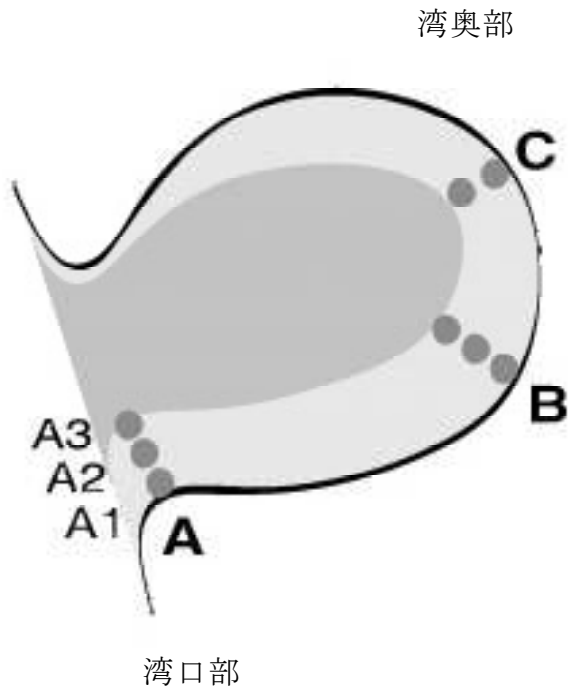
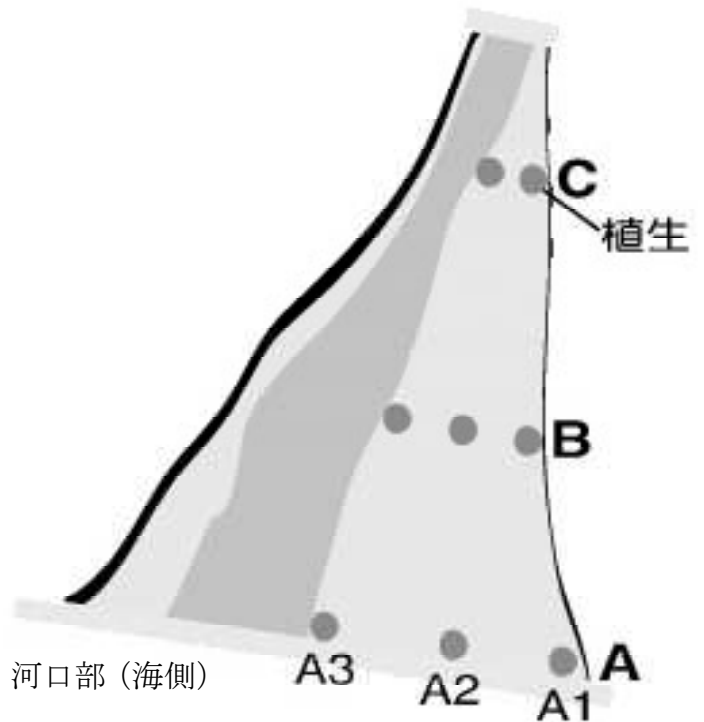


図2-3 干潟の中の調査地点概念図



〈内湾干潟〉



〈河口干潟〉

第3章 海域ごとの生物相と干潟の現状・過去との比較

北海道から沖縄までの10地域を、31海域に区分し、各地域の調査責任者を中心に、それぞれの海域の生物相と干潟の現状について述べる。また、過去のデータがある海域（もしくは個別の干潟）については、現状と過去の比較も行った。

海域の区分と執筆者は以下の通りである。

| | | | |
|------------------|-------------|----------------------|------------------|
| 北海道地域 | | 近畿地域 | |
| 北海道： | 向井 宏 | 和歌山県沿岸域： | 古賀庸憲 |
| 東北地域 | | 大阪湾： | 和田恵次 |
| 青森県沿岸域： | 鈴木孝男 | 播磨灘沿岸域： | 和田恵次 |
| 三陸沿岸域： | 松政正俊 | 中国四国地域 | |
| 仙台湾： | 鈴木孝男 | 四国沿岸域： | 和田恵次 |
| 関東地域 | | 瀬戸内海中央部： | 伊谷 行 |
| 東京湾： | 風呂田利夫 | 瀬戸内海島嶼部： | 伊谷 行 |
| 房総半島太平洋岸： | 風呂田利夫 | 周防灘(中国地方西部)： | 伊谷 行 |
| 三浦半島・相模湾： | 風呂田利夫 | 九州地域 | |
| 小笠原地方 | | 九州北東部(瀬戸内海西部・豊後水道沿岸) | |
| 小笠原諸島： | 飯島明子 | | : 逸見泰久・佐藤正典 |
| 日本海沿岸域 | | 九州北西部(玄界灘)： | 逸見泰久 |
| 日本海北部(十三湖)： | 鈴木孝男 | 九州南西部(東シナ海沿岸) | |
| 日本海中部(能登半島七尾湾) | | | : 佐藤正典 |
| | : 風呂田利夫 | 九州南東部(太平洋沿岸) | |
| 日本海西部(油谷・中海・宍道湖) | | | : 佐藤正典 |
| | : 伊谷 行 | 有明海： | 佐藤正典 |
| 中部東海地域 | | 八代海： | 逸見泰久 |
| 浜名湖(いかり瀬干潟) | | 鹿児島湾(錦江湾)： | 佐藤正典 |
| | : 西川輝昭・木村妙子 | 奄美諸島： | 逸見泰久 |
| 伊勢湾・三河湾： | 木村妙子・西川輝昭 | 沖縄地域 | |
| 英虞湾・五ヶ所湾 | | 沖縄島： | 佐藤正典 |
| | : 木村妙子・西川輝昭 | 先島諸島 | |
| | | | : 鈴木孝男・木村妙子・佐藤正典 |

なお、以下の本文中において「希少な～の1種*」「～科の希少魚*」等と表記されている種は、同定はされているものの、乱獲を防ぐために具体的な種名を伏せた種である。

北海道

向井 宏

調査地点は、合計 18 箇所、日本海側 2 カ所、オホーツク海側 8 箇所、太平洋側東部 8 箇所である。その干潟は以下の通り。

日本海側 : 天塩川 (河口域), サロベツ原野湖沼群 (パンケ沼)

オホーツク海側 : 猿払原野湖沼群 (ポロ沼), クッチャロ湖, コムケ湖, シブノツナイ湖, サロマ湖, 能取湖, 網走湖, 濤沸湖

太平洋側東部 : 野付湾・尾岱沼, 厚岸湖, 厚岸湾, 根室湾, 琵琶瀬湾, 風蓮湖, 火散布・藻散布, 温根沼

北海道の干潟は、日本海側が干満の差が少ないために干潟が発達しないこともあり、ほとんどの干潟が道東のオホーツク海側かもしくは太平洋側に限られており、その形態も海潟湖がその大部分を占める。

日本海側の 2 カ所の干潟は、どちらも面積が 100 m²を超えない程度のきわめて小規模の干潟であり、河口の砂州と湿原の中の沼に形成されている。一方、道東の海潟湖に形成されている干潟は広大であり、比較的多様性の高い生物相を持っている。風蓮湖の干潟は実に数 10 km²にもおよぶ (海と渚環境美化推進機構・北海道立釧路水産試験場, 2003)。しかし、海潟湖以外の河口干潟や湿原の中の沼などに形成される干潟は規模が小さい。オホーツク海側の干潟のうちでも海潟湖以外での干潟の面積は小さい。太平洋側でも同じで、海潟湖以外の干潟は根室湾干潟を除いて規模は小さい。

北海道の干潟は、周囲を湿原やアシ原で囲まれている場合が多く、人工のコンクリート護岸で固められたり、埋め立てによって人工海岸化されている場所はきわめて限られている。そのため、自然度が高く、とくに後背地の植生が健全に残っている場合が多い。そのために、塩性植物の生育する感潮域 salt marsh や、砂浜植物が潮間帯の干潟とともに残っていることが多く、全国的に見ても貴重な干潟が多い。とくに、アッケシソウ、ウミミドリ、シバナ、コウボウムギ、エゾツルキンバイ、キタヨシ (ヨシ) などの塩性植物が多くの干潟で見られる。

一方、一部の干潟海域ではアサリなどの水産資源の養殖場として利用されているところがあり、調査期間中にも一部で自然の干潟域がアサリの養殖場に改変されるなど、干潟の自然環境が開発の影響を受けているところが見受けられる。

北海道の干潟の生物相の特徴として、比較的多様性が低いことがあげられる。飯村 (2004) の指摘にもあるように、一般に日本の干潟の生物相の多様性は北に行くほど低下する傾向がある。その

ため北海道の干潟の生物相は一見しても単純であると言える。しかし、その中でも多様性の比較的高い道東の海潟湖干潟と、さらに多様性の低い日本海側などの小規模干潟がある。

北海道の干潟には多くの場所で自然度の高い環境が残されており、とくに後背地の植生がよく保存されている。そのために、そのような感潮域植生 salt marsh に棲息する特徴的な生物が見られる。カワザンショウガイ類がそれである。カワザンショウガイ類は、比較的小規模の分布をしているものと、広範囲に分布するものが知られているが、北海道の干潟には、小規模の分布種が多い。このことは、干潟がそれぞれ固有のカワザンショウガイ類を持っていることを意味する場合もある。たとえば、道東の厚岸湖には、アッケシカワザンショウ（未記載種）一種が多数棲息しており、野付湾には別種のカワザンショウガイ類（未記載種）が見つまっている。オホーツク海側では、テシオカワザンショウが広範囲に分布する。

一方、本州以南の干潟では多産するスナガニ科やムツハアリアケガニ科のカニ類は北海道の干潟では、ほとんど見られない。唯一、アリアケモドキが日本海側の干潟で見つかったのみであり、道東にはまったく見られない。一般にカニ類は北海道の干潟に少なく、クリガニの幼体が見られる程度である。

北海道の干潟に多産するのは、ホソウミニナである。ウミニナはまったく見つかっていない。しかし、ホソウミニナは海潟湖など比較的遮蔽された干潟にみられ、根室湾干潟のように開放的な前浜干潟では隣の風蓮湖などには多産するにもかかわらず、非常に少ない。また、コアマモが生育する干潟が多い。アマモも干潟の低地から沖側に生育するところが多く、厚岸湾では、オオアマモが生育しており、特徴的な植生である。これら干潟上の海草藻場の存在は、干潟の生物多様性を高める意味においてきわめて重要な役割を持っている。

北海道の干潟が大きく日本海側と道東に区別されるのは、干潟の成因が違うことに限らない。その生物相が異なるもっとも大きい原因は、暖流の影響があるかどうかによる。日本海側とオホーツク海側北部の沿岸は、夏期に暖流である対馬海流の影響を受ける。一方、道東の干潟はほとんど寒流である親潮（千島海流）のみの影響を受ける。道東の干潟では、キタノオオノガイ、アオモリムシロ、キタユムシ、イソタマシキゴカイ、ウバガイなど、寒流系の動物が顕著である。これらの寒流系種の多くが北海道以外の干潟ではほとんど見られないことに注意すべきである。

さらに、道東では気候が寒冷なために潮間帯の生物相に影響がある。また、流氷による潮間帯生物への影響も無視できないだろう。表面に突出して生活する生物（表在性ベントス）が比較的少ないのは、これら気候と流氷の影響によるものと考えられる。

とくに特筆すべき生物として、以下のような生物があげられる。まず、ハウザワイソギンチャクは、かつて陸奥湾に多くみられた種であるが、現在では陸奥湾で絶滅した。今回の調査において北海道の厚岸湖で発見され、道東の干潟では健在であることが明らかになった。一方、厚岸湖で発見

され厚岸の名前を学名に持つホソイソギンチャクは、今回の調査では厚岸湖や厚岸湾の干潟では発見されなかったが、風蓮湖・野付湾の干潟に多産することが明らかになった。また、厚岸の海岸で報告されたウミカニムシが野付湾干潟の後背植生帯で発見された。現在では厚岸で確認されていない。全国的にもウミカニムシなどのカニムシ類がほとんど見いだされていないのは、干潟の後背植生帯が十分保全されていないことと関係があると思われ、保全対策のあり方の検討が必要である。

北海道の干潟の多くが自然度の高い環境を保持していることは特筆に値するが、一方、「重要湿地 500」に干潟という項目で選ばれながら、その後あるいは選定前からすでに保全すべき干潟としての価値を失ったものもいくつか見られる。たとえば、厚岸湾干潟は、そのほとんどが選定前に埋め立てや港湾建設によって失われ、ほんのわずかの干潟が残されるのみになっている。もちろんこの干潟は狭い故に保全する必要が無いというわけではないが、「重要湿地 500」の干潟として選定する根拠は、薄弱になっているといわねばならない。また、浜中湾・琵琶瀬湾および火散布沼の干潟の大部分はアサリの育成漁場として耕耘されたり覆土をしたりアサリを放流したりと高度の人為的行為を行っており、保全すべき自然の干潟の状態は残っていない。これは厚岸湖の湖口近くの干潟でもまったく同じ状況にあり、かつては良好な塩性湿地・干潟であった場所が現在では自然度ゼロに近い状態にまでなってしまうている。ただし、厚岸湖全体で見ると湖奥や湖の北側などではほとんど人の手が入っていないと思われる自然度の高い広大な干潟がまだかなり残されており、これ以上の自然破壊を阻み環境を保全していく必要が高いと考えられる。温根沼の干潟も自然度は非常に高いが、やはりアサリの漁場としての開発も考えられているようで、注意が必要である。

参考文献

- 飯村幸代，2004．底生生物の多様性から見た道東の干潟の機能評価． 2003 年度北海道大学大学院地球環境科学研究科修士論文, pp.1-27
- 国立環境研究所，2003． 干潟等湿地生態系の管理に関する国際共同研究（特別研究） 国立環境研究所特別研究報告, SR-51-2003, pp.1-62
- 向井 宏，2006．厚岸湾・厚岸湖の生物相 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所 （未発表）
- 海と渚環境美化推進機構・北海道立釧路水産試験場，2003． 藻場・干潟環境保全調査報告書 別海町地区周辺地域（北海道-I）．

青森県沿岸域

鈴木孝男

太平洋岸に位置する小川原湖湖沼群（鷹架沼と高瀬川）、および、陸奥湾の湾奥部に位置する小湊浅所の干潟について、本州最北端に位置する青森県の干潟群としてとりまとめる（岩木川の河口に位置する十三湖については、日本海側に面した海域群として別項で取り扱う）。

陸奥湾内で干潟が存在するのは、平内町にある小湊浅所とむつ市芦崎の大湊港南西奥部であるが、後者は自衛隊の敷地内にあり、立入りは制限されている。

浅所海岸は北側に漁港があり、南岸に沿って汐立川が流れており、中央部分に砂質の干潟が出現する。河口干潟と前浜干潟を合わせ持ったような地形である。一部のヨシ原を除き、干潟の後背地に植生帯はない。また、ハクチョウの飛来地として有名であり、岸辺で餌付けも行われている。ここは、北東北地方において最も良く干潟の原風景を留めている干潟であり、出現総種数 35 種は、北方の干潟に棲息する種数としては多い方だと思われる。

干潟の表面には、ホソウミニナに混じって希少種のウミニナが比較的多く棲息する。また、ヨコヤアナジャコの巣穴が多数見られる。地高が高く礫の多いところに、局所的ではあるが、カワザンショウガイが多数棲息する。東北地方で本種が確認されたのはここと十三湖だけである。多毛類ではコケゴカイが多く棲息しているが、ところによっては、イトメやイトゴカイ類の *Heteromastus* sp. も多く見られる。また、二枚貝ではイソシジミとソトオリガイが多産する。

カニ類では、ケフサイソガニが比較的多く見られる他、ヤマトオサガニやアリアケモドキも確認された。また、砂礫底のところにヒモイカリナマコが多く棲息していたが、本種はこれまで三浦半島以南に分布するといわれており（今岡，1995）、確認できたのは東北地方ではここだけであった。他に、ハゼ科の希少魚*も出現した。

下北半島の付け根の太平洋側には六ヶ所村湖沼群が存在する。北から順に尾駁沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、小川原湖などであるが、周辺は原子燃料サイクル施設としての整備が進行中であり、自然環境の改変が著しい。このため、現在、ある程度まとまった干潟が出現するのは、鷹架沼がむつ小川原港に注ぐ近辺と、小川原湖と太平洋をつないでいる高瀬川の岸辺沿いだけである。いずれも砂質から砂泥質の河口干潟であり、干潟の陸側にはヨシ原が広がっている。鷹架沼のヨシ原には部分的に絶滅危惧 II 類のシバナが混生し、潮間帯上部にはコアマモ帯が存在する。一方、高瀬川の岸辺上部にはシバナやウミミドリが点在する。天ヶ森射爆場の北縁に位置する高瀬川一帯は防衛施設庁の管理地域となっており、入域には許可が必要である。また、干潟から潮下帯にかけてはシジ

ミ漁場となっており、六ヶ所漁協が管理している。

鷹架沼は 1965 年に湖口を閉塞して淡水化された（井上・五十嵐，1976）。淡水化以前の調査によると（山本，1954），ヌマコダキガイ（ヒメマスオ），ミズゴマツボ，カワグチツボ，ヤマトシジミ（ニホンシジミ），カワザンショウガイ等が記録されているが，淡水化後の 1974-75 年の調査についてみると（井上・五十嵐，1976），汽水種としてはヤマトシジミ，イソコツブムシ，イサザアミ，ノルマンタナイスの 4 種が記載されているに過ぎず，多く棲息していたのはユスリカ類やカラスガイ，ヌマガイであった。しかし，この後 1978 年からむつ小川原港の建設が着手され，1990 年には鷹架地区岸壁が完成する等の過程において，鷹架沼はむつ小川原港に開口し，海水が遡上するようになったようである。しかし，現在でも，沼の中央付近に建設された防潮堤の西側は淡水化されたままである。また，沼本体には干潟は出現せず，鷹架沼とむつ小川原港を結ぶ通水路の東側部分の両岸にわずかに河口干潟が出現する程度である。この一帯ではシジミ採りが行われている。

現在では，汽水域に普通のイソシジミ，ソトオリガイ，イトメ，イトゴカイ類の *Heteromastus* sp.，スノウミナナフシ，ヨコヤアナジャコ，ケフサイソガニが多く棲息し，植生帯ではアカテガニ，タカホコカワザンショウ，カワグチツボなどが普通に見られる。また，カラスガイの死殻が底土中に多く埋まっていたが，淡水化されていた時のなごりであろう。すぐ北側に位置する尾駁沼には干潟がほとんど出現しないので今回は調査を行わなかったが，築地ら（2004）の最近の調査によると，ヤマトスピオ，カワグチツボ，ホトトギスなどの汽水種が優占しており，沼固有亜種のタカホコシラトリや希少種のヌマコダキガイも確認されている。今回，タカホコシラトリやヌマコダキガイは鷹架沼では確認できなかった。

高瀬川においても鷹架沼と同様，河川の両岸に河口干潟が出現する。ここは春には観光シジミ採り場となっており，人の立ち入りも多く，底土は硬くしまっているところが多い。小川原湖からの淡水の影響が大きいようで，ヤマトシジミ以外の二枚貝は確認できなかった。また，多毛類ではカワゴカイ，イトメ，イトゴカイ類の *Notomastus* sp. が多く出現した。ヨシ原にはクロベンケイガニが多く，タカホコカワザンショウとヨシダカワザンショウも多く認められた。

青森県沿岸域全体を概観すると，河川の影響が強いところには，カワゴカイ，イトメ，*Notomastus* sp.，ヤマトシジミが，汽水から海水に近いところには，コケゴカイ，*Heteromastus* sp.，イソシジミ，ソトオリガイ，ヨコヤアナジャコが優占していたといえる。

土屋（1982）は「青森市の自然」の中で小湊浅所海岸の干潟に棲息する生物を紹介しているが，そこには 18 種類が取り上げられている。その内，今回の調査で確認できなかった種類としては，ムシロガイ，アサリ，スゴカイイソメ，モクズガニ，アシハラガニが挙げられる。また，十脚類に関しては，Yokoya（1928）の報告によると，コメツキガニが田名部川河口（むつ市），ヤマトオサガニ

が小湊浅所，モクズガニが吹越（上北群横浜町）と油川（青森市）で記録されている．この内，ヤマトオサガニは小湊浅所が分布の北限とされていたが（和田ら，1996），今回の調査においても，汐立川に沿った泥分の多い地点で棲息が確認された．しかし，筆者らの最近の調査において，むつ市芦崎の干潟にヤマトオサガニ，コメツキガニ，アシハラガニ，アリアケモドキ，ケフサイソガニが生息していることが確認されたことから，ヤマトオサガニとアシハラガニについては，むつ市芦崎が分布の北限と考えられる．両種とも，青森県の他の地域や三陸沿岸においては確認できておらず，隔離された少数個体群と考えられる．他にも青森県の沿岸域が分布の北限となっていることが確かめられた種類として，アカテガニ，クロベンケイガニ，アリアケモドキが挙げられる．特に希少種であるアリアケモドキに関しては比較的多産する地域も認められた．

Takatsuki (1928) は，陸奥湾で採集された貝類のリスト（74 種）を挙げているが，その内，干潟を棲息域とするもので今回の調査では確認されなかった種類として，カガミガイ，アサリ，オニアサリ，オオノガイ，マテガイ，ムシロガイなどがある．これらの種類については，潮間帯下部から潮下帯にかけて棲息している可能性がある（オオノガイとアサリについては，筆者らの最近の調査において，むつ市芦崎に棲息することが確認されている）．

太平洋岸の鷹架沼と高瀬川のヨシ原にはタカホコカワザンショウとヨシダカワザンショウが棲息していた．タカホコカワザンショウは未記載種であり，ヨシダカワザンショウは分布が東京湾以南とされていた希少種であることから（和田ら，1996），両干潟共に貴重な棲息場所であるといえる．

以上のことから，干潟の保全に関する留意点について述べる．小湊浅所は，仙台湾より北に位置する内湾奥に発達した干潟としては唯一のものである．ヤマトオサガニやヒモイカリナマコなど隔離分布と考えられる生物もいることから，現状の改変は最小限にとどめ，廃水等による汚染に留意する必要がある．また，鷹架沼では道路の付け換えや護岸工事が進めば，干潟など現状の生物棲息場所が失われる可能性が高い．開発行為を行う場合には適切なアセスメントを行う事が望ましい．

参考文献

今岡 亨，1995．ナマコ綱．日本海岸動物図鑑[II]（西村三郎編著），保育社，pp. 553-572.

井上晴夫・五十嵐敬司，1976．尾駸・鷹架沼の底生動物．尾駸・鷹架沼生態調査研究報告書，尾駸・鷹架沼生態調査研究会・（株）むつ小川原総合開発センター，pp. 69-90.

Takatsuki, S., 1928. Report of the Biological Survey of Mutsu Bay. 5. A Hand-list of the Mollusks of

- Mutsu Bay. Science Report of the Tohoku Imperial University, 4th series (Biology), 3: 19-37.
- 土屋 誠, 1982. 海辺の動物. 青森市の自然-水中編- (青森市教育委員会社会教育課編), 青森市, pp. 165-181.
- 築地由貴・植田真司・近藤邦男・稲葉次郎, 2004. 青森県汽水湖尾駁沼におけるベントスの出現特性. 2004年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集, p. 113.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.
- 山本護太郎, 1954. 汽水性水域の底生生物群集の研究 III. 尾駁沼・鷹架沼の底生生物, 特に群集型の系列について, 日本生態学会誌, 4: 60-63.
- Yokoya, Y. , 1928. Report of the Biological survey of Mutsu Bay. 10. Brachyura and crab- shaped anomura. Science Report of the Tohoku Imperial University, 4th series (Biology), 3: 757-784.

三陸沿岸域

松政正俊

三陸沿岸域のうち陸中リアス海岸の湾奥干潟群は、岩手県沿岸のリアス式海岸に流れ込む河川（津軽石川，織笠川，および鶉住居川）の河口域に発達し，北上川河口と長面浦は宮城県北部・南三陸に位置する，ともに親潮の影響を強く受ける区域である．今回調査した 5 つの調査地点のうちでは長面浦のみが潟湖干潟であり，河川流入による淡水の影響が極めて小さいという点でその他の水域と大きく異なる環境を有している．しかし，長面浦は北上川河口に近接しており，生態学的な相互関係が深いと考えられることから，北上川河口域と同一の区域として扱う．なお，これらの水域は，和田ら（1996）による干潟とそこに生息する底生生物に関する極めて精力的なレポートにおいても記載されていないものであり，比較可能な調査結果は少ない．今後の継続的なモニタリングが望まれる．

それぞれの水域における底生動物の特徴を北から南へとおおまかに見ると，津軽石川河口干潟には種数，個体数ともに軟体動物を中心とした群集が発達したが，織笠川河口干潟では，基本的には甲殻類が優占する群集が卓越した．一方，鶉住居川河口干潟と北上川河口域では貧鹹水域（塩分濃度が比較的低い汽水域）に特徴的な種類が多く出現したが，前者ではイトメやアリアケモドキが優占し，後者ではこれらの種類に加えてヤマトシジミが極めて豊富に出現した．北上川に隣接する長面浦では，多鹹水～中鹹水域（塩分濃度が高い，および中程度の汽水域）に特徴的な群集が卓越し，北上川河口域の底生動物群集とは大きく異なっていることから，保全上も両水域を 1 つのセットとして捉えることが望ましいと思われた．

各水域の現況および過去データとの比較は以下のとおりである．

陸中リアス海岸の湾奥干潟群

宮古湾津軽石川河口（金浜）（岩手県宮古市）

津軽石川は宮古湾奥に注ぎ込む延長 13.1 km の河川であり，その源流は山田町の水呑場山である．河口部には，津波被害から背後地を防護するための防潮水門（津軽石川水門）が設置されている．宮古湾には，源流を川井村の兜明神として近内川，山口川，牛伏川，長沢川などを支流とする閉伊川（延長は 75.7 km）も注いでおり，干潟を含む宮古湾全体の物質収支等に与える影響は最も強いと考えられている（西野 1980）．しかし，干潟の規模としては津軽石川河口のものが湾内，および陸中リアス海岸全体でも最大である．

本干潟では二枚貝，特にソトオリガイやオオノガイが多く認められ，他には多毛綱のコケゴカイ，*Heteromasutus* sp. 腹足綱ではホソウミニナが多かった．比較可能な過去のデータとしては，質的なものであるが戸羽（1980）による「宮古市の海産貝類」に掲載されているリストがある．今回の調査区域と同様な地域（戸羽 1980 の「砂泥地帯：高浜，金浜地区」）からは，腹足綱の 14 種，二枚貝綱の 46 種の合計 60 種が掲載されている．今回の調査では，そのうちの 12 種が確認されており，今回確認されたサキグロタマツメタは戸羽（1980）のリストには掲載されていない．ただし，アサリの稚貝の放流は以前からなされていたようで，昭和 40～50 年頃には千葉県のパアン，昭和 51～52 年には浜名湖からのものを取り寄せていたという記載がある．

山田湾織笠川河口（岩手県山田町）

山田湾内で最大規模の本干潟を有する織笠川は山田町内のイヌブナの原生林に源流を有する清澄な二級河川であり，高潮防止措置の対象となっている．本干潟を特徴づける十脚甲殻類としてはニホンスナモグリ，ハルマンスナモグリ，アナジャコおよびヨコヤアナジャコがあげられ，その他の甲殻類としてはスナウミナナフシ科の 1 種 *Cyathura* sp. が多く見られた．腹足類ではホソウミニナが多く，希少な魚類の 1 種*も多く見られた．

本干潟の底生動物に関しては Mukai(1992)があり，スナモグリ科とアナジャコ科の現在の密度は 1986～1988 年に比較すると低下していると思われる．また，2001 年発行の「いわてレッドデータブック」によると，山田湾に注ぐ関口川河口部には，かつてアシハラガニが多く生息していたと記載されているが，今回の調査移動時の簡単な目視観察では確認できなかった．

鵜住居川河口（岩手県釜石市鵜住居町）

鵜住居川は，源流を五葉山に有し，大槌湾の最奥に注ぐ清澄な河川である．大槌湾に注ぐ河川のなかでは，大槌川についてその湾内の生産や汚染等に関する影響が大きいことが明らかになっているが（和田ら，1983），大槌川河口部には護岸・港湾整備のために見るべき干潟がない．一方，大槌湾奥部に注ぐ鵜住居川の河口域には，三陸リアスの湾奥干潟群で最も淡水の影響を強く受ける干潟が発達している．

河口部ではナミノリソコエビ科の *Haustorioides* sp.，スナホリムシ科のヒメスナホリムシといった小型甲殻類が多く見られたが，上流へ向かうとイソシジミ，ヒメヤマトカワゴカイ，およびヨコヤアナジャコが多くなり，さらに上流にいくとカワザンショウガイ科の *Assimineea* sp.，イトメ，アリアケモドキといった貧鹹水域を特徴づける生物が多く出現した．底生動物一般を扱った比較可能な過去のデータはないが，貝類については，土田やその共同研究者による詳細な研究（土田，1990，1991；

土田・堀, 1992 ; 土田・黒住, 1993, 1995) のなかで鵜住居河口に生息する種類が記載されている。

北上川河口・長面浦

北上川河口 (宮城県北上町・河北町)

北上川 (新北上川 : 旧 追波川) の河口から上流 17.2Km の地点には北上大堰が設置されており, 渇水時には閉じられ, 洪水時には開放されて石巻市を流れる旧北上川の水量を安定化している。そのため, 渇水時に閉じられた大堰の海側では, 海からの塩水遡上によって上層水の塩分濃度も 20PSU を越える場合がある。ただし, 通常の水量では, 北上川の表層水の塩分濃度は一般に低く維持されている。

底生動物では貧鹹水域を特徴づける生物が多く, 特にヤマトシジミは豊富に産する。また, ヨシ原にはイトメ, ヨシ原の汀線付近にはアリアケモドキが多く分布することが確認された。こうした生物相は隣接する長面浦とは大きく異なるものである。分布の北限と考えられるチゴガニと予備調査時に採集された希少種ミズゴマツボ科 *Stenothyra* 属の 1 種は特筆に値する。1998 ~ 2001 年には松政ら (松政, 2000 ; 松政ら, 2002 ; Doi et al., 2005) による調査がある。それらは干潟を中心にしたものではないが, この間における種組成の大きな変化はないものと思われる。これら以前において底生動物を扱った比較可能なデータは, 学術論文等には見当たらない。

長面浦 (宮城県河北町)

長面浦は北上川河口の南側に隣接するが, 北上川から放出される淡水の多くは左岸 (北側) に流れること, および大きな河川を伴わないことから淡水の影響をあまり受けないようである。

底生動物では, 北上川河口域とは対象的に, 二枚貝のアサリ, イソシジミやソトオリガイ, 腹足綱のウミニナやホソウミニナ, 多毛類のオイワケゴカイ, 十脚甲殻類のコメツキガニやニホンスナモグリといった多鹹水域を特徴づける生物が主に出現する。カキの養殖が盛んであるが, 2004 年 10 月には大量斃死が発生し, その原因は明らかにされていない。これまでのところ, 底生動物に関する比較可能な過去のデータは, 学術論文等には見いだされていない。

参考文献

Doi, H., M. Matsumasa, T. Toya, N. Satoh, C. Mizota, Y. Maki and E. Kikuchi, 2005. Spatial siftn food sources for macrozoobenthos in an estuarine ecosystem: carbon and nitrogen stableisotope analyses. *Estuarine Coastal and Shelf Sciences*, 64: 316-322.

- 岩手県, 2001. いわてレッドデータブック. 岩手県生活環境部自然保護課.
- 松政正俊, 2000. 感潮域におけるベントスの分布と水環境～特に塩分変動との関係を北上川をフィールドとして～. 「感潮河川の水環境特性に関する研究」, 河川環境管理財団, pp. 87～101.
- 松政正俊・菊地永祐・溝田智俊, 2002. 北上川の感潮域における塩分環境とベントス群集との関係解析. 河川環境管理財団,平成13年度河川整備基金助成事業報告書. 26pp.
- Mukai, H. , 1992. The importance of primary inhabitants in soft-bottom community organization. *Benthos Research*, 42: 13-27.
- 西野耕一郎, 1980. I 宮古市の海域. 宮古市の自然 : 245-249.
- 戸羽親雄, 1980. 宮古市の海産貝類. 宮古市の自然 : 229-244.
- 土田英治, 1990. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (1) 原始腹足目と中腹足目. 大槌臨海研究センター報告 16 : 17-34.
- 土田英治, 1991. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (2) 新腹足目. 大槌臨海研究センター報告 17 : 1-27.
- 土田英治・堀成夫, 1992. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (3) 異腹足目, 後鰓亜綱と掘足綱. 大槌臨海研究センター報告 18 : 1-23.
- 土田英治・黒住耐二, 1993. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (4) 二枚貝綱-1. 大槌臨海研究センター報告 19 : 1-30.
- 土田英治・黒住耐二, 1995. 岩手県大槌湾とその周辺海域の貝類相 (5) 二枚貝綱-2. 大槌臨海研究センター報告 20 : 13-42.
- 和田英太郎・辻堯・南川雅男・水谷広・今泉励子・柄沢亨子, 1983. 大槌川水系における有機物輸送の研究 - 生物地球化学的モデル場の確立 -. 大槌臨海研究センター報告 9 : 17-34.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF Japanサイエンスレポート*, 3: 1-182.

仙台湾

鈴木孝男

仙台湾とは、宮城県の牡鹿半島と福島県の鶴の尾岬を結ぶ線により囲まれる海域を指し、その海岸線は牡鹿半島の付根の部分から鶴の尾岬まで、松島湾の部分を除けば、砂浜海岸となっている（八島 1985）。流入河川としては、仙北平野を流れる旧北上川と鳴瀬川、および仙南平野を流れる七北田川、名取川、阿武隈川が主なものであり、後者の 3 河川の河口付近には潟湖が発達している。また、石巻市の東には万石浦、相馬市の海岸部には松川浦という、広大な潟湖が存在する。松島湾は陸地の沈降により形成された多島海的形状を持ち、大小 230 程の島が点在する内湾である。万石浦、松島、松川浦は県立自然公園に指定されており、また、仙台湾南部の砂浜地域やそこに存在する干潟は宮城県自然環境保全地域となっている。

仙台湾の海岸線に沿っては沿岸流が流れ、また、南方から入り込んだ黒潮に由来する水塊は北側において牡鹿半島によってさえぎられる。このため、仙台湾沿岸域に立地する干潟群に棲息する底生動物は、幼生分散等を通して相互に影響を及ぼしあう可能性が高いことから、メタ群集構造を持つと考えられる。仙台湾沿岸域で干潟が出現するところは、上述した潟湖内に多く、調査は、万石浦、蒲生干潟（七北田川左岸）、井土浦（名取川左岸）、広浦（名取川右岸）、鳥の海（阿武隈川南側）、松川浦で行った。また、松島湾内では、前浜や、入組んだ入江の奥に小規模の干潟がたくさん出現することから、代表的な 3 地点で調査を行った。

万石浦と松川浦は形としては潟湖であるが、潟全体が広いことから、入口の狭い内湾的な性格を持っており、そこに出現する干潟は内湾内の前浜干潟とみなすこともできる。両者とも潟内は養殖に利用されており、万石浦ではカキの養殖、松川浦ではノリの養殖が盛んである。また、いずれにおいても潟内に砂を盛るなどして造成した干潟でアサリの養殖が行われており、春から夏にかけての大潮時には、自然干潟も含めて、観光潮干狩りでにぎわっている。干潟に続く潮下帯にはアマモが高密度で生育しているところがある。一方、潮上帯の側を見ると、潟の周囲はほとんど護岸工事がなされており、ヨシ原や塩性湿地に自然に移行している場所は極めて少ない。このような状況は内湾である松島湾でも同じである。万石浦と松島湾には大きな河川の流入は無く、塩分はほぼ外海と同じである。一方、松川浦にはいくつかの河川が流れ込んでいるが、潟の北部中央に開口している宇多川と小泉川が主なものである。しかし両河川とも流量がそれほど大きくはなく、海水交換も良いことから、塩分が大きく低下することはないようである。

これら、内湾ないしは内湾の性格を持った大きな潟には、ヒザラガイ類、カサガイ類、コシダカガンガラ、スガイ、レイシなど、岩礁海岸を主な棲息場所とする貝類をはじめ、ホヤ類、カイメン

類，イソギンチャク類の棲息が認められた。これらはいずれも，潮通しの良い場所の護岸壁や転石，礫，あるいは漁業者が設置した棒杭や竹棒に付着しており，万石浦や松川浦においては，通水口近くの干潟近辺やアサリ漁場に出現した。また，底土中には，浅海域の砂泥底を主な分布域とするシログネゴカイ類，ウロコムシ類，イソメ類などの多毛類も棲息していた。

万石浦は，仙台湾沿岸域の干潟の中でもっとも多く種類（104種）が確認できたところであり，多様性が高いといえるが，海産種の入り込みが多いこともその理由の1つに挙げられる。しかし，この干潟では，カワゴカイ類やイソシジミといった汽水域で優占する種類が確認できなかった。これは，淡水の影響下にある場所がほとんどないためであろう。もともと，万石浦内に自然で出現する干潟はそんなに広くはなく（約35haであり，松川浦の1/10），ヨシ原もほとんどないに等しい。しかし，この他にアサリ漁場として造成された干潟が70haほどあり，ここから多くの種類が記録されている（70種）。この事実は，干潟の底生動物の保全を考えていく上で，大変興味深いことである。

松島湾内には小規模な干潟が点在する。今回の調査地点以外にも，生物棲息場所として重要と思われる干潟があることから，また，少なくない数の底生動物が松島湾近辺を分布北限域としていることから，さらなる調査が望まれるところである。今回の調査地点の中では，波津々浦が貴重な干潟であると考えられる。波津々浦は6ha程度の小面積の干潟ではあるが，比較的多くの種類が出現したことに加え，ハマグリのほか，東日本ではここが唯一の生息地である希少な巻貝の1種*が棲息していたこと，また，未記載種のマツシマカワザンショウが発見されたからである。潮下帯にはアマモが繁茂しており，潮間帯では低密度ながらコアマモの生育も認められた。この干潟でも春には潮干狩りが行われており，その時期には人の入り込みが多いことから，将来が心配される。

松川浦は万石浦について出現種数が多く，93種であった。中でも，腹足類，多毛類，甲殻類の出現種数が多く，普通干潟に見られるような種類はほとんどが棲息していた。また，イボキサゴ，ウミニナ，フトヘナタリ，カワアイ，ツバサゴカイなど希少な種類も比較的多く出現した。また，著者による最近までの継続した調査において新たに棲息が確認された種類を加えると，2005年8月までの時点で120種類が数えられている。環境省が福島県に調査を委託して実施した，松川浦の総合調査報告書（環境省自然保護局，2005；福島県生活環境部自然保護グループ，2005）では，その干潟底生動物の保全に関しても触れていることから，ぜひこの多様性豊かな干潟を将来にわたって保持して欲しいものである。

松川浦の底生動物に関しては，松川浦団体研究グループが現生生物の生痕について研究を行って

いるが、1991～1996年の調査結果として、主に中央より北側の干潟と砂浜から32種を記録している（松川浦団体研究グループ、2003）。ほとんどの種類は今回の調査でも確認されたが、スナガニ、イボウミニナ、ヘナタリ、イソミミズ、トビハゼ、ホウキムシ、ユムシについては、その後の調査を含めても見つかっていない。スナガニを除く干潟に棲息する種類は、現在絶滅してしまった可能性が高い。ただし、イボウミニナとヘナタリについては、死殻も見つかっていないことから、ホソウミニナやカワアイと誤認した可能性も考えられる（標本は不明）。

これまでに述べた3ヶ所の調査地域ではいずれもアサリの潮干狩りが行われており、しかも、輸入したアサリを放逐することによって、外来種であるサキグロタマツメタが侵入し、定着し、繁殖していることが知られている（大越、2004；鈴木、2005）。万石浦や松島湾内のいくつかの潮干狩り場では、サキグロタマツメタによるアサリの食害が大きな問題になっている。また、松川浦では2004年9月に、漁協による大規模な駆除が実施され、成貝7.5kgと卵囊211kgが採捕されている。松川浦団体研究グループでは1998年までの調査において干潟上でツメタガイ類を見たことは無いということであったことから（豊岡私信）、松川浦のサキグロタマツメタは1999年以降に持込まれたものと思われる。ところで、近年、アサリを放逐していない干潟でもサキグロタマツメタが見られるようになってきている。サキグロタマツメタがこのまま分布を広げ、アサリを餌にして大繁殖した場合、アサリばかりではなく他の貝類にも大きな影響が出ることから、生態系のバランスを崩すおそれもある。大越（2004）によると、アサリの移入に伴い、混在していた13種の底生動物も放逐されていたことが分かっている。現在まで、他種に起因する被害等は報告されていないが、注意が必要である。

鳥の海は、松川浦、万石浦に続く大きさの潟湖であり、狭い通水路で直接太平洋に開口している。荒浜漁港が鳥の海に入ってすぐ北側にあることから、通水路は航路としての維持管理がなされているが、潟内には小舟用の水路があるだけで全体として極めて浅い水域となっている。以前はアマモ場もあったようであるが、現在は絶滅してしまった。鳥の海でもアサリの養殖が行われていたが、自然発生するアサリが少なくなったためもあって5年間休漁を行い、2004年に解禁された。その直後に調査を行ったのであるが、着底して間もないアサリが多く確認され、ハマグリも見つかった。人の入り込みを制限した成果かも知れない。この鳥の海には仙台平野を流れる小河川が流れ込んでおり、季節によっては流入量も多く、塩分はかなり変動すると思われる。通水路から流れ込んだ海水が最も良く行き渡る辺りにはアサリが多いが、全体的にはイソシジミ、サビシラトリ、ソトオリガイ、ニホンスナモグリ、イトゴカイ類の*Heteromastus* sp.が優占する汽水性の干潟である。ニホンスナモグリやヨコヤアナジャコの巣穴が多いところには、ハゼ科の希少魚*が多く出現した。本種は、鳥の海以外にも今回の調査地で広汎に見られたことから、仙台湾沿岸域の汽水域には普通に棲息し

ているものと思われる。鳥の海の南東域の干潟にはアナアオサやオゴノリが大量に発生するところがあるが、ここにはホソウミニナが極めて多かった。また、西側の河川が流入する近辺の干潟には、カワゴカイやイトゴカイ類の *Notomastus* sp. が比較的多く棲息していた。

阿武隈川河口から北へ 14 km のところに名取川の河口があり、さらに北へ 10 km のところには七北田川が流れている。名取川の河口の北と南にはそれぞれ井土浦と広浦があり、七北田川の河口北側には蒲生干潟がある。この 3 つの潟湖干潟の底生動物相は、細かい違いを別にすると基本的にはほぼ同様であり、汽水域を主な棲息場所とする種類が出現する。特に、広浦と井土浦については、地理的に近いこともあって、確認された種類の内、共通種が 69 % を占めていた。総じて砂質域にはイソシジミ、ソトオリガイ、ニホンスナモグリ、ヨコヤアナジャコ、コメツキガニ等が棲息し、砂泥質になるとサビシラトリ、カワゴカイ類、イトゴカイ類の *Heteromastus* sp., チゴガニ、ヤマトオサガニ等が出現する。ヨシ原には、アシハラガニ、ヒラドカワザンショウ、クリイロカワザンショウ、フトヘナタリ、ヒメハマトビムシが多い他、ムシヤドリカワザンショウやコツブムシ類も見られる。また、転石や石積みのところにはケフサイソガニが多い。広浦と井土浦の、人の入り込みがほとんどない砂質域でニホンスナモグリやアナジャコ類の密度が高いところでは、底土表面は凸凹しており、底質は柔らかい。こうした場所には彼らの巣穴を利用しているエドハゼが比較的多く見られる。

広浦は、以前は名取川の河口に開口していたが、2001 年に閉上漁港の整備の一環としてその部分が閉じられ、新たに通水路が掘られ、直接太平洋側に開口するようになった。このために塩分が高くなると同時に海産種の供給が多くなれば、底生動物相は変化していくかも知れない。井土浦は、ボートを使わないと入ることができない干潟のため、人の立ち入りは非常に少ないところである。まとまったヨシ原が見られるが、干潟との境界付近にハサミシャコエビのマウンドが比較的多く見られる。本種は、仙台湾沿岸域にはほぼ普遍的に分布しているようであるが、巣穴等生活痕の確認が主体であることから、実態は未だ不明であるところが大きい。蒲生干潟は、古くから渡り鳥の飛来地として知られ、人々に親しまれているところであるが、反面、人の入り込みも多いところである。特に近年、自然発生したアサリの採取やサーファーの通行が頻繁になったことから、人による攪乱等、環境悪化が問題となっている。こうしたことに対応するため、現在、蒲生干潟自然再生協議会が発足し、対策を進めているところである。

鳥の海、広浦、井土浦、蒲生干潟の底生動物については、鈴木（2002）が 2000 年に調査を行っている。干潟でのコドレート法によるものであることから出現種に少しの違いはあるものの（ヨシ原内に棲息する種類の記録はない）、動物相としてはほぼ同様である。今回の調査で確認されなかった

種類として、希少な巻貝の 1 種*とホウキムシ類が、この 4 干潟全てで採集されていることは興味深い。両種とも日本における分布域がまだ明確になっていない種類である。

蒲生干潟の底生動物については、これまで多くの調査・研究がなされているが、群集組成あるいは出現種リストを記載してある報告は少ない。土屋・矢島（1975）には、1971～1974 年に出現した「蒲生干潟周辺の底生動物目録」が付されており、魚類を除いて 72 種類が記録されている。現状と比較して興味深いのは、中央干潟にウミニナとホソミサシバが多い点である。ウミニナは、その後長い間確認されておらず、絶滅したと思われていたが、今回の調査で少数個体ではあるが棲息が確認された。ホソミサシバもほぼ絶滅したようであったが、最近になってたまに数個体が見つかっている。また、奥部干潟に多いとされていた *Capitella capitata* は 1993 年頃まではほとんど見られなくなっていたが、その後個体数が回復し（栗原ら、2001）、近年は極めて多くなった。同様に奥部干潟に多く棲息していたとされるミズヒキゴカイは、その後見られなくなった。主要なカニ類の棲息状況はほとんど変化していないようであるが、アカテガニとモクズガニは近年ほとんどみかけなくなった。また、宮城県が北限とされているハマガニは蒲生周辺では絶滅したと思われる。ところで、近隣の干潟には棲息しているが、蒲生干潟にはいない種類として、ホソウミニナとスナウミナナフシの 1 種が挙げられる。後者は土屋・矢島（1975）のリストに掲載されていることから、その後絶滅したのであろう。ホソウミニナは各地の干潟で増えているようだが、蒲生干潟にはまだ進出していないといえる。蒲生干潟においては、近年アサリや *Capitella* sp., *Heteromastus* sp. など高塩分を好む種類が多く見られるようになり、*Notomastus* sp. やイトメなど淡水の影響の強い汽水域を好む種類が激減するなど、群集組成が変化してきている（栗原ら、2001）。これは、1989 年に、河口と蒲生干潟を仕切っている導流堤に水門が新たに設置され、また、1997 年にはそれが再び新たに付け替えられるなどの結果、海水交換が良くなり全体として潟の塩分が上昇してきたことに起因するものと考えられる。カキ礁が潟中央部の潮下帯に広がってきており、また、オゴノリの生育域が増えたのも、塩分上昇によるものであろう。近年、蒲生干潟では、アサリ採りの人が奥の方まで入るようになり、底土表面はかなりの程度に攪乱されている。イソシジミは漁獲対象でないためにそこらにまとめて捨てられている状況も観察されている。さらには、釣り餌用にコメツキガニを大量に採取している人もいるなど、人為によるインパクトが大きいことが、種多様性の劣化につながるものが危惧される。

さて、ここで、ウミニナ科、フトヘナタリ科、カワザンショウ科の希少種について触れておきたい（希少種のランクについては和田ら（1966）を参照のこと）。ウミニナ（危険）は井土浦を除く 6 地域で棲息が確認され、蒲生干潟以外では普通に見られる。一方イボウミニナ（絶滅寸前）は 1 地

域でのみ確認されたが、この場所には、ウミニナとホソウミニナが分布していない。また、その後の調査において、若い個体が認められたことから、近隣の潮間帯にも棲息している可能性が無いとはいえない。

フトヘナタリ科では、フトヘナタリ（危険）は万石浦を除いて比較的多く棲息しており、ヨシ原が破壊されない限り、棲息に問題は無さそうである。一方、カワアイ（危険）は、今回の調査で始めて仙台湾沿岸域での棲息が確認された。万石浦と松島湾の奥まった干潟および松川浦の泥干潟で柔らかい泥地の上を這い回っている。いまのところ、このカワアイ個体群にはフトヘナタリの場合と異なり幼貝の加入が見られていない。しかも、殻表が溶脱した老齢個体の比率が高く、今後の推移が気にかかる場所である。ヘナタリ（危険）はどこでも見られなかった。

カワザンショウ科については、仙台湾沿岸域で、既知 6 種類の他、未記載種が 4 種類発見された。これまで蒲生干潟を始め松島湾以南で最も多く棲息していた種類はカワザンショウとされていたが、今回の調査でカワザンショウではなく、ヒラドカワザンショウであることが判明した（カワザンショウは広浦で 2000 年 9 月に採集されているのみ）。クリイロカワザンショウは蒲生干潟以南で普通に見られ、ムシヤドリカワザンショウ（危険）も松島湾以南の全域において確認された。高潮域から上の辺りに棲息するヨシダカワザンショウ（危険）は松川浦において、また、外海に面した岩礁地の飛沫帯に棲息するオオウスイロヘソカドガイは万石浦において見ついている。万石浦からはツブカワザンショウ（危険）とキントイロカワザンショウ（未記載）が記録されたが、他に、干潟上から極小サイズのカワザンショウ属の 1 種（未記載）が見ついている。ヨシ原ではなく、砂干潟上に棲息する極めて小型の種類は他の地域でも発見され、松川浦に産する種類はマツカワウラカワザンショウ（未記載）、松島湾波津々浦に産する種類はマツシマカワザンショウ（未記載）と名付けられた。分布の実際も含めて、今後の精査が必要な種群である。

外来種としては、前述したサキグロタマツメタの他に、万石浦と松川浦においてシマメノウフネガイが確認された。ムラサキイガイはどこでも護岸壁などに普通である。また、外来種の可能性があるヤミヨキセワタが、最近数地点で見つかるようになった。

参考文献

- 福島県生活環境部自然保護グループ，2005．重要湿地松川浦総合調査報告書．平成 17 年 3 月，253pp
- 環境省自然環境局，2005．第 6 回自然環境保全基礎調査種の多様性調査（福島県）．平成 17 年 3 月．
- Kojima, S., Kamimura, S., Iijima, A., Kimura, T., Mori, K., Hayashi, I. and Furota, T., 2005. Phylogeography of the endangered tideland snail *Batillaria zonalis* in the Japanese and Ryukyu Islands.

Ecol. Res., 20: 686-694.

栗原康・菊地永祐・上原忠保, 2001. 蒲生干潟の生態学と保全手法. 蒲生干潟環境保全対策基礎調査報告書, 宮城県, 2001年3月, 92pp.

松川浦団体研究グループ. 2003. 福島県相馬市松川浦の干潟における底生生物とその生痕. 地球科学, 57: 31-48.

大越健嗣, 2004. 輸入アサリに混入して移入する生物-食害生物サキグロタマツメタと非意図的移入種. 日本ベントス学会誌, 59: 74-82.

鈴木孝男, 2002. 蒲生干潟, 井戸浦, 広浦, 鳥の海の底生動物. 仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書, 宮城県, 平成14年3月, pp. 201-219.

鈴木孝男, 2005. 底生動物 (松川浦の底生動物群集及び底泥). 重要湿地松川浦総合調査報告書, 福島県生活環境部自然保護グループ, 平成17年3月, pp. 55-83.

土屋誠・矢島孝昭, 1975. 蒲生干潟における底生動物の分布. 蒲生干潟の環境保全に関する基礎的研究 (栗原康編), 宮城県, pp. 69-86.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japanサイエンスレポート, 3: 1-182.

八島邦夫, 1985. 第7章仙台湾 I地質. 日本全国沿岸海洋誌 (日本海洋学会沿岸海洋研究部会編), 東海大学出版会, p.253-262.

東京湾

風呂田利夫

現況

東京湾は房総半島の洲崎，三浦半島の剣崎を結んだ線より北部をさし，そのうち観音崎と富津州より湾奥を内湾，湾口側を外湾としている。干潟は内湾部にあり，今回の調査地点は，神奈川県野島，東京都の葛西沖（臨海公園），千葉県三番瀬，江戸川（放水路），谷津干潟，盤洲（小櫃川河口），富津の7箇所である。これらの干潟の形状のほとんどが湾に面した前浜干潟であるが，江戸川放水路は陸側の開削により人工的に造られた潟湖的な海岸の干潟であり，盤洲の小櫃川河口周辺では河口内に河口干潟，また三角州には塩生湿地が存在する。谷津干潟はかつて前浜干潟であったが，周辺が埋め立てられた結果，水路により東京湾と連絡する変則的な閉鎖環境となっている。また，葛西臨海公園沖や三番瀬の干潟は人工海浜造成もしくは埋立地造成中に流出した土砂により浅瀬が部分的に覆砂された干潟であり，江戸川放水路は開削により造られた人工水路で両岸が潟湖的な干潟となっている。このように湾奥にある干潟は人工的な地形改変を受けた歴史をもつ。さらに今回の調査地には含まれていない干潟としては，多摩川河口内の河口干潟，市川市行徳の人工潟湖にある新浜湖，養老川河口部に埋立地間の河口部に土砂の堆積でできた河口干潟がある。

今回の調査で共通的に生息していたのが，クロガネイソギンチャク，アラムシロ，アサリ，シオフキ，コケゴカイ，ツツオオフエリア，チロリ，ユビナガホンヤドカリ，ニホンスナモグリ，マメコブシガニ，コメツキガニ，チゴガニであった。また開放的で砂質の前浜干潟を特徴づけるのは，スゴカイイソメ，バカガイ，マテガイ，ツバサゴカイ，オサガニで，一方泥質の干潟ではヒメシラトリ，カワゴカイの1種または複数種，ミズヒキゴカイ，チゴガニ，ヤマトオサガニ，アナジャコである。このうちチロリは近縁種の *Glycera macintoshi* も出現したが，現場ごとに少数個体しか同定していないため，チロリと同所的な生息があっても見逃されている可能生が高い。また地理的に見て，湾最奥部に分布が集中する傾向にあるのは，ウミゴマツボ，ヒメシラトリ，オオノガイ，オキシジミ，ソトオリガイ，トビハゼである。

東京湾の干潟では海岸部がすでに開発されている場合が多く，ヨシ群落からなる塩生湿地が残っている場所は少ない。盤洲や江戸川放水路の塩生湿地では，カワザンショウガイ，クリイロカワザンショウ，ヒラドカワザンショウ，アシハラガニ，クロベンケイガニ，クシテガニ，アカテガニ，ウモレベンケイガニが共通的に生息している。

分布が限定され希少性が高い種としては，イボキサゴ，テナガツノヤドカリ，ハサミシャコエビ，

コアシギボシイソメ，フトヘナタリがある．このうちハサミシャコエビを除いて，今回の調査での出現は盤州干潟でのみ見られた．盤州では今回の調査で最も多くの種が観察されており，ここが面積的に広いことと河口干潟，塩生湿地，前浜干潟と本来の自然形状を連続的に存在することで地形的多様性が高いことが，高い種多様性を支えているのだろう．

今回発見された干潟性の外来種はアシナゴカイ，サキグロタマツメタ，ホンビノスガイであった．アシナゴカイは野島，江戸川放水路，谷津干潟，三番瀬で観察された．またホンビノスガイは湾奥の三番瀬，江戸川放水路，谷津干潟で観察された．サキグロタマツメタは盤州のみで見られた．また，盤洲の前浜干潟ではウメノハナガイが豊富に生息していたが，本種は 1990 年代に入ってから観察されており，黒住（私信）は本種をウメノハナガイモドキと同定したうえで，人為的移入の可能性が高いとしている．

過去における底生動物分布状況

1960 年から 1970 年にかけての高度経済成長期時代の干潟を消失させた大規模な埋立てが行われる以前，羽田飛行場周辺に広がる羽田洲での 1959 年の貝類調査では，アサリ，ホトトギス，ユウシオガイ，シオフキ，オキシジミ，ソトオリ，イソシジミ，サルボウ，ヒメシラトリ，バカガイ，ハマグリ，カガミガイ，カキ，マテガイが，江戸川河口沖の三枚州では上記貝類のうちヒメシラトリ，カガミガイ，カキが含まれないが，あらたにヤマトシジミ，オオノガイの生息を報告している（東京都水産試験場，1960）．葛西沖には現在の人工海浜域となっている三枚州ならびに浸食で消滅した高須干潟があった．この海域での人工干潟造成前の 1972 から 1973 年の調査（秋山らによる）では，腹足類としてツメタガイ，アラムシロ，ミズゴマツボ，カワグチツボ，ウミニナ，バイが，二枚貝類としてサルボウ，アサリ，シオフキ，バカガイ，マテガイ，オオノガイ，カガミガイ，マガキ，ホトトギス，ウネナシトマヤガイ，オキシジミ，ソトオリガイ，ハマグリ，ハナグモリが，甲殻類としてイソガニ，ケフサイソガニ，マメコブシガニ，モクズガニ，ヤマトオサガニ，アシハラガニ，チゴガニ，エビジャコ，ウミナナフシ，ユビナガホンヤドカリが，多毛類としてスゴカイイソメ，ミズヒキゴカイ，ゴカイ類，そして魚類のトビハゼの生息を報告しており（日本鳥類保護連盟・環境庁，1973；干潟研究会，1973；秋山，1974），翌年 1974 年の調査でも，上記の生物の多くが再確認されている（干潟研究会，1975）．その後，1975 年の干潟造成直前と直後(2 から 9 ヶ月後)の比較では，高潮域の形成によりコメツキガニ個体群が新たに形成されたが底生動物相に大きな変化が見られなかった（秋山，1976）．さらに人工干潟造成後の継続的な調査では個体群が増加傾向にあったのはムロミスナウミナナフシだけで，その他の種の個体群規模の変動は大きかった（秋山，1977，1978）．

湾奥に残存する前浜干潟である三番瀬干潟周辺に関しては、周辺の埋立てが始まっていない 1955 年の船橋海岸でウミニナ、ホソウミニナ、イボウミニナ、カワアイ、ヘナタリの生息が報告されている（稲葉，1955）。また秋山の指導のもとで行われた山本(1972)による 1971 年の隣接干潟である幕張浜田川河口の干潟では、オキシジミ、サビシラトリ、ヒメシラトリ、ユウシオガイ、ハマグリ、ミズゴマツボも生息していた。さらに習志野市の前浜干潟ではアシナガゴカイ、*Capitella capitata*、コケゴカイ、ヒメシラトリ、バカガイ、ハマグリ、アサリ、シオフキが豊富に生息していた（西野ほか，1974）。周辺が埋立てられ海岸部に人工海浜が造られた後、碓ほか（1996）が人工海浜周辺部でアサリとシオフキガイが多いとし、さらに風呂田ほか（1996）は閉鎖性の強い三番瀬奥部の潮下帯泥底では、ウミゴマツボ、カワグチツボなど泥干潟性の種の生息を報告している。飯島ほか（2004）は今回の調査と市民参加の調査を合わせ、アサリ、シオフキ、スゴカイイソメ、タマシキゴカイが多く、カガミガイやオキシジミ、オオノガイなど一般的な干潟底生動物の生息を報告している。

三番瀬に隣接する江戸川放水路干潟では 1985 年から 1993 年の Fukuda(1994)の調査では、アサリ、シオフキ、バカガイなどの干潟一般種のほかにサツマクリイロカワザンショウ、ムシヤドリカワザンショウ、カワザンショウガイ、フトヘナタリ、ホソウミニナ、ウミニナ、ヘナタリ、フトヘナタリ、カワアイ、カワグチツボ、ウミゴマツボ、ハナグモリ、ヒメシラトリ、オキシジミ、ソトオリガイ、オオノガイなど豊富な貝類相の生息が見られている。その後 2000 年の榎本(2002)の調査では 52 種の干潟性底生動物を報告しており、その中にはアナジャコ、ハサミシャコエビなど泥干潟に多い種も含まれるが、フトヘナタリ、ホソウミニナ、ウミニナ、ヘナタリ、カワアイなど泥干潟に生息する腹足類は確認されていない。また江戸川放水路につながる人工潟湖の干潟部では、干潟出現 1 年後の 1978 年には、ゴカイ類、チロリ、ミズヒキゴカイ、カワザンショウガイ、ウミゴマツボ、カワグチツボ、ソトオリガイ、ヒメシラトリ、オキシジミ、アサリ、アラムシロ、ホトトギス、ラスバンマメガニ、コメツキガニ、チゴガニ、ニホンスナモグリ、アナジャコなど湾奥の干潟に多い底生動物の生息が見られ（風呂田，1978）、またその 19 年後の 1987 年ではウミゴマツボ、カワグチツボ、ラスバンマメガニは見られなかったが、コケゴカイ、カガミガイ、シオフキ、マテガイ、サビシラトリ、ハサミシャコエビ、ホウキムシ類などの生息も報告されている（井徳，1998）。その後 2001 年には、東京湾で認められている唯一のカワアイ個体群の形成が発見された（飯島ほか，2002）。

谷津干潟は 1960 年代の終わりに前浜干潟の埋立てにより今の閉鎖的な形状になり、埋立て工事中に周辺から排出された軟泥で干潟面が被われた。その直後、干潟研究会(1975)ならびに秋山（1975a）はゴカイ類、ミズヒキゴカイ、ヤマトオサガニ、チゴガニ、ウミニナ、コメツキガニの豊富な生息を報告している。1986 から 1987 年にかけての調査では、アシナガゴカイが優占し、アナジャコ、チゴガニ、イトメの出現もあった（風呂田・鈴木，1999）。環境省・千葉県・習志野市（1996）は 1984 年，1985 年，1995 年の底生動物相をまとめ、希少種ではウミゴマツボ、カワグチツボ、ウミニナ、オキシジミが干潟面に見られ、トビハゼ、クシテガニがヨシ群落に生息することを報告している。

ウミニナの生息はイボウミニナとともに 1985 年でも認められたが (森田, 1986), 1997 年では極めて少なくなり (Furota et al., 2002), 2000 年以降生息は確認されていない (風呂田, 未発表). これにかわって, 1995 年までは報告されていなかったホソウミニナが 1997 年には急増し (Furota et al., 2002), 今回の調査でも優占的に生息していた. ここでのイボウミニナの確認は 1985 年 (森田, 1986) のみである. また, 1989 年には日本では有明海に産するハラグクレチゴガニが採集されたが, その後の発見情報はなく, 有明産アサリなど放流された水産生物とともに偶発的に持ち込まれたと推測される (佐藤, 私信).

今回の調査地には含まれなかったが, 養老川河口干潟では土砂の流入により埋立地間の河口部や港湾部に干潟が海に向かって発達しつつある (国土交通省, 2004). 2006 年の踏査調査では, クリイロカワザンショウ, ツメタガイ, アラムシロ, シオフキ, マテガイ, ホンビノスガイ, カガミガイ, ソトオリガイ, チロリ属複数種, スゴカイイソメ, ツツオオフエリア, タマシキゴカイ, ハサミシャコエビ, ユビナガホンヤドカリ, マメコブシガニ, アシハラガニ, アカテガニ, カクベンケイガニ, コメツキガニ, ヤマトオサガニなど多くの干潟の一般種をはじめ, コアシギボシイソメの生息が確認された (東邦大学理学部東京湾生態系研究センターウェブサイト).

盤洲 (小櫃川河口干潟) では日本鳥類保護連盟(1974)が 1973 年の調査として, 塩生湿地内ではフツウゴカイ, チゴガニ, コメツキガニ, チロリ, ウミナナフシ, ガンマルス類, ヤマトオサガニ, ヘナタリ, ウミニナ, 前浜干潟ではアサリ, ソトオリガイ, シオフキ, ユウシオガイ, ウミニナ, ミズゴマツボ, ツメタガイ, イボキサゴ, オサガニ, ヤマトオサガニ, ウミナナフシ, ケフサイソガニ, ミズヒキゴカイ, チロリ, スゴカイイソメの生息を報告している. さらに干潟研究会 (1975) と秋山(1975a)が底生動物相をまとめ, 腹足類ではミズゴマツボ, コメツブガイ, ウミニナが個体数的に優占する他, ヘナタリ, アラムシロ, フトヘナタリ, イボキサゴ, ツメタガイ, アカニシの生息が見られ, 二枚貝類ではアサリが優占し, その他にハマグリ, バカガイ, イソシジミ, ユウシオガイ, シオフキ, ホトトギス, ハナグモリ, ソトオリガイ, マテガイが見られ, 甲殻類ではガンマルス類が優占し, その他にコメツキガニ, チゴガニ, オサガニ, ヤマトオサガニ, ケフサイソガニ, マメコブシガニ, イシガニ, ノコギリガザミ, アシハラガニ, ベンケイガニ, ウミナナフシ, アナジャコ, ニホンドロソコエビ, エビジャコ, クルマエビ, ヒメハマトビムシが見られ, 多毛類ではゴカイ類とスピオ類が優占し, その他にスゴカイイソメ, フツウゴカイ, ミズヒキゴカイ, オフェリアゴカイ類, チロリ, キャピテラ類, タマシキゴカイが見られたとし, その他の動物としてニンジンイソギンチャク, ホシムシ類の生息をあげている. その後大嶋・風呂田(1980)によって 1978 年から 1979 年にかけて底生動物の分布調査が行われており, 塩生湿地性種としてアシハラガニ, ヤマトオサガニ, ゴカイ, チゴガニ, ヒメシラトリ, オキシジミ, ヘナタリ, フトヘナタリ, カワザンショウガイ, クリイロカワザンショウが, 湿地と前浜での共通種としてマメコブシガニ, ユビナガ

ホンヤドカリ, コメツキガニ, ウミニナ, ホソウミニナ, アサリ, ハナグモリ, ミズヒキゴカイ, ハナオカカギゴカイ, さらに前浜干潟生種として, ツツオオフエリア, マテガイ, シオフキ, オサガニをあげている. また, ハマガニがヨシ群落内でみられている. 1985 年の森田(1986)によるウミニナ属の調査では, ウミニナとホソウミニナとともに湿地内で摩耗したイボウミニナの生息を報告している. 1987 から 1988 年の秋山 (1988) の調査では上記の生物以外ではイソギンチャク類, ホシムシ類, イトゴカイ類, スピオゴカイ類, *Pseudopolydora* 属, ミズヒキゴカイ, タマシキゴカイ, イトメ, アシナガゴカイ, モロテゴカイ, サシバゴカイ, ハナオカカギゴカイなどの生息が報告されている.

富津干潟では, 1974 年, 1975 年, そして 1977 年に村田(1975, 1976, 1978a,b)による一連の調査があり, 汀線付近にコアマモ, 沖部にアマモが生育し, スナイソギンチャクとニンジンイソギンチャク, スゴカイイソメ, ゴカイ, ツバサゴカイ, ミズヒキゴカイ, クロムシ (村田はスゴカイイソメをさすとしている), ハマトビムシ類, クルマエビ, マメコブシガニ, コメツキガニ, ヤマトオサガニ, ユビナガホンヤドカリを含むヤドカリ類, イボキサゴを含むキサゴ類, ウミニナ, アラムシロ, アサリ, バカガイ, カガミガイ, ハマグリ, サルボウ, ユウシオガイ, ヒメシラトリの生息を報告している.

野島干潟では 1987 年の調査報告があり (風呂田, 1988), 底生動物としてニホンスナモグリ, オサガニ, ホトトギス, マテガイ, アサリ, シオフキ, バカガイの生息が報告されている. また, 海をつくる会 (1995) は後背の平潟湾でヤマトオサガニ, カクベンケイガニ, クロベンケイガニ, アシハラガニ, アカテガニなどの塩生湿地性のカニ類が生息することを報告している.

これらの報告について分類学的な問題点を考える. この報告で引用された調査を行った研究者の多くは, 水産関係もしくは海洋生物生態学研究者であり, 専門的な分類学研究者ではない. また干潟底生動物は分類学的には広範な分類群にまたがっており, すべての動物群の同定能力を有することは不可能である. 従って多くは既存の図鑑や入手できる資料あるいは分類を専門とする知人の指導をたよりに行われており, 種同定において特に既存の資料で記載されていない, あるいは未整理な動物群については同定に混乱が生じるのはやむを得ない. したがって分類が困難な動物種の情報の利用については慎重に対応しなければならない.

干潟の底生動物調査が進展しはじめた 1970 年代では秋山が多くの調査報告を出している. そのなかで当時分類学的に問題があり, 今回の調査結果と対応させると, 対応が不明なのはニンジンイソギンチャクとイトゴカイ類で, 一方チロリは *Glycera nicobarica* もしくは *G. macintoshi*, ウミニナはホソウミニナもしくはウミニナに対応し, フツウゴカイとゴカイ類はカワゴカイ類, ミズゴマツボはウミゴマツボ, ウミナナフシはムロミスナウミナナフシに対応する (チロリは風呂田の見解, その他は秋山 (私信) の見解). ニンジンイソギンチャクは富津干潟を調査した村田をふくめ多くの報告

があるが、東京湾での生息は否定的である。

過去から現在への変遷

東京湾内湾の多くの干潟で底生動物種の局所的個体群が衰退傾向にある。上記の報告をもとに、その衰退過程をまとめた。

・絶滅種

現在では絶滅したと考えられる種として、イボウミニナ、ヘナタリ、バイ、ユウシオガイ、イソシジミがあげられる。

ユウシオガイは 1959 年の羽田洲や 1971 年の幕張干潟、1973 年から 1975 年の小櫃川河口干潟（盤洲）ならびに富津干潟に生息しており、各地の干潟でしばしば普通種と言えるほど東京湾全域は当たり前に見られたようだ。しかしそれ以後の出現報告がまったくなくなり、東京湾では 1970 年代の大規模埋立てと同調的に急激に絶滅したと言えよう。

イボウミニナは 1955 年に船橋干潟、1985 年に小櫃川河口湿地と谷津干潟で生息報告がある。しかし、それ以後の出現情報はない。東京湾の干潟埋立て期以後、残存する干潟や塩生湿地で生き延びたものの個体群の再生産が続かず、現在は東京湾では絶滅したと判断される。

ヘナタリの生息報告は 1955 年船橋干潟、1973 年小櫃川河口干潟、1978-9 年の小櫃川河口干潟、1990 年ごろの江戸川放水路であり、1970 年代の小櫃川河口干潟では優占種のひとつでもあった。しかし 1996 年に小櫃川河口湿地での 1 個体の採集（福田，私信）以来、東京湾では見られない。したがって、本種も残存干潟での個体群再生産が継続されず、1980 年代に急激に減少し 2000 年までに東京湾から絶滅したと言えよう。

イソシジミは 1959 年の羽田洲で、1974 年の小櫃川河口干潟で生息が確認されたが、1987 年には記録されておらず、その後東京湾での出現は報告されていない。したがって本種は大規模埋立て期と同調的に湾内から絶滅したと言えよう。

バイは 1972 年に葛西沖で出現が報告されているのみである。本種は本来潮下帯に多く、干潟での生息は少ない。1980 年代には養老川河口沖での潜水での観察経験がある（風呂田，未発表）。しかし 1990 年代以降出現記録はなく、すでに絶滅した可能性が高い。

・減少が著しい種

ウミニナは 1955 年に船橋海岸での出現報告がある。1970 年代に葛西，谷津，小櫃川河口（盤洲）

の干潟での生息報告があるが、ホソウミニナとの区別が不明確である。しかし、1989年の小櫃川河口干潟での調査ではホソウミニナとともに豊富な生息が見られている。1985年では谷津干潟で普通に見られたが、1997年では危機的に少なくなっていた。また、江戸川放水路では1990年前後での生息記録がある。さらに1998年には富津干潟で採集され（古賀，私信），小櫃川河口干潟では近年少数の個体がしばしば見られている（風呂田，未発表）。今回の調査では本種は記録されなかった。湾奥の局所的な個体群は消失したものの，湾口部ではわずかに生残っていると言えよう。

ハマグリは1959年の羽田洲や葛西や1970年代初期の葛西，習志野市沖，幕張，小櫃川河口，富津など多くの干潟での生息が報告されていたが，以後生息記録がなく絶滅が危惧された。しかし，近年小櫃川河口干潟でしばしば採集されており（東邦大学理学部東京湾生態系研究センターウェブサイト），わずかながらも生き残っていると言えよう。

ムロミスナウミナナフシは1970年代では葛西沖干潟，小櫃川河口干潟でしばしば豊富な個体群が報告されている。しかし近年では小櫃川河口干潟で生息しているものの，その発見は稀である（風呂田，未発表）。

オキシジミ，ソトオリガイ，サビシラトリ，ヒメシラトリ，ウミゴマツボも同様に減少傾向にある。これら種は小櫃川河口干潟など湾口寄りの干潟での減少が著しく，現在の局所的個体群は湾奥の泥干潟に集中する傾向にある。

参考文献

- 秋山章男，1974. 底生動物. 葛西沖公園野鳥生息状況調査報告書，昭和48年度，日本野鳥の会・干潟研究会，pp.98-120.
- 秋山章男，1975a. 千葉県の干潟の環境と生物相. 日本生物教育会第30回全国大会（千葉大会）実行委員会・「千葉県の生物」編集部編，pp.172-180.
- 秋山章男，1975b. 底生動物. 葛西沖公園野鳥生息状況調査報告書，昭和49年度，日本野鳥の会，pp.43-83.
- 秋山章男，1976. 底生動物着生状況調査. 葛西沖公園野鳥生息状況調査報告書，昭和50年度，日本野鳥の会，pp.52-76.
- 秋山章男，1977. 葛西人工渚における底生動物着生状況調査. 葛西沖公園野鳥生息状況調査報告書，昭和51年度，日本野鳥の会，pp.3766.
- 秋山章男，1978. 葛西人工渚における底生動物着生状況調査. 葛西沖公園野鳥生息状況調査報告書，昭和52年度，日本野鳥の会，pp.61～80.

- 浅間 茂・鈴木克徳・海老根 巧(1983)谷津干潟の底生動物相. ほおじろ(10),7-10.
- Fukuda, H. , 1994. Estuarine mollusks of the Edogawa drain, central Honshu, Japan. Sci. Rep. Takao Mus. Hist., 16:1-14.
- 風呂田利夫, 1978. 新浜湖の底生動物と付着生物調査 (1977 年度). 千葉県行徳近郊緑地特別保全地区 (新浜水鳥保護区) 生物調査報告Ⅲ, 千葉県・新浜研究会, 37-66.
- 風呂田利夫, 1988. 横浜市沿岸の海岸動物相, 潮間帯の生物. 横浜の川と海の生物 (第 5 報), 横浜市 郊外対策局, pp.317-322.
- 風呂田利夫・山西良平・福田 宏・森野 浩, 1996. 東京湾奥部三番瀬北西域におけるマクロベントス相と分布特性. 千葉生物誌, 46:1-7.
- 風呂田利夫・鈴木嘉平, 1999. 東京湾奥部谷津干潟の 1986-87 年冬期における底質環境ならびにマクロベントスの生息状況と垂直分布. 日本ベントス学会誌, 54:36-43.
- 干潟研究会, 1973. 葛西周辺干潟の生態学的研究, 1972 年における生物と環境の現状, 125pp. (底生動物は秋山章男の調査による)
- 干潟研究会, 1975. 開発の干潟に及ぼす影響に関する研究Ⅱ, 98pp. (底生動物は秋山章男の調査による)
- 飯島明子・木下今日子・中山聖子・安達宏之・風呂田利夫, 2004. 三番瀬の干潟におけるマクロベントス分布調査方法の比較. 千葉生物誌, 53 : 21-27.
- 飯島明子・黒住耐二・風呂田利夫, 2002. 東京湾人工潟湖干潟に形成された絶滅危惧種の干潟産腹足類カワアイ *Cerithidea djadjariensis* (Martin) (軟体動物門, 腹足綱) の個体群. 日本ベントス学会誌, 57:34-37.
- 碓 京子・安部恭治・伊豆永 巧・松永章宏, 1996. 東京湾奥部船橋人工海浜におけるマクロベントス群集. 千葉生物誌, 45:7-11.
- 稲葉 享, 1955. ‘吸い上げ’の貝類. 千葉生物学会報, 5:6-7.
- 井徳有紀子, 1998. 人工潟湖内の干潟におけるマクロベントスの生息状況. 1997 年度東邦大学理学部生物学科特別問題研究 (卒業論文), 22pp.
- 環境省・千葉県・習志野市, 1996. 谷津干潟環境調査報告書, 179pp.
- 国土交通省港湾局・環境省自然環境局, 2004. 『干潟ネットワークの再生に向けて, 東京湾の干潟等の生態系再生研究会報告書』.
- 榎本輝樹, 2002. 東京湾最奥部江戸川放水路干潟のマクロベントス群集と群集に与える青潮ならびに淡水放流の影響. 東邦大学大学院理学研究科修士論文, 35pp.
- 森田昌之, 1986. 東京湾ならびにその周辺に産する潮間帯腹足類ウミナ属 (*Batillaria*) の比較生

- 物学的研究. 1985 年度東邦大学理学部生物学科特別問題研究 (卒業論文).
- 村田靖彦, 1975. 海域の調査. 千葉県臨海開発等に係る動植物影響調査Ⅱ, 千葉県環境部環調整課, pp.112-122.
- 村田靖彦, 1976. 海域の調査. 千葉県臨海開発等に係る動植物影響調査Ⅲ, 千葉県環境部環調整課, pp.207-233.
- 村田靖彦, 1978a. 海域の調査. 千葉県臨海開発等に係る動植物影響調査Ⅳ, 千葉県環境部環調整課, pp.82-88.
- 村田靖彦, 1978b. 海域生態系の影響調査. 千葉県臨海開発等に係る動植物影響調査 (1973-1977), 千葉県環境部環調整課, pp.113-125.
- 日本鳥類保護連盟・環境庁, 1973. 干潟鳥類保護対策調査報告書. 64pp.
- 西野洋一・臼井 陽・堀越増興, 1974. 東京湾奥部の干潟における底生動物の分布と生物量. 文部省特定研究・人間の生存と自然環境, 内湾生物と汚濁, 53-56.
- 大嶋 剛・風呂田利夫, 1980. 小櫃川河口干潟周辺における底生動物の分布. 千葉県木更津市小櫃川河口干潟の生態学的研究Ⅰ, 東邦大学理学部海洋生物研究室・千葉県生物学会 (共編), pp.45-68.
- 東邦大学理学部東京湾生態系研究センターウェブサイト
<http://marine1.bio.sci.toho-u.ac.jp/tokyobay/index-j.html>
- 東京都水産試験場, 1960. 東京都水産試験場調査研究要報 20. 東水試出版物通刊 No.129,80pp.
- 海をつくる会 (編), 1995. 「横浜・野島の海と生き物たち」. 八月書店, 東京.
- 山本 哲, 1972. 東京湾奥部干潟についての生態学的予察. 昭和 46 年度東邦大学理学部生物学科特別問題研究, 40pp.

房総半島太平洋岸

風呂田利夫

現況

房総半島太平洋岸では、九十九里浜と隣接する砂浜海岸の河口部において、海浜砂丘の形成より砂浜後背に潟湖の発達が見られる。今回調査した一宮川と夷隅川の河口には干潟を伴う潟湖がある。一宮川河口の潟湖ならびに河岸はすでに護岸化されている。一方、夷隅川河口の潟湖の一部に護岸を伴わない干潟がある。両河口部の干潟での出現生物を比較すると、腹足類では 2 カ所で共通していたのがヒラドカワザンショウで、カワザンショウガイは夷隅川のみ、クリイロカワザンショウは一宮川のみで確認された。また、調査範囲外であるが夷隅川ではイシマキも観察された。二枚貝相は貧弱でイソシジミとソトオリガイは両地点で発見されたが、アサリと *Corbicula* 属の 1 種は夷隅川のみでわずかな生息が見られ、サビシラトリは一宮川のみで見られた。多毛類ではカワゴカイの 1 種が共通して出現し、オトヒメゴカイ科の 1 種、イトメ、シダレイトゴカイと *Heteromastus* sp.、ケヤリムシ科の 1 種は一宮川のみで見られた。甲殻類では、ニホンスナモグリ、ヨコヤアナジャコ、ケフサイソガニ、アシハラガニ、コメツキガニ、チゴガニ、ヤマトオサガニが共通してみられ、ヨコヤアナジャコに寄生するエビヤドリムシ科の 1 種、エビジャコの 1 種、クロベンケイガニは一宮川のみ、ニホンドロソコエビ、アカテガニ、カクベンケイガニ、スナガニ、オサガニは夷隅川のみで観察された。

過去における底生動物分布状況

日本鳥類保護連盟・環境庁(1973)は 1972 年に秋山らによる調査で、一宮川潟湖干潟にはコメツキガニ、ヤマトオサガニ、アシハラガニが豊富に生息し、ニホンドロソコエビ、イソシジミ、カワザンショウガイ、ヘナタリ、ヤマトシジミの生息を報告している。その後、干潟研究会(1975)と秋山(1975a)は 1974 年では、ホトトギス、ソトオリ、ガンマルス類、ウミナナフシ、チゴガニ、ヤマトオサガニ、ゴカイ類が優占し、生息種としてさらにケフサイソガニ、イソガニ、ベンケイガニ、イシマキ、ミズゴマツボが生息していたことを報告している。また秋山(1976)は高潮域から干潮線に向かってヒメハマトビムシ、ヒメスナホリムシ、コメツキガニ、ゴカイ類、アサリ、イソシジミ、チゴガニ、キャピテラ類、ホトトギス、ガンマルス類、ヤマトオサガニ、スナモグリ類の分布状況を報告している。1991 年に現地調査が行われた環境庁の第 4 回自然環境保全基礎調査干潟・藻場調

査（千葉県）では、一宮川河口ではイソシジミが多く、ホトトギス、アサリ、サビシラトリ、ヒメシラトリ、ソトオリガイ、オオノガイ、イソシジミ、ヤマトオサガニ、アシハラガニ、ベンケイガニ、モクズガニ、コメツキガニ、チゴガニ、アナジャコ類、ニホンドロソコエビ、*Notomastus* sp.の生息が報告されている（環境庁自然保護局，1994）。

夷隅川河口潟湖干潟の底生動物相として秋山(1975b)はフツウゴカイ、ヤマトオサガニ、チゴガニが優占し、コメツキガニ、カワザンショウガイ、ヘナタリ、イソシジミ、ヤマトシジミの生息を報告している。環境庁自然保護局（1994）では、ホトトギス、アサリ、ソトオリガイ、オオノガイ、カワザンショウガイ、ヤマトオサガニ、コメツキガニ、チゴガニ、アナジャコ類、ニホンドロソコエビ、ゴカイ (*Neanthes japonica*)、*Notomastus* sp.が生息し、そのうちヤマトオサガニ、ゴカイ、*Notomastus* sp.が多かった。これらと比較して今回の調査ではまた夷隅川河口ではヘナタリとオオノガイの生息は確認されなかった。

ここでウミナナフシはムロミスナウミナナフシに、ミズゴマツボはウミゴマツボに相当する（秋山，私信）。これら2種とヘナタリは環境庁自然保護局（1994）の1991年の現地調査ならびに今回の調査では生息が見られず、1990年ごろまでには九十九里周辺海岸からすでに絶滅していた可能性が高い。

参考文献

秋山章男，1975．千葉県の干潟の環境と生物相．日本生物教育会第30回全国大会（千葉大会）実行委員会・「千葉県の生物」編集部編，pp. 172-180.

秋山章男，1976．底生動物着生状況調査．葛西沖公園野鳥生息状況調査報告書，昭和50年度，日本野鳥の会，pp. 52～76.

干潟研究会，1975．開発の干潟に及ぼす影響に関する研究Ⅱ，98pp.

（底生動物は秋山章夫の調査による）

環境庁自然保護局，1994．第4回自然環境保全基礎調査海域生物環境調査報告書

（干潟生物調査 http://www.biodic.go.jp/reports/4-other_questionnaire/tidal/12tiba/12040000.html）

日本鳥類保護連盟・環境庁，1973．干潟鳥類保護対策調査報告書．64pp.

三浦半島・相模湾

風呂田利夫

現況

相模湾沿岸は西に伊豆半島，東に三浦半島の岩礁海岸に挟まれ，中央部は砂浜が連続する開放的な海岸が広がる．砂浜域での干潟は相模川河口内に限られている．また岩礁海岸では三浦半島の小網代湾と江奈湾の奥部に入江干潟が存在する．

1980年代まで，相模川の開口部には周囲の砂浜と連続する砂嘴で狭められ，河口内に小規模な干潟があった．干潟研究会（1975）による1970年代の調査では砂嘴は浜の前縁に沿って形成され，その奥に約5ヘクタールの干潟が存在した．しかし，現在では砂嘴の河口内上流への後退により干潟域はほとんどなくなった．そのため底生動物は極めて貧弱で，カワゴカイ類，*Notomastus* sp.，タマシキゴカイの生息が確認されただけで，河口干潟の生物群集は壊滅的な状況にあると言える．また周辺草地や転石地ではイシマキ，フナムシ，ケフサイソガニ，アシハラガニ，アカテガニ，クロベンケイガニの生息が確認された．

小網代湾はリアス形状の小湾であり，奥部にはヨシ，アイアシ，シオクグなどが生育する塩水湿地を伴う入り江干潟が存在する．流入河川流域を含め，自然の地形と植生が保全されており，干潟を含む流域全体で自然的環境が良好である．干潟面の全体でホソウミニナ，一部でコケゴカイ，コメツキガニ，チゴガニが多い．またテナガツノヤドカリの生息も確認された．しかし，今回の調査では干潟性二枚貝類のアサリ，バカガイ，シオフキは確認されなかった．河口部の塩水湿地ではクリイロカワザンショウ，アカテガニ，チゴガニが多かった．

江名湾は三浦半島の浦賀水道に開けた砂泥底の入江干潟である．最奥部の河川開口部にはヨシ群落の塩生湿地が発達している．群落内にはアシハラガニやアカテガニが多く，干潟面ではホソウミニナ，ヤマトオサガニ，チゴガニが，底質内ではコケゴカイやミズヒキゴカイが多かった．

過去における底生動物分布状況

相模川河口部では1974年の調査で，約5haの干潟においてホトトギス，ヒメシラトリ，オオノガイ，ソトオリガイが豊富に生息し，ヤマトオサガニ，オサガニ，アリアケモドキ，ゴカイ類，イトゴカイ類の生息が報告されている（干潟研究会，1975）．

小網代湾では，岸ほか（1994）はコアマモが生育し，イボウミニナ，ヘナタリ，ハマガニ，ムツ

ハアリアケガニなどの希少種の生息を，また和田ら（1996）ではウミニナ，カハタレカワザンショウ，クリイロカワザンショウ，ツブカワザンショウの生息と同時に，当時シオヤガイ，ユウシオガイ，イボキサゴはすでに絶滅したと報告している．

江名湾の底生動物の群集情報は得られていない．1999年にハクセンシオマネキの採集記録があるが（工藤，2000），一過的なものでその後の出現は報告されていない．

参考文献

干潟研究会，1975．開発の干潟に及ぼす影響に関する研究Ⅱ，98pp．（底生動物は秋山章男の調査による）

岸 由二・深田晋一・柳瀬博一・丸 武志・入江清次・小倉雅実・宮本美織・辻 功・田村敏夫・齊藤秀生・長岡治子・大森雄治・小崎昭則・小川淑子・富山清升，1994．小網代の生物相（中間集計）．慶応義塾大学日吉紀要，15:99-116．

工藤孝浩・山田陽治，2000．三浦半島、江奈湾干潟におけるハクセンシオマネキの出現．神奈川自然誌資料(21)，69-72．

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF Japanサイエンスレポート，3: 1-182．

小笠原諸島

飯島明子

小笠原諸島は東京の南南東約 1000km に位置する亜熱帯性気候の群島である。過去一度も他の陸地と繋がったことのない海洋島であり、陸上生物には固有種が多い。小笠原諸島には多くの島が含まれるが、その中で干潟が存在するのは最も大きな父島のみである。

父島の東側には切り立った斜面・断崖が多く、西側は傾斜がゆるやかで、干潟は西側にのみ見られる。最も大きな干潟は、島の北西部に位置する最大の湾、二見湾の最奥部に位置する。ここには源流から海岸まで 500m ほどの小河川、奥村川と清瀬川が流れ込んでいる。また、南西部の小港海岸には、標高 217m の時雨山に源を発する流程約 2km の八瀬川が流れ込むが、調査時には河口部は閉塞しており、河口干潟に相当する部分は淡水化していた。小港海岸の南に位置するブタ海岸にも、流程約 1.5km の河川が流れ込んでいたが、河口は閉塞していた。このため調査は二見湾奥の干潟でのみ行った。

二見湾には東京からの大型定期船の港があり、その周辺は父島の中で最も人口が集中している。二見湾奥部の干潟は 1965 年以降、住宅地を拡張するためほとんど埋め立てられ、現在残っている干潟は奥村川と清瀬川の河口（埋立地間の水路）岸の部分のみであった。

この干潟の底生動物相は、非常に種数が少ないことと、少数の種の個体密度が高いことで特徴づけられる。小笠原の岩礁潮間帯での研究例でも、同じ亜熱帯の沖縄に比べて多様度が低いという報告がある (Asakura et al., 1990, Asakura et al., 1991)。他の陸地との間に広い海域が存在し、黒潮本流からも遠く離れているために、他地域からの幼生供給が少ないことが、小笠原の潮間帯での種数を少なくしているのかもしれない。また二見湾の干潟の場合では、埋立による干潟面積の減少も、種数を減らしている可能性がある。

出現種のほとんどは、沖縄と共通する亜熱帯性の種であった。今回九州以北と小笠原でのみ見られたムツハアリアケガニも、沖縄からの報告があった。しかし小笠原でのみ出現したミューラータテホシムシは、過去には相模湾と種子島から報告され、ヒライソモドキは相模湾と小笠原から報告されており、両者共に沖縄からの報告例はない。関東の南で分岐する黒潮の支流が、小笠原にも影響を与えているため、九州以北の種が小笠原に到達することがあるのかもしれない。

また、二見湾奥の干潟では、二枚貝の古い殻が底質中に残存していたものの、生きている二枚貝は全く採集できなかった。

小笠原諸島の干潟における底生動物全般の生態調査の報告は過去にないが、腹足類については

Fukuda(1993, 1994, 1995)により詳細な目録が作成されている。それによれば、奥村川または清瀬川の感潮域で、*Lunella* sp., フネアマガイ, ハナガスミカノコ, カバクチカノコ, イガカノコが1度だけ採集されたが、その後は全く採集されていない。他にも、採集記録はあってもその後全く採集されなかった種としては、例えばコオロギヤカワアイ, マダラヒラシイノミガイなどが挙げられる (Iwakawa, 1919)。これらの種は偶発的に幼生が流れ着いて着底・成長したものの、小笠原で世代を重ねることができなかつたと考えられる。福田 (1995) によれば、こうした「不安定性」が小笠原の貝類相を特徴づけるという。

腹足類以外の分類群では、今島 (1970) がカニ類について触れている。奥村の川べりにベニシオマネキが生息していたとのことであり、これは今回の調査結果と同じであった。しかし、同じ奥村の干潟にカクレイワガニが、また地点は限定されていないもののクロベンケイガニもいたとのことだが、この2種は今回出現しなかつた。

参考文献

- Asakura, A., Y. Kondo, W. Sato-Okoshi and M. Miyata, 1990. Distribution patterns of animals and plants on the rocky shores of Hahajima in the Ogasawara Islands. *Natural History Research*, No. 1, pp. 65-80. Natural History Museum and Institute, Chiba.
- Asakura, A., Y. Kondo and S. Nishihama, 1991. Distribution patterns of animals on the rocky shores of Chichijima in the Ogasawara Islands. *Natural History Research*, Vol.1, No.2, pp. 23-40. Natural History Museum and Institute, Chiba.
- Fukuda, H., 1993. Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands.
Part 1: Archaeopastropoda and Neotaenioglossa. *Ogasawara Research*, 19, pp. 1-86. Tokyo Metropolitan University.
- Fukuda, H., 1994. Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands.
Part 2: Neogastropoda, Heterobranchia and fossil species, with faunal accounts. *Ogasawara Research*, 20, pp. 1-126. Tokyo Metropolitan University.
- Fukuda, H., 1995. Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands.
Part 3: Additional records. *Ogasawara Research*, 21, pp. 1-142. Tokyo Metropolitan University.
- 今島 実, 1970. 海中生物. In: 小笠原の自然 - 解説編 -, pp.179-196 .
津山 尚, 浅海重夫編著, 廣川書店 (東京)、272p.
- Iwakawa, T., 1919. Catalogue of Japanese Mollusca in the Natural History Department, Tokyo Imperial Museum. 4+4+8+318+6+96+40pp. Tokyo Imperial Museum, Tokyo.

日本海沿岸域

日本海沿岸は干満差が小さいため、ほとんど干潟の発達は見られない。しかしながら北部（十三湖）、中部（能登半島七尾湾）、西部（油谷湾、中海、宍道湖）では小面積ながら砂～泥海岸が干出し、ヨシ原の発達する場所もあるので、調査を行った。

日本海北部（十三湖）

鈴木孝男

岩木川の河口部に発達した十三湖には大小の河川が流入しており、汽水域となっている。流入河川のうち、大きなものとしては岩木川と山田川があり、河岸一帯は広大なヨシ原となっている。十三湖の干満差は極めて小さく、また、潟の周囲は護岸されているところが多いため、干潟は存在しないに等しい。岸辺の遠浅の水域ではシジミ漁が盛んであり、観光シジミ採りも盛んである。潟の水深は風向きや波浪の影響を受けるように考えられる。

調査は浅海域の水深 45cm 以浅のところで行った。底土は砂質で酸化的であり、ヤマトシジミが多く棲息しているが、他の二枚貝は出現しなかった。他に優占していたのは多毛類のカワゴカイ、イトメ、イトゴカイ類 (*Notomastus* sp.) など少数であり、底生動物相は貧弱である（出現種合計で 16 種のみ）。岸辺のヨシ原においてアカテガニとクロベンケイガニが少数認められたが、これまでアカテガニは関東以南、クロベンケイガニは岩手県以南が分布域とされていたことから（和田ら、1996）、両種の分布は北限に相当するものと思われる。また、青森県史編さん自然部会（2003）には、アシハラガニが十三湖に棲息しているということが記されているが、今回の調査では生息の確認はできなかった。

参考文献

青森県史編さん自然部会編，2003．青森県史・自然編・生物．青森県，804p.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF Japan サイエンスレポート，3: 1-182.

日本海中部（七尾湾）

風呂田利夫

日本海は干満差が小さいため規模の大きい干潟が発達する地理的条件にない。しかし、七尾湾は富山湾の二次湾として閉鎖的な内湾であり、その中に大小さまざまな入江があり、河口部では土砂の堆積による小規模な干潟あるいはそれに類似した砂泥海岸が存在できる。今回の調査に先行し2000年に実施した七尾湾の踏査によるウミニナ類の生息調査では、七尾湾の海岸部は岩礁域をのぞいて汀線部や河口部は農業用地、港湾、市街地としてほぼ全域で護岸化されており、干潟に類似した砂泥からなる潮間帯や極浅い海岸部は、今回の調査地とした穴水町の住吉川河口部のみであった（風呂田、未発表）。ここの汀線部は転石や砂利そして泥からなり、上部にはヨシなどの植生帯も存在する。植生中にはキタフナムシ、アカテガニ、クロベンケイガニ、アシハラガニが生息し、潮間帯となる砂泥底にはウミニナ、アラムシロ、その他希少な巻貝、ユビナガホンヤドカリ、ヨコヤアナジャコなど干潟性のベントスの生息が確認された。2000年の踏査調査では、七尾湾を含む能登半島周辺では、散在的ながら各地でウミニナとホソウミニナ、及び希少な巻貝の1種*の生息が確認されている。七尾湾沿岸は地形が極めて複雑で、詳細な調査を実施すれば、住吉川河口と類似した環境のもとで干潟性の底生動物が生息可能な海岸が存在する可能性はある。そして七尾湾の干潟性生物の生息は、今回の調査地のような極小規模な干潟環境の存在のもとで維持されている可能生が高く、本調査地の存在価値は高い。

なお、七尾湾ならびに能登半島周辺における干潟性底生動物の生息に関する既存の調査報告を得ることはできなかった。

日本海西部（油谷湾，中海，宍道湖）

伊谷 行

調査地点は、油谷湾，中海，宍道湖である。

中海，宍道湖は干満の差がほとんどないため、干潟ではない。この2地点の生物群集については、水産業のため、汽水湖研究のため、淡水湖化事業のために数多くの調査がなされてきた。それらの調査結果の文献については、相崎（2000）にまとめられているので、参照願いたい。今回の調査では、産地の限定されているミズゴマツボが宍道湖で採集されたことが注目される。

一方、油谷湾は、豊浦の室津海水浴場に流入する黒井川河口とともに、中国地方の日本海側にある数少ない干潟である。今回の調査地点は油谷湾西端の阿川海水浴場と赤崎川河口であったが、過去に記録されていた（福田ほか、1990、1992）キサガイ、オキヒラシイノミガイなどの貝類は発見されなかった。また、環境庁（1994）では湾の東部（奥部）での調査記録があり、希少な巻貝の1

種*などが生息する日本海側としては数少ない干潟である。今回、集計リストには間に合わなかったが、油谷湾東部の伊上でも調査が行われ、フトヘナタリ、ヨシダカワザンショウ、希少な巻貝複数種*、ウモレベンケイなどが採集されている。

日韓共同干潟調査団ハマグリプロジェクトチーム（2004）によれば、油谷湾には在来のハマグリが分布するとされる。油谷湾全域を視野に入れた干潟調査を行い、保全活動を立案するべきかもしれない。

参考文献

相崎守弘，2000．中海・宍道湖文献目録．LAGUNA（汽水域研究），7: 85-105．

福田 宏・土田英治・堀 成夫・鹿野康裕・三時輝久，1990．山口県産貝類の研究-1

河本コレクションにおける注目すべき貝類の再検討 (1) 腹足類．山口県立山口博物館研究報告
16: 1-46．

福田 宏・増野和幸・杉村智幸，1992．概説山口県の貝類．山口県立山口博物館、山口．

環境庁自然保護局，1994．第4回自然環境保全基礎調査海域／生物環境調査報告書．

日韓共同干潟調査団ハマグリプロジェクトチーム，2004．沈黙の干潟-ハマグリを通してみるアジアの海と食の未来，高木基金助成報告集，1: 85-91．

浜名湖（いかり瀬干潟）

西川輝昭・木村妙子

静岡県南西端付近に位置する浜名湖は、全国第 10 位の総面積（約 68 km²）をもつ大きな湖で、本湖を中心に 4 つの付属湖を持ち、その湖岸線の輪郭は手を開いたように複雑に入り組んでいる。湖にはいくつかの河川が流入する一方、南端の今切口（幅約 200m）という短い水路で遠州灘（太平洋）に開き、干満にともなって海水が出入りする。この水路の護岸・浚渫工事（1973 年完了）により、海水が湾奥部まで大量に流入する結果、湖全体が高い塩分濃度になるので、汽水湖というより塩水湖とされることが多い。ただし、付属湖は閉鎖的な地形のため河川水の影響が大きく、特に降雨時にはかなりの塩分低下が見られる（松田，1982；木村・関口，1996）。

浜名湖は漁業が盛んで、近年の年間漁獲高 2900～3800 t のアサリをはじめ、スズキ、ボラ類、クロダイ、マハゼ、カレイ類などが漁獲されている（小泉，2004, 2005, 2006）。ウナギ、カキ、ノリの養殖は長い歴史をもち、クルマエビなどの栽培漁業も行われている。シラスウナギの産地でもある。なお、浜名湖の美味な特産物として有名な熱帯系の「ノコギリガザミ」（地元でドウマンガニなどとも呼称）には、北限の日本列島において 3 種が含まれていることが近年判明した。浜名湖にはトゲノコギリガザミが多く、アミメノコギリガザミやアカテノコギリガザミは少ない（山川・鈴木，1985；大城・今井，2003）。

浜名湖では湖岸線に沿って干潟が見られ、特に湖南部ではよく発達する。今切口から入ってすぐのところの位置するいかり（錨）瀬は東西に細長い楕円形で、長径約 1km である。その周辺に広がる「いかり瀬干潟」の南東岸（地点 A）と北東岸（地点 B）を 2002 年 5 月 12 日に調査した。

いかり瀬干潟は地形的に見て外洋水の影響を直接に受けていることが明らかである。事実、いかり瀬付近の塩分濃度は、季節や潮汐周期に関わらず常に 30‰ 以上を示している（松田，1982）。水温については、干潟の南岸で 2004 年に測定されたデータによると、最低約 7℃（2 月）、最高約 30℃（8 月）となっている（松浦・和久田，2006）。本干潟はかつて観光用潮干狩り場となり、渡船が対岸の弁天島から出ていたが、2002 年調査時にはアサリの不漁により廃止されていた。

浜名湖の底生動物相についての報告は多いが（Sanukida et al., 1985; Kajihara et al., 1976; Anil et al., 1990; 岡本，1995; 木村・関口，1996），いかり瀬干潟を特定した生物相調査の報告はほとんどない。確認できる最古の記録は静岡県水産試験所（1913）で、「今切水面」にハマグリ、アサリ、シオフキが豊産することが報告されている。また、小栗（1930, 1932）は、「弁天島を中心とした干潟」において、これらの貝類に加えて、イソシジミ、シラトリガイ、ユウシオガイ、ムラサキガイ、カニモリガイなどの生息を確認している。なお、これら 1910 年代～30 年代の記録から判断すると、いかり瀬干潟にアゲマキが生息していた可能性が高い（下記参照）。時代は下り、浜松市立高校生物クラ

ブ(1983)は、1977～81年に浜名湖全域の潮間帯の底生動物を調査し、いかり瀬周辺では7動物門51種の底生動物を確認した。木村(1995)はこれまでの浜名湖の底生動物調査について総括し、いかり瀬を含む弁天島周辺の動物相が豊富であること、そして、湖北部の干潟のそれとかなり構成が異なることを示した。その後、1994年6月に今回と同じ地点で実施した野外調査の結果が西川(1996)によってまとめられた。以下、西川(1996)と今回の調査の比較を中心に述べる。

いかり瀬干潟の底質は砂質で、泥分は少ない。還元層は、1994年調査時には北浜(湖側)の方が南浜(外洋側)よりもはるかによく発達していたが、今回(2002年)には逆転していた。すなわち、北浜は表層10～30cm以深で還元層が見られたが、南浜ではそれがわずか3cm以深となっていた。アマモとコアマモが潮下帯に比較的高密度で繁茂しており、北浜では潮間帯下部にも出現する。市民団体が近年、北浜アマモ場の観察会を夏に催している。

今回出現した種は動物56種(他に死骸だけが発見されたもの4種)と植物4種に達し、中部東海地方の干潟のなかで伊川津干潟に次ぐ種数である。しかし、本干潟は伊川津のようにアシ原などの塩性湿地植生が付随的に発達しないことから、干潟本体の生物相としては最高の種多様性を示すものと考えられる。今回の調査の結果、特に種類数が多かったのは、軟体動物門の腹足類と二枚貝類、節足動物門の十脚類、環形動物門の多毛類であった。その他に紐形動物、触手動物、星口動物、ユムシ動物、半索動物、棘皮動物など多様な生物群が確認された。

とくに、スジホシムシとそれに着生するスジホシムシヤドリガイ、ミドリユムシ、ツバサゴカイ(棲管)、および、枠外ではあるがワダツミギボシムシがそれぞれ今回初めて、それも南浜(外洋側)に限って出現したことは注目される。また、浜名湖南部にかつては多産したものの前回調査では認められなかったハマグリが、今回北岸からわずかではあるが発見されたことも重要である。補完調査(2002年5月28日)では、南岸でキヌタアゲマキやミドリシャミセンガイも発見された。さらに、ナメクジウオが浜名湖から初めて、2005年7月22日に木村昭一によって干潟南岸で発見された(木村昭一、未発表)。

前述のように、前回(1994年調査)と今回とでは、底質還元層の発達程度が逆転していたが、あたかもそれに対応するように、出現場所が逆転した種は以下のとおりである：ケフサイソガニ(南→北)、コメツキガニ(同)、スゴカイイソメ(同)、コケゴカイ(北→南)、ミサキギボシムシ(同)。前回、北浜にも南浜にも同密度で発見されたチロリ、チリメンイトゴカイ、ホソウミニナのうち、ホソウミニナは今回も同様な出現様式を呈した(他の2種については今回確認されなかったが、前回の種同定に問題がある可能性もある)。逆に、イボキサゴは前回南浜のみで見られたが、今回は両方において高密度に出現した。スジホシムシモドキは前回南浜のみで発見され、それは今回も同様であったが、密度ははるかに増加していた。他方、前は北浜のみで「普通」に発見されたヤマトオサガニが今回はまったく認められなかった。ニホンスナモグリ(前回のデータには、今回初めて

記録されたハルマンズナモグリが混在していた可能性がある)は、前回北浜でのみ「普通」に認められたが、今回の調査結果によると南浜にも進出しているようでもある(生息密度は低下の様相)。イソジミヤソトオリガイは前回も今回も変わらず、北浜のみに出現している。

この水域を対象としたレッドデータブックには、全国の干潟の全底生生物を対象とした和田ら(1996)があり、これに挙げられている種をここではレッドデータブック対象種(RDB種)とする。今回生息が確認されたRDB種の中で「危険」とされたイボキサゴは本調査地では優占種となっている。本種は中部地区の調査ではここだけで生息が確認された。その他に「危険」あるいはそれに準じる種として同書に挙げられている生物のうち、コアマモ、ヘナタリ、カノコキセワタ、ハボウキガイ、ユウシオガイ、ハマグリ、ソトオリガイ、スジホシムシモドキ、ミサキギボシムシ、ワダツミギボシムシが今回本干潟で発見された。なお、「絶滅寸前」とされているムラサキガイは、本干潟では前述のように1930年代までは生息しており、今回の調査で新鮮な死殻が確認されたことから、個体群が現存している可能性が高い。一方、同じく1930年代まで生息した可能性が高く(上記参照)、和田ら(1996)が「危険」としているアゲマキは、今回も1994年調査と同様、確認されなかった。

今回の調査では移入種は確認されなかった。ただし、1996年にこの干潟でサキグロタマツメタが採集されている(木村、未発表)。

最後に、底生動物調査ではヒモムシ類がかなりの頻度で出現するが、採集後にはバラバラに断片化し、正確な同定は望めない状況であった。そこで2003年夏に、本動物群分類の専門家に、いかり瀬の紐形動物相が解明できるような採集方法を試みていただいた。その結果判明したことは、本干潟には少なくとも以下の6種が生息していたことである(Kajihara, 2006など);古紐虫類では *Callinera nishikawai* Kajihara, 2006, *Carinina plecta* Kajihara, 2006, *Hubrechtella ijimai* (Takakura, 1922), *H. kimuraorum* Kajihara, 2006, 異紐虫類では *Lineopsis* sp.とナミヒモムシ *Cerebratulus communis* Takakura, 1898. このうち、命名者がKajiharaとなっている3種は本干潟がタイプ産地であり、本干潟に動物分類学上の意義が加わることを意味している。

参考文献

- Anil, A.C., Chiba, K. and Okamoto K., 1990. Macrofouling community structure and ecology of barnacles in Hamana Bay (Japan). *Biofouling*, 2: 137-150.
- 浜松市立高校生物クラブ, 1983. 浜名湖における潮間帯の動物—ホトトギスガイとコウロエンカワヒバリガイ—. 151pp. (私家版)

- Kajihara, H. , 2006. Four palaeonemerteans (Nemertea: Anopla) from a tidal flat in middle Honshu, Japan. *Zootaxa*, 1163: 1-47.
- Kajihara, T., Hirano, R and Chiba, K., 1976. Marine fouling animals in the bay of Hamanako, Japan. *The Veliger*, 18: 361-366.
- 木村妙子, 1995. 浜名湖の底生動物群集, 水産海洋研究, 59 : 179 ~ 183.
- 木村妙子・関口秀夫, 1996. 猪鼻湖の底生動物相と環境. 豊橋市自然史博研報, 6 : 5 ~ 10.
- 小泉康二, 2004. 平成 15 年の浜名湖漁獲統計. はまな, 506 : 6 ~ 8.
- 小泉康二, 2005. 平成 16 年の浜名湖漁獲統計. はまな, 509 : 7 ~ 9.
- 小泉康二. 2006. 平成 17 年の浜名湖漁獲統計. はまな, 513 : 7 ~ 9.
- 松田義弘, 1982. 浜名湖の海水交換 (I) 塩分輸送形態と地理的環境. 東海大学紀要海洋学部, 15 : 1 ~ 16.
- 松浦玲子・和久田昌勇, 2006. 浜名湖定地観測. 平成 16 年度静岡県水産試験場事業報告, 173 p .
- 西川輝昭, 1996. 浜名湖いかり瀬. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 91 ~ 92.
- 小栗源市, 1930. 浜名湖の貝類. 天覧を賜りたる浜名湖を中心としての博物学的研究. 12p.
- 小栗源市, 1932. 浜名湖の生物相について. 郷土教育. 22: 43 ~ 50.
- 岡本 研, 1995. 浜名湖庄内湖の付着生物相の最近 15 年間の変化. 付着生物研究, 11: 1-8.
- 大城信弘・今井秀行, 2003. ワタリガニ科 Portunidae. In: 琉球列島の陸水生物 (西田睦・鹿谷法一・諸喜田茂充編著) , pp. 262-265.
- Sanukida, S., Okamoto, H. and Hitomi, M., 1995. Bottom environments causing the extinction of macrobenthic fauna in the stagnant period in the Lake Hamana on the Pacific coast of central Japan. *Bull. Sci. Fish.*, 51: 1407-1417.
- 静岡県水産試験所, 1913. 浜名湖調査報告 11 水族. 静岡県水産試験所報告、19 ~ 32.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.
- 山川紘・鈴木克美 , 1985. ノコギリガザミー三タイプの謎. In: 日本の海洋生物 侵略と攪乱の生態学 (沖山宗雄・鈴木克美編) , pp. 110-117.

伊勢湾・三河湾

木村妙子・西川輝昭

伊勢湾・三河湾は日本の中央に位置し、両湾あわせて海岸線延長 660km、水域面積 2342km² の規模を持つ国内最大の内湾である。伊勢湾の面積は 1738km²、三河湾はその半分以下の 604km² である。両湾の湾口部は融合し、太平洋に注いでいる。両湾の海岸線は、湾奥部の都市部周辺に人工護岸が集中し、湾口部に行くに従って半自然海岸、自然海岸の占める割合が多くなっている（三重県, 2000）。大阪湾、東京湾に比べると人工海岸の割合は低く、本州太平洋岸の内湾の本来の姿を現在も残している海域として貴重である。また、両湾は干潟特有の産業であるアサリやヤマトシジミ漁業において好漁場が多く、国内でトップクラスの産額を誇る。

しかしながら、1945 年から現在までに、主要河川の河口干潟を中心として、伊勢湾では干潟全体の 61 % (1786ha)、三河湾では 48 % (1260ha) が消失した（三重県, 2000）。特に両湾の奥部には大きな河川が集中し、それぞれの河口部にはかつて広大な干潟が存在していたが、名古屋市を中心とした都市部の港湾開発や農地造成でいずれも大規模な埋め立て等の激しい改変が行われた。藤前干潟は、伊勢湾奥部に残された最後の規模の大きな干潟である。シギ・チドリ類の中継地として国内的、国際的に重要であり、2002 年にラムサール条約に登録された。

今回の調査は、伊勢湾では湾奥部の庄内川・新川・日光川河口に位置する藤前干潟、木曾川・長良川・揖斐川のいわゆる木曾三川河口干潟、湾西岸の津市内にある安濃川と志登茂川の河口干潟、津市南部から松阪市に位置する雲出川、櫛田川、祓川の河口干潟で調査を行った。三河湾では湾北西部の矢作川河口干潟とその東にある前浜干潟の一色干潟、最奥部の汐川干潟、湾口部の河口干潟の伊川津干潟の合計 11 地点を調査した。

底質は一般に、河川堆積物からなる砂質ないし泥質で、還元層の発達が見られる地点が多かった。河川内の干潟の上流部や湾口部の干潟では礫が混じっていた。三河湾の汐川干潟と伊川津干潟、および、伊勢湾の櫛田川河口干潟と祓川河口干潟、田中川河口干潟（今回未調査）では、潮間帯からアシを中心とした塩性湿地植生、そして陸上植生へという漸進的移行が認められ、自然の状態がよく保存されている場所として特筆される。

生物相の概要と特徴

今回の調査の結果、いずれの調査地点にも紐形動物、軟体動物、環形動物、節足動物が確認され、中でも特に種類数が多かったのは、腹足類、二枚貝類、十脚類、多毛類であった。その他に海綿動

物、刺胞動物、扁形動物、星口動物、ユムシ動物、棘皮動物、尾索動物、脊椎動物など多様な生物群が確認された。

底生動物相を以下に概観する。河口干潟の潮間帯上部の砂質底にはコメツキガニ、泥底にはチゴガニが巣穴を作り、砂団子を作ったり、ディスプレイを繰り返している。広い干潟の底土表面にはウミニナやホソウミニナが多数這い回る。マガキ礁がある場合には、その間隙や周辺にケフサイソガニや、ウミニナ類の殻を利用するユビナガホンヤドカリが生息している。濃密なホトトギスのマット状集団が形成される場合には、底土が還元状態になりやすい。砂質の底土内にはアサリ、シオフキ、コケゴカイ、チロリゴカイ科の *Glycera macintoshi*、アナジャコ類、ヒモムシ類が多く、還元的环境にはオキシジミやオオノガイ、ミズヒキゴカイ、イトゴカイ類が生息する。河川水の影響が強い干潟では底土内にヤマトシジミ、ソトオリガイ、ゴカイ科の *Hediste diadroma* が多く、隣接するアシ原湿地では、クロベンケイガニ、アカテガニが巣穴を作り活発に活動している。アシ原内の底土表面では潮間帯上部から下部にかけて、フトヘナタリ、クリイロカワザンショウ、カワザンショウガイ、ヒロクチカノコが見られる。また、塩性湿地植生が保存された砂質干潟上部ではヒモイカリナマコやクチバガイが優占する。

この水域を対象としたレッドデータブックには、全国の干潟の全底生生物を対象とした和田ら（1996）、および地域の海産貝類を対象にした愛知県（2002）と名古屋市（2004）がある。これらのレッドデータブック中での対象種を以下 RDB 種と呼ぶ。今回生息が確認された主な RDB 種は以下の通りである。和田ら（1996）において、「本土で絶滅寸前」とされ、愛知県（2002）では「絶滅危惧Ⅱ類」とされたヒロクチカノコは、藤前干潟、木曾三川河口干潟のアシ原湿地内に多数確認された。同じ評価のワカウラツボは 2 ヶ所の干潟でわずかな個体の生息が確認された。その他、和田ら（1996）によって「希少」とされた種が 4 種、「危険」とされた種が 20 種、「現状不明」とされた種が 1 種、それぞれ確認され、調査地点のいずれにおいても RDB 種が複数種出現した。このうち和田ら（1996）によって、「危険」とされたウミニナ、オオノガイ、ソトオリガイは今回の調査では各地点に普通に出現し、伊勢湾、三河湾とも一般に生息密度も高かった。その他、出現地点は限定されるが生息密度の高かった種として、「危険」とされたカワグチツボ、ウミゴマツボ、ヘナタリ、カワアイ、オチバガイがある。伊勢湾・三河湾沿岸のアシ原湿地 20 カ所において、腹足類を定性的に調査した木村・木村（1999）によれば、潮間帯から陸上植生まで保存され、塩沼や干潮クリークなどの後背湿地のあるアシ原湿地が特に種多様性が高く、RDB 種も多い。このことは今回の調査結果にもあてはまり、伊勢湾の櫛田川、祓川河口干潟や三河湾の伊川津干潟のように、多様な環境が保存されたアシ原湿地内に、多数の RDB 種が確認された。なお、今回確認された RDB 種のうち、オカミミガイ、キヌカツギハマシイノミガイ、ワカウラツボ、ヒロクチカノコについては、本調査海域

が国内における分布の東限と考えられる。

今回の調査で出現した移入種のうち、タテジマフジツボは多くの調査地点で確認された。その他、藤前干潟や木曾三川ではコウロエンカワヒバリガイ、伊川津干潟ではムラサキイガイ、シマメノウフネガイが確認された。サキグロタマツメタは有明海では在来種として分布しているが、伊勢湾や三河湾の干潟で生息が確認されたのは、1990年代後半になってからである。したがって、現在生息している本海域の個体群は、近年、外国または有明海のアサリに混入して移入してきたものと考えられる。今回の調査では本種は伊勢湾岸の雲出川と櫛田川河口干潟で確認された。なお、三河湾の一色干潟と汐川干潟で確認されたヤミヨキセワタはRDB種であるが、移入種の疑いもある（福田、1996）。

以下に各調査地点を概観し、これまでの調査と今回の調査を比較する。

藤前干潟

藤前干潟は、伊勢湾奥の河川堆積物によって形成された広大な“あゆち潟”が埋め立られ、かろうじて残った122haの干潟である（西川、1996a）。1964年から名古屋市の廃棄物最終処分場としての埋め立て計画が進められてきたが、1970年頃から続いていた干潟保全運動により計画が縮小され、1999年に埋め立て中止という決定がなされた。これらの過程でアセスメント調査が繰り返し行われた。1994年から2001年までに行われた7回の全域の定量調査が行われ、133種の底生動物が確認されている。また、ウミゴマツボなど11種のRDB種が確認された（西川、1996a；名古屋市、1996；テクノ中部、2003）。1994年の調査ではゴカイ、ホトトギス、ニホンドロソコエビが優占していたのに対し（名古屋市、1996）、2000年9月の東海豪雨後の2001年に実施された調査では、*Hetromastus* sp.、ウミゴマツボ、ヤマトスピオが優占し、優占種が明らかに変化していた（テクノ中部、2003）。今回（2004年）の調査によると、干潟本体ではウミゴマツボ、カワグチツボ、ソトオリガイ、アナジャコが優占し、アシ原湿地内では名古屋市のレッドデータブック（名古屋市、2004）で「絶滅危惧ⅠA類」とされたフトヘナタリ、「同Ⅱ類」のヒロクチカノコ及び希少な巻貝の1種*が採集された。また、希少な魚類の1種*も目視確認された。

木曾三川河口干潟

木曾三川（長良川、揖斐川、木曾川）河口干潟は藤前干潟の西側に位置し、かつてはその間に一連の干潟が連続していたが、鍋田干拓や木曾岬干拓など古くからの干拓事業の結果、現在では東西両端に分断されている。長良川河口堰は1995年から運用が継続されている。1965～1975年の間にミドリシャミセンガイがわずかに棲息していたことが報告されているが（愛知県、1967）、それ以後再

発見されていない。1972年に日本鳥類保護連盟は木曾川河口から揖斐川河口の干潟13地点で定量調査を行い、28種の底生動物を確認した（日本鳥類保護連盟・環境庁、1973、1974）。当時の優占種はヤマトシジミ、ゴカイ、ソトオリガイ、チゴガニであった。また、泥質干潟には、現在伊勢湾にも三河湾にも見られないハナグモリが棲息し、アシ原湿地にはヒロクチカノコとトビハゼが確認されている（日本鳥類保護連盟・環境庁、同上）。今回の調査では全部で41種の底生動物を確認したが、ハナグモリをのぞいて、生物相にほとんど変化がないことがわかった。1972年時点には存在した陸上から干潟へ徒歩で容易に移動できる河口干潟は、岸辺の改変のためすでに消失していた。そのため今回は、徒歩でアプローチ可能な人工干潟を調査し、シオフキ、アサリ、マテガイ、ハマグリ（1個体）の棲息を確認した。

木曾岬干拓は、1966年から1974年に農地創生のために国家事業として行われた。辻井ら（1969）は、調査当時すでに開始されていた干拓事業が貝類に及ぼす影響評価を行い、干拓事業完成のあかつきにはハマグリは30%減収すると予測した。ところが実際には、1970年前後に2000tから3000t程度であったハマグリは年間漁獲量は、事業終了後の1975年頃から急減し、1987年以降には100t以下になった。つまり、95%以上の減収となった。漁獲量急減の要因は干拓の影響だけではないともされるが、干拓事業自体の事後の影響評価がこれまで全く行われていないのは問題ではないかと考えられ、長良川河口堰稼働時に問題になったヤマトシジミに関しても、事後の影響評価について同様の指摘がされている（水野・関口、2006）。

安濃川および志登茂川河口干潟

津市内を流れて伊勢湾中部西岸に注ぐ安濃川および志登茂川では、1987年に木村らによって、上流から河口干潟までの20地点で底生動物の定量調査が行われた（木村ら、1993）。その結果、安濃川河口干潟（以下、安濃川と略称）では33種、志登茂川河口干潟（以下、志登茂川と略称）では26種の底生動物が確認された。また、それぞれの河口干潟は隣接していながら、安濃川は砂質、志登茂川は泥質と底質が異なり、優占種も異なることがわかった。今回の調査では、安濃川で17種、志登茂川で48種の動物が確認された。1987年の調査とは異なり、志登茂川の方が確認種数が多いが、これは補完的に多人数で広範囲の定性調査を行ったためである。木村ら（1993）の調査では、共通の優占種はホトトギス、アサリ、ヤマトシジミだった。今回は、前回と出現種の傾向は類似しているが、両干潟でコメツキガニとウミニナが優占していた点で異なっている。安濃川で1987年の調査で優占していたシオフキは、志登茂川でのみ今回多数確認された。また、前回両干潟で観察された濃密なホトトギスマットは、今回志登茂川でのみ確認された。また前回ほとんど観察されなかったオチバガイが、今回観察された。さらに、志登茂川では30人程度が1時間行った補完調査で、ハマ

グリが 5 個体採集された。

雲出川および櫛田川河口干潟

津市南部から松阪市にかけての海岸は小さく湾入し、そこに雲出川、三渡川、阪内川、金剛川、櫛田川の河口が流入している。この小湾の沿岸は三重県のアサリ漁場の中心であり、潮干狩り場も多い。雲出川河口干潟は、木村・木村(1999)によりアシ原湿地の腹足類相が調査され、和田ら(1996)の RDB 種 12 種を含む 19 種が報告されている。近年、この河口のアシ原湿地の埋め立てが進み、貝類の棲息環境の破壊が懸念される。今回の調査は、起伏のない砂質の前浜干潟で行った。この調査では 37 種の動物が確認され、ウミナナヤソトオリガイ、ミサキギボシムシなどの RDB 種が優占していた。一方、サキグロタマツメタやアシナガゴカイなどの移入種も確認された。

櫛田川河口は、陸上植生からアシ原湿地、後背の塩沼や感潮クリーク、泥質干潟と前浜に広がる砂質干潟、アマモ場と、本来の河口域が持っていた実に多様な環境が残されている。1984 年のアンケート調査によると、ヒロクチカノコ、ワカウラツボ、ワダツミギボシムシ、シオマネキ類などの RDB 種を含む、21 種の底生動物が報告されている(西川, 1996)。また、木村・木村(1999)はアシ原湿地内で RDB 種 15 種(和田ら, 1996b)を含む、22 種の腹足類を確認している。これは伊勢湾内の調査地点のなかではもっとも多い確認種数であった。今回の調査では、46 種の動物が確認された。干潟上にはウミナナヤホソウミニナ、ユビナガホンヤドカリが優占し、伊勢湾岸ではほとんどみられなくなった希少な巻貝の 1 種*がわずかではあるが確認された。一方で移入種のサキグロタマツメタも確認された。潮間帯上部にはコメツキガニやクチバガイ、ヒモイカリナマコが多く、アシ原湿地内には RDB 種のフトヘナタリや希少な巻貝の 1 種*が確認された。湿地にはアシの他にアイアシやフクド、ハマボウなどの豊かな塩生植生が認められた。

祓川河口干潟

櫛田川から 5 km ほど東に位置する祓川は、大きな川ではないが三重県内でも特に淡水域の生物相が豊富で、淡水二枚貝やそれらを宿主とするタナゴ類も多数種棲息する。この河口干潟には濃密なアシ原湿地が形成され、軟泥質の干潟がある。木村・木村(1999)はアシ原湿地内で RDB 種 8 種(和田ら, 1996)を含む、14 種の腹足類を確認している。今回は木村・木村(1999)では確認されなかった希少な巻貝を 3 種*確認した。優占種はカワアイ、ヘナタリ、フトヘナタリ、チゴガニ、ヤマトオサガニであった。

三河湾北西部(矢作川河口干潟、一色干潟)

三河湾北西部は遠浅の浜の続く入江だった衣浦湾から矢作川にかけて、かつては広大な干潟が形成されていた（愛知県，1967）。衣浦湾では砂泥底の干潟や隣接するアシ原湿地が連なり、ヤマトシジミやヒロクチカノコが優占し、イボキサゴ、ムシヤドリカワザンショウ、ウミゴマツボ、ハイガイ、アゲマキ、イチョウシラトリ、オカミミガイが棲息していたとされる（愛知県，1967）。1951年から57年に干拓された衣浦干拓地では上記の貝類を含めた78種の貝類が確認されている。オカミミガイ、ハイガイ、アゲマキは1955年頃から急激に減少し、1963年以降生貝が確認されなくなった（愛知県，1967）。この水域は、港の建設や護岸工事、工場用地や発電所建設のための埋め立てが激しく行われ、現在、衣浦湾に干潟はほとんど残っていない。西川（1996c）のアンケート調査では矢作川河口部に残った小さな干潟が、ヤマトシジミやアサリを採る家族連れでにぎわっていることが報告されている。木村・木村（1999）は矢作川河口でヒロクチカノコを含む14種の腹足類を確認している。2001年に川瀬は、河口干潟における半定量的調査でカニ類6種、フジツボ類1種、貝類22種、海藻類1種を確認した（川瀬，2002）。今回（2002年）の調査では、川瀬の調査地点より上流の河川内の干潟で29種の底生動物を確認している。ホトトギスのマットがあり、その他にウミニナ、ソトオリガイ、*Hediste* sp.、*Hetromautus* sp.が優占していた。アシ原湿地内では木村・木村（1999）の調査では確認されなかった希少な巻貝の1種*を確認した。川瀬（2002）と今回の調査の出現種は類似しているが、川瀬（2002）で確認されたオチバガイやサビシラトリ、ノコギリガザミは今回確認されなかった。

矢作川河口の東にある一色干潟は、後述する伊川津干潟とならび愛知県のアサリ漁業の中心地のひとつであり、ノリ養殖業も盛んである。西川（1996d）によるとユムシが激減し、昭和30年代には普通に見られたハマグリは絶滅したとされる。今回の調査地は前浜干潟で、有料の潮干狩り場になっていた。本調査では41種の底生動物が確認された。アサリやシオフキ、ヤミヨキセワタ、ミズヒキゴカイやコメツキガニが優占し、RDB種であるミサキギボシムシも普通に見られた。その他にもRDB種はユウシオガイ、オオノガイ、ソトオリガイが確認された。木村が検討委員のメンバーだった愛知県の沿岸域環境調査事業の調査では、前浜干潟の6カ所で2003年にコドラード調査を行い、72種の底生動物を確認した（愛知県・テクノ中部，2005）。しかし、これらの調査を通じてユムシやハマグリは確認できなかった。

汐川干潟

かつての汐川干潟は、いくつかの大きな白砂青松の砂洲を通じて、緩やかに三河湾に開口した田原湾の奥に位置する広大な干潟であった。湾内にはアマモが繁茂し、周辺住民が総出でアマモを肥料に使うための藻狩りをすることが年中行事だったという（豊田，1991）。ハマグリも豊産した（愛

知県, 1967). しかし 1961 年から始められた三河港の埋め立て開発事業により, 干潟は三河湾と幅 700 m のコンクリート水路でつながる閉鎖的な内湾に改変され, 干潟の面積は 280ha に縮小した. アマモ場も現在は無い. この干潟は, 藤前干潟とともに鳥類の渡来地として国内で最も重要な地域のひとつである. 河口付近にはアシ原湿地が形成され, 環境省のレッドデータブックで「絶滅危惧種Ⅱ類」とされているシバナやハママツナ, フクド, ハマボウの塩性湿地群落も確認されている (藤原ら, 2002). 1972 年に行われた日本鳥類保護連盟の調査では汐川河口付近を中心に 9 カ所の定量調査により, 29 種の動物が確認され, ゴカイ, オキシジミ, カワアイの優占が報告された (日本鳥類保護連盟, 1973, 1974). その後 1974 年から 75 年にかけて相山によって干潟全域の 52 点で定量調査が行われた (相山, 1975). この調査では 33 種群が確認され, やはりカワアイが優占していることが報告された. また, シャミセンガイ類, ハナグモリ, アゲマキの棲息も確認された. 90 年代に入り, 西川により 1994 年に干潟の定性的な調査が行われ, 21 種が確認された (西川, 1996e). 1998 年には藤岡・木村 (2000) により, 干潟全域の 32 箇所定量的調査を行い, 56 種群の底生動物を確認した. 2002 年に実施した本調査では, 6 カ所で調査を行い, 35 種を確認した. 愛知県・テクノ中部 (2005) は, 2003 年に 12 カ所でコドラード調査を行い, 57 種の底生動物を確認した. 90 年代以降の調査での優占種はウミニナ, ヘナタリ, アサリ, オキシジミ, ソトオリガイ, コケゴカイ, オイワケゴカイ, ゴカイなどで, 70 年代に優占していたカワアイは 90 年代以降確認されていない. また, シャミセンガイ類, ハナグモリ, アゲマキの棲息も確認されていない. 木村・木村 (1999) はアシ原湿地内で RDB 種 14 種 (和田ら, 1996) を含む, 23 種の腹足類を確認している. 近年, アシ原湿地の部分的な破壊 (木村・木村, 2000) や全体的な湿地の縮小傾向があり, 湿地内に特異的に生息するオカミミガイ科貝類やカワザンショウ科貝類の生息が危ぶまれる.

伊川津干潟

伊川津干潟は, 三河湾湾口部南岸の福江湾内に形成された河口干潟である. 福江湾は東西から伸びる砂州によって囲まれ, 天白川, 免々田川, 新堀川などの小河川が流入している. 三河湾奥部にある汐川干潟よりも外洋水の影響が強い. 鳥類も多数飛来する. ここでは河口のアシ原を中心に塩生湿地植生が発達し, 福江湾奥には泥質干潟, 同湾口部付近にはれき干潟があるなど, 環境は多様である. 特に, 干潟周辺に形成される伏流水によると思われる塩水池にはアマモ群落が形成され, 特異な生物群集が認められる. 伊川津干潟は三河湾有数の良質のアサリ漁場であるため, 一般の立ち入りは漁協により厳しく規制され, 公的な開発からもかなり守られている. そのため良好な自然環境が保たれているが, 底生動物相に関するこれまでの報告としては愛知県 (1967) が唯一の報告といえる. これには, 岩礁性のカメノテやウスヒザラガイ, イシダタミや干潟のクチバガイとハマ

グリを含む 38 種の動物が記録されている。最近、木村・木村（2002）は新堀川河口の塩性湿地において、愛知県（2002）の RDB 種の腹足類 8 種を確認した。愛知県・テクノ中部（2005）は、2003 年に 9 カ所でコドラード調査を行い、99 種の底生動物を確認した。一方、今回（2004 年）の調査では 78 種の動物を確認したが、出現生物は 2003 年の調査と類似していた。これまで述べてきた他の調査地点に比べて、種数が多いだけでなく門レベルの多様性も高く、ユムシ動物門や棘皮動物門など多様な動物門が確認された。しかし、ハマグリは確認されなかった。優占種は、イシダタミやスガイ、アサリやウミニナ、ホソウミニナ、コケゴカイ、ヒモイカリナマコなどであった。和田らによる RDB 種は、アシ原湿地の希少な巻貝 2 種*やウモレベンケイガニなど 10 種が確認された。また、ヒモイカリナマコツマミガイ、スジホシムシヤドリガイ、カキウラクチキレモドキなど寄生性種が多かったことも特筆される。

参考文献

- 愛知県科学教育センター，1967. 愛知の動物，222p.
- 愛知県環境部自然環境課，2002. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物，レッドデータブックあいち～動物編～. 596p.
- 愛知県環境部自然環境課・テクノ中部，2005. 沿岸域環境調査事業報告書，114p.
- 藤岡エリ子・木村妙子，2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史研報，10:31-39.
- 藤原直子・木村妙子・藤岡エリ子，2002. 三河湾汐川干潟の塩性湿地植生. 豊橋市自然史研報，12:41-48.
- 川瀬基弘. 2002. 矢作川河口域における干潟の底生生物相. 矢作川研究，6: 81-98.
- 木村昭一・木村妙子，1999. 三河湾および伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌，54: 44-56.
- 木村昭一・木村妙子，2000. 汐川干潟におけるオカミミガイ生息地の破壊. 名古屋貝類談話会会誌，26: 25-32.
- 木村昭一・木村妙子，2002. 新堀川河口域塩性湿地の貝類相. 名古屋貝類談話会会誌，28: 13-14.
- 木村妙子・関口秀夫・名越 誠，1993. 隣接する河口干潟における底生動物の分布. 三重大学生物資源学部紀要，10: 165-174.
- 三重県，2000. 伊勢湾再生ビジョン中間報告資料編. 296p.
- 水野知巳・関口秀夫，2006. 木曾三川間町域のヤマトシジミの漁獲量の変動. 日本水産学会誌，72(2):

153-159.

- 名古屋市動植物実態調査検討会, 2004. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物, レッドデータブックなごや 2004 ~動物編~. 368p.
- 名古屋市名古屋港管理組合, 1996. 庄内川, 新川及び日光川河口に広がる干潟~その機能と地形特性~. 168p.
- 日本鳥類保護連盟・環境庁, 1973. 干潟鳥類保護対策調査報告書. 64p.
- 日本鳥類保護連盟・環境庁, 1974. 干潟鳥類保護対策調査報告書. 96p.
- 西川輝昭, 1996a. 藤前干潟. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 94 ~ 95.
- 西川輝昭, 1996b. 櫛田川河口干潟. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 95.
- 西川輝昭, 1996c. 矢作川河口. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 93 ~ 94.
- 西川輝昭, 1996d. 一色干潟. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 93 ~ 94.
- 西川輝昭, 1996e. 汐川干潟. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 92 ~ 93.
- 梶山正雄, 1975. 汐川河口部干潟底生生物の調査報告. 55p.
- テクノ中部, 2003. 平成 14 年度保全活用推進調査 (藤前干潟) 報告書. 356p.
- 豊田きん, 1991. モク取りの夏. 田原自然友の会「ざおう」4号, 30-33.
- 辻井 禎・菱川 馨・石川貴朗・相良順一郎・田中弥太郎, 1969. 木曾岬干拓が木曾川河口域貝類漁業に及ぼす影響について. In: 三重県農林水産部水産事務局木曾岬干拓による水産生物とその環境への影響予察調査報告書資料集, 107-125pp.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

英虞湾・五ヶ所湾

木村妙子・西川輝昭

英虞湾と五ヶ所湾は三重県中部に位置し、熊野灘に面している。面積は英虞湾が 42km²、五ヶ所湾が 22km² と狭小だが、いずれもリアス式の複雑な海岸地形を持っている。真珠養殖で有名な英虞湾は、リアス式海岸特有の小さな支湾が多数形成されている風光明媚な内湾で、大きな河川は流入していない。小湾の奥に底土が堆積し小規模な前浜干潟が形成されている。一方、五ヶ所湾もいくつかの支湾を持つが、英虞湾より開放的な地形であり、湾内では真珠・のり・ハマチ・鯛などの養殖が盛んである。この湾では伊勢路川、五ヶ所川、神津佐川などの河口に干潟が形成されている。今回は、英虞湾では登茂山干潟、小才庭（こさにわ）干潟の 2 地点、五ヶ所湾では伊勢路川河口干潟（五ヶ所湾）、五ヶ所川河口干潟の 2 地点の計 4 地点で調査を行った。

両湾の干潟の環境や底生生物相に関する既存の情報は極端に少ない。英虞湾については 2003 年から三重県地域結集事業がスタートし、干潟の変遷の状況が詳細に再現されている。それによると現存している干潟面積は 84ha で、湾全体の干潟の 70 %にあたる 185ha の干潟が消失し、干拓された土地の約 80 %は荒れ地のまま放置されているという（国分・奥村，2005）。両湾の潮下帯では底生動物の調査例があるが、潮間帯の底生動物相の調査はこれまでほとんど行われていない。三重県産生物目録（三重県生物調査委員会，1951）と三重県産貝類目録（松本，1979）に英虞湾から 10 種、五ヶ所湾から 8 種の合計 15 種ほどの貝類が記載されているだけであり、底生生物全体を対象とした調査報告は今回が初めてである。

今回の調査地全体を概観してみると、陸側の環境が保存されている場合、南日本に特徴的な海岸植生がみられ、潮上帯にはアシ原湿地やハマボウ林を中心とした塩性植生がある。干潟の底質は潮間帯上部では後背の崖や河川に由来する礫混じりの砂質または砂泥質が多く、礫は沖に向かって減少する傾向がある。いずれの調査地にも軟体動物、環形動物、節足動物が確認され、中でも種数が多かったのは腹足類、二枚貝類、十脚類であった。その他に刺胞動物、扁形動物、星口動物、半索動物、棘皮動物が確認された。塩性湿地ではアシハラガニ、クロベンケイガニ、ハマガニなどのベンケイガニ類、カワザンショウ類が見られ、転石下には希少な巻貝類*やドロアワモチ類が生息している。塩性湿地と干潟の境界にはチゴガニやコメツキガニが見られる。干潟表面にはウミニナ類やヘナタリが多数這い回っている。ホソウミニナはどこでも見られるが、伊勢湾では全く見られないコゲツノブエも多い。また英虞湾には伊勢湾では激減した希少な巻貝の 1 種*が健全な個体群を保っている。淡水の影響の強い場所ではウミニナやカワアイがみられる。底土中は伊勢湾とは異なり多くの場所でシオヤガイが優占し、アサリは少ない。また、潮間帯上部の干潟表面には黄色いイオウ

ハマグリ之死殻が多数散っているが、底土中に生貝は少ない。底土中にはその他にオキシジミ、コアシギボシイソメ、ヤマトキョウスチロリ、ハサミシャコエビが多く、潮間帯下部はテッポウエビ類が盛んに鈿の音をたてている。

今回の調査ではすべての調査箇所、複数種のレッドデータ種（和田ら、1996、以下 RDB 種）が確認された。特に英虞湾では各調査箇所に 10 種以上の RDB 種が確認された。「日本本土では絶滅寸前」とされるコゲツノブエと希少な巻貝の 1 種*、シオヤガイ、ムツハアリアケガニが確認されたのは注目すべきことである。また、同じく「絶滅寸前」とされるヒメアカガイは今回の調査で死殻のみが確認された。以下、「危険」とされた種として、五ヶ所湾では河口域に特有なカノコガイやミヤコドリ、ハザクラが確認された。また、塩性湿地内にはフトヘナタリ、ムシヤドリカワザンショウ、ヘナタリ、カワアイの他、希少な巻貝 2 種*が確認され、干潟ではウミニナ、ユウシオガイ、イオウハマグリ、シラオガイ、クシケマスオ、ソトオリガイ、スジホシムシ、スジホシムシモドキが確認された。「希少」とされた種として、ツバサゴカイが確認された。一方、移入種はタテジマフジツボとアメリカフジツボのみが確認された。英虞湾と五ヶ所湾は、近接する伊勢湾に比べて干潟面積こそ小さいが、その底生動物相が南方系のコゲツノブエやシオヤガイなどの RDB 種を多数含むこと、さらに移入種が少ないことから、独特かつ自然度の高い貴重な干潟生態系を保持しているといえる。

調査箇所ごとに調査結果を以下にまとめる。

英虞湾（登茂山干潟と小才庭干潟）

登茂山干潟は英虞湾のほぼ中央部に位置し、急峻な崖に囲まれた小湾内の真珠養殖場の奥にある。背後の崖面にはハイネズ、トベラ、ウバメガシなどの豊富な、南日本に特有な海岸植生が見られる。潮上帯の塩性湿地にはハマボウ、ハマゴウ、ハマサジなどが見られ、この中にはフトヘナタリなど複数の RDB 種が生息している。隣接する岩礁地帯にはオオヘビガイ、オレンジヘビガイが多数付着している。砂質干潟の表面には潮間帯上部にはチゴガニが優占する。潮間帯下部にはホソウミニナ、ヘナタリ幼貝、ユビナガホンヤドカリが優占し、絶滅寸前の RDB 種コゲツノブエと希少な巻貝の 1 種*がわずかに混じる。底土中には潮間帯全体に RDB 種のシオヤガイが優占し、イオウハマグリがまれに見られる。その他にオキシジミ、ヤマトキョウスチロリ、イワムシ、コアシギボシイソメ、ヒヤクメニッポンフサゴカイ、ハサミシャコエビがかなり見られた。また、ツバサゴカイ科の 1 種の棲管が比較的高密度で見られ、そのなかには希少なカニの 1 種*が生息していた。今回の調査では 40 種の底生動物を確認した。

英虞湾の北東に位置する小才庭干潟は、登茂山干潟よりさらに閉鎖的な支湾の最奥部に位置して

いる。背後にかつて干潟の一部だった田や用水地を持ち、小規模なアシ原塩性湿地と崖地が形成されている。塩性湿地内にはクロベンケイガニやアカテガニが生息し、潮間帯上部の崖地には緑藻のカイゴロモに覆われたスガイ、オキナワイシダタミ、クログチ、フジツボ類などの岩礁性の生物が生息する。泥質の干潟表面には RDB 種のヘナタリが優占し、絶滅寸前とされるコゲツノブエ等希少な巻貝*もかなり多い。ムツハアリアケガニやセンベイヤワモチもまれに見られる。底土中には特に潮間帯下部にシオヤガイやオキシジミが多い。ヒメアカガイやイオウハマグリは死殻のみが確認された。今回の調査では 41 種の底生動物を確認した。

英虞湾の過去の記録としては、三重県産生物目録（三重県生物調査委員会，1951）ではヒシガイ、ケマンガイ、シラオガイ、イオウハマグリ、シオヤガイが、三重県産貝類目録（松本，1979）ではシラオガイ、シオヤガイ、カワアイ、ヘナタリ、フトヘナタリ、ホソウミニナ等が報告されている。今回の調査ではこれらの貝類相がケマンガイをのぞきすべて確認され、1950 年代以来の生物相が保存された貴重な場所と考えられる。また、南西諸島以外では非常に個体数が減少している巻貝の 1 種*が、この海域には生息しており、遺伝的にも特異な個体群とされている（Kojima et al., 2005）。

五ヶ所湾（五ヶ所川河口干潟と伊勢路川河口干潟）

五ヶ所川河口干潟は五ヶ所湾の東方の支湾、五ヶ所浦の奥部に位置する。この干潟ではアサリ漁業が行われている。岸側は完全に護岸堤でさえぎられ、コンクリートの隙間にクログチが多数付着している。砂礫底の干潟表面にはイシダタミやケフサイソガニが多く、稀ではあるがウミニナやカワアイが発見された。底土中にはヤマトキョウスチロリ、オトヒメゴカイ科 *Gyptis* 属の 1 種、コアシギボシイソメ、スジホシムシモドキ、ハサミシャコエビが多産した。ミサキギボシムシらしきものも見られた。RDB 種のハザクラやカノコガイが棲息していることは特筆される。今回の調査では 41 種の底生動物を確認した。

伊勢路川河口干潟は五ヶ所湾の西方の支湾、船越浦の奥部に位置する。ここではかつて河口を覆うほど広大なハマボウ群落があり、河川改修や潮位の変化でやせ細ったものの、今なおその群落は日本最大とされる。しかし、調査中も群落周辺で護岸工事が進んでおり、保全のための注意が必要である。その他にもフクド、シオクグ、ハマサジ、ハマウド、ヤナギタデなどの塩性湿地植物が確認されたが、ここではアシはごく少ない。ハマボウ群落内の底質は砂質底で、転石下にムシヤドリカワザンショウなど複数の RDB 種が比較的高密度で生息していた。礫泥底の干潟表面には緑藻類（ボウアオノリやアナアオサ）が見られ、ウミニナ、ホソウミニナ、ヘナタリ、カワアイ、チゴガニが優占していた。底土中にはオキシジミ、ミズヒキゴカイ、*Glycera macintoshi*、ハサミシャコエビが多かった。埋没している転石の下面には、RDB 種のみヤコドリが付着していた。今回の調査では 38

種の底生動物を確認した。

五ヶ所湾における過去の記録としては、三重県産生物目録（三重県生物調査委員会，1951）ではケマンガイ，シラオガイ，シオヤガイ，オオノガイ，オキナガイが，三重県産貝類目録（松本，1979）ではシラオガイ，シオヤガイ，ウミニナが報告されている．今回の調査ではこのうちケマンガイ，オオノガイ，オキナガイは確認できなかった．

参考文献

Kojima S., Kamimura S., Iijima A., Kimura T., Mori K., Hayashi Y. and Furota T. , 2005. Phylogeography of the endangered tideland snail *Batillaria zonalis* in the Japanese and Ryukyu Islands. *Ecological Research*, 20: 686-694.

国分秀樹・奥村宏征，2005．英虞湾における干潟・藻場の変遷と浅場再生技術．第3 伊勢志摩海洋国際会議講演論文，24-30．

松本幸雄，1979．三重の貝類．鳥羽水族館，179p．

三重県生物調査委員会，1951．三重県産生物目録．352p．

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF Japanサイエンスレポート，3: 1-182．

和歌山県沿岸域

古賀庸憲

この海域では、護岸されるなどして消失している箇所や、開発の可能性のある箇所も少なくないが、それでも都心部と比較すると様々な干潟の環境が残されている。また見られる底生動物については、環境省・水産庁のレッドリスト種、もしくは和歌山県のレッドデータブック指定種、あるいは和田ら（1996）で指定された希少な種（以後レッドリスト種と表記）が、干潟毎に異なり種数も多く（例えば、和田 2000）、底生動物全体の種数も多いようである。今回の調査結果からこの海域全体を特徴づける底生動物群というものは自明ではないが、干潟により優占する（種数の多い）分類群が異なることは特徴の一つかも知れない。甲殻類が優占していたのが紀ノ川と日高川で、貝類が優占していたのが和歌川、特定の分類群が優先しないものの多数種が見られたのが有田川、内之浦（田辺湾内）、池田湾（田辺湾内）、湯川ゆかし潟である。

調査地点は北から順に、紀ノ川、和歌川、有田川、西広海岸、日高川、田辺湾（内之浦）、池田湾（調査地名「田辺湾（池田浦）」）、田辺湾（立ヶ谷・藤島）、湯川ゆかし潟の 9 箇所である。これらの地形タイプは次のように多様である。(1) 河口干潟で、河口部からその上流の汽水域にかけて干潟が残る（和歌川河口、日高川河口）、(2) 河口干潟であるが、河口域はコンクリートなどで固められ干潟が消失しており、やや上流の汽水域に干潟が残る（紀ノ川河口、有田川河口）、(3) 前浜干潟（西広海岸）、(4) 潟湖（湯川ゆかし潟）、(5) 潟湖およびその外側の前浜域に干潟が残る（内之浦）、(6) 内湾奥から前浜部にかけて不連続に干潟が残る（池田湾、立ヶ谷・藤島）。(3)、(6)に挙げた干潟ではいずれも小河川の流入が見られる。また、アシ原などの自然の後背湿地が残されているのは、紀ノ川、有田川、西広海岸、日高川、湯川ゆかし潟の 5 箇所である。また、今回の調査地点には含まれないが、琴の浦湾奥部（海南市）、海南市加茂川、串本市橋杭岩などにも小規模ながら貴重な干潟が残っている。

全域の底生動物の概観

これまでの知見と今回の調査により、主な生息種について概観する。カニ類では、シオマネキの近畿地方最大と思われる個体群（数百個体）が紀ノ川と日高川のアシ原泥質域に、ハクセンシオマネキのまとまった個体群（数千個体）が紀ノ川、和歌川、有田川、日高川の主に砂泥質域に見られる。砂～砂泥質干潟の典型種であるコメツキガニは和歌川と西広海岸に特に多く、砂泥～泥質干潟の典型種であるチゴガニとヤマトオサガニ類は各干潟に多く見られる。貝類では、希少性の高いコ

ゲツノブエの個体群が和歌川，有田川（特に多産），池田湾に見られるが，他の場所にも生息する可能性がある（加茂川など）．ハマグリは和歌川でのみ見られる（しかしシナハマグリも和歌川でのみ見られる）．シオヤガイは田辺湾に多産し（内之浦，池田湾，立ヶ谷・藤島），タケノコカワニナは局所的に多産する．ワカウラツボは2ヶ所の干潟で少数個体が生息するが，まとまった個体群が見られるのは1ヶ所のみである．レッドリスト種を多数含むトウガタガイ科貝類は紀ノ川，和歌川，有田川，内之浦の潮下帯泥底に生息するが，和歌川では比較的種数が多い（8種）．ウミニナ・ヘナタリ類が多産する干潟は，和歌川，立ヶ谷，ゆかし潟，日高川であるが，ウミニナ・ヘナタリ類5種全てが生息するのは和歌川（しかも全て多産）と有田川である．

また，河口部や前浜域に岩場や転石地が混在すると，そこには磯に特有の生物種も頻出する（特に内之浦と池田湾は顕著）．

各干潟の状況

紀ノ川河口

紀ノ川河口干潟の底生動物については，わかやま海域環境研究機構（2000），木邑ら（2004a, b）において生息種の情報がまとめられており，レッドリスト種などの希少な種が15種，全体で82種（他に魚類18種）が報告されている．また，野元ら（1999）は6種の貴重なイワガニ類を紀ノ川から報告している（フジテガニ，ヒメケフサイソガニ，アゴヒロカワガニ，タイワンヒライソモドキ，ヒメヒライソモドキ，トゲアシヒライソモドキ）．そのうち，アゴヒロカワガニとフジテガニは和歌山県内の他の干潟から記録されておらず，しかも南洋性のフジテガニは日本初記録である．その後，土岐ら（2005, 2006）が腹足類65種，二枚貝類51種，合計116種（うちレッドリスト種29種）の貝類を報告している．

紀ノ川河口域において特筆すべき底生動物は，希少なイワガニ類（野元ら1999），ハクセンシオマネキ，シオマネキ，タイワンヒライソモドキ（これら3種はいずれも近畿地方最大級の個体群）である．絶滅危惧IB類（環境省）のハゼ科の希少な1種*が生息し，局所的にはあるがよい状態で残されたアシ原および後背湿地にはイワガニ類も多数種，多数個体生息する．

今回の調査による紀ノ川からの記録種数は84種（他に魚類が14種）であった．上記の文献に含まれず今回新たに確認された種は，チロリ，コケゴカイ，アシナガゴカイ（多毛類3種），ニホンドロソコエビ，シマドロソコエビ，ヨツバコツブムシ，フタゲイソコツブムシ，サルエビ，ユビナガスジエビ，アナジャコ，イボイチョウガニ，チチュウカイミドリガニ，モクズガニ，ベンケイガニ（甲殻類11種），ウナギ，コイ，ボラ，チチブ，ミミズハゼ，ハゼ科の希少な1種*（硬骨魚類6種）

の合計 20 種であった。但し、チチュウカイミドリガニは外来種である。今回新たに記録された種は、最近の環境の変化に由来するとは考えにくい。今後の調査により、更に未記録の種が発見される可能性がある。これまでの報告と今回の調査結果を合わせ、紀ノ川河口域から底生動物 195 種、硬骨魚類 24 種（うちレッドリスト種 37 種）の生息が確認された。

和歌川河口

和歌川河口干潟の底生動物は、わかやま海域環境研究機構(2000)、堀(2002)、木邑ら(2003)、木邑ら(2004a, b)等に報告されている。レッドリスト種など希少種が 35 種、全体で 270 種（他に魚類が 58 種）が記録されている。木邑ら(2004b)は「和歌川河口で 34 種もの貴重種が確認されていることは、この場所が、全国的に少なくなった干潟生物が多く生息する重要な干潟環境が維持されていると評価できる」と述べている。堀(2002)はトウガタガイ類 6 種の生息を報告したが（他の報告と合わせて 8 種確認）、そのうちヌノメホソクチキレとクラエノハライトカケギリについては、生貝が記録されているのは和歌川のみである。生息情報が極めて少ないためかレッドリストに挙げられていない。これらの報告はいずれも最近のものであるため、過去からの生物相の変化に言及することはシオマネキ以外についてはできない。和歌川河口には大正時代の途中まではアシ原が残り、シオマネキが多数生息していたらしいが、おそらく埋め立てなどによるアシ原の消失とともに絶滅し現在では見られない。

和歌川河口域で特筆すべき底生動物は、希少な巻貝の 1 種*（局所的にまとまった個体群が生息、個体数は日本最大か；小林ら 2003）、ハマグリ、8 種のトウガタガイ類（堀 2002; 木邑ら 2004a; 今回）、多くのレッドリスト種を含むオニノツノガイ超科 6 種の生息（木邑ら 2004a）（内、1 種*については、まとまった個体群は九州以北では少なく希少性が特に高く、ヘナタリとウミニナの個体群は近畿地方最大）、イボキサゴ（河口付近に高密度で生息）、ハクセンシオマネキとオサガニ（どちらも近畿地方最大または最大級の個体群）、しばしば採集されるカクレガニ科の希少な 1 種*（古賀ら 2003）等であろう。

今回の調査では和歌川から底生動物 86 種（他に硬骨魚類が 4 種）が記録され、これは上記の報告に比べるとはるかに少ない。しかし、新たに希少な巻貝の 1 種*、ハギノツユ、カゴメイトカケクチキレ、コヤスツララ、コウロエンカワヒバリガイ（貝類 5 種）、*Glycera macintosh*、ヤマトキョウスチロリ（多毛類 2 種）、ニホンドロソコエビ、シミズメリタヨコエビ、ニホンスナモグリ（甲殻類 3 種）、シロボヤ（ホヤ類 1 種）の合計 11 種が記録された。但し、コウロエンカワヒバリガイは外来種である。これまでの報告と今回の調査結果を合わせ、和歌川河口域から底生動物 281 種、硬骨魚類 58 種（うちレッドリスト種 37 種）の生息が確認された。

有田川河口

有田川河口干潟の底生動物についての初めての報告は野元ら(2002)であり、九州以北では殆ど見られなくなったコゲツノブエ(和田ら 1996)が多産することを発見した。その後、和歌山県のアセスメント調査により、底生動物 196 種、魚類 56 種の生息が確認され、そのうちレッドリスト種は 38 種(うち魚類 7 種)にのぼる(国土環境 2004)。特に魚類について、絶滅危惧 IB 類の干潟性ハゼ類が複数種揃って確認されたことは、全国的に稀という(国土環境 2004)。更に、江川(2004, 2005)は、有田川河口汽水域において貝類の詳細な調査を行い、巻貝 73 種、二枚貝 57 種の合計 130 種(うちレッドリスト種 36 種)を報告している。これらはいずれも最近の調査結果であるため、過去からの生物相の変化に言及することはできない。

今回の調査では有田川から底生動物 81 種(他に硬骨魚類 13 種)を記録したが、そのうち野元ら(2002)と国土環境(2004)、江川(2004, 2005)のいずれにも記録されていない種は、コヤスツラガイ、マツシマコメツブ(貝類 2 種)、*Glycera macintosh*、ヤマトキョウスチロリ、*Hediste atoka*(かつてのゴカイ *Neanthes japonica*)、コアシギボシイソメ(多毛類 4 種)、ヒメハマトビムシ、セジロムラサキエビ、オオシロピンノ(甲殻類 3 種)の合計 9 種であった。これまでの報告と今回の調査を合わせ、有田川河口域において底生動物 262 種、魚類 56 種(うちレッドリスト種 52 種)の生息が確認された。

西広海岸

西広海岸については、わかやま海域環境研究機構(2001)、木邑ら(2004a, b)に底生動物 132 種、他に魚類 29 種(うちレッドリスト種 10 種)が記されている。希少な巻貝の 1 種*もまとまった数の個体が見られる。

今回の調査で記録されたのは、底生動物 38 種(他に硬骨魚類 1 種)と少なかったが、新たに発見されたものはムラサキイソカイメン(海綿動物 1 種)、オオウラウズガイ、ウミニナ、キクスズメ、メダカラ、アラムシロ(巻貝類 5 種)、チゴバカガイ、イソシジミ(二枚貝類 2 種)、タテジマフジツボ、サビイロテッポウエビ、タイワンガザミ(甲殻類 3 種)、シロボヤ(ホヤ類 1 種)の合計 12 種であった。但し、サビイロテッポウエビは干潟の種類ではなく、台風の影響で流されてきたものようである(野村氏談)。これまでの報告と今回の調査結果を合わせ、西広海岸において底生動物 144 種、魚類 29 種(うちレッドリスト種 11 種)の生息が確認された。

日高川河口

日高川河口干潟の底生動物相については、わかやま海域環境研究機構(2001) , 木邑ら(2004a, b)に底生動物 99 種, 他に魚類 35 種 (うちレッドリスト種 22 種) が記されている。日高川の干潟には近隣の干潟には見られないレッドリスト種, カワアイと希少な巻貝の 2 種*が生息し, そのうちカワアイと希少な巻貝の 1 種*は複数の地点から採集されており, まとまった数の個体が生息していそうである (わかやま海域環境研究機構 2001)。

今回の調査では底生動物 29 種 (他に硬骨魚類 2 種) が記録された。新たに記録された種はヒラドカワザンショウ (巻貝類 1 種), ヤマトキョウスチロリ (多毛類 1 種), ヒゲツノメリタヨコエビ, クボミテッポウエビ (甲殻類 2 種) で合計 4 種であった。但し, ヒラドカワザンショウはこれまでカワザンショウ類として記録されていたものであると考えられる。これまでの報告と今回の調査結果を合わせ, 日高川河口干潟において底生動物 102 種, 魚類 35 種 (うちレッドリスト種 22 種) の生息が確認された。

内之浦 (田辺湾内)

内之浦の底生動物相については, 田辺市・ニュージェック(1994)と大垣ら(2001)において報告されている。また, 鈴木・和田(1999)がタビラクチの採集を報告している。大垣ら(2001)は, 内之浦干潟 (潟湖内) において都市公園化される以前の 1976 ~ 1984 年と以後の 2001 年に調査を行い, 底生動物 127 種 (他に硬骨魚類 8 種) を報告している。大垣らは, 1976 ~ 1984 年には記録されていたが 2001 年には見られなかった種のうち注目すべきものとしてアマガイ, アラレタマキビ, ウミニナ, ヘナタリ, カワアイ, カワザンショウ, ドロアワモチを挙げているが, 今回の調査でクリイロカワザンショウが確認された。また, 野田(1999)の採集記録から, かつてイチョウシラトリが生息していたと考えられる。

今回の調査では底生動物 104 種, 硬骨魚類 17 種 (レッドリスト種 18 種) を採集した。初めて記録された種は多数に上るが (腹足類 10 種, 二枚貝類 11 種, 星口類 1 種, 多毛類 8 種, 甲殻類 20 種, ホヤ類 1 種, 硬骨魚類 12 種, 合計 63 種), 今回は潟湖内 (内之浦干潟) だけではなく, 水路の外 (鳥の巣付近) においても調査を行ったため, 砂質干潟や磯によく見られる種が初記録種の多くを占めた。内之浦干潟から少数ながらシオマネキとハクセンシオマネキが, 鳥の巣からツバサゴカイが記録されたことは注目に値する。

池田湾 (田辺湾内)

池田湾の底生動物相については, 波部(1950)による貝類の報告を除いて特になし。波部はかつてアシの生えていた湾奥部において, 17 種の生息を確認しているが, そのうちウミニナ, イボウミニナ,

ヘナタリ，フトヘナタリは現在見られない。

今回の調査で底生動物 94 種，硬骨魚類 8 種（レッドリスト種 6 種）を採集した。今回は湾口部に近い場所でも調査を行ったため，砂質干潟や磯に生息する種も多かった。また，内之浦と隣接するため，内之浦と生物相が類似していた。しかし，今回湾奥部の泥底から希少性の高いコゲツノブエが多数個体記録されたこと，そして小規模の干潟ながら多数種の生息が確認されたことは注目に値する。

立ヶ谷・藤島（田辺湾内）

立ヶ谷・藤島の底生動物相については特にこれまで報告はない。今回の調査で底生動物 53 種（レッドリスト種 3 種）を確認した。前浜部の藤島と湾奥部の立ヶ谷のそれぞれで砂質干潟と泥質干潟に特徴的な種が多い。注目すべき種は希少なシオヤガイが多産する点と，県内の干潟から記録の少ない（ゆかし潟のみ）スネナガイソガニが採集されたことである。

湯川ゆかし潟

ゆかし潟の底生動物相については，ニュージェック(1993)が底生動物 65 種と硬骨魚類 25 種（うちレッドリスト種 7 種）を報告している。そのレッドリスト種 7 種のうち，アリソガイやマスオガイ，クシテガニ，イドミミズハゼは今回確認されなかった。

今回の調査で底生動物 87 種（他に硬骨魚類 16 種）を確認した。初記録の種も多く，それらは花虫類 1 種，多毛類 3 種，多板類 1 種，腹足類 11 種，二枚貝類 9 種，甲殻類 19 種，ホヤ類 1 種，硬骨魚類 11 種で合計 56 種に上った。これまでの報告と今回の調査結果を合わせ，ゆかし潟において底生動物 121 種，魚類 36 種（うちレッドリスト種 21 種）の生息が確認された。

参考文献

- 江川和文，2004. 和歌山県有田川河口域の貝類相 1. 腹足綱. 南紀生物, 46(2): 167-172.
- 江川和文，2005. 和歌山県有田川河口域の貝類相 2. 二枚貝綱. 南紀生物, 47(1): 45-50.
- 波部忠重，1950. 田辺湾における貝類の生態的分布. 貝類学雑誌, 16: 13-18.
- 堀 成夫，2002. 和歌川河口干潟のトウガタガイ類. うみうし通信, (36): 10-11.
- 木邑聡美・野元彰人・杉野伸義・和田恵次，2003. 和歌浦干潟で確認された希少貝類. 南紀生物, 45(1): 7-12.
- 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義，2004a. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底

- 生動物相 (I) . 南紀生物, 46(1): 31-36.
- 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義, 2004b. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (II) . 南紀生物, 46(2): 137-141.
- 小林由佳・和田恵次・杉野伸義, 2003. 汽水棲巻貝ワカウラツボ (腹足綱: ワカウラツボ科) の分布に関する要因. 日本ベントス学会誌, 58: 3-10.
- 古賀庸憲・溝口和子・栗田剛史・池田幸右・池田三智子・上水流裕司・北山貴己・小山貴子・里中美哉・出口弘美・根ヶ山亮・和田恵次, 2003. 和歌川河口干潟で採集されたウモレマメガニ *Pse-udopinnixa carinata* (Ortmann, 1894) (カクレガニ科). 南紀生物, 46(2): 145-146.
- 国土環境株式会社, 2004. 有田川統合二級河川整備環境調査外合併業務報告書概要版.
- ニュージェック, 1993. 湯川河川公園整備計画作成業務委託報告書. 平成4年度試験第4号地方特定河川等環境整備事業.
- 野田圭典, 1999. 田辺湾内之浦～鳥の巣で観察された貝類. くろしお, (18): 46-48.
- 野元彰人・木邑聡美・唐沢恒夫・杉野伸義 (2002) 有田川河口汽水域の大型底生動物相. 南紀生物, 44(2): 115-121.
- 野元彰人・淀 真理・木邑聡美・岸野 底・酒野光世・和田恵次, 1999. 紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の6稀種. 南紀生物, 41(1): 5-9.
- 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次, 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種、1976-2001. 南紀生物, 43(2): 102-108
- 鈴木寿之・和田恵次, 1999. 和歌山県田辺市内之浦で採集されたタビラクチ (ハゼ科) . 南紀生物, 41(1): 61-63.
- 田辺市・ニュージェック, 1994. 内之浦地区干潟周辺整備に係る環境調査報告書. 平成5年度地総委託第3号.
- 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文, 2005. 和歌山県紀ノ川河口域の貝類相1. 腹足綱. 南紀生物, 47(2): 191-196.
- 土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文, 2005. 和歌山県紀ノ川河口域の貝類相2. 二枚貝綱. 南紀生物, 48(1): 69-74.
- 和田恵次, 2000. 干潟の自然史—砂と泥に生きる動物たち. 生態学ライブラリー11, 京都大学学術出版会, 京都.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

わかやま海域環境研究機構, 2000. 紀の川河口をフィールドにした生態系等の調査・研究 (干潟調査) 報告書.

わかやま海域環境研究機構, 2001. 紀の川河口をフィールドにした生態系等の調査・研究 (干潟調査) 報告書.

大阪湾

和田恵次

調査地点は、淀川（感潮域）と男里川（河口干潟）である。

大阪湾湾内の河川は、ほぼ全て人工のコンクリート護岸で固められ、河口域そのものがことごとく埋め立てにより人工海岸化されている。そのため、干潟を残す河口域は限られる。湾内の最大流入河川である淀川には、干潟の残る汽水域があるが、河口部付近には、干潟はほとんどない。これに対して、大阪湾内の小河川、近木川や男里川などには、河口部に広がる干潟域の存在をみる。つまり、この小河川の2つの河口域は、河口部周辺の干潟の特徴を残し、一方河口からやや上流に入った汽水域の干潟の特徴を淀川が残していると云える。このように、環境特性が異なる淀川と男里川の干潟であるが、ともに生息する種の中で、軟体動物が他地域に比べて少ないという特徴を示している。一方カニ類では、コメツキガニ、チゴガニといった種の生息数が極めて少なく、反対にヤマトオサガニ、ハクセンシオマネキの生息数は多いという特徴をととももっている。

淀川感潮域の底生生物については、山西(1988)、山西ほか(1991)で、その生息種の情報がまとめられているが、1987年の調査では、動物36種、海藻3種が記録されており、今回の調査からの記録種数は、これよりも少ない。しかし、今回は、希少性が高いカワグチツボやハクセンシオマネキといった種が新たに確認されている。なおヤマトシジミは、比較的数多く生息しているが、大阪湾沿岸で、本種の生息が見られるのは、ここの淀川河口域のみであり、本個体群の存在意義は大きい。

一方男里川河口域の底生生物の情報は、1979年の調査（横山・山西, 1987a, 1987b）と、1997年の調査（渡部・山本, 1998）から知られているが、それらに記録されている種数は、それぞれ23種、25種となっており、今回の調査で見られた72種は際だって多い。とりわけ、ハザクラやマテガイ、カガミガイといった埋在性二枚貝が、以前には全く知られていなかったにもかかわらず確認されていること、さらにカニ類でも、ウモレベンケイガニ、シオマネキ、カクレガニ科の希少な1種*といった希少性の高い種も確認されている点は注目される。男里川河口域のような小規模な河口域の干潟にこれだけの種が確認されるのは、本河口域が、大阪湾で残された干潟の自然環境をもちつづけていることを示しており、その意味で存在意義は大きい。男里川河口域は、干潟の規模は小さいながら、干潟上部の植生域も広範囲に維持されており、ヨシだけでなく、ハママツナやハマサジといった絶滅危惧種の自生もあること、さらに記録される鳥類も数多く、絶滅危惧種のミサゴ、イソシギ、ズグロカモメが記録されることでも、大阪湾の中で自然度の高い干潟環境を有する貴重な地域と云える。

参考文献

- 渡部哲也・山本佳紀, 1998. 男里川河口部干潟における底生生物の分布. 南紀生物, 40: 205- 208.
- 山西良平, 1988. 淀川汽水域の潮間帯生物相. Nature Study 34: 7 - 11.
- 山西良平・横山寿・有山啓之・鍋島靖信・大谷道夫・石崎英男・野々上良甫・花井孝・伊興田奈美
・石井久夫, 1991. 淀川汽水域における潮間帯付着生物の分布, 季節変化および水質. 自然史
研究, 2:83 - 96.
- 横山寿・山西良平, 1987a. 男里川河口干潟の底生動物と生息環境 (1). Nature Study 33:101 - 104.
- 横山寿・山西良平, 1987b. 男里川河口干潟の底生動物と生息環境 (2). Nature Study 33:111 - 115.

播磨灘沿岸域

和田恵次

調査地点は、兵庫県の瀬戸内海側沿岸の加古川河口、新舞子海岸、千種川（河口）である。阪神工業地帯に属する本地域の沿岸も、大阪湾沿岸に引き続き、人工の海岸線が続くところであるが、河口域に干潟地形をもつこれら 3 地域は、いずれも多様な底質環境と植生域をもつことにより、底生動物相も豊富である。いずれの河口域も、瀬戸内海に注ぐ中規模河川の河口域であり、底質は、レキ、砂質が優占し、泥質の領域は、河川両岸寄りの植生域の間にパッチ状に散在する。とりわけ、河口寄りの砂質干潟には、マテガイ、ハマグリ、ムギワラムシが生息し、ヨシ原には、ヒロクチカノコ、カワアイ、ウミニナ、ワカウラツボ、シオマネキ、ウモレベンケイガニといった希少種が見つかることは、瀬戸内海の底生動物の特徴を残すものとみられる。なお、今回の調査からは採集されなかったが、新舞子海岸の干潟には、全国的にも生息記録が少ないカクレガニ科の 1 種*が数多く生息していることも特筆すべき点である。

兵庫県の河口域の貝類と十脚甲殻類の最近の記録としては、増田（2000a, 2000b, 2000c）があり、それによると、今回の調査からは得られなかったが、生息することが確認されている種として、以下のものがある。

腹足類 : ミヤコドリ, ヒナユキスズメ, ヘナタリ, ウスコミミガイ

二枚貝類 : ニッポンマメアゲマキ, イチョウシラトリ, ハナグモリ, クシケマスオ,
オオノガイ, オキナガイ

甲殻類 : シバエビ, ヨシエビ, アシナガスジエビ, シラタエビ, テナガエビ,
マメコブシガニ

これらのうち希少性の高い貝類の多くは、千種川より西にある大津川から記録されているもので、千種川自体も今回の記録種数が、3 地域中最大（78 種）であったことを含め、西部の海域が特に多様性の高い干潟底生動物を残す貴重な地域と位置づけできよう。一方最も東寄りにある加古川河口は、カワアイの個体群をもつ唯一の場所であり、しかもその生息数も多い点で、本河口域の存在意義は大きい。おそらく河川両岸に、ヨシを中心とした塩性湿地が広範囲に維持されていることが、塩性湿地内の水たまりや水路わきの泥干潟に生息する特徴をもつ本種の生息の基盤になっているものとみられる。

参考文献

- 増田 修, 2000a. 兵庫県産陸水性大型甲殻類 (予報) . 兵庫陸水生物, 51・52: 47-59.
- 増田 修, 2000b. 兵庫県産陸水性貝類 VI. 兵庫陸水生物, 51・52: 61-75.
- 増田 修, 2000c. 兵庫県産陸水性貝類 VII. 兵庫陸水生物, 51・52: 77-87.

四国沿岸域

和田恵次

四国は、南岸が太平洋に面し、北岸が瀬戸内海に面するという外海と内海の両方の特徴をもった沿岸域を形成する地域であり、干潟環境も、大河川河口域から中小河川河口域までの河口干潟、入り江や小さな内湾にできる入り江干潟まで多様である。しかし、かつて瀬戸内海沿岸に特徴的であった前浜干潟は、瀬戸内海側の海岸線がほとんど埋め立てられ、愛媛県東予市から西条市にかけての沿岸に見られる程度である。

吉野川河口域（調査地名「吉野川」）は、大河川特有の広大な泥質の干潟とヨシ原をもって存在しており、内湾度の高い汽水域に特徴的な生物相（シオマネキ、クシテガニ、ウモレベンケイガニ、ヒロクチカノコなど）をもっている。吉野川とその近傍の勝浦川などは、河口域の干潟の底質が、泥が主体となっているが、この地域以外の河川河口域は、泥干潟も存在するが、主に砂、礫、あるいは転石といった粗い底質から成っている。特に日本最後の清流といわれる四万十川の河口域も、瀬戸内海沿岸にある重信川の河口域も、砂質や礫質が広範囲を占め、生物相も泥質を好む強内湾性の種が、吉野川河口域とは対照的に少ない。外海から遮蔽された内湾に形成される入り江干潟も、浦内湾や御荘湾（僧都川河口）に存在しているが、これらの底質は、主に砂、礫である。しかし、徳島県南岸の阿南市にある橘湾は、泥質性の干潟を擁し、シオマネキ、ヒロクチカノコ、ヘナタリ、コゲツノブエといった内湾系種が見られる。

吉野川河口域では、これまで底生動物の生息状況が調査された例がいくつかあるが（酒井ら、1988; 井口ら、1997; 上月ら、2000; Kuroda et al., 2003, 2005）、いずれも統一された調査方法によるものではないので、年度間の比較を行うことはできない。しかし、第十堰の改築計画が出た時期には、1990年から1999年まで最も詳細な生物調査が建設省により実施されており、その報告は未発表ではあるが、貴重な種の記録も含めて、今回の調査記録を上回る情報となっている。1999年に実施された調査によると、非淡水性の底生動物は、魚類を除いて265種に達している。その中で、希少性の高い種で、今回の調査からは得られなかったものが、カワアイ、ワカウラツボ、マゴコロガイ、ハマグリ、ハナグモリ、ムツハアリアケガニなど、25種にも及ぶ。なかでも、現在は見つからないイボウミニナが、1998年までの調査では記録されている点が注目される。また魚類では、タビラクチとイドミミズハゼの記録をもつことも特筆できる。このほか、最近、日本全土でもほとんど記録がなかったフタハピンノ（Sakai, 2000）やサザナミツボ（和田, 2005）が吉野川河口域の干潟より記録されていることも、本地域の貴重性を特徴づけるものである。

吉野川と並んで紀伊水道に流れ込む勝浦川も、河川規模は、吉野川に比べて小さいものの、吉野

川河口域に似た泥質性の干潟とヨシ原をもっており、底生生物相も似ている。この地域の生物相は、勝浦川下流部の新橋建設に伴って、1996年、2003年そして2005年に、徳島県により実施された生物調査により、その詳細が明らかになっている。その調査対象域は、勝浦浜橋周辺の右岸川干潟域一帯に限られているが、魚類、昆虫類を除く底生動物種は、1996年で72種、2003年で68種、2005年で82種となっており、今回の調査で得られた種数(67)とさして大きくは変わらない。これら既往の調査で記録されている種で、今回の調査では得られなかった希少性の種としては、カワグチツボ、ワカウラツボ、ハマグリ、ウモレベンケイガニ、ヒメケフサイソガニ、トビハゼが挙げられる。なお、徳島県によるこの調査では、シオマネキとハクセンシオマネキの総生息個体数が推定されており、シオマネキは、73000(2005年)から96000個体(1998年)、ハクセンシオマネキは、17000(2005年)から40000個体(2003年)となっており、両種とも2005年は、それ以前に比べてやや減少する傾向が認められる。

高知県の調査対象地域である浦内湾と四万十川河口については、干潟や塩性湿地内の底生動物を総合的に調査した報告は知られていない。しかし、高知県レッドデータブック(高知県レッドデータブック編集委員会、2002)によると、希少性の底生動物種、ヒロクチカノコ、カワアイ、ヘナタリ、ナラビオカミミガイ、ムツハアリアケガニ、シオマネキ、タビラクチなどが、県内の河口域や内湾で記録があるとしている。このうち、カワアイは、生息地が高知県内に1ヶ所しかないが、本種がかつて浦内湾に生息していたとしている点が注目される。なお、四万十川河口域の魚類については、布部(2005)、岩田・細谷(2005)、またスジアオノリについては、平岡・蔦田(2004)に詳しい。

愛媛県では、僧都川河口周辺が、御荘湾として、その生物相調査が2004年に実施され、その結果が報告されている(環境省自然環境局、2005)。そこでは、底生動物が87種記録されており、今回の調査での記録種数(93)と大きくは変わらない。しかしその中には、今回の調査からは得られなかった希少種が含まれている。具体的には、腹足類では、イボキサゴ、ヒメカノコ、ミヤコドリ、ワカウラツボ、ウミゴマツボ、タケノコカワニナ、クリイロコミミガイ、二枚貝類では、イチョウシラトリ、ハマグリ、甲殻類では、マングローブテッポウエビ、ムツハアリアケガニである。なお、本地域に生息するドロアワモチは、2003年に報告され(Suga et al., 2003)、現在も個体群が維持されており、日本本土で生息が知られるわずか2地域の1つとして極めて貴重な地域になっているといえる。

同じ愛媛県の重信川河口域は、1990年代に生物相が調べられており、それによると、魚類、昆虫類を除く底生動物は、32種挙げられている(須賀私信)。これは今回の調査による記録種数(37)と大きくは変わらない。その中には、今回の調査からは得られなかった希少性の種として、ムツハ

アリアケガニがある。また、2000年には、シオマネキの生息が、当地で確認されている（須賀私信）が、その後は見つかっていない。

なお本地域のカニ類については、これまでその分布や生活史が調べられた実績がある(Omori et al., 1997, 1998)。

参考文献

- 平岡雅規・蔦田智, 2004. 四万十川の特産品スジアオノリの生物学. 海洋と生物, 155: 508-515.
- 井口利枝子・田島正子・和田恵次, 1997. 吉野川河口域周辺におけるシオマネキとハクセンシオマネキの分布. 徳島県立博物館研究報告, 7: 69-79.
- 岩田明久・細谷誠一, 2005. ハゼ類の多様性からみた四万十川河口域. 海洋と生物, 156: 39-46.
- 環境省自然環境局, 2005. 生物多様性調査 種の多様性調査(愛媛県) 報告書.230pp. 愛媛県, 松山.
- 高知県レッドデータブック編集委員会, 2002. 高知県レッドデータブック. 470pp. 高知県文化環境部環境保全課, 高知.
- 上月康則・倉田健悟・村上仁士・鎌田磨人・上田薫利・福崎亮, 2000. スナガニ類の生息場からみた吉野川汽水域干潟・ワンドの環境評価. 海岸工学論文集, 47: 1116-1120.
- Kuroda, M., K. Wada, M. Kamada, K. Suzukida and H. Fukuda, 2003. Distribution patterns of assimineid species (Gastropoda: Rissooidea) in the salt marshes of the Yoshino River, Tokushima Prefecture, Japan. The Yuriyagai, 9: 21-31.
- Kuroda, M., K. Wada and M. Kamada, 2005. Factors influencing coexistence of two brachyuran crabs, *Helice tridens* and *Parasesarma plicatum*, in an estuarine salt marsh, Japan. Journal of Crustacean Biology, 25: 146-153.
- 布部淳一, 2005. 沿岸稚仔魚の海から四万十川河口域への進入様式. 海洋と生物, 156: 30-38.
- Omori, K., K. Shiraishi and M. Hara, 1997. Life histories of sympatric mud-flat crabs, *Helice japonica* and *H. tridens* (Decapoda: Grapsidae), in a Japanese estuary. Journal of Crustacean Biology, 17: 279-288.
- Omori, K., B. Irawan and Y. Kikutani, 1998. Studies on the salinity and desiccation tolerance of *Helice tridens* and *Helice japonica* (Decapoda: Grapsidae). Hydrobiologia, 386: 27-36.
- Sakai, K., 2000. On the occurrence of three species of crabs on Shikoku Island, Japan, and a new species, *Pinnotheres taichungae* nov. spec., from Taiwan (Decapoda, Brachyura). Crustaceana, 73: 1155-1162.

- 酒井勝司・中野昭美・林桂子・鷗真理, 1988. 吉野川河口域に見られる動物. *Naturalists*, 1: 85-91.
- Suga, H., H. Ishikawa and K. Mizuno, 2003. A new locality of *Onchidium hongkongense* Britton, 1984 (Gastropoda: Pulmonata: Onchidiidae) on the southwestern coast of Shikoku, Japan. *The Yuriyagai*, 9: 51-56.
- 和田太一, 2005. 徳島県吉野川河口で見つけたサザナミツボと河口の自然環境の危機. *Nature Study*, 51: 159-160.

瀬戸内海中央部

伊谷 行

調査地点は、永江川河口、水門湾、笠岡湾、高梁川河口である。

これらの地点における生物相は和田ら（1996）に記されている。また、環境庁自然保護局・（財）海中公園センター（1994）で高梁川での調査結果が報告されている。この10年間で、干潟の生物相はほとんど変化していないが、和田ら（1996）のアンケート調査で記録されたクシテガニが、今回、水門湾で記録がなく、また和田ら（1996）により確認されていたトビハゼが笠岡湾で記録されていない。一方、同定の精度が上がったためであろうが、各種のカワザンショウ類が新たに記録されている。

この海域の干潟では、おそらくヨシ原が十分に発達していないために、河口域の生物の多様性が周防灘に比べると低い。それでも、永江川河口では、ヒロクチカノコ、フトヘナタリはじめ希少な巻貝の1種*・魚類の1種*が生息しており、この海域の他の地点に比べると、小規模ながらも貴重なヨシ原の生態系を残していると考えられる。

干潟の海側においても、周防灘に比べれば多様性は低い。笠岡湾ではコオキナガイやサビネミドリユムシ、希少なカニの1種*など比較的記録の少ない底生動物が採集され、小規模なヨシ原に生息する生物も加えると52種もの底生動物が記録された。また、今回絶滅危惧種のゴマフダマやオリイレボラが採集された。1963年に出版され、1983年に増補改訂された稲葉の「瀬戸内海の動物相」（1983）によると、ゴマフダマは瀬戸内海全域に分布して **common** であり、オリイレボラも瀬戸内海全域に分布して **rare** となっている。笠岡湾は、言うまでもなく、大規模な干拓の後に残されたわずかな干潟である。これらの絶滅危惧種は有明海から移入されたものかもしれないが、干拓以前にこの地にあった広大な干潟に分布していた個体群の生き残りである可能性も否定できない。笠岡湾の干潟は満身創痍に見えるものの、その高い生物相については注目すべきであろう。

広島県竹原市の賀茂川河口干潟はヒガシナメクジウオが採集される（斉藤ほか、2006）など、現在、その生物多様性の高さが注目されているが、本調査では調査地に選定されなかった。

参考文献

稲葉明彦, 1983. 増補改訂瀬戸内海の生物相 I(軟体動物), 広島大学理学部附属向島臨海実験所. 181pp.
環境庁自然保護局・財団法人 海中公園センター, 1994. 第4回自然環境保全基礎調査海域/生物環境調査報告書.

斉藤英俊・河合幸一郎・今林博道，2006．竹原市賀茂川河口干潟におけるナメクジウオの個体群動態．2006年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会講演要旨集，p.153．

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF Japanサイエンスレポート，3: 1-182．

瀬戸内海島嶼部

伊谷 行

調査地点は、笠戸島、宮島と細ノ州である。

瀬戸内海には大小さまざまな島が浮かんでおり、内湾部や潮流の弱い場所には小規模な干潟が現れる。このような干潟では、河川の影響が少ない、干潟底質の粒子が粗いなどの特徴を持つものと考えられるが、本調査の笠戸島、宮島は対岸の本州の干潟と近接しており、島の干潟を特徴づけるような生物相の傾向は見られない。むしろ転石が多く、転石表面や転石下に生息する生物が多く記録されていることが、周防灘や瀬戸内海中央部の干潟の調査結果と異なっている。

細ノ州は、大潮の干潮時に姿を現す沖州であり、文化庁（1969）と和田ら（1996）の記録がある。今回の調査結果は、和田ら（1996）の結果とそれほど違わないが、文化庁（1969）に比べ、イセシラガイ、サナダムシ、ヒガシナメクジウオが得られなかったことが異なる。ヒガシナメクジウオについては、愛媛県北条沖の砂堆に高密度で分布することが近年になって知られるようになったが（Ueda et al., 2005）、潮間帯での生息は依然として数えるほどしか記録がない。サナダムシは、稲葉（1988）では、瀬戸内海全域で common とされているが、近年公式な記録はない。

今回の調査目的から外れているためにとりあげられなかったが、瀬戸内海のように干満差の大きい場所では、転石海岸、砂質海岸も「干潟」として露出する。防予諸島では、愛媛県側の島々で八木ほか（1951）、山口県側の柱島で Kato（1996）による生物相の記録があり、ゴゴシマユムシやカサシヤミセンなど、河口域や泥質・砂泥質の干潟では見られない生物が分布している。島嶼部といえども、海岸は道路や港湾整備のためにコンクリート護岸で縁取られることが多く、また、別荘地造成のためなどの理由により埋め立ても行われている。さらに、山口県上関町長島では原子力発電所の建設が進められようとしている。島嶼部や沖州を対象とした海岸のモニタリングも今後は必要となる。

参考文献

- 文化庁, 1969. 天然記念物緊急調査. 植生図・主要動植物地図. 34, 広島県. 37pp.
- 稲葉明彦, 1988. 増補改訂瀬戸内海の生物相 II, 広島大学理学部附属向島臨海実験所. 475pp.
- Kato, M. , 1996. The unique intertidal subterranean habitat and filtering system of a limpet-like brachiopod, *Discinisca sparselineata*. Canadian Journal of Zoology, 74: 1983-1988.
- Ueda, H. & H. Kamakura , 2006. Synchronous recruitment and growth pattern of planktonic larvae of the

amphioxus *Branchiostoma belcheri* in the Seto Inland Sea, Japan. *Marine Biology*, 148(6): 1263-1271.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

八木繁一・大植登志夫・他, 1951. 忽那七島調査書, 愛媛県.

周防灘（中国地方西部）

伊谷 行

調査地点は、山口県の島田川、秋穂湾（尻川湾・中道湾）、山口湾・樫野川、有帆川、厚狭川、木屋川である。

この海域の干潟の底生生物の情報をまとめたものとして、福田（1992）、和田恵次ほか（1996）があり、定量調査については、1994年の第4回自然環境保全基礎調査海域生物環境調査報告書で島田川河口干潟と木屋川河口干潟、2000年の第5回自然環境保全基礎調査重要沿岸域生物調査報告書で木屋川河口干潟の調査記録がある。

周防灘は、中道湾に代表される白砂の砂質干潟、山口湾に代表される砂泥質干潟の豊かな生物相に加え、樫野川から木屋川にかけて河口域の干潟の生物の多様性が際立っている。これらの干潟への賛辞は福田（1992）と和田ら（1996）でみずみずしく語られているので参照願いたい。

今回の調査では、秋穂湾で115種、山口湾で105種の底生生物が記録されているなど、中国地方の他の海域での調査地点と比べて圧倒的な種数を誇る。10年前の和田ら（1996）の記述と比べても、失望を受けるような生物相の改変はおきておらず、周防灘の干潟環境が良好に保たれていることを示唆している。

周防灘を総じて見れば、河口域では、ヒロクチカノコ、シマヘナタリ、オカミミガイ類、センベイヤワモチなどの希少な生物が豊富であり、広大なヨシ原と濬筋、流木や石のつくる多様な生息場所がこれらの生存を維持しているものと思われる。また、河口の泥地からはササゲミエガイが採集されるが、本種の日本における産地は有明海と周防灘のみとなっている。また、周防灘はミドリシャミセンガイやヒガシナメクジウオが採集される日本でも数少ない干潟を有している。

一方、個々の干潟をみると、例えば、山口湾深溝は、センベイヤワモチが初めて記録された場所であるにもかかわらず、今回の調査では記録されていない。また、木屋川河口干潟では、以前記録されていたイチョウシラトリ、ユウシオガイが記録されていない。さらに、中道湾の砂質干潟は、ハマグリやフジナミガイが採集される白砂青松の浜として知られていたが、今回は記録されていない。調査の規模などの影響もあろうが、気に留めておく必要があると思われる。なお、今後も生息場所の破壊がおきないように、埋め立てや河口域の改修には十分な注意を要する。

参考文献

福田 宏，1992．瀬戸内海海産海生、汽水生貝類．概説山口県の貝類（三時輝久編），pp. 3-14.

山口県立山口博物館.

環境庁自然保護局, 2000. 第5回自然環境保全基礎調査／重要沿岸域生物調査報告書.

環境庁自然保護局・財団法人 海中公園センター, 1994. 第4回自然環境保全基礎調査海域／生物環境調査報告書.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

九州北東部（瀬戸内海西部・豊後水道沿岸）

逸見泰久・佐藤正典

九州北東部の河川は、山国川など数河川を除けば比較的小さく、急傾斜のことが多い。このため、河口干潟の規模は全般的に小さい。一方、北九州市から大分県の国東半島にかけての周防灘に面した単調な海岸線には、規模の大きな前浜干潟がほぼ連続して連なっている。国東半島には大きな干潟はないが、その南端に位置する守江湾には約 300ha の広い干潟が存在する。別府湾以南（豊後水道沿岸）では海岸線が複雑に入り組んだリアス式となっており、湾奥部に規模の小さな干潟が点在する。

調査地点は、周防灘沿岸の 3 地点（曾根干潟、長井浜（西角田漁港周辺干潟）、中津港周辺）、伊予灘（別府湾）沿岸の 3 地点（守江湾、八坂川、小深江漁港周辺）、および豊後水道沿岸（臼杵湾）の 1 地点（臼杵川河口（調査地名「臼杵」））で、合計 7 地点である。これらの調査地点は、一部を除いて、人工的な改変をあまり受けておらず、松林やヨシ原などの後背地を含めて自然環境が非常によく保たれている場所が多かった。ただし、曾根干潟の近傍には、近年、浅海域を埋め立てた新北九州空港が建設された。また、小深江漁港周辺干潟では、プレジャーボート係留地建設のため干潟の半分が掘削されてしまった。八坂川河口域では、蛇行した河道を直線化する「ショートカット工事」が最近行われた。

底生動物の出現種数は、52～83 種（最大種数は守江湾で記録）であった。

河口塩性湿地・泥質干潟の代表種としては、シマヘナタリ、クロヘナタリ、オカミミガイ、キヌカツギハマシイノミガイ、センベイヤワモチ（2 地点）、イチョウシラトリ、サビシラトリ（2 地点）、シオマネキ（3 地点）、ウモレベンケイガニ（2 地点）などの希少種が複数地点から見られた。この他に、長井浜～西角田漁港周辺干潟では、希少な巻貝の 1 種*の生息が確認されたほか、ムツハリアケガニ、アリアケガニ、アリアケモドキが出現し、シオマネキが多産した。アリアケガニは、有明海奥部では普通に見られるが、それ以外の国内でのこれまでの記録地は博多湾多々良川河口と大分県宇佐市寄藻川河口だけである（小菅，2000；逸見，2001；三浦ほか，2004）。また、中津港周辺干潟では、希少な巻貝 2 種*の生息も確認された。

一方、砂質干潟あるいは砂泥質干潟の代表種としては、イボキサゴ（2 地点）、ヒメシラトリ（4 地点）、ハマグリ（3 地点）、ツバサゴカイ（3 地点）などの希少種の生息が複数の地点で確認された。守江湾では、タイラギ、サクラガイ、ムラサキガイなどの希少種を含む 21 種もの二枚貝が採集され、しかも、アサリ、ハマグリ、オオノガイなどがたいへん高密度に生息していたことが特筆される。このほかの主な希少種としては、曾根干潟でユムシが、中津港周辺でウミサボテンが、臼杵川河口

でワダツミギボシムシとギボシマメガニが、それぞれ確認された。

本調査海域は、従来から、カブトガニの数少ない生息地の一つとして知られていた（九州・琉球湿地ネットワーク，1999; 清野ら，1999; 清野・宇多，2002）。今回の調査でも、守江湾においてカブトガニの成体と幼体が共に採集され、また、曾根干潟や中津港周辺でもカブトガニの死体が確認された。

以上の点から、本調査海域の干潟は、全般に自然度が高く、本来の生物相を比較的よく残しているとみられ、貴重である。ただし、過去の知見と比較するといくつか懸念される問題がある。八坂川河口域においては、「ショートカット工事」以前の調査では、43種の貝類が採集されているが（淡水産種を除く。大分県，2000）、今回の調査では、23種にとどまった。また周防灘沿岸でも、近年、二枚貝類が減少している可能性がある。1986年の長井浜での調査では、10種の二枚貝類が採集され（シオフキ、マテガイ、アサリなどを含む）、低潮帯ではバカガイが優占種として出現していたが（環境庁自然保護局，1998）、今回の調査では、合計5種の二枚貝しか採集されず、バカガイ、アサリは全く採集されなかった。また、1999年の中津港周辺での調査では、18種の二枚貝類が採集され（ハナグモリ、マテガイ、イチョウシラトリ、ユウシオガイなど含む）、このうちアサリが優占していた（環境庁自然保護局，1998）。今回の調査でも、14種の二枚貝類が採集されたが、アサリは稀であった。

外来種については、ムラサキイガイ（1地点）、コウロエンカワヒバリガイ（2地点）、タイワンシジミ（2地点）、ヒラタヌマコダキガイ（1地点）が確認された。

参考文献

- 逸見泰久，2001. アリアケガニ. 福岡県の希少野生生物 ～福岡県レッドデータブック 2001～ pp.423. 福岡県環境部自然環境課.
- 環境庁自然保護局，1998. 第5回自然環境保全基礎調査海辺調査報告書.
- 環境庁自然保護局，1998. 海域自然環境保全基礎調査重要沿岸域生物調査報告書. 283 pp.
- 小菅丈治，2000. カニ類. 佐藤正典（編），有明海の生きものたち: 72-94. 海游舎.
- 九州・琉球湿地ネットワーク，1999. '99九州・西南諸島湿地レポート. 108 pp.
- 三浦知之・矢野香織・松尾敏夫・佐藤正典，2004. 大分県宇佐市寄藻川に生息するアリアケガニ個体群の発見. *Cancer*（日本甲殻類学会）13: 19-23.
- 大分県，2000. 八坂川ショートカット区間動植物保護対策意見交換会資料 2. 24 pp.
- 清野聡子・宇多高明・大分県，1999. カブトガニの棲む干潟 —八坂川の河川改修と環境保全.

大分県, 60 pp.

清野聡子・宇多高明, 2002. 希少生物カブトガニの生息地としての大分県守江湾干潟における環境変遷とその修復,沿岸海洋研究. 第39巻, 第2号, 117-124.

九州北西部（玄界灘）

逸見泰久

玄界灘は九州北西部に位置する対馬海流の影響を強く受ける海域である。開放性が強いので、多くの海岸は岩礁または転石で、比較的大きな干潟は、博多湾・唐津湾・伊万里湾の湾内に限られる。

博多湾は閉鎖性の強い内湾で、東端と西端にそれぞれ約 80ha の和白干潟と今津干潟がある他、多々良川・室見川などの河口にも小面積の干潟が発達している。一方、唐津湾は開放性の強い湾で、東端の加布里と西端の松浦川河口に干潟が発達している。また、伊万里湾は閉鎖性の強い内湾で、湾内に流入する伊万里川・有田川が河口干潟を形成している。

玄界灘の干潟は、都市化によって環境が悪化し底生動物相が貧弱になった博多湾など東部地域と、豊かな底生動物相を有する西部地域に大別できる。東部地域では、1970 年以降に大規模な埋め立てや堤防建設が進み、多くの干潟が消失した。また、人口が急増した福岡市や北九州市では 1980 年以降に海域の水質・底質が悪化し、閉鎖性の強い博多湾では、赤潮と貧酸素水塊によると思われる底生動物の死滅が夏季に頻発した（濱野他、1986；逸見、1996）。

調査は和白干潟と伊万里湾の 2 地点で行われたが、和白干潟は主として前浜干潟、伊万里湾は河口干潟であり、底質も異なるため、共通する底生動物は少なかった。和白干潟は博多湾東部の湾奥部にある砂質または砂泥質の干潟で、前浜的性質が強い。大都市に隣接する干潟としては自然がよく残されており、環境教育の場としても利用されている。ただし、1980 年以降は泥化が進行し、さらに、1980 年代後半以降に行われた前面海域の埋め立てによって、極端な閉鎖的環境に変化した。そのせいか、今回の調査で確認された底生動物は 45 種類に過ぎず、九州の他の干潟に比べ極端に少なかった。ただし、塩性湿地ではクリイロカワザンショウ、希少な巻貝 2 種*、ウモレベンケイガニといった希少種が確認された。

逸見（2002）は、博多湾東部の和白干潟と香椎海岸で数回の調査を行い、両地域の底生動物が 1980 年代以降に激減したことを報告している。このうち、和白干潟では多毛類の減少が顕著であったが、反面、ドロクダムシ類やマガキなど汚染に強いと思われる種類は増加している（逸見、1994）。博多湾では、過去 20 年の間に、オキヒラシイノミガイ、シマヘナタリ、タケノコカワニナ、マゴコロガイ、ヒロクチカノコ、シオマネキ、アリアケガニ、アリアケモドキといった多くの底生動物が絶滅、または激減しており、その主要な原因として埋め立て、特に塩性湿地の消失が指摘されている（福岡県環境部自然環境課、2001）。

一方、玄界灘の西部海域は比較的豊かな底生動物相を有している。調査が行われた伊万里湾は、佐賀県西部にある伊万里川・有田川の流入する奥行き約 10km の湾である。干潟は湾奥部に発達し

ており、底質は砂質・砂泥質・泥質・礫と多様である。今回の調査で確認された底生動物は 71 種類と多く、希少な巻貝の 1 種*、ハイガイ、希少な二枚貝の 1 種*、ハマグリ、アリアケガニなどの希少種も確認された。また、調査地点ではないが、唐津湾東端に位置する加布里の泉川河口域には、砂質または砂泥質の干潟が発達し、二枚貝を主体とする豊かな底生動物相が成立している。河川感潮域にはヤマトシジミが、河口域にはアサリ、ハマグリ、ユウシオガイなどの二枚貝が優占する他、希少種のマキガイイソギンチャクも多産する（逸見未発表データ）。なお、生息は確認できなかったが、伊万里湾と加布里湾はカブトガニの繁殖地として保全されている地域でもある。

なお、外来種は少なかったが、和白干潟ではムラサキイガイ、伊万里湾ではコウロエンカワヒバリガイが確認された。

参考文献

- 福岡県環境部自然環境課，2001．福岡県の希少野生生物 ～福岡県レッドデータブック 2001～．
福岡県環境部自然環境課．
- 濱野龍夫・神谷崇・下山正一・松浦修平，1986．博多湾における底生貝類群
集の動態 ～特に夏季成層期を中心として～．日本ベントス研究会誌，29: 1-8.
- 逸見泰久，1994．博多湾東部におけるベントスの定量的研究 和白干潟の底生動物分布・現存量
調査 I. 春季 (予報)．WWF Japan サイエンス・レポート，2: 49-73.
- 逸見泰久，1996．博多湾東部浅海域の底生動物 ～夏季成層期～．生物福岡，35: 14-18.
- 逸見泰久，2002．博多湾の埋立が沿岸環境，特に干潟・浅海域に生息する動物ベントスに与える
影響 (総説)．日本ベントス学会誌 57, 28-33.

九州南西部（東シナ海沿岸）

佐藤正典

この海域は、大都市から遠いこともあり、これまで人為的な開発の影響をあまり受けておらず、自然環境が比較的良好に残されている場所である。調査地点は、鹿児島県の薩摩半島西岸吹上浜の 1 地点（万ノ瀬川）とその沖合の甑島列島北部（上甑島）の 2 地点（浦内湾、海鼠池・貝池）の合計 3 地点である。吹上浜は、東シナ海に面し南北約 30km にわたって長大な弧を描いている砂浜海岸であり、後背地のマツ林を含めて、「白砂青松」の美しい景観が保たれている貴重な場所である。今回の調査地点の一つは、そこに注ぐ最も大きな河川（万ノ瀬川）の河口周辺である。現在、大規模な河川改修工事が計画されており、その影響が懸念される。また、吹上浜沖においては、海砂が採取されており、その影響も懸念される（中尾 2001）。上甑島の調査地点は、深く入り込んだ小さな内湾奥部（浦内湾）と、海との連絡が維持されている海跡湖（なまこ池・貝池）で、ともに自然環境がたいへんよく保たれている場所である。

なまこ池・貝池での動物出現種数はたいへん少なかったが（11 種）、これは、少なくとも調査時期にはほとんど干潟が干出しなかったためと考えられる。万ノ瀬川河口では 43 種、浦内湾では 65 種の動物が確認された。巻貝類では、カノコガイ、ウミニナ、ホソウミニナ、フトヘナタリのほかに、ツブカワザンショウも普通に見られたことが注目される。浦内湾ではイボキサゴも、万ノ瀬川では希少な巻貝の 1 種*も確認された。

二枚貝の種数は少なかったが、万ノ瀬川河口ではハザクラ、イソシジミ、ソトオリガイが普通に見られたほか、ハマグリの生息も確認された。なまこ池・貝池からはタガソデモドキが確認された。

十脚目甲殻類については、万ノ瀬川河口にハクセンシオマネキの国内最大規模の群生が存在することが特筆される。万ノ瀬川河口は、また、フタハピンノの数少ない生息地であることが以前からわかっていたが（和田ほか、1996）、今回の調査でも、フタハピンノ個体群が維持されていることが確認できた。それらに加えて、ここではタイワンヒライソガニの生息も確認された。浦内湾では、ハクセンシオマネキの他にメナガオサガニが採集されたことが注目される。

その他の希少種としては、浦内湾でのツバサゴカイやタテジマユムシをあげることができる。

浦内湾の干潟では、1998 年 10-11 月の調査によって、56 種の底生動物が採集されている（環境庁自然保護局、1999）。その種数は、今回の結果（65 種）とほぼ同じであるが、環境庁自然保護局（1999）によって記録されている希少種シオヤガイ、ミヤコドリ、ヘナタリ、クリイロコミミガイは、今回の調査では発見できなかった。環境庁自然保護局（1999）によれば、浦内湾の潮間帯上部には塩生植物群落が存在していたが、今回の調査時にはその塩生植物群落は全く見られなかった。その原因

は不明であるが、最近になって何らかの人為が加わった可能性がある。このほか、過去の調査で、浦内湾からは、ユキガイ、イオウハマグリが、また、なまこ池・貝池からはミヤコドリ、ウネナシトマヤガイが見つかっているが（和田ほか，1996），今回の調査ではそれらの種も確認できなかった。外来種については，万ノ瀬川河口において，タイワンシジミが確認された。

参考文献

環境庁自然保護局，1999． 海域自然環境保全基礎調査 重要沿岸域生物調査報告書. 323 pp.

中尾雄作，2001． 吹上浜における海砂採取の問題. 日本ベントス学会誌 56: 28.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996． 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

九州南東部（太平洋沿岸）

佐藤正典

調査地点は、宮崎県北部の日向灘沿岸の 2 地点（北川・五ヶ瀬川，熊野江），志布志湾沿岸の 2 地点（菱田川・安楽川河口（調査地名「志布志湾」），本城川河口），および種子島東海岸の 1 地点（大浦川河口）の合計 5 地点である。この海域は暖流（黒潮）の影響を強く受ける場所であり，外海に面した開放海岸には，砂浜が発達している。今回の調査地点は，いずれもそのような海岸に流入する河川の河口域に存在する河口干潟である。どの河口干潟も規模（面積）は小さいが，大都市から遠く隔たっていることもあり，人為的な沿岸開発の影響が小さく，松林や塩生植物群落などの後背地を含めて自然環境がたいへんよく保たれている場所が多かった（特に宮崎県の熊野江と本城川河口）。ただし，志布志湾の菱田川・安楽川河口では，最近施された護岸工事の形跡があり，その影響が懸念される。最南端の種子島の大浦川河口にはメヒルギのマングロブ林が発達している（マングロブ林の自然分布の北限）。

動物の出現種数は，16-86 種（最大種数は熊野江で記録）であった。菱田川・安楽川河口での種数が最低だったが，これは，上記の護岸工事の影響（干潟の縮小など）によるのかどうか，不明である。

全般的に十脚目甲殻類の種数が多いのが特徴である。どの地点でも，全動物種の約半数が十脚目甲殻類で占められていた（最大種数は熊野江の 32 種）。注目される種としては，シオマネキ（2 地点），アリアケモドキ（2 地点），タイワンヒライソモドキ（2 地点），トゲアシヒライソモドキ（2 地点）が複数地点から見られた。このほか，本城川河口では，ハクセンシオマネキも高密度で生息していた。また，熊野江では，未記載種と思われる種（アリアケモドキ近似種）も確認された。北川・五ヶ瀬川河口では，ノコギリガザミも採集された。

二枚貝類では，ハザクラ（3 地点）やイソシジミ（2 地点）が複数地点から採集された。特に，北川・五ヶ瀬川河口では，これらの生息密度が高く，また，フナクイムシ科の国内初記録種（*Nausitora dunlopei*）が発見された。それとは対照的に，種子島の大浦川河口のマングロブ林干潟では，二枚貝が 1 種も見つからなかった。和田ほか（1996）によれば，志布志湾沿岸において，日本のハマグリ（*Hydrobia ulmi*）の南限の個体群が記録されているが，今回は，ハマグリを発見することが出来なかった。

巻貝では，種子島の大浦川河口を除く 4 地点から希少な巻貝の 1 種*が採集されたことが特筆される。多くの地点でカノコガイの生息密度も高かった。種子島の大浦川河口では，ヘナタリ類 3 種が普通に見られるのに，ウミノナ類が全く採集されなかった。

多毛類では，熊野江の河口の外側（前浜干潟の砂浜）から，*Glycera oxycephala* と *Euzonus* sp. が

採集されたことが特筆される（どちらも、開放的な砂質海岸に特徴的な種である）。

本城川河口干潟では、1995年5月と1996年9月の2回の調査によって、42種の底生動物が採集されている（佐藤1997）。その種数は、今回の結果（39種）とほぼ同じであるが、佐藤（1997）によって記録されている二枚貝類のマテガイや魚類のチワラスボは、今回の調査では発見できなかった。

外来種については、北川・五ヶ瀬川河口において、コウロエンカワヒバリガイとタイワンシジミが確認された。

この海域の干潟は、規模が小さいこともあり、従来あまり注目されてこなかったが、自然環境がよく保たれているために、甲殻類を中心に多くの希少種の生息が維持されている貴重な場所と言えるだろう。宮崎市内のツ葉入り江（今回の調査対象地にはなっていない）での2001年から2002年にかけての調査では、36種の貝類、34種の十脚甲殻類が記録されている（三浦ほか、2005）。そこには、今回の調査では採集されなかったハマグリ、カニノテムシロ、ムラサキガイ、トリウミアカイソモドキ、ヒメシオマネキなども含まれる。

参考文献

- 三浦知之・大園隆仁・村川知嘉子・矢野香織・森和也・高木正博，2005．宮崎港ツ葉入り江に出現する底生動物と鳥類．宮崎大学農学部研究報告 51: 17-33.
- 佐藤正典，1997．宮崎県串間市の河口干潟における底生動物相．宮崎県総合博物館研究紀要 20: 1-15.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF Japanサイエンスレポート, 3: 1-182.

有明海

佐藤正典

九州西岸に位置する有明海は、閉鎖性の強い比較的大きな(面積 1700km²) 浅い(平均水深: 約 20m) 内湾である。有明海の奥部における潮差は、日本最大であり(大潮時最大: 6m 以上)、また九州最大河川である筑後川などが流入している。これらの諸条件によって、有明海(とりわけ奥部や中央部東側)には、広大な干潟が発達しており(日本の全干潟の約 4 割に相当する約 200km²)、そこには、日本国内での分布が有明海だけに限られる「特産種」や有明海以外ではまれな「準特産種」が多数生息している。このような特異な環境や生物相、また高い漁業生産力を有するという点において、有明海は特筆すべき海域である(菅野, 1981; 佐藤・田北, 2000)。

諫早湾を含む有明海奥部(佐賀県、福岡県沿岸)では、流入河川の影響が強いために、塩分が比較的低く、また、細かい粘土粒子から成る泥質干潟の占める割合が大きい。一方、中央部東側(熊本県沿岸)や湾口部(天草諸島沿岸)では、砂質干潟が卓越する(下山, 2000)。近年、諫早湾の大規模干拓事業によって、3550ha の干潟・浅海域が一度に失われ(1997 年潮止め実施)、その影響が有明海の広範囲に及んでいる可能性が指摘されている。

有明海での調査地点は、全部で 13 カ所である(諫早湾南岸、諫早湾北岸、田古里川、塩田川、六角川、筑後川、沖端川、矢部川、菊池川、塩屋海岸、緑川、永浦、本渡干潟)。すべての地点で 50 種以上の動物が採集された(6 カ所で 90 種以上を記録。最大種数は、永浦の 146 種)。全般的に底生動物の種多様性が高いと言える。有明海固有の巻貝であるアズキカワザンショウ(13 地点中 8 地点)をはじめ多くの特産種や準特産種、あるいは全国的に個体数が減少している希少種が多数確認された。たとえば、腕足類では、ミドリシャミセンガイ(7 地点)、貝類では、ウマイマイ(4 地点)、ヤベガワモチ(2 地点)、センベアワモチ(3 地点)、キヌカツギハマシイノミガイ、オオクリイロカワザンショウ、マルテンスマツムシ(6 地点)、ウネハナムシロ(2 地点)、ヒロオビヨフバイ(1 地点)、ハイガイ(3 地点)、ハマグリ(7 地点)、多毛類では、アリアケカワゴカイ(6 地点)、カニ類では、ヒメケフサイソガニ(4 地点)、ハラグクレチゴガニ(6 地点)、シオマネキ(5 地点)、アリアケガニ(9 地点)、ムツハアリアケガニ(6 地点)などである。

アリアケヤワラガニは、1964 年に諫早湾干潟のトゲイカリナマコの巣孔から採集された標本に基づいて記載された種であるが、それ以降、国内では採集記録がなかった(小菅, 2000)。それが、本調査によって、泥質干潟の複数地点から採集された。また、ヒメモクズガニについても、これまで国内からの分布記録がほとんどなかったが、今回、多産する地点が発見された。また、メナシピンノ、オオヨコナガピンノ、ラスバンマメガニ(6 地点)、ギボシマメガニ(2 地点)など合計 11 種も

のカクレガニ科が記録されたことも特筆すべきことである。

棘皮動物については、湾口部でヒモイカリナマコ（2 地点）が生息しているほかに、有明海全域にトゲイカリナマコ（11 地点）がきわめて普通に見られることが大きな特徴である。

有明海の湾口に近い本渡干潟は、イボキサゴやウミサボテン、ニッポンオフエリア、ヒラタブンブクなど、砂質干潟を代表する多くの種がまとまって出現しているという点で注目される。

以上のように、大規模な干潟面積を有するだけでなく、底質や塩分に関して多様な環境を有する有明海は、固有性の高い種から分布域の広い「普通種」まで多くの種を育ており、「干潟底生動物の宝庫」ともいえるべき貴重な海域である。しかも、そこは、現在、多くの絶滅危惧種にとって日本に残された数少ない生息地になっていると思われる。

しかし、本調査で確認された多様性も、本来の状態からは相当に劣化したものである可能性がある。たとえば、シマヘナタリとクロヘナタリは、有明海を代表する巻貝であったが近年激減したと言われている（福田，2000）。今回の調査で両種の生息が確認されたのは、計4カ所だけであった。タマガイ科巻貝のゴマフダマとサキグロタマツメタも近年激減し、日本国内で生貝が得られるのは有明海の一部だけ（国外から持ち込まれた移入個体群を除く）と言われている（福田，2000）。今回の調査でゴマフダマの生息が確認されたのは、熊本市塩屋海岸の1カ所のみ、サキグロタマツメタの生息が確認されたのは、熊本市塩屋海岸、天草・永浦島（調査地名「永浦」）、緑川河口の3カ所のみであった。二枚貝のハイガイやアゲマキも、近年に激減したと言われている（佐藤慎一，2000）。たとえば、佐賀県沿岸の干潟における1978年の調査では、ハイガイは61地点中17地点から、アゲマキは18地点からそれぞれ採集されている（山下ほか，1981）。1984年の佐賀県東与賀町（大授搦）での干潟調査でも両種が比較的高頻度で出現しているが（環境庁，1988）、その近くの川副町での1998年の干潟調査では、ハイガイは記録されているが、アゲマキの記録はない（環境庁自然保護局，1999）。今回の調査でも、ハイガイは、佐賀県の塩田川河口のほか、福岡県の沖端川河口と熊本市塩屋海岸から記録されたが、アゲマキは全く採集されなかった。腕足類のオオシャミセンガイは、有明海特産生物として有名であるが、やはり、近年激減したと言われている（菅野，1981；佐藤・田北，2000）。1927年柳川沖（約20個体）での最初の記録以降、1980年までは、諫早湾、有明海奥部を中心に、湾中央部（熊本県河内町）や湾口部（天草松島町）も含めて、多くの地点で採集記録があるが（菅野，1980，1981；山口，1980）、それ以降は、1989年6月荒尾市の干潟（佐藤正典，2000）、1992年8月柳川市沖端（佐藤ほか，2004）、2005年6月と8月三池港沖の水深約30mの浅海（国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所，2006）での採集記録があるのみである。今回の調査では、オオシャミセンガイは全く採集できなかった。

佐賀県田古里川河口については、1997-1998年と2001年の調査によって、合計47種の貝類（死殻

を含む) が記録されている (福田ほか, 1999, 2002). 今回の調査では, 41 種の貝類が記録され, 福田ほか (1999, 2002) によって記録された希少種のうち, ヒロクチカノコ, ワカウラツボ, ヤミカワザンショウ, カハタレカワザンショウ, センベシアワモチ, オカミミガイ, ウスコミミガイ, シイノミミガイ, ウマイマイ, ハイガイ, ササゲミミエガイ, スミノエガキなどは, 今回の調査では確認されなかった.

熊本市塩屋海岸については, 1998-1999 年の調査によって 28 種の貝類が記録されている (山下, 1999). 今回の調査では, それを上回る 32 種の貝類が記録されたが, 山下 (1999) が注目すべき希少種として記録したシマヘナタリ, ワカウラツボ, カハタレカワザンショウ, センベシアワモチ, シイノミミガイは, 今回の調査ではいずれも確認されなかった.

国外から持ち込まれ定着したと考えられている外来種 (以下の 7 種の貝類) が今回多くの地点で確認されたことも注目すべきことである. カラムシロ (4 地点), トライミズゴマツボ (4 地点), シマメノウフネガイ (7 地点), ムラサキイガイ (1 地点), コウロエンカワヒバリガイ (6 地点), ヒラタヌマコダキガイ (3 地点), タイワンシジミ (3 地点). このうち, カラムシロとトライミズゴマツボは 2001 年に, ヒラタヌマコダキガイは 1992 年に, 有明海奥部で初めて確認されたものであり, ごく最近, 有明海に定着した種と考えられている (佐藤慎一, 2000; Tamaki et al., 2002; 福田, 2004). これらの外来種の分布の拡大は, 近年の有明海の環境悪化とも連動して可能性があり, 懸念される問題である.

参考文献

福田宏, 2000. 巻貝類 I—総論. 佐藤正典 (編), 有明海の生きものたち: 100-137. 海游舎.

福田宏, 2004. 外来種と同定の問題. 日本ベントス学会誌 59: 68-73.

福田宏・溝口幸一郎・鈴木田亘平・馬堀望美, 2002. 佐賀県太良町田古里川河口の貝類相—2.

追加種. 佐賀自然史研究 8: 47-55.

福田宏・山下博由・藤井暁彦, 1999. 佐賀県太良町田古里川河口の貝類相. 佐賀自然史研究 5: 45-57.

環境庁自然保護局, 1988. 第3回自然環境保全基礎調査: 海域生物環境調査報告書 (佐賀県). 97 pp.

環境庁自然保護局, 1999. 海域自然環境保全基礎調査: 重要沿岸域生物調査報告書. 323 pp.

国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所, 2006. 平成 17 年度環境整備船「海輝」年次報告書.

小菅丈治, 2000. カニ類. 佐藤正典 (編), 有明海の生きものたち: 72-94. 海游舎.

佐藤正典, 2000. 有明海のシャミセンガイ. 佐藤正典 (編), 有明海の生きものたち: 210-211.

海游舎.

佐藤正典・田北徹, 2000. 有明海の生物相と環境. 佐藤正典 (編), 有明海の生きものたち: 10-35.

海游舎.

佐藤慎一, 2000. 二枚貝類一特に諫早湾について. 佐藤正典 (編), 有明海の生きものたち: 150-183.

海游舎.

佐藤慎一・遠藤一佳・山下博由, 2004. 韓国と日本で採集されたオオシャミセンガイ *Lingula adamsi* Dall, 1873 の形態および遺伝子レベルの比較. 日本ベントス学会誌 59: 13-18.

下山正一, 2000. 有明海の地史と特産種の成立. 佐藤正典 (編), 有明海の生きものたち: 37-48.

海游舎.

菅野徹, 1980. 有明海のオオシャミセンガイ. *Calanus* 7: 13-32.

菅野徹, 1981. 有明海 自然・生物・観察ガイド. vii+194 pp. 東海大学出版会

Tamaki, A., Mahori, N., Ishibashi, T., & Fukuda, H , 2002. Invasion of two marine alien gastropods *Stenothyra* sp. and *Nassarius (Zeuxis) sinarus* (Caenogastropoda) into the Ariake Inland Sea, Kyushu, Japan. *The Yuriagai: J. Malacozool. Ass. Yamaguchi* 8: 63-81.

山口隆男, 1980. 天草松島のオオシャミセンガイ. *Calanus* 7: 33-27.

山下博由, 1999. 熊本県熊本市河内町塩屋の塩性湿地の貝類相とその保護について. 九州貝類談話会九州の貝 52: 7-22.

山下康夫・中尾義房・小野原隆幸, 1981. 佐賀県有明海の藻場・干潟分布調査. 昭和 56 年度佐賀県有明水産試験場報告, 77-112.

八代海

逸見泰久

八代海は、有明海のほぼ南に位置する面積約 12 万 ha の閉鎖性の強い内湾である。現存する干潟は約 4,500 ha で、球磨川河口以北の東岸にその 90 %以上が集中している。八代海の干潟面積は、隣接する有明海（約 2 万 ha）の半分にも満たないが、有明海同様、強内湾性底生動物が豊富な種多様性の高い海域である（逸見，2004）。八代海湾奥部（北部）は内湾性が強く、主として泥質や砂泥質の干潟が発達している。ここは、大野川、氷川、球磨川などの河川が流入する陸水の影響が強い海域である。また、河岸や海岸の一部には塩性湿地が発達し、生物の重要な生息地となっている。一方、湾中央から以南は徐々に外洋性を帯び、砂質の干潟や岩礁・転石が多くなる。干潟面積は小さいが、外洋性・南方系の底生動物の割合が高い（山下，2004）。

調査は、大野川と氷川の 2 地点の河口で行われた。大野川は八代海の最奥部に流入する小河川で、感潮域にはヨシ、フクド、ナガミノオニシバなどからなる塩性湿地が発達している。干潟の一部は砂礫であるが、大部分は軟泥～砂泥質で、球磨川河口にまで連なる広大な干潟の北端に位置する。調査では 79 種が出現し、塩性湿地ではアズキカワザンショウ、ヤベガワモチの他に希少な巻貝 4 種*、泥質干潟ではウミマイマイ、ハイガイなど、他の海域では絶滅あるいは激滅している底生動物が多く見つかった。なお、今回の調査では確認できなかったが、2005 年には当海域では絶滅したと考えられていたアゲマキが 1 個体ではあったが八代海北岸で見つかっている（森私信）。

一方、氷川は不知火干拓をはさんで大野川の南に位置する小河川で、河口域には沖合 3km にも達する広大な干潟が広がっている。干潟は主として泥質、一部は砂泥質であるが、場所によっては砂質になっている。また、河川内の中洲には、ヨシ、フクド、シオクグなどからなる広大な塩性湿地が発達している。調査では 71 種が出現し、塩性湿地ではアズキカワザンショウ、ヤベガワモチ、希少な巻貝 3 種*、アリアケガニなど、泥質干潟ではミドリシャミセンガイ、ハイガイ、希少なカニの 1 種*など、大野川同様、他の海域では絶滅あるいは激滅している底生動物が多く見つかった。

大野川河口と氷川河口では有明海でも激滅している巻貝*（福田，2000）が比較的豊富に見られた。また、ヤベガワモチはドロアワモチ科の未記載種であるが、和名の由来となった矢部川よりもずっと多く、特に大野川の河岸には豊富に生息していた。アリアケガニは、1964 年に諫早湾干潟のトゲイカリナマコの巣孔から採集された標本に基づいて記載された種で（小菅，2000）、本調査でもトゲイカリナマコの巣穴から複数個体が見つかった。なお、トゲイカリナマコは氷川河口には豊富に生息しており、その巣穴からは、アリアケケボリガイ、ヒナノズキン、トゲイカリナマコウロコムシ、ヒメムツアシガニ、希少なカニの 1 種*も見つかっている。

八代海の調査地点は、大野川河口・氷川河口の 2 地点だけであったが、他にも球磨川河口や八代海西岸の樋島周辺（龍ヶ岳町）に底生生物の豊富な干潟が広がっている。球磨川は急流のため、感潮域上流部には砂礫地が多い。河口部の干潟は砂礫から泥質と多様で、河岸にはヨシを主体とする塩性湿地が発達している。和田（2005）は、球磨川河口域で 94 種類の底生動物を確認しているが、その中には、希少な巻貝 3 種*、ムシヤドリカワザンショウ、ヒメケフサイソガニなどの希少種も含まれている。一方、樋島周辺の砂質干潟は、面積は小さいものの底生生物の種多様性が高い。干潟下部にはコアマモやアマモが密生し、ニンジンイソギンチャク、ウミサボテン、ミドリシャミセンガイ、キヌタアゲマキ、ワダツミギボシムシ、ヒガシナメクジウオなどが確認されている（逸見, 2004）。

このように八代海の底生動物は有明海と類似性が強いのが特徴である。有明海特産種のうち、アズキカワザンショウ、ヤベガワモチ、ウミマイマイ、アリアケヤワラガニ、ムツゴロウは八代海でも見つかっており、種類によっては有明海よりも豊富に生息している。また、有明海準特産種のシマヘナタリ、ハイガイ、シオマネキ、ムツハアリアケガニ、ミドリシャミセンガイも八代海に生息している。一方、サルボウ、コケガラスは有明海では豊富に見られるが、八代海ではほとんど確認されていない。

なお、今回の調査で確認された外来種は、コウロエンカワヒバリガイ（大野川）とシマメノウフネガイ（氷川）の 2 種であった。

参考文献

- 福田宏, 2000. 巻貝類 I～総論～. 佐藤正典（編）, 有明海の生きものたち: 100-137. 海游舎.
- 逸見泰久, 2004. 八代海の干潟と生物, 月刊海洋: 八代海 ～環境と生物の動態～, pp.53-58, 海洋出版.
- 小菅丈治, 2000. カニ類. 佐藤正典（編）, 有明海の生きものたち: 72-94. 海游舎.
- 山下博由, 2004. 不知火海の貝類相と生物地理学的特性. 化石, 76: 107-121.
- 和田太一, 2005. 球磨川河口底生生物調査, カワセミ 18, pp.33-35, 八代野鳥愛好会.

鹿児島湾（錦江湾）

佐藤正典

鹿児島湾（錦江湾）は、九州最南端に位置し、最大幅約 20km、長さ約 80km、面積約 1130km² の南北に細長い内湾である（岩切，1978）。湾全体がカルデラ地形特有のすり鉢状のため、海底は、岸から湾内に向かって急傾斜で深くなっており（大木，2000）、大規模な干潟は発達しない。平均水深は 117 m、最大水深は 237m であり、陸に囲まれた内湾としては日本で最も深い。湾内に活発な火山活動を維持している桜島をもち、それによって湾奥部が半閉鎖状態になっているという点でも、たいへんユニークな内湾である。

調査地点は、湾奥部の 2 地点（天降川河口、重富海岸）、湾中央部の 1 地点（喜入町メヒルギ林湿地）の合計 3 地点である。いずれの地点も、過去の沿岸開発による埋め立てなどによって、本来はもっと広域に広がっていた干潟が分断縮小させられたものである。また河川両岸の大部分は、人工的なコンクリート護岸によって固められ、後背湿地の多くが失われている。天降川河口の調査地（前浜干潟の部分）の一部は、現在、さらなる埋め立て計画が進行中である（湾奥の干潟と埋立を考える会，1999; 佐藤，2004）。重富海岸は、これまで奇蹟的に埋め立てを免れ、後背地の松林や流入河川のヨシ原なども比較的良好に環境が保たれている湾内では最大規模（約 50 ha）の干潟である（佐藤，1995）。湾中央部の喜入町メヒルギ林は、太平洋におけるマングローブの分布北限地として国指定の特別天然記念物に指定されている（ただし、これは 1600 年代に南方から移植されたものに由来している可能性がある）（鹿児島県環境技術協会，1998）。しかし、ここも、石油備蓄基地のための広大な海域埋め立ての後にかろうじて残された干潟である。

動物の出現種数は、32 ～ 61 種（最大種数は重富海岸で記録）であった。二枚貝類では、ハザクラ（3 地点）やユウシオガイ（2 地点）が比較的高密度で出現するのが特徴である。そのほか、一部の地点で、ハマグリ、カガミガイ、ヒメシラトリ、スジホシムシヤドリガイが採集された。鹿児島湾は、志布志湾と並んで、ハマグリの本産地の分布南限地（和田ほか，1996）として貴重な場所である。

巻貝では、ウミニナ、ホソウミニナが全体的に多く出現したほか、喜入町メヒルギ林湿地では、フトヘナタリ、ヘナタリ、カワアイの密度も高かった。また、一部の地点で、希少な巻貝の 1 種*、コゲツノブエも確認された。

多毛類では、全体的にムギワラムシやスゴカイイソメが多かった。

甲殻類では、希少なカニの 1 種*（2 地点）や、ムギワラムシの棲管中に共生するヤドリカニダマシ（1 地点）が見つかったことが注目される。また、喜入町メヒルギ林湿地には、ハクセンシオマネキの群生が確認された。

重富海岸では、1986 年から 1995 年にかけての干潟生物調査により、合計 88 種の底生動物が記録されている（鹿児島大学理学部生物学科環境生物学教室，1995）。また、天降川河口では、1999 年

の調査により、合計 38 種の底生動物が記録されている（湾奥の干潟と埋立を考える会, 1999）。それらの過去の調査によって記録されている二枚貝類のマテガイや多毛類のイワムシ、棘皮動物のモミジガイ、ヒラタブンブク（佐藤, 2004）などは、今回の調査では発見できなかった。

外来種は確認されなかった。

参考文献

- 岩切成郎編, 1978. 錦江湾-自然と社会-. 267 pp. 南日本新聞開発センター.
- 鹿児島大学理学部生物学科環境生物学教室, 1995. 始良町重富海岸の干潟生態系の価値-干潟埋立計画の問題点-. 24 pp. + 14 figs.
- 鹿児島県環境技術協会, 1998. かごしまの天然記念物データブック. 215 pp. 南日本新聞社.
- 大木公彦, 2000. 鹿児島湾の謎を追って. 223 pp. 春苑堂出版.
- 佐藤正典, 1995. 生命の消える海. 「滅びゆく鹿児島」 pp.54-80. 南方新社.
- 佐藤正典, 2004. 錦江湾の干潟の生き物たち-生態系の視点から-. 志学館大学生涯学習センター・隼人町教育委員会（編）, 隼人学, pp. 218-233. 南方新社.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.
- 湾奥の干潟と埋立を考える会, 1999. 埋立が計画されている隼人町天降川河口西の干潟における底生生物・生態系調査報告書. 7+13 pp. 湾奥の干潟と埋立を考える会.

奄美諸島

逸見泰久

奄美諸島は、鹿児島県薩南諸島南部の奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島などからなる南北に連なる島々である。全域が亜熱帯に属し、島嶼であることもあいまって、それぞれの島に独特の生物相が成立している。このうち、調査が行われた奄美大島は、奄美諸島では面積最大で、複雑に入り組んだ海岸線と発達した陸水系を反映して大小多くの干潟が成立している。ただし、大規模な干潟は、奄美大島北部の笠利湾周辺と、南部の住用湾から焼内湾にかけての地域に集中している。なお、一部の河口域にはマングローブ湿地が見られるが、住用湾を除けば小規模である。

調査は、奄美大島の笠利湾（手花部干潟・喜瀬干潟）と住用干潟（調査地名「住用川」）で行われた。笠利湾は、奄美大島の北部に位置し、3つの支湾に分かれている。手花部干潟は笠利湾の東の支湾の奥部に、喜瀬干潟は中央の支湾の奥部に発達する干潟である。手花部干潟には、手花部川と坂下川の小河川が流入し、奄美諸島では住用湾住用干潟、笠利湾喜瀬干潟に次いで規模が大きい。干潟の底質は、礫、サンゴ礫、岩盤、砂泥等からなり、坂下川河口にはメヒルギからなる小規模のマングローブ湿地が発達するなど環境は多様である。また、沖合にはウミヒルモなどの生育する小規模な海草藻場が形成されている。なお、大部分の海岸にはコンクリート護岸が施され、自然海岸は一部に見られるに過ぎない。また、2002年より護岸改修工事が行われており、土砂流入や赤土堆積によりアラスジケマンやイオウハマグリが多数斃死した（名和、投稿準備中）。一方、喜瀬干潟は、小河川の宮久田川が流入する干潟で、底質は主に砂泥であるが、一部はサンゴ礫や岩盤になっている。また、沖合にはウミヒルモ、リュウキュウスガモなどからなる海草藻場が形成されている。手花部干潟同様、大部分の海岸はコンクリート護岸で覆われ、干潟上部では赤土の堆積が顕著である。

笠利湾では、121種の底生動物が確認された。門別に見ると、節足動物門が49種で最も多く（すべて軟甲綱）、次いで環形動物門（26種）、軟体動物門（24種）が多かった。潮位別に見ると、植生（坂下川河口のマングローブ湿地）にはリュウキュウウミニナ、ヒメシオマネキ、コメツキガニが、高潮帯にはリュウキュウウミニナ、オキナワハクセンシオマネキ、ツノメチゴガニ他希少なカニの1種*が、中潮帯にはムツアシガニ、フタバオサガニ、ニセクロナマコ、ミナミコメツキガニが、低潮帯にはスジホシムシモドキが多かった。この他、他地域では希少なミドリシャミセンガイ、スジホシムシモドキ、タテジマユムシが広い範囲に生息していた。なお、名和（2001）は、笠利湾にイチョウシラトリが高密度に生息することを報告しているが、今回の調査では確認されていない。

住用干潟は、住用湾にある奄美諸島最大の干潟である（約100ha）。奄美大島最大の河川である住用川と役勝川が河口域で合流し、一帯にはメヒルギ・オヒルギからなる面積70haあまりのマングローブ湿地が広がっている。潮上帯の大部分が自然海岸で、後背地、マングローブ湿地、干潟の連続性が良好に保たれている。ただし、住用干潟でも赤土の流入は顕著で、これには発電所建設など住用川上流部の土木事業が影響しているらしい（環境庁自然保護局・鹿児島県、1989）。なお、干潟の

底質は、大部分が泥、または砂泥で、一部の高潮帯は礫である。また、山間地区の干潟上部には岩礁や転石が点在する。

住用干潟では、81種の底生動物が確認された。門別には見ると、節足動物門が45種で最も多く（軟甲綱44種）、次いで、軟体動物門（17種）が多かった。潮位別に見ると、植生（マングローブ湿地）にはスミヨウカワザンショウ、ハシリイワガニモドキが、高潮帯にはヒメシラトリ、コメツキガニが、中潮帯にはニセマガキ、ツノメチゴガニが、低潮帯にはカノコガイ、ブビエスナモグリが多かった他、ミナミコメツキガニとヒメヤマトオサガニが中・低潮帯の広い範囲で見られた。

奄美諸島の底生動物相に関する報告は、大部分が断片的であり（武田，1989；西平，1991；諸喜田，1991；加藤，1996）、地域の全体像を把握するのは難しい。しかし、近年になって、分類群は限られるものの奄美諸島全域を対象とした詳細な調査が行われるようになってきた。岸野ら（2001）は奄美大島の20地点で汽水性カニ類の調査を行い、8科61種を記録した。そのうち、5科40種が九州以北から南西諸島に広く分布する種類であり、南西諸島のみ分布する種は6科21種に過ぎなかった。ただし、出現種のうち48種は八重山諸島との共通種であり、このことより岸野ら（2001）は、奄美大島の汽水カニ類相を南方系の種組成であるとしている。一方、名和（投稿準備中）は奄美諸島の17地点の干潟から、現在までに計273種もの軟体動物（二枚貝綱148種、多板綱3種、腹足綱123種、掘足綱1種）を記録している。名和は、このように多くの軟体動物が奄美諸島の干潟に生息できる理由として、泥地・砂地・マングローブ湿地・サンゴ礫・礫・転石・岩礁などがモザイク状に分布する複雑な生息環境の存在をあげている。なお、これらの種の分布をみると、157種は九州以北から南西諸島に広く分布する種であり、56種は奄美諸島から南西諸島に分布する種で、汽水カニ類相の分布と共通する傾向が見られている。ただし、他の分類群では詳細な調査がないため、この傾向が多く分類群に当てはまるかどうかは不明である。

奄美諸島における干潟底生生物の調査は、まだまだ不十分である。しかし、その一方で、護岸改修工事や赤土の流入などによって、干潟底生生物の生息環境は急激に悪化しつつある。より詳細かつ早急な干潟底生生物の生息状況調査と干潟環境保全のための対策が求められる。

参考文献

- 環境庁自然保護局・鹿児島県，1989. 第4回自然環境保全基礎調査海域生物環境調査。
- 加藤真，1996. 干潟をもつ各地域の現状・南西諸島. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 112-113.
- 岸野底・野元彰人・木巴聡美・米沢俊彦・和田恵次，2001. 奄美大島の汽水性カニ類. 南紀生物, 43: 125-131.
- 名和純，2001. 琉球列島における内湾干潟の貝類相. WWF Japan サイエンスレポート, 4: 1-44.
- 西平守孝，1991. 潮間帯の動物の種の保存：アマオブネガイ類，タマキビガイ類およびウミニナ類

について. 平成 2 年度南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する
報告書. 376-393.

諸喜田茂充, 1991. 琉球列島の陸産・陸水産甲殻類とその保護. 平成 2 年度南西諸島における野生
生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する報告書. 394-407.

武田正倫, 1989. 奄美大島産の陸水性カニ類. 昭和 63 年度奄美大島調査報告書 (南西諸島におけ
る野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究) . 277-285.

沖縄島

佐藤正典

沖縄島は、南西諸島（琉球列島）のほぼ中央に位置する亜熱帯の島である。列島中で最大の面積（1185km²）を有し、南北に細長い島の海岸線は湾入部に富んでいる。また、流入河川も多いため、列島中の他の島に比べて、干潟がよく発達している。河口干潟には、通常、オヒルギやメヒルギの林がよく発達したマングローブ湿地が備わっており、河口外側の前浜干潟は、しばしばサンゴ礁に隣接しており、そこには、ウミヒルモなどの海草が茂っていることもある。すなわち、沖縄島には、多彩な干潟環境が琉球列島の中で最もよく発達しており、そこには、多数の亜熱帯特有の種のほか、ここを南限とする温帯種も少なからず生息している。これらの点で、沖縄島は誠に貴重な場所である。

しかし、沖縄島では、これまでの様々な開発に伴う埋め立てや護岸による直接的な破壊だけでなく、河川のダム建設や陸域の開発に伴う赤土流出などの影響などによって、沿岸各地の自然環境が大きく損なわれてきた（池原・加藤，1988；原田，1989）。このような環境破壊は、特に1975年の沖縄海洋博覧会の開催を境に激化したと言われているが（目崎，1985）、都市近郊だけに限らず、人里から遠く離れた地域も含めて、全島的に、今日もなお進行している（藤井，2001）。ただし、例外的に、沖縄島第一の都市である那覇市内の国場川・饒波川河口域に存在する「漫湖」は、1999年にラムサール条約登録湿地とされたことにより、保全の対象とされている。

調査地点は、北部西岸における塩屋湾の1地点（塩屋・大保川河口）と羽地内海の3地点（饒平名，我部井，呉我）、中部東岸における大浦湾奥部の1地点（調査地点名「大浦」）と金武湾の1地点（億首川）、南部西岸における2地点（漫湖，具志・大嶺）、南部東岸における中城湾の2地点（泡瀬，佐敷）の合計10地点である。

底生動物の出現種数は、53-105種（8地点で80種以上）で、全体的に種多様性が高かった。特に、十脚甲殻類（最大種数は大浦湾での35種）と腹足類（最大種数は羽地内海の我部井での31種）の種数が多いのが特徴で、場所によっては、二枚貝類も多かった（最大種数は羽地内海の我部井での31種）。それらに比べると多毛類の種数は少なかった（最大種数は大嶺での21種）。それ以外の動物群に関しては、多くの地点（10地点中8地点）で、タテジマユムシが比較的高密度に生息していたことが特筆される。

貝類と一部の甲殻類については、以下のような希少な種（主に和田ほか（1996）や沖縄県（2005）によって絶滅の恐れのある種とされているもの）が含まれていた。腹足類では、マングローブアマガイ、ヒラマキアマオブネ、シマカノコ、ドングリカノコ、ヒロクチカノコ、ニセヒロクチカノコ、ミヤコドリ、ネジヒダカワニナ、コゲツノブエ、カヤノミカニモリ、ミツカドカニモリ、イロタマキビ、オイランカワザンショウ、カニノテムシロ、ドロアワモチ、ゴマセンベイアワモチ、キナコアワモチ、コハクオカミミガイ、オウトウハマシイノミガイ、デンジハマシイノミガイ、ホソハマ

シイノミガイ、ヘソアキコミミガイ、シイノミミミガイ、カタシイノミミミガイ、キヌメハマシイノミガイなどである。二枚貝では、アコヤガイ、カブラツキガイ、カワラガイ、リュウキュウアリソガイ、イチョウシラトリ、クシケマスオ、マスオガイ、ハザクラ、オオズングリアゲマキ、タガソデモドキ、ヤエヤマヒルギシジミ(=シレナシジミ)、シラオガイ、イオウハマグリ、スダレハマグリ、ヤエヤマスダレ、ハナグモリ、ヒロクチソトオリガイなどである。十脚甲殻類では、オキナワヤワラガニ、ヤクジャマガニ、ハサミカクレガニ、ヒラモクズガニ、ミゾテアシハラガニ、オキナワヒライソガニ、ケフサイライソモドキ、ヒメヒライソモドキ、フジテガニ、ヤエヤマシオマネキ、ルリマダラシオマネキ、シオマネキ、アリアケモドキなどである。このうち、1ヶ所の調査地でのみ出現した種は19種であった。

上記出現種のうち、二枚貝類のオオズングリアゲマキは、熱帯域に分布中心をもつ種であり、羽地内海の我部井が本種の分布北限の地であると同時に、琉球列島で唯一の既知産地である(名和, 2001)。モモイロサギガイも、沖縄島を分布北限とする種として知られ、これまでに、漫湖などで採集記録があるが(名和, 2000, 2001)、今回の調査では、モモイロサギガイは、どこからも採集されなかった。これに対して、オキシジミは、温帯域に分布中心をもち、沖縄島が日本国内での分布の南限になっていると思われる(名和, 2000)(今回は、塩屋、我部井、佐敷、大嶺の4地点で確認された)。

腹足類のアラムシロ(今回は、塩屋で確認)、二枚貝類のソトオリガイ(塩屋と呉我で確認)は、日本各地に広く分布するほか、東南アジアまで分布を広げているが、琉球列島での記録はきわめてまれで、沖縄島では、塩屋湾と羽地内海だけで記録されている(名和, 2000, 2001)。

コオキナガイは、日本の相模湾以南から中国南部、台湾にかけて広く分布するが、琉球列島では、沖縄島の中城湾(佐敷および川田干潟)だけで生息が確認されている(名和, 2000, 2001)。佐敷干潟では、その生息密度が比較的高いことが報告されているが(1992-1998年における調査で、最大密度は15個体/m²以上)(名和, 2001)、今回の調査では確認されなかった。佐敷干潟における名和(2001)の調査では、56種の貝類が採集されているが、コオキナガイだけでなく、そこで、「普通に見られる」とされたユウシオガイ、ダンダラマテガイ、ウメノハナガイ、ナミノコザラも、今回の調査では確認されなかった。十脚甲殻類のシオマネキも、コオキナガイの場合とよく似た分布域をもち、琉球列島では、沖縄島の佐敷干潟だけに生息地としている(細谷ほか, 1993; 小菅, 2000)。今回の調査でも、そこでの生息が確認された。佐敷干潟の位置する中城湾は、また、トカゲハゼの日本唯一の生息地としても知られているが(名和, 2001)、今回の調査では、トカゲハゼは確認できなかった。

中城湾の北部に位置する泡瀬干潟(290ha)は、琉球列島の中で最大の干潟である。ここは、ウミヒルモなど11種の海草から成る広大な海草場が存在すること、海藻類についても多くの希少種(クビレミドロなど)の生息が確認されていること、貝類の種数および現存量が大きく(湿重量で6kg/m²を超える所もある)、しかも多くの希少種が見られること、渡り鳥の飛来数も多いこと(ムナグロの越冬個体数は日本最大)などの点で特筆すべき場所である(環境省, 2002; 藤井, 2001; 水間・山下, 2002)

；泡瀬干潟を守る会連絡会私信）。しかし、現在、ここでは、175ha の干潟・浅海域の埋め立て計画が進められており、すでに一部の工事や重機を用いた海草移植実験が実施され、その影響が強く懸念されている（水間・山下，2002）。水間・山下（2002）による 2000 年-2002 年の調査では、二枚貝のホソスジヒバリとリュウキュウサルボウがそれぞれ多産、普通と記録されているが、今回の調査では確認できなかった。

島の北部東岸の大浦湾やその南の億首川河口などに発達するマングローブ林は比較的規模が大きく、ほぼ同緯度の西岸とは貝類の種相が異なることが指摘されている（福田，1996a）。たとえば、希少な巻貝 2 種*は東岸に特有とされているが、今回の調査でも東岸でのみ採集された。大浦湾の干潟では、名和（2001）の 1992-1996 年における調査によって 43 種の貝類が記録されている。今回の調査では、39 種の貝類が採集されたが、名和（2001）が記録しているセムシツノブエ、クチバガイ、ヒバリガイモドキ、ヒロクチソトオリガイ、ウメノハナガイなどは、今回の調査では確認されなかった。また、福田（1996a）が大浦川河口で採集したニハタヅミハマシイノミとウルシヌリハマシイノミも、今回の調査では確認されなかった。この干潟は、湾を縦断するバイパス橋梁工事（2004 年完成）に伴って広範囲に埋め立てられ、さらに工事に伴う土砂流入の影響も受けた。また、それとは別に、陸域からの赤土流入の影響を恒常的に受けており、それらの影響が懸念される。

島の北部西岸の塩屋湾の干潟では、名和（2001）の 1992-1998 年における調査によって、44 種の貝類が記録されているが、このうち、ウズザクラ、アラスジケマンガイ、サメザラモドキ、ウミギク、スイショウガイなどは、今回の調査では確認されなかった。塩屋湾の奥部（大保大川河口、今回の調査での B 地点周辺）については、福田（1996c）によって、稀少生物（特に腹足類）が多数生息していることが報告されているが、そこで記録されているナズミガイ、ウルシヌリハマシイノミ、イトカケヘナタリは、今回の調査では採集されなかった。

羽地内海の 3 地点（饒平名，我部井，呉我）では、名和（2001）の 1992-1998 年における調査によって、それぞれ、62 種、37 種、60 種の貝類が記録されている（今回の調査での種数は、それぞれ、42 種、62 種、40 種）。この海域の貝類は、腹足類だけでなく、二枚貝類も種数、個体数共に豊富であることが特徴である（福田 1996b）。福田（1996b）や名和（2001）がこの海域で記録している種のうち、今回、3 カ所のどこからも採集できなかったものは、以下のような種である。ミニカドカド、イトカケヘナタリ、ヒメカワザンショウ、サカマキオカミミガイ、コハクオカミミガイ、マンガルツボ、アラムシロ、ホソズングリアゲマキ、カミブスマガイ、イシワリマクラ、タママキ、ユウシオガイ、ウズザクラ、クシケマスオ、スエヒロガイ、リュウキュウバカガイ。羽地内海は、豊かな内湾性貝類相をもつ場所として琉球列島の中で特異な場所であり、また、国指定の天然記念物であるジュゴン（カイギュウ目ほ乳類）の生息も確認されているが（環境省，2006）、陸域からの赤土流入による環境悪化が強く懸念されている（名和，2001）。また、呉我では、道路建設に伴う埋め立て計画があり、前浜干潟の大半が失われる恐れがある。

島南部の漫湖では、名和（2001）の 1992-1998 年における調査によって 11 種の貝類が記録されている。今回の調査では、それを上回る 17 種の貝類が採集されたが、名和（2001）が記録しているイ

トカケヘナタリ, マンガルツボ, オキシジミ, モモイロサギガイなどは, 今回の調査では確認されなかった.

大嶺の干潟では, 2003 年度からのバイパス建設工事により, 奥部の泥干潟の約 1/3 と塩性湿地の多くがすでに失われてしまった. さらに, その地先のサンゴ礁に隣接する干潟も, その多くの部分が, 那覇空港滑走路拡張事業計画での埋め立て予定区域とされている (藤井 2001).

参考文献

藤井晴彦, 2001. 沖縄における干潟の現状. 日本ベントス学会誌 56: 29-31.

福田 宏, 1996a. 沖縄本島東北岸国頭郡東村慶佐次 (慶佐次川河口) ~名護市大浦 (大浦川河口) ~金武町 (億首川河口). 特集: 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状, WWF Japan サイエンスレポート. Vol.3, p. 114.

福田 宏, 1996b. 沖縄本島羽地内海 (名護市屋我地島南岸 / 名護市羽地 ~ 国頭郡今帰仁村我部井). In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. p. 114.

福田 宏, 1996c. 沖縄本島国頭郡大宜味村塩屋大保大川河口 (塩屋湾奥). In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp.113-114.

原田正純, 1989. 水俣が映す世界. 日本評論社. 321 pp.

池原貞雄・加藤祐三 (編著), 1988. ニライ・カナイの島じま: 沖縄の自然はいま. 築地書館. 245 pp.

環境省, 2006. 平成 17 年度 国指定屋我地鳥獣保護区更新に関わる環境情報調査 報告書. 61pp.

目崎茂和, 1985. 琉球弧をさぐる. あき書房. 243 pp.

水間八重・山下博由, 2002. 泡瀬干潟における機械による大規模な海草移植実験の現状について - 主に海草場に生息する貝類に注目して. 九州貝類談話会 九州の貝 59: 42-62.

名和 純, 2000. 沖縄県における干潟と低湿地の貝類の現状. 沖縄県文化環境部自然保護課 (編) 特殊鳥類等生息環境調査 XI (改訂版) 湿地 (水辺環境) 編総括-沖縄県内の水辺環境に生息する生物種の概況-. pp. 103-129.

名和 純, 2001. 琉球列島における内湾干潟の貝類相. WWF Japan サイエンスレポート. Vol.4, 1-44.

沖縄県文化環境部自然保護課 (編集), 2005. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) ~レッドデータおきなわ~. 沖縄県文化環境部自然保護課, 561p.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

先島諸島

鈴木孝男・木村妙子・佐藤正典

先島諸島は、南西諸島（琉球列島）の最南端（日本の最南端）に位置する亜熱帯の島嶼群であり、北部の宮古列島と南部の八重山列島とに分けられる。宮古列島の宮古島（面積：158km²）、八重山列島の石垣島（221km²）、西表島（284km²）が主要な3島である。島の周囲は主に石灰岩の岩礁海岸によって占められ、その海岸の湾入部の奥に干潟が形成されている。西表島の浦内川（沖縄県最大の河川）などを除くと、全般的に河川は小規模なものが多い。

調査地点は、宮古島の1地点（与那覇湾）、石垣島の4地点（川平湾、崎枝湾、名蔵湾、宮良湾）、および西表島の4地点（船浦、浦内湾（調査地名「浦内川」）、星立、前良・後良川河口）の合計9地点である。河口干潟には、通常、複数の樹種からなるマングローブ林が発達している。前浜干潟は、サンゴ礁に隣接しており、その底質は、サンゴ片や有孔虫殻などの生物由来の石灰質粒子であることが多い。そこには、ウミヒルモやリュウキュウアマモなどの海草類が茂っている。

動物の出現種数は、50-129種で、全体的に種多様性が高かった（石垣島の4地点はすべて100種以上）。特に、腹足類（最大種数：石垣島の崎枝湾での41種）と十脚甲殻類（最大種数：石垣島の宮良湾での47種）の種数が多いのが特徴で、場所によっては、二枚貝類も多かった（最大種数：西表島の船浦での25種）。それらに比べると多毛類の種数は少なかった（最大種数：石垣島の名蔵湾での16種）。

この海域で見られる代表的な貝類・甲殻類とその生息状況は以下のとおりである。

護岸や岩礁帯には、タマキビ類、アマガイ類、カニモリガイ類の他、オハグログキ、ヘリトリアオリなどの二枚貝が多く見られた。また、ミナミチゴガニはスナガニの仲間でありながら、他の生物によって岩礁に掘られた穴を利用して棲んでいた。石垣島のビーチロックや転石帯には、上記の種類の他、ゴマフニナ、コウダカカラマツ、アワムシロ、イモガイ類、イソアワモチなどが出現した。

砂干潟にはコメツキガニ、ミナミコメツキガニ、リュウキュウウミニナ、ホウシュノタマ、ヤドカリ類などが這い回っており、砂中には、イソハマグリ、カワラガイ、タママキ、ヤエヤマスダレの他、スナモグリ類（ブビエスナモグリなど）が棲息していた。

河口干潟では、ヨコヤアナジャコ、シオマネキ類（ヤエヤマシオマネキ、ヒメシオマネキ、ベニシオマネキ、オキナワハクセンシオマネキなど）、ミナミアシハラガニ、フタバカクガニ、オカヤドカリ類、キバウミニナ、フトヘナタリが普通に見られ、場所によっては、オキナワアナジャコが底土中に潜んでいた。マングローブ樹の根元の凹みにはヤクジャマガニ、ミツカドカニモリなどが潜んでおり、水路近くではミナミトビハゼが跳ねていた。樹幹や支柱根にはシロスジフジツボが固着する他、マングローブアマガイやヒラマキアマオブネが付着し、ヒルギハシリイワガニ、キノボリベンケイガニなどがすばしっこく動き回っていた。上部の枝や葉には、イロタマキビやヒメウズラ

タマキビが付着していた。また、石の下にはマダラヒラシイノミガイやハマシイノミガイなどが潜んでいた。

貝類・甲殻類以外で、この海域に比較的普通に見られる底生動物としては、ムシモドキソギンチャク科（ミナミムシモドキソギンチャクなど）、星口動物（スジホシムシなど）、ユムシ動物（タテジマユムシなど）、棘皮動物（カスリモミジガイなど）が挙げられる。潮下帯の海草が生育する辺りにはナマコ類（クロナマコなど）が多かった。

貝類と一部の甲殻類については、以下のような希少な種（主に和田ほか（1996）や沖縄県（2005）によって絶滅の恐れのある種とされているもの）が含まれていた。

和田ら（1996）において絶滅したとされていたヒノマルズキンは、その後 Kato（1998）によって再発見されたが、今回、石垣島の川平湾と名蔵湾において、ヒモイカリナマコの体表に付着して普通に見られることが確認された。沖縄県文化環境部自然保護課（2005）において、絶滅危惧Ⅱ類（VU）とされたカブラツキガイは石垣島（名蔵湾）と西表島（船浦）で、ヒロクチソトオリガイは宮古島（与那覇湾）、石垣島（崎枝湾）、西表島（前良・後良川河口）、で、それぞれ生息が確認された。同じく絶滅危惧Ⅱ類のカワラガイは石垣島（川平湾、宮良湾、崎枝湾）と西表島（星立、船浦、前良・後良川河口）で、リュウキュウアリソガイは石垣島（宮良湾、崎枝湾）と西表島（船浦）で採集された。

準絶滅危惧（NT）については、イロタマキビ（9 地点中 7 地点）がマングローブ林内で普通に見られたほか、ヒラマキアマオブネ（3 地点）、コゲツノブエ（4 地点）、ミツカドカニモリ（3 地点）、カヤノミカニモリ（5 地点）、ヘナタリ（3 地点）、オハグロガイ（3 地点）、ネジマガキ（2 地点）、カニノテムシロ（4 地点）、エマイボタン（2 地点）、ユキガイ（2 地点）、ヒメニッコウガイ（2 地点）、ハザクラ（2 地点）、スダレハマグリ（2 地点）、ヤエヤマスダレ（2 地点）、シレナシジミ（2 地点）、マスホガイ（3 地点）、シモフリシオマネキ（2 地点）が複数の地点から採集された。

寄生性巻貝のハブタエセキモリ、セムシツノブエ、クシケマスオは石垣島の川平湾のみで、カヤノミガイ、サザナミマクラ、オミナエシハマグリは石垣島の名蔵湾でのみ、ヤエヤマヒルギシジミ、ルリマダラシオマネキは石垣島の宮良湾でのみ、イワトビベンケイガニは石垣島の崎枝湾でのみ、イオウハマグリは西表島の船浦でのみで、それぞれ確認された。

石垣島の干潟の現況および過去の記録との比較

1975 年に石垣島の海岸線に沿って底生生物の調査を行った西平（1975）は、潮間帯上部から上縁部に、大量のタールやプラスチックごみが漂着していたことを報告している。今回の調査ではタールの漂着はほとんど認められなかったものの、プラスチックごみが打ち上げられ、岸辺に散乱している光景は相変わらず認められた。粉碎されたプラスチックの微粒粉などが底生生物の成長や繁殖に影響を及ぼすことが懸念されるが、それにも増して風光明媚な景観が台なしになってしまっているのは残念なことである。また、前浜に出現する干潟の後背地はほぼ全て護岸されており、マング

ローブ湿地を除いて、自然状態で草地や樹林帯に移行しているところは川平湾を除いて見あたらない。

名蔵湾は、島の西部に位置し、湾に注ぐ名蔵川の河口周辺に干潟が発達する。河口一帯は潟湖状態で、マングローブ湿地が広く覆っており（約 130ha）、名蔵アンパルと呼ばれている。この湿地帯は亜熱帯地域の典型的かつ多様な環境を持ち、鳥類の重要な生息地であり、さらに多様な底生生物が棲息することから 2005 年 11 月にラムサール条約湿地に登録された。この干潟には、リュウキュウアマモ、リュウキュウスガモ、ウミジグサなどの濃密な海草藻場や転石帯が存在する。近年、マングローブ湿地を横切って排水路が建設され、赤土や汚水の流入により、砂質であった底質環境が泥質に変化した（加藤, 1996a）。西平（1975）による調査では、名蔵湾の前浜干潟においてリュウキュウウミニナ、マルアマオブネ、カンギク、カニモリ類などが多産し、また、マングローブ湿地ではリュウキュウウミニナ、ネジヒダカワニナ、カニノテムシロ、カノコガイ類が多産すると記録されている。これらの種は、今回の調査でも比較的多く棲息していることが確認された。しかし、西平（1975）の調査時において高密度分布域が見られたというヤエヤマヒルギシジミは、今回の調査では確認されなかった。今回はマングローブ林の林縁部しか調査を行っていないためかもしれないが、本種については、西平（1975）以降、山里（1999）の調査においても 1 個体しか得られておらず、減少している可能性がある。山里（1999）は、1998 年に行ったラグーン内のコドラート法による掘取り調査で 48 種の底生動物を記録し、Hirata（1991）は、1980 年の湾の全域的な定量調査によって貝類 125 種と甲殻類 33 種を記録した。また、名和（2001）は、1992 年から 1998 年にかけてラグーン内の定性調査を行ない、40 種の貝類を記録している。このうち、ヒロクチソトオリガイ、リュウキュウザクラ、ネジヒダカワニナ、キバウミニナ、シレナシジミは、名和（2001）の調査では比較的生息密度が高かったにもかかわらず、今回の調査では生息が確認できなかった。

崎枝湾は、名蔵湾の北側に位置する。湾奥部は、石灰岩の岩礁海岸となっており、その前面にはサンゴ礁を多く含む砂質干潟が広がる。湾の東岸中程にはクルマエビの養殖場がある。以前、湾の一部に小規模ながらヤエヤマヒルギ林が見られたが、現在ではほとんどが失われてしまった。海岸の大部分はコンクリート護岸が施されている。西平（1975）が極めて多いと報告したコンペイトウガイやイシダミアマオブネは、今回の調査では見つからなかった。これらの種はノッチの高いところに棲息しているので、今回の調査区画から外れていた可能性が高い。

川平湾は、崎枝湾の東隣の小さな湾で、黒真珠の養殖が行なわれていることで有名である。湾口部は数個の島々によって塞がれており、4 本の水路で外海と連絡している。湾口の辺りから外側にはサンゴ礁原が広がっている。湾内は湾奥を除き石灰岩の岩礁海岸であり、その前面に岸に沿って干潟が発達している。湾奥部や西岸には数本の小さな流れが注いでおり、その河口部に小規模ながらマングローブが生育している。このように、川平湾には、サンゴ礁から岩礁海岸、砂浜、砂泥底、ウミヒルモやウミジグサの海草藻場、マングローブ湿地と、サンゴ礁海域に見られる多様な環境が全て揃っている。赤土流出の影響は比較的軽微と考えられるが、無酸素水塊の発生が確認されるなど、環境悪化に対する注意が必要である。また、美しい貝類に対する採集圧も指摘されている（加

藤, 1996b). 西平 (1975) は, 川平湾口の小島北岸のビーチロック海岸と湾奥にあるキノコ岩の岩礁海岸周辺で底生動物の調査を行っている. 前者では 24 種, 後者では 43 種, 合計すると 63 種を記録している. この中には, 今回の調査では確認されなかったコビトウラウズや数が少ないイガタマキビ, あるいは, 石垣島では川平湾にだけ見られたというクジャクガイが報告されている. 一方, 今回の調査では, 101 種の底生動物の他, 海草類と海藻類がそれぞれ 3 種ずつ確認され, 西平 (1975) の調査では確認されなかった種も多い. この相違は長期的な棲息種の組成の変化というよりも, 調査地点の環境が異なる影響が大きいと考えられる. また, 西平 (1988, 1991) は, 一般向けの自然観察の手引きとなる冊子の中で, 川平湾で見ることのできる種類として 131 種の底生生物を挙げている (サンゴ礁域を除く) ことから, 広範囲の調査を複数回行うことでさらに多くの生物種が見出されることは確実であろう. 今回, タテジマユムシの巣穴に共生するナタマメケボリや, 和田ら (1996) により一時絶滅したとされたヒモイカリナマコに寄生するヒノマルズキンなどの内生生物とその共生生物が, 川平湾でかなりの頻度で確認されたことは, 干潟底生生物群集の生物多様性を示すものとして注目すべきことである.

宮良湾は, 島の南端に近い石垣空港の東側に位置し, 宮良川と磯部川が注いでいる. こども, 岸边は石灰岩の岩礁海岸で平磯になっており, ところどころに砂が堆積し, 前浜干潟を形成している. ところにより, 転石地帯も見られる. 岸边沿いは全て護岸で覆われている. 磯部川河口の右岸は大浜海岸であるが, ここは砂が盛られた人工砂浜になっている. 宮良川河口域一帯はヤエヤマヒルギを主体としてオヒルギが混じるマングローブ林が良く発達しており, 国の天然記念物に指定されている. 林内はほとんどが礫の混じる砂底で, ヤエヤマヒルギの支柱根が発達しているところは歩きにくい. 水辺で地高の低いところには部分的に泥分の多いところが見られる. 宮良川の川幅は広くはなく, 岸から流心に向かっては傾斜が強い. 西平 (1975) は, 宮良川のマングローブ林内にオキナワアナジャコの塚が極めて多かったことを報告しているが, 今回も塚は見られたものの, それほど棲息数は多くないようであった. 宮良湾の西側に注ぐ磯辺川河口部は道路拡張工事等で大分改変されてしまい, 右岸の大浜海岸は人工砂浜となっていた. 石垣島内では生貝がこの場所でしか得られていないというカワザンショウ科未記載種のエlegantカドカドは (福田, 1996a), 今回の調査では確認されなかった. また, 西平 (1975) は, 磯辺の岩礁海岸のソナレシバやイソマツの生育するところには多数のイトカケヘナタリが棲息し, イボタマキビやウズラタマキビも見られると記しているが, 現在このような場所はなくなってしまった. 同様にその前面の砂干潟に多く見られたというリュウキュウウミニナやゴマフニナ, カヤノミカニモリもここでは見られなかった. 西平 (1975) が宮良川の前面の岩礁海岸において多産すると記録している種のうち, カヤノミカニモリやマルアマオブネは今回の調査でも普通に見られたが, イボタマキビ, イシダタミアマオブネ, コゲニナ, リュウキュウウミニナ, ナガシマヤタテ, レイシガイダマシモドキなどは, 今回の調査では少ないかあるいは全く見られなかった.

西表島の干潟の現況および過去の記録との比較

浦内湾（浦内川河口）は島の北西部に位置する。浦内川は、先島諸島の中では例外的に大きな川であり（長さ: 19.4 km）、その河口域には広大なマングローブ湿地（西表島全体のマングローブ林 503 ha の 18.5%にあたる約 93ha）を有している（馬場, 2005）。その全域の自然環境は他の島に比べるとたいへんよく保たれている。これまでの調査で魚類の種多様性（浦内川だけで 407 種）がきわめて高いことが明らかにされている（鈴木・瀬能, 2005）。河口の外側には、浦内川が供給する岩石由来の砂粒子から形成された砂浜（トゥドゥマリ浜, 九州以南の唯一の「鳴き砂」の浜としても有名）が存在するが、このような砂浜も先島諸島では例外的である（奥田・山下, 2005）。しかし、近年、西表島では観光開発が急速に拡大しており、トゥドゥマリ浜にも 2004 月に大規模リゾートホテルが建設された。山下ほか (2005) は、浦内川とトゥドゥマリ浜から合計 89 種の生貝を記録している（複数の未記載種を含む）。そこには、絶滅危惧 IA 類（沖縄県, 2005）のトゥドゥマリハマグリ、絶滅危惧 IB 類のコハクオカミミガイが含まれ、また死殻の存在から絶滅危惧 IA 類のモモイロサギガイの生息も予測されているが、いずれも今回の調査では確認できなかった。

船浦は、島の北岸、浦内湾の東隣に位置する。湾奥部に広いマングローブ林が発達しているが、その前面を海中道路が横断している。西平・鈴木 (1996) は、ここでツノメチゴガニ、シモフリシオマネキ、ヒルギハシリイワガニなども記録しているが、今回の調査ではこれらの種は確認されなかった。また、名和 (2001) の 1992-1997 年の調査では、25 種の貝類が記録されているが、このうち、ミヤコドリ、ハナグモリなどは、今回の調査では確認されなかった。

星立は、島の西岸の祖納湾の奥部に位置し、与那田川河口の外側に砂質干潟が広がる。加藤 (1996c) は、ここでワダツミギボシムシの生息を報告しているが、今回の調査では確認されなかった。

前良・後良川河口は、島の東南部に位置し、隣接する仲間川河口と共に、マングローブ林がよく発達している。このうち、後良川河口では、名和 (2001) の 1992-1997 年の調査によって、40 種の貝類が記録されている。そのうち、ヒメカノコ、コゲツノブエ、キバウミニナ、カワアイ、リュウキュウザクラ、シレナシジミは、比較的高密度に生息している種にあげられているが、今回の調査では確認できなかった。

宮古島の干潟の現況および過去の記録との比較

与那覇湾は島の西岸に位置する。上地地区にはメヒルギを主体とする比較的大きなマングローブ湿地があり、そこにはイトカケヘナタリが高密度で生息していたが、そこは 1995 年までに埋め立てられてしまった（名和 2001）。名和 (2001) の 1992-1997 年における湾奥部の調査によって、61 種の貝類が記録されているが、このうち、イトカケヘナタリ、リュウキュウウミニナ、ミツカドカニモリ、ウズザクラ、アラスジケマンガイなどは、今回の調査では確認されなかった。福田 (1996b) は、湾口部（久松地区）の調査において、小河川の河口部周辺のごく狭い範囲に限って、多くの希

少な汽水産腹足類（オカミミガイ類，デリケートカドカド，ドロアワモチなど）が生息していることを記録しているが，今回の調査では，そこに列挙された希少種はいずれも確認されなかった。

参考文献

- 馬場繁幸，2005. 1970年代と1990年代の西表島浦内川マングローブ林面積の推移. 西表島浦内川流域研究会(編)西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査報告書II. Pp. 6-7.
- 福田 宏，1996a. 石垣島宮良川（石垣市宮良）・磯辺川河口（石垣市磯辺）. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. p.115.
- 福田 宏，1996b. 宮古島平良市久松漁港(久貝)～久松松原. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp. 114～115.
- Hirata, K., 1991. Benthic fauna in the Nagura lagoon and vicinity, Ishigaki Island, Okinawa Prefecture, Japan. Reports of the Faculty of Science Kagoshima University (Earth Science and Biology), 24: 121-173.
- 加藤 真，1996a. 八重山郡石垣島石垣市名蔵アンパル. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. p. 116.
- 加藤 真，1996b. 八重山郡石垣島川平湾. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. p.116.
- 加藤 真，1996c. 八重山郡西表島星立・白浜. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. pp.117～118.
- Kato, M., 1998. Morphological and ecological adaptations in montacutid bivalves endo- and ecto-symbiotic with holothurians. Canadian Journal of Zoology, 76: 1403-1410.
- 名和 純，2001. 琉球列島における内湾干潟の貝類相. WWF Japan サイエンスレポート. Vol.4, 1-44.
- 西平守孝，1975. 八重山の潮間帯～1975. 琉球大学海洋保全研究会，190p.
- 西平守孝，1988. サング礁の渚を遊ぶ～石垣島川平湾～. ひるぎ社，299p.
- 西平守孝，1991. 石垣島川平湾の自然観察. 平成2年度沖縄振興開発総合調査，八重山圏域における野外リクリエーション利用拠点整備計画調査報告書別冊，環境庁自然保護局，pp. 70.
- 西平守孝・鈴木孝男，1996. 竹富町西表島船浦. 特集：日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート. Vol. 3, p.117.

- 沖縄県文化環境部自然保護課（編），2005．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）～レッドデータおきなわ～．沖縄県文化環境部自然保護課，561 pp.
- 奥田夏樹・山下博由，2005．序-浦内川流域の自然と文化-．西表島浦内川流域研究会（編）西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査報告書 II. pp. 2-5.
- 鈴木寿之・瀬能宏，2005．西表島浦内川とトゥドゥマリ浜の魚類目録（予報）．西表島浦内川流域研究会（編）西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査報告書 II. pp. 12-22.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.
- 山下博由・名和純・福田宏・奥田夏樹，2005．西表島浦内川流域・トゥドゥマリ浜の貝類相（予報）．西表島浦内川流域研究会（編）西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査報告書 II. pp. 47-61.
- 山里祥二，1999．石垣島アンパル干潟．自然環境保全基礎調査，海域自然環境保全基礎調査，重要沿岸域生物調査報告書，環境庁自然保護局，平成 11 年 3 月，pp. 269-282.

第4章 干潟底生生物の地理的な特徴

飯島明子・和田恵次

<日本列島全域における干潟底生動物出現状況>

今回の調査で出現した底生動物は、14動物門1667種であった(巻末別表1)。内訳は、海綿動物門13種、刺胞動物門61種、扁形動物門26種、紐形動物門28種、軟体動物門576種、環形動物門288種、ユムシ動物門7種、星口動物門16種、節足動物門477種、触手動物門4種、毛顎動物門2種、半策動物門11種、棘皮動物門55種、脊索動物門103種である。

地域別の出現種数が最も多かったのは九州で、700種に達した(表4-1, 巻末別表2)。以下、沖縄で630種、中国四国で454種、近畿で380種が出現し、日本列島の西南部で特に多くの種が出現したことが明らかになった。北海道から中部東海にかけて、最も多くの種が出現したのは東北で257種、関東は190種とやや少ない傾向にあった。最も出現種が少なかった地域は小笠原であり、わずか20種を数えるのみだった。小笠原は亜熱帯域ではあっても本土から遠く離れた海洋島であること、黒潮本流からも隔たっていることにより、元々干潟生物の種数が少ないのかもしれないが、埋立によって干潟のほとんどが消失したことも、種数の少ない原因と思われる。また日本海でも出現種は少ない傾向にあった。干満差が小さく、干潟の面積が狭いことが影響していると考えられる。

それぞれの地域でのみ出現した種に着目すると、もっとも種数が多かったのは沖縄で388種であり(表4-1)、次いで九州、中国四国、北海道、近畿の順で多かった。

表4-1 各地域における出現種数

| 地域名 | 調査地数 | 出現種数 | 各地域でのみ出現した種数 |
|--------|------|------|--------------|
| 北海道 | 18 | 202 | 89 |
| 東北 | 15 | 257 | 56 |
| 日本海 | 5 | 56 | 1 |
| 関東 | 12 | 190 | 29 |
| 小笠原 | 1 | 20 | 5 |
| 中部東海 | 16 | 247 | 40 |
| 近畿 | 14 | 380 | 86 |
| 中国四国 | 19 | 454 | 113 |
| 九州 | 38 | 700 | 239 |
| 沖縄 | 19 | 630 | 388 |
| 調査地数合計 | 157 | | |

今回の調査における当初の方針では、干潟の砂や泥などの底質表面や、底質中に生息する底生動物を調査対象にしていたが、調査者によっては方形枠内の岩に生息する生物や、人工基質に付着する付着生物、塩性湿地内で観察された陸生生物、淡水が主要な分布域である生物等についても報告しているため、調査地間でこれらの生物に対する取り扱い方にばらつきが見られた。また、潮下帯が主要な分布域である種も多く見られた。これらの種の分布辺縁域としての干潟の意義はけっして無視できないが、調査地間のばらつきを最小限にし、全国データを比較して干潟生物の地理的な特徴を示すため、ここでは「狭義の干潟生物」を仮に定義し、その分布状況を示す。「狭義の干潟生物」

とは、全出現種の中から、岩礁が主要な分布域である生物・付着生物・潮下帯や陸上や淡水域が主要な分布域である生物を差し引いたものである。その中から未記載あるいは種までの同定が不可能だった生物を除き、調査地2ヶ所以上で確認された生物541種のみを対象とした(注1)。ただし、広く認知されているヨツバナスピオA型、及び、分布域が広く現存量も大きく認知度も高い *Hediste* spp. (「ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ」)は省かず含めた。また地域間の比較では、南北広域にまたがり特有の種がほとんど出現しなかった日本海の調査地を、それぞれ最も近い地域に振り分けた。

その結果北海道では、「狭義の干潟生物」は全体で66種出現し、北海道のみで出現したは18種だった(表4-2)。北海道から東北にかけて出現し、関東以南で見られなかった種は8種だったが、北海道から関東にかけて出現した種はクロガネイソギンチャクのみであった。北海道から中部東海にかけて出現した種は3種、近畿までの範囲で出現した種も2種、中国四国にかけて出現した種も4種と少なかったが、北海道から九州まで広域に出現した種は最も多く22種を数えた。また、北海道から沖縄にかけて出現した種も8種とやや多かった。

表4-2 北海道で出現した「狭義の干潟生物」

〈北海道のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|--------|------|----------------------------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | エゾザンショウ |
| | | アッケシカワザンショウ |
| | | クビキレガイモドキ |
| | | チシマタマガイ |
| | | ヒメエゾボラ |
| | 二枚貝綱 | ウバガイ |
| | | サラガイ |
| | | エゾイソシジミ |
| | | フツウギボシイソメ |
| | | イソタマシキゴカイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | キタユムシ |
| ユムシ動物門 | ユムシ綱 | エゾイサザアミ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | トゲオヨコエビ |
| | | <i>Dogielinotus moskvitini</i> |
| | | <i>Traskorchestia ochotensis</i> |
| | | <i>Platorchestia pacifica</i> |
| | | テナガホンヤドカリ |
| | | クリガニ |
| | | 種数合計 |

〈北海道～東北〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|-------------|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | ホウザワイソギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | アオモリムシロ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | ジャムシ |
| | | エゾゴカイ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | コノハエビ |
| | | クロイサザアミ |
| | | オホーツクヘラムシ |
| | | スジエビ |
| 種数合計 | | 8 |

〈北海道～関東〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|-------------|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | クロガネイソギンチャク |
| 種数合計 | | 1 |

〈北海道～中部東海〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ヤミヨキセワタ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | ハヤテシロガネゴカイ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | マルコツブムシ |
| 種数合計 | | 3 |

〈北海道～近畿〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|------------|
| 環形動物門 | 多毛綱 | オイワケゴカイ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ニッポンモバヨコエビ |
| 種数合計 | | 2 |

〈北海道～中国四国〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|----------|
| 軟体動物門 | 二枚貝綱 | ナミガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | ホソミサシバ |
| | | マダラサシバ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ヒメハマトビムシ |
| 種数合計 | | 4 |

表4-2 続き

〈北海道～九州〉

| 門 | 綱 | 種名 | | |
|---------|-------|-------------------------------|---------|----|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ホソウミナナ | | |
| | | 二枚貝綱 | ホトトギス | |
| | | バカガイ | | |
| | | サビシラトリ | | |
| | | ヒメシラトリ | | |
| | | イソシジミ | | |
| | | ヤマトシジミ | | |
| | | アサリ | | |
| | | オオノガイ | | |
| | 環形動物門 | 多毛綱 | ツルヒゲゴカイ | |
| ナガホコムシ | | | | |
| ミズヒキゴカイ | | | | |
| ユムシ動物門 | ユムシ綱 | ユムシ | | |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ニホンドロソコエビ | | |
| | | <i>Eogammarus possjeticus</i> | | |
| | | <i>Platorchestia joi</i> | | |
| | | シナコツブムシ | | |
| | | フタゲイソコツブムシ | | |
| | | ハルマンスナモグリ | | |
| | | アナジャコ | | |
| | | ケフサイソガニ | | |
| | | ラスバンマメガニ | | |
| | | 種数合計 | | 22 |

〈北海道～沖縄〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|----------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | クロスジムシロ |
| | | ヒメムシロ |
| | 二枚貝綱 | ソトオリガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | チロリ |
| | | ヤマトカワゴカイ |
| | | もしくはヒメヤマトカワゴカイ |
| | | イトメ |
| | | コアシギボシイソメ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | アリアケモドキ |
| 種数合計 | | 8 |

東北では、「狭義の干潟生物」は全体で 119 種出現し、その内、東北のみで出現した種はオロチヒモムシ 1 種のみであった（表 4-3）。東北から関東まで出現し、中部東海以南では見られなかった種も、キタフナムシ 1 種のみであり、東北から中部東海の間で出現した種は 0 だった。東北から近畿までの範囲で出現した種は 3 種、中国四国までの範囲で出現した種は 6 種だった。最も多かったのは東北から九州にかけての広い範囲で出現した種で 41 種、次いで多かったのは東北から沖縄にかけての広域に出現した 28 種だった。

表4-3 東北で出現した「狭義の干潟生物」

(東北を北限とするもの)

〈東北のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|---------|
| 紐形動物門 | 無針綱 | オロチヒモムシ |
| 種数合計 | | 1 |

〈東北～関東〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|--------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | キタフナムシ |
| 種数合計 | | 1 |

〈東北～中部東海〉
なし

〈東北～近畿〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | シゲヤサイトカケギリ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | シミズメリタヨコエビ |
| | | ホソハマトビムシ |
| 種数合計 | | 3 |

〈東北～中国四国〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|--------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | オオウスイロヘソカドガイ |
| | | ウネムシロ |
| | | コメツブガイ |
| | | マツシマコメツブ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ヒゲツノメリタヨコエビ |
| | | フサゲモクズ |
| 種数合計 | | 6 |

表4-3 続き

〈東北～九州〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|-----------------------------|
| 紐形動物門 | 無針綱 | ナミヒモムシ |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ツボミ |
| | | イボキサゴ |
| | | カワグチツボ |
| | | クリイロカワザンショウ |
| | | キントンイロカワザンショウ |
| | | ツブカワザンショウ |
| | | ヒラドカワザンショウ |
| | | カワザンショウガイ |
| | | ムシヤドリカワザンショウ |
| | | ヨシダカワザンショウ |
| | | シマメノウフネガイ |
| | | サキグロタマツメタ |
| | | ムシロガイ |
| | 二枚貝綱 | サルボウ |
| | | ムラサキイガイ |
| | | マテガイ |
| | | ウネナシトマヤガイ |
| | | ハマグリ |
| | | カガミガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | <i>Glycera pacifica</i> |
| | | オウギゴカイ |
| | | ヤマトスピオ |
| | | ツバサゴカイ |
| | | ウミイサゴムシ |
| | | ヒヤクメニッポンフサゴカイ |
| | | ヒダビル |
| | ヒル綱 | |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ワラジヘラムシ |
| | | ヨツバコツブムシ |
| | | <i>Pseudione longicauda</i> |
| | | マドカアナジャコヤドリムシ |
| | | スナモグリヤドリムシ |
| | | フナムシ |
| | | マメコブシガニ |
| | | ガザミ |
| | | モクズガニ |
| | | スネナガイソガニ |
| | | アシハラガニ |
| | | アカテガニ |
| | | スナガニ |
| | | ヤマトオサガニ |
| 種数合計 | | 41 |

〈東北～沖縄〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|-------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ウミニナ |
| | | イボウミニナ |
| | | フトヘナタリ |
| | | カワアイ |
| | | アラムシロ |
| | 二枚貝綱 | マガキ |
| | | オキシジミ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | コケゴカイ |
| | | スナイソゴカイ |
| | | ミナミシロガネゴカイ |
| | | マダラウロコムシ |
| | | スゴカイイソメ |
| | | イワムシ |
| | | ツツオオフエリア |
| | | タマシキゴカイ |
| | | シマイシビル |
| | ヒル綱 | |
| 星口動物門 | | スジホシムシモドキ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | セジロムラサキエビ |
| | | テッポウエビ |
| | | ハサミシャコエビ |
| | | ニホンスナモグリ |
| | | ヨコヤアナジャコ |
| | | ユビナガホンヤドカリ |
| | | トリウミアカイソモドキ |
| | | クロベンケイガニ |
| | | コメツキガニ |
| | | チゴガニ |
| 棘皮動物門 | ナマコ綱 | ヒモイカリナマコ |
| 種数合計 | | 28 |

関東では、「狭義の干潟生物」は全体で 111 種出現し、関東のみで出現した種は 4 種だった(表 4-4)。関東から中部東海にかけて出現したものはオニアサリ 1 種のみ、近畿まで出現した種は 2 種、中国四国までの範囲に出現した種は 2 種だった。関東から九州にかけての範囲に出現した種が最も多く 15 種、次いで沖縄までの範囲に出現したものが 11 種だった。

表4-4 関東で出現した「狭義の干潟生物」
(関東を北限とするもの)

〈関東のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|--------------------------------------|
| 軟体動物門 | 二枚貝綱 | ホンビノスガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | カタマカリギボシイソメ ヨツバナスビオ A型 ドロオニスビオ |
| 種数合計 | | 4 |

〈関東～中部東海〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|-------|
| 軟体動物門 | 二枚貝綱 | オニアサリ |
| 種数合計 | | 1 |

〈関東～近畿〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|------------------------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | コブヨコバサミ チチュウカイミドリガニ |
| 種数合計 | | 2 |

〈関東～中国四国〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|----------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ウミゴマツボ キセワタ |
| 種数合計 | | 2 |

〈関東～九州〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|----------|-------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ツメタガイ |
| | | アカニシ |
| | 二枚貝綱 | アメフラシ |
| | | シオフキ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | アシナガゴカイ |
| | | ウチワゴカイ |
| | シダレイトゴカイ | |
| 星口動物門 | スジホシムシ綱 | クロホシムシ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ムロミスナウミナナフシ |
| | | ウリタエビジャコ |
| | | テナガツノヤドカリ |
| | | イシガニ |
| | | ウモレベンケイガニ |
| | | アカホシマメガニ |
| | | オサガニ |
| 種数合計 | | 15 |

〈関東～沖縄〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|---------|---------------------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | イシマキ |
| | 二枚貝綱 | ウメノハナガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | <i>Glycera macintoshi</i> |
| | | チリメンイトゴカイ |
| | 貧毛綱 | イソミズ |
| 星口動物門 | スジホシムシ綱 | スジホシムシ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | タイワンガザミ |
| | | クシテガニ |
| | | カクベンケイガニ |
| | | ベンケイガニ |
| 脊索動物門 | 硬骨魚綱 | トビハゼ |
| 種数合計 | | 11 |

中部東海では、「狭義の干潟生物」は全体で 144 種出現し、中部東海でのみ出現した種は 3 種だった (表 4-5)。中部東海から近畿にかけて出現したものは 2 種、中国四国にかけて出現したものは 5 種であった。九州にかけて出現した種は 15 種、沖縄にかけて出現した種は最も多く 17 種だった。

表4-5 中部東海で出現した「狭義の干潟生物」
(中部東海を北限とするもの)

〈中部東海のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|--------|----------|
| 軟体動物門 | 二枚貝綱 | マシジミ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ホソヘラムシ |
| 半索動物門 | ギボシムシ綱 | ミサキギボシムシ |
| 種数合計 | | 3 |

〈中部東海～近畿〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|----------------------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | イソコツブムシ クボミテッポウエビ |
| 種数合計 | | 2 |

〈中部東海～中国四国〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|--------|------|---------------|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | ニンジンイソギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ネコガイ |
| | | ヒモイカリナマコツマミガイ |
| | | ウミフクロウ |
| ユムシ動物門 | ユムシ綱 | ミドリユムシ |
| 種数合計 | | 5 |

表4-5 続き

〈中部東海～九州〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|---|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | イシワケイソギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ワカウラツボ オカミミガイ キヌカツギハマシイノミ センベイヤワモチ |
| | 二枚貝綱 | コウロエンカワヒバリガイ ナミマガシワ ヒシガイ クチバガイ オチバガイ シオヤガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | ヤマトキョウスチロリ ヤチウロコムシ ムギワラムシ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ウモレマメガニ |
| 種数合計 | | 15 |

〈中部東海～沖縄〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|--|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | マキガイイソギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | カノコガイ ヒロクチカノコ コゲツノブエ ヘナタリ クリイロコミミガイ クログチ アコヤガイ スジホシムシヤドリガイ ユウシオガイ ハザクラ イオウハマグリ クシケマスオ |
| | 二枚貝綱 | |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ムツアシガニ ハマガニ ヒメアシハラガニ ユビアカベンケイガニ |
| 種数合計 | | 17 |

近畿では、「狭義の干潟生物」は全体で 192 種出現し、近畿のみで出現した種は 3 種、近畿から中国四国にかけて出現した種は 11 種だった（表 4-6）。九州にかけて出現した種は最も多く 28 種、次いで多かったのは沖縄までの範囲に出現した種で 24 種だった。

表4-6 近畿で出現した「狭義の干潟生物」

(近畿を北限とするもの)

〈近畿のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|---------------------------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | モズミヨコエビ ウミミズムシ ヨシエビ |
| 種数合計 | | 3 |

〈近畿～中国四国〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|---|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | サザナミツボ コビトウラウス カキウラクチキレモドキ クチキレガイ コヤスツララ トゲアメフラシ |
| | 二枚貝綱 | ニッポンマメアゲマキ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ハバヒロコツブムシ スジエビモドキ パルスアナジャコ トウヨウヤワラガニ |
| 種数合計 | | 11 |

〈近畿～九州〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----------|--|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | タケノコカワナ マルウスラタマキビ ツブカワザンショウ ハギノツユ ムギガイ ヒガタヨコイトカケギリ |
| | 二枚貝綱 | タイラギ サクラガイ ミガキヒメザラ シズクガイ コオキナガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | ナガウロコムシ ニッポンオフェリア |
| 星口動物門 | サメハダホシムシ綱 | アンチラサメハダホシムシ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ナナツバコツブムシ イワホリコツブムシ クルマエビ シラタエビ フトオビイソテッポウエビ ヤドリカニダマシ トゲノコギリガザミ コオウギガニ チゴイワガニ ヒメケフサイソガニ ヒメベンケイガニ オオシロピンノ ハクセンシオマネキ カワスナガニ |
| 種数合計 | | 28 |

表4-6 続き

〈近畿～沖縄〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|---|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | オヨギソギンチャク |
| 軟体動物門 | 二枚貝綱 | ミヤコドリ チゴバカガイ ユキガイ アシベマスオ タガソデモドキ スダレハマグリ ヒメアサリ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | クマドリゴカイ イシイソゴカイ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | モエビ ユビナガスジエビ オトヒメテッポウエビ マングローブテッポウエビ イソテッポウエビ キンセンガニ マキトラノオガニ オウギガニ タイワンヒライソモドキ ヒメヒライソモドキ フタバカクガニ シオマネキ ヒメヤマトオサガニ |
| 脊索動物門 | 硬骨魚綱 | チワラスボ |
| 種数合計 | | 24 |

中国四国では、「狭義の干潟生物」は全体で 239 種出現した。中国四国のみで出現した種は 4 種だったが、九州にかけて出現した種は最も多く 24 種、次いで中国四国から沖縄まで出現した種が 14 種だった (表 4-7)。

表4-7 中国四国で出現した「狭義の干潟生物」
(中国四国を北限とするもの)

〈中国四国のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------------|----------------------------|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | アダムスタマガイ ウスコミミガイ |
| 節足動物門 | 顎脚綱 軟甲綱 | アナジャコフクロムシ シンジコスナウミナナフシ |
| 種数合計 | | 4 |

〈中国四国～九州〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------------|---|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | スナイソギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | クロヘナタリ シマヘナタリ ゴマフダマ マクラガイ ナラビオカミミガイ |
| | 二枚貝綱 | ササゲミミエガイ アカガイ クイチガイサルボウ コケガラス チリハギガイ マゴコロガイ テリザクラ ムラサキガイ キヌタアゲマキ テナガダコ |
| 環形動物門 | 頭足綱 多毛綱 | フサウスウロコムシ ミナミエラコ |
| 星口動物門 | サメハダホシムシ綱 | サメハダホシムシ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | トゲアシヒライソモドキ フタバピンノ ギボシマメガニ メナシピンノ |
| 触手動物門 | 腕足綱 | ミドリシャミセンガイ |
| 種数合計 | | 24 |

表4-7 続き

〈中国四国〜沖縄〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|--------|--|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | ムシモドキギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | ヒメカノコ ナギサノシタタリ ドロアワモチ |
| | 二枚貝綱 | ハボウキガイ シロバトガイ ハナグモリ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | フサウスウロコムシ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | フトミソエビ ツメナガヨコバサミ コワタクズガニ イボガザミ フジテガニ |
| 棘皮動物門 | クモヒトデ綱 | カキクモヒトデ |
| 種数合計 | | 14 |

九州では、「狭義の干潟生物」は全体で 330 種出現した。九州のみで出現した種は 35 種であり、その中には有明海固有種が多く含まれる（表 4-8）。また九州から沖縄にかけて出現した種も多く、46 種であった。

表4-8 九州で出現した「狭義の干潟生物」
(九州を北限とするもの)

〈九州のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|--|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | ハナワケイソギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | アズキカワザンショウ トライミズゴマツボ マルテンスマツムシ ウネハナムシロ カラムシロ ウミマイマイ ヤベガワモチ |
| | 二枚貝綱 | ハイガイ ヒバリガイ ニセマガキ アリアケケボリ ヒナノズキン タイワンシジミ ヒラタヌマコダキガイ |

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|--|
| 環形動物門 | 多毛綱 | ヒナサキチロリ アリアケカワゴカイ トゲイカリナマコウロコムシ ハモチウロコムシ モロテゴカイ ホソイトゴカイ チマキゴカイ カンテンフサゴカイ ニッポンフサゴカイ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ハシボソテッポウエビ イッカクモガニ アリアケヤワラガニ ヒメムツアシガニ ヨコナガモドキ ヨコナガピンノ オオヨコナガピンノ ハラグクレチゴガニ アリアケガニ |
| 棘皮動物門 | ナマコ綱 | トゲイカリナマコ |
| 脊索動物門 | 硬骨魚綱 | ムツゴロウ |
| 種数合計 | | 35 |

表4-8 続き

〈九州～沖縄〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|--------|------|---|
| 刺胞動物門 | 花虫綱 | キクメイシモドキ ミナミムシモドキギンチャク |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | カヤノミカニモリ イトカケヘナタリ ヒメウズラタマキビ ハウシュノタマ イモフデガイ |
| | 二枚貝綱 | エガイ ミミエガイ オハグロガキ リュウキュウアリソガイ ハスメザクラ イチョウシラトリ マスオガイ アラスジケマン ニオガイ |
| 環形動物門 | 多毛綱 | ウロコサンバ <i>Glycera onomichiensis</i> キレコミゴカイ ナガギボシイソメ |
| ユムシ動物門 | ユムシ綱 | タテジマユムシ |

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|------|---|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | コトゲフトユビシヤコ ツノメエビ オキナワアナジャコ コブシアナジャコ アンパルツノヤドカリ タテジマヨコバサミ アマミマメコブシガニ ノコギリガザミ サメハダヒメガザミ ケブカガニ ヒヅメガニ オキナワヒライソガニ タイワンアシハラガニ ミナミコメツキガニ ハサミカクレガニ ツノメガニ ヒメシオマネキ オキナワハクセンシオマネキ ツノメチゴガニ メナガオサガニ ミナミメナガオサガニ ミナミオサガニ フタハオサガニ |
| 棘皮動物門 | ナマコ綱 | ニセクロナマコ |
| 脊索動物門 | 硬骨魚綱 | ミナミトビハゼ |
| 種数合計 | | 46 |

沖縄では、「狭義の干潟生物」は全体で 268 種出現したが、その内、沖縄のみで出現した種が、帯性・熱帯性の種を中心に 118 種に達した（表 4-9）。

表4-9 沖縄で出現した「狭義の干潟生物」
(沖縄を北限とするもの)

〈沖縄のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|---|
| 海綿動物門 | | <i>Cliona inconstans</i> |
| 軟体動物門 | 腹足綱 | マングローブアマガイ ニセヒロクチカノコ シマカノコ ウミニナカニモリ ミツカドカニモリ タケノココニモリ キバウミニナ マドモチウミニナ ネジヒダカワニナ ホソスジウズラタマキビ イロタマキビ ウズラタマキビ タイワンタマキビ オイランカワザンショウ クビキレガイ オハグロガイ ネジマガキ ナツメモドキ キイロダカラ ハナピラダカラ クチグロタマガイ |

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|---|
| 軟体動物門 | 腹足綱 | カスリモミジヒトデヤドリニナ ウネレイシダマシ コイワニシ フトコロガイ アツムシロ アワムシロ オオカニノテムシロ シマベッコウバイ マダライモ オオクチキレ ネコノミミクチキレ ナガオカミミガイ ウラシマミミガイ コハクオカミミガイ デンジハマシイノミガイ チビハマシイノミガイ ホソハマシイノミガイ ヌノメハマシイノミガイ キヌメハマシイノミガイ マダラヒラシイノミガイ イソアワモチ ゴマセンペイアワモチ |

表4-9 続き

〈沖縄のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 | 門 | 綱 | 種名 | | |
|-------|---------|---------------------------|----------|--------|----------------------------------|---------------------------|------------|
| 軟体動物門 | 二枚貝綱 | ホソスジヒバリ | 節足動物門 | 軟甲綱 | <i>Pullosquilla littoralis</i> | | |
| | | ヘリトリアオリ | | | リュウキュウフナムシ | | |
| | | マクガイ | | | リュウキュウタマワラジムシ | | |
| | | ニワトリガキ | | | トウゾクテッポウエビ | | |
| | | イワカワハゴロモ | | | カワテッポウエビ(仮称) | | |
| | | シロスジナデシコ | | | オキナワアナジャコ(塚) | | |
| | | オハグログキモドキ | | | ヤハズアナエビ | | |
| | | カブラツキガイ | | | <i>Corallichirus tridentatus</i> | | |
| | | ヒメツキガイ | | | マルテツノヤドカリ | | |
| | | ヒノマルズキン | | | ツマジロサンゴヤドカリ | | |
| | | ウロコガイ | | | スベスベサンゴヤドカリ | | |
| | | ナタマメケボリ | | | ナキオカヤドカリ | | |
| | | カワラガイ | | | ソデカラッパ | | |
| | | エマイポタン | | | コモンガニ | | |
| | | リュウキュウザルガイ | | | ミナミベニツケガニ | | |
| | | タママキ | | | ヒメフタハベニツケガニ | | |
| | | リュウキュウバカガイ | | | アマミベニツケガニ | | |
| | | イソハマグリ | | | カノコセビロガニ | | |
| | | トガリュウシオガイ | | | ヤクジャマガニ | | |
| | | リュウキュウシラトリ | | | スエヒロイボテガニ | | |
| | | リュウキュウザクラ | | | ミナミオカガニ | | |
| | | ヒメニッコウガイ | | | ハシリイワガニ | | |
| | | ヘラサギガイ | | | クイラハシリイワガニ | | |
| | | サメザラモドキ | | | ケフサヒライソモドキ | | |
| | | <i>Psammotaea inflata</i> | | | コウナガイワガニモドキ | | |
| | | シレナシジミ | | | ミナミヒライソモドキ | | |
| | | ヤエヤマスダレ | | | ミゾテアシハラガニ | | |
| | | ヒメリュウキュウアサリ | | | キノボリベンケイガニ | | |
| | | ヒロクチソトオリガイ | | | <i>Parasesarma</i> 属の1種 | | |
| | | 環形動物門 | | | 多毛綱 | <i>Glycera tridactyla</i> | オオベンケイガニ |
| | | 星口動物門 | | | スジホシムシ綱 | アマクサイソメ | ヤエヤマシオマネキ |
| | | | | | | ツノスピオ | ルリマダラシオマネキ |
| | | | | | | ハカマタテタケフシゴカイ | シモフリシオマネキ |
| 星口動物門 | スジホシムシ綱 | アマミスジホシムシモドキ | ヨコスジオサガニ | | | | |
| 星口動物門 | スジホシムシ綱 | ミナミスジホシムシモドキ(仮称) | 半索動物門 | ギボシムシ綱 | ヒメギボシムシ | | |
| 棘皮動物門 | ヒトデ綱 | ウニ綱 | ツマジロナガウニ | | | | |
| | | ナマコ綱 | クロナマコ | | | | |
| | | ハネジナマコ | | | | | |
| 種数合計 | | | | | 118 | | |

小笠原では、「狭義の干潟生物」は 11 種出現した(調査地が 1 ヶ所のみだったため、小笠原だけは 1 ヶ所以上で出現した種を扱う)。小笠原のみで出現した種は 2 種であり、8 種が沖縄と共通する亜熱帯性の種であった(表 4-10)。

表4-10 小笠原で出現した「狭義の干潟生物」

〈小笠原のみ〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|---------|-------------|
| 星口動物門 | タテホシムシ綱 | ミューラータテホシムシ |
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ヒライソモドキ |
| 種数合計 | | 2 |

〈関東～沖縄、小笠原〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|-------|
| 環形動物門 | 貧毛綱 | イツミミズ |
| 種数合計 | | 1 |

〈中部東海～九州、小笠原〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|-----------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ムツハアリアケガニ |
| 種数合計 | | 1 |

〈中部東海～沖縄、小笠原〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|---------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | シワオウギガニ |
| 種数合計 | | 1 |

〈九州～沖縄、小笠原〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|------------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ブビエスナモグリ |
| | | ハシリイワガニモドキ |
| | | ミナミアシハラガニ |
| | | ベニシオマネキ |
| 種数合計 | | 4 |

〈沖縄、小笠原〉

| 門 | 綱 | 種名 |
|-------|-----|------------|
| 節足動物門 | 軟甲綱 | ツマキヨコバサミ |
| | | フタハベニツケモドキ |
| 種数合計 | | 2 |

上記をまとめると、「狭義の干潟生物」の出現種数が最も多かったのは九州，次いで沖縄，中国四国，近畿，東北，関東，北海道，小笠原の順であり，やはり日本列島の南西部で種数が多いという結果になった（表 4-11）。

各地域のみで出現した「狭義の干潟生物」（ここでは仮に地域特有种と呼ぶ）の種数が，各地域で出現した種数合計に占める割合（地域特有种の地域内比率）を見ると，沖縄は最も多く，出現種の内 44.0%が沖縄でのみ出現していた（表 4-11）。次に地域特有种の地域内比率が高かったのは北海道で，27.3%，その次は小笠原で 18.2%，そして九州の 10.6%と続いた。亜熱帯性・熱帯性の種が多い沖縄や，固有の生物相で知られる有明海を含む九州のみならず，北方系の特有の種を擁する北海道も，地域特有种が高い比率で出現しているという点でユニークであり，日本列島全体の干潟生物の多様性に貢献していると言えよう。

九州と沖縄では，地域特有の種が多いだけでなく，他地域も含んだ広い範囲に分布する種も多かった。「狭義の干潟生物」の中で，各地域から九州もしくは沖縄まで出現した種（ここでは仮に広域分布種と呼ぶ）を拾い出し，該当地域の出現種数全体に占める割合（広域分布種の地域内比率）を見ると，最も低い中国四国でさえ全体の 15.9%を占めていた（表 4-11）。広域分布種の比率が最も高かったのは東北で，地域全体の出現種の 58.0%が，九州もしくは沖縄まで出現した種だった。残りの地域でも，広域分布種は「狭義の干潟生物」の 22.2%～54.5%に達していた。これらの種には，サハリン・アラスカ・カナダなど太平洋北部を中心に分布している種（例えばヒメシラトリなど，松隈，2000）も含まれるが，東南アジア以北に分布する種も多く（例えばホトトギスやヒメムシロなど，黒住，2000；土屋，2000），黒潮あるいは対馬暖流による幼生移送が分布域の決定に大きな役割を果たしていると考えられる。

表4-11 地域特有種および広域分布種の種数と比率

| 地域 | 合計種数 | 地域特有種 | | 広域分布種 | |
|------|------|-------|----------|-------|----------|
| | | 種数 | 地域内比率(%) | 種数 | 地域内比率(%) |
| 北海道 | 66 | 18 | 27.3 | 30 | 45.5 |
| 東北 | 119 | 1 | 0.8 | 69 | 58.0 |
| 関東 | 111 | 4 | 3.6 | 26 | 23.4 |
| 中部東海 | 144 | 3 | 2.1 | 32 | 22.2 |
| 近畿 | 192 | 3 | 1.6 | 52 | 27.1 |
| 中国四国 | 239 | 4 | 1.7 | 38 | 15.9 |
| 九州 | 330 | 35 | 10.6 | - | - |
| 沖縄 | 268 | 118 | 44.0 | - | - |
| 小笠原 | 11 | 2 | 18.2 | 6 | 54.5 |

広域分布種の全部が、出現範囲のすべての地域から万遍なく発見された訳ではない。今回の調査での出現範囲の間で、出現の見られなかった広い空白地域が存在した種は、例えば、マキガイイソギンチャク（刺胞動物門花虫綱）、ナミヒモムシ（紐形動物門無針綱）、イボウミニナ、ヨシダカワザンショウ、カワグチツボ、ムシロガイ、クロスジムシロ、ヒメムシロ、オカミミガイ、クリイロコミミガイ、キヌカツギハマシイノミ、センベイヤワモチ（以上軟体動物門腹足綱）、ナミマガシワ、シオヤガイ、ハマグリ、スジホシムシヤドリガイ、イオウハマグリ（以上二枚貝綱）、*Glycera pacifica*、オウギゴカイ、ウチワゴカイ、ツルヒゲゴカイ、ミナシロガネゴカイ、マダラウロコムシ、イワムシ、ナガホコムシ、シダレイトゴカイ、ヒヤクメニッポンフサゴカイ（以上環形動物門多毛綱）、イソミミズ（貧毛綱）、ヒダビルとシマイシビル（ヒル綱）、ユムシ（ユムシ動物門ユムシ綱）、スジホシムシとスジホシムシモドキ（星口動物門スジホシムシ綱）、ムロミスナウミナナフシ、ワラジヘラムシ、ウリタエビジャコ、セジロムラサキエビ、スネナガイソガニ、ムツアシガニ、トリウミアカイソモドキ（以上節足動物門軟甲綱）などである（巻末別表 2）。分布域が分断している場合、集団間の交流低下により、個々の地域個体群のさらなる衰退の進行が危惧される。そのため空白地域におけるこれらの種の生息状況と、各地域個体群における新規加入群の加入状況は、今後精査する必要がある。またこれら広域分布種の分散力を把握するために、幼生の浮遊期間に関する知見の蓄積が必要であり、今後の研究と情報整備が待たれる。

<塩性湿地・マングローブ湿地に生息する底生動物の全国的な分布状況>

かつて干潟の後背域に普通に存在していた塩生植物の植生域、即ち塩性湿地・マングローブ湿地は、埋立や河川からの土砂供給の減少により、失われたり面積が縮小するなど、全国で危機的な状況にある。そのため植生域固有の生物も、生息場所の減少と共に減少し、地域的絶滅が起きるなど危険な状態にあると言われている。今回の調査では、塩性湿地・マングローブ湿地を分布中心とする種は、軟体動物門腹足綱吸腔目キバウミニナ科・ワカウラツボ科・サザナミツボ科・カワザンショウ科・クビキレガイ科・イツマデガイ科・ミズゴマツボ科・異旋目トウガタガイ科・有肺目オカミミガイ科・ドロアワモチ科・節足動物門軟甲綱端脚目ハマトビムシ科・十脚目モクズガニ科・ペンケイガニ科で合計 78 種出現した（表 4-12）。ではこれらの種は、どれほど危険な状態にあると言えるだろうか（注 2）。

表4-12 塩性湿地・マングローブ湿地の底生動物の全国的分布状況

○; 1ヶ所のみで出現、●; 2ヶ所以上で出現

| 綱 | 目 | 科 | 種名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 中部 東海 | 近畿 | 中国 四国 | 九州 | 沖縄 | 小笠原 | | |
|--------------|------------|---------------|----------------------------------|--------|----|----|----------|----|----------|----|----|-----|---|---|
| 腹足綱 | 吸腔目 | キバウミニナ科 | クロヘナタリ | | | | | | ● | ● | | | | |
| | | | シマヘナタリ | | | | | | ● | ● | | | | |
| | | | フトヘナタリ | | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| | | | ヘナタリ | | ● | | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | |
| | | | カワアイ | | ● | | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | | |
| | | | キバウミニナ | | | | | | | | | | ● | |
| | | | マドモチウミニナ | | | | | | | | | | ● | |
| | | | ワカウラツボ科 | ワカウラツボ | | | | | ● | ● | ● | ● | | |
| | | | カワグチツボ | | ○ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| | | | マンガルツボ | | | | | | | | | | ○ | |
| | サザナミツボ科 | サザナミツボ | | | | | | ○ | ● | | | | | |
| | カワザンショウ科 | クリイロカワザンショウ | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | | オオクリイロカワザンショウ | | | | | | | | | ● | | | |
| | | ツブカワザンショウ | | ● | | | | ● | ● | ● | ● | | | |
| | | ヒラドカワザンショウ | | ● | ● | | | ● | ● | ● | ● | | | |
| | | カワザンショウガイ | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | | ムシヤドリカワザンショウ | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | | ヨシダカワザンショウ | | ● | | | ○ | | ● | | ○ | | | |
| | | アズキカワザンショウ | | | | | | | | | ● | | | |
| | クビキレガイ科 | クビキレガイ | | | | | | | | | | | ● | |
| | | ヤマトクビキレガイ | | | ○ | | | | | | | | | |
| | イツマデガイ科 | クビキレガイモドキ | | ● | | | | | | | | | | |
| | ミズゴマツボ科 | ウミゴマツボ | | | | ○ | ○ | ● | ● | ● | | | | |
| | | ミヤジマウミゴマツボ | | | | | | | | ○ | | | | |
| | 異旋目 | トウガタガイ科 | カキウラクチキレモドキ | | | | | ○ | ● | | | | | |
| | 有肺目 | オカミミガイ科 | ナラビオカミミガイ | | | | | | | ● | ● | | | |
| | | | ナガオカミミガイ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | | カタシノミミガイ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | | ウラシマミミガイ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | | シノミミガイ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | | コハクオカミミガイ | | | | | | | | | | ● | |
| | | | オカミミガイ | | | | | ● | | ● | ● | | | |
| ウスコミミガイ | | | | | | | | | ● | ● | | | | |
| クリイロコミミガイ | | | | | | | ○ | | ● | ● | | ● | | |
| ヘソアキコミミガイ | | | | | | | | | ● | ● | | ○ | | |
| デンジハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| ハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| チビハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| キヌカツギハマシノミガイ | | | | | | | ○ | | ● | ● | | ○ | | |
| ツヤハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| ホソハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| ヌノメハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| キヌメハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| オウトウハマシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| ナギサノシタタリ | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| オキヒラシノミガイ | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| クロヒラシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| マダラヒラシノミガイ | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| ドロアワモチ科 | | | ドロアワモチ | | | | | | | ○ | | | | ● |
| | | | ヤベガワモチ | | | | | | | | | ● | | |
| | | | キナコアワモチ | | | | | | | | | | | ○ |
| | | | ゴマセンベイアワモチ | | | | | | | | | | | ○ |
| | センベイアワモチ | | | | | | | | ● | ● | | ○ | | |
| 軟甲綱 | 端脚目 | ハマトビムシ科 | <i>Traskorchestia ochotensis</i> | ● | | | | | ○ | ● | | | | |
| | | | <i>Platorchestia joi</i> | ○ | ○ | | | | ● | ● | | | | |
| | | | ニホンヒメハマトビムシ | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | ヒメハマトビムシ | ● | ● | ● | | ● | ● | | | | | |
| | | | <i>Platorchestia pacifica</i> | ● | | | | | | | | | | |
| | | | ホソハマトビムシ | | ○ | | | | | | | | | |
| 十脚目 | モクズガニ科 | ハマガニ | | | | | ○ | ● | ● | ● | | ● | | |
| | | アシハラガニ | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | | ヒメアシハラガニ | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | | |
| | | ミナミアシハラガニ | | | | | | | | | ○ | | | |
| | | タイワンアシハラガニ | | | | | | | | | ○ | | | |
| | | ミソテアシハラガニ | | | | | | | | | | ○ | | |
| | | アカテガニ | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | | クロベンケイガニ | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| | | クシテガニ | | | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| | | カクベンケイガニ | | | ● | | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| ベンケイガニ科 | ユビアカベンケイガニ | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | キノボリベンケイガニ | | | | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | フタバカクガニ | | | | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | |
| | オオベンケイガニ | | | | | | | ● | ● | ● | ● | | | |
| | ベンケイガニ | | | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | | | |
| | ヒメベンケイガニ | | | | | | | ● | ○ | ○ | | | | |
| | アシハラガニモドキ | | | | | | | | | | ○ | | | |
| | ウモレベンケイガニ | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | |
| | フジテガニ | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 合計 | | | | | | | | | | | 78種 | | |

これらの種の出現地域数に着目すると、1 地域でのみ出現した種が最も多く、37 種に上った。2 地域でのみ出現した種は 8 種、3 地域で出現した種は 7 種、4 地域で出現した種は 7 種、5 地域で出現した種は 8 種、6 地域で出現した種は 9 種であった。最も多くの地域にまたがって確認されたのはフトヘナタリ（吸腔目キバウミニナ科）とクロベンケイガニ（十脚目ベンケイガニ科）で、フトヘナタリは東北から沖縄にかけて、クロベンケイガニは東北から九州にかけての 7 地域で出現していた。

ここで、これらの種の出現状況に注目し、以下のとおり出現地域数・出現調査地数によるカテゴリ分けを行った。（表 4-13 参照）

- A) 1 地域・1 調査地でのみ出現した種。
- B) 複数の地域から出現したが、すべての地域で 1 調査地からのみ報告された種。
- C) 複数の地域から出現したが、1 つ以上の地域で 1 調査地からのみ報告された種。
- D) 共通種の多い東北・関東・中部東海・近畿・中国四国・九州の 6 地域の内、4 地域以下で出現した種。
- E) 上記 6 地域の内、5 地域以上で出現し、すべての地域で複数の調査地から報告された種。
- F) 地域特有種の多い地域（北海道・九州・沖縄）の複数調査地で出現した種。

一般的に、より複数の地域・調査地で出現した種に比べ、出現地域・調査地が少ない種の方が、絶滅の危険度が高いと考えられる。そこで本報告書では、仮の位置づけとして絶滅の危険度を次のように表現した。

カテゴリ A)～B) : 「非常に危険」,

カテゴリ C)～D) : 「危険」,

カテゴリ E) : 「危険は少ない」

なお、カテゴリ F) は、元来の分布域が狭いことから、出現地域数が少ないことがそのまま該当種の絶滅のおそれを示すわけではないため、「危険度不明」と位置づけた。

表4-13 塩性湿地・マングローブ湿地の底生動物における危険度

A) 1地域・1調査地でのみ出現した種
(非常に危険)

| 綱 | 目 | 科 | 種名 | | | |
|-------------------|-----|---------|--------------|------------|---------|-------------|
| 腹足綱 | 吸腔目 | ワカウラツボ科 | マンガルツボ | | | |
| | | クビキレガイ科 | ヤマトクビキレガイ | | | |
| | | ミズゴマツボ科 | ミヤジマウミゴマツボ | | | |
| | 有肺目 | オカミミガイ科 | カタシイノミミミガイ | | | |
| | | | シイノミミミガイ | | | |
| | | | ヘソアキコミミガイ | | | |
| | | | ハマシイノミガイ | | | |
| | | | ツヤハマシイノミガイ | | | |
| | | | オウトウハマシイノミガイ | | | |
| | | | オキヒラシイノミガイ | | | |
| | | | クロヒラシイノミガイ | | | |
| | | | ドロアワモチ科 | キナコアワモチ | | |
| | | | 軟甲綱 | 端脚目 十脚目 | ハマトビムシ科 | ニホンヒメハマトビムシ |
| | | | | | モクズガニ科 | アシハラガニモドキ |
| 種数合計 | | | 14 | | | |
| 塩性湿地全種(78種)に占める割合 | | | 17.9% | | | |

B) 複数の地域から出現したが、すべての地域で1調査地からのみ
報告された種(非常に危険)

| 綱 | 目 | 科 | 種名 |
|-------------------|-----|---------|----------|
| 腹足綱 | 有肺目 | オカミミガイ科 | ナギサノシタタリ |
| 軟甲綱 | 端脚目 | ハマトビムシ科 | ホソハマトビムシ |
| | 十脚目 | ベンケイガニ科 | フジテガニ |
| 種数合計 | | | 3 |
| 塩性湿地全種(78種)に占める割合 | | | 3.8% |

C) 複数の地域から出現したが、
1つ以上の地域で1調査地からのみ報告された種(危険)

| 綱 | 目 | 科 | 種名 | | |
|-------------------|---------|---------|------------|---------------|--------------------------|
| 腹足綱 | 吸腔目 | キバウミニナ科 | フトヘナタリ | | |
| | | | ヘナタリ | | |
| | | | カワアイ | | |
| | | ワカウラツボ科 | カワグチツボ | | |
| | | | サザナミツボ科 | サザナミツボ | |
| | | | カワザンショウ科 | ヨシダカワザンショウ | |
| | | | ミズゴマツボ科 | ウミゴマツボ | |
| | | 異旋目 | トウガタガイ科 | カキウラクチキレモドキ | |
| | | | | オカミミガイ科 | クリイロコミミガイ |
| | | 有肺目 | オカミミガイ科 | キヌカツギハマシイノミガイ | |
| | | | | ドロアワモチ科 | ドロアワモチ |
| | | | | センベリアワモチ | |
| | | 軟甲綱 | 端脚目 | ハマトビムシ科 | <i>Platorchestia joi</i> |
| | | | | モクズガニ科 | ハマガニ |
| 十脚目 | ベンケイガニ科 | | ヒメアシハラガニ | | |
| | | | ミナミアシハラガニ | | |
| | | | タイワンアシハラガニ | | |
| | | | クシテガニ | | |
| | | | カクベンケイガニ | | |
| | | | ベンケイガニ | | |
| | | | ヒメベンケイガニ | | |
| | | | 種数合計 | | |
| 塩性湿地全種(78種)に占める割合 | | | 26.9% | | |

D) 共通種の多い東北・関東・中部東海・近畿・中国四国・九州の6地域の内、4地域以下で出現した種（危険）

| 綱 | 目 | 科 | 種名 |
|-------------------|-----|----------|--------------------------------|
| 腹足綱 | 吸腔目 | キバウミニナ科 | クロヘナタリ シマヘナタリ |
| | | ワカウラツボ科 | ワカウラツボ |
| | 有肺目 | カワザンショウ科 | ツブカワザンショウ |
| | | オカミミガイ科 | ナラビオカミミガイ オカミミガイ ウスコミミガイ |
| 軟甲綱 | 十脚目 | ベンケイガニ科 | フタバカクガニ |
| 種数合計 | | | 8 |
| 塩性湿地全種（78種）に占める割合 | | | 10.3% |

E) 共通種の多い東北・関東・中部東海・近畿・中国四国・九州の6地域の内、5地域以上で複数調査地から報告された種（危険は少ない）

| 綱 | 目 | 科 | 種名 | | | |
|-------------------|-----|----------|--|------------|---------|----------|
| 腹足綱 | 吸腔目 | カワザンショウ科 | クリイロカワザンショウ ヒラドカワザンショウ カワザンショウガイ ムシヤドリカワザンショウ | | | |
| | | | 軟甲綱 | 端脚目 十脚目 | ハマトビムシ科 | ヒメハマトビムシ |
| | | | | | モクズガニ科 | アシハラガニ |
| | | ベンケイガニ科 | アカテガニ クロベンケイガニ ユビアカベンケイガニ ウモレベンケイガニ | | | |
| 種数合計 | | | 10 | | | |
| 塩性湿地全種（78種）に占める割合 | | | 12.8% | | | |

F) 地域固有種の多い地域（北海道、九州、沖縄）のみで複数の調査地に出現した種（危険度不明）

| 綱 | 目 | 科 | 種名 | | | | |
|-------------------|-----|---------|--------------------|---|----------------------|---------|---|
| 腹足綱 | 吸腔目 | キバウミニナ科 | キバウミニナ マドモチウミニナ | | | | |
| | | | カワザンショウ科 | オオクリイロカワザンショウ アズキカワザンショウ | | | |
| | | クビキレガイ科 | | クビキレガイ | | | |
| | | イツマデガイ科 | | クビキレガイモドキ | | | |
| | | 有肺目 | オカミミガイ科 | ナガオカミミガイ ウラシマミミガイ コハクオカミミガイ デンジハマシイノミガイ チビハマシイノミガイ ホソハマシイノミガイ ヌノメハマシイノミガイ キヌメハマシイノミガイ マダラヒラシイノミガイ | | | |
| | | | | ドロアワモチ科 | ヤベガワモチ ゴマセンベイヤワモチ | | |
| | | | | 軟甲綱 | 端脚目 | ハマトビムシ科 | <i>Traskorchestia ochotensis</i> <i>Platorchestia pacifica</i> |
| | | | | | | 十脚目 | モクズガニ科 |
| | | | | | | | ベンケイガニ科 |
| | | | | 種数合計 | | | 22 |
| 塩性湿地全種（78種）に占める割合 | | | 28.2% | | | | |

その結果、塩性湿地・マングローブ湿地を主な生息域とする 78 種の実に 59.0%がカテゴリ A～D（非常に危険～危険）に相当し、非常に危険と思われるカテゴリ A・B に含まれる種だけでも全体の 21.8%に上った。カテゴリ E（危険は少ない）に入るものはわずか 12.8%だった。

また、カテゴリ Eに含まれる種でも、地域によっては危険な状態と言えるものもあった。例えばアカタガニは、関東では東京湾奥部では全く出現していなかった。またカワザンショウは、今回の干潟調査の後で行われた東京湾小櫃川河口干潟の調査において、5名以上による熱心な踏査によってもわずか数個体しか発見できず、東京湾で地域的絶滅の危機に瀕していると考えられる。

カテゴリ Fの内、沖縄でのみ出現した種は 29 種であり、これらは亜熱帯域を主な生息域としているため、他地域では出現しなかったのであろう。また、九州でのみ出現したアズキカワザンショウ（吸腔目カワザンショウ科）とヤベガワモチ（有肺目ドロアワモチ科）の 2 種は、両者とも国内では有明海特有の種であり、今回の調査でも有明海沿岸からのみ見いだされた。これらの種は、現在は危険な状況ではないかもしれないが、分布域自体が限られているため、当該分布域における生息地の保全が重要である。

上記のカテゴリは塩性湿地・マングローブ湿地の底生生物の分布の現況を示すものではあるが、これだけでは絶滅の危険度を過小評価する恐れもある。より正確に絶滅の危険度を評価するためには、時間軸を取り入れ、数年単位、あるいは 10 年単位での各種の分布の変化を追跡する必要がある。例えば、北海道でのみ発見されたクビキレガイモドキ（吸腔目クビキレガイ科）は、今回の調査では北海道内で複数の調査地に出現したものの、他の地域では出現しなかったためカテゴリ F（危険度不明）に分類したが、「青森県以北、北海道、千島列島、瀬戸内海」に分布するという報告があり（長谷川、2000）、地域的絶滅と分布域の縮小が起きている可能性もある。過去における分布情報が不足している種については、今後注意深く分布域の調査を続ける必要がある。

また、例えばフトヘナタリは、関東から東北にかけてのいくつかの個体群で新規加入がほとんど見られず、高齢個体により個体群が構成されている。このような場合は、地域的な絶滅の危険度が極めて高いと考えるべきである。従って、ここでカテゴリ E（危険は少ない）、F（危険度不明）に分類された種であっても、単に出現の有無や個体密度だけではなく、場合によっては個体群構造を把握し、安定的・継続的な新規加入の有無を調べた上で、真の危険度を判断すべきである。

注 1： 調査地 1 ヶ所でのみ出現した種には、今回の調査方法では採集が困難な種（微小な巻貝・二枚貝・小型節足動物等）、潮下帯に多く見られ干潟では偶発的に出現したと考えられる種（十脚類の一部、魚類等）、標本が破損しやすく同定が困難であった種（刺胞動物、紐形動物等）などが含まれる。従ってここでは全体の分布傾向を明瞭にする目的で、便宜的に調査地 2 ヶ所以上で確認された種のみを対象とした。

注 2： 塩性湿地・マングローブ湿地の底生動物については、調査地 1 ヶ所のみで出現した種も含めた。塩性湿地・マングローブ湿地での調査方法は、定量性には欠けるものの、表在性底生動物を網羅するのに比較的適した方法であり、この方法を用いても出現が調査地 1 ヶ所に限られていたことは、危険度を評価する上で重く見るべきと判断した。またここで出現した種はすべて主要生息場所が塩性湿地・マングローブ湿地であり、潮下帯などから偶発的に流れ着いたとは考えられず、同定が特に困難な種も含まれない。

参考文献

- 黒住耐二, 2000. In: 奥谷喬司 編著, 日本近海産貝類図鑑, 東海大学出版会. p.863-877
長谷川和範, 2000. In: 奥谷喬司 編著, 日本近海産貝類図鑑, 東海大学出版会. p.171
松隈明彦, 2000. In: 奥谷喬司 編著, 日本近海産貝類図鑑, 東海大学出版会. p.971-981
土屋光太郎, 2000. In: 奥谷喬司 編著, 日本近海産貝類図鑑, 東海大学出版会. p.439-451

第5章 注目種の分布状況

今回の調査で出現した1667種の底生動物（魚類も含む）の内、主要な種・かつて普通に見られたが現在は地域的に絶滅している種・稀少性の高い種・絶滅が危惧される種・固有種・外来種などの全国的な分布状況を解説する。また、未記載種や分類学的検討の必要な種についても述べる。分類群と担当執筆者は以下の通りである。

| | | | |
|---------|------|----------|-----------|
| 海綿動物門： | 小川数也 | 軟甲綱 | |
| | | 口脚目： | 駒井智幸 |
| 刺胞動物門： | 内田紘臣 | 端脚目： | 森野 浩・大和茂之 |
| | | 等脚目： | 布村 昇 |
| 軟体動物門 | | 十脚目 | |
| 腹足綱： | 福田 宏 | クルマエビ下目： | 駒井智幸 |
| 二枚貝綱： | 加藤 真 | コエビ下目： | 駒井智幸 |
| | | アナジャコ下目： | 伊谷 行 |
| 星口動物門： | 西川輝昭 | 異尾下目： | 朝倉 彰 |
| | | 短尾下目： | 和田恵次 |
| ユムシ動物門： | 西川輝昭 | | |
| | | 棘皮動物門 | |
| 環形動物門 | | ナマコ綱： | 今岡 亨 |
| 多毛綱： | 山西良平 | | |
| 貧毛綱： | 高島義和 | 半索動物門： | 西川輝昭 |
| 節足動物門 | | 脊索動物門 | |
| 鋏角亜門 | | 尾索動物亜門： | 西川輝昭 |
| 節口綱： | 和田恵次 | 頭索動物亜門： | 西川輝昭 |
| 甲殻亜門 | | 脊椎動物亜門 | |
| 顎脚綱 | | 硬骨魚綱： | 岩田明久 |
| 蔓脚下綱： | 山口寿之 | | |

海綿動物門

小川 数也

砂質・泥質干潟には、付着基盤を必要とするカイメン類は殆ど分布していないことが今回の全国規模の調査からも実証された。わずかに記録されたイソカイメン類は転石あるいは護岸に付着していたものと思われる。一方、沖縄のサンゴ礁原からは、貝殻・フジツボ殻・サンゴ礫など石灰質基盤に穿孔する特異的なアナホリカイメン *Cliona* sp.が採集された。この中の1種は、本調査とほぼ同時期に Ise et al. (2004)が沖縄から国内初記録として報告した *Cliona inconstans* (Dendy, 1887)であることが確認された。*Cliona* 属は石灰質基盤に殆ど埋没しているものが多いが(その状態により, α , β , γ に分けられる), 本種は全体が砂上に直立しており, その存在が良く判る種で, 属としては例外的に砂質底に分布する *Cervicornia* に近く, 将来的には属の変更も予想される。なお, ごく最近サンゴ礫に完全埋没する(α stage)新種, *Cliona reticulata* が Ise & Fujita (2005)により沖縄から報告された。

参考文献

- Ise, Y. and Fujita, T. 2005. A new species of the boring sponge *Cliona* (Porifera: Demospongiae: Clionidae) from the Ryukyu Islands, Japan. *Species Diversity*, 10, 37-43.
- Ise, Y., Takeda, M. and Watanabe, Y. 2004. Psammobiontic Clionidae (Demospongiae: Hadromerida) in lagoon of the Ryukyu Islands, Southwestern Japan. *Bolletino dei Musei e degli Istituti Biologici dell'Università di Genova*. 68, 3881-389.

刺胞動物門

内田絃臣

今回の全国干潟調査で出現した 71 種類（必ずしも 71 種ではない）の刺胞動物のうち、61 種類（86%）はイソギンチャク目の種であった。イソギンチャク類の基本的体制は上端に口盤が、そして下端には足盤があり、口盤周縁付近には主として捕食のために用いられる触手が分布し、中央に口が開く。足盤にはその胃腔側に足盤筋をもち、これで硬質の基質に吸着する。

軟底質の海域に見られるイソギンチャク類には大きく分けて 2 通りの適応が見られる。軟底質に埋まった小石その他の硬質の物に足盤で吸着し、底質上に触手を広げる方法が第一で、第二は足盤をもたず、反口側は球状にふくれた底球と呼ぶ器官となり、これが軟底内で膨らむことによって、アンカーの役目を果たし、虫体を支えるものである。そのほかに例外的な方法として、軟底上を匍匐する巻貝やその貝殻を利用するヤドカリ類の貝殻上に吸着するものがあり、さらに特殊なものとして、ヤドカリが幼いうちにその貝殻に付き、ヤドカリが成長するに及んで、イソギンチャクが自らの分泌物で貝殻様構造物を造ってしまうものである。

最後の例 (*Isadamsia* = *Stylobates*) はかなりの水深の場所（100 ~ 600m）にのみ見られるもので（内田・楚山, 2001, p.81）、当然のことに干潟には出現しない。貝殻を付着基質に利用する現象は水深のある海底ではかなり一般的な現象のようで、種多様性はそれほどではないものの、世界中の海域から知られている。しかし潮間帯の干潟となると、ほとんど知られていない。わが国からマキガイイソギンチャク *Paranthus sociatus* が干潟から知られていたが、この度の干潟調査でさらに 1 種 *Paraiptasia* sp. が得られている。共に干潟の腹足類の貝殻上に見つかる。前者は槍糸をもたないセトモノイソギンチャク科の種で、オリイレヨフバイ科の種（アラムシロ・カニノテムシロ、またウミニナ科のホソウミニナにも付く）に共生する。一方、後者は槍糸を具えるナゲナワイソギンチャク科の種で、オニノツノガイ科（タケノコカニモリ・カタツノブエ・ヒメカニモリなど）のほかカニノテムシロにも共生する。この両種は非常に似た形態を示す。

残りの 2 群、すなわち軟質の底質に埋まった小石や岩に吸着するタイプと、足盤の代わりに底球をもつタイプは、世界的に見ても、あるいはわが国のイソギンチャク相から判断しても、この類の干潟の生活様式として普遍的に見られる様式である。

イソギンチャク類は大きく 4 つまたは 5 つのグループに分類することができる（内田, 2000）。第 1 はウメボシイソギンチャク科を中心にした最も普通に見られる仲間、この類は基本的に内胚葉性の周口筋をもち、普通の形をした触手をもち、槍糸をもたない類である。Carlgren (1949) の内筋類の一部に当たる。第 2 はセトモノイソギンチャク科を中心にした仲間、この類は中膠性の周口筋をもち、普通の形をした触手をもち、槍糸をもたない類である。Carlgren (1949) の中筋類に当たる。第 3 はクビカザリイソギンチャク科（本科の種で最もポピュラーな種はベニヒモイソギンチャク）などで代表される仲間、この類は基本的には中膠性の周口筋をもち、普通の形をした

触手をもち、槍糸をもつ類である。Carlgren (1949) の槍糸類に当たる。第 4 はハナブサイソギンチャク科に代表される仲間で、この類は基本的に内胚葉性の周口筋をもち、特殊な形または配列をした触手をもち、槍糸をもたない類である。Carlgren (1949) の内筋類の一部に当たり、かつてイソギンチャク類から離れて独立の目 Stichodactylinae とされたこともある(McMurrich, 1893; Duerden, 1902)。最後はムシモドキギンチャク科であり、4 枚の非対隔膜を含む 8 枚の大隔膜をもつ。

これら 5 つのグループのうち、最後のムシモドキギンチャク類はそもそもが軟底質に適応した無足盤類である。第 4 類は基本的には暖海のサンゴ礁海域で分化した仲間で、この仲間には軟底質へ進出したものはない。残りの 3 グループにはそれぞれ軟底質に適応して足盤を失ったものがある。それらは元の足盤類の中のどの科（あるいは科群）と近縁かを見ると、一般的に見て、刺胞組成の単純な科または科群との関係が見られる。たとえば無足盤類の Capneopsiidae 科と足盤類のマミレイソギンチャク科 Isophelliidae 科との関係、同じく無足盤類の Octineonidae 科と足盤類のフカマミレイソギンチャク科 Bathypelliidae 科との関係、さらには無足盤類のナガイソギンチャク科 Halcampoididae 科と足盤類のイワネイソギンチャク科 Condylanthidae 科との関係などで、これら両科の間の区別は不明瞭である。そしてこれらの組のうち足盤類の科はそれぞれが属するグループの中ではかなり分化の進んだものである。すなわち、足盤を失って軟底質の海域に進出したものは各々のグループで既にかなり分化の進んだものから派生したと言えそうである。

このことは足盤を失って軟底質に適応したものは、イソギンチャク類の中でもかなり分化が進んだもので、さらには許容範囲の狭い特殊な環境に適応している可能性があると考えられる。これら軟底質のうち、特に今回の対象となった潮間帯付近の干潟に限定すると、このような環境に棲息する無足盤類は一般に小さく目立たないものが多い。同じく同様の環境に進出した足盤をもつ仲間、すなわち軟底質中に埋まる小石などに足盤を付けて海底に触手を広げるタイプのものとの決定的な違いはこの大きさの違いかも知れない。こちらのタイプのもは比較的よく目に付く。わが国の無足盤類についての調査はいたって不十分で、まだ多くの未知種が棲息しているものと思われるが、わが国から報告された軟底質に適応したこの仲間のこれまでと現状を以下に示す。

Capneopsiidae 科

Andwakia boninensis Carlgren, 1943 小笠原父島宮之浜潮間帯

原記載以後記録がない：宮之浜は砂浜で砂泥あるいは泥干潟ではない。本種かあるいはごく近縁の種が八重山と沖縄島から得られている。今回の調査ではこの種と思われるものが石垣島川平湾で 1 個体得られているが、幼少個体で、同定が付かなかった（種番号 28）。

Haliactiidae 科

ホウザワイソギンチャク *Synandwakai hozawai* (Uchida, 1932)

陸奥湾小湊浅所で多産し、砂底に埋まる。1968 年には陸奥湾にある東北大学浅虫臨海実験所付近の砂底に棲息が確認されたが、1988 年には陸奥湾内で見つけるのが困難な状況にな

っていた。今回の調査で、浅所からは見つからなかったが、北海道厚岸と岩手県のリアス海岸で見つかっている。おそらくかつての個体数にははるかに及ばない規模で、細々と生き残っているものと思われる。本属にはもう 1 種未記載種があり、ミナミホウザワイソギンチャク *S. aff. hozawai* とされているが、今回の調査ではさらに本属の別種と思われるもの 1 種が佐賀県と大分県から出現している。これら未記載種 2 種もホウザワイソギンチャクと同じか、あるいはそれ以上に切迫した状況にある可能性が高い。なお *Synandwackia* 属は *Capneopsiidae* 科の 1 属とされてきたが、今回の調査で得られた新たな標本をもとに精査した結果、*Haliactiidae* 科の属であることが判明した。*Capneopsiidae* 科（または *Andwakiidae* 科）にホウザワイソギンチャク科という和名が付けられていたが、不都合が生じたので科の和名を付けていない。

Stephensonactis sp.

本属はインドの汽水湖から 1 種が知られるのみ。わが国の種は属模式種に近縁だが、別種のようなものである。筆者の手元には山口県山口湾の標本（1995 年の採集）がある。今回の調査では三重県櫛田川と徳島県勝浦川から出現したが、山口湾からの出現はなかった。

ムシモドキギンチャク科 *Edwardsiidae*

ホソイソギンチャク *Metedwardsia akkeshi* (Uchida, 1932)

北海道厚岸湾の泥干潟に多産していたものが記載された。筆者が厚岸の北大臨海実験所を訪れた 1968 年頃には既に厚岸湾から本種はほとんど姿を消していて、実験所に数個体の標本が残るのみであった。従って筆者も本種の生きた個体は見たことがなく、本種はほぼ絶滅したと思っていた。ところが今回の調査で、厚岸湾や厚岸湖からは出現しなかったが、数カ所の干潟から出現していて、絶滅は免れていたことが判明した。南日本に産するもの（種番号 52：ホソイソギンチャク近似種）は本種に酷似するが、わずかに異なるようである。こちらは和歌山県串本と、岡山県牛窓から知られていたが、今回の調査でさらに、熊本県長井浜と鹿児島県万ノ瀬川から記録された。

ムシモドキギンチャク *Edwardsioides japonica* (Carlgren, 1931)

神奈川県三崎の東大臨海実験所に来所したスウェーデンの Sixten Bock が水深 4-5m の海底で採集した 1 個体によって記載された。以後東北女川湾のドレッジによって記録され、動物図鑑に掲載されているが、両種は別種のものであり、後者は潮間帯の干潟には棲息しない模様である。*Edwardsioides* の種はかなり多いようで、今回の調査では全国から 7 種が出現した。本属の種は小型である上に、広げられた触手が透明なので、棲息していてもなかなか気が付かない。今回のように、底質を篩でふるって初めてその存在が明らかになることが多い。特にこの類においては、麻酔をせずにいきなり固定された縮んだ標本の同定は非常に困難であ

り，世界中に非常に多くの種が分布するように思われるが，分類学的研究は特に遅れている．

ミナミムシモドキギンチャク *Edwardsianthus gilbertensis* (Carlgren, 1931)

暖海のサンゴ礁海域に分布する種で，わが国では石垣島川平湾奥の干潟に多産することが知られていた．今回の調査でも奄美～八重山の干潟から出現している．

ムシモドキギンチャク科の1種 *Edwardsiidae* gen. C., sp. (種番号 46)

三重県雲出川河口干潟から4個体が採集されたもので，上記ホソイソギンチャクの属 *Metedwardsia* に近縁の新属と思われるものである．

ナガイソギンチャク科 *Halcampoididae*

3属4種が北海道・千葉県・広島県・南西諸島から出現しているが，その3属はそれぞれ未記載の属のようである．これまでわが国から知られていた本科の種はナスビイソギンチャクのみで，この種はかなり深いところに棲息する種で，干潟の調査では出現しない．この科の中のいくつかの属はかなりの深処に産するが，残りの属は潮間帯に産するもので，そのような浅所の調査が世界的にも行き届いていないことを示している．

そのほかに，特記すべき干潟産の足盤をもつ種について挙げると次の種がある．

干潟の小型巻貝に共生するマキガイイソギンチャク *Paranthus sociatus* と，それに似たナゲナワイソギンチャク科の種 *Paraiptasia* sp. は既に記した．干潟での棲息はイソギンチャク類自身の生存のみならず，共生の宿主である巻貝の生存も重要である．

ダイコンイソギンチャク *Paracondylactis sinensis* は砂干潟に棲息するウメボシイソギンチャク科の種で，和歌山県串本，知多半島奥田・沖縄島吉ノ浦から知られている．串本では橋杭岩干潟に見られていたが，このところ見つからない．本種は掘り出してみると，体の直径4cm，長さ10-15cmほどの大型の種であるが，干潟にいる時は非常に深い位置にある小石などに足盤を付け，体長50cmほどに伸びて砂底に触手を広げていて，掘り出してすぐは体はヒモのように細くなっている．模式産地は種小名でもわかるとおり，中国沿岸で，南部の韓川河口域の浅所～水深82 m から得られた標本によって記載されたが，原記載以来串本での発見まで，再発見はなかった．今回の調査でも出現していない．

同様の生態をもつが，やや小型のニンジンイソギンチャク *Paracondylactis hertwigi* も干潟ばかりではなく，水深約10mまでの砂底で見られ，わが国の特産種であるが，現在でも普通に見られる場所がいくつかある．今回の調査でも出現している．

もう1種，*Haliactiidae* 科の種で，*Pelocoetes* に属すると思われる非常に興味ある標本が手元にある．有明海の諫早湾神代長浜の干潟で，有明海の保全活動をされていた山下弘文氏が採集されたもので，残念ながらかなり傷んでいて，正確な同定はなされていない．*Pelocoetes* 属はインドのボン

ベイ近郊の汽水域特産の 1 属 1 種の属である。見る限りでは上記の属に類似するものの、少し差異が見られる。

これまで書いてきたように、わが国のイソギンチャク類は充分調査されているにはほど遠い状態である。その中でも最近の 50 年で著しく環境が変化した干潟に棲息する種は、多くの干潟産の生物たちと同じように、非常に危険な状態におかれていると言える。まして、この世の中に認知さえされない内に、人知れずこの世から消えようとしている多くの種があることを思うと、問題は切実である。それでもわが国ではこのような干潟の生物に対する関心が引き起こされ、このような調査も行われることがある。しかし、世界の多くの地域では干潟に棲んでいる生き物に寸分の考慮も払われることなく、生息地が奪われていくことが普通である。かつて非常に興味ある汽水性の生物であふれていたインドの Chilka 湖でも、数種の非常に変わった汽水産のイソギンチャクが報告された。それから 100 年、原記載以後 1925 年に再記載が行われたが、用いられた標本は原記載時の古いもので、新しく採集された標本による再報告はほぼない (注)。上記諫早湾の種が属する可能性のある属もその時 Chilka 湖近くの汽水域から記載された種のための新属である。筆者は数年前にイソギンチャク類の図鑑を出したが、その時、上に書いた、ホウザワイソギンチャクとホソイソギンチャクの 2 種はもう標本すら入手できる状態ではないと思っていた。今回の調査で絶滅を危惧したこれら 2 種がまだ棲息していたことを知り、うれしく思った。わが国の干潟の状況も、さらに世界中の干潟の状況も生き物たちにとっては厳しくなるばかりであることを認識し、その保全を訴え続ける必要がある。

注：Paruleker (1968) があるが、簡単な生態的記述のみで、分類学的考察がなされていない。この中には日本産のヨロイイソギンチャク類 3 種や、北米産の種、それに環寒海分布種であるヒダベリイソギンチャクなどが含まれていて、報告された種の同定に問題がある。

参考文献

- Carlgren, O., 1949. A survey of the Ptychodactiaria, Corallimorpharia and Actiniaria. Kungl. Vidensk. Akad. Handl., ser. 4, 1, (1), 121 pp.
- Duerden, J. E., 1902. Report on the actinians of Porto Rico. Bull. U. S. Fish Commission, (1900): 323-374.
- Fabricius, K. and Ph. Alderslade, 2001. Soft corals and sea fans. 264 pp. Australian Institute of Marine Science, Townsville.
- McMurrich, J. P., 1893. Report on the Actiniae collected by the United States Fish Commission steamer Albatross during the winter of 1887-1888. Proc. U. S. Nat. Mus., 16:119-216.
- Paruleker, A., 1968. Sea anemones (Actiniaria) of Bombay. Jour. Bombay Nat. Hist. Soc., 65: 138-147.
- 白山義久, 2000. 無脊椎動物の多様性と系統.. 324 pp. 裳華房.
- 内田紘臣, 1999. 水棲無脊椎類. in 動水協, 1998 年・1999 年飼育動物・水族リスト, pp.74-118.

内田紘臣, 2000. イソギンチャク類 *Actiniaria*. 動物系統分類学. 追補版, :68-72. 中山書店.

内田紘臣・楚山勇, 2001. イソギンチャクガイドブック. 159 pp. T B S ブリタニカ.

Zrzavy, J., S. Mihulka, P. Kepka, A. Bezdek and D. Tietz, 1998. Phylogeny of the Metazoa based on morphological and 18S ribosomal DNA evidence. *Cladistics*, 14: 249-285.

軟体動物門

腹足綱

福田 宏

今回の調査では、福田（1996）で減少傾向・絶滅の危機にあるとした種も多数記録されたが、その多くは従来知られた産地・分布域の範囲内での再確認であった。紙幅に限りがあるのでそれらの説明は省略し、新たに見出された種や産地、特に注目すべき記録などに絞って以下に述べる。

1) 今回の調査で初めて発見された種

マツカワウラカワザンショウ *Assiminea* sp.

マツシマカワザンショウ *Assiminea* sp.

両種ともに、今回の調査の途上で初めて発見された未記載種である。マツカワウラカワザンショウは鈴木田他（2003a）で「*Assiminea*」sp. 2, Suzukida & Fukuda (2003) で「*Assiminea* sp. 8」としたものである。これら 2 種の和名は鈴木田他（2003b）で使用した。マツカワウラカワザンショウは福島県松川浦周辺、マツシマカワザンショウは宮城県松島湾周辺でのみ確認されており、それぞれその周辺の固有種である可能性が高い。ともに砂干潟の潮間帯中～下部において底質の表層に見られ、日本本土では主に河口部汽水域や岩礁の遮蔽物下に見られるカワザンショウ科としては、特異な棲息環境に見られる一群である。同様の環境に見られる別の種が青森県陸奥湾、千葉県東京湾（死殻のみ）、大分県中津市（オオシンデンカワザンショウ、鈴木田 2003; 福田 2003）・杵築市（キツキカワザンショウ、福田・山下 2004）、山口県油谷湾（死殻のみ）から近年になって発見されている。

ミヤジマウミゴマツボ（新称）*Stenothyra* aff. *edogawensis* (Yokoyama, 1927)

広島県宮島からのみ確認された（証拠標本：岡山大学農学部水系保全学研究室所蔵 OKCAB-M10226, 10281）。殻はウミゴマツボに似るがやや大型で、生時の頭部や外套膜上の黒色素斑がウミゴマツボより淡く、陰莖の形態も異なるため別種と考えられる。1 箇所からしか知られていないので、その周辺の固有種か、または移入種の両方の可能性がある。

2) 注目すべき新産地や、分布域の更新を含む種

イボキサゴ *Umbonium (Suchium) moniliferum* (Lamarck, 1822)

関東地方以北での棲息の現状は必ずしも明らかでなかったが、福島県松川浦、宮城県石巻市で産

出が確認された。東京湾，浜名湖，瀬戸内海周防灘，有明海，甌島でもそれぞれ見出されており，西日本には今なお健在産地が点在しているようである。

ヒメカノコ *Clithon (Pictoneritina) oualaniensis* (Lesson, 1831)

屋久島以南では河口部に産地が点在するが，九州以北では近年の確実な記録は少ない。今回愛媛県僧都川で記録されたのは注目に値する。

ミヤコドリ *Cinnalepeta pulchella* (Lischke, 1871)

1990年代ごろまではどのような棲息環境に見られるのかあまり知られていなかったが，それ以後各地から見出されるようになり，少しずつ記録が増加している。今回は和歌山県湯川ゆかし潟，田辺湾（池田浦，内之浦），宮崎県熊ノ江，熊本県羊角湾，沖縄県羽地内海，塩屋・大久保川から記録されている。

ウミニナ *Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)

イボキサゴと同様関東以北や，日本海側での棲息の現状はこれまで不明瞭であった。今回，青森県小湊浅所，宮城県松島湾，長面浦，万石浦，蒲生，広浦，鳥の海，福島県松川浦，石川県七尾湾，山口県油谷湾，福岡県和白干潟にも今なお棲息していることが明らかになった。

イボウミニナ *Batillaria zonalis* (Bruguère, 1792)

ウミニナと同属で，棲息環境も重なっている場合が多いが，ウミニナ以上に稀となってしまった種である。今回，宮城県，山口県などで確認され，所により多産とされたことは注目に値する。三重県，和歌山県，熊本県でも確認された。

カワアイ *Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis* (K. Martin, 1899)

従来の文献（Higo et al., 1999; 長谷川, 2000 など）では「房総半島以南」に分布するとされていたが，今回は宮城県松島湾，万石浦，福島県松川浦から記録され，北限が更新されたことは重要である。なお，カワアイと同様に房総半島以南に分布するとされ，棲息環境も近接しているヘナタリは，静岡県浜名湖が今回の最北の記録であり，従来言われてきた分布域の範囲内にとどまった。

フトヘナタリ *Cerithidea (Cerithidea) rhizophorarum* A. Adams, 1855

この種も，東北地方での具体的な産出記録に乏しかったが，今回は宮城県松島湾，蒲生，井土浦，広浦，鳥の海，福島県松川浦で確認され，この地方でも多産することが明らかになった。また，山口県油谷湾でも確認されたが，これは後述するオカミミガイ・キヌカツギハマシイノミと同様，本州日本海側における本種の生貝の初めての確実な記録と思われる。

タケノコカワニナ *Stenomelania rufescens* (Martens, 1860)

西南日本の暖流の影響下にある河口に産地が点在すると思われるが、これまで具体的な産地が明らかにされることが少なかった。今回は和歌山県の 1 ヶ所の干潟で多産、高知県、宮崎県と鹿児島県の複数の干潟で記録されている。

サザナミツボ *Elachisina ziczac* Fukuda et Ekawa, 1997

今回は山口県と徳島県それぞれ 1 ヶ所から記録された。前者は新産地である。後者では和田 (2005) が本種の産出を報告している。本種の属および科の所属は今後再検討を要する。

ヒメカワザンショウ *Assiminea* sp.

福田 (1996) では奄美大島・沖縄島からのみ知られるとし、のちに福田他 (2002) では有明海を含む九州西岸と山口県日本海側にも産することを述べたが、今回は広島県宮島、鳥取県中海、山口県厚狭川、油谷湾、愛媛県僧都川、長崎県諫早湾北岸、佐賀県田古里川から見出され、西日本に広く分布していることが明らかになった。

ヨシダカワザンショウ *Assiminea yoshidayukioi* Kuroda, 1959

従来文献 (Higo et al. 1999; 長谷川 2000 など) では「東京湾以内」に見られるとされていたが、今回は青森県小川原湖湖沼群 (鷹架沼, 高瀬川)、福島県松川浦から記録され、北限を大幅に更新した。

カハタレカワザンショウ *Assimineidae* sp.

福田 (1996) で初めて報告された未記載種。今回記録された山口県有帆川、木屋川、岡山県高梁川はいずれも新産地である。東京湾以南、鹿児島県まで広く分布しているが、殻長約 1.5mm と微小で、しかも底泥に深く埋もれた転石の下の空隙やカニの巣穴の中に棲息するため、見逃される場合が多いと思われる。

ヒモイカリナマコツマミガイ *Hypermastus lacteus* (A. Adams, 1863)

ヒモイカリナマコ類に内部寄生する。従来も記録例は少なかったが、今回愛知県伊川津、山口県山口湾から新産地が見出された。

ヤセフタオビツマミガイ *Mucronalia exilis* A. Adams, 1862

ミヤジクモヒトデに外部寄生する。稲葉 (1982) に瀬戸内海での記録があるが、具体的な生貝の記録例は全国的にほとんどなかった。今回、広島県細ノ洲で寄主と共に複数の生貝が確認された。

ウネムシロ *Nassarius (Hima) hiradoensis* (Pilsbry, 1904)

土屋 (2000) では本種をクロスジムシロ *N. (H.) fraterculus* (Dunker, 1860) の異名としているが、殻形・彫刻のみならず雌性生殖器の形態も異なり、明らかに別種と考えられる (アオモリムシロ *N. (H.) hypoliis* (Pilsbry, 1895) も同様に別種である)。ウネムシロの近年における生貝の記録は全国的にほとんどなく、急激に減少した種の一つと考えられる。今回は宮城県万石浦、広島県宮島で棲息が確認されたことは貴重である。特に宮島ではアラムシロとともに干潟上に多産しているのが確認された。

ムシロガイ *Nassarius (Niotha) livescens* (Philippi, 1849)

ウネムシロほど減少傾向が顕著ではないが、やはり近年全国的に減っていると思われる。今回は陸中リアス海岸周辺、宮城県万石浦、静岡県浜名湖、兵庫県新舞子、高知県浦ノ内湾、熊本県永浦で確認された。

コヤツトララ *Acteocina koyasensis* (Yokoyama, 1927)

内湾奥や河口部汽水域の砂泥底に棲むが、記録例は少ない。今回は和歌山県和歌川、有田川、田辺湾 (内之浦)、愛媛県僧都川から記録された。

オカミミガイ *Ellobium (Ellobium) chinense* (Pfeiffer, 1855)

キヌカツギハマシイノミ *Melampus (Melampus) singaporensis* Pfeiffer, 1855

これら 2 種は、本州の日本海側ではこれまで山口県で死殻が稀に見出されてきたのみで、生貝は一度も発見されたことがなかったが、今回同県で生貝が初めて見出された。この産地で 1990 年代ごろまでに調査された際には両種の産出に必須のヨシ原の存在が貧弱で、これらの種も棲息していなかったと考えられ、それ以降に新たに個体群が形成された可能性が高い。

センベシアワモチ *Platevindex* sp.

山口県と大分県の周防灘、熊本・福岡・佐賀県の有明海沿岸、熊本県羊角湾、長崎県佐世保市、平戸島、伊万里湾から知られ、絶滅の危機にあるが、海外の種との関係が不明瞭なためいまだ記載されるに到っていない。今回も周防灘と有明海から見出されたのに加え、三重県英虞湾から記録された。もし英虞湾産の個体が正しく本種であればこれまでで最東の産地となるが、筆者はその標本を実見していない。ただ、本種でなかったとしても、ドロアワモチ科以外の種と見間違える可能性はほとんどないと思われるので、この科の未知の種が英虞湾に存在する可能性もあり、いずれにせよ注目すべき記録として今後の詳細な再調査が必要である。

3) 未記載種や、分類学上の再検討を必要とする種（上記の1・2に挙げた種を除く）

ヒナユキスズメ *Phenacolepas* sp.

山口県厚狭川で最初に発見された未記載種で、近年は西日本各地から見出されており、必ずしも稀な種ではないが、泥に深く埋もれた転石下に棲むため見逃されやすいと思われる。今回は厚狭川及び和歌山県田辺湾（内之浦）で記録された。

キントンイロカワザンショウおよびアマグリイロカワザンショウ *Angustassiminea* spp.

これらはいずれもクリイロカワザンショウ属 *Angustassiminea* Habe, 1943 に属する種で、今回も多くの地点から記録されているが、未記載種であり、しかも複数種が混在していることは疑いがないため、今後の詳細な再検討が必要である。

テシオカワザンショウ *Assiminea* sp.

従来この和名で呼ばれてきた種の学名は *Assiminea septentrionalis* Habe, 1942 とされてきたが、*septentrionalis* の模式産地は福井県で、模式標本及び同県産個体を検討したところカワザンショウガイ *A. japonica* Martens, 1877 と区別できなかった。一方、テシオカワザンショウという和名は北海道天塩地方の個体に与えられた（岩川 1919）もので、これはカワザンショウガイとは異なる種であり、今のところ学名がない。今回は北海道ポロ沼で多産が確認されている。

オブチカワザンショウ *Assiminea* sp.

未記載種で、この和名は鈴木田他（2003b）で使用した。また、鈴木田他（2003a）が「*Assiminea*” sp. 1 アッケシカワザンショウ近似種」としたものは本種である。青森県尾駁沼・鷹架沼・小川原湖（高瀬川）からしか知られておらず、この周辺の固有種と考えられるが、今回は後 2 産地から産出が確認された。

イヨカワザンショウ *Assiminea* sp.

岩川（1919）は本種に対して Pilsbry et Hirase が準備していた学名を引用するとともに「伊豫西條」産の標本をもとに和名を与えたものの、結局その学名は不適格名のままである。後の波部（1942）は本種をカワザンショウガイと同種とし、そのまま現在に至っているが、明らかに別種であり記載が必要である。今回は岡山県水門湾、笠岡湾、高梁川、山口県有帆川、大分県臼杵で確認された。

ヤミカワザンショウ *Assiminea* sp.

福田他（2002）が有明海・周防灘・児島湾から報告した未記載種。今回は佐賀県六角川から記録された。ただしイヨカワザンショウの変異である可能性もあり、さらに詳細な検討が必要である。

アッケシカワザンショウ *Assiminea* sp.

北海道東部の固有種で、未記載種である(鈴木田他 2003c で「*Assiminea*」 sp. 3), Suzukida et Fukuda 2003 で「*Assiminea* sp. 6」としたもの). 今回は厚岸湖, 風蓮湖から見出された.

スミヨウカワザンショウ (新称) *Assiminea* sp.

鹿児島県奄美大島の住用川河口周辺のみから知られる未記載種 (Suzukida et Fukuda 2003 で「*Assiminea* sp. 4」としたもの). 今回も住用川河口で確認された.

オイランカワザンショウ *Assiminea* sp.

ヨシダカワザンショウに近縁な未記載種で、奄美大島と沖縄島に分布する. 屋久島南部, 石垣島からも近似した個体が見られているがそれらが同種かどうかは今後の検討を要する. 今回は沖縄島のみで確認された.

ウミゴマツボ *Stenothyra edogawensis* (Yokoyama, 1927)

今回は千葉, 愛知, 和歌山, 兵庫, 岡山, 山口各県の河口から記録されたが, 複数種が混在している可能性もあり, 今後の再検討が必要である.

ツノアカニシ *Rapana venosa pechiliensis* Grabau et King, 1928

アカニシ *Rapana venosa venosa* (Valenciennes, 1846) の亜種とされ, 基亜種よりも小型で, 殻表の突起が鋭い棘状となり, 中国大陸沿岸および有明海に見られる個体群をさすが, 有明海では同所的にアカニシとツノアカニシが見られることがあり, また両者の中間的な形態をもつ個体も見られないようなので, 亜種でなく別種の可能性があり, 再検討が必要である. 今回は福岡県沖端川でツノアカニシに相当する個体が確認された.

ヒガタヨコイトカケギリ (新称) *Paracingulina* sp.

潮間帯岩礁間のタイドプール砂中などに見られるヨコイトカケギリ *Cingulina cingulata* (Dunker, 1860) と殻の形態が酷似し, 区別が困難であるが, 軟体頭部の形態が異なり, 別種と考えられる. 各地の砂泥干潟に少なくない.

ヤミヨキセワタ *Melanochlamys* sp.

日本在来の種であれば恐らく未記載種と思われるが, 移入種である可能性も否定できない (岩崎他 2004; 福田 2004). 国内での分布域の概要もいまだ明らかでない. 今回は北海道温根沼, 神奈川県江奈湾, 愛知県三河湾 (一色干潟) から確認されたが, これらがすべて同じ種であるかどうかも含め, 今後の検討が必要である.

ヤベガワモチ *Onchidium* sp.

韓国からも報告されている（例えば山下 2004）が、日本では有明海・不知火海のみで知られる未記載種。今回は福岡県沖端川、矢部川、熊本県大野川、氷川で確認された。

イソアワモチおよびキナコアワモチ *Peronia* spp.

日本産のこの類は近年詳細な検討が全くなされておらず、多数の種が混在している可能性が高い。沖縄島には *Peronia* 属ではない種も存在する。今回もイソアワモチおよびキナコアワモチとして沖縄県の各地から記録されているが、それらが同一種であるかどうかは、筆者が標本を実見していないこともあり、現時点で判断できない。

4) 移入種

トライミズゴマツボ *Stenothyra* sp.

カラムシロ *Nassarius (Zeuxis) sinarus* (Philippi, 1851)

両種ともに 2000 年前後に有明海に移入された（福田他 2002; Tamaki et al. 2002; 福田 2004）。今回トライミズゴマツボは福岡県筑後川、沖端川、長崎県諫早湾北岸、佐賀県六角川から、カラムシロは福岡県筑後川、矢部川、佐賀県六角川、塩田川から確認され、依然としてこの海域に多産している。

シマメノウフネガイ *Crepidula onyx* Sowerby I, 1824

1968 年の神奈川県での最初の発見以降、日本での分布を拡大し、近年は北海道南西部から九州まで広く見られる（岩崎他 2004）。今回も北は福島県・宮城県、南は熊本県・佐賀県まで 15 箇所から確認された。

サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* (Reeve, 1855)

近年、韓国や中国から輸入されるアサリとともに移入されていることが大越（2004）等によって指摘されているが、今回の陸中リアス海岸、福島県松川浦、宮城県万石浦、千葉県盤洲、三重県雲出川、櫛田川での本種の記録は明らかに移入によるものであろう。一方、以前から自然分布が確認されていた瀬戸内海周防灘と有明海でも見出され（大分県中津港、熊本県永浦、緑川、塩屋海岸）、これらが在来か移入か、あるいは両者がすでに混ざってしまっているのか現時点で判断できない。

ゴマフダマ *Cryptonatica tigrina* (Röding, 1798)

オリレボラ *Scalptia (Scalptia) scalariformis* (Lamarck, 1822)

両種ともにかつて瀬戸内海や有明海等に見られたが現在は絶滅寸前で、特に瀬戸内海での近年の生貝の記録はほとんどない。ところが、今回両種ともに岡山県笠岡湾から確認された。この周辺では、本来棲息していないサルボウを有明海から大量に運んで干潟に蒔くことを繰り返しているため、これら 2 種や、同時に得られた二枚貝綱のコケガラス、イヨスダレなどもサルボウとともに運ばれてきたものが定着した可能性が高い。ゴマフダマは今回熊本県塩屋海岸でも確認されているが、これは在来個体群の可能性があり、もしそうであれば貴重である。

参考文献

- 福田 宏, 1996. 腹足綱. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. p. 11-63.
- 福田 宏, 2003. 中津干潟野外観察会報告. 山口貝類研究談話会ニュースレター 3: 7-9.
- 福田 宏, 2004. 外来種と同定の問題. 日本ベントス学会誌 59: 68-73.
- 福田 宏・溝口幸一郎・鈴木田亘平・馬堀望美, 2002. 佐賀県太良町田古里川河口の貝類相-2. 追加種. 佐賀自然史研究 8: 47-55.
- 福田 宏・山下博由, 2004. 杵築市における野外観察会報告. 山口貝類研究談話会ニュースレター 5: 10-14.
- 波部忠重, 1942. 日本産カワザンショウガイ科. *Venus* 12: 32-56, Pls. 1-4.
- 長谷川和範, 2000. カワザンショウガイ科. In 奥谷喬司編, 日本近海産貝類図鑑, pp. 166-169. 東海大学出版会, 東京.
- Higo, S., Callomon, P. and Gotô, Y., 1999. *Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-bearing Mollusca of Japan*. Elle Scientific Publications, Yao.
- 稲葉明彦, 1982. 瀬戸内海の貝類. 広島貝類談話会, 向島.
- 岩川友太郎, 1919. 日本産貝類標本目録 東京帝室博物館天産科. 東京帝室博物館, 東京.
- 岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿行・西川輝昭・西榮二郎・山西良平・林 育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井 宏, 2004. 日本における海産生物の人為的移入と拡散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌 59: 22-44.
- 大越健嗣, 2004. 輸入アサリに混入して移入する生物-食害生物サキグロタマツメタと非意図的移入種. 日本ベントス学会誌 59: 74-82.
- 鈴木田亘平, 2003. 従来「カワザンショウ」とされてきた種の再検討-中津産 1 新種を含めて. 山口貝類研究談話会ニュースレター 3: 6.

- 鈴木田亘平・福田 宏・芳賀拓真, 2003a. 関東～サハリンの太平洋岸の“*Assiminea*” (新生腹足上目 : カワザンショウ科) (1) 関東～東北 [講演要旨]. *Venus* 62: 75.
- 鈴木田亘平・福田 宏・芳賀拓真, 2003b. “*Assiminea*” 属 (腹足綱 : 新生腹足上目 : カワザンショウ科) の再検討 ～関東から東北の太平洋沿岸～. 2003 年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会講演要旨集, p. 81.
- 鈴木田亘平・福田 宏・桑原康裕・向井 宏, 2003c. 関東～サハリンの太平洋岸の“*Assiminea*” (新生腹足上目 : カワザンショウ科) (2) 北海道, 千島, サハリン [講演要旨]. *Venus* 62: 75.
- Tamaki, A., Mahori, N., Ishibashi, T. and Fukuda, H., 2002. Invasion of two marine alien gastropods *Stenothyra* sp. and *Nassarius (Zeuxis) sinarus* (Caenogastropoda) into the Ariake Inland Sea, Kyûshû, Japan. *The Yuriyagai* 8: 63-81.
- 土屋光太郎, 2000. ムシロガイ科. In 奥谷喬司編, 日本近海産貝類図鑑, pp. 438-451. 東海大学出版会, 東京.
- 和田太一, 2005. 徳島県吉野川河口で見つけたサザナミツボと河口の自然環境の危機. *Nature Study* 51: 159-160.
- 山下博由, 2004. 不知火海の貝類相と生物地理学的特性. *化石* 76: 107-121.

軟体動物門

二枚貝綱

加藤 真

今回の調査で出現した二枚貝の内、近年減少している種、希少性の高い種・出現地点の少なかった種、他生物の体表などに付着して生活する種、地域や環境に特有の種・指標種、人間の生活や営みの中で利用されている種、移入種、分類学的検討が必要な種について解説する。特に、多毛類やホシムシ、アナジャコ類などが多く採集されたため、これらの生物の体表に付着する二枚貝も多く採集された。

1) 近年減少している種

ハボウキガイ *Pinna bicolor* Gmelin, 1791

内湾の砂泥底に突き刺さるようにして生息する二枚貝で、かつては中部地方以南の各地から記録されていたが、近年の減少が著しい。今回の調査において、本土では永浦と本渡干潟でのみ記録された。琉球列島においては羽地内海と泡瀬で記録された。

リュウキュウアリソガイ *Macra mera* Reeve, 1852

かつては琉球列島の干潟に普通に見られた二枚貝であるが、近年の減少が著しい。今回の調査では、奄美大島の笠利湾、沖縄島の羽地内海、石垣島の崎枝湾と宮良湾、西表島の船浦から記録された。

イソハマグリ *Atactodea striata* (Gmelin, 1791)

やや粗い砂からなる砂浜の中～高潮帯に生息する二枚貝で、かつては紀伊半島以南の各地に普通に見られたが、近年は減少が著しい。今回記録された地点は、石垣島の崎枝湾と宮良湾、西表島の船浦と前良川河口であった。

ニッコウガイ *Tellinella virgata* (Linnaeus, 1758)

琉球列島の干潟を最も強く代表する二枚貝で、かつては各地の海草藻場に普通に見られたが、近年の減少は著しく、今回の調査では羽地内海のみから記録された。

ムラサキガイ *Soletellina diphos* (Linnaeus, 1771)

内湾の泥干潟に深く潜って生活する二枚貝で、各地で減少が著しいが、今回の調査では浜名湖と守江湾から記録された。同属のフジナミガイはより潮通しのよい干潟に生息するが、今回の調査では記録されなかった。

ヤマトシジミ *Corbicula japonica* Prime, 1864

九州以北の河口域の指標種で、各地で減少傾向にあるが、東北地方から北海道にかけて多くの産地があることが明らかとなった。

シオヤガイ *Anomalocardia squamosa* (Linnaeus, 1758)

内湾の湾奥の干潟の指標種で、各地で激減しているが、今回の調査では、英虞湾、五ヶ所川河口、田辺湾、和歌川河口、池田浦、僧都川河口、羊角湾から記録された。

シラオガイ *Circe (Circe) scripta* (Linnaeus, 1758)

潮通しのよい内湾にかつては普通に見られた貝であるが、各地で減少が著しい。今回の調査で記録されたのは、英虞湾と沖縄県の泡瀬と佐敷海岸のみである。琉球列島のものと本土のもの間には形態に差異が見られ、分類を再検討する必要がある。

ハマグリ *Meretrix lusoria* (Röding, 1798)

日本列島の大規模な内湾の干潟の指標種であったが、近年の減少は著しい。今回の調査では、松島湾、鳥の海、浜名湖、木曾川河口 (※)、志登茂川河口、和歌川河口、新舞子 (※)、伊万里湾、筑後川河口、諫早湾、菊池川河口、塩屋海岸、本渡干潟、永浦、緑川河口、中津港周辺、臼杵、守江湾、重富海岸、万之瀬川河口で記録された。一部では稚貝の放流も行なわれており、在来のものでない可能性もある (※を付した地点)。ハマグリ現在の分布の中心は九州にあると言える。

イオウハマグリ *Pitar (Pitarina) sulfreum* Pilsbry, 1904

内湾湾奥の泥干潟に生息する二枚貝で、各地で激減している種である。今回の調査では、本土では英虞湾と羊角湾でのみ、琉球列島では沖縄島の羽地内海と塩屋、西表島の船浦で記録された。

コオキナガイ *Laternula boschasina* (Reeve, 1863)

湾奥の河口干潟の指標種であるが、今回の調査では、加古川、長井浜、八坂川から記録された。コオキナガイは琉球列島にも分布しており、そこでも絶滅危惧種に数えられている (沖縄県, 2005)。

2) 希少性の高い種（出現地点の少なかった種も含む）

キヌタレガイ *Petrasma pusilla* (Gould, 1861)

内湾湾奥の嫌気状態になった泥干潟で、化学合成細菌を共生させて生活している二枚貝である。今回の調査では細ノ洲でのみ記録された。

ササゲミミエガイ *Estellacar oilvacea* (Reeve, 1844)

日本では有明海だけから知られている強内湾性の種で、諫早湾がその分布の中心であり、諫早湾締切工事に伴い、絶滅が危惧されていたが、今回の調査では有明海の他の地点からも記録された。

クイチガイサルボウ *Scapharca inaequivalvis* (Bruguière, 1789)

内湾性のサルボウよりも湾口よりに分布の中心のある二枚貝で、今回の調査では守江湾からのみ記録された。

クロシュミセン *Malleus (Malleus) mallens* (Linnaeus, 1758)

琉球列島の内湾に生息するもともと希少な二枚貝であるが、今回の調査では、石垣島の名蔵湾で記録された。

クロヒメガキ *Ostrea futamiensis* Seki, 1929

内湾に生息するカキとして、消息のつかめない絶滅危惧種に数えられていたが(加藤・福田, 1996)、今回の調査では細ノ洲のみで記録された。

アリアケケボリガイ *Borniopsis ariakensis* Habe, 1959

有明海などの内湾の砂泥底から知られていた二枚貝で、その生態については未知であるが、今回の調査では塩屋海岸と永浦で記録された。

ツルマルケボリガイ *Borniopsis tsurumaru* Habe, 1959

内湾の砂泥底から知られていた二枚貝で、今回の調査では永浦で記録された。

イオウノシタタリ *Scintilla timorensis* Deshayes, 1856

内湾潮間帯の礫の下面に生息する二枚貝で、今回の調査では和歌山県の湯川ゆかし潟で発見された。

トガリユウシオガイ *Moerella culter* (Hanley, 1844)

琉球列島の内湾の干潟に生息する二枚貝であるが、今回の調査では、沖縄島の羽地内海と大浦から記録された。

テリザクラ *Moerella iridescens* (Benson, 1842)

強内湾性の貝で、今回の調査では厚狭川・有帆川・木屋川河口、および諫早湾から記録された。

チゴマテガイ *Solen dunkerianus* Clessin, 1883

有明海から知られていた二枚貝であるが、今回の調査では沖端川河口から記録された。

エゾマテガイ *Solen krusensternii* Schrenck, 1867

瀬戸内海以北に分布するマテガイ属の1種で、今回の調査では根室湾から記録された。

タガソデモドキ *Trapezium sublaevigatum* (Lamarck, 1819)

小規模な川の河口に生息する二枚貝であるが、今回の調査では、和歌山県の湯川ゆかし潟、上甕島のなまこ池、沖縄島の羽地内海と塩屋から記録された。

ヤエヤマヒルギシジミ *Gelonia erosa* (Lightfoot, 1786)

後述のシレナシジミとの関係は検討の余地があるが、今回の調査では石垣島の宮良湾から記録された。

トゥドゥマリハマグリ *Meretrix* sp.

西表島浦内川河口のトゥドゥマリ浜（通称、月が浜）だけで知られる未記載のハマグリ属の1種であり、西表島の海岸環境の履歴を解く鍵となるきわめて貴重な種であると言える。この浜に隣接した海岸林の中にホテルが建設され、環境の悪化が心配されている。

イヨスダレ *Paphia undulata* (Born, 1778)

奥深い内湾潮下帯の泥底に生息する二枚貝で、今回の調査では塩田川河口から記録された。分布の中心が潮下帯にあり、潜在的な分布はもう少し広い可能性がある。

ツキカガミ *Phacosoma aspera* (Reeve, 1850)

西表島を北限とする小型のカガミガイ属の1種で、今回の調査では浦内川河口から記録された。

キタノオオノガイ *Mya (Arenomya) japonica* Jay, 1857

北日本に生息するオオノガイ属の1種で、今回の調査ではサロマ湖から記録された。

ニオガイ *Barnea(Anchomasa) manilensis* (Philippi, 1847)

内湾の柔らかい泥岩に穿孔して生活する二枚貝で、今回の調査では、守江湾と沖縄島の漫湖から記録された。

コヅツガイ *Eufistulana grandis* (Deshayes, 1855)

砂泥底に石灰質の棲管を形成して生活する、きわめて特殊な生活様式を持った二枚貝である。羽地内海は世界でも数えるほどしかない生息地の一つとして知られていたが、今回の調査でも羽地内海からのみ記録された。

3) 他生物の体表などに付着して生活する種

ヒノマルズキン *Anisodevonia ohshimai* (Kawahara, 1942)

ヒモイカリナマコの体表に付着して生活する二枚貝で、絶滅が危惧されていたが（加藤・福田, 1996）、今回の調査では、石垣島の名蔵湾（模式産地）と川平湾で記録された。

ヒナノズキン *Entovalva semperi* Ohshima, 1930

ホソイカリナマコの体表に付着して生活する二枚貝で、天草で記載されて以来、記録はごく少なく、絶滅が危惧されていた（加藤・福田, 1996）。今回の調査では永浦と氷川河口で記録された。ヒノマルズキンの足が側扁していて、その右側に足糸腺があるのに対して、ヒナノズキンの足は腹面が広がり、その部分を寄主の体表に付着している。

ハナビラガイ *Fronsella ohshimai* Habe, 1958

スジホシムシモドキの体表に付着して生活する二枚貝で、今回の調査では西表島船浦から記録された。

フィリピンハナビラガイ *Fronsella philippinensis* Habe et Kanazawa, 1981

スジホシムシの体表に付着して生活することが知られており、今回の調査では、沖縄島の泡瀬から記録された。泡瀬ではこの他に、スジホシムシの体表にはユンタクシジミが共生している。

ウロコガイ *Lepirodes takii* (Kuroda, 1945)

干潟の礫の下面で、二枚の殻を平開して生活する二枚貝で、今回の調査では羽地内海から記録された。

ユンタクシジミ *Litigiella pacifica* Lutzen et Kosuge, 2006

沖縄島の泡瀬で発見された、スジホシムシの体表に共生する二枚貝で、2006年に新種記載された。今回の調査でも泡瀬から記録されたが、この干潟では、埋立工事が進行している。

スジホシムシヤドリガイ *Nipponomysella subtruncata* (Yokoyama, 1922)

スジホシムシの体表に共生する二枚貝で、浜名湖、伊川津、英虞湾、五ヶ所川河口、喜入メヒルギ林、永浦、緑川河口、本渡干潟、名蔵湾から記録された。

マゴコロガイ *Peregrinamor oshimai* Shoji, 1938

アナジャコ類数種の頭胸部腹面に着生して生活する二枚貝で、今回の調査では、浦内湾と永浦から記録された。近縁種のシマノハテマゴコロガイは奄美諸島固有で、ミナミアナジャコに共生する (Kato & Itani, 2000)。

ナタマメケボリ *Pseudopythina ochetostoma* Morton et Scott, 1989

タテジマユムシの体表に付着して生活する二枚貝で、今回の調査では沖縄島の羽地内海と塩屋、西表島の船浦と浦内川、そして石垣島の川平湾から記録された。

4) 地域・環境に特有の種、指標種

ハイガイ *Tegillarca granosa* (Linnaeus, 1758)

強内湾性の遺存種として著名であるが、今回の調査では、有明海（沖端川河口と塩田川河口）のほか、大野川河口、伊万里湾、塩屋海岸、氷川河口、羊角湾からも記録された。

サザナミマクラ *Modiolus flavidus* (Duiker, 1857)

近縁のホソスジヒバリガイ、ヌバタママクラ、リュウキュウヒバリガイと同様に、琉球列島の内湾の海草藻場の指標種である。今回の調査では石垣島の名蔵湾のみから記録された。

コケガラス *Modiolus metcalfei* (Hanley, 1843)

強内湾性の二枚貝で、今回の調査では、有明海（筑後川河口、沖端川河口、矢部川河口、塩田川河口、田古里川河口、諫早湾南岸）のほか、緑川河口、菊池川河口、氷川河口、塩屋海岸から記録された。

カブラツキガイ *Anodontia edentula* (Linnaeus, 1758)

琉球列島の内湾干潟の指標種であるが、今回の調査では、沖縄島の泡瀬、西表島の船浦、石垣島の名蔵湾で記録された。

ユキガイ *Meropesta nicobarica* (Gmelin, 1791)

奥深くしかも清澄な内湾の干潟の指標種で、今回の調査では、奄美大島の笠利湾、西表島の船浦、石垣島の名蔵湾から記録された。

サクラガイ *Nitidotellina hokkaidoensis* (Habe, 1961)

清澄な内湾の砂質干潟の指標種で、今回の調査では、田辺湾、池田浦、守江湾から記録された。

ダイミョウガイ *Pharaonella perna* (Spengler, 1798)

琉球列島の清澄な内湾の指標種で、西表島の船浦から記録された。

ヒメニッコウガイ *Tellinella staurella* (Lamarck, 1818)

琉球列島の干潟を代表する二枚貝で、今回の調査では石垣島の川平湾と名蔵湾から記録された。

ヘラサギガイ *Tellinides timorensis* Lamarck, 1818

琉球列島の内湾の砂質干潟に特有の二枚貝で、今回の調査では沖縄島の羽地内海と佐敷干潟、西表島の船浦と浦内川河口から記録された。

マスオガイ *Psammotaea elongata* (Lamarck, 1818)

南日本の礫質干潟の指標種であるが、今回の調査では琉球列島の数カ所の干潟でのみ記録された。

ハザクラ *Psammotaea minor* (Deshayes, 1855)

河口汽水域の自然の指標種で、今回の調査において、本土では五ヶ所川河口、男里川河口、紀ノ川河口、有田川河口、僧都川河口、熊ノ江、五ヶ瀬川、本城川河口、喜入メヒルギ林、重富海岸、天降川河口、万之瀬川河口、琉球列島では羽地内海、塩屋、崎枝湾、名蔵湾から記録された。

オチバガイ *Psammotaea virescens* (Deshayes, 1855)

ハザクラと同様に河口汽水域の自然の指標種であるが、琉球列島には産しない。今回の調査では、櫛田川河口、木曾川河口、安濃川河口、志登茂川河口、湯川ゆかし潟、島田川河口、菊池川河口から記録された。

シレナシジミ *Geloina coaxans* (Gmelin, 1791)

マングローブの泥干潟に生息する二枚貝として著名であり、今回の調査では沖縄島以南の数カ所のマングローブ干潟で記録された。

ハナグモリ *Glauconome chinensis* Gray, 1828

強内湾性の泥干潟の指標種で、ヨシ原をしたがえた河口に出現する。今回の調査では、勝浦川河口、長井浜、有明海（筑後川河口、矢部川河口、諫早湾）、曾根干潟、羊角湾、中津港周辺、大野川河口、田古里川河口、羽地内海、塩屋から記録された。

5) 人間の生活や営みの中で利用されている種

アカガイ *Scapharca broughtonii* (Schrenck, 1867)

内湾の潮下帯に生息する二枚貝で、漁獲対象としても重要な地位にあった。今回の調査では有明海（筑後川河口、六角川河口、沖端川河口）、緑川河口、中津港周辺から記録されたが、かつての大産地であった近畿以東の個体群は衰退してしまっている可能性が高い。

ホソスジヒバリ *Modiolus philippinarum* (Hanley, 1843)

琉球列島の内湾干潟に生息する大形の二枚貝で、今回の調査では羽地内海のみから記録された。羽地内海では、地元の人々の潮干狩りの重要な採集対象となっている。

ウミギク *Spondylus cruentus* Lischke, 1856

今回の調査においては、羽地内海のみで記録された。ウミギクは岩礁の潮下帯に分布の中心があるが、羽地内海の生息地は特異なものであり、ここのウミギクは岩礁性のウミギクと異なるものである可能性がある。羽地内海の潮干狩りでは重要な採集対象となっている。

イタボガキ *Ostrea denselamellosa* Lischke, 1869

かつては、瀬戸内海をはじめ、各地の内湾の潮下帯に普通に見られた二枚貝であるが、近年、激減している。今回の調査では発見できなかった。ただ、香川県では、種苗の育成と養殖の試みが始まっている。

ミルクイ *Tresus keenae* (Kuroda et Habe, 1950)

内湾の潮下帯に生息する二枚貝で、かつては多量に漁獲されていた地方もあったが、近年の減少が著しい。今回の調査では、細ノ洲でのみ記録された。

ハマグリ *Meretrix lusoria* (Röding, 1798), ヤマトシジミ *Corbicula japonica* Prime, 1864

前述。

6) 移入種

コウロエンカワヒバリガイ *Xenostrobus securis* (Lamarck, 1819)

オーストラリアとニュージーランド原産の二枚貝で、1970年代に日本の河口域に侵入した（日本生態学会，2002）。今回の調査では、本州から九州にかけての各地の河口域から記録され、分布を広げていることが明かとなった。

アシバマスオ *Soletellina (Soletellina) petalina* (Deshayes, 1855)

インド・大太平洋の熱帯域に分布する種類で、1990年代になって日本に侵入した（Fukuda and Willan, 2002）。今回の調査では、田辺湾、西広海岸、和歌川河口、池田浦、守江湾、臼杵、佐敷から記録され、分布を急速に拡大しつつあることがうかがえる。

タイワンシジミ *Corbicula fluminea* Müller, 1774

台湾や中国、インドシナなどを原産地とする淡水産二枚貝であるが、近年、全世界に分布を広げている（日本生態学会，2002）。日本では淡水域だけでなく、ヤマトシジミが生息する河口域にも侵入しており、日本各地の河口域で発見されるようになっている。タイワンシジミは形態的にマシジミに極めて似ており、その分類には再検討の余地があるが、最近になって汽水域に出現するようになったマシジミそっくりの貝はタイワンシジミである可能性が高い。

ホンビノスガイ *Mercenaria mercenaria* (Linnaeus, 1758)

北米大西洋岸原産の外来種で、今回の調査では東京湾（谷津干潟と江戸川河口）から記録された。

ヒラタヌマコダキガイ *Potamocorbula laevis* Hinds, 1843

沿海州から朝鮮半島にかけての内湾干潟にもともと生息していた二枚貝で、1990年代に日本（有明海）に侵入している。今回の調査では、有明海（筑後川河口、六角川河口、塩田川河口）と長井浜で記録された。

7) 分類学的検討が必要な種

イチョウシラトリ *Pistris capsoides* (Lamarck, 1818)

強内湾性干潟の指標種で、今回の調査では、有明海周辺と琉球列島の内湾から記録されたが、両者の間には形態的差異が見られ、分類学的再検討が必要である。

Psammotaea inflata

沖縄県（2005）によって初めて日本から記録されたマスオガイ近似種で，今回の調査では羽地内海と塩屋で記録された．河口干潟の泥底に深く潜って生活している．

クシケマスオ *Venatomya truncata* (Gould, 1861)

アナジャコの孔に水管を開口させて生活する貝として知られているが (Itani & Kato, 2002)，今回の調査では，英虞湾，田古里川，塩屋，川平湾から記録された．琉球列島のものは分類学的再検討の必要がある．

トゥドゥマリハマグリ *Meretrix* sp.

前述。

参考文献

- Fukuda, H. and Willan, R. C., 2002. *Soletellina (Soletellina) petalina* (Bivalvia: Psammobiidae) from the Japan Sea Coast of Kyushu, Japan. *The Yuriyagai* 8: 57-61.
- Itani, G. and M. Kato, 2002. *Cryptomya (Venatomya) truncata* (Bivalvia: Myidae): Association with thalassinidean shrimp burrows and morphometric variation in Japanese waters. *Venus* 61: 193-202.
- 加藤 真・福田宏, 1996. 二枚貝綱. In: 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. p. 65-73.
- Kato, M. and G. Itani, 2000. *Peregrinamor gastrochaenans* (Bivalvia: Mollusca), a new species symbiotic with the thalassinidean shrimp *Upogebia carinicaudata* (Decapoda: Crustacea). *Species Diversity* 5: 309-316.
- Lützen, J. and Kosuge T, 2006. Description of the Bivalve *Litigiella pacifica* n. sp. (Heterodonta: Galeommatoidea: Lasaeidae), Commensal with the Sipunculan *Sipunculus nudus* from the Ryukyu Islands, Japan. *Venus* 63: 193-202.
- 日本生態学会, 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館.
- 沖縄県, 2005. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物-動物編. 沖縄県文化環境部自然保護課.

星口動物門

西川 輝昭

日本列島の星口動物相については、ユムシ動物門と同様に、1940年代前半までになされた池田岩治と佐藤隼夫の多量のすぐれた分類学的研究がある。また、近年では米国のカトラー博士らによるモノグラフ(Cutler et al., 1984)がある。池田や佐藤の論文では、採集地点として潮間帯と潮下帯とを区別していない場合が多いので、彼らの研究から往時の干潟におけるユムシ動物相を復元して現状と比較することは容易でない。他方、カトラー博士らのモノグラフは、詳細な採集データが付された1970年代以降の標本を多く扱っているため、干潟の星口動物相の消長の一端をたどることができる。また、1920～30年代に行われた石川(1938)などによる「釣り餌」としての本動物群の研究がこれを補うものとなっている。なお、本報告において種名決定に至っていない標本は、それが不完全なためである。

1) かつて普通に見られたが、今は減少している種

スジホシムシ *Sipunculus nudus* Linnaeus, 1766

暖水性の汎世界種で、多くの場合、潮間帯から100m程度の浅海に分布する(西川, 1992)。日本列島沿岸では陸奥湾以南の各地から記録がある。潮間帯ないし浅海からの明確な記録にかぎると、Ikeda(1904)は、相模湾の三崎で頻繁に採集されるほか、館山や瀬戸内海各地ではごく普通に見られるとした。東京大学総合研究博物館には、池田が同定した三崎と兵庫県鞆ノ浦産標本がある(Nishikawa & Ueshima, 2006)。佐藤(1934)は、尾道湾から報告している。他方、房総半島より北では、Sato(1930)が陸奥湾の茂浦から2個体、そしてSato(1937)が宮城県唐桑村の海岸から1個体をそれぞれ記録しているにすぎない。Cutler et al. (1984)は新たな産地として、大阪湾、沖縄島瀬底島、石垣島川平湾、および竹富島を挙げている。

石川(1938)によると、瀬戸内海では、「キゾウ」とか「キドー」などと呼ばれ、釣り餌用に干潟でさかんに採取されていた。また、本種の「著名なる産地」として、愛知県知多郡野間村、岡山県浅口郡寄島町・笠岡町、広島県尾道市、同広島市江波町、同佐伯郡大野村、山口県玖珂郡麻里布村新港、同下関市伊崎町、熊本県宇土郡松合町、同八代郡鏡町、および同郡文政村を挙げている。広島県では、8～13万尾を生かしたまま運搬できる船が4隻稼動しており、汽車便での輸送も盛んであった(広島県水産試験場, 1932)。多産ぶりがうかがえよう。なお、本種は長時間の輸送に耐えるため、船よりは汽車便が利用されるようになった由である(石川, 1938)。

今回の調査では、横浜市野島干潟を北限とし、浜名湖、英虞湾、山口県笠戸島、山口湾、熊本県天草郡永浦、沖縄島羽地内海、那覇市大嶺、中頭郡泡瀬、国頭郡億首川河口、および石垣島川平湾、名蔵湾で発見された。密度が高いところも多い。上記の既知産地を参照すると新産地が多いことが

わかるが、これは従来の調査が不十分のためと考えられる。新産地の発見とはうらはらに、かつて多産を誇った瀬戸内海での出現報告が極めて乏しいことが目を引く。主に 1995 年ごろに行われたアンケート結果による和田ら (1996) の報告では、広島県細の洲 (今回の調査の「細ノ洲」に対応) と山口県秋穂湾 (今回の調査の「秋穂湾」) で「普通」とされたが、今回は発見されなかった。また、上述したように Ikeda(1904)が「頻繁に採集」した相模湾の三崎は今回の調査における「小網代湾」にほぼ対応するが、ここからもまったく採集されなかった。日本列島の特に本土沿岸において、かつての普通種は今、衰退傾向にあると考えられる。

スジホシムシモドキ *Siphonosoma cumanense* (Keferstein, 1867)

暖水性の広分布種で、生息域は潮間帯にほぼ限定される。日本列島においては、Cutler et al. (1984) が総覧しているように、陸奥湾から西表島まで、日本列島の太平洋岸と日本海岸に広く分布している。

石川 (1938) によると、「タケゾウ」、「ヘイロク」、「サンゴウジュ」、「オウコムシ」などと呼ばれ、釣り餌用に干潟でさかんに採取されていた。彼は、本種の「著名なる生産地」として、愛知県知多郡野間村、岡山県浅口郡寄島町、広島県尾道市、同広島市江波町、同佐伯郡大野村・地御前村、山口県玖珂郡麻里布村新港、同吉敷郡阿知須、同厚狭郡埴生、下関市伊崎町、および福島県筑前箱崎町を挙げている。広島県では、375 ~ 490kg を生かしたまま運搬できる船が 4 隻稼動しており、汽車便での輸送も盛んであった (広島県水産試験場, 1932)。山口県にも、180 ~ 500kg を運搬する船が 3 隻あった (石川, 1938)。

今回の調査では、宮城県万石浦を北限とし、同県松島湾、福島県松川浦、神奈川県小網代湾、浜名湖、三河湾伊川津、三重県五ヶ所川、和歌山県内之浦、山口県笠戸島、山口湾、秋穂湾、広島県細ノ洲、宮島、大分県守江湾、熊本県永浦、緑川、菊地川、本渡干潟、鹿児島県喜入メヒルギ林、奄美大島笠利湾、沖縄島名護市大浦、国頭郡億首川河口、および石垣島宮良湾、名蔵湾で発見された。前回の和田ら (1996) の報告と比較すると、陸奥湾と三河湾一色干潟で今回採集されなかったことを除けば、大きな変化は見られない。小網代湾からも個体数の多寡は「C」判定として発見されている。現況は、上述した石川 (1938) などによる往時の生息状況と比較すれば減少傾向にあるとはいえ、スジホシムシと比べてその程度は幾分軽いと考えられる。

2) 日本列島において分布が限定されている種

ミューラータテホシムシ *Aspidosiphon (Aspidosiphon) muelleri* Diesing, 1851

本種は汎世界的に、潮間帯から水深 400m あるいはそれ以深にまで分布し、巻貝の死殻のなかで生活する。日本列島周辺では、相模湾から種子島までの太平洋岸と隠岐以南の日本海沿岸から記録されており、潮間帯での採集例はほとんどない。今回の調査で、小笠原二見湾でのみ発見されたが、これは本種の新産地である。本種は極めて広い分布域をもっていることから、複数の隠蔽

種を含む可能性が高い。今後の検討課題としたい。

カドタテホシムシ *Aspidosiphon (Paraspidosiphon) laevis* de Quatrefages, 1865

本種は環熱帯の潮間帯から浅海に分布し、死サンゴ塊や岩石に穿孔して生活するが、どこでも生息密度は高くない (Cutler, 1994)。日本列島からの記録としてはこれまで、奄美大島の「カツヨリ」という入り江の潮間帯でひろった死サンゴ塊から取り出した1個体に対して、*A. angulatus* が新種記載されたただけであった (Ikeda, 1904)。この種は現在、*A. laevis* の新参異名とされている (Cutler, 1994)。今回の調査で奄美大島笠利湾からカドタテホシムシが発見されたことは、日本における2番目の記録として特筆に価する。本種は極めて広い分布域をもっていることから、複数の隠蔽種を含む可能性が高い。*A. angulatus* が有効名として復活する可能性もある。この点でも奄美大島の個体群は重要であり、注視が必要である。

3) 希少種

アマミスジホシムシモドキ *Siphonosoma funafuti* (Shiple, 1898)

南西日本の個体群は *S. amamiense* (Ikeda, 1904) と命名されたが、現在では、南太平洋のいくつかの島に生息する *S. funafuti* と同一種とみなされている (極端な隔離分布から見て、この異名関係は再検討が必要かもしれない)。おそらく潮間帯にのみ生息するものと思われる。日本列島ではこれまで、種子島、奄美大島の名瀬と古仁屋、宮古島、沖縄島糸満、石垣島川平湾で発見された (Cutler, et al., 1984)。古仁屋では “numerous specimens” が採集されているが (Ikeda, 1904)、他の産地では1個体のみであるから、一般に生息密度はあまり高くないようである。今回の調査では、石垣島の宮良湾と崎枝湾で個体数の多寡は「R」(少)判定で記録されたただけである。希少種として、今後の動向を見守る必要がある。

4) 日本初記録種

ミナミスジホシムシモドキ(仮称) *Siphonosoma australe takatsukii* Sato, 1935

本亜種は、もともと Sato(1935)がヤップ島産1個体に対して *S. takatsukii* として新種記載したもののだが、Sato(1939)が台湾澎湖島潮間帯産1個体に対して命名した *S. pescadolense* とともに、Cutler and Cutler(1981)によって *S. australe* のひとつの亜種とされた。すなわち、ミナミスジホシムシモドキ(仮称)はこれまで、台湾とヤップ島から各1個体が採集されたにすぎない。

今回の調査で、奄美大島住用川 (不完全個体のため、同定に不安あり)、沖縄島名護市大浦、および石垣島宮良湾から採集された。これらは日本初記録となる。

5) その他

クロホシムシ *Thysanocardia nigra* (Ikeda, 1904)

太平洋の両側に分布し，日本列島では，沖縄県を除く日本全土の太平洋岸，瀬戸内海，北海道の日本海岸の，潮間帯から約 500m 深に分布する(西川, 1992). 日本列島における分布を Cutler et al. (1984)で総覧してみると，潮下帯で採集された場合が圧倒的に多く，潮間帯であることが明示されている産地は，伊勢湾答志島と三河湾東幡豆だけである．今回の調査では，神奈川県小網代湾，山口県笠戸島および福岡県矢部川で採集された．干潟からの記録としていずれも貴重なものである．

サメハダホシムシ *Phascolosoma scolops* (Selenka et de Man, 1858)

日本全土を含む，インド洋・太平洋海域の潮間帯から潮下帯の，岩礁やサンゴ礁海岸にごく普通に生息する(西川, 1992). 死サンゴ塊や岩に穿孔してその中に生活するかあるいは岩の間の砂だまりに住むのが普通であり，干潟ではあまり見かけない種である．今回の調査で，広島県宮島，熊本県永浦および同羊角湾で採集された．

アンチラサメハダホシムシ *Antillesoma antillarum* (Grübe et Oersted, 1858)

クロサメハダホシムシ *Phymosoma onomichianum* Ikeda, 1904 は本種の新参異名と考えられている．環熱帯の潮間帯から浅海に広く分布し，日本列島では，瀬戸内海，和歌山，有明海，奄美および沖縄から記録されている(西川, 1992). 既往の記録のおおくは潮間帯で採集されたものである．石川(1938)は，福岡県下における調査結果として，有明海沿岸の「筑後川尻に方る沖合の干潟面と，大牟田川尻の滞筋に沿ふた干潟面」から，“クロムシ”と称して，釣り餌用に採取していることを報じている．今回の調査では，兵庫県千種川，福岡県沖端川，同曾根干潟，佐賀県田古里川および熊本県菊池川で見ついている．熱帯系種であるにもかかわらず，奄美・沖縄で発見されなかったのは意外である．

参考文献

- Cutler, E. B., 1994. The Sipuncula: Their Systematics, Biology, and Evolution. Cornell University Press, New York, xvii+455pp.
- Cutler, E. B. and Cutler, N. J., 1981. A reconsideration of Sipuncula named by I. Ikeda and H. Sato. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 26 : 51-93.
- Cutler, E. B., Cutler, N. J. and Nishikawa, T., 1984. The Sipuncula of Japan : Their systematics and distribution. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 29 : 249-322.
- 広島県水産試験場, 1932. 広島県産主要餌虫類に関する報告書, 広島県水産試験場, 広島, 45p.

- 石川久治, 1938. 実験・応用釣餌虫利用の研究, 釣餌料研究会, 福岡, 14+253p.
- 西川輝昭, 1992. 星口動物門. In : “原色検索日本海岸動物図鑑 I” (西村三朗編著), 保育社, 東京, pp. 299-305.
- Nishikawa, T. and Ueshima, R., 2006. A list of the sipunculan collection of the Department of Zoology, the University of Tokyo. In : “Catalogue of Invertebrate Collection deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo (The University Museum, The University of Tokyo, Material Report No. 62)” (R. Ueshima ed.), pp. 1-13.
- Okuda, S., 1946. The fauna of Akkeshi Bay XV. Gephyrea. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. 6, Zool., 9 : 221-224.
- 佐藤隼夫, 1934. 尾道湾に産する星虫類および蛭類. 動物学雑誌, 46 : 245-253.
- Sato, H., 1935. Sipunculoidea and Echiuroidea of the West Caroline Islands. Science Reports of the Tohoku Imperial University, 4th ser., Biology, 10 : 299-329.
- Sato, H., 1937. Echiuroidea, Sipunculoidea and Priapulidea obtained in Northeast Honshu, Japan. Saito Ho-on Kai Mus. Res. Bull. 12 : 137-176.
- Sato, H., 1939. Studies on the Echiuroidea, Sipunculoidea and Priapulidea of Japan. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., 4th ser., Biology, 14 : 339-460.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

ユムシ動物門

西川 輝昭

日本列島のユムシ動物相については、1940年代前半までになされた池田岩治と佐藤隼夫の多量のすぐれた分類学的研究がある。ただし、採集地点として潮間帯と潮下帯とを区別していない場合が多いので、彼らの研究から往時の干潟におけるユムシ動物相を復元して現状と比較することは容易でない。石川（1938）などによる「釣り餌」としての本動物群の研究がこれを補うものとなっているとはいえ、生息現況の客観的評価には大きな制約があることを、あらかじめお断りしておきたい。

1) かつて普通に見られたが、今は激減している種

ユムシ *Urechis unicinctus* (von Drasche, 1881)

文献記録をたどると、本種は、琉球列島をのぞく日本列島の太平洋（オホーツク海を含む）沿岸、瀬戸内海、日本と大陸および朝鮮半島の日本海全域沿岸、黄海沿岸、さらにロシアのオホーツク海沿岸に分布し、潮間帯から浅海の砂泥底にU字型の巣穴を掘って生息している。

平安時代から「キ」（漢字表記は「蝙蝠」など）と呼ばれ、食膳を賑わすとともに、釣り餌としても重宝されてきた（西川，1995）。北海道の知床半島では、冬の嵐の後に浜辺に打ちあがったものを「フレチ」と呼んで強壯剤として食用にしたことが、松浦武四郎によって幕末に記録されている（同；西川，2001b）。北海道石狩湾の銭函でも海岸に大量に打ちあがっている（Ikeda, 1924）。なお、韓国では「ケブル」と呼び、現在でも食品として珍重している。

本種はかつて日本各地の干潟に珍しくなく、密度も相当に高かったと思われる。釣り餌としての利用に関係して、たとえば、高松（1894）は「東京湾内殊ニ佃島、品川辺ノ漁夫等ハ[中略]干潮ノ際 1日能ク数百尾ヲ収メテ市場ニ売買ス」と記している。また、石川（1938）は、本種を「漁業上実際に利用しつつある主なる産地」として、陸奥湾から大村湾にいたる全国60箇所の地名を挙げており、瀬戸内海沿岸に特に多い（ただし、これら産地のなかには、干潟を掘り起こして採集するのではなくて、潮下帯からカギ針に引っ掛けて採取している少数例も含まれる）。地方名も豊かである。広島県では、5～7万匹を生かしたまま運搬できる船が4隻稼動し、汽車便での輸送も盛んであった（広島県水産試験場，1932）。輸送船は山口県でも2隻（2万～8万匹を運搬可能）、そして愛媛県でも1隻（3万～3万5千匹）が稼動していた（石川，1938）。

主に1995年ごろに行われたアンケート結果による和田ら（1996）の報告では、本種個体群は、陸奥湾、岡山県、香川県、および福岡県行橋市で健在であったが、愛知県一色干潟で「絶滅」、三浦半島周辺や広島湾、山口県秋穂湾および山口湾、そして長崎県で「危険」と判定された。上で引用した高松や石川の時代と比べて減少傾向にあることが示されたわけだが、残念ながら、それ

が 21 世紀初頭において一段と激しく進んでいることが、今回の広範な実地調査で明らかになった。すなわち、今回は、北海道紋別市コムケ湖および福岡県北九州市の曾根干潟のみから、しかも個体数の多寡は「R」（少）判定で記録されただけである。

かつて釣り餌として多産を誇った瀬戸内海沿岸（とりわけ広島県）において今回まったく発見されなかったのは、この海域の干潟における個体群密度の顕著な低下傾向を反映しているものと考えられる。もっとも、伊谷ら(2005)によると、「愛媛県東部の燧灘沿岸では干潟域にユムシが生息しており、今でも釣り餌用として盛んに採集されている」。彼らは、その 2 個所の干潟で、ユムシの巣穴に生息するカニ類の調査のために、2003 年 7 月から 2005 年 2 月にかけて、合計 120 個体あまりを採集したという。本海域における生息密度の継続的調査が望まれる。

今回の紋別市における本種の発見は新産地記録となるが、地理的分布の様相が変化したためではなく、これまでの調査が不十分のためと考えられる。すでに、上記の松浦武四郎による知床半島の記録だけでなく、紋別市よりも北の稚内市における生息も確認されているからである（西川，2001）。

本種の巣穴の深さは寒冷期には 15 cm から 30 cm だが、初夏には 1 m 以上にもなるという（石川，1938）。このことから、今回の調査でたった 2 個所からしか発見されなかったことを、それがおもに温暖期に行われ、しかも深さ 20 cm 程度しか掘っていない点に求める議論がありうるかもしれない。しかし、曾根干潟における今回の発見が 4 月末（2002 年 4 月 25 日）という寒冷とはいえない時期であったことを考えると、上記の減少傾向の原因をすべて調査法に帰着させることはできない。むしろ、かつての普通種が干潟から急速に姿を消しつつあると言うべきであろう。

本種の分布の中心は、潮間帯よりはむしろ潮下帯にあるともいわれる（石川，1938）。したがって、潮間帯、つまり干潟において急激に減少しつつあることが、即、本種の危機的状況を意味するわけではない。しかし、干潟の環境条件が本種にとって不適なものに変わってきたことは、ほぼ間違いなからう。さらには、潮下帯個体群の衰退傾向を示唆しているおそれもある。継続的な注視が求められる。

2) 日本列島において分布が限定されている種

キタユムシ *Echiurus echiurus echiurus* (Pallas, 1766)

本亜種は北極—北太平洋要素の分布パターンを示すので、北海道オホーツク海沿岸における生息の可能性が推測されていたが、今回の調査でそれが初めて確かめられた。これまで、日本列島沿岸からの確かな記録としては、Okuda (1946) が北海道厚岸のアマモ場から数個体を採集したとの報告のみであった。なお、今回厚岸では採集されていない。

サビネミドリユムシ *Anelassorhynchus sabinus* (Lanchester, 1905)

インド洋・西太平洋に分布する暖水系種で、日本では広島県尾道湾で始めて発見され（佐藤, 1934）、その後串本でも採集されている（西川, 1992）。尾道湾では、「クロユ」ないし「シロユ」と呼ばれ、釣り餌として干潟で採取されていた（広島県水産試験場, 1932）。広島県が主産地で、とりわけ「尾道市大御所地先より栗原川尻を経て巖通寺川尻に至る海浜と、[広島湾の]佐伯郡地御前村、大野村の地先に多」い（石川, 1938；カギ括弧内の注記は引用者による）。今回の調査地点のうち「宮島」は上記の「大野村」に近いが、まったく採集されなかった。他方、今回、岡山県笠岡湾で新たに発見されたことは特筆すべきである。

タテジマユムシ *Listriolobus sorbillans* (Lampert, 1883)

本種の日本個体群は、Sato(1939)により沖縄県石垣島川平湾の潮間帯から採集された不完全な 1 個体により *L. riukuensis* と命名された。Nishikawa(2004)は、各地からの多数の標本を検討した結果、この種を *L. sorbillans* の新参異名とし、タテジマユムシは、琉球諸島からフィリピンのミンドロ島、インドネシアのビリトン島を経て、オーストラリアのモートン湾やシドニーにまで分布すると結論づけた。生息場所は潮間帯で、海底とほぼ垂直に巣穴を掘り、吻だけを 10～40 cm も細長く砂泥表面に延ばすが、刺激によりすばやくそれを巣穴に引き込む。巣穴はかなり深いので、完全個体の採集は容易ではない。吻の最高密度は 1 m² あたり 10 に達する。日本における既知産地は、奄美大島笠利湾、沖縄島羽地内海、石垣島川平湾、名蔵湾、および西表島船浦、白浜である（Nishikawa, 2004）。

今回の調査では、おもに琉球列島の干潟から本種が続々と記録された。新産地は、北から、鹿児島県上甕島浦内湾（北限）、沖縄島大宜味村塩屋、名護市大浦、与那原町佐敷干潟、同那覇市大峰、西表島浦内川、西表島前良川向井である。本種の細長い紐状の吻は干潟で目立つので、生息の確認は容易である。継続的な分布調査を期待する。

3) 固有種

ドククチュムシ *Arhynchite arhynchite* (Ikeda, 1924)

日本固有種で潮間帯から浅海に生息する。なお、DattaGupta(1983)が本種をモザンビーク海盆の 4912m 深から記録しているが、地点、深度ともに既往の記録からかけ離れている。再検討を要する分布記録なので、ここでは考察から除外する。

これまでの分布記録は、北海道（正確な産地不明）、青森県八戸市鮫（深度不明）、相模湾三崎（同）、および広島県福山市鞆の浦（潮間帯）である（西川, 2001a）。さらに、北海道網走市沖の水深 7～12 m からも採集されている（西川, 未発表）。今回、三河湾の伊川津から発見されたが、これは新産地として貴重な記録である。

ゴゴシマユムシ *Ikedosoma gogoshimaense* (Ikeda, 1904)

Ikeda(1904)によると、愛媛県の興居島潮間帯で極めて普通に見られ、小山の周囲に大型で特異な形の糞粒をばらまくことでその存在がすぐにわかるという。相模湾の三崎からも発見され (Ikeda, 1904), 尾道湾でも多産した (佐藤, 1934; Sato, 1939)。しかし、近年まったく発見されていない。今回の調査でも同様であった。

石川 (1938) によれば、本種の分布は、上記の三崎を別とすれば、広島県と愛媛県にかぎられ、豊前海、筑前海、有明海、八代海ではまったく知られていない。興居島の船越では「ゴゴシマユムシ」と呼ばれ、釣り餌用に乱獲されて激減した。一方、広島県では「イヌユ」、「イヌコウジュ」などと呼んで自家用の釣り餌として利用している。石川 (同) は、産地として、佐伯郡大竹町、大野村、安芸郡早瀬、下蒲刈島村三ノ瀬、加茂郡可賀町、三津口町、竹原町、豊田郡忠海町二窓、御調郡吉和村、向島西村天宝山の洲、富浜の洲、細島細ノ洲、を挙げている。最後に名前が挙げられている「細島細ノ洲」は今回の調査地点「細ノ洲」に対応するが、残念ながら再発見はなかった。

4) 希少種

ミドリユムシ *Anelassorhynchus mucosus* (Ikeda, 1904)

本種は、相模湾三崎、瀬戸内海、および朝鮮半島から知られている (西川, 1992)。今回の調査では浜名湖と広島県細ノ州で発見されたが、これらはいずれも新産地である。なお、広島県下で干潟から浅海に生息して釣り餌として使われた「コウジュ」を本種とする文献もあるが、ここでは佐藤 (1934) に従い、「コウジュ」はオウストンミドリユムシ *Thalassema owstoni* Ikeda, 1904 を指すものとしておく。ちなみに、今回の調査ではこの種はまったく採集されなかった。個体群の衰退が危惧される。

参考文献

- DattaGupta, A. K., 1983. Echiurans collected during the SAFARI 1 cruise in the Indian ocean, south of Madagascar. Bull. Mus. Natn. Hist. nat., Paris, 4e sér., 5, section A, no 4 : 1043-1050.
- 広島県水産試験場 (1932) 広島県産主要餌虫類に関する報告書, 広島県水産試験場, 広島, 45p.
- Ikeda, I., 1904. The Gephyrea of Japan. J. Coll. Sci., Imp. Univ. Tokyo, 20(4) : 1-87.
- Ikeda, I., 1924. Further notes on the Gephyrea of Japan, with descriptions of some new species from the Marshall, Caroline and Palau Islands. Japanese J. Zool., 1 : 23-44.
- 石川久治, 1938. 実験・応用釣り餌虫利用の研究, 釣り餌料研究会, 福岡, 14+253p.
- 伊谷 行・伊知地 稔・上田拓史, 2005. 瀬戸内海燧灘でユムシの巣穴から採集されたカニ類.

Cancer, 14 : 1-4.

- 西川輝昭, 1992. ユムシ動物門. In : “原色検索日本海岸動物図鑑 I ” (西村三朗編著), 保育社, 東京, pp. 306-309.
- 西川輝昭, 1995. ユムシ・イムシのルーツを訪ねて—動物和名の一考察. 海洋と生物, 17 : 512-517.
- 西川輝昭, 2001a. 東大総合研究博物館所蔵標本の調査で判明したドククチュムシとヒメギボシムシの新産地. 南紀生物, 43 : 137-138.
- 西川輝昭, 2001b. 伊藤圭介と動物 In : “江戸から明治の自然科学を拓いた人 伊藤圭介没後 100 年記念シンポジウム 講演要旨集 ” (名古屋大学附属図書館編), pp. 17-19, 名古屋大学附属図書館, 名古屋.
- Nishikawa, T., 2004. Synonymy of the West-Pacific echiuran *Listriolobus sorbillans* (Echiura: Echiuridae) with taxonomic notes towards a generic revision. Species Diversity, 9: 109-123.
- Okuda, S., 1946. The fauna of Akkeshi Bay XV. Gephyrea. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. 6, Zool. , 9 : 221-224.
- 佐藤隼夫, 1934. 尾道湾に産する星蟲類および蛭類. 動物学雑誌, 46 : 245-253.
- Sato, H., 1939. Studies on the Echiuroidea, Sipunculoidea and Priapulioidea of Japan. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. , 4th ser. , Biology, 14 : 339-460.
- 高松榮太郎, 1894. 蛭. 動物学雑誌, 6 : 142-143.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.

環形動物門

多毛綱

山西 良平・佐藤 正典

軟体動物や大形甲殻類と比較すると、多毛類においては個々の種の分布や生息場所についての情報が格段に乏しく、今回の調査は、重要な生息場所のひとつである干潟のファウナと主要種の全国的な分布の現況を把握できる画期的な機会であった。

今島（2001）によれば日本産の多毛類の総種数は約 930 種とされているが、今回の調査で干潟から記録され、日本産の既知種と同定された種数はその 1 割以上の 99 種に達した。未同定のものを含めると 35 科 111 属 146 種以上にのぼる(巻末別表 1)。なお、本稿における科の配列は内田（1992）に従った。

1) 主要種について

種あるいは種群（形態的に識別が難しい複数種のグループ）のレベルにおいて最も出現地点数が多かったのはコケゴカイ（ゴカイ科）であり、全国 157 ヲ所中 69 ヲ所で記録された。次いで 10 ヲ所以上で記録されたものを多い順に並べると、*Hediste* 属種群（ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ）（ゴカイ科, 66）、ミズヒキゴカイ（ミズヒキゴカイ科, 66）、*Heteromastus* 属種群（ホソイトゴカイもしくはその近似種）（イトゴカイ科, 63）、*Notomastus* 属種群（シダレイトゴカイもしくはその近似種）（イトゴカイ科, 58）、スナイソゴカイ（ゴカイ科, 48）、*Glycera macintoshi*（チロリ科, 43）、コアシギボシイソメ（ギボシイソメ科, 41）、スゴカイイソメ（ナナテイソメ科, 33）、ヤマトキョウスチロリ（ニカイチロリ科, 32）、イトメ（ゴカイ科, 30）、イワムシ（イソメ科, 29）、チロリ（チロリ科, 27）、ムギワラムシ（ツバサゴカイ科, 22）、ツバサゴカイ（ツバサゴカイ科, 19）、タマシキゴカイ（タマシキゴカイ科, 17）、ヒヤクメニッポンフサゴカイ（フサゴカイ科, 16）、チリメンイトゴカイ（イトゴカイ科, 12）、ウチワゴカイ（ゴカイ科, 11）、ミナミシロガネゴカイ（シロガネゴカイ科, 11）、ヤマトスピオ（スピオ科, 11）、ツツオオフエリア（オフエリアゴカイ科, 11）となる（括弧内の数値は地点数）。

これら主要種の出現状況を以下に紹介する。

Glycera macintoshi Grube, 1877

従来 *G. subaenea* Grube, 1878 とされていた種であるが、近年の分類学的レビュー（Boeggemann, 2002）によりこの学名に変更された。関東以南、石垣島に至るまでの西南日本に広く分布し、出現頻度もきわめて高い。

チロリ *Glycera nicobarica* Grube, 1868

従来 *G. chirori* Izuka, 1912 とされていた種であるが, Boeggemann (2002)によりこの学名に訂正された。前種より大形である。北日本を含む日本全域に分布し, 和名が示すように本科を代表する種であるが, 出現地点数は前種よりも少なく, 特に東海, 瀬戸内地域でほとんど記録されなかったことが懸念される。

ヤマトキョウスチロリ *Goniada japonica* Izuka, 1912

西日本に分布する種といわれている(内田, 1992)。今回の調査でも, 東海地方から九州および種子島で記録された。この地域での出現率は高く, 各地の干潟に普通に生息していると考えられる。

コケゴカイ *Ceratonereis erythraeensis* Fauvel, 1918

砂泥中で, 細長い体を包む柔らかい筒状の巣を作っている。本調査では全多毛類の中で最も多くの地点から記録された種である。内田(1992)は本種の分布域を「本州中部以南」としているが, 今回の調査では, 東北地方から八重山諸島にかけての広い範囲で記録された。

Hediste 属種群 (ヤマトカワゴカイ *Hediste atoka* Sato et Nakashima, 2003 もしくはヒメヤマトカワゴカイ *H. diadroma* Sato et Nakashima, 2003)

かつてはゴカイ *Neanthes japonica* という名称で河口干潟の優占的動物として知られ, 後述のリアケカワゴカイも含めて1種と見なされていた種群である。それぞれの種の分布傾向はすでに明らかにされているが(Sato & Nakashima, 2003; 佐藤, 2004), これら2種は外部形態が酷似しているため判別困難な場合が多い。本調査では北日本から九州, さらに沖縄島に至る広い範囲で多数の地点から記録された。

ウチワゴカイ *Nectoneanthes oxypoda* (Marenzeller, 1879)

体長15cm以上に達する大形種。東京湾以南に分布するとされているが(今島, 1996), 本調査では九州沿岸において多数の地点から記録された。Wilson(1988)は, 本種の模式標本を検討した結果, 本種がアシナガゴカイ *Neanthes succinea* (Leuckart, 1847) (= *Alitta succinea*)のシノニムであり, Imajima(1972)などによって本種の種名で図示されている種は, それとは別な種(*Neanthes* sp.)であると指摘している。この点については, 今後詳細に検討する必要がある。

イソゴカイ種群 *Perinereis nuntia* (Savigny, 1818)

日本産のイソゴカイは, スナイソゴカイ *Perinereis nuntia brevicirris* (Grube, 1857) とイシイソゴカイ *Perinereis nuntia vallata* (Grube, 1857) という2亜種に区別されている(今島, 1996)。両者は産卵習性が明確に異なり, 生息環境も相違するので別種である可能性が指摘されていたが(吉田,

1984), ごく最近, Glasby & Hsieh (2006)によって, スナイソゴカイは, *Perinereis mictodonta* (Marenzeller, 1879)として再記載され, イシイソゴカイは, *Perinereis wilsoni* Glasby et Hsieh, 2006 として記載された. ただし, 今回の調査では, この2種の識別は, 旧来の今島(1996)の検索表に基づいていたので, 種名の表記も旧来のままとしている. 今島(1996)の検索表の結果と Glasby & Hsieh (2006)による新しい検索表の結果が完全に合致するのかどうか今後の課題である. 今回の調査においては砂泥質の環境を好むスナイソゴカイが多数の地点から記録された. その分布は三陸から沖縄にかけての広い範囲に及んでいる. 砂質または砂礫質に生息するイシイソゴカイは5カ所(愛知県, 和歌山県, 鹿児島県, 沖縄県)から記録されたのみである. 後者の記録が少ないのは, 今回の調査が内湾の干潟を主な対象としたためと考えられる.

イトメ *Tylorrhynchus heterochaetus* (Quatrefages, 1865)

成体は感潮域の上限付近の低塩分環境下に生息するが, 日本では河口堰が設けられてそのような環境が失われている河川が多い. 本調査では北海道から九州の範囲で記録され, 東北地方並びに九州においては少なくない生息地が確認されたが, 逆に関東から中国・四国地方の範囲においては産出例が極めて少なかった. 1996年発行のRDBでは「普通」と評価されたが(山西, 1996), 本調査結果によれば危険な状況を呈していると考えられる.

ミナミシロガネゴカイ *Nephtys polybranchia* Southern, 1921

砂質の前浜干潟を生息地とし, 北海道から石垣島にかけての日本各地に分布するといわれているが(今島, 1996), 本調査では, 三陸から八重山までの範囲で記録された. 本科ではもう1種, 大形のハヤテシロガネゴカイ *Nephtys caeca* (Fabricius, 1780)が東北日本を中心とした地域で記録された.

スゴカイイソメ *Diopatra sugokai* Izuka, 1907

本種は砂質の干潟に生息し, 小石や貝殻片などを付着させた特徴的な棲管を造る. 釣餌として重要な種であるが, 養殖や輸入の情報はない. 日本における分布域は, 内田(1992)によれば「東北～沖縄」, 今島(2001)によれば「北海道～九州」であるが, 本調査では, 三陸沿岸から沖縄島にかけて, 多数の地点から記録された.

イワムシ *Marphysa sanguinea* (Montagu, 1815)

本調査では, 三陸沿岸から南西諸島に至る広い範囲において, 多数の地点から記録された. イソメ科の破片とされているデータの多くも本種であると推測される.

コアシギボシイソメ *Scoletoma nipponica* (Imajima et Higuchi, 1975)

今島(2001)によれば, 北海道から九州にかけて分布する日本固有種である. 本調査においてもこ

の範囲で多数の地点から記録されたが、それに加えて沖縄島からも出現した。干潟における普通種のひとつであるが、生息範囲は1000 m以上の水深にまで及ぶとされている（今島, 2001）。

ヤマトスピオ *Prionospio (Minuspio) japonica* Okuda, 1935

汽水域の潮間帯から水深5 mまでの範囲に生息する日本固有種で、従来、青森県から島根県にかけての河口域や汽水湖から報告されていた（今島, 1996）。今回の調査では、青森県から鹿児島県までの範囲で記録されたが、東北地方以外の地域では記録が著しく少なかった。

ツバサゴカイ *Chaetopterus cautus* Marenzeller, 1879

日本の干潟に生息する和名ツバサゴカイに該当する種は、従来「世界共通種」の *Ch. variopedatus* (Reiner, 1804)とされていたが、再吟味の結果、日本から西部太平洋沿岸に分布する標記の学名の種であること、同時に本種の生息範囲は潮間帯から水深約5mに限られていることが明らかにされた（西, 2002 他）。1996年に出版された干潟のRDBにおいては、本種が深所にまで分布する *Ch. variopedatus* であるという旧来の知見に基づき「本種の生息地はそれほど多くないと考えられる。ただし、千葉県沿岸から報告されているような潮下帯における生息が他地域においても一般的であれば、当面絶滅のおそれはないと言えるであろう」として「希少」と評価されていた（山西, 1996）。これに対して西（2002）は、「もう少し事態は深刻で—中略—全国規模では、規模の大きな干潟の減少に伴い、『普通』から『希少』へと近年変わり、現在は『希少』と『危険』の狭間にある」と評している。本調査では福島県から鹿児島県の範囲で生息が確認されたが、多くの記録が九州沿岸に集中する一方、他の地域では産地がごく限られており、深刻な状況が裏付けられた。最大体長が20cm以上になる大型種で、砂泥中にU字状の棲管（最大長50 cm以上）をつくり、その中で生活している（佐藤, 2000, 2006）。その巣穴内には、しばしば、ラスバンマメガニ *Pinnixa rathbuni* やオオヨコナガピンノ *Tritodynamia rathbuni* などのカクレガニ科のカニ類が生息している（Petersen and Britayev, 1997）。

ムギワラムシ *Mesochaetopterus japonicus* Fujiwara, 1934

本州中部以南の砂質の前浜干潟において普通種として知られていた種であるが（内田, 1992）、1996年版のRDBにおいてはアンケート報告件数が少ないことから「危険」と評価された（山西, 1996）。今回の調査においては、三重県から鹿児島県（本土部）の範囲で生息が確認され、東日本や沖縄県では記録されなかった。九州沿岸では各地に分布するが、瀬戸内海以東では産地が限られている。その巣穴内には、しばしば、ヤドリカニダマシ *Polyonyx sinensis* が生息している（本調査結果）。

ミズヒキゴカイ *Cirriformia tentaculata* (Montagu, 1808)

砂泥質の潮間帯から浅海底において広く分布する世界共通種で、汚濁にも強い耐性を備えている（内田, 1992）。本調査では、沖縄地方を除く全国各地から多数記録され、地点数ではコケゴカ

イに次いで多かった。

ツツオオフェリア *Armandia lanceolata* Willey, 1905

本州中部以南の砂泥質の潮間帯に生息すると言われているが（内田，1992），今回の調査では，三陸から八重山に至るまでの広い範囲で記録された。ただし，ほとんどの記録は関東から東海地方に集中している。体長約1cmの小型種であるために，今回の調査では見落とされた地点が多い可能性もある。特に西日本における精査が望まれる。本種は，インド洋～西太平洋からアフリカ西岸まで広く分布するとされているが（内田，1992），そこには形態的によく似た複数種が含まれている可能性があり（たとえば，Saito et al., 2000 によって記載された *A. amakusaensis* など），今後詳細な分類学的な検討が必要である。

チリメンイトゴカイ *Dasybranchus caducus* (Grube, 1846)

本州中部以南に分布することが知られているが（内田，1992），本調査では，関東，九州，沖縄地方で記録され，東海，近畿，中国・四国地方では出現しなかった。大形種であるため見落とされたとは考えにくく，記録されなかった地域における環境の劣化が懸念される。

Heteromastus 属種群（ホソイトゴカイ *Heteromastus* cf. *similis* もしくはその近似種）

泥質干潟で普通に見られる種で，今回の調査では，日本全国（北海道から沖縄八重山まで）の広い範囲から記録された。最大体長は5cm以上になるが，体がたいへん細くて（体幅1mm未満）切れやすいため，今回の調査で採集された個体もほとんどが不完全個体であった。これらの個体が，すべて *Heteromastus similis* Southern, 1921（模式産地：インド東海岸の汽水湖）であるのか，あるいは *H. tohbaiensis* Yabe et Mawatari, 1998（模式産地：北海道の厚岸）など複数種が存在するのか，その検討は今後の課題として残されている。

Notomastus 属種群（シダレイトゴカイ *Notomastus latericeus* Sars, 1851 もしくはその近似種）

シダレイトゴカイは，全国各地の干潟に生息する比較的大型の普通種として知られているが（内田，1992），今回の調査において本種と特定されたものは，千葉県から九州にかけての5ヵ所から採集された標本だけであった。それ以外の日本全国（北海道から沖縄八重山まで）の多数の地点から記録された標本については，そのほとんどが小型の個体であり，未同定のまま残されている。ここには複数種が存在するものと思われ，その分類学的検討は今後の課題である。

タマシキゴカイ *Arenicola basiliensis* Nonato, 1958

北海道以南に広く分布する大型種で（内田，1992），干潟表面に特徴的な糞塊や卵嚢を形成することが知られている（佐藤，2006）。今回の調査では，青森県から南西諸島（西表島）までの範囲で記録され，後述のイソタマシキゴカイと分布域を分け合っていた。ただし，多くの記録は東北

・関東地方に偏り，瀬戸内海・九州沿岸での記録が乏しく，減少傾向にあるのではないかと懸念される。

ヒヤクメニッポンフサゴカイ *Thelepus japonicus* Marenzeller, 1884

今回の調査では東北地方から九州に至る範囲で記録された。転石環境に依存するが，そのような条件が満たされれば普通に生息する種である。これに対して，本種によく似たニッポンフサゴカイ *Thelepus cf. setosus* (Quatrefages, 1865)は，九州の有明海沿岸の3カ所からのみ記録された。

2) 希少種または狭分布種

ヒナサキチロリ *Hemipodia yenourensis* (Izuka, 1912)

本州中部以南の砂礫干潟に生息すると言われているが（内田，1992），Boeggemann（2002）によれば東北地方（三陸沿岸）でも記録がある。今回の調査では，九州の4カ所からのみ記録された。ただし，本種は，内湾だけでなく砂質の海浜にも生息するので，現状の分布範囲はもっと広いと考えられる。

アリアケカワゴカイ *Hediste japonica* (Izuka, 1908)

前述の *Hediste* 属2種（ヤマトカワゴカイ *Hediste atoka* Sato et Nakashima, 2003 とヒメヤマトカワゴカイ *H. diadroma* Sato et Nakashima, 2003）によく似るが，疣足の形態などによりそれらとは明確に識別できる（Sato and Nakashima, 2003; 佐藤 2004, 2006）。模式産地は瀬戸内海の児島湾であるが，そこではすでに絶滅し，現在は，日本の有明海と黄海沿岸（朝鮮半島西部）に隔離分布するのみである（Sato and Nakashima, 2003; 佐藤 2004, 2006）。軟体動物のハイガイの例などで知られている強内湾性の大陸沿岸系遺存種（波部，1956）であるとも考えられ，現在の分布は地史的にもきわめて貴重である。今回の調査では，有明海奥部沿岸の7地点からのみ記録された。近年の諫早湾干拓により生息地が一層縮小した。

ジャムシ *Neanthes virens* (Sars, 1835)ならびにエゾゴカイ *Nereis vexillosa* Grube, 1851

両種とも北半球の寒冷域に分布し，国内では寒流影響域（ジャムシ：北海道および三陸沿岸，エゾゴカイ：北海道～相模湾）から知られている（今島，1996）。今回の調査では，共に北海道および三陸沿岸に限って生息が確認された。

トゲイカリナマコウロコムシ（新称） *Arctonoella* sp.

トゲイカリナマコ *Protankyra bidentata* (Woodward et Barrett, 1858)に共生する未記載種である（佐藤，発表準備中）。宿主であるトゲイカリナマコ自体の分布域が限られていると考えられるので，貴重な記録である。今回の調査では有明海沿岸（熊本県と佐賀県）の合計4カ所からのみ記録さ

れた。

アナジャコウロコムシ *Hesperonoe hwanghaiensis* Uschakov et Wu, 1959

アナジャコ *Upogebia major* (de Haan, 1849) に共生する種で，国内ではこれまでに東京湾，瀬戸内海，有明海から記録されている（佐藤，2000; Sato et al., 2001）．今回の調査では，有明海の諫早湾南岸でのみ採集された．

ナガギボシイソメ *Scoletoma heteropoda* (Marenzeller, 1879)

今島（2001）によれば本種の分布域は日本各地，南サハリン，黄海とされているが，今回の調査では，南西諸島の奄美大島，沖縄島，石垣島における合計4カ所からのみ記録された．

アカムシ *Halla okudai* Imajima, 1967

マダイ釣りの餌として利用されてきた日本固有の大型種（最大体長約90 cm）であり（内田，1992），アサリなどの二枚貝を捕食する（今林ほか，1996）．従来知られている分布域は瀬戸内海と有明海であるが（Okuda, 1933; Imajima, 1967; 佐藤，2000），今回の調査で記録されたのは浜名湖の1カ所のみであった．大型の肉食性の種であり，餌生物の豊富な安定した環境を必要とすることから，全国的にみて危機的な状態にあることが窺える．

ニッポンオフエリア *Travisia japonica* Fujiwara, 1933

日本各地に分布するとされているが（内田，1992），今回の調査では，紀伊半島と九州沿岸の4カ所からのみ記録された．大型種であるために見落とされる可能性は小さいと思われる，国内の生息地は限られ，危険な状態にあることが明らかになった．

アリアケイトゴカイ *Parheteromastus cf. tenuis* Monro, 1937

近年，佐藤（2000）によって報告された有明海特産種で，アリアケカワゴカイと同様に大陸沿岸系種の強内湾性種であると思われる．今回の調査でも佐賀県の有明海沿岸でのみ記録された．

ハカマタテタケフシゴカイ *Clymenura (Cephalata) longicaudata* Imajima et Shiraki, 1982

今島（1996）によれば，本種は，西表島の潮間帯と房総沖および駿河湾の水深100m以深の海底から記録されている．本調査では，沖縄島，石垣島，西表島の計4カ所から採集された．潮間帯における分布は琉球諸島に限られているようである．

イソタマシキゴカイ *Abarenicola pacifica* Healy et Wells, 1959

本州中部以北の北部太平洋冷水域に分布することが知られているが（内田，1992），本調査では北海道各地の8カ所で生息が確認された．

カンテンフサゴカイ *Amaeana* sp.

有明海と周防灘で近年見つかった日本未記録種で記載準備中（佐藤，2000）のものである。今回の調査でも熊本県の有明海沿岸で記録された。

ミナミエラコ *Pseudopotamilla myriops* (Marenzeller, 1884)

南日本に分布することが知られている（内田，1992）。干潟の砂中に埋藏し、棲管の先を砂上に突き出す大形のケヤリムシ類である。今回の調査では、瀬戸内海西部（山口県，大分県）と有明海（熊本県）の合計 3 ヲ所からのみ採集された。生息地は限られていて、危険な状態にあると考えられる。

3) 移入種および移入個体の混入の可能性のある種

多毛類の移入種については、近年、西（2003）、西・加藤（2004）によって詳しくレビューされている。

カニヤドリカンザシゴカイ *Ficopomatus enigmaticus* (Fauvel, 1923)

原産地はインド洋・オーストラリア周辺海域と推定されているが確証はなく、現在は世界中の温帯域に広く分布している（西，2003）。日本においても東京湾周辺、伊勢湾、瀬戸内海など中部日本各地の内湾を中心に東西に広く分布している（岩崎ほか，2004）。汽水域に生息する種であることから、今回の調査においても知見の追加が期待された。しかし、記録されたのは吉野川河口 1 ヲ所であった。四国沿岸では初の記録であるが、今回は固着性のカンザシゴカイ類全般にわたって記録が乏しいことから、堆積性の干潟環境を対象としたこのたびの調査においては、これらについては必ずしも精査がなされなかったと考えられる。同様のことは今回記録されなかった移入種カサネカンザシゴカイ *Hydroides elegans* (Haswell, 1883) についても当てはまるかもしれない。

アシナガゴカイ *Neanthes succinea* (Frey et Leuckart, 1847)

本種の模式産地は、北海（ヘルゴランド）である。現在、本種は、南北両半球に広く分布しているが、その分布の広がり少なくとも一部は、近年の人為的な移入の結果である可能性が指摘されている（Wilson, 1988）。日本の個体群についても国外からの移入に起源している可能性があるが、情報不足のため断定できない状況にある（岩崎ほか，2004）。しかし、国内における本種のこれまでの記録が本州中央部（千葉県から岡山県）に限られており、しかも、人為的に汚濁された海域に多く見られるという事実（内田，1992; 今島，1996）は、本種が移入種であることを示唆しているように思われる。今回の調査では、東京湾（千葉県，神奈川県）、伊勢湾（三重県）、大阪湾（大阪府）、紀伊水道（和歌山県）、博多湾（福岡県）の合計 8 ヲ所で生息が確認された。いずれも、人為的な攪乱の程度が大きい海域であり、今後の本種の分布の動向には注意する必要がある。

イソゴカイ種群 *Perinereis nuntia* (Savigny, 1818)

前述のとおりこの種群のうち 2 種は在来種と考えられるが、その 2 種を含む少なくとも 6 種が中国大陸から東南アジアにかけて分布している (Glasby & Hsieh, 2006). 本種は、釣り餌 (「ジャリメ」などの名称) として需要が大きいため国内外で養殖されており、韓国や中国からは相当量の輸入があるほか、国内の地域個体群の人為的な移動の可能性も指摘されている (西・加藤, 2003, 2004; 岩崎ほか, 2004). 従って、各地で投棄された個体が一部定着し、前述の本種群の記録に混入している可能性もないとは言えない. この点は、今後詳細に検討する必要がある.

なお、同属のアオゴカイ *Perinereis aibuhitensis* Grube, 1878 も釣り餌 (「アオイソメ」などの名称) として韓国から大量に輸入されており、それが東京湾内では定着している可能性も指摘されている (西・加藤, 2004). しかし、今回の調査では、本種の生息は確認されなかった.

イワムシ *Marphysa sanguinea* (Montagu, 1815)

世界共通種であるが、前種と同様に釣り餌として用いられ、中国大陸からも輸入されている (西・加藤, 2003; 岩崎ほか, 2004). このため、本種についても、各地で投棄された外来個体が一部定着し、前述の本種の分布記録に混入している可能性もないとは言えない.

4) 分類学的に詳しい検討が必要な種

種レベルの同定に至らなかった分類群の中には、時間的な制約のために精査できていないもの、サンプルが破片であったり固定不良であったりするために同定困難であったものが多いが、さらに日本未記録種あるいは新種の可能性のあるものも少なからず含まれている. 今後分類学的に詳しい検討が必要と考えられる種について主なものを列挙する.

| | | |
|----------|---|--------|
| チロリ科 | <i>Glycera</i> spp. | 各地 |
| ゴカイ科 | <i>Ceratonereis</i> sp. | 小笠原 |
| | <i>Ceratonereis</i> aff. <i>erythraeensis</i> | 宮古島 |
| | <i>Leonnates</i> cf. <i>persicus</i> | 九州 |
| | <i>Namalycastis</i> sp. | 九州, 沖縄 |
| | <i>Neanthes</i> cf. <i>glandicineta</i> | 九州, 沖縄 |
| | <i>Perinereis</i> cf. <i>weihouensis</i> | 沖縄 |
| ウロコムシ科 | <i>Arctonoella</i> sp. | 有明海 |
| イソメ科 | <i>Marphysa</i> sp. | 各地 |
| ツバサゴカイ科 | <i>Phyllochaetopterus</i> spp. | 沖縄 |
| クシイトゴカイ科 | Ctenodrilidae sp. | 岩手県 |
| イトゴカイ科 | <i>Branchiocapitella</i> sp. | 鹿児島県 |

Heteromastus spp. 各地
Notodasus? sp. 九州, 沖縄
Notomastus spp. 各地
 ウミイサゴムシ科 Pectinariidae sp. 西表島
 フサゴカイ科 *Loimia* spp. 九州, 沖縄
Neoamphitrite sp. 九州
Thelepus sp. 沖縄

なお, 多毛類の同定に当たっては, 担当者(山西, 佐藤)の他, 次の方々に, カッコ内の分類群のサンプルの一部(南日本産のもの)についてご協力をいただきました。記して感謝いたします。

西栄二郎氏 (ツバサゴカイ科, カンザシゴカイ科)

加藤哲也氏 (サシバゴカイ科)

美坂正氏 (オフエリアゴカイ科)

参考文献

- Boeggemann, M., 2002. Revision of the Glyceridae Grube 1850 (Annelida: Polychaeta). Abh. Senckenberg. Naturforsch. Ges., 555:1-24.
- Glasby, C.J. and H.-L.Hsieh, 2006. New species and new records of the *Perinereis nuntia* species group (Nereididae: Polychaeta) from Taiwan and other Indo-West Pacific shores. Zool. Stud., 45: 553-577.
- 波部忠重, 1956. 内湾の貝類遺骸の研究. 京大・生理生態研究業績, (77) : 1-31.
- 今林博道・斉藤英俊・大政千晶・河合幸一郎. (1996) 飼育条件下での多毛類アカムシ *Halla okudai* の捕食行動. 日本ベントス学会誌, 50: 11-17.
- Imajima, M., 1972. Review of the annelid worms of the family Nereidae of Japan, with descriptions of five new species or subspecies. Bulletin of the National Science Museum Tokyo 15: 37-153.
- 今島 実, 1996. 環形動物多毛類. 生物研究社, 東京, 530pp.
- 今島 実, 2001. 環形動物多毛類II. 生物研究社, 東京, 542pp.
- 岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西栄二郎・山西良平・林育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井宏, 2004. 日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌, 59: 22-44.
- 西栄二郎, 2002a. 日本産ツバサゴカイ科多毛類の分類について. うみうし通信 (34): 2-3.
- 西栄二郎, 2002b. 干潟の普通種ツバサゴカイに忍び寄る危機. タクサ(12): 8-17.
- 西栄二郎・加藤哲也, 2003. 多毛類の移入と移出. 日本ベントス学会自然環境保全委員会, 企画シンポジウム「移入海産ベントスの生息状況と環境的課題」報告. 日本ベントス学会誌, 58: 100-102.

- 西栄二郎・加藤哲也, 2004. 環形動物多毛類の移入と移出の現状. 日本ベントス学会誌, 59: 83-95.
- Petersen, M. E. and T. A. Britayev, 1997. A new genus and species of polynoid scaleworm commensal with *Chaetopterus appendiculatus* Grube from the Banda Sea (Annelida: Polychaeta), with a review of commensals of Chaetopteridae. Bull. Mar. Sci., 60: 261-276.
- Saito, H., A. Tamaki and M. Imajima, 2000. Description of a new species of *Armandia* (Polychaeta : Opheliidae) from western Kyushu, Japan, with character variations. J. Natural Hist. 34: 2029-2043.
- 佐藤正典, 2000. 8 多毛類. 佐藤正典編, 有明海の生きものたち 干潟・河口域の生物多様性, pp.184-205, 海游舎, 東京.
- 佐藤正典, 2004. 多毛類の多様性と干潟環境: カワゴカイ同胞種群の研究. 化石, 76: 121-132.
- 佐藤正典, 2006. 干潟における多毛類の多様性. 地球環境, 11: 191-206.
- Sato, M. and A. Nakashima, 2003. A review of Asian *Hediste* species complex (Nereididae, Polychaeta) with descriptions of two new species and a redescription of *Hediste japonica* (Izuka). Zool. J. Linnean Soc., 137: 403-445.
- Sato, M., H. Uchida, G. Itani and H. Yamashita, 2001. Taxonomy and life history of the scale worm *Hesperonoe hwanghaiensis* (Polychaeta: Polynoidae), newly recorded in Japan, with special reference to commensalism to a burrowing shrimp, *Upogebia major*. Zool. Sci. 18: 981-991.
- 内田紘臣, 1992. 多毛綱. 西村三郎編著. 原色検索日本海岸動物図鑑[I]. pp. 310-373, 保育社, 大阪.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.
- Wilson, R. S., 1988. Synonymy of the genus *Nectoneanthes* Imajima, 1972, with *Neanthes* Kinberg, 1866 (Polychaeta: Nereididae). Proc. Biol. Soc. Wash., 101: 4-10.
- 山西良平, 1996. 5) 環形動物. 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3. p.11.
- 吉田俊一, 1984. イソゴカイの飼育生態と養殖に関する研究. 大阪府水産試験場研究報告. (6): 1-63.

環形動物門

貧毛綱

高島 義和

貧毛類は、従来、淡水あるいは陸生種が主な要素であり、海域環境には限られた少数の種だけが棲息するものと考えられてきた。しかし、近年では、特にイトミミズ科とヒメミミズ科に多数の海産種が含まれることが明らかになっている。世界各地から報告されてきた海産貧毛類の種数は現在 500 種を大きく越え、日本近海からも数十種が棲息することが期待される。しかし、日本での研究は極めて不十分であり、分布や生態に関する知見は非常に乏しい。

このような現状であるため、今回の調査で得られた貧毛類について、どの種がどのような意味で注目すべきものであるのか、といった情報を提示することは困難である。言うならば、全ての種について基礎的な研究を積み重ねる必要がある。取りあえず、現時点で指摘できる事項を以下に述べておく。

海産貧毛類のうち、種多様性、現存量ともに大きいイトミミズ類やヒメミミズ類は、干潟のような泥の卓越するところよりも、直径が数 mm 程度の砂利の間隙により多く見られる傾向がある。貧毛類が干潟の生態系で果たす役割は、多毛類に比べるとかなり小さいものであろう。ただし、今回の調査では、大型の種であるイソミミズ *Pontodrilus littoralis* が南日本の複数の干潟から得られている。特に小笠原や石垣島の崎枝湾では多数の個体が確認された。この種は、主に陸生種からなるフトミミズ科に属する。体のサイズが陸生種と同様大きいため、密度が大きい場所では、干潟の浄化に無視し得ぬ役割を果たしている可能性がある。

宮城県仙台市の蒲生干潟では、イトミミズ科イトミミズ亜科に属する *Tubificoides* 属の一種が確認された。この種は、*Tubificoides wasselli* Brinkhurst et Baker, 1979 に近縁な種である。現時点でまだ結論出来ていないが、この種は未記載種である可能性がある。

海産種に重点を置いた水生貧毛類の概要、および日本産海産イトミミズ類の分類については、高島(1999a, b, 2000a, b, c, d, e, 2001a, b)にまとめられている。

なお、イソミミズの学名は、従来、原記載(Iizuka, 1898)で与えられた名称である *Pontodrilus matsushimensis* が多く用いられてきたが、Easton (1984)は本種を *P. littoralis* のシノニムとして扱っている。ここでは、イソミミズの分類学的所属について、Easton (1984)の見解に従った。

参考文献

- Easton, E. G., 1984. Earthworms (Oligochaeta) from islands of the south-western Pacific, and a note on two species from Papua New Guinea. *New Zealand Journal of Zoology* 11: 111-128.
- Iizuka, A., 1898. On a new species of littoral Oligochaeta (*Pontodrilus matsushimenseis*). *Annotationes zoologicae japonenses* 2: 21-27.
- 高島義和, 1999a. 日本産海産イトミミズ類の分類. (1) 海産貧毛類の研究の現状. *海洋と生物* 124 (vol. 21 no. 5): 394-398.
- 高島義和, 1999b. 日本産海産イトミミズ類の分類. (2) 形態形質と観察法. *海洋と生物* 125 (vol. 21 no. 6): 530-537.
- 高島義和, 2000a. 日本産海産イトミミズ類の分類. (3) 水生貧毛類各科の検索 1. 検索表に関する考察. *海洋と生物* 126 (vol. 22 no. 1): 83-86.
- 高島義和, 2000b. 日本産海産イトミミズ類の分類. (4) 水生貧毛類各科の検索 2. イトミミズ科とミズミミズ科. *海洋と生物* 127 (vol. 22 no. 2): 176-182.
- 高島義和, 2000c. 日本産海産イトミミズ類の分類. (5) 水生貧毛類各科の検索 2. オヨギミミズ科, ヒメミミズ科, ナガミミズ科, その他の科. *海洋と生物* 128 (vol. 22 no. 3): 255-261.
- 高島義和, 2000d. 日本産海産イトミミズ類の分類. (6) 亜科 *Limnodriloidinae*. *海洋と生物* 129 (vol. 22 no. 4): 398-402.
- 高島義和, 2000e. 日本産海産イトミミズ類の分類. (7) ナガレイトミミズ亜科. *海洋と生物* 131 (vol. 22 no. 6): 582-587.
- 高島義和, 2001a. 日本産海産イトミミズ類の分類. (8) 亜科 *Phallogrilinae*. *海洋と生物* 132 (vol. 23 no. 1): 70-76.
- 高島義和, 2001b. 日本産海産イトミミズ類の分類. (9) イトミミズ亜科. *海洋と生物* 133 (vol. 23 no. 2): 178-181.

節足動物門

鋏角亜門 節口綱

和田恵次

1) 希少種

カブトガニ *Tachypleus tridentatus* Leach, 1819

1996年当時の記録では（和田ほか, 1996）, 瀬戸内海から北九州沿岸にかけて分布するが, ほとんどの地域で希少または絶滅寸前という状況であった. 今回の調査からは, わずかに1地域（大分県杵築市守江湾）のみから生息記録があったに過ぎない. 潮下帯にも分布するので, 今回の調査からは見つかりにくいこともあるが, 各地で激減していることは間違いない.

引用文献

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真
・島村賢正・福田宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状.
WWFJapan サイエンスレポート, 3: 1-182.

節足動物門

顎脚綱 蔓脚下綱

山口寿之

蔓脚類に関しては、調査者が現場で同定し、標本の残っていないものが多いため、同定の正確さについて疑問のある種がいくつかある。

イワフジツボ *Chthamalus challengerii* Hoek, 1883

北海道～三陸には、本種とキタイワフジツボの混在が知られている。同様に、琉球列島（先島諸島を含む）には、複数のイワフジツボ類の混在が知られている。従って標本に基づいた正確な同定が必要である。

ドロフジツボ *Fistrobalanus kondakovi* (Tarasov et Zevina, 1963)

この種類は分布からすると同定が適切だと思われる。一時分布が非常に狭くなった。しかし現在はかなり色々なところで発見されるようになった。化石記録があり、移入種ではない。西太平洋のかなり広い分布域を持つ（未公表資料）。

シロスジフジツボ *Fistrobalanus albicostatus* (Pilsbry, 1916)

この種も化石記録があり、移入種ではない。日本から香港までの内湾に生息している。

タテジマフジツボ *Amphibalanus amphitrite* (Darwin, 1854)

はっきりした化石記録がないため、移入種と考えられる。世界的に分布している。船に付着して移住もしているようである。

アミメフジツボ *Amphibalanus variegatus* (Darwin, 1854)

移入種ではないと思われる。東南アジアから日本にかけての広い分布域を持ち、1970年代は国内では太平洋岸の神奈川県三崎を北限として内湾潮間帯下部のかなり広い分布域を持っていたが、最近ではあまり見かけない。有明海でのみ容易に見つかる。

アメリカフジツボ *Amphibalanus eburneus* (Gould, 1841)

移入種。かなり広い分布域を持つようになった。

ヨーロッパフジツボ *Amphibalanus improvisus* (Darwin, 1854)

移入種. かなり広い分布域を持つようになった.

サラサフジツボ *Amphibalanus reticulatus* (Utinomi, 1967)

これも 1970 年代には太平洋岸の内湾下部に普通に見つかったが, 最近ではあまり見つからない. 化石記録を持つので, 移入種ではない. 分布は, 日本からインドネシアまでの北西太平洋に限定される.

サンカクフジツボ *Balanus trigonus* Darwin, 1854

世界的な分布域を持つ分類群. 干潟の中では外海の影響をうける環境を好み, 浮遊物体上や陸棚にもいる. 化石記録をもち, 移入種ではない.

タイワンクロフジツボ *Tetraclita formosana* Hiro, 1939

主として岩礁に生息する. 干潟の中では外海の影響をうける環境には居ると思われる. 移入種ではない.

節足動物門

軟甲綱 口脚目 / 十脚目 クルマエビ下目・コエビ下目

駒井 智幸

1) 希少種

キノボリエビ *Merguia oligodon* (de Man, 1888)

本種の生息域は亜熱帯域のマングローブ沼沢地に限定される。好適な生息環境が失われると、ただちに個体群の消滅につながる可能性が高い。

2) 固有種

ミツクリエビ *Petalopsis pacifica* (Doflein, 1902)

本種は国内では北海道沿岸の内湾アマモ場に生息域が限定される。特に道東に多い。

3) 分類学的に詳しい検討が必要な種（未記載種）：なし

4) 人間の生活や営みの中で利用されている種

クルマエビ，ヨシエビ，モエビ，フトミゾエビ，サルエビ。いずれも水産重要種。幼若個体が干潟域に出現する。成体は成長とともに深場へ移動。サルエビは河口域や潮間帯では稀で，主に河川の影響の少ない砂浜海岸の潮下帯以深に生息。

5) 干潟が本来のハビタットではない種

モンハナシャコ（サンゴ礁，岩礁）；イソスジエビ，スジエビモドキ（岩礁，タイドプール，港湾施設）

節足動物門

軟甲綱 端脚目

ハマトビムシ科とキタヨコエビ科

森野 浩

ハマトビムシ科とキタヨコエビ科の種組成では、従来より把握されていたものばかりで、分類学的に、あるいは地理的・生態的分布上の新知見あるいは興味深い知見はみられなかった。

ハマトビムシ科では、最近、詳細な形質に基づく種の認識が進み、成体を含む十分な個体の標本が同定には必要となっている。このことから、同定結果は属レベルあるいは科のレベルまでになっている場合がある。(编者注：同定用に筆者に送付された標本は、1箇所につき1～数個体に留まり、精査には至らなかった場合がある。)

ハマトビムシ科・キタヨコエビ科以外

大和 茂之

1) 分類学的に詳しい検討が必要な種 (未記載種)

Ampithoe, *Corophium*, *Hyale* の各属は、全体として複数種が見られたが、サンプル毎にどの種が含まれているかは、今後の検討が必要である。*Hyale* 属については、Iwasa (1939), Hirayama (1978), Hiwatari (2003) 等の一連の研究があるが、本同定では十分に検討していない。*Ampithoe* 属や *Corophium* 属については、これまで外国産の種類と同種と見なされてきたもの(Hirayama, 1984 ; Nagata, 1965)が本当に同種かどうか不明であり、さらに未記載種も含まれているともものと思われ、今後の検討が必要である。

参考文献

- Hirayama, A., 1978. Gammaridea Amphipoda of the intertidal reef flat of Ishigaki Island, Ryukyu Archipelago. Part I. Genus *Hyale*. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 25: 131-156.
- Hirayama, A., 1984. Taxonomic studies on the shallow water gammaridean Amphipoda of West Kyushu, Japan. II. Corophiidae. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 29: 1-92.
- Iwasa, M., 1939. Japanese Talitridae. Journal of the Faculty of Science, Hokkaido Imperial University, Series VI. Zoology, 6: 255-296, Pls. IX-XXII.

節足動物門

軟甲綱 等脚目

布村 昇

1) かつて普通に見られたが、現在地域的に絶滅している種

かつての調査が皆無と言っていい状況であり、判断が出来る種はない。千葉県一宮町の一宮川河口干潟で普通に見られた *Eurydice akiyamai* はどこの干潟からも確認できなかった。

2) 希少種

希少種か否かの判断が出来るだけのデータがない。

3) 固有種

日本に固有か否かは日本列島の調査も十分とは言えず、周辺国の海域についてはいっそう調査が遅れている状況であり、明らかに固有と断言できるものはない。

4) 分類学的に詳しい検討が必要な種（未記載種）

未記載種と判断される種はすでに記載をした。以下のとおりである。

シマントコツブムシ *Sphaeroma shimantoensis* Nunomura, 2003

ヒガタコツブムシ *Sphaeroma mukaii* Nunomura, 2006

以下の種は属が移動した。

Apseudes nasutus Nunomura, 2005 として記載したものは *Longiflagrum nasutus* (Nunomura,2005) となった。

5) 人間の生活や営みの中で利用されている種

海産等脚類ではないと思われる。

節足動物門

軟甲綱 十脚目 アナジャコ下目

伊谷 行

本調査における定量採集方法では、堆積物底に深い巣穴をつくって生息する種を採集できない可能性がある。従って、アナジャコ下目の甲殻類では分布していたのに採集できていないケースもあると考えられ、本調査結果から分布の縮小や個体数の減少を論じるのは困難である。ただし、一般論として、干潟やマングローブ湿地といった生息地の破壊にともない個体数を減少させている種を含んでいるとは考えられる。

また、アナジャコ下目は現在、分類学の研究が活発に行われており、分類体系の見直しによる属名の変更が頻繁に生じ、どの属名を用いるべきかの論争が継続しているものもある。本報告書では編集者に従い学名を示した。

オキナワアナジャコ *Thalassina anomala* (Herbst, 1804)

本種はマングローブ林内、あるいはその周辺の干潟に生息し、堆積物を盛んに排出することにより背の高い円錐状の塚を築き、特異な景観をつくる。そのため、本種の存在は標本を得なくても一目瞭然であるが、本調査では出現地点は多くはない。分布や個体数が縮小しているという証拠も得られないので、今後の調査に注目する必要がある。なお、マングローブを埋め立てて造成した水田では、オキナワアナジャコが巣穴をつくることによって畦が破壊されるなどの被害が報告されている。

ニホンスナモグリ *Nihonotrypaea japonica* (Ortmann, 1891) と

ハルマンズナモグリ *Nihonotrypaea harmandi* (Bouvier, 1901)

本調査結果からは、両種とも日本中に広く分布することが明らかになった。ニホンスナモグリはより内湾的環境に、ハルマンズナモグリはより外海的環境に生息し、巣穴形態や生理学的耐性、生活史なども異なっているが、形態の区別は必ずしも容易ではない。ハルマンズナモグリを独立した種とするか否かに関しては論争があるが、同所的に2種が生息する場所で遺伝子交流の有無を検証すれば、決着するであろう。本調査では、Wardiatono and Tamaki (2001)に従い、目の幅と額角の形質から2種を区別したが、それらの形質は成長とともに変化するため、彼らの論文で用いられた有明海産個体群での形態計測結果が日本中の全ての個体群で適用されうる保証はないことを断っておく。

ブビエスナモグリ *Callianassa bouvieri* Nobili, 1904

インド西太平洋熱帯域に広く分布する種であるが、熊本天草でも記録がある。本調査では琉球、奄美、種子島、甌島に加え、小笠原でも分布が確認された。なお、小笠原父島では、やはりインド西太平洋熱帯域に広く分布し、スナモグリ科と近縁な *Callianideidae* 科の *Callianidea typa* Milne-Edwards, 1837 がアナジャコ下目として唯一分布することが記録されていたが、本調査では確認されなかった。

Calliastrea sakaii (de Saint Laurent, 1979)

西表島浦内川で採集された。本種は、1960年代に九州大学天草臨海実験所前の砂質干潟で採集されて以降、文献上、正確な分布記録は明らかになっていなかった。その採集地点はその後埋め立てにより消失したため、本調査での同定が正しければ、浦内川が現存する唯一の生息場所となる。今後、詳細な分類学的検討が必要である。

Corallichirus tridentatus (von Martens, 1869)

沖縄島億首川と石垣島宮良湾で採集された。インドネシア、スリランカで記録されている種であるため、本調査での同定が正しければ、大幅な分布域の更新となる。

アナジャコ *Upogebia major* (de Haan, 1841)

一部の地域では食用にされる大型種である。極東域に広くする種であるが、日本での分布は北海道から熊本であり、鹿児島以南では採集されなかった。

ヨコヤアナジャコ *Upogebia yokoyai* Makarov, 1938

日本では青森県陸奥湾から沖縄県西表島までの広範囲で採集された。海外での文献上の記録は今のところはないため、固有種であると言える。

コブシアナジャコ *Upogebia pugnax* de Man, 1905

本調査では種子島、奄美大島、沖縄島、宮古島で採集された。文献では、高知県、和歌山県にも分布するが、多くはない。本種はインドネシアが基産地の *Upogebia pugnax* de Man, 1905 であるとされていたが、日本産個体群については高知県宇佐の標本をもとに新種 *Upogebia sakaii* Ngoc-Ho, 1994 が提唱された。*Upogebia pugnax* の模式標本の雌雄をめぐる論争があるが、模式標本がフクロムシ類に寄生された個体であり、寄生去勢のために形態が雌化している可能性があること、基産地からはその1個体しか採集されていないことから、形態に基づく分類では決着がつかさうにない。しかし、模式標本が潮下帯から得られていることから考えると、日本の干潟に分布する個体群は *U. pugnax* とは別種の *U. sakaii* であると考えてもよいかもしれない。酒井勝司博士が近々出版されるアナジャコ科の revision では、日本産個体群を *U. sakaii* として扱っているよ

うであり（酒井勝司，私信），そうすると，本種，コブシアナジャコ *Upogebia sakaii* Ngoc-Ho, 1994 は日本固有種ということになる．細かい経緯は別にして，美しい紅色をした小型のアナジャコ類である．

Upogebia 属の 1 種 *Upogebia* sp.

本調査のリストでは，小型個体のために同定できなかった種が含まれるが，沖縄島具志・大嶺で採集された個体は，明らかに他のアナジャコ属とは異なる．近年，新種記載された *Upogebia rupicola* Komai, 2005 に似るが，標本が不完全であるために同定はできなかった．

節足動物門

軟甲綱 十脚目 異尾下目

朝倉 彰

ヤドカリ相に関しては、干潟というのはもともと生息するヤドカリ類の種数としては、あまり多くなく、本調査においてもそれほど種多様性は高くはない。北海道から沖縄まで全国の干潟のほぼ全域に出現したのは、ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* であり、個体数としても、どこの干潟でも最優占種となっている。しかし標本の色彩をみる限りでは、北海道、本州の個体は黒味が強く、九州や沖縄では白味が強い傾向にあるように思われ、本種のこの広大な分布域において、形態的に同じと言えども遺伝的に均質なものなのか、今後の精査が必要であろう。

干潟のカニのようにかつて普通に見られたが、現在地域的に絶滅している種というのは、ヤドカリ類とカニダマシ類に関する限りは無い。また人間の生活や営みの中で利用されている種は特に無く、移入種も特に認められない。

沖縄の干潟では、ヤドカリ類の種多様性は比較的高く、ユビナガホンヤドカリに加えて、ツメナガヨコバサミやタテジマヨコバサミも非常に頻繁に出現している。しかし今回最も注目すべきは、2種のツノヤドカリ、アンパルツノヤドカリ *Diogenes leptocerus* およびマルテツノヤドカリ *Diogenes leptocerus* (ともに和名は諸喜田茂充による) の分布詳細が明らかになったことであろう。この2種が日本に分布していることは、2002年に琉球大学の諸喜田茂充氏の研究グループが石垣島のマングローブを調査した時に発見したものである。今回の調査で、アンパルツノヤドカリは本城川、奄美住用川、羽地内海(我部井)、名蔵湾、億首川、崎枝湾、船浦の各干潟から採集された。またマルテツノヤドカリは、佐敷、前良・後良川、宮良湾、名蔵湾、船浦、川平湾の各干潟から採集された。またその他の注目すべき種としては、希少種ランソンヨコバサミ *Clibanarius ransoni* と *Clibanarius amboinensis* が、宮良湾から採集された。

カニダマシ類は、採集個体はわずかであったが船浦から、ウチノミカニダマシに似た不明種が採集され、今後の分類学的検討を要する。

節足動物門

軟甲綱 十脚目 短尾下目

和田 恵次

1) 希少種

アマミマメコブシ *Philyra taekoa* Takeda, 1972

本種の記録は、奄美大島 (Takeda, 1972; 岸野ほか, 2001b) のほかに与論島 (酒井, 1976; 諸喜田ほか, 1996) や西表島から知られていたが、今回の調査で奄美大島笠利湾と沖縄島大浦より記録された。記録がきわめて少ない希少種といえる。

アリアケヤワラガニ *Elamenopsis ariakensis* Sakai, 1969

有明海特産の希少種とされていた (酒井, 1976; 小菅ほか, 2002) が、大阪湾でも、干潟からではなく潮下帯より記録があった (西ほか, 1998)。今回の調査では、やはり有明海に面する 3 地域から記録があったが、いずれも 1 個体のみ得られているに過ぎない。

オキナワヤワラガニ *Neorhynchoplax okinawaensis* (Nakasone et Takeda, 1994)

沖縄島北部の河口からのみ知られていた (Nakasone and Takeda, 1994) が、今回の調査で新たに沖縄島南部の干潟から普通に見つかり、さらに九州熊本県の干潟より見つかった。いずれも貴重な記録である。

ムツアシガニ *Hexapus sexpes* (Fabricius, 1798)

潮下帯水深 20-50 m の泥底より、相模湾から三河湾、紀伊半島沿岸、土佐湾、与論島などから知られていた (酒井, 1976) が、潮間帯からの記録は極めて稀で、今回三重県の干潟、九州の干潟、それに先島諸島の干潟から、いずれも数多く見つかっており、これらの記録は貴重である。多毛類の棲管に共生するとされる。

ヒメムツアシガニ *Hexapus anfractus* Rathbun, 1909

これまで有明海から天草諸島にかけての泥干潟より、チンチロフサゴカイの棲管に共生して生息するのが知られていた (酒井, 1976) が、今回の調査からも佐賀県、熊本県の有明海沿岸の諸地域から記録されている。しかしほとんどが 1 個体のみ採集記録であり、唯一熊本県の 1 ヶ所の干潟でのみ数多く見つまっている点が注目される。有明海沿岸以外からは知られていないだけに、固有性の強い種として希少性が高い。

マキトラノオガニ *Pilumnopus makiana* (Rathbun, 1929)

和歌山県，岡山県，福岡県，鹿児島県それに有明海，西表島などから知られていた（酒井，1976；和田ほか 1996）．今回の調査からは，以上の地域のほかに兵庫県千種川，熊本県天草郡羊角湾，それに沖縄島大浦より記録された．分布域としては紀伊半島以南沖縄までの広い範囲に及ぶが，記録される地域がそれほど多くない点で希少種とみなされる．

カノコセビロガニ *Epixanthus dentatus* (White, 1847)

沖縄島や石垣島より知られていた（酒井，1976；和田ほか，1996）が，多くない種で，今回の調査からもわずかに沖縄島の億首川と石垣島の宮良湾の 2 地域からのみ得られており，いずれも 1 個体のみの記録である．

チゴイワガニ *Ilyograpsus nodulosus* Sakai, 1983

原記載は，西表島からの記録に基づく（酒井，1983）が，その後奄美大島（岸野ほか，2001b）や和歌山県沿岸（木邑ほか，2004）より記録されている．今回の調査から，以上の地域に加えて，愛媛県僧都川と熊本県天草郡の永浦および羊角湾より記録された．日本固有種ともみられ，記録が限られる希少性の高い種である．

タイワンヒライソモドキ *Ptychognathus ishii* Sakai, 1939

和歌山県と南西諸島から知られていた（和田ほか，1996）．本調査により，さらに大阪府（男里川），高知県（浦の内湾），愛媛県（僧都川），宮崎県（北川），鹿児島県（万之瀬川）より記録された．しかし僧都川以外の地域での記録個体数は極めて少ない．

ヒメヒライソモドキ *Ptychognathus capillidiggitatus* Takeda, 1984

和歌山県沿岸（木邑ほか，2004）と奄美大島（岸野ほか，2001a），それに沖縄島（仲宗根・伊礼，2003b）より知られていた．今回の調査により，新たに石垣島（宮良湾）より記録が得られた．これにより和歌山県と南西諸島に限定された分布を示す種といえる．

ヒライソモドキ *Ptychognathus glaber* Stimpson, 1858

相模湾と小笠原諸島から知られていた（酒井，1976）が，今回の調査からは，小笠原諸島のみから得られたに過ぎない．小笠原諸島での生息数は多いが，他の地域での記録がほとんどないため，希少性が高いといえる．

ケフサヒライソモドキ *Ptychognathus barbatus* (A. Milne-Edwards, 1873)

八丈島，与論島，石垣島からの記録（酒井，1976）に加えて，高知県からも最近記録された（野元・和田，2000）．今回の調査により沖縄島の 2 地域より記録され，その中でも大浦では個体数が

多いことがわかった。それでも記録される地域が少ない希少種である。

トゲアシヒライソガニモドキ *Parapyxidognathus deianira* (de Man, 1888)

石垣島宮良川 (三宅, 1983), 沖縄島 (諸喜田ほか, 1996), 奄美大島 (岸野ほか, 2001a), 和歌山県沿岸 (木邑ほか, 2004) から知られていた。今回の調査より, 愛媛県僧都川と宮崎県の北川および熊ノ江より記録された。伊豆半島からも採集されているが (和田未発表), 記録される地域が少ない希少種である。

ヒラモクズガニ *Utica borneensis* de Man, 1895

石垣島, 西表島 (和田ほか, 1996) のほかに, 奄美大島からの記録 (岸野ほか, 2001b) が知られていたが, 今回沖縄島より記録が 1 例あった。極めて記録が限られる希少性の高い種である。

トリウミアカイソモドキ *Acmaeopleura toriumii* Takeda, 1974

原記載は宮城県女川湾からの記録に基づく (Takeda, 1974)。その後和歌山県沿岸, 兵庫県, 山口県, 福岡県, 鹿児島県などからの記録が知られていた (和田ほか, 1996)。今回の調査により, これらの地域に加えて, 三重県 (志登茂川), 大阪府 (男里川), 徳島県 (勝浦川), 高知県 (浦ノ内湾), さらに石垣島 (川平湾) より記録された。石垣島からの記録は, 本種の南西諸島からの初めての記録となる。

コウナガイワガニモドキ *Psuedograpsus elongates* (A. Milne-Edwards, 1873)

沖縄島と石垣島 (酒井, 1976; 諸喜田ほか, 1996) のほかに, 奄美大島からの記録 (岸野ほか, 2001a) が知られていた。本調査では, 沖縄島の 3 地域からと愛媛県僧都川から記録された。沖縄島の大浦と億首川は, 比較的個体数がそろっており, 数少ない生息地の中では貴重なところといえる。

ヒメモクズガニ *Neoeriocheir leptognatus* (Rathbun, 1913)

もともと日本国内では有明海の特産種とされていたが, 記録はあまり知られていない。今回の調査では, 有明海奥部で多数生息しているのが確認されたのみである。

ヒメケフサイソガニ *Hemigrapsus sinensis* Rathbun, 1929

有明海沿岸 (酒井, 1976) のほかに, 和歌山県沿岸 (木邑ほか, 2004) から知られていた。今回の調査から, これらの地域に加えて, 山口県 (有帆川) でも確認された。有明海沿岸では比較的多いが, 有明海以外では記録される地域が少ない希少種である。

スネナガイソガニ *Hemigrapsus longitarsis* (Miers, 1879)

北海道厚岸湾, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 静岡県 (浜名湖), 山口県, 広島県などからの記録

が知られていた（和田，1996）．今回の調査からは，北海道から静岡までのどの地域からも記録されず，むしろ西日本からのみ記録された．生息場所が干潟でなく，潮下帯である場合が多いので，そのため記録されなかったか，あるいは，日本の東部での分布が消滅した可能性もある．今回の調査で新たに記録されたのは，和歌山県，徳島県，愛媛県，福岡県，熊本県，それに大分県である．このうち比較的個体数がそろっているのは，山口県の秋穂湾と熊本県天草郡の永浦である．

ミゾテアシハラガニ *Sarmatium striaticarpus* Davie, 1992

沖縄島北部と石垣島，西表島（諸喜田ほか，1996）のほかに，奄美大島からも知られていた（岸野ほか，2001b）．今回の調査からは，沖縄島の羽地内海と漫湖のみから記録があった．南西諸島の中でも記録が限られる希少種といえる．

キノボリベンケイガニ *Parasesarma leptosomum* (Hilgendorf, 1878)

これまで沖縄島大浦川より記録された（諸喜田ほか，2002）だけの種．本調査からは，石垣島の川平湾と宮良湾から記録されている．記録が極めて稀な希少種といえる．

ウモレベンケイガニ *Clistocoeloma sinensis* Shen, 1933

東京湾から沖縄までの地域から記録されていた（和田ほか，1996）が，今回の調査からも東京湾，三重県，和歌山県，大阪府，兵庫県，愛媛県，山口県，福岡県，大分県，熊本県の各地域から記録された．しかし，記録される個体数は，いずれの地域でも多くない．比較的多く生息しているのが確認されたのは，東京湾の谷津干潟，和歌山県有田川，兵庫県加古川，山口県厚狭川，愛媛県僧都川となっている．

フジテガニ *Clistocoeloma villosum* (A. Milne-Edwards, 1869)

和歌山市紀ノ川河口で見つかり（野元ほか，1999），その後奄美大島でも記録されていた（岸野ほか，2001a）．今回の調査により，新たに愛媛県僧都川と沖縄島塩屋・大久保川より記録された．極めて記録数が少ない希少種である．

ギボシマメガニ *Pinnixa balanoglossasa* Sakai, 1934

ミサキギボシムシの巣穴に共生するとされ，相模湾，伊勢湾から記録されていた（酒井，1976）．今回の調査により，山口県，福岡県，熊本県，大分県それぞれ1ヶ所ずつから記録された．このうち福岡県の干潟は，生息個体数が多い点注目される．

アカホシマメガニ *Pinnixa haematosticta* Sakai, 1934

伊豆下田から知られていた（酒井，1976）が，今回の調査により，千葉県（1ヶ所），山口県（1

ヶ所), 熊本 (1ヶ所), 鹿児島 (2ヶ所) の5地域から記録された。このうち, 熊本県の干潟は, 比較的個体数がそろっている点注目される。

ハサミカクレガニ *Mortensenella forceps* Rathbun, 1909

原記載は奄美大島産の標本に基づく (Sakai and Takeda, 1995)。今回の調査から, 奄美大島に加えて, 沖縄島と先島諸島から記録が得られた。これだけしか記録がない希少な種である。

ウモレマメガニ *Pseudopinnixa carinata* (Ortmann, 1894)

日本固有種で, 千葉県犬吠埼, 東京湾, 大阪湾からの記録 (酒井, 1976) に加え, 最近になって兵庫県の瀬戸内海沿岸 (神戸市立須磨海浜水族館, 1996), 和歌山県 (古賀ほか, 2003) からの記録がある。今回の調査により, これらの地域のほかに, 三重県と熊本県が新産地として加わった。このうち熊本県の干潟では生息数が比較的多い点注目される。

ヨコナガモドキ *Asthenognathus inaequipes* Stimpson, 1858

日本固有種で, これまで陸奥湾, 相模湾, 伊豆半島, 三河湾, 伊勢湾, 大阪湾, 瀬戸内海から知られていた (酒井, 1976) が, いずれも潮下帯の砂泥底からであり, 今回の調査結果から有明海沿岸域の干潟が記録されたことは, 記録として有明海が追加されたことのみならず, 潮間帯の記録として貴重である。

ヨコナガピンノ *Tritodynamia japonica* Ortmann, 1894

多毛類のタマシキゴカイの巣に共生するとされる日本特産種で, これまで秋田県, 東京湾, 相模湾, 三河湾, 伊勢湾より知られていた (酒井, 1976)。今回の調査からは, これらの地域からはまったく記録されず, わずかに福岡県と鹿児島県それぞれ1ヶ所の干潟からのみ記録された。以前に記録があった地域からは絶滅した可能性があり, 希少性が高い種といえる。

オオヨコナガピンノ *Tritodynamia rathbuni* Shen, 1932

ツバサゴカイやギボシムシに共生するとされ, これまで東京湾, 相模湾, 三河湾, 伊勢湾, 瀬戸内海沿岸より知られていた (酒井, 1976)。今回の調査からは, これらの地域からはまったく記録されず, 福岡県, 有明海沿岸, それに鹿児島県から記録された。ただし記録された地域のいずれも個体数はわずかである。以前に記録された地域からは絶滅した可能性がある。

メナシピンノ *Xenophthalmus pinnotheroides* White, 1846

潮下帯の泥底を済み場所として, これまで瀬戸内海 (愛媛県) と有明海 (佐賀県) より知られていた (酒井, 1976)。今回の調査から, 有明海沿岸各地と岡山県の1ヶ所の干潟から記録された。特に岡山県の干潟では, 生息数が多く, 他にそのような地域がないだけに貴重である。有明海と

瀬戸内海のごく一部の地域からしか知られていない希少種である。

シオマネキ *Uca arcuata* (de Haan, 1835)

紀伊半島沿岸，瀬戸内海，それに九州沿岸さらに沖縄島に分布する（和田ほか，1996）のに加え，伊豆半島からも最近記録された（田中ほか，2004）．しかし記録されるほとんどの地域は，生息数が多くなく，その点で希少種といえる．今回の調査でも，これまで知られている和歌山県以西の分布域内の地域より記録されたが，生息数が比較的多いところは，和歌山県有田川，徳島県吉野川，山口県厚狭川，福岡県行橋市長井浜，鹿児島県天降川，それに有明海沿岸各地の河口域に限られている．

リュウキュウシオマネキ *Uca coarctata* (H. Milne Edwards, 1852)

琉球列島の中でも石垣島と西表島から（酒井，1976）と沖縄島大浦川より知られていた（仲宗根・伊礼，2003a）が，今回の調査からもわずかに石垣島の宮良湾のみから記録されたに過ぎない．種としての分布域は，熱帯域に広いにもかかわらず，日本では極めて記録が少ない希少種である．

ルリマダラシオマネキ *Uca tetragonon* (Herbst, 1790)

沖縄島，宮古諸島，八重山諸島に分布する（諸喜田ほか，1996）が，生息数自体多くない．今回の調査でも，わずかに沖縄島の億首川と石垣島の宮良湾のみからしか記録されなかった．転石のある干潟に生息する希少種である．

シモフリシオマネキ *Uca triangularis* (A. Milne Edwards, 1873)

石垣島と西表島から（酒井，1976）と沖縄島北部（仲宗根・伊礼，2003a）から知られていた．今回の調査でも，石垣島の宮良湾と西表島の浦内川からのみ記録されたが，いずれも生息数は少ない．記録が極めて少ない希少性の高い種である．

ハラグクレチゴガニ *Ilyoplax deschampsii* (Rathbun, 1918)

有明海奥部にのみ個体群が存在し，他に偶発的に鹿児島県や東京湾で見つかったことがある（和田ほか，1996）．今回の調査でも有明海奥部に記録が限られたが，菊池川での記録は初めてである．有明海を代表する希少種である．

メナガオサガニ *Macrophthalmus serenei* Takeda et Komai, 1991

潮下帯からの記録種としてこれまで，伊豆半島以南から琉球列島までの分布域をもつとされていた（Takeda and Komai, 1991）．今回の調査で，潮間帯の干潟からの記録として，熊本県天草地方の永浦と羊角湾，鹿児島県浦内湾（上甕島），それに沖縄島，石垣島，西表島より記録された．こ

のうち比較的生息数がそろっているのは、沖縄島の羽地内海、泡瀬、それに西表島の船浦であった。

ミナミメナガオサガニ *Macrophthalmus milloti* Crosnier, 1965

日本での最初の記録は石垣島からであった (Takeda and Komai, 1991) が、その後奄美大島からも記録されていた (岸野ほか, 2001b)。今回の調査から、これらの地域に加えて沖縄島 (億首川) にも分布していることがわかった。記録される地域が少ない希少種である。

ミナミオサガニ *Macrophthalmus brevis* (Herbst, 1804)

日本での最初の記録は沖縄島中城湾からであった (Kitaura and Wada, 1999)。今回の調査により、奄美大島住用川、沖縄島億首川、石垣島、西表島にも分布していることが明らかとなった。記録が少ない希少種である。

ヨコスジオサガニ *Macrophthalmus definitus* White, 1848

日本での最初の記録は西表島である (武田, 1981) が、その後奄美大島 (岸野ほか, 2001b)、沖縄島大浦川 (仲宗根・伊礼, 2003a) からも記録された。今回の調査からは、沖縄島羽地内海と石垣島宮良湾から記録された。記録される地域が少ない希少種である。

ムツハアリアケガニ *Camptandrium sexdentatum* Stimpson, 1858

神奈川県小網代湾、田辺湾、児島湾、山口湾、愛媛県重信川、諫早湾、石垣島、西表島などから知られていた (和田ほか, 1996)。今回の調査からは、これらの地域からは記録されず、小笠原諸島、三重県英虞湾、兵庫県千種川、福岡県行橋市長井浜、熊本県天草地方、それに有明海沿岸各地より記録された。記録される地域は、有明海沿岸は比較的多いが、それ以外は断続的であり、しかも生息数はいずれもごく僅かである。今回記録された地域の中で、本土から遠く離れた小笠原諸島での記録は特に注目に値する。

アリアケガニ *Cleistostoma dilatatum* (de Haan, 1835)

これまで有明海沿岸 (和田ほか, 1996)、博多湾 (三宅, 1983)、それに最近になって大分県宇佐市寄藻川 (三浦ほか, 2004) より知られていたが、博多湾からは絶滅したものとみられる。今回の調査からは、有明海各地の河口域から記録されたが、その他に周防灘に位置する福岡県行橋市長井浜と佐賀県の伊万里湾より新たに生息が確認された。比較的生息数が多いのは、有明海では六角川、矢部川、菊池川、緑川で、新たな生息地となった上記長井浜と伊万里湾でも多く記録されている。シオマネキと同じように、潮間帯上部の泥質域を生息場所とするが、シオマネキよりも分布域は限られており、貴重性が高い。

カワスナガニ *Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934)

伊豆半島，紀伊半島，四国南岸，九州沿岸，奄美大島 (Kawane et al. 2005)，それに沖縄島 (仲宗根・伊礼，2003a) の汽水域上流部から知られる日本固有の希少種である。今回の調査からは，以上の分布域に加え，周防灘沿岸の山口県光市島田川からも記録された。

2) 移入種

イッカククモガニ *Pyromaia tuberculata* (Lockington, 1877)

北米太平洋岸から南米コロンビアまでを原産地とする本種は，1970年に東京湾で見つかって以来，静岡県，愛知県，三重県，大阪府，兵庫県，徳島県，広島県，山口県，福岡県の各沿岸から確認された (岩崎ほか，2004)。今回の調査からは，有明海 (緑川，塩屋海岸) から記録された。これはおそらく有明海からの本種の初めての記録であろう。

チチュウカイミドリガニ *Carninus aestuarii* Nard, 1847

地中海を原産地とする本種は，1984年に東京湾で発見されて以来，浜名湖，伊勢湾，紀伊水道から大阪湾さらに瀬戸内海の播磨灘沿岸にかけての地域，さらに福岡県洞海湾から確認された (岩崎ほか，2004)。今回の調査でも，東京湾と紀伊水道 (和歌山県) より記録された。

3) 分類学的に詳しい検討が必要な種

ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus* (de Haan, 1835)

従来，北海道から沖縄までの広範囲にわたって分布するとされていた (和田ほか，1996) が，最近になって同胞種 *Hemigrapsus takanoi* Asakura et Watanabe, 2005 を含むことが明らかとなった (Asakura and Watanabe, 2005)。それによると，*H. penicillatus* は，本州，四国，九州に分布し，*H. takanoi* は，北海道から本州，四国，九州に分布するとされる。今回の調査では，ケフサイソガニとして一括したため，*H. takanoi* を一部に含んでいた可能性は十分ある。しかし，ほとんどの調査地域で，標本を採っていないので，確認することは困難である。なお，今回の調査からは，琉球列島からは，まったく記録されなかった。

ミナミヨコナガピンノ *Tetrias fischeri* (A. Milne Edwards, 1867)

酒井 (1976) によれば，三浦半島の潮下帯岩礁域からの記録があるだけの種である。今回の干潟調査で，西表島の船浦から得られた標本が，本種と査定された。しかし生息場所が基産地とは全く異なり，しかもこれまで 1 例しか記録のなかった種だけに，再度査定について検討する必要がある。

参考文献

- Asakura, A. and Watanabe, S., 2005. *Hemigrapsus takanoi*, new species, a sibling species of the common Japanese intertidal crab *H. penicillatus* (Decapoda: Brachyura: Grapsoidea). *Journal of Crustacean Biology*, 25: 279-292.
- 岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西榮二郎・山西良平・林育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井宏, 2004. 日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. *日本ベントス学会誌*, 59: 22-44.
- Kawane, M., Wada, K., Kitaura, J. and Watanabe, K., 2005. Taxonomic re-examination of the two camptandriid crab species *Deriatonotus japonicus* (Sakai, 1934) and *D. tondensis* Sakai, 1983, and genetic differentiation among their local populations. *Journal of Natural History*, 39: 3903-3918.
- 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義, 2004. 和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相(II). *南紀生物*, 46: 137-141.
- 岸野 底・野元彰人・木邑聡美・米沢俊彦・和田恵次, 2001a. 奄美大島の汽水産カニ類. *南紀生物*, 43: 125-131.
- 岸野 底・米沢俊彦・野元彰人・木邑聡美・和田恵次, 2001b. 奄美大島から記録された汽水産希少カニ類 12 種. *南紀生物*, 43: 15-22.
- Kitarua, J. and Wada, K., 1999. A new record of *Macrophthalmus brevis* (Herbst, 1804) (Decapoda, Brachyura, Ocypodidae) for Japan, from Nakagusuku Bay, Okinawa Island. *Biological Magazine of Okinawa*, 37: 57-60.
- 神戸市立須磨海浜水族園, 1996. 兵庫県の干潟. 特別展「干潟の生物と環境」, pp.22-25.
- 古賀庸憲・溝口和子・栗田剛史・池田幸右・池田三智子・上水流裕司・北山貴己・小山貴子・里中美哉・出口弘美・根ヶ山亮・和田恵次, 2003. 和歌川河口干潟で採集されたウモレマメガニ *Pseudopinnixa carinata* (Ortmann, 1894) (カクレガニ科). *南紀生物*, 45: 145-146.
- 小菅丈治・輿石裕一・陶山典子, 2002. アリアケヤワラガニ (ヤワラガニ科) の再発見. *南紀生物*, 44: 103-105.
- 三浦知之・矢野香織・松尾敏夫・佐藤正典, 2004. 大分県宇佐市寄藻川に生息するアリアケガニ個体群の発見. *Cancer*, 13: 19-23.
- 三宅貞祥, 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑(II). 保育社, 大阪, 277pp.
- 仲宗根幸男・伊礼美和子, 2003a. スナガニ科 Ocypodidae. 西田睦・鹿谷法一・諸喜田茂充 (編), 琉球列島の陸水生物, 東海大学出版会, 東京, pp. 266-272.
- 仲宗根幸男・伊礼美和子, 2003b. イワガニ科 Grapsidae. 西田睦・鹿谷法一・諸喜田茂充 (編), 琉球列島の陸水生物, 東海大学出版会, 東京, pp.272-282.
- Nakasone, Y. and Takeda, M., 1994. A new hymenosomatid crab, *Elamenopsis okinawaensis*, n. sp.

- (Crustacea: Hymenosomatidae), from Okinawa, the Ryukyu Islands, Japan. *Pacific Science*, 48: 158-160.
- 西 潔・花岡皆子・山西良平, 1998. 1993 年および 1996 年に大阪湾で実施したマクロベントス調査の結果 (予報). *自然史研究*, 2: 195-206.
- 野元彰人・淀真理・木邑聡美・岸野底・酒野光世・和田恵次, 1999. 紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の 6 稀種. *南紀生物*, 41: 5-9.
- 野元彰人・和田恵次, 2000. 高知県甲殿川で採集されたケフサヒライソモドキ (イワガニ科). *南紀生物*, 42: 53-54.
- 酒井 恒, 1976. 日本産蟹類. 3 巻. 461pp. (日本語版). 773pp. (英語版), 251pp. (図版), 講談社, 東京.
- 酒井 恒, 1983. 日本および日本近海のかに類の新属, 新種ならびに分類学上分布学上の珍種について(I). *甲殻類の研究*, 12: 3-44.
- Sakai, K, and Takeda, M., 1995. New records of two species of decapod crustaceans from Amami-Oshima Island, the northern Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series A*, 21: 203-210.
- 諸喜田茂充・長井隆・藤田喜久・成瀬貫・伊藤茜・長松俊貴・山崎貴之・新城光悦・永田有, 2002. マングローブ域の甲殻類の生態分布と生活史 大浦川マングローブ域と流入河川における甲殻類の生態分布と現存量. (財) 亜熱帯総合研究所 (編), マングローブに関する調査研究報告書平成 13 年度内閣府委託調査研究, 南風原印刷, 那覇, pp. 73-86.
- 諸喜田茂充・仲宗根幸男・鹿谷法一, 1996. 甲殻類. 諸喜田茂充他 (編), 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物. レッドデータおきなわ, 3, 沖縄県環境保健部自然保護課, 沖縄, pp. 362-385.
- Takeda, M., 1972. A new species of the Leucosiidae (Crustacea, Brachyura) from Amami-Oshima. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 28: 1-4.
- Takeda, M., 1974. Accounts of some rare crabs from Mutsu Bay, with description of a new grapsid from Onagawa Bay. *Bulletin of the Marine Biological Station of Asamushi, Tohoku University*, 15: 13-21.
- 武田正倫, 1981. 琉球列島のオサガニ類. 山口隆男 (編), 潮間帯および潮間帯上部に棲息するカニ類の比較生態学的研究, かもめ印刷, 熊本, pp. 69-77.
- Takeda, M. and Komai, T., 1991. Japanese species of the *Macrophthalmus telescopicus* complex (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Ocypodidae). *Bulletin of the National Science Museum, Series A*, 17: 165-171.
- 田中宏典・柴垣和弘・池澤広美・金澤礼雄・和田恵次, 2004. 伊豆半島, 青野川で出現したシオマネキ類 2 種について. *日本ベントス学会誌*, 59: 8-12.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF Japan サイエンスレポート*, 3: 1-182.

棘皮動物門

ナマコ綱

今岡 亨

1) かつて普通に見られたが，現在地域的に絶滅している種

沖縄または琉球列島を除き，無足類の生息域は泥地から砂泥地であり，埋め立てによりその多くが失われたと考えられる．現に，フトトゲイカリナマコの模式産地である伊勢湾の熱田(宮湾)はすでに埋め立てられている．

2) 希少な種，固有種

フトトゲイカリナマコの模式産地は伊勢湾の熱田であり，その後，相模湾の三崎から採集されているが，国外からの報告はない．今回，山口県の山口湾と秋穂湾での生息確認は新産地である．なお，他の調査により，有明湾での生息も確認されている．

3) 移入種

Holothuria (Selenkothuria) erinacea Semper, 1868 の模式産地はフィジー諸島で，ベンガル湾，インド洋，オーストラリア，フィリピンからも知られる．今回の沖縄県竹富島での生息確認は，熱帯性ナマコの北上例と考えられる．

4) 分類学的に詳しい検討が必要な種(未記載種など)

Thyonidiella sp. (広島県三原市細ノ洲産：1 個体)

体長が 50 mm くらいあり，成体と考えられる．国内新記録，又は，未記載種である．

Patinapta sp. (沖縄県石垣島名蔵産：4 個体)

最大体長は 60mm あるが，頭部の直径 2 ～ 2.5mm，胴体部の直径 1 ～ 2mm と細長く，解像度の良い実体顕微鏡でないと，調べることが出来ない．

5) 人間の生活や営みの中で利用されている種

マナマコは、重要な食用種で、生食されるほか、煮て乾かした「いりこ」は中華料理の海産、又内臓の塩辛は「このわた」、卵巣の塩辛は「このこ」、干した物は「干このこ」として珍重される。近年、中国での需要が高まり、国内での密漁が問題となっている。

参考文献

- Clark, H. L., 1938. Echinoderms from Australia. Mem. Mus. comp. Zool. Harv., 55: viii+596, 63 figs., 28 pls.
- Heding, S. G. & Panning, A., 1954. Phylloporidae. Eine Bearbeitung der polutentaculaten dendrochiroten Holothurien des zoologischen Museums in Kopenhagen. Spolia zool. Mus. haun. 13: 7-209, 102 figs.
- Liao, Y., 1997. Fauna Sinica Phylum Echinodermata Class Holothuroidea. Science Press, Beijing, China. 334 pp. 2 pls.
- Marenzeller, E. von., 1882. Neue Holothurien von Japan und China. Verh. zool. bot. Ges. Wien 31: 121-140, pls. 4, 5.
- Ohshima, H. The Synaptidae of Japan. Annotnes zool. Jap. 8(1): 53-96, 7 figs., I pl.
- Semper, C., 1868. Holothurien. Reisen in Archipel der Philippinen. 2. Wissenschaftliche Resultate. Weisbanden: x+288, 40 pls.

注1： 3) 移入種の *H. (Sel.) erinaceus* の種小名の末尾を *erinacea* に変更した。

半索動物門

西川 輝昭

半索動物門は、ギボシムシ（腸鰓）綱，フサカツギ（翼鰓）綱，それに化石として出土するフデイシ（筆石）綱からなる（西川，1986，1995）．ギボシムシ綱では，砂泥底中に潜んで生活する種が圧倒的多数を占め，干潟にも出現する．フサカツギ綱においても日本列島の潮間帯で発見された希少例があるが，虫体が微小なため，今回のような調査方法によって発見される可能性は極めて低い．したがって，本稿の記述はギボシムシ綱に限定する．

ワダツミギボシムシのように底表面に糞塊を築く種は，その存在が容易にわかるが，そうでない種も少なくない．また本綱の虫体は脆弱で，簡単にちぎれる．こうした不完全標本では，種名決定は困難である．これらの理由により，干潟のギボシムシ相とその変化を正確に把握するのは容易ではない．

今回の調査で注目されるのは，北海道能取湖で「*Balanoglossus* 属と思われる1種」が発見されたことである．北海道からはこれまで，キタギボシムシ *Saccoglossus borealis* Okuda et Yamada, 1955 が厚岸湾の潮下帯から記録されているにすぎない．分類学的研究や生態学的調査が待たれる．

ヒメギボシムシ *Ptychodera flava* Eschscholtz, 1825

インド洋や太平洋の熱帯海域においてサンゴ礁原の底砂表層中に生息する．日本列島沿岸でも，紀伊半島南端の串本町を北限として，トカラ列島以南に広く分布する（Nishikawa, 1977）．1894年に小笠原父島洲崎の潮間帯から採集された標本も現存している（西川，2001）．糞塊を出す，はっきりしないことも少なくない．つねに底の表面近くに生息し，体も小型なので，他種に比べて完全個体の採集が容易である．

和田ほか（1986）の調査（アンケート回答）では沖縄県下各地で生息が確認されたが，今回の調査でも，沖縄島の泡瀬，宮古島の与那覇湾，および石垣島の崎枝湾の3箇所から，それぞれ個体数の多寡は「A」（多）ランクで報告されている．宮古島からは初記録となるが，従来の調査が不十分のためであろう．発見された干潟が予想外に少なかったが，その理由は定かでない．

ワダツミギボシムシ *Balanoglossus carnosus* (Willey, 1899)

インド洋や西太平洋の熱帯水域の潮間帯から潮下帯に生息し，太い紐状の糞塊を底表面に積み上げる．この特徴によってその生息はすぐにわかるが，巣穴はかなり深いので，完全個体の採集は容易でない．日本列島沿岸では館山以南の太平洋岸に分布することがわかっているが（西川，1995），最近，能登半島の潮下帯からも発見された（坂井ほか，2001a）．

今回の調査では，浜名湖（いかり瀬），山口県笠戸島・小深浦，大分県臼杵（不完全個体のため，同定に不安あり）の3箇所だけで発見された．これらはいずれも新産地であり，今後の追跡調査

が期待される。他方、和田ほか（1996）で「絶滅寸前」というアンケート回答がなされた三重県櫛田川河口では、今回、全く発見されなかった。さらに、沖縄県ではこれまでいくつかの干潟から本種の生息が記録されているが（西川，2003），今回の調査では同県での発見は皆無であった。これはおもに、西川（同）の言及した干潟が今回調査の対象外であったためと考えられるが、石垣島川平湾と西表島浦内川はそうではない。調査方法の違いによるのかもしれないが、かつての生息地から姿を消した可能性もある。和田ほか（同）は、本種の日本列島個体群が「希少であることはほぼ確かであり，危険種となりつつある可能性も否定できない」と結論付けたが，それを覆すに足る発見例が今回の調査で得られたとは言えない。

和田ほかの結論の根拠は，出現報告が全国的に極めて少なかつただけでなく，高密度生息で古くから著名な，和歌山県の田辺湾にうかぶ島島の干潟においてさえ，「危険」というアンケート回答が示されたからであった。事実，島島の干潟において 1981 年から 1988 年まで実施された糞塊密度調査では，1984 年以降の顕著な減少傾向が示されている（和田・山本，1989）。この調査によれば，面積 730 m²の永久コドラート内の糞塊数の最高は 1983 年 7 月の 87 個で，平均密度を計算すると 1 m²あたり 0.12 個となる。他方，浜名湖いかり瀬における 2002 年 5 月 28 日調査時の糞塊密度は，面積約 25 m²のコドラート内に最高 3 個，つまり 1 m²あたり 0.12 個であった。今後の変化が注目される。

ミサキギボシムシ *Balanoglossus misakiensis* Kuwano, 1902

日本固有種と考えられ，館山以南の太平洋岸や瀬戸内海の干潟の砂泥底中に生息することがわかっているが（西川，1995），最近，能登半島の潮下帯からも発見された（坂井ほか，2001b）。糞塊を築かないため，干潟を掘らないとその生息は確認できないので，生息実態はまだよくわかっていない。

今回の調査で，浜名湖（いかり瀬），愛知県三河湾（一色干潟），三重県雲出川河口，同五ヶ所川（不完全個体のため，同定に不安あり），山口県秋穂湾（同），および熊本県本渡干潟（同）で発見された。浜名湖からはすでに，和田ほか（1996）の野外調査でも発見されているが，その他は新産地である。地理的分布が拡大したというよりも，従来調査が不十分のためと考えられる。

なお，諫早湾と鹿児島県重富海岸から記録された「*Balanoglossus* 属の 1 種」は，本種の近縁種と考えられるが，標本の状態が悪いこともあって，分類学的位置は未決定である。

参考文献

- Nishikawa, T., 1977. Preliminary report on the biology of the enteropneust, *Ptychodera flava* Eschscholtz, in the vicinity of Kushimoto, Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 23 : 393-419.
- 西川輝昭, 1986. 半索動物. In : “動物系統分類学 8 (下)” (内田亨・山田真弓編), 中山書店, 東京, pp. 1-110.

- 西川輝昭, 1995. 半索動物門. In: “原色検索日本海岸動物図鑑Ⅱ” (西村三朗編著), 保育社, 大阪, pp. 494-499.
- 西川輝昭, 2001. 東大総合研究博物館所蔵標本の調査で判明したドククチュムシとヒメギボシムシの新産地. 南紀生物, 43: 137-138.
- 西川輝昭, 2003. 半索動物. In: “琉球列島の陸水生物” (西田睦・鹿谷法一・諸喜田茂充編著), 東海大学出版会, 東京, pp. 475-477.
- 坂井恵一・福島広行・東出幸真・小木曾正造, 2001a. 日本海における初記録種, ワダツミギボシムシ *Balanoglossus carnosus* (Willey) (半索動物門, ギボシムシ綱) の能登半島沿岸での生態について. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 7: 1-10.
- 坂井恵一・福島広行・東出幸真・又多政博・西川輝昭, 2001b. 能登半島に生息するミサキギボシムシ *Balanoglossus misakiensis* Kuwano (半索動物門, ギボシムシ綱) の生態的知見. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 7: 11-20.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.
- 和田恵次・山本善万, 1989. 畠島実験地におけるワダツミギボシムシ糞塊数の記録— 1981 ~ 1988. 瀬戸臨海実験所年報, 3: 47-50.

脊索動物門

尾索動物亜門

西川 輝昭

尾索動物亜門としては、成体が固着生活を営むホヤ綱のみが干潟生物相の構成員となりうる。とはいえ、潮間帯にだけ出現するホヤ類はこれまで知られておらず、分布の中心は潮下帯にある。海外では、シロボヤ *Styela plicata* やフクロボヤの仲間の *Molgula occidentalis* が干潟（砂州）に高密度で生息する例が報告されているが、その場合でも幼生は潮下帯の集団から補給されるという (Young, 1989)。

日本列島の干潟におけるホヤ類の生息状況は、これまで注目されてこなかった。今回の調査で、シロボヤがいくつかの干潟において、そしてエボヤやカラスボヤもそれぞれ 1 個所で、ともに個体数の多寡は「C」（普通）ランクで出現していることなど、生息の実態がわかったのは貴重な成果である。なお、これら 3 種をはじめ今回の調査で出現したホヤはすべて、岩盤や大きな石に付着するのが普通であり、潮下帯に出現するヒメボヤ *Agnesia himeboja* やスジヒメボヤ *Adagnesia vesiculiphora* のような、砂泥という基盤に特化した種ではない。

今回の出現種の地理的分布について特記することはない。出現種の形態的特徴や分布については西川(1995)を参照されたい。なお、*Herdmania pallida* (Heller, 1878)は、従来「ベニボヤ」と呼ばれていた種群のなかの 1 種で、和名はまだ与えられていない（この種群については Nishikawa(2002)をご覧ください）。

参考文献

- 西川輝昭, 1995. 脊索動物門・尾索動物亜門. In: “原色検索日本海岸動物図鑑Ⅱ” (西村三朗編著), 保育社, 東京, pp. 573-608.
- Nishikawa, T., 2002. Revision of the ascidian genus *Herdmania* (Urochordata: Ascidiacea) inhabiting Japanese waters. *Species Diversity*, 7: 217-250.
- Young, C. M., 1989. Distribution and dynamics of an intertidal ascidian pseudopopulation. *Bull. Mar. Sci.*, 45: 288-303.

脊索動物門

頭索動物亜門

西川 輝昭

本亜門は、俗にナメクジウオ類と総称される現生種 30 種ほどの小さな動物群で、3 属に分類される (Nishikawa, 2004). 日本列島からはこれら 3 属すべてから少なくとも 4 種が知られているが (西川ほか, 社団法人日本動物学会第 77 回大会 (2006 年 9 月, 松江) で口頭発表), 日本列島の干潟からはこれまで、次の 1 種しか知られていない.

ヒガシナメクジウオ *Branchiostoma japonicum* (Willey, 1897)

本種はこれまで「ナメクジウオ」という和名で親しまれ、学名は *B. belcheri* (Gray, 1847) が使われてきた. 和名「ヒガシナメクジウオ」は、安井金也博士の提唱 (安井・窪川, 2005) にしたが、本亜門の日本語総称「ナメクジウオ (類)」との混同を避けるため、日本列島に生息するナメクジウオ属 *Branchiostoma* の唯一の種に対して使用する. なお、*B. belcheri* というおなじみの学名を使わない理由は以下のとおりである. *B. belcheri* の模式産地であるボルネオ島サラワク州沿岸で採集した標本や日本列島産のヒガシナメクジウオ標本をはじめ、アジア・オーストラリア・アラビア半島産のナメクジウオ属標本多数を対象として遺伝情報を比較したところ、ヒガシナメクジウオは *B. belcheri* と全く別のものであることが示されたからである (西川ほか, 前掲). 独立種としてのヒガシナメクジウオに対する最も古い適格名は、福岡県志賀島を模式産地とする *Amphioxus japonicus* Willey, 1897 であるから (Nishikawa, 1981), これを有効名として使用する.

本種は、日本列島の房総半島 (太平洋岸) および丹後半島 (日本海岸) から瀬戸内海を経て九州天草に至る海岸の、潮間帯から深さ 70 m 程度までの砂底表層中に住む. さらに三陸山田湾からの記録もあるが、鹿児島県以南からは見つかっていない. 大陸では、中国のチンタオとアモイにも生息することが知られているが (Zhang et al., 2006), それ以南の分布については未解明である.

生息の中心は潮下帯であり、チンタオやアモイ、それに日本列島でも、伊勢湾口付近の遠州灘、愛媛県沖の瀬戸内海、そして九州天草などでは、現在でも局所的には高密度で生息している. 他方、潮間帯 (干潟) においては、この 100 年足らずの間に激減した. 天然記念物に指定されている三河湾奥の大島や広島県三原市沖の有龍島、および有明海について、潮間帯砂浜における往時の多産ぶりと 1960 年代以降の激減の状況は、文献記録に基づいて西川・水岡 (1990) や西川 (1995) が詳細に報告している. 和田ほか (1986) による 1985 年ごろの干潟における確実な出現報告は、山口県秋穂と博多湾のみであったが、今回の調査では、唯一、山口湾において個体数の多寡は「C」 (普通) ランクで発見された.

我々の調査以外に、近年、ヒガシナメクジウオが干潟で発見された記録は、管見の限り以下の

とおりである。天然記念物の指定されている三原市有龍島について、1997年10月8日付け「中国新聞」は、同年6月に6個体、そして前年にも5個体が採集されたことを伝えている。隣の竹原市でも、吉郷(2003)が、2003年6月、賀茂川河口域に広がる前浜干潟の汀線付近で、「約30分程度で30個体以上を確認」した。また、波戸岡(2000)は1999年6月、山口県秋穂干潟で「多数」を発見している。さらに、NHK総合の番組「さわやか自然百景・大分中津干潟」(2006年11月12日放映)でも、中津干潟に生息する種のひとつとして紹介されている。秋穂湾と中津(調査地名「中津港周辺」)はともに今回の調査の対象干潟であるが、調査時には発見されなかった。今後の継続的な調査が期待される。

参考文献

- 波戸岡清峰, 2000. 干潟でとれたナメクジウオ. In: “第27回特別展 干潟の自然” (大阪市立自然史博物館編), 大阪市立自然史博物館, 大阪, p. 34.
- Nishikawa, T., 1981. Considerations on the taxonomic status of the lancelets of the genus *Branchiostoma* from the Japanese waters. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 26:135-156.
- 西川輝昭, 1995. ナメクジウオ. In: “日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(II) / 分冊II. 海産魚類” (日本水産資源保護協会編), pp. 135-142.
- Nishikawa, T., 2004. A new deep-water lancelet (Cephalochordata) from off Cape Nomamisaki, SW Japan, with a proposal of the revised system recovering the genus *Asymmetron*. Zool. Sci., 21:1131-1136.
- 西川輝昭・水岡繁登, 1990. ナメクジウオ—知られざる天然記念物. 採集と飼育, 52:152-155.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-182.
- 安井金也・窪川かおる, 2005. ナメクジウオ—頭索動物の生物学. 東京大学出版会, 東京.
- 吉郷英範, 2003. 広島県竹原市の干潟に生息するナメクジウオ. 比婆科学, 211: 1-4.
- Zhang, Q., Zhong, J., Fang, S. and Wang, Y., 2006. *Branchiostoma japonicum* and *B. belcheri* are distinct lancelets (Cephalochordata) in Xiamen waters in China. Zool. Sci., 23:573-579.

脊索動物門

脊椎動物亜門 硬骨魚綱

岩田 明久

今回の事業における調査方法は底生動物主体のものであり、このカテゴリーに含まれる生物群よりも、一般的にいつて移動能力の高い魚類を確認するには適していない。しかし、調査結果をみると、全調査地点を総計して9目24科、少なくとも59属87種(群)が確認され、魚類に関する多くの情報が得られた。各科について確認種(群)数の多さからみると、ハゼ科が確認種(群)全体の60.9%(確認種(群)数53)と、他の科に比べて圧倒的に多く、第二位のヨウジウオ目4.6%(確認種数4)と続き、その他の科はいずれも1.1~2.2%(確認種(群)数1~2)と少ない。これは、一般の魚類は干潮時には水位の低下とともに沖合に移動するのに対し、ハゼ科魚類ではその時間帯を干潟上の濡や溜まりにある石などの障害物の下などに待避して次の満潮時を待つ種類や、干潟に生息する無脊椎動物の棲管を生息場所としており、干潮時にはその中に潜んでいるといった習性を有する種類が多く、今回の調査方法においても採集が可能であったためと思われる。さらに、今回の調査では希少性の高い種類が多く確認された点を強調したい。

以下に、魚類の分布状況につき、下記の項目に分けて概要を述べる。

1) 分布上初記録および貴重と思われるもの

本調査において、トカゲハゼ *Scartelaos histophorus* (Valenciennes, 1837)の沖縄島の1ヶ所からの報告、チクゼンハゼ *Gymnogobius uchidai* (Takagi, 1957)の青森県1ヶ所、和歌山県1ヶ所、佐賀県1ヶ所での報告、エドハゼ *Gymnogobius macrognathos* (Bleeker, 1860)の和歌山県1ヶ所、熊本県1ヶ所、佐賀県1ヶ所での報告、ミナミヒメハゼ *Papillogobius reichei* (Bleeker, 1853)の和歌山県1ヶ所での報告は分布上初記録と思われる。

また、和歌山県の1ヶ所からのチワラスボ *Taenioides cirratus* (Blyth, 1860)の記録は本種の希少性からみて貴重な分布情報と考えられる。

2) 希少種

本事業で行われた調査で確認された魚類で、環境省(2003)、水産庁データブック(以下、DBと記す)(水産庁編, 1998)および各都道府県のレッドデータブックに掲載されている種類を、これらの文献で掲載されているランクおよびカッコ内にそれが出現した場所を以下に示す。これらの種類が確認された地点は、魚類における生物多様性という視点から重要な場所といえる。反面、今回の事業は底生動物調査主体の方法が行われたため、各調査地における希少性の高い魚類を網羅できていないことを留意すべきであり、これらの種類が報告されなかった場所の非

重要性を意味するものではない。

シラウオ *Salangichthys microdon* Bleeker, 1860

北海道 RDB で希少種に指定されている。今回は北海道の 2 ヶ所から、個体数の基準として普通に確認された。

タビラクチ *Apocryptodon punctatus* Tomiyama, 1934

環境省 RDB で絶滅危惧 IB 類(EN)、水産庁 DB で減少種に指定されている。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、福岡県 RDB で絶滅危惧 II 類、熊本県 RDB で準絶滅危惧種、佐賀県 RDB で絶滅危惧 I 類として指定されている。福岡県では 3 ヶ所、熊本県では 2 ヶ所、佐賀県では 1 ヶ所で採集され、いずれの場所でも確認数は少ない。また、都道府県 RDB での指定はないが、和歌山県および愛媛県で 1 ヶ所ずつ、本種が少数ながら採集された。

トカゲハゼ *Scartelaos histophorus* (Valenciennes, 1837)

環境省 RDB で絶滅危惧 IA 類(CR)、水産庁 DB で減少種に指定されている。都道府県 RDB では沖縄県で絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。今回の調査では沖縄島の 1 ヶ所から多くの個体が確認された。

ムツゴロウ *Boleophthalmus pectinirostris* (Linnaeus, 1758)

環境省 RDB で絶滅危惧 II 類(VU)、水産庁 DB で減少種に指定されている。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、福岡県 RDB で絶滅危惧 II 類、佐賀県 RDB で絶滅危惧 II 類、熊本県 RDB で絶滅危惧 II 類として指定され、福岡県では 3 ヶ所、佐賀県では 2 ヶ所、熊本県では 3 ヶ所から採集された。これらの採集地のうち福岡県の 1 ヶ所、佐賀県の 1 ヶ所、熊本県の 1 ヶ所では多くの個体が確認された。その他の確認場所での生息数は少ない。

トビハゼ *Periophthalmus modestus* Cantor, 1842

環境省 RDB で東京湾奥部および沖縄島のトビハゼが絶滅のおそれのある地域個体群(LP)、水産庁 DB で危急種に指定されている。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、千葉県 RDB で A 最重要保護動物 (2 ヶ所で採集)、東京都 RDB で A (1 ヶ所で採集)、三重県 RDB で絶滅危惧 IA 類 (CR) (1 ヶ所で採集)、和歌山県 RDB で準絶滅危惧種 (4 ヶ所で採集)、大阪府 RDB で絶滅危惧 I 類 (1 ヶ所で採集)、兵庫県 RDB で A ランク (絶滅危惧 I 類) (2 ヶ所で採集)、高知県 RDB で絶滅危惧 II 類 (1 ヶ所で採集)、岡山県 RDB で準危急種 (2 ヶ所で採集)、徳島県 RDB で絶滅危惧 II 類 (2 ヶ所で採集)、愛媛県 RDB で絶滅危惧 II 類 (1 ヶ所で採集)、福岡県 RDB で絶滅危惧 IB 類 (5 ヶ所で採集)、長崎県 RDB で LP (1 ヶ所で採集)、大分県 RDB で準絶滅危惧種 (1 ヶ所で採集)、鹿児島県 RDB で絶滅危惧 II 類 (2 ヶ所で採集)、宮崎県 RDB で絶滅危惧 II 類 (3 ヶ所で採集)、

沖縄県 RDB で絶滅危惧 IB 類 (EN) (1ヶ所で採集) として指定されている。また、都道府県 RDB での指定はないが、愛知県で 1ヶ所、山口県で 1ヶ所、佐賀県で 4ヶ所、熊本県では 7ヶ所で採集された。これらの採集地のうち、千葉県、和歌山県、愛媛県、福岡県の 4ヶ所、佐賀県の 1ヶ所、熊本県の 1ヶ所では多くの個体が確認され、和歌山県の 2ヶ所、佐賀県の 1ヶ所、熊本県の 1ヶ所では普通に認められた。その他の確認場所での生息数は少ない。

ミナミトビハゼ *Periophthalmus argentilineatus* Valenciennes, 1837

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、鹿児島県 RDB では分布特性上重要種として掲載されており、同県の 1ヶ所で普通に採集された。

ワラスボ *Odontamblyopus lacepedii* (Temminck et Schlegel, 1845)

環境省 RDB の指定はないが水産庁 DB では減少種として指定されており、佐賀県の 1ヶ所より少数が採集された。また、今回の調査で確認された都道府県のうち、熊本県 RDB で要注目種として指定され、同県の 1ヶ所で少数が採集された。

チワラスボ *Taenioides cirratus* (Blyth, 1860)

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。今回の調査で確認された都道府県のうち、その場所が含まれる都道府県での RDB では、高知県 RDB で絶滅危惧 IA 類 (CR)、鹿児島県 RDB で準絶滅危惧種、熊本県 RDB で要注目種として指定されている。それぞれ 1ヶ所ずつで採集された。高知県と鹿児島県では、個体数の基準として普通に確認された。また、都道府県 RDB での指定はないが、和歌山県の 1ヶ所でも少数が確認された。

ミミズハゼ *Luciogobius guttatus* Gill, 1859

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、兵庫県 RDB では要調査種 (情報不足) として掲載されており、同県の 1ヶ所で採集された。また、鹿児島県 RDB で情報不足として掲載され、同県の 1ヶ所から少数が採集された。

ヒモハゼ *Eutaeniichthys gilli* Jordan et Snyder, 1901

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、今回の調査で確認された都道府県の RDB では、青森県 RDB で D (要調査野生生物)、および愛媛県 RDB で準絶滅危惧種 (NT) として指定されている。それぞれ 1ヶ所ずつ採集され、青森県では少数、愛媛県では普通に確認された。

クボハゼ *Gymnogobius scrobiculatus* (Takagi, 1957)

環境省 RDB で絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定されている。今回の調査で確認された都道府県の RDB

では、高知県 RDB で絶滅危惧 IB 類 (EN) として指定され、1 ヶ所から採集された。また、都道府県 RDB での指定はないが、和歌山県、宮崎県で 1 ヶ所ずつ採集された。いずれの確認場所でも生息数は少ない。

エドハゼ *Gymnogobius macrognathos* (Bleeker, 1860)

環境省 RDB で絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定されている。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、宮城県 RDB で絶滅危惧 II 類 (7 ヶ所で採集)、東京都 RDB で A (1 ヶ所で採集)、徳島県 RDB で絶滅危惧 I 類 (2 ヶ所で採集) として指定されている。また、都道府県 RDB での指定はないが、和歌山県、熊本県、佐賀県、宮崎県の各 1 ヶ所ずつ採集された。これらの採集地のうち宮城県の 3 ヶ所では多くの個体が、宮城県の 2 ヶ所、東京都、徳島県の 1 ヶ所では普通に認められた。その他の確認場所での生息数は少ない。

チクゼンハゼ *Gymnogobius uchidai* (Takagi, 1957)

環境省 RDB で絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定されている。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、千葉県 RDB で D(一般保護動物) (1 ヶ所で採集)、兵庫県 RDB で A(絶滅危惧 I 類) (1 ヶ所で採集)、熊本県 RDB で準絶滅危惧種 (1 ヶ所で採集) として指定されている。また、都道府県 RDB での指定はないが、青森県の 1 ヶ所、岩手・宮城県の 2 ヶ所、和歌山県・佐賀県・宮崎県の各 1 ヶ所ずつから採集された。これらの採集地のうち青森県と宮崎県では、個体数の基準として普通に確認された。その他の確認場所での生息数は少ない。

マサゴハゼ *Pseudogobius masago* (Tomiyama, 1936)

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、環境省 RDB で絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) として沖縄県の個体群が指定されていると同時に、沖縄県 RDB で絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定されている。今回の調査で沖縄島の 1 ヶ所から、個体数の基準として普通に確認された。また、熊本県 RDB で準絶滅危惧種として掲載されており、同県の 1 ヶ所で少数が採集された。

ハゴロモハゼ *Myersina macrostoma* Herre, 1934

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、鹿児島県 RDB では分布特性上重要種として掲載されており、同県の 1 ヶ所で少数が採集された。

ヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen* (Bleeker, 1860)

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、東京都 RDB で C に指定されている。東京都では 1 ヶ所から採集され、個体数の基準として普通に確認された。

ミナミヒメハゼ *Papillogobius reichei* (Bleeker, 1853)

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、鹿児島県 RDB では分布特性上重要種として掲載されており、同県の 1 ヶ所で少数が採集された。

アベハゼ *Mugilogobius abei* (Jordan et Snyder, 1901)

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、東京都 RDB で C に指定されている。東京都では 1 ヶ所から採集され、個体数の基準として普通に確認された。

イズミハゼ *Mugilogobius* sp. 1

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、鹿児島県 RDB では分布特性上重要種として掲載されており、同県の 1 ヶ所で少数が採集された。

キララハゼ *Acentrogobius viridipunctatus* (Valenciennes, 1837)

環境省 RDB で絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、沖縄県 RDB で絶滅危惧 II 類に指定され、沖縄島の 1 ヶ所から、個体数の基準として普通に確認された。

ゴマハゼ *Pandaka* sp. A

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、和歌山県 RDB では学術的重要種として掲載されており、同県の 1 ヶ所より確認された。

シロチチブ *Tridentiger nudicervicus* Tomiyama, 1934

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。今回の調査で確認された都道府県の RDB では、福岡県 RDB で準絶滅危惧種、熊本県 RDB で準絶滅危惧種として指定されている。福岡県では 3 ヶ所、熊本県では 1 ヶ所から採集され、いずれも少数が確認された。

チチブ *Tridentiger obscurus* (Temminck et Schlegel, 1845)

環境省 RDB および水産庁 DB では種としての指定はない。ただし、大阪府 RDB では情報不足種として指定され、同府の 1 ヶ所より確認された。

3) 移入種

今回、汽水・海水魚類で外来移入種は確認されなかった。淡水魚であるオオクチバス *Micropterus salmoides* (Lacepède, 1802) が和歌山県田辺湾（内之浦）から記録されたが、これは近傍の淡水域か

ら事故的に流下したものと思われる。

4) 日本固有種

青森県，岩手県，宮城県，千葉県，和歌山県，兵庫県，熊本県，佐賀県，宮崎県で確認されたチクゼンハゼ *Gymnogobius uchidai* (Takagi, 1957)および，和歌山県，高知県，宮崎県されたクボハゼ *Gymnogobius scrobiculatus* (Takagi, 1957)は日本固有種である。

5) 人間の生活や営みの中で利用されている種

ウナギ *Anguilla japonica* Temminck et Schlegel, 1846

本邦では北海道から琉球列島にかけて分布する。本種の成魚は淡水域に生息し，産卵を行うために降海する。ふ化・成長した個体はシラスウナギとなって日本沿岸に接岸して再び内陸部の淡水域に遡上する。また最近，淡水域に溯ることなく，一生沿岸の海水域に留まって生活するウナギの存在も知られている。このように干潟は本種の生活史において干潟は重要な生息場所である。本調査では和歌山県紀ノ川より記録された。最近，接岸するシラスウナギの数が激減しており，天然の水産資源減少としてその動向が危惧される。

シラウオ *Salangichthys microdon* Bleeker, 1860

本邦では北海道から岡山県・熊本県に分布する。本種は汽水湖，大河川の河口部やそれに続く河川下流部等に生息する。大量に捕獲される地域では重要な水産資源である。本調査では北海道の2ヶ所から記録された。

サケ *Oncorhynchus keta* (Walbaum, 1792)

本邦では北海道から本州にかけての日本海・オホーツク海・北太平洋とその沿岸に分布する。本種は産卵のために河川を遡上し，ふ化した個体は海域に降下して海中において成長した後，再び河川に産卵遡上のため接岸する。その点で干潟の環境状態は本種にとって重要である。本調査では北海道天塩川（河口域）で記録された。

クロダイ *Acanthopagrus schlegelii* (Bleeker, 1854)

本邦では北海道から九州にかけて分布する。本種は沿岸海域に生息し，時には淡水域にも出現するが，発育段階が仔魚から稚魚に移行して着底する時期には干潟等の汽水域を利用する。この点で干潟は本種の生活史において欠くべからざる生息場所である。本調査では和歌山県田辺湾（内之浦）から記録された。

キュウセン *Halichoeres poecilopterus* (Temminck et schlegel, 1845)

本邦では佐渡・函館以南から九州にかけて分布する。本種は沿岸海域に生息する。特に瀬戸内地方において水産的価値がある。本調査では山口県笠戸島・小深浦から記録された。

ムツゴロウ *Boleophthalmus pectinirostris* (Linnaeus, 1758)

本邦では有明海から八代海沿岸の泥底干潟に分布し、同地方で水産資源として重要である。本種の生息域の中心的存在のひとつであった長崎県諫早湾は干拓工事で消失し、その他の生息場所はその貴重性が増している。本調査では福岡県の3ヶ所、佐賀県の2ヶ所、熊本県の3ヶ所から記録された。

ワラスボ *Odontamblyopus lacepedii* (Temminck et Schlegel, 1845)

本邦では有明海から八代海沿岸の泥底干潟に分布し、同地方で水産資源として重要である。本種の生息域の中心的存在のひとつであった長崎県諫早湾は干拓工事で消失し、その他の生息場所はその貴重性が増している。本調査では佐賀県の1ヶ所、熊本県の1ヶ所から記録された。

マハゼ *Acanthogobius flavimanus* (Temminck et Schlegel, 1845)

本邦では北海道から種子島にかけて分布する。本種を専門に漁獲する漁業はほとんどないものの、宮城県周辺や関東地方では正月には欠かせぬ食材である。また、各地で天ぷらの材料として賞味される。本種のおもな生息場所は干潟とその周辺で、特に着底期にはこの場所を集中しており、本種にとって干潟は極めて重要な生息場所である。本調査では岩手県・宮城県陸中リアス海岸・北上川河口、和歌山県湯川ゆかし潟・紀ノ川・和歌川河口・有田川・田辺湾（内之浦）、大阪府男里川、兵庫県千種川、福岡県長井浜、宮崎県熊ノ江、愛媛県僧都川から記録された。

ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis* Katsuyama, Arai et Nakamura, 1972

本邦では北海道から九州にかけて分布する。茨城県霞ヶ浦や高知県四万十川では本種を対象とした漁法があり、佃煮や玉子とじの材料として利用される。本調査では宮城県北上川河口、和歌山県湯川ゆかし潟から記録された。

6) 分類学的に詳しい検討が必要な種

今回の一連の調査で確認された魚類において、本報告書の中で種小名に sp が付されている種類は、採集個体が稚魚のために種の特定が不可能だった種類、および分類学的にはその分類群が以前より認知されていて現在種名確定のための検討が行われている種類であり、これまでに分類学的に認知されていないような種類は出現しなかった。

参考文献

- 環境省自然環境局野生生物課（編），2003．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-4 汽水・淡水魚類．（財）自然環境研究センター，東京．230pp.
- 向井貴彦・鈴木寿之，2005．沖縄島で採集されたマングローブゴマハゼ（新称）．日本生物地理学会会報，60：69-74.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課，2001．ながさきの希少な野生動植物-レッドデータブック 2001-．長崎県県民生活環境部自然保護課．
- 中坊徹次編，2000．日本産魚類検索 全種の同定 第二版．全 2 巻．東海大学出版会，東京，Lvi+vii+1748pp.
- 日本水産資源保護協会，1998．日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編）．日本水産資源保護協会，東京，iv+xvi+437pp.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾，2004．決定版 日本のハゼ．瀬能 宏（監）．平凡社，東京，536pp.
- 多紀保彦・奥谷喬司・武田正倫・近江 卓（監修），1999．食材魚貝大百科．全 4 巻．平凡社，東京，180，181，181，182pp.
- 吉郷英範，2001．松永湾河口域で採集された広島県未記録の魚類 3 種と“スジハゼ”3 種について．比婆科学，(201)：1-15.

第6章 結果の考察と今後の課題

飯島 明子・和田 恵次

今回の調査では、北海道から南西諸島までの全国 155 ヶ所の干潟で 14 動物門 1667 種もの底生動物（魚類を含む）が記録された。これまでも干潟の生物相を調べた研究は数多いが、これほど多くの調査地における全国規模での調査は、わが国では初めての試みである。

この調査の詳しい解析、および今後の調査のためには、調査手法の限界を正しく把握する必要がある。本章では先に調査手法及び同定体制等に関する問題点を述べた後、結果の考察及び今後の課題に触れる。

調査手法の問題点

今回の調査では、全国 145 ヶ所（当初の予定）の干潟の底生動物の分布状況を 3 年間で調べるため、篩を用いた定量的な方法ではなく、より簡便な半定量的調査方法を採用した。そのため、通常は篩を用いて採集する小型の生物、特に微小貝や小型多毛類、端脚類、小型等脚類などの採集効率は、調査責任者によって大きく異なることとなった。従ってこれらの小型生物については、今回の調査結果だけによる全国的な比較検討はやや困難だと思われる。また調査開始当初は、付着生物は調査対象に含めないことになっていたが、調査者によっては護岸やカキ礁の付着生物も記録し、別の調査者は全く記録しないなど、調査者間のばらつきが大きかった。このため付着生物に関しては、今回の調査結果の一部では相互に比較可能であるが、全国的に比較検討することはできない。

今回干潟部分の調査では、調査者 2 名が 10 分間底質を掘り返して採集するという手法をとったため、調査者によって掘り返し回数は大きく異なってしまった。また掘り返しの深さは 20 cm であり、大型の多毛類（例えばタマシキゴカイやスゴカイイソメ、ツバサゴカイなど）や深く巣穴を掘る甲殻類（例えばハサミシャコエビ、アナジャコ、ニホンスナモグリ、スナガニなど）は採集が困難であり、実際に生息していた密度に比して採集できた個体数は少なかったと推測される。その一方で今回の手法は、定量採取により底質を掘り取って篩うよりも上記以外の大型生物（例えば二枚貝類）の採集効率は良く、底質表面の巣穴・棲管・糞塊による生息状況の把握という点でも優れているという利点があった（飯島, 2004）。今後類似の調査を行う時には、今回の調査手法の長所と短所を検討し、目的に応じた使い分けをすることが望ましい。

同定体制に関する問題点

今回の調査では、23 名の分類専門家が標本の同定に当たった。当初の予定では調査責任者が現場で同定できた種以外はすべて同定責任者に送付することになっていたが、フジツボ類では現場での

同定結果に分類担当者から疑問が寄せられた。また、調査責任者が 1 種であると判断して 1 ポイントにつき 1 個体しか同定責任者に送付しなかった生物に、同所的に出現する複数種が含まれていたことが、後から判明した場合もあった（例えば多毛類チロリ *Glycera nicobarica* と和名のない *Glycera macintoshi*, 等脚類フナムシ *Ligia exotica* とキタフナムシ *Ligia cinerascens* など）。今後類似の調査を行う場合は、調査者各自が当該分類群の同定に習熟しているのでなければ、「疑わしきは分類担当者に任せる」という原則で同定依頼するよう、注意が必要である。

2002 年 4 月から 2004 年 9 月にかけて得られた標本の同定結果がすべて揃ったのは 2006 年 5 月であった。最も同定に時間と労力のかかる分類群は、連続切片を作成して光学顕微鏡下で検鏡する必要のある刺胞動物門・扁形動物門・紐形動物門であった。また種数が多く未記載種の多い多毛類も、同定に長時間必要だった。調査開始当初の予想を大きく超える 1667 種もの生物が出現し、同定に時間がかかったこと自体はやむを得ない。しかし少ない専門家に大量の標本が集中し、分類担当者に大きな負担をかける結果となってしまったことは、反省すべき点である。今後このような調査をするためには、ある程度の分類ができる人材の育成や、標本の簡単な仕分けを行う人員の雇用も併せて考える必要がある。

標本の固定方法・保存方法は、分類群ごとに全く異なる。しかし 1 回の調査で多くの分類群が出現したため、調査現場では分類群ごとに固定方法を変えることが困難だった。特に身体の柔らかい刺胞動物門・扁形動物門・紐形動物門では、固定方法が適していなかったため標本が破損するなどして詳しい同定ができなかった標本が多数出現した。今回のような調査における標本の固定・保存方法は、今後の重要な検討課題である。

同定結果を受けて総出現種リストを作成するまでの情報の流れは、各分類担当者から同定責任者へ同定結果が送られ、同定責任者から調査責任者へ同定結果が伝えられ、調査責任者がその同定結果を個票に反映させ、個票を集計者に送るといったものだった。このため総出現種リストは個票から作成しなければならず、多くの時間と労力が費やされた。同定結果等の整理と情報の流れについては、今後類似の調査をする場合、時間と労力の軽減、及びミスの累積を最小限に抑えるために、最初から結果のまとめ方を見越して各分類担当者に出現種リストの整理を依頼しておく等の工夫をすることが望ましい。

分類学的検討の必要性

今回の調査で出現した種の中には、未記載種や分類学的再検討をすべき種が多数含まれており、今後研究を進める必要がある。特に、海綿動物門・刺胞動物門・扁形動物門・紐形動物門・環形動物門・節足動物門軟甲綱端脚目・等脚目では、分類学的検討が必要な種が多く出現し、今後の詳細な研究が待たれる。

干潟底生動物の全国的な分布状況

全調査地域の中で北海道・九州・沖縄の3地域は、狭義の干潟生物（第4章参照）において他の地域に出現しない特有の生物が多く見られたという点で特筆できる。北海道は親潮を含む亜寒帯循環流の影響が強く、千島列島等との共通種が多数見られた。九州は、過去における大陸との接続と分断の歴史により、有明海を中心として大陸性の遺存種が多く生息していた。琉球列島は、日本列島の中では亜熱帯循環流の最も上流に当たるため南方系の種が多く生息していた。

一方で、沖縄・九州からさらに北の地域まで広く分布する種も多数出現した。亜熱帯循環流（黒潮）は、琉球列島の北側を東進し、トカラ海峡を経て九州・四国沖・紀伊半島沖を通り、房総半島から東へ流去するが、その影響は仙台湾近辺まで及ぶ。また黒潮から分岐する対馬暖流は、日本海を北上し、津軽海峡を通過して太平洋岸へ出、道東と三陸海岸にも影響を及ぼす。沖縄及び九州から道東に至るまでの間に共通する底生動物が多いことは、幼生の移送経路としての黒潮・対馬暖流の重要性を示すものである。

南北に長い日本列島では、地域により気温・沿岸水温の差が著しく、夏の高温や冬の低温、あるいは年間を通しての積算温度の差などが、干潟底生動物の分布北限・南限を決定する大きな要因と考えられる。同時に、浮遊幼生期の有無やその長さにより、海流による幼生の移送可能な距離が異なることも、各種の分布域を規定しているかもしれない。黒潮の流軸における最高速度を毎秒2 mとすると、種子島から房総半島までは2週間程度で到達可能である。従って数週間の浮遊幼生期を持つ種の場合、九州で生まれた幼生が仙台湾まで着くこともあり得るが、2、3日の短い浮遊幼生期しか持たない種の場合は、途中でいくつもの中継地点の個体群を経由しつつ世代を重ねなければ、東北や北海道までは分布することができないはずである。そのため、特に浮遊期間の短い広域分布種にとって、分布域南端から北端までの間の中継地の干潟の存在は、非常に重要な意味を持つと考えられる（風呂田, 2000; Kojima et al., 2005）。

今回、沖縄・九州から北にかけて広域に出現した種の中で、多くの種において、最南端の出現地域から最北端の出現地域までの間に、全く出現が見られなかった広い空白地域が存在した（例えばイボウミニナ、オカミミガイ、ハマグリ、ユムシ、ムロミスナウミナナフシ、トリウミアカイソモドキなど）。これは上記の中継地点の欠如という面で、憂慮すべき事態である。黒潮・対馬暖流の上流地域で個体群が衰退すると、下流の地域個体群は上流域からの幼生供給を受けられなくなると考えられる。海流による他地域からの幼生供給によって成立している地域個体群であれば、新規加入が途絶えることにより地域的絶滅の危機にさらされるだろう。地域個体群のみで再生産が可能な種であれば、即座に地域的絶滅の危機にさらされることはないが、洪水等により地域個体群に打撃があった場合、他地域からの幼生供給による個体群の回復は望めず、長期的に見れば危機的状況にあると言える。また他地域からの幼生供給がないために、個体群内の遺伝的多様性が減少することも懸念される。

塩性湿地・マングローブ湿地及び干潟底生動物の危機と今後の課題

今回の調査結果により、塩性湿地・マングローブ湿地の底生動物の危機的状況が全国的に示された。塩性湿地自体が埋め立てや護岸によって消失している場所が多い他、河川からの土砂供給の減少によって崩壊・退縮を続ける塩性湿地も存在するなど、生息場所の減少と質の低下が底生動物の危機を招いていると考えられる。

干潟についても過去のデータとの比較により、かつてはいたが現在は見られない種が相当数にのぼることが判明した。今回の調査結果のまとめでは、これらの種について詳しい解析を行うことはできなかったが、今後詳細な解析が必要とされる。また、1ヶ所の調査地につき1回のみ調査なので、出現しなかった種が調査の年に偶然少なかったのか、あるいは地域的に絶滅したのかは、今回の調査だけでは断定できない。これらの詳細について確かめるためには、今後の継続的なモニタリング調査が必要である。

干潟および塩性湿地の生物多様性の保全に向けて必要なことは、まずこれ以上の埋立・護岸を避け、仮に埋立・護岸を行う場合においても事前に適切なアセスメントを実施し、生物多様性保全の観点から十分な配慮を行うことである。そのためには、重要湿地500はもとより、現存する干潟や塩性湿地・マングローブ湿地の重要性を国、自治体、事業者を含めさまざまな関係者に繰り返し周知徹底するほか、特に生物多様性保全上重要な地域については埋立・護岸に対する法規制の強化又は導入について検討することも必要であろう。

今回の調査終了後にも、調査対象となった干潟で埋立・護岸工事が行われたために干潟の大半が消失し、調査時点で生息していた底生動物の生存が危ぶまれる事例も生じている。また、今回の調査では、埋立や護岸だけではなく、河川上流からの土砂供給が絶たれたことにより、干潟や塩性湿地・マングローブ湿地が退縮・消失した例も確認することができた。一方で、沖縄では農地開発による赤土流入によって、干潟の泥質化やサンゴ礁のサンゴの死滅など沿岸生態系に悪影響が生じている。河川からの土砂流入の回復、あるいは赤土流出防止に向けてどのような取り組みが可能か、河川生態学・環境工学・砂防学などとの学際的連携により、今後検討をさらに進めることも必要である。

現存する干潟を守ることが最重要課題であるが、同時に、消失した干潟を回復する試みも必要である。特に広域分布種が出現しなかった空白地域において干潟や塩性湿地を回復させれば、幼生供給の中継地点としての意義が大きいと思われる。ただし人工干潟に関しては過去に失敗例も多く、造成するのであれば工法と造成場所については細心の検討が必要である。特に過去に干潟が形成されなかった海岸や埋立地先端に造成した人工干潟では、急に深くなる海底へ底質が流れ落ちる・潮流によって底質が流失するなどの問題が頻繁に起き、毎年砂を供給しなければならず、生物多様性も極めて低いという失敗例が多い。このような場所の場合は、むしろ埋立地を干潟に戻すことを積極的に検討すべきである。ただし人工潟湖では、底質の流失も起きず生物多様性も周囲の自然干潟

とほぼ同様になるなどの例も見られるため、今後事例研究を重ね、適用できる場所に造成することも検討すべきであろう。

干潟の機能と生物多様性に関する地元住民への普及教育活動も、今後の重要な課題の1つである。干潟の観察会や清掃活動など、地元住民による長い活動の歴史を持つ地域も存在するが、干潟生態系の機能や生物多様性保全の意義については、まだ一般に広く浸透しているとはいえない。一般向け書籍・新聞・テレビ・インターネット等あらゆるメディアを用いて、「自然保護」に特に関心のない人々にも浸透するよう、広く干潟生態系の機能や生物多様性についての普及活動を行う必要がある。また、干潟生物観察指導の専門家を育成し、そうした専門家が収入を得られる仕組みを作っていくことが、より良質の普及教育活動に繋がり、地域住民による自覚的な干潟環境の保全に繋がるのではないだろうか。

参考文献

- 風呂田利夫, 2000. 内湾の貝類, 絶滅と保全 ～ 東京湾ウミナガ類の衰退からの考察. 月刊海洋, 号外, 20: 74-82.
- 飯島明子・木下今日子・中山聖子・安達宏之・風呂田利夫, 2004. 三番瀬の干潟におけるマクロベントス分布調査方法の比較. 千葉生物誌, 53: 21-27
- Kojima, S., S. Kamimura, A. Iijima, T. Kimura, K. Mori, I. Hayashi and T. Furota, 2005. Phylogeography of the endangered tideland snail *Batillaria zonalis* in the Japanese and Ryukyu Islands. Ecol. Res., 20: 686-694.

卷末別表1 出現種総リスト

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-------|--------------|----------|---------------|---------------|-----------------|---------------------------------|---|
| 1 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 硬海綿目 | Hadromerida | センコウカイメン科 | Clonidae | <i>Clona inconstans</i> | <i>Clona inconstans</i> (Dendy, 1887) |
| 2 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 硬海綿目 | Hadromerida | センコウカイメン科 | Clonidae | <i>Clona</i> 属と思われる1種 | <i>Clona</i> (?) sp. |
| 3 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 磯海綿目 | Halichondrida | イソカイメン科 | Halichondridae | クロイソカイメン | <i>Halichondria okadae</i> (Kadota, 1922) |
| 4 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 磯海綿目 | Halichondrida | イソカイメン科 | Halichondridae | ダイダイイソカイメン | <i>Halichondria japonica</i> Sasaki, 1929 |
| 5 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 磯海綿目 | Halichondrida | イソカイメン科 | Halichondridae | ナミノイソカイメン | <i>Halichondria panicea</i> (Pallas, 1766) |
| 6 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 磯海綿目 | Halichondrida | イソカイメン科 | Halichondridae | コエダカイメン | <i>Halichondria (Pellina) stiens</i> (Schmidt, 1870) |
| 7 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 磯海綿目 | Halichondrida | イソカイメン科 | Halichondridae | イソカイメン属の1種 | <i>Halichondria</i> sp. cf. <i>osshoro</i> Tanita, 1961 |
| 8 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 単骨海綿目 | Haplosclerida | ザラカイメン科 | Callyspongiidae | <i>Callyspongia</i> 属の1種 (1) | <i>Callyspongia</i> sp. 1 |
| 9 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 単骨海綿目 | Haplosclerida | ザラカイメン科 | Callyspongiidae | <i>Callyspongia</i> 属の1種 (2) | <i>Callyspongia</i> sp. 2 |
| 10 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 単骨海綿目 | Haplosclerida | カワナシカイメン科 | Halicionidae | ムラサキカイメン | <i>Haliclona (Reniera) cinerea</i> (Grant, 1826) |
| 11 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 単骨海綿目 | Haplosclerida | カワナシカイメン科 | Halicionidae | <i>Haliclona</i> 属の1種 | <i>Haliclona</i> sp. |
| 12 | 海綿動物門 | Porifera | 尋常海綿綱 | Demospongiae | 単骨海綿目 | Haplosclerida | アミカイメン科 | Niphataidae | <i>Microxina</i> 属と思われる1種 | <i>Microxina</i> (?) sp. del? |
| 13 | 海綿動物門 | Porifera | - | - | - | - | - | - | 海綿動物門の1種または複数種 | Porifera sp. or spp. |
| 14 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 鉢虫綱 | Scyphozoa | 旗口クラゲ目 | Semaeostomeae | ミズクラゲ科 | Ulmaridae | ミズクラゲ | <i>Aurelia aurita</i> (Linnaeus, 1758) |
| 15 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | ハナギンチャク目 | Ceriantharia | ハナギンチャク科 | Cerianthidae | ハナギンチャク科の1種 | Cerianthidae sp. |
| 16 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | ハナギンチャク目 | Ceriantharia | ハナギンチャク科 | Cerianthidae | ムラサキハナギンチャク | <i>Cerianthus filiformis</i> Carlgren, 1912 |
| 17 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イシサンゴ目 | Scleractina | キクメイシ科 | Faviidae | キクメイシモドキ | <i>Oulastrea crispata</i> (Lamarck, 1816) |
| 18 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イシサンゴ目 | Scleractina | ハマサンゴ科 | Poritidae | <i>Porites</i> 属の1種 | <i>Porites</i> sp. |
| 19 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | オヨギイソギンチャク科 | Boloceroideidae | オヨギイソギンチャク | <i>Bolocerooides mcmurrici</i> (Kwietniewski, 1897) |
| 20 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | タテジマイソギンチャク科 | Diadumenidae | チゲレイソギンチャク | <i>Aiptasiomorpha minuta</i> (Verrill, 1866) |
| 21 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | タテジマイソギンチャク科 | Diadumenidae | タテジマイソギンチャク | <i>Haliplanella lineata</i> (Verrill, 1869) |
| 22 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | セイトカイソギンチャク科 | Aiptasiidae | <i>Aiptasia</i> 属と思われる1種 | <i>Aiptasia</i> ? sp. |
| 23 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | セイトカイソギンチャク科 | Aiptasiidae | <i>Aiptasiogeton</i> 属の1種 | <i>Aiptasiogeton</i> sp. |
| 24 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ナグナワイソギンチャク科 | Sagartiidae | <i>Paraipatasia</i> 属の1種 | <i>Paraipatasia</i> sp. |
| 25 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | マミレイソギンチャク科 | Isophelliidae | <i>Epiphellia australis</i> 近似種 | <i>Epiphellia</i> aff. <i>australis</i> Carlgren, 1950 |
| 26 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | マミレイソギンチャク科 | Isophelliidae | <i>Epiphellia</i> 属の1種 (O) | <i>Epiphellia</i> sp. O |
| 27 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | マミレイソギンチャク科 | Isophelliidae | <i>Epiphellia</i> 属の1種 (R) | <i>Epiphellia</i> sp. R |
| 28 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | カブネオブシス科 | Capneopsidae | <i>Andwakia</i> 属の1種 | <i>Andwakia</i> sp. |
| 29 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ハリアクチス科 | Haliactiidae | ホウザワイソギンチャク | <i>Synandwakia hozawai</i> (Uchida, 1932) |
| 30 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ハリアクチス科 | Haliactiidae | <i>Synandwakia</i> 属の1種 | <i>Synandwakia</i> sp. |
| 31 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ハリアクチス科 | Haliactiidae | <i>Halcampactis</i> 近縁属の1種 | Gen. near <i>Halcampactis</i> sp. |
| 32 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ハリアクチス科 | Haliactiidae | <i>Stephensonactis</i> 属の1種 | <i>Stephensonactis</i> sp. |
| 33 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ハリアクチス科 | Haliactiidae | ハリアクチス科の1種 | Haliactidae sp. |
| 34 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | セトモノイソギンチャク科 | Actinostolidae | マキガイイソギンチャク | <i>Paranthus sociatus</i> Uchida, 1940 |
| 35 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | クビワナガイソギンチャク科 | Halcampidae | <i>Halcampa</i> 近似属の1種 | Gen. aff. <i>Halcampa</i> sp. |
| 36 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | <i>Edwardsia</i> 属の1種 | <i>Edwardsia</i> sp. |
| 37 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | ミナミムシモドキギンチャク | <i>Edwardsianthus gilbertensis</i> (Carlgren, 1931) |
| 38 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | ムシモドキギンチャク | <i>Edwardsioides japonica</i> (Carlgren, 1931) |
| 39 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (K) | <i>Edwardsioides</i> sp. K |
| 40 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (M) | <i>Edwardsioides</i> sp. M |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|-----------------|-----|-------------|----------|--------------|--------------|-----------------|------------------------------------|---|
| 41 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (NO) | <i>Edwardsioides</i> sp. NO |
| 42 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (aff. Y) | <i>Edwardsioides</i> sp. aff. Y |
| 43 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (nov.?) | <i>Edwardsioides</i> sp. |
| 44 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | ホソイソギンチャク近似種 | <i>Metedwardsia</i> aff. <i>akkeshi</i> (Uchida, 1932) |
| 45 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | <i>Nematostella</i> 属と思われる1種 | <i>Nematostella</i> ? sp. |
| 46 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ムシモドキギンチャク科 | Edwardsiidae | ムシモドキギンチャク科の1種 | Edwardsiidae sp. |
| 47 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | ヨロイイソギンチャク | <i>Anthopleura uchidai</i> England, 1992 |
| 48 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | クロガネイソギンチャク | <i>Anthopleura kurogane</i> Uchida et Muramatsu, 1958 |
| 49 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | クロガネイソギンチャク近似種 | <i>Anthopleura</i> aff. <i>kurogane</i> Uchida et Muramatsu, 1958 |
| 50 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | <i>Anthopleura</i> 属と思われる1種 | <i>Anthopleura</i> ? sp. |
| 51 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | <i>Anthostella</i> 属の1種 | <i>Anthostella</i> sp. |
| 52 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | スナイソギンチャク | <i>Dofleinia armata</i> Wassilieff, 1908 |
| 53 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | <i>Entacmaea</i> 属と思われる1種 | <i>Entacmaea</i> ? sp. |
| 54 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | イシワケイソギンチャク | <i>Gyrcactis japonica</i> (Verrill, 1899) |
| 55 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | イシワケイソギンチャク近縁種 | <i>Gyrcactis</i> aff. <i>japonica</i> (Verrill, 1899) |
| 56 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | ハナワケイソギンチャク | <i>Neocondylactis</i> sp. |
| 57 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | ニンジンイソギンチャク | <i>Paracondylactis hertwigi</i> (Wassilieff, 1908) |
| 58 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | <i>Paranemonia</i> 属の1種 (2) | <i>Paranemonia</i> sp. 2 |
| 59 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | <i>Paranemonia</i> 近縁属の1種 | Gen. near <i>Paranemonia</i> sp. |
| 60 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ウメボシイソギンチャク科 | Actiniidae | <i>Paranemonia</i> 近縁属の1種 (2) | Gen. near <i>Paranemonia</i> sp. 2 |
| 61 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ナガイソギンチャク科 | Halcampoididae | <i>Acthelmis</i> 近似属の1種 (J) | Gen. aff. <i>Acthelmis</i> sp. J |
| 62 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ナガイソギンチャク科 | Halcampoididae | <i>Acthelmis</i> 近似属の1種 (B) | Gen. aff. <i>Acthelmis</i> sp. B |
| 63 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ナガイソギンチャク科 | Halcampoididae | <i>Calamactinia</i> 近縁属の1種 | Gen. near <i>Calamactinia</i> sp. |
| 64 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ナガイソギンチャク科 | Halcampoididae | <i>Calamactis</i> 近縁属の1種 (B) | Gen. near <i>Calamactis</i> sp. B |
| 65 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | ナガイソギンチャク科 | Halcampoididae | <i>Halcampoides</i> 近縁属の1種 | Gen. near <i>Halcampoides</i> sp. |
| 66 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | コンボウイソギンチャク科 | Haloclavidae | <i>Harenactis</i> 属と思われる1種 | <i>Harenactis</i> ? sp. |
| 67 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | - | - | イソギンチャク目の1種 | Actiniaria sp. |
| 68 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | - | - | イソギンチャク目の1種 (A) | Actiniaria sp. A |
| 69 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | - | - | イソギンチャク目の1種 (B) | Actiniaria sp. B |
| 70 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | イソギンチャク目 | Actiniaria | - | - | イソギンチャク目の1種または複数種 | Actiniaria sp. or spp. |
| 71 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | スナギンチャク目 | Zoantharia | - | - | スナギンチャク目の1種 | Zoantharia sp. |
| 72 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | ウミエラ目 | Pennatulacea | ウミサボテン科 | Veretillidae | ウミサボテン | <i>Cavernularia obesa</i> Milne-Edwards et Haime, 1850 |
| 73 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | ウミエラ目 | Pennatulacea | ヤナギウミエラ科 | Virgulariidae | ホソウミエラと思われる1種 | <i>Scytalum martensii</i> Kolliker, 1870 |
| 74 | 刺胞動物門 | Cnidaria | 花虫綱 | Anthozoa | ウミエラ目 | Pennatulacea | ヤナギウミエラ科 | Virgulariidae | ヤナギウミエラと思われる1種 | <i>Virgularia gustaviana</i> (Herklots, 1863) |
| 75 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | ヤワヒラムシ科 | Leptoplanidae | チョウセンウスヒラムシ | <i>Notoplana koreana</i> Kato, 1937 |
| 76 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | ヤワヒラムシ科 | Leptoplanidae | <i>Notoplana</i> 属の1種 | <i>Notoplana</i> sp. |
| 77 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | ヤワヒラムシ科 | Leptoplanidae | <i>Diplandros</i> 属の1種 | <i>Diplandros</i> sp. |
| 78 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | クリプトセリス科 | Cryptocelididae | <i>Cryptocelis amakusaensis</i> | <i>Cryptocelis amakusaensis</i> Kato, 1936 |
| 79 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | クリプトセリス科 | Cryptocelididae | <i>Cryptocelis</i> 属の1種 | <i>Cryptocelis</i> sp. |
| 80 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | クリプトセリス科 | Cryptocelididae | クリプトセリス科の1種 | Cryptocelididae sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|-----------------|-----|-------------|-------|----------------|------------|-------------------|-----------------------------------|--|
| 81 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | カリオヒラムシ科 | Callioplanidae | <i>Pseudostylochus maculatus</i> | <i>Pseudostylochus maculatus</i> Kato, 1938 |
| 82 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | カリオヒラムシ科 | Callioplanidae | <i>Pseudostylochus meridialis</i> | <i>Pseudostylochus meridialis</i> Kato, 1938 |
| 83 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | カリオヒラムシ科 | Callioplanidae | <i>Pseudostylochus stimpsoni</i> | <i>Pseudostylochus stimpsoni</i> Kato, 1937 |
| 84 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | カリオヒラムシ科 | Callioplanidae | <i>Pseudostylochus</i> 属の1種 | <i>Pseudostylochus</i> sp. |
| 85 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | カリオヒラムシ科 | Callioplanidae | カリオヒラムシ科の1種 | Callioplanidae sp. |
| 86 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | スチロヒラムシ科 | Stylochidae | <i>Leptostylochus</i> 属の1種 | <i>Leptostylochus</i> sp. |
| 87 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | スチロヒラムシ科 | Stylochidae | <i>Stylochus aomori</i> | <i>Stylochus aomori</i> Kato, 1937 |
| 88 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | スチロヒラムシ科 | Stylochidae | <i>Stylochus orientalis</i> | <i>Stylochus orientalis</i> Bock, 1913 |
| 89 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | スチロヒラムシ科 | Stylochidae | <i>Stylochus uniporus</i> | <i>Stylochus uniporus</i> Kato, 1944 |
| 90 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | スチロヒラムシ科 | Stylochidae | <i>Stylochus</i> 属の1種 | <i>Stylochus</i> sp. |
| 91 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | スチロヒラムシ科 | Stylochidae | スチロヒラムシ科の1種 | Stylochidae sp. |
| 92 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | ホソヒラムシ科 | Prosthiostomidae | ホソヒラムシ科の1種 | Prosthiostomidae sp. |
| 93 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | - | - | ステイロクス上科の1種 | Stylochoidea sp. |
| 94 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | - | - | ツノヒラムシ上科の1種 | Planoceroidea sp. |
| 95 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | - | - | 無吸盤亜目の1種 | Acotylea sp. |
| 96 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | - | - | 多岐腸目の1種 (A) | Polycladida sp. A |
| 97 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | - | - | 多岐腸目の1種 (B) | Polycladida sp. B |
| 98 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 多岐腸目 | Polycladida | - | - | 多岐腸目の1種 | Polycladida sp. |
| 99 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | - | - | - | - | 渦虫綱の1種 | Turbellaria sp. |
| 100 | 扁形動物門 | Platyhelminthes | 渦虫綱 | Turbellaria | 順列目 | Seriata | - | Uteriporidae | <i>Paucumara</i> 属の1種 | <i>Paucumara</i> sp. |
| 101 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 原始紐虫目 | Archinemertea | ケファロツリックス科 | Cephalothrichidae | ケファロツリックス科の1種 | Cephalothrichidae sp. |
| 102 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 古紐虫目 | Palaeonemertea | クリゲヒモムシ科 | Tubulanidae | ケンサキヒモムシ | <i>Carineta uchidai</i> Iwata, 1952 |
| 103 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 古紐虫目 | Palaeonemertea | クリゲヒモムシ科 | Tubulanidae | クリゲヒモムシ科の1種 (1) | Tubulanidae sp. 1 |
| 104 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 古紐虫目 | Palaeonemertea | - | - | 古紐虫目の1種 | Palaeonemertea sp. |
| 105 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 古紐虫目 | Palaeonemertea | - | - | 古紐虫目の1種 (A) | Palaeonemertea sp. A |
| 106 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 古紐虫目 | Palaeonemertea | - | - | 古紐虫目の1種 (B) | Palaeonemertea sp. B |
| 107 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 古紐虫目 | Palaeonemertea | - | - | 古紐虫目と思われる1種 | Palaeonemertea? sp. |
| 108 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | リネウス科 | Lineidae | <i>Micrura</i> 属と思われる1種 (1) | <i>Micrura</i> ? sp. 1 |
| 109 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | リネウス科 | Lineidae | <i>Lineopsella</i> 属の1種 | <i>Lineopsella</i> sp. |
| 110 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | リネウス科 | Lineidae | リネウス科の1種 (異紐虫目の1種 B) | Lineidae sp. (Heteronemertea sp. B) |
| 111 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | リネウス科 | Lineidae | リネウス科の1種 (1) | Lineidae sp. 1 |
| 112 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | リネウス科 | Lineidae | リネウス科の1種 (2) | Lineidae sp. 2 |
| 113 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | リネウス科 | Lineidae | リネウス科の1種 (3) | Lineidae sp. 3 |
| 114 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | バセオディスクス科 | Baseodiscidae | クロスジヒモムシ | <i>Baseodiscus quinquelineatus</i> (Quoy et Gaimard, 1833) |
| 115 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | オロチヒモムシ科 | Cerebratulidae | ナミヒモムシ | <i>Cerebratulus communis</i> Takakura, 1898 |
| 116 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | オロチヒモムシ科 | Cerebratulidae | ナミヒモムシと思われる1種 | <i>Cerebratulus communis</i> Takakura, 1898? |
| 117 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | オロチヒモムシ科 | Cerebratulidae | オロチヒモムシ | <i>Cerebratulus marginatus</i> Renier, 1804 |
| 118 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | オロチヒモムシ科 | Cerebratulidae | <i>Cerebratulus</i> 属と思われる1種 (1) | <i>Cerebratulus</i> ? sp. 1 |
| 119 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | オロチヒモムシ科 | Cerebratulidae | <i>Cerebratulus</i> 属と思われる1種 (2) | <i>Cerebratulus</i> ? sp. 2 |
| 120 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | オロチヒモムシ科 | Cerebratulidae | オロチヒモムシ科の1種 | Cerebratulidae sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|----------------|---------|-------------------|-----------|-------------------|---------------------|--|
| 121 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | - | - | 異紐虫目の1種 (A) | Heteronemertea sp. A |
| 122 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | - | - | 異紐虫目の1種 | Heteronemertea sp. |
| 123 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | 異紐虫目 | Heteronemertea | - | - | 異紐虫目の1種または複数種 | Heteronemertea sp. or spp. |
| 124 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | - | - | - | - | 無針綱の1種 | Anopla sp. |
| 125 | 紐形動物門 | Nemertea | 無針綱 | Anopla | - | - | - | - | 無針綱と思われる1種 | Anopla? sp. |
| 126 | 紐形動物門 | Nemertea | 有針綱 | Enopla | 針紐虫目 | Hoploneurtea | メノコヒモムシ科 | Tetrastemmatidae | メノコヒモムシ科と思われる1種 (A) | Tetrastemmatidae? sp. A |
| 127 | 紐形動物門 | Nemertea | - | - | - | - | - | - | 紐形動物門の1種 | Nemertea sp. |
| 128 | 紐形動物門 | Nemertea | - | - | - | - | - | - | 紐形動物門の1種または複数種 | Nemertea sp. or spp. |
| 129 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | ウスヒザラガイ科 | Ischnochitonidae | ウスヒザラガイ | <i>Ischnochiton (Haploplax) comptus</i> (Gould, 1859) |
| 130 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | ウスヒザラガイ科 | Ischnochitonidae | ホソウスヒザラガイ | <i>Ischnochiton (Ischnochiton) boninensis</i> Bergenhayn, 1933 |
| 131 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | ウスヒザラガイ科 | Ischnochitonidae | ヤスリヒザラガイ | <i>Lepidozona coreanica</i> (Reeve, 1847) |
| 132 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | ウスヒザラガイ科 | Ischnochitonidae | ウスヒザラガイ科の1種または複数種 | Ischnochitonidae sp. or spp. |
| 133 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | クサズリガイ科 | Chitonidae | オニヒザラガイ | <i>Acanthopleura gemmata</i> (Blainville, 1825) |
| 134 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | クサズリガイ科 | Chitonidae | ヒザラガイ | <i>Acanthopleura japonica</i> (Lischke, 1873) |
| 135 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | ケハダヒザラガイ科 | Acanthochitonidae | ヒメケハダヒザラガイ | <i>Acanthochitona rubrolineatus</i> (Lischke, 1873) |
| 136 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | ケハダヒザラガイ科 | Acanthochitonidae | ケハダヒザラガイ | <i>Acanthochitona defilippii</i> (Tapparone-Canefri, 1874) |
| 137 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | ケハダヒザラガイ科 | Acanthochitonidae | ケハダヒザラガイと思われる1種 | <i>Acanthochitona defilippii</i> (Tapparone-Canefri, 1874)? |
| 138 | 軟体動物門 | Mollusca | 多板綱 | Polyplacophora | 新ヒザラガイ目 | Neoloricata | - | - | 新ヒザラガイ目の1種 | Neoloricata sp. |
| 139 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | シロガイ | <i>Lottia cassis</i> (Eschscholtz, 1833) |
| 140 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | コガモガイ | <i>Lottia kogamogai</i> Sakaki et Okutani, 1994 |
| 141 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | コダカアオガイ | <i>Nipponacmea concinna</i> (Lischke, 1870) |
| 142 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | クシアオガイ | <i>Nipponacmea fuscoviridis</i> (Teramachi, 1949) |
| 143 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | カミアオガイ | <i>Nipponacmea habe</i> Sasaki et Okutani, 1994 |
| 144 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | クモリアオガイ | <i>Nipponacmea nigrans</i> (Kira, 1961) |
| 145 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | アオガイ | <i>Nipponacmea schrenkii</i> (Lischke, 1868) |
| 146 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | ツボミ | <i>Patelloida conulus</i> (Dunker, 1861) |
| 147 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | ツボミと思われる1種 | <i>Patelloida cf. conulus</i> (Dunker, 1861) |
| 148 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | ヒメコザラ | <i>Patelloida heroldi</i> (Dunker, 1861) |
| 149 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | ウノアシ | <i>Patelloida saccharina lanx</i> (Reeve, 1855) |
| 150 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | リュウキュウウノアシ | <i>Patelloida saccharina saccharina</i> (Linnaeus, 1758) |
| 151 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | リュウキュウアオガイ | <i>Patelloida striata</i> (Quoy & Gaimard, 1834) |
| 152 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 笠型腹足目 | Patellogastropoda | コガモガイ科 | Lottiidae | コガモガイ科の1種 | Lottiidae sp. |
| 153 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | スカシガイ科 | Fissurellidae | サルアワビ | <i>Tugalina (Scelidotoma) gigas</i> (Martens, 1881) |
| 154 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | スカシガイ科 | Fissurellidae | スカシガイ | <i>Macroschisma sinensis</i> (A. Adams, 1855) |
| 155 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | スカシガイ科 | Fissurellidae | ヒラスカシガイ | <i>Macroschisma dilatata</i> (A. Adams, 1851) |
| 156 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | チグサガイ | <i>Cantharidus japonicus</i> (A. Adams, 1853) |
| 157 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | クマノコガイ | <i>Chlorostoma xanthostigma</i> A. Adams, 1853 |
| 158 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | キヌタダミ | <i>Ethmonolia stearnsii</i> (Pilsbry, 1895) |
| 159 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | イワカワチグサ | <i>Iwakawatrochus urbanus</i> (Gould, 1861) |
| 160 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | イシダタミ | <i>Monodonta labio</i> (Linnaeus, 1758) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|---------|-------------------|----------|------------------|---------------------|---|
| 161 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | コシダカガンガラ | <i>Omphalius rusticus</i> (Gmelin, 1791) |
| 162 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | ハブタエシタダミ | <i>Talopena verrucosa</i> (Gould, 1861) |
| 163 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | ニシキウズ | <i>Trochus maculatus</i> Linnaeus, 1758 |
| 164 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | <i>Trochus</i> 属の1種 | <i>Trochus</i> sp. |
| 165 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | キサゴ | <i>Umbonium (Suchium) costatum</i> (Valenciennes in Kiener, 1838) |
| 166 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | ニシキウズ科 | Trochidae | イボキサゴ | <i>Umbonium (Suchium) moniliferum</i> (Lamarck, 1822) |
| 167 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | リュウテン科 | Turbinidae | リュウキュウカタベ | <i>Angaria delphinus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 168 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | リュウテン科 | Turbinidae | オオウラウズガイ | <i>Astraliatum rhodostoma</i> (Lamarck, 1822) |
| 169 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | リュウテン科 | Turbinidae | エゾザンショウ | <i>Homalopoma amussitatum</i> (Gould, 1861) |
| 170 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | リュウテン科 | Turbinidae | スガイ | <i>Turbo (Lunella) coronatus coreensis</i> (Récluz, 1853) |
| 171 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 古腹足上目 | Vetigastropoda | リュウテン科 | Turbinidae | カンギク | <i>Turbo (Lunella) coronatus coronatus</i> (Gmelin, 1791) |
| 172 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | カノコガイ | <i>Clithon (Clithon) faba</i> (Sowerby II, 1836) |
| 173 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | イシマキ | <i>Clithon (Clithon) retropictus</i> (v. Martens, 1879) |
| 174 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | ハナガスミカノコ | <i>Clithon (Pictoneritina) chlorostoma</i> (Broderip, 1832) |
| 175 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | ヒメカノコ | <i>Clithon (Pictoneritina) oualaniensis</i> (Lesson, 1831) |
| 176 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | リュウキュウアマガイ | <i>Nerita (Hemerita) insculpta</i> Récluz, 1841 |
| 177 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | アマガイ | <i>Nerita (Hemerita) japonica</i> Dunker, 1860 |
| 178 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | ニシキアマオブネ | <i>Nerita (Linnerita) polita</i> Linnaeus, 1758 |
| 179 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | イシダミアアマオブネ | <i>Nerita (Nerita) helicinoides</i> Reeve, 1855 |
| 180 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | マンローブアマガイ | <i>Nerita (Nerita) undulata</i> Gmelin, 1791 |
| 181 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | アラシジアマガイ | <i>Nerita (Nerita) undata</i> Linnaeus, 1758 |
| 182 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | キバアマガイ | <i>Nerita (Ritena) plicata</i> Linnaeus, 1758 |
| 183 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | アマオブネ | <i>Nerita (Thelostyla) albicilla</i> Linnaeus, 1758 |
| 184 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | オオマルアマオブネ | <i>Nerita (Thelostyla) chamaeleon</i> Linnaeus, 1758 |
| 185 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | ヒラマキアマオブネ | <i>Nerita (Thelostyla) planospira</i> Anton, 1839 |
| 186 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | マルアマオブネ | <i>Nerita (Thelostyla) squamulata</i> Le Guillou, 1841 |
| 187 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | ヒロクチカノコ | <i>Neritina (Dostia) cornucopia</i> (Benson, 1836) |
| 188 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | ニセヒロクチカノコ | <i>Neritina (Dostia) crepiduralia</i> (Gmelin, 1791) |
| 189 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | シマカノコ | <i>Neritina (Vittina) turrita</i> (Gmelin, 1791) |
| 190 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | ドングリカノコ | <i>Neritina (Vittoida) plumbea</i> Sowerby, 1849 |
| 191 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | キンランカノコ | <i>Smaragdia paulucciana</i> Gassies, 1870 |
| 192 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | アマオブネ科 | Neritidae | クサイロカノコ | <i>Smaragdia rangiana</i> (Récluz, 1841) |
| 193 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | ユキスズメ科 | Phenacolepadidae | ミヤコドリ | <i>Cinnalepeta pulchella</i> (Lischke, 1871) |
| 194 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | ユキスズメ科 | Phenacolepadidae | ヒナユキスズメ | <i>Phenacolepas</i> sp. |
| 195 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | アマオブネ上目 | Neritopsina | ユキスズメ科 | Phenacolepadidae | ユキスズメ科の1種 | <i>Phenacolepadidae</i> sp. |
| 196 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 原始紐舌目 | Architaenioglossa | リンゴガイ科 | Ampullariidae | スクミリンゴガイ | <i>Pomacea canaliculata</i> (Lamarck, 1819) |
| 197 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニノツノガイ科 | Cerithiidae | サキボソカニモリ | <i>Cerithium claviforme</i> Schepman, 1907 |
| 198 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニノツノガイ科 | Cerithiidae | コゲツノブエ | <i>Cerithium coralium</i> (Kiener, 1841) |
| 199 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニノツノガイ科 | Cerithiidae | コオロギ | <i>Cerithium (Cerithium) kobelti</i> Dunker, 1877 |
| 200 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニノツノガイ科 | Cerithiidae | ウミナカニモリ | <i>Chypeomorax batillariaeformis</i> Habe et Kosuge, 1966 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----|--------------|---------|---------------|-------------------|--|
| 201 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | カヤノミカニモリ | <i>Chypeomorus bifasciatus</i> (Sowerby II, 1855) |
| 202 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | セムツノブエ | <i>Chypeomorus irrorata</i> (Gould, 1849) |
| 203 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | ミツカドカニモリ | <i>Chypeomorus pellucida</i> (Hombron et Jacquinot, 1852) |
| 204 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | タケノコチグサカニモリ | <i>Itubittium parcum nipponkaiensis</i> (Habe et Masuda, 1990) |
| 205 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | カニモリガイ | <i>Rhinoclavis (Proclava) kochi</i> (Philippi, 1848) |
| 206 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | トウガタカニモリ | <i>Rhinoclavis (Rhinoclavis) sinensis</i> (Gmelin, 1791) |
| 207 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | タケノコカニモリ | <i>Rhinoclavis (Rhinoclavis) vertagus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 208 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オニツノガイ科 | Cerithiidae | オニツノガイ科の複数種 | Cerithiidae spp. |
| 209 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ウミナ科 | Batillariidae | ホソウミナ | <i>Batillaria cumingi</i> (Crosse, 1862) |
| 210 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ウミナ科 | Batillariidae | リュウキュウウミナ | <i>Batillaria flectosiphonata</i> Ozawa, 1996 |
| 211 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ウミナ科 | Batillariidae | ウミナ | <i>Batillaria multiformis</i> (Lischke, 1869) |
| 212 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ウミナ科 | Batillariidae | イボウミナ | <i>Batillaria zonalis</i> (Bruguère, 1792) |
| 213 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | クロヘナタリ | <i>Cerithidea (Cerithidea) largillierii</i> (Philippi, 1848) |
| 214 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | シマヘナタリ | <i>Cerithidea (Cerithidea) ornata</i> Sowerby II, 1855 |
| 215 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | フトヘナタリ | <i>Cerithidea (Cerithidea) rhizophorarum</i> A. Adams, 1855 |
| 216 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | イトカケヘナタリ | <i>Cerithidea (Cerithidea) morchii</i> Sowerby II, 1855 |
| 217 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | ヘナタリ | <i>Cerithidea (Cerithideopsisilla) cingulata</i> (Gmelin, 1791) |
| 218 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | カワアイ | <i>Cerithidea (Cerithideopsisilla) djadjariensis</i> (K. Martin, 1899) |
| 219 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | キバウミナ | <i>Telebralia palustris</i> (Linnaeus, 1767) |
| 220 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キバウミナ科 | Potamididae | マドモチウミナ | <i>Telebralia sulcata</i> (Born, 1778) |
| 221 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | トゲカワニナ科 | Thiariidae | ネジヒダカワニナ | <i>Sermyla riqueti</i> (Grateloup, 1840) |
| 222 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | トゲカワニナ科 | Thiariidae | タケノコカワニナ | <i>Stenomelania rufescens</i> (Martens, 1860) |
| 223 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | トゲカワニナ科 | Thiariidae | トウガタカワニナ | <i>Thiara scabra</i> (Müller, 1774) |
| 224 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワニナ科 | Pleuroceridae | カワニナ | <i>Semisulcospira libertina</i> (Gould, 1859) |
| 225 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワニナ科 | Pleuroceridae | チリメンカワニナ | <i>Semisulcospira reiniana</i> (Brot, 1877) |
| 226 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ウキツボ科 | Litiopidae | ウネハマトツボ | <i>Alaba hungerfordi</i> Sowerby III, 1894 |
| 227 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | スナモチツボ科 | Scaliolidae | シヤモツボ | <i>Finella purpureoapicata</i> (Preston, 1905) |
| 228 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | スナモチツボ科 | Scaliolidae | ツヤモツボ | <i>Finella rufocincta</i> (A. Adams, 1861) |
| 229 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | - | - | オニツノガイ上科の1種または複数種 | Cerithioidea sp. or spp. |
| 230 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ゴマフニナ科 | Planaxidae | ゴマフニナ | <i>Planaxis sulcatus</i> (Born, 1778) |
| 231 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | チャイロタマキビ | <i>Lacuna (Epheria) turrita</i> (A. Adams, 1861) |
| 232 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | コウダカタマキビ | <i>Littoraria (Littoraria) pintado</i> (Wood, 1828) |
| 233 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | ホソスジウズラタマキビ | <i>Littoraria (Littoraria) undulata</i> (Gray, 1839) |
| 234 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | ヒメウズラタマキビ | <i>Littoraria (Littorinopsis) intermedia</i> (Philippi, 1846) |
| 235 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | イロタマキビ | <i>Littoraria (Littorinopsis) pallescens</i> (Philippi, 1846) |
| 236 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | ウズラタマキビ | <i>Littoraria (Littorinopsis) scabra</i> (Linnaeus, 1758) |
| 237 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | マルズラタマキビ | <i>Littoraria (Palustorina) sinensis</i> (Philippi, 1847) |
| 238 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | タマキビ | <i>Littorina (Littorina) brevicula</i> (Philippi, 1844) |
| 239 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | アツタマキビ | <i>Littorina (Littorina) mandshurica</i> Schrenck, 1867 |
| 240 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | エソタマキビ | <i>Littorina (Littorina) squalida</i> Broderip et Sowerby, 1829 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----|--------------|----------|-----------------|-----------------------------|--|
| 241 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | クロタマキビ | <i>Littorina (Neritrema) sitkana</i> Philippi, 1846 |
| 242 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | アラレタマキビ | <i>Nodilittorina radiata</i> (Eyedoux et Souleyet, 1852) |
| 243 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | イボタマキビ | <i>Nodilittorina trochoides</i> (Gray, 1839) |
| 244 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | タイワンタマキビ | <i>Nodilittorina vidua</i> (Gould, 1859) |
| 245 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマキビ科 | Littorinidae | コビトウラウズ | <i>Peasiella habei</i> Reid et Mak, 1998 |
| 246 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | チャツボ科 | Barleeidae | チャツボ | <i>Barleeia angustata</i> (Pilsbry, 1901) |
| 247 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ワカウラツボ科 | Iravadiidae | ワカウラツボ | <i>Iravadia (Fairbankia) sakaguchii</i> (Kuroda et Habe, 1954) |
| 248 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ワカウラツボ科 | Iravadiidae | カワグチツボ | <i>Iravadia (Fluviocingula) elegantula</i> (A. Adams, 1863) |
| 249 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ワカウラツボ科 | Iravadiidae | マンガルツボ | <i>Iravadia (Iravadia) quadrasi</i> (Böttger, 1902) |
| 250 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | サザナミツボ科 | Elachisimidae | サザナミツボ | <i>Elachisina ziczac</i> Fukuda et Ekawa, 1997 |
| 251 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ナタネツボ科 | Falsicingulidae | アツクテナタネツボ | <i>Falsicingula athera</i> Bartsch, in Golikov et Scarlato, 1967 |
| 252 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ナタネツボ科 | Falsicingulidae | <i>Falsicingula</i> 属の1種 | <i>Falsicingula</i> sp. |
| 253 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | クリイロカワザンショウ | <i>Angustassiminea castanea</i> (Westerlund, 1883) |
| 254 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | オオクリイロカワザンショウ | <i>Angustassiminea kyushuensis</i> S. et T. Habe, 1983 |
| 255 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | アマグリイロカワザンショウ | <i>Angustassiminea</i> sp. |
| 256 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | キントニイロカワザンショウ | <i>Angustassiminea</i> sp. |
| 257 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | <i>Angustassiminea</i> 属の1種 | <i>Angustassiminea</i> sp. |
| 258 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | ツブカワザンショウ | <i>Assiminea estuarina</i> Habe, 1946 |
| 259 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | ヒラドカワザンショウ | <i>Assiminea hiradoensis</i> Habe, 1942 |
| 260 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | カワザンショウガイ | <i>Assiminea japonica</i> Martens, 1877 |
| 261 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | ムシヤドリカワザンショウ | <i>Assiminea parasitologica</i> Kuroda, 1958 |
| 262 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | シシダカワザンショウ | <i>Assiminea yoshidayukioi</i> Kuroda, 1959 |
| 263 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | テシオカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 264 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | オブチカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 265 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | イヨカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 266 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | ヤミカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 267 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | ヒメカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 268 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | マツカワウラカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 269 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | マツシマカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 270 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | アッケシカワザンショウ | <i>Assiminea</i> sp. |
| 271 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | <i>Assiminea</i> 属の1種 | <i>Assiminea</i> sp. |
| 272 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | <i>Assiminea</i> 属の1種 (A) | <i>Assiminea</i> sp. A |
| 273 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | <i>Assiminea</i> 属の1種 (B) | <i>Assiminea</i> sp. B |
| 274 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | カハタレカワザンショウ | Assimineidae sp. |
| 275 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | オイランカワザンショウ | Assimineidae sp. |
| 276 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | スミヨウカワザンショウ | Assimineidae sp. |
| 277 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | ヘソカドガイ | <i>Paludinellassiminea japonica</i> (Pilsbry, 1901) |
| 278 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | ウスイロヘソカドガイ | <i>Paludinellassiminea stricta</i> (Gould, 1859) |
| 279 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | オオスイロヘソカドガイ | <i>Paludinellassiminea tanegashimae</i> (Pilsbry, 1924) |
| 280 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンショウ科 | Assimineidae | アズキカワザンショウ | <i>Pseudomphala miyazakii</i> (Habe, 1943) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----|--------------|----------|----------------|------------------------|---|
| 281 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カワザンシヨウ科 | Assimineidae | カワザンシヨウ科の1種または複数種 | Assimineidae sp. or spp. |
| 282 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | クビキレガイ科 | Truncatellidae | クビキレガイ | <i>Truncatella guerinii</i> A. et J. B. Villa, 1841 |
| 283 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | クビキレガイ科 | Truncatellidae | ヤマトクビキレガイ | <i>Truncatella pfeifferi</i> Martens, 1860 |
| 284 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イツマデガイ科 | Pomatiopsidae | クビキレガイモドキ | <i>Cecina manchurica</i> A. Adams, 1861 |
| 285 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イソコハクガイ科 | Vitrinellidae | シラギク | <i>Pseudoliotia pulchella</i> (Dunker, 1860) |
| 286 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ミスゴマツボ科 | Stenothyridae | ウミゴマツボ | <i>Stenothyra edogawensis</i> (Yokoyama, 1927) |
| 287 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ミスゴマツボ科 | Stenothyridae | ミヤジマウミゴマツボ | <i>Stenothyra</i> aff. <i>edogawensis</i> (Yokoyama, 1927) |
| 288 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ミスゴマツボ科 | Stenothyridae | ミスゴマツボ | <i>Stenothyra japonica</i> Kuroda, 1962 |
| 289 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ミスゴマツボ科 | Stenothyridae | トライミスゴマツボ | <i>Stenothyra</i> sp. |
| 290 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ミスゴマツボ科 | Stenothyridae | <i>Stenothyra</i> 属の1種 | <i>Stenothyra</i> sp. |
| 291 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ソデボラ科 | Strombidae | クモガイ | <i>Lambis lambis</i> (Linnaeus, 1758) |
| 292 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ソデボラ科 | Strombidae | オハグロガイ | <i>Strombus (Canarium) urseus</i> Linnaeus, 1758 |
| 293 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ソデボラ科 | Strombidae | シドロ | <i>Strombus (Doxander) japonicus</i> Reeve, 1851 |
| 294 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ソデボラ科 | Strombidae | ネジマガキ | <i>Strombus (Gibberulus) gibberulus gibbosus</i> (Röding, 1798) |
| 295 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ソデボラ科 | Strombidae | サザナミスイショウ | <i>Strombus (Laevistrombus) canarium</i> Linnaeus, 1758 |
| 296 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ソデボラ科 | Strombidae | スイショウガイ | <i>Strombus (Laevistrombus) turturella</i> (Röding, 1798) |
| 297 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キクスズメ科 | Hipponicidae | フウリンチドリ | <i>Cheilea cepacea</i> (Broderip, 1834) |
| 298 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | キクスズメ科 | Hipponicidae | キクスズメ | <i>Hipponix conica</i> (Schumacher, 1817) |
| 299 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カリバガサ科 | Calyptraeidae | カリバガサガイ | <i>Calyptraea yokoyamai</i> Kuroda in Fujita, 1929 |
| 300 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カリバガサ科 | Calyptraeidae | エソフネガイ | <i>Crepidula grandis</i> Middendorff, 1849 |
| 301 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カリバガサ科 | Calyptraeidae | シマメノウフネガイ | <i>Crepidula onyx</i> Sowerby I, 1824 |
| 302 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | カリバガサ科 | Calyptraeidae | ヒラフネガイ | <i>Ergaea walshi</i> (Reeve, 1859) |
| 303 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ムカデガイ科 | Vermetidae | クチシレヘビガイ | <i>Dendropoma luchuanum</i> (Kuroda, 1928) |
| 304 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ムカデガイ科 | Vermetidae | フタモチヘビガイ | <i>Dendropoma maximum</i> (Sowerby, 1825) |
| 305 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ムカデガイ科 | Vermetidae | ミジムカデガイ | <i>Dendropoma planorbis</i> (Dunker, 1860) |
| 306 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ムカデガイ科 | Vermetidae | リュウキウムカデガイ | <i>Petalocochnus renisectus</i> (Carpenter, 1857) |
| 307 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ムカデガイ科 | Vermetidae | オレンジヘビガイ | <i>Serpulorbis daidai</i> Scheuwimmer et Nishiwaki, 1982 |
| 308 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ムカデガイ科 | Vermetidae | オオヘビガイ | <i>Serpulorbis imbricatus</i> (Dunker, 1860) |
| 309 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タカラガイ科 | Cypraeidae | オミナエシダカラ | <i>Erosaria boivini</i> (Kiener, 1843) |
| 310 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タカラガイ科 | Cypraeidae | ナツメモドキ | <i>Erronea erronea</i> (Linnaeus, 1758) |
| 311 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タカラガイ科 | Cypraeidae | キイロダカラ | <i>Monetaria (Monetaria) moneta</i> (Linnaeus, 1758) |
| 312 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タカラガイ科 | Cypraeidae | ハナヒラダカラ | <i>Monetaria (Ornamentaria) annulus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 313 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タカラガイ科 | Cypraeidae | メダカラ | <i>Purpuradusta gracilis</i> (Gaskoin, 1848) |
| 314 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ハナツトガイ科 | Velutinidae | ハナツトガイ科の1種 | Velutinidae sp. |
| 315 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | アダムスタマガイ | <i>Cryptonatica adamsiana</i> (Dunker, 1860) |
| 316 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ヒラセタマガイ | <i>Cryptonatica hirasei</i> (Pilsbry, 1905) |
| 317 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | チシマタマガイ | <i>Cryptonatica janthostoma</i> (Deshayes, 1839) |
| 318 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | タマネコガイ | <i>Eunaticina lamarciana</i> (Récluz, 1843) |
| 319 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ネコガイ | <i>Eunaticina papilla</i> (Gmelin, 1791) |
| 320 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | サキグロタマツメタ | <i>Euspira fortunei</i> (Reeve, 1855) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----|--------------|-----------|---------------|----------------------|--|
| 321 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ウスイロタマツメタと思われる1種 | <i>Euspira pallida</i> (Broderip et Sowerby, 1829)? |
| 322 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ツメタガイ | <i>Glossaulax didyma</i> (Röding, 1798) |
| 323 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | リスガイ | <i>Mammilla melanostoma</i> (Gmelin, 1791) |
| 324 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | クテグロタマガイ | <i>Natica fasciata</i> (Röding, 1798) |
| 325 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ゴマフダマ | <i>Natica tigrina</i> (Röding, 1798) |
| 326 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ホウシュノタマ | <i>Notocochlis gualtieriana</i> (Récluz, 1844) |
| 327 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ハギノツユ | <i>Notocochlis ochrostigmata</i> Rehder, 1980 |
| 328 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | ロウイトロミガイ | <i>Polinices pyriformis</i> (Récluz, 1844) |
| 329 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | シロソアキトミガイ | <i>Polinices vavaosi</i> (Reeve, 1855) |
| 330 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タマガイ科 | Naticidae | タマガイ科の1種(卵) | Naticidae sp. (egg) |
| 331 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イトカケガイ科 | Epitoniidae | ハブタエセキモリ | <i>Foliaceiscala lyra</i> (Sowerby II, 1844) |
| 332 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ハナゴウナ科 | Eulimidae | ヒモカイリナマコツマミガイ | <i>Hypermastus lacteus</i> (A. Adams, 1863) |
| 333 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ハナゴウナ科 | Eulimidae | クロナマコヤドリニナ | <i>Melanella kuronamako</i> (Habe, 1952) |
| 334 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ハナゴウナ科 | Eulimidae | カシパンヤドリニナ | <i>Melanella peronillicola</i> (Kuroda et Habe, 1950) |
| 335 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ハナゴウナ科 | Eulimidae | ヤセフタオビツマミガイ | <i>Mucronalia exilis</i> A. Adams, 1862 |
| 336 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ハナゴウナ科 | Eulimidae | カスリモジヒトデヤドリニナ | <i>Vitreobalcis shoplandi</i> (Melvill, 1898) |
| 337 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ハナゴウナ科 | Eulimidae | カスリモジヒトデヤドリニナと思われる1種 | <i>Vitreobalcis shoplandi</i> (Melvill, 1898)? |
| 338 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | カゴメガイ | <i>Bedeua birleffi</i> (Lischke, 1871) |
| 339 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | ウネレイシダマシ | <i>Cronia margariticola</i> (Broderip, 1833) |
| 340 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | ヒメヨウラク | <i>Ergalatax contractus</i> (Reeve, 1846) |
| 341 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | レイシダマシ | <i>Morula granulata</i> (Duclos, 1924) |
| 342 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | レイシダマシモドキ | <i>Muricodrupa fusca</i> (Küster, 1862) |
| 343 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | エツチヂミボラ | <i>Nucella freycineti</i> (Deshayes, 1841) |
| 344 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | チヂミボラ | <i>Nucella lima</i> (Gmelin, 1791) |
| 345 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | <i>Ocenebra</i> 属の1種 | <i>Ocenebra</i> sp. |
| 346 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | アカニシ | <i>Rapana venosa</i> (Valenciennes, 1846) |
| 347 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | ツノアカニシ | <i>Rapana venosa pechiliensis</i> Grabau et King, 1928 |
| 348 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | レイシ | <i>Thais (Reishia) bronni</i> (Dunker, 1860) |
| 349 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | イボニシ | <i>Thais (Reishia) clavigera</i> (Küster, 1860) |
| 350 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | ウネレイシダマシ | <i>Thais (Semiricinula) muricata</i> (Blainville, 1816) |
| 351 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | コイワニシ | <i>Thais (Semiricinula) squamosa</i> (Pease, 1867) |
| 352 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | テツレイシ | <i>Thais (Stramonita) savignyi</i> (Deshayes, 1844) |
| 353 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | アッキガイ科 | Muricidae | アッキガイ科の複数種 | Muricidae spp. |
| 354 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タモトガイ科 | Columbellidae | フトコロガイ | <i>Euplica scripta</i> (Lamarck, 1822) |
| 355 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タモトガイ科 | Columbellidae | マルテンスマツムシ | <i>Mitrella (Indomitrella) martensi</i> (Lischke, 1871) |
| 356 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タモトガイ科 | Columbellidae | ムギガイ | <i>Mitrella (Mitrella) bicincta</i> (Gould, 1860) |
| 357 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タモトガイ科 | Columbellidae | ムシエビ | <i>Pyrene flava</i> (Bruguière, 1789) |
| 358 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | アラムシロ | <i>Nassarius (Hima) festivus</i> (Powys in Sowerby et Powys, 1835) |
| 359 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | クロスジムシロ | <i>Nassarius (Hima) fraterculus</i> (Dunker, 1860) |
| 360 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | ウネムシロ | <i>Nassarius (Hima) hiradoensis</i> (Pilsbry, 1904) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----|---------------|-----------|-------------------|------------------|--|
| 361 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | アオモリムシロ | <i>Nassarius (Hima) hypolius</i> (Pilsbry, 1895) |
| 362 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | キヌボラ | <i>Nassarius (Hima) japonica</i> (A. Adams, 1852) |
| 363 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | ヒメムシロ | <i>Nassarius (Hima) multigranulosus</i> (Dunker, 1847) |
| 364 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | オマセムシロ | <i>Nassarius (Hima) praematuratus</i> (Kuroda et Habe in Habe, 1960) |
| 365 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | イボヨフバイ | <i>Nassarius (Nassarius) coronatus</i> (Bruguière, 1792) |
| 366 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | ムシロガイ | <i>Nassarius (Niotha) livescens</i> (Philippi, 1849) |
| 367 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | アツムシロ | <i>Nassarius (Niotha) semisulcatus</i> (Roussseau, 1854) |
| 368 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | アワムシロ | <i>Nassarius (Niotha) splendidulus</i> (Dunker, 1846) |
| 369 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | カニノテムシロ | <i>Nassarius (Plicarcularia) bellulus</i> (A. Adams, 1852) |
| 370 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | オオカニノテムシロ | <i>Nassarius (Plicarcularia) pullus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 371 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | ウネハナムシロ | <i>Nassarius (Varicinassa) variciferus</i> (A. Adams, 1852) |
| 372 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | リュウキュウムシロ | <i>Nassarius (Zeuxis) margaritifera</i> (Dunker, 1847) |
| 373 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | カラムシロ | <i>Nassarius (Zeuxis) sinarus</i> (Philippi, 1851) |
| 374 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | オリイレヨフバイ科 | Nassariidae | ヒロオビヨフバイ | <i>Nassarius (Zeuxis) succinctus</i> (A. Adams, 1852) |
| 375 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | エゾバイ科 | Buccinidae | ホラダマシ | <i>Cantharus (Pollia) fumosus</i> (Dillwyn, 1817) |
| 376 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | エゾバイ科 | Buccinidae | シマベッコウバイ | <i>Japeuthria cingulata</i> (Reeve, 1847) |
| 377 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | エゾバイ科 | Buccinidae | ヒメエゾボラ | <i>Neptunea (Barbitonia) arthritica</i> Bernardi, 1857 |
| 378 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | エゾバイ科 | Buccinidae | ミクリガイ | <i>Siphonalia cassidariaeformis</i> (Reeve, 1846) |
| 379 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | エゾバイ科 | Buccinidae | エゾバイ科の1種 | Buccinidae sp. |
| 380 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | マクラガイ科 | Olividae | マクラガイ | <i>Oliva mustelina</i> Lamarck, 1811 |
| 381 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | フデガイ科 | Mitridae | マガシマヤタテ | <i>Mitra (Strigatella) retusa</i> Lamarck, 1811 |
| 382 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | フデガイ科 | Mitridae | Mitra 属の1種 | <i>Mitra</i> sp. |
| 383 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | フデガイ科 | Mitridae | イモフデガイ | <i>Pterygia dacylus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 384 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | フデガイ科 | Mitridae | フデガイ科の1種 | Mitridae sp. |
| 385 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ミノムシガイ科 | Costellariidae | カノコシボリミノムシ | <i>Vexillum (Costellaria) sanguisugum</i> (Linnaeus, 1758) |
| 386 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | ミノムシガイ科 | Costellariidae | オオミノムシ | <i>Vexillum (Vexillum) balteolatum</i> (Reeve, 1844) |
| 387 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | コロモガイ科 | Cancellariidae | オリイレボラ | <i>Scalptia (Scalptia) scalariformis</i> (Lamarck, 1822) |
| 388 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イモガイ科 | Conidae | ロウソクガイ | <i>Conus (Cleobula) quercinus</i> Lightfoot, 1786 |
| 389 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イモガイ科 | Conidae | アンボンクロザメ | <i>Conus (Lithoconus) litteratus</i> Linnaeus, 1758 |
| 390 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イモガイ科 | Conidae | コモンイモ | <i>Conus (Puncticulus) arenatus</i> Hwass, 1792 |
| 391 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イモガイ科 | Conidae | キヌツクギイモ | <i>Conus (Virgiconus) flavidus</i> Lamarck, 1810 |
| 392 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | イモガイ科 | Conidae | マドライモ | <i>Conus (Virroconus) ebraeus</i> Linnaeus, 1758 |
| 393 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タケノコガイ科 | Terebridae | カニモリタケ | <i>Terebra (Abratiella) cerithina</i> Lamarck, 1822 |
| 394 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タケノコガイ科 | Terebridae | ムシロタケ | <i>Terebra (Decorihastula) affinis</i> Gray, 1834 |
| 395 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タケノコガイ科 | Terebridae | シユマダラケリ | <i>Terebra (Decorihastula) nebulosa</i> Sowerby I, 1825 |
| 396 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 吸腔目 | Sorbeoconcha | タケノコガイ科 | Terebridae | ベニタケ | <i>Terebra (Subula) dimidiata</i> (Linnaeus, 1758) |
| 397 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | クルマガイ科 | Architectonicidae | スタダグルマ | <i>Psilaxis oxytropis</i> (A. Adams, 1855) |
| 398 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | カキウラクチキレモドキ | <i>Brachystomia bipyramidata</i> (Nomura, 1936) |
| 399 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | ヨコイトカケグリ | <i>Cingulina cingulata</i> (Dunker, 1860) |
| 400 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | Syrnola 属と思われる1種 | <i>Syrnola?</i> sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----|-----------------|-------------|------------------|------------------------|--|
| 401 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | カゴメイトカケチキレ | <i>Dunkeria candidissima</i> (Dall et Bartsch, 1906) |
| 402 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | シゲクスイトカケギリ | <i>Dunkeria shigeyasui</i> (Yokoyama, 1927) |
| 403 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | オオケチキレ | <i>Longchaeus sulcatus</i> (A. Adams in H. et A. Adams, 1853) |
| 404 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | ナガメアラレクチキレ | <i>Miralda</i> sp. |
| 405 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | <i>Odostomia</i> 属の1種 | <i>Odostomia</i> sp. |
| 406 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | エバラクチキレ | <i>Orinella ebarana</i> (Yokoyama, 1927) |
| 407 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | クチキレガイ | <i>Orinella pulchella</i> (A. Adams in H. et A. Adams, 1853) |
| 408 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | ネコノミクチキレ | <i>Otopleura auriscati</i> (Holten, 1802) |
| 409 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | シイノミクチキレ | <i>Otopleura mitralis</i> (A. Adams, 1855) |
| 410 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | ヒガタヨコイトカケギリ | <i>Paracungulina</i> sp. |
| 411 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | ミスジヨコイトカケギリ | <i>Paracungulina triarata</i> (Pilsbry, 1904) |
| 412 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | ヨコスジギリ | <i>Parthenina affectuosa</i> (Yokoyama, 1927) |
| 413 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | <i>Turbonilla</i> 属の1種 | <i>Turbonilla</i> sp. |
| 414 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 異旋目 | Heterostropha | トウガタガイ科 | Pyramidellidae | トウガタガイ科の1種 | Pyramidellidae sp. |
| 415 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | オオシイノミガイ科 | Acteonidae | ムラクモキジビキガイ | <i>Japanacteon nipponensis</i> (Yamakawa, 1911) |
| 416 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | オオシイノミガイ科 | Acteonidae | カヤノミガイ | <i>Pupa (Pupa) sulcata</i> (Gmelin, 1791) |
| 417 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | オオシイノミガイ科 | Acteonidae | コシイノミガイ | <i>Pupa (Strigopupa) strigosa</i> (Gould, 1859) |
| 418 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | スイフガイ科 | Cylichnidae | ツララガイ | <i>Acteocina decorata</i> (Pilsbry, 1904) |
| 419 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | スイフガイ科 | Cylichnidae | ゴルドンコメツブ | <i>Acteocina gordonii</i> (Yokoyama, 1927) |
| 420 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | スイフガイ科 | Cylichnidae | コヤスツララ | <i>Acteocina koyasensis</i> (Yokoyama, 1927) |
| 421 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | スイフガイ科 | Cylichnidae | スイフガイ科の1種 | Cylichnidae sp. |
| 422 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | ヘコムツララガイ科 | Retusidae | コヤマコガイ | <i>Retusa (Decorifer) insignis</i> (Pilsbry, 1904) |
| 423 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | ヘコムツララガイ科 | Retusidae | マツマコメツブ | <i>Retusa (Decorifer) matusimana</i> (Nomura, 1940) |
| 424 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | ブドウガイ科 | Haminoecidae | ブドウガイ | <i>Haloa japonica</i> (Pilsbry, 1895) |
| 425 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | キセワタ科 | Philimidae | キセワタ | <i>Philine argentata</i> Gould, 1859 |
| 426 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | キセワタ科 | Philimidae | ウスキセワタ | <i>Philine vitrea</i> Gould, 1859 |
| 427 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | キセワタ科 | Philimidae | キセワタ科の1種 | Philimidae sp. |
| 428 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | カノコキセワタ科 | Aglajidae | ヤミヨキセワタ | <i>Melanochlamys</i> sp. |
| 429 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | カノコキセワタ科 | Aglajidae | ヤミヨキセワタと思われる1種 | <i>Melanochlamys</i> sp.? |
| 430 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | カノコキセワタ科 | Aglajidae | カノコキセワタ | <i>Philinopsis gigliolii</i> (Tapparone-Canefri, 1874) |
| 431 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | ミドリアマモウミウシ科 | Hermaeidae | ミドリアマモウミウシ | <i>Placida dendritica</i> (Alder et Hancock, 1843) |
| 432 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アメフラシ科 | Aplysiidae | アマクサアメフラシ | <i>Aplysia (Aplysia) juliana</i> Quoy et Gaimard, 1832 |
| 433 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アメフラシ科 | Aplysiidae | クロヘリアアメフラシ | <i>Aplysia (Pruvotaplysia) parvula</i> Guilding in M_rch, 1863 |
| 434 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アメフラシ科 | Aplysiidae | アメフラシ | <i>Aplysia (Varria) kurodai</i> (Baba, 1937) |
| 435 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アメフラシ科 | Aplysiidae | アメフラシ科の1種または複数種 | Aplysiidae sp. or spp. |
| 436 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アメフラシ科 | Aplysiidae | トゲアメフラシ | <i>Bursatella leachii</i> Blainville, 1817 |
| 437 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アメフラシ科 | Aplysiidae | <i>Petalifera</i> 属の1種 | <i>Petalifera</i> sp. |
| 438 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | フシエラガイ科 | Pleurobranchidae | ウミフクロウ | <i>Pleurobranchaea japonica</i> Thiele, 1925 |
| 439 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | ドーリス科 | Dorididae | ヤマトウミウシ | <i>Homoiodoris japonica</i> Bergh, 1881 |
| 440 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | イロウミウシ科 | Chromodorididae | シロウミウシ | <i>Chromodoris orientalis</i> Rudman, 1983 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----|-----------------|-----------|---------------|--------------|--|
| 441 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | タテジマウミウシ科 | Arminidae | タテジマウミウシ | <i>Armina japonica</i> (Eliot, 1913) |
| 442 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アオミノウミウシ科 | Glaucidae | ヤツミノウミウシ | <i>Hervella yatsui</i> (Baba, 1930) |
| 443 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | アオミノウミウシ科 | Glaucidae | アオミノウミウシ科の1種 | Glaucidae sp. |
| 444 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 後鰓目 | Opisthobranchia | - | - | ウミウシの1種 | Opisthobranchia sp. |
| 445 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | フタマイマイ科 | Amphiboridae | ウミマイマイ | <i>Salinator takii</i> Kuroda, 1928 |
| 446 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | カラマツガイ科 | Siphonariidae | ヒラカラマツ | <i>Siphonaria (Mestosphion) atra</i> Quoy et Gaimard, 1832 |
| 447 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | カラマツガイ科 | Siphonariidae | クロカラマツ | <i>Siphonaria (Mestosphion) subatra</i> Pilsbry, 1904 |
| 448 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | カラマツガイ科 | Siphonariidae | カラマツガイ | <i>Siphonaria (Sacculosiphonaria) japonica</i> (Donovan, 1824) |
| 449 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | カラマツガイ科 | Siphonariidae | コウダカカラマツ | <i>Siphonaria (Siphonaria) laciniosa</i> (Linnaeus, 1758) |
| 450 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ナラビオカミミガイ | <i>Auriculastra duplicata</i> (Pfeiffer, 1854) |
| 451 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ナガオカミミガイ | <i>Auriculastra subula</i> (Quoy et Gaimard, 1832) |
| 452 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | カタシノミミミガイ | <i>Cassidula crassiuscula</i> Mousson, 1869 |
| 453 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ウラシマミミガイ | <i>Cassidula mustelina</i> (Deshayes, 1830) |
| 454 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | シノミミミガイ | <i>Cassidula plecotrematoides</i> (Möllendorff, 1859) |
| 455 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | コハクオカミミガイ | <i>Ellobium (Auriculodes) incrassatum</i> (H. et A. Adams, 1854) |
| 456 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | オカミミガイ | <i>Ellobium (Ellobium) chinense</i> (Pfeiffer, 1855) |
| 457 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ウスコミミガイ | <i>Laemodonta exaratooides</i> Kawabe, 1992 |
| 458 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | クリロコミミガイ | <i>Laemodonta siamensis</i> (Morelet, 1875) |
| 459 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ヘソアキコミミガイ | <i>Laemodonta typica</i> (H. et A. Adams, 1854) |
| 460 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | デンジハマシノミガイ | <i>Melampus (Detracia) sp.</i> |
| 461 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ハマシノミガイ | <i>Melampus (Melampus) nuxeastanense</i> Kuroda, 1949 |
| 462 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | チビハマシノミガイ | <i>Melampus (Melampus) parvulus</i> Pfeiffer, 1855 |
| 463 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | キヌカツギハマシノミガイ | <i>Melampus (Melampus) singaporensis</i> Pfeiffer, 1855 |
| 464 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ツヤハマシノミガイ | <i>Melampus (Pira) flavus</i> (Gmelin, 1791) |
| 465 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ホソハマシノミガイ | <i>Melampus (Pira) taeniolatus</i> Hombron et Jacquinot, 1851 |
| 466 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ヌノメハマシノミガイ | <i>Melampus (Signia) granifer</i> (Mousson, 1849) |
| 467 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | キヌメハマシノミガイ | <i>Melampus (Signia) sulculosus</i> Martens, 1865 |
| 468 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | オウトウハマシノミガイ | <i>Melampus (Signia) sp.</i> |
| 469 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | ナギサノシタリ | <i>Microtaralia acteocinooides</i> Kuroda et Habe in Habe, 1961 |
| 470 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | オキヒラシノミガイ | <i>Pythia cecillet</i> (Philippi, 1847) |
| 471 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | クロヒラシノミガイ | <i>Pythia pachyodon</i> Pilsbry et Hirase, 1908 |
| 472 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカミミガイ科 | Ellobiidae | マダラヒラシノミガイ | <i>Pythia pantherina</i> (A. Adams, 1851) |
| 473 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ドロアワモチ科 | Onchidiidae | ドロアワモチ | <i>Onchidium hongkongense</i> Britton, 1984 |
| 474 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ドロアワモチ科 | Onchidiidae | ヤベガワモチ | <i>Onchidium sp.</i> |
| 475 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ドロアワモチ科 | Onchidiidae | イソアワモチ | <i>Peronia verruculata</i> (Cuvier, 1830) |
| 476 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ドロアワモチ科 | Onchidiidae | キナオアワモチ | <i>Peronia sp.</i> |
| 477 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ドロアワモチ科 | Onchidiidae | ゴマセンベアワモチ | <i>Platevindex cf. mortoni</i> Britton, 1984 |
| 478 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ドロアワモチ科 | Onchidiidae | センベアワモチ | <i>Platevindex sp.</i> |
| 479 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ドロアワモチ科 | Onchidiidae | ドロアワモチ科の1種 | Onchidiidae sp. |
| 480 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | モノアラガイ科 | Lymnaeidae | ヒメモノアラガイ | <i>Lymnaea (Galba) ollula</i> Gould, 1859 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|------|------------|---------|-------------|-----------|----------------|----------------|---|
| 481 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ヤマボタルガイ科 | Cionellidae | ヤマボタルガイ | <i>Cionella lubrica</i> (Müller, 1774) |
| 482 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | バツラマイマイ科 | Discidae | バツラマイマイ | <i>Discus pauper</i> (Gould, 1833) |
| 483 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | ノナメクジ科 | Agriolimacidae | Deroceras 属の1種 | <i>Deroceras</i> sp. |
| 484 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカモノアラガイ科 | Succineidae | ナガオカモノアラガイ | <i>Oxyloma hirasei</i> (Pilsbry, 1901) |
| 485 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オカモノアラガイ科 | Succineidae | オカモノアラガイ | <i>Succinea lauta</i> Gould, 1859 |
| 486 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オナジマイマイ科 | Bradybaenidae | ウスカワマイマイ | <i>Acusta despecta sieboldiana</i> (Pfeiffer, 1850) |
| 487 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | オナジマイマイ科 | Bradybaenidae | タママイマイ | <i>Acusta tourannensis</i> (Souleyet, 1842) |
| 488 | 軟体動物門 | Mollusca | 腹足綱 | Gastropoda | 有肺目 | Pulmonata | - | - | 有肺目の1種 | Pulmonata sp. |
| 489 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | キヌタレガイ目 | Solemyoidea | キヌタレガイ科 | Solemyidae | キヌタレガイ | <i>Petrasma pusilla</i> (Gould, 1861) |
| 490 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | フネガイ | <i>Arca avellana</i> Lamarck, 1819 |
| 491 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | エガイ | <i>Barbatia (Abarbatia) lima</i> (Reeve, 1844) |
| 492 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | トマヤエガイ | <i>Barbatia (Savignyarca) cometa</i> (Reeve, 1844) |
| 493 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | カリガネエガイ | <i>Barbatia (Savignyarca) virescens</i> (Reeve, 1844) |
| 494 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | サザグミエガイ | <i>Estellacar oivacea</i> (Reeve, 1844) |
| 495 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | クイチガイサルボウ | <i>Scapharca inaequivalvis</i> (Bruguère, 1789) |
| 496 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | サルボウ | <i>Scapharca kagoshimensis</i> (Tokunaga, 1906) |
| 497 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | アカガイ | <i>Scapharca broughtonii</i> (Schrenck, 1867) |
| 498 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | フネガイ目 | Arcoidea | フネガイ科 | Arcidae | ハイガイ | <i>Tegillarca granosa</i> (Linnaeus, 1758) |
| 499 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ミミエガイ | <i>Arcopsis symmetrica</i> (Reeve, 1844) |
| 500 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | スキゲヒバリ | <i>Brachidontes setigera</i> (Dunker, 1857) |
| 501 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ヒバリガイモドキ | <i>Hormomya mutabilis</i> (Gould, 1861) |
| 502 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | リュウキュウヒバリガイ | <i>Modiolus auriculatus</i> (Krauss, 1848) |
| 503 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | サザミマクラ | <i>Modiolus flavidus</i> (Dunker, 1857) |
| 504 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | コケガラス | <i>Modiolus metcalfei</i> (Hanley, 1843) |
| 505 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ヒバリガイ | <i>Modiolus nipponicus</i> (Oyama, 1950) |
| 506 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ホソスジヒバリ | <i>Modiolus philippinarum</i> (Hanley, 1843) |
| 507 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ホトトギス | <i>Musculista senhousia</i> (Benson, 1842) |
| 508 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ムラサキイガイ | <i>Mytilus galloprovincialis</i> Lamarck, 1819 |
| 509 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | クジャクガイ | <i>Septifer bilocularis</i> (Linnaeus, 1758) |
| 510 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ヒメイガイ | <i>Septifer keenae</i> Nomura, 1936 |
| 511 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | ムラサキインコ | <i>Septifer virgatus</i> (Wiegmann, 1837) |
| 512 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | クログチ | <i>Xenostrobus atratus</i> (Lischke, 1871) |
| 513 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | コウエンカワヒバリガイ | <i>Xenostrobus securis</i> (Lamarck, 1819) |
| 514 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | イガイ目 | Mytiloidea | イガイ科 | Mytilidae | イガイ科の1種 | Mytilidae sp. |
| 515 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioidea | ハボウキガイ科 | Pinnidae | タイラギ | <i>Atrina (Servatrina) pectinata</i> (Linnaeus, 1767) |
| 516 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioidea | マクガイ科 | Isognomonidae | ヘリトリアオリ | <i>Isognomon acutirostris</i> (Dunker, 1848) |
| 517 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioidea | マクガイ科 | Isognomonidae | マクガイ | <i>Isognomon ephippium</i> (Linnaeus, 1758) |
| 518 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioidea | マクガイ科 | Isognomonidae | シュモクアオリ | <i>Isognomon isognomum</i> (Linnaeus, 1758) |
| 519 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioidea | マクガイ科 | Isognomonidae | シロアオリ | <i>Isognomon legumen</i> (Gmelin, 1791) |
| 520 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioidea | シュモクガイ科 | Malleidae | クロシュミセン | <i>Malleus (Malleus) malleus</i> (Linnaeus, 1758) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|------|----------|----------|-----------|----------|---------------|------------------------|--|
| 521 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioida | シュモクガイ科 | Malleidae | ニワトリガキ | <i>Malleus (Malvufundus) regula</i> (Forskål, 1775) |
| 522 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioida | ウグイスガイ科 | Pteriidae | ミドリアオリ | <i>Pinctada maculata</i> (Gould, 1850) |
| 523 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioida | ウグイスガイ科 | Pteriidae | アコヤガイ | <i>Pinctada martensii</i> (Dunker, 1873) |
| 524 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioida | ハボウキガイ科 | Pinnidae | ハボウキガイ | <i>Pinna bicolor</i> Gmelin, 1791 |
| 525 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウグイスガイ目 | Pterioida | ハボウキガイ科 | Pinnidae | イワカワハゴロモ | <i>Pinna muricata</i> Linnaeus, 1758 |
| 526 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ミノガイ目 | Limoida | ミノガイ科 | Limidae | ユキミノガイ | <i>Limaria basilanica</i> (A. Adams et Reeve, 1850) |
| 527 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ミノガイ目 | Limoida | ミノガイ科 | Limidae | フクレユキミノ | <i>Limaria hakodatensis</i> (Tokunaga, 1906) |
| 528 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタヤガイ科 | Pectinidae | アズマニシキ | <i>Chlamys farreri nipponensis</i> (Kuroda, 1932) |
| 529 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタヤガイ科 | Pectinidae | シロスジナデシコ | <i>Mimachlamys albolineata</i> (Sowerby, 1842) |
| 530 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | ウミギク科 | Spondyliidae | ウミギク | <i>Spondylus cruentus</i> Lischke, 1856 |
| 531 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | ウミギク科 | Spondyliidae | メンガイ | <i>Spondylus squamosus</i> Schreibers, 1793 |
| 532 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | ナミマガシワ科 | Anomiidae | ナミマガシワ | <i>Anomia chinensis</i> Philippi, 1849 |
| 533 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | マガキ | <i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg, 1793) |
| 534 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | マガキと思われる1種 | <i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg, 1793)? |
| 535 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | イワガキ | <i>Crassostrea nippona</i> (Seki, 1934) |
| 536 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | ノコギリガキ | <i>Dendostrea rosacea</i> (Deshayes, 1836) |
| 537 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | イタボガキ | <i>Ostrea denselamellosa</i> Lischke, 1869 |
| 538 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | クロヒメガキ | <i>Ostrea futamiensis</i> Seki, 1929 |
| 539 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | オハグロガキモドキ | <i>Saccostrea cucullata</i> (von Born, 1778) |
| 540 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | ニセマガキ | <i>Saccostrea echinata</i> (Quoy et Gaimard, 1835) |
| 541 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | ケガキ | <i>Saccostrea kegaki</i> Torigoe et Inaba, 1981 |
| 542 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | オハグロガキ | <i>Saccostrea mordax</i> (Gould, 1850) |
| 543 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | カキ目 | Ostreoida | イタボガキ科 | Ostreidae | <i>Saccostrea</i> 属の1種 | <i>Saccostrea</i> sp. |
| 544 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ツキガイ科 | Lucinidae | カブラツキガイ | <i>Anodontia edentula</i> (Linnaeus, 1758) |
| 545 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Pterioida | ツキガイ科 | Lucinidae | シワツキガイ | <i>Eamesiella corrugata</i> (Deshayes, 1843) |
| 546 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ツキガイ科 | Lucinidae | ヒメツキガイ | <i>Epicodakia bella</i> (Conrad, 1837) |
| 547 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ツキガイ科 | Lucinidae | ウメノハナガイ | <i>Pillucina pisidium</i> (Dunker, 1860) |
| 548 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ツキガイ科 | Lucinidae | チヂミウメノハナ | <i>Wallucina striata</i> (Tokunaga, 1906) |
| 549 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フタバシラガイ科 | Ungulimidae | ヒメシオガマ | <i>Cycladicama abbreviata</i> (Gould, 1861) |
| 550 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フタバシラガイ科 | Ungulimidae | ウツシジミ | <i>Felaniella usta</i> (Gould, 1861) |
| 551 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フタバシラガイ科 | Ungulimidae | フタバシラガイ科の1種 (1) | Ungulimidae sp. 1 |
| 552 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フタバシラガイ科 | Ungulimidae | フタバシラガイ科の1種 (2) | Ungulimidae sp. 2 |
| 553 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ケントリガイ | <i>Abeinus ojanus</i> (Yokoyama, 1927) |
| 554 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ヒノマルズキン | <i>Anisodemonia ohshimai</i> (Kawahara, 1942) |
| 555 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | <i>Arthritica</i> 属の1種 | <i>Arthritica</i> sp. |
| 556 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | アリアケケボリガイ | <i>Borniopsis ariakensis</i> Habe, 1959 |
| 557 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ツルマルケボリガイ | <i>Borniopsis tsurumaru</i> Habe, 1959 |
| 558 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ヒナノズキン | <i>Entovalva semperi</i> Ohshima, 1930 |
| 559 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ハナピラガイ | <i>Fronsella ohshimai</i> Habe, 1958 |
| 560 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | フィリピンハナピラガイ | <i>Fronsella philippinensis</i> Habe et Kanazawa, 1981 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|------|----------|----------|-----------|----------|----------------|-----------------------|---|
| 561 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | コハクノツユ | <i>Kellia porculus</i> Pilsbry, 1904 |
| 562 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | チリハギガイ | <i>Lasaea undulata</i> (Goud, 1861) |
| 563 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ウロコガイ | <i>Lepirodes takii</i> (Kuroda, 1945) |
| 564 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ユンタクシジミ | <i>Liigiella pacifica</i> Lutzen et Kosuge, 2006 |
| 565 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | スジホシムシヤドリガイ | <i>Nipponomysella subtruncata</i> (Yokoyama, 1922) |
| 566 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | マゴコロガイ | <i>Peregrinamor oshimai</i> Shoji, 1938 |
| 567 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ニッポンマメアゲマキ | <i>Pseudogaleomma japonica</i> (A. Adams, 1864) |
| 568 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ナタメケボリ | <i>Pseudopythina ochetostoma</i> Morton et Scott, 1989 |
| 569 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | ツマベニマメアゲマキ | <i>Scintilla</i> sp. |
| 570 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | <i>Scintilla</i> 属の1種 | <i>Scintilla</i> sp. |
| 571 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ウロコガイ科 | Galeommatidae | イオウシタタリ | <i>Scintilla timorensis</i> Deshayes, 1856 |
| 572 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | トマヤガイ科 | Cardiidae | クロフトマヤガイ | <i>Cardita variegata</i> Bruguière, 1792 |
| 573 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | キクザルガイ科 | Chamidae | ケイトウガイ | <i>Chama dunkeri</i> Lischke, 1870 |
| 574 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | キクザルガイ科 | Chamidae | カネソケキクザル | <i>Chama iostoma</i> Conrad, 1837 |
| 575 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | キクザルガイ科 | Chamidae | <i>Chama</i> 属の1種 | <i>Chama</i> sp. |
| 576 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | ヒシガイ | <i>Fragum bannoi</i> (Otsuka, 1937) |
| 577 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | オオヒシガイ | <i>Fragum fragum</i> (Linnaeus, 1758) |
| 578 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | <i>Fragum</i> 属の1種 | <i>Fragum</i> sp. |
| 579 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | カワラガイ | <i>Fragum unedo</i> (Linnaeus, 1758) |
| 580 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | エマイボタン | <i>Fulvia hungerfordi</i> (Sowerby, 1901) |
| 581 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | トリガイ | <i>Fulvia mutica</i> (Reeve, 1844) |
| 582 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | マラチゴトリガイ | <i>Laevicardium undatopictum</i> (Pilsbry, 1904) |
| 583 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ザルガイ科 | Cardiidae | リュウキュウザルガイ | <i>Regozara flavum</i> (Linnaeus, 1758) |
| 584 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | オオトリガイ | <i>Lutraria maxima</i> Jonas, 1844 |
| 585 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | バカガイ | <i>Mactra chinensis</i> Philippi, 1846 |
| 586 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | エソバカガイ | <i>Mactra chinensis carneopicta</i> H. A. Pilsbry, 1904 |
| 587 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | タママキ | <i>Mactra cuneata</i> Gmelin, 1791 |
| 588 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | リュウキュウバカガイ | <i>Mactra maculata</i> Gmelin, 1791 |
| 589 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | リュウキュウアリソガイ | <i>Mactra mera</i> Reeve, 1852 |
| 590 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | チゴバカガイ | <i>Mactra nipponica</i> Kuroda et Habe in Kuroda, Habe et Oyama, 1971 |
| 591 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | トウカウタママキ | <i>Mactra pulchella</i> Philippi, 1852 |
| 592 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | シオフキ | <i>Mactra quadrangularis</i> G. P. Deshayes, 1853 |
| 593 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | ユキガイ | <i>Meropesta nicobarica</i> (Gmelin, 1791) |
| 594 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | ウバガイ | <i>Pseudocardium sachalinense</i> (Schrenck, 1862) |
| 595 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | バカガイ科 | Mactridae | ミルクイ | <i>Tresus keenae</i> (Kuroda et Habe, 1950) |
| 596 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | チドリマスオ科 | Mesodesmatidae | イソハマグリ | <i>Atactodea striata</i> (Gmelin, 1791) |
| 597 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | チドリマスオ科 | Mesodesmatidae | クチバガイ | <i>Coecella chinensis</i> Deshayes, 1855 |
| 598 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フジノハナガイ科 | Donacidae | キュウシュウナミノコ | <i>Latona kiusiuensis</i> (Pilsbry, 1901) |
| 599 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フジノハナガイ科 | Donacidae | リュウキュウナミノコ | <i>Lotona faba</i> (Gmelin, 1791) |
| 600 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ミクニシボリザクラ | <i>Loxoglypta compta</i> (Gould, 1850) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|------|----------|----------|-----------|----------|--------------|--------------------|--|
| 601 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ハスメザクラ | <i>Loxogypta transculpta</i> (Sowerby III, 1915) |
| 602 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | サビシラトリ | <i>Macoma contaculata</i> (Deshayes, 1854) |
| 603 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ヒメシラトリ | <i>Macoma incongrua</i> (Martens, 1865) |
| 604 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | サギガイ | <i>Macoma sector</i> Oyama, 1950 |
| 605 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | サラガイ | <i>Megangulus venulosa</i> (Schrenck, 1861) |
| 606 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | トガリユウシオガイ | <i>Moerella culter</i> (Hanley, 1844) |
| 607 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | テリザクラ | <i>Moerella iridescens</i> (Benson, 1842) |
| 608 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ユウシオガイ | <i>Moerella rutila</i> (Dunker, 1860) |
| 609 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | サクラガイ | <i>Nitidotellina hokkaidoensis</i> (Habe, 1961) |
| 610 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | Nitidotellina 属の1種 | <i>Nitidotellina</i> sp. |
| 611 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ダイミョウガイ | <i>Pharaonella perna</i> (Spengler, 1798) |
| 612 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ミガキヒメザラ | <i>Pinguitellina pinguis</i> (Hanley, 1844) |
| 613 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | イチョウシラトリ | <i>Pistris capsoides</i> (Lamarck, 1818) |
| 614 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | オトゲウネガイ | <i>Quadrans gargadia</i> (Linnaeus, 1758) |
| 615 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | リュウキュウシラトリ | <i>Quidnypagus palatam</i> (Iredale, 1929) |
| 616 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | リュウキュウザクラ | <i>Tellina (Moerella) philippinensis</i> (Hanley, 1844) |
| 617 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ウスザクラ | <i>Tellina (Nitidotellina) minuta</i> Lischke, 1872 |
| 618 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ヒメニッコウガイ | <i>Tellinella staurella</i> (Lamarck, 1818) |
| 619 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ヒノデガイ | <i>Tellinella crucigera</i> (Lamarck, 1818) |
| 620 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ニッコウガイ | <i>Tellinella virgata</i> (Linnaeus, 1758) |
| 621 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ニッコウガイ科 | Tellinidae | ヘラサギガイ | <i>Tellinides timorensis</i> Lamarck, 1818 |
| 622 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | アサジガイ科 | Semelidae | シロバトガイ | <i>Abrina lunella</i> (Gould, 1861) |
| 623 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | アサジガイ科 | Semelidae | ミジンコチョウシャクシ | <i>Leptomya minuta</i> Habe, 1960 |
| 624 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | アサジガイ科 | Semelidae | サメザラモドキ | <i>Semele carnicolor</i> (Hanley, 1845) |
| 625 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | アサジガイ科 | Semelidae | シズクガイ | <i>Theora fragilis</i> (A. Adams, 1855) |
| 626 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | リュウキュウマスオ | <i>Asaphis violascens</i> (Forsk., 1775) |
| 627 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | アシガイ | <i>Gari (Gari) maculosa</i> (Lamarck, 1818) |
| 628 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | エゾイソシジミ | <i>Nuttalia ezonis</i> Kuroda et Habe, 1955 |
| 629 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | イソシジミ | <i>Nuttalia japonica</i> (Reeve, 1857) |
| 630 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | ワスレイソシジミ | <i>Nuttalia obscurata</i> (Reeve, 1857) |
| 631 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | マスオガイ | <i>Psammotaea elongata</i> (Lamarck, 1818) |
| 632 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | Psammotaea inflata | <i>Psammotaea inflata</i> (Bertin, 1880) |
| 633 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | ハザクラ | <i>Psammotaea minor</i> (Deshayes, 1855) |
| 634 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | オチバガイ | <i>Psammotaea virescens</i> (Deshayes, 1855) |
| 635 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | シオバマスオ | <i>Soletellina (Soletellina) petalina</i> (Deshayes, 1855) |
| 636 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シオサザナミ科 | Psammobiidae | ムラサキガイ | <i>Soletellina diphos</i> (Linnaeus, 1771) |
| 637 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | キヌタアグマキ科 | Solecurtidae | ズンリアグマキ | <i>Azorinus abbreviatus</i> (Gould, 1861) |
| 638 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | キヌタアグマキ科 | Solecurtidae | オオズングリアグマキ | <i>Azorinus scheepmakeri</i> (Dunker, 1852) |
| 639 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | キヌタアグマキ科 | Solecurtidae | キヌタアグマキ | <i>Solecurtus divaricatus</i> (Lischke, 1869) |
| 640 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マテガイ科 | Solenidae | チゴマテガイ | <i>Solen dunkerianus</i> Clessin, 1883 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|------|----------|----------|-----------|----------|--------------|-----------------------|---|
| 641 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マテガイ科 | Solenidae | アカマテ | <i>Solen gordonis</i> Yokoyama, 1920 |
| 642 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マテガイ科 | Solenidae | エゾマテガイ | <i>Solen krusensternii</i> Schrenck, 1867 |
| 643 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マテガイ科 | Solenidae | バラフマテ | <i>Solen roseomaculatus</i> Pilsbry, 1901 |
| 644 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マテガイ科 | Solenidae | マテガイ | <i>Solen strictus</i> Gould, 1861 |
| 645 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マテガイ科 | Solenidae | <i>Solen</i> 属の1種 | <i>Solen</i> sp. |
| 646 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マテガイ科 | Solenidae | マテガイ科の1種 | <i>Solenidae</i> sp. |
| 647 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ユキノアシタ科 | Cultelidae | オオミゾガイ | <i>Siliqua alta</i> (Broderip et Sowerby, 1829) |
| 648 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フナガタガイ科 | Trapeziidae | ウネナシトマヤガイ | <i>Trapezium liratum</i> (Reeve, 1843) |
| 649 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | フナガタガイ科 | Trapeziidae | タガソデモドキ | <i>Trapezium sublaevigatum</i> (Lamarck, 1819) |
| 650 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シジミ科 | Corbiculidae | タイワンシジミ | <i>Corbicula fluminea</i> Müller, 1774 |
| 651 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シジミ科 | Corbiculidae | ヤマトシジミ | <i>Corbicula japonica</i> Prime, 1864 |
| 652 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シジミ科 | Corbiculidae | マシジミ | <i>Corbicula leana</i> Prime, 1864 |
| 653 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シジミ科 | Corbiculidae | ウスシジミ | <i>Corbicula papyracea</i> Spix, 1827 |
| 654 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シジミ科 | Corbiculidae | <i>Corbicula</i> 属の1種 | <i>Corbicula</i> sp. |
| 655 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | シジミ科 | Corbiculidae | シレナシジミ | <i>Gelotina coaxans</i> (Gmelin, 1791) |
| 656 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Pterioida | シジミ科 | Corbiculidae | ヤエヤマヒルギシジミ | <i>Gelonia erosa</i> (Lightfoot, 1786) |
| 657 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | シオヤガイ | <i>Anomalocardia squamosa</i> (Linnaeus, 1758) |
| 658 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | オイノカガミ | <i>Bonartemis histrio histrio</i> (Gmelin, 1971) |
| 659 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | マツヤマワスレ | <i>Callista chinensis</i> (Holten, 1803) |
| 660 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | シラオガイ | <i>Circe (Circe) scripta</i> (Linnaeus, 1758) |
| 661 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | オキシジミ | <i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin, 1791) |
| 662 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ケマンガイ | <i>Gafrarium divaricatum</i> (Gmelin, 1791) |
| 663 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ホソズイナミ | <i>Gafrarium pectinatum</i> (Linnaeus, 1758) |
| 664 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | アラズジケマン | <i>Gafrarium tumidum</i> (Röding, 1798) |
| 665 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | カノコアサリ | <i>Glycydonta marica</i> (Linnaeus, 1758) |
| 666 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ヤエヤマダレ | <i>Kataysia hiantina</i> (Lamarck, 1818) |
| 667 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | スダレハマグリ | <i>Kataysia japonica</i> (Gmelin, 1791) |
| 668 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ホンビノスガイ | <i>Mercenaria mercenaria</i> (Linnaeus, 1758) |
| 669 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ビノスガイ | <i>Mercenaria stimpsoni</i> (Gould, 1861) |
| 670 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ハマグリ | <i>Meretrix lusoria</i> (Röding, 1798) |
| 671 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | シナハマグリ | <i>Meretrix pethelialis</i> (Lamarck, 1818) |
| 672 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | トゥドゥマリハマグリ | <i>Meretrix</i> sp. |
| 673 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | イヨスダレ | <i>Paphia undulata</i> (Born, 1778) |
| 674 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | アケガイ | <i>Paphia vernicosa</i> (Gould, 1861) |
| 675 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ツキカガミ | <i>Phacosoma aspera</i> (Reeve, 1850) |
| 676 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | カガミガイ | <i>Phacosoma japonicum</i> (Reeve, 1850) |
| 677 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | イオウハマグリ | <i>Pitar (Pitarina) sulfreum</i> Pilsbry, 1904 |
| 678 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | オニアサリ | <i>Protothaca jedoensis</i> (Lischke, 1874) |
| 679 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | アサリ | <i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams et Reeve, 1850) |
| 680 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ヒメアサリ | <i>Ruditapes variegatus</i> (Sowerby, 1852) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|------|-------------|------------|---------------|----------|-----------------|-------------------------------------|--|
| 681 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ヒメリュウキュウアサリ | <i>Tapes belcheri</i> Sowerby, 1853 |
| 682 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | マルスダレガイ科 | Veneridae | ヒメカノコアサリ | <i>Timoclea (Chioneryx) micra</i> (Pilsbry, 1904) |
| 683 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | イワホリガイ科 | Petricolidae | セミアサリ | <i>Claudiconcha japonica</i> (Dunker, 1882) |
| 684 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | マルスダレガイ目 | Veneroida | ハナグモリ科 | Glauconomidae | ハナグモリ | <i>Glauconome chinensis</i> Gray, 1828 |
| 685 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | オオノガイ科 | Myidae | オオノガイ | <i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i> Makiyama, 1935 |
| 686 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | オオノガイ科 | Myidae | キタノオオノガイ | <i>Mya (Arenomya) japonica</i> Jay, 1857 |
| 687 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | オオノガイ科 | Myidae | クシケマスオ | <i>Venatomya truncata</i> (Gould, 1861) |
| 688 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | クチベニガイ科 | Corbulidae | ヒラタヌマコダキガイ | <i>Potamocorbula laevis</i> Hinds, 1843 |
| 689 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | キヌマトイガイ科 | Hiatellidae | ナミガイ | <i>Panopea japonica</i> A. Adams, 1850 |
| 690 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | ニオガイ科 | Pholadidae | ニオガイ | <i>Barnea (Anchomasa) manilensis</i> (Philippi, 1847) |
| 691 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | フナクイムシ科 | Teredinidae | ヤツフナクイムシ | <i>Lyrodes pedicellatus</i> (Quatrefagus, 1845) |
| 692 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | フナクイムシ科 | Teredinidae | <i>Nausitora duniopei</i> | <i>Nausitora duniopei</i> Wright, 1864 |
| 693 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | フナクイムシ科 | Teredinidae | フナクイムシ | <i>Teredo navalis</i> Linnaeus, 1758 |
| 694 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | フナクイムシ科 | Teredinidae | フナクイムシ科の1種 | Teredinidae sp. |
| 695 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | オオノガイ目 | Myoida | ツクエガイ科 | Gastrochaenidae | コツツガイ | <i>Eufistulana grandis</i> (Deshayes, 1855) |
| 696 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウミタケガイモドキ目 | Pholadomyoida | オキナガイ科 | Laternulidae | ソトオリガイ | <i>Laternula (Exolaternula) maritima</i> (Reeve, 1863) |
| 697 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウミタケガイモドキ目 | Pholadomyoida | オキナガイ科 | Laternulidae | コオキナガイ | <i>Laternula boschasina</i> (Reeve, 1863) |
| 698 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウミタケガイモドキ目 | Pholadomyoida | オキナガイ科 | Laternulidae | ヒロクテソトオリガイ | <i>Laternula truncata</i> (Lamarck, 1818) |
| 699 | 軟体動物門 | Mollusca | 二枚貝綱 | Bivalvia | ウミタケガイモドキ目 | Pholadomyoida | スエモノガイ科 | Thraciidae | シナヤカスエモノガイ | <i>Thracia (Eximiothracia) concinna</i> Gould, 1861 |
| 700 | 軟体動物門 | Mollusca | 頭足綱 | Cephalopoda | コウイカ目 | Sepioida | ダンゴイカ科 | Sepiolidae | ミミイカ | <i>Euprymna morsei</i> (Verrill, 1881) |
| 701 | 軟体動物門 | Mollusca | 頭足綱 | Cephalopoda | - | - | - | - | イカ類の1種(卵塊) | Cephalopoda sp. |
| 702 | 軟体動物門 | Mollusca | 頭足綱 | Cephalopoda | 八腕形目 | Octopoda | マダコ科 | Octopodidae | マダコ | <i>Octopus vulgaris</i> Cuvier, 1797 |
| 703 | 軟体動物門 | Mollusca | 頭足綱 | Cephalopoda | 八腕形目 | Octopoda | マダコ科 | Octopodidae | アナダコ | <i>Octopus oliveri</i> (Betty, 1914) |
| 704 | 軟体動物門 | Mollusca | 頭足綱 | Cephalopoda | 八腕形目 | Octopoda | マダコ科 | Octopodidae | テナガダコ | <i>Octopus minor</i> (Sasaki, 1920) |
| 705 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | <i>Anaitides</i> 属の1種 | <i>Anaitides</i> sp. |
| 706 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | ホソミサシバ | <i>Eteone cf. longa</i> (Fabricius, 1780) |
| 707 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | マダラサシバ | <i>Eumida sanguinea</i> (Oersted, 1843) |
| 708 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | マダラサシバと思われる1種 | <i>Eumida sanguinea</i> (Oersted, 1843)? |
| 709 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | <i>Eumida</i> 属の1種 | <i>Eumida</i> sp. |
| 710 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | <i>Nereiphylla castanea</i> と思われる1種 | <i>Nereiphylla castanea</i> (Marenzeller, 1879)? |
| 711 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | ウロコサシバ | <i>Notophyllum japonicum</i> Marenzeller, 1879 |
| 712 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | <i>Phyllodoce papillosa</i> | <i>Phyllodoce papillosa</i> Ehlers, 1887 |
| 713 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | <i>Phyllodoce</i> 属の1種 | <i>Phyllodoce</i> sp. |
| 714 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | サシバゴカイ科 | Phyllodocidae | サシバゴカイ科の1種 | Phyllodocidae sp. |
| 715 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera brevicirris</i> | <i>Glycera brevicirris</i> Grube, 1870 |
| 716 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera sagittariae</i> と思われる1種 | <i>Glycera cf. sagittariae</i> McIntosh, 1885 |
| 717 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera macintoshi</i> | <i>Glycera macintoshi</i> Grube, 1877 |
| 718 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | チロリ | <i>Glycera nicobarica</i> Grube, 1868 |
| 719 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera onomichiensis</i> | <i>Glycera onomichiensis</i> Izuka, 1912 |
| 720 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera oxycephala</i> | <i>Glycera oxycephala</i> Ehlers, 1887 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|---------|--------------|----------|------------|--------------------------------------|--|
| 721 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera pacifica</i> | <i>Glycera pacifica</i> (Kinberg, 1865) |
| 722 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera pacifica</i> と思われる1種 | <i>Glycera pacifica</i> (Kinberg, 1865)? |
| 723 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera tridactyla</i> | <i>Glycera tridactyla</i> Schmarda, 1861 |
| 724 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera alba</i> | <i>Glycera alba</i> (Müller, 1788) |
| 725 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera</i> 属の1種 | <i>Glycera</i> sp. |
| 726 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera</i> 属の1種 (1) | <i>Glycera</i> sp. 1 |
| 727 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | <i>Glycera</i> 属の1種 (2) | <i>Glycera</i> sp. 2 |
| 728 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | ヒナサキチロリ | <i>Hemipodia yenourensis</i> (Izuka, 1912) |
| 729 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | チロリ科 | Glyceridae | チロリ科の1種 | Glyceridae sp. |
| 730 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ニカイチロリ科 | Goniadidae | <i>Glycinde</i> 属の1種 | <i>Glycinde</i> sp. |
| 731 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ニカイチロリ科 | Goniadidae | <i>Glycinde</i> 属と思われる1種 | <i>Glycinde</i> ? sp. |
| 732 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ニカイチロリ科 | Goniadidae | ヤマトキョウスチロリ | <i>Goniada japonica</i> Izuka, 1912 |
| 733 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ニカイチロリ科 | Goniadidae | ヤマトキョウスチロリと思われる1種 | <i>Goniada japonica</i> Izuka, 1912? |
| 734 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ニカイチロリ科 | Goniadidae | <i>Goniada</i> 属の1種 | <i>Goniada</i> sp. |
| 735 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ニカイチロリ科 | Goniadidae | ニカイチロリ科の1種 | Goniadidae sp. |
| 736 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | オトヒメゴカイ科 | Hesionidae | <i>Ophiodromus</i> 属の1種 | <i>Ophiodromus</i> sp. |
| 737 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | オトヒメゴカイ科 | Hesionidae | <i>Gyptis</i> 属の1種 | <i>Gyptis</i> sp. |
| 738 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | オトヒメゴカイ科 | Hesionidae | <i>Gyptis</i> 属と思われる1種 | <i>Gyptis</i> ? sp. |
| 739 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | オトヒメゴカイ科 | Hesionidae | オトヒメゴカイ科の1種 | Hesionidae sp. |
| 740 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | カギゴカイ科 | Pilargidae | <i>Cabira</i> 属の1種 | <i>Cabira</i> sp. |
| 741 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | カギゴカイ科 | Pilargidae | クシカギゴカイ | <i>Sigambra phuketensis</i> Licher et Westheide, 1997 |
| 742 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | カギゴカイ科 | Pilargidae | <i>Sigambra</i> 属の1種 | <i>Sigambra</i> sp. |
| 743 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シリス科 | Syllidae | ケナガシリス | <i>Langerhansia cornuta</i> (Rathke, 1843) |
| 744 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シリス科 | Syllidae | <i>Opisthosyllis</i> 属の1種 | <i>Opisthosyllis</i> sp. |
| 745 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シリス科 | Syllidae | ヒトゲシリス | <i>Syllis amica</i> Quatrefages, 1865 |
| 746 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シリス科 | Syllidae | カスリシリス | <i>Typosyllis aciculata orientalis</i> Imajima et Hartman, 1964 |
| 747 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シリス科 | Syllidae | ミドリシリス | <i>Typosyllis nipponica</i> Imajima, 1966 |
| 748 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シリス科 | Syllidae | <i>Typosyllis</i> 属の1種 | <i>Typosyllis</i> sp. |
| 749 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | コケゴカイ | <i>Ceratonereis erythraeensis</i> Fauvel, 1918 |
| 750 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | コケゴカイ近似種 | <i>Ceratonereis</i> aff. <i>erythraeensis</i> Fauvel, 1918 |
| 751 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | キレコミゴカイ | <i>Ceratonereis japonica</i> Imajima, 1972 |
| 752 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Ceratonereis</i> 属の1種 | <i>Ceratonereis</i> sp. |
| 753 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | アリアケカワゴカイ | <i>Hediste japonica</i> (Izuka, 1908) |
| 754 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ | <i>Hediste</i> spp. (<i>Hediste atoka</i> or <i>H. diadroma</i>) |
| 755 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Leonnates persicus</i> と思われる1種 | <i>Leonnates</i> cf. <i>persicus</i> Wesenberg-Lund, 1948 |
| 756 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | オイワケゴカイ | <i>Lycaptosis augeneri</i> Okuda, 1937 |
| 757 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Namalycastis</i> 属の1種 | <i>Namalycastis</i> sp. |
| 758 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Neanthes glandicincta</i> と思われる1種 | <i>Neanthes</i> cf. <i>glandicincta</i> (Southern, 1921) |
| 759 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | アシナゴカイ | <i>Neanthes succinea</i> (Frey et Leuckart, 1847) |
| 760 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | ジャムシ | <i>Neanthes vires</i> (Sars, 1835) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|---------|--------------|----------|------------|---------------------------------------|--|
| 761 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | オウギゴカイ | <i>Nectoneanthes latipoda</i> Paik, 1973 |
| 762 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | ウチゴカイ | <i>Nectoneanthes oxypoda</i> (Marenzeller, 1879) |
| 763 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | フツウゴカイ | <i>Nereis pelagica</i> Linnaeus, 1758 |
| 764 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Nereis</i> 属の1種 | <i>Nereis</i> sp. |
| 765 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | エソゴカイ | <i>Nereis vexillosa</i> Grube, 1851 |
| 766 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | ニシキゴカイ | <i>Nereis zonata</i> Malmgren, 1867 |
| 767 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Perinereis weihouensis</i> と思われる1種 | <i>Perinereis</i> cf. <i>weihouensis</i> Wu, Sun et Yang, 1985 |
| 768 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | クマドリゴカイ | <i>Perinereis cultrifera</i> (Grube, 1840) |
| 769 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | スナイソゴカイ | <i>Perinereis nuntia brevicirris</i> (Grube, 1857) |
| 770 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | イシソゴカイ | <i>Perinereis nuntia vallata</i> (Grube, 1857) |
| 771 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Perinereis nuntia</i> の1亜種 | <i>Perinereis nuntia</i> subsp. Indet. |
| 772 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | ツルヒゲゴカイ | <i>Platynereis bicanaliculata</i> (Baird, 1863) |
| 773 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | イトメ | <i>Tylorrhynchus heterochaetus</i> (Quatrefages, 1865) |
| 774 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | <i>Tylorrhynchus</i> 属の1種 | <i>Tylorrhynchus</i> sp. |
| 775 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ゴカイ科 | Nereididae | ゴカイ科の1種 | Nereididae sp. |
| 776 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シロガネゴカイ科 | Nephtyidae | <i>Aglaophamus</i> 属の1種 | <i>Aglaophamus</i> sp. |
| 777 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シロガネゴカイ科 | Nephtyidae | ハヤテシロガネゴカイ | <i>Nephtys caeca</i> (Fabricius, 1780) |
| 778 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シロガネゴカイ科 | Nephtyidae | フトエラシロガネゴカイ | <i>Nephtys discors</i> Ehlers, 1868 |
| 779 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シロガネゴカイ科 | Nephtyidae | ミナミシロガネゴカイ | <i>Nephtys polybranchia</i> Southern, 1921 |
| 780 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シロガネゴカイ科 | Nephtyidae | <i>Nephtys</i> 属の1種 | <i>Nephtys</i> sp. |
| 781 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | シロガネゴカイ科 | Nephtyidae | シロガネゴカイ科の1種 | Nephtyidae sp. |
| 782 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | トゲイカリナマコウロコムシ | <i>Arctonoella</i> sp. |
| 783 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | <i>Arctonoella</i> 属の1種 | <i>Arctonoella</i> sp. |
| 784 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | キセイウロコムシ亜科の1種 | Arctonoidea sp. |
| 785 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ゴマフウロコムシ | <i>Harmothoe dyctyophora</i> (Grube, 1878) |
| 786 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | マダラウロコムシ | <i>Harmothoe imbricata</i> (Linnaeus, 1767) |
| 787 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | <i>Harmothoe</i> 属の1種 | <i>Harmothoe</i> sp. |
| 788 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | マダラウロコムシ亜科の1種 | Harmothoidea sp. |
| 789 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | アナジャコウロコムシ | <i>Hesperonoe hwanghaiensis</i> Uschakov et Wu, 1959 |
| 790 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ナガウロコムシ | <i>Lepidasthenia izukai</i> Imajima et Hartman, 1964 |
| 791 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ナガウロコムシと思われる1種 | <i>Lepidasthenia izukai</i> Imajima et Hartman, 1964? |
| 792 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | <i>Lepidasthenia</i> 属の1種 | <i>Lepidasthenia</i> sp. |
| 793 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ハモチウロコムシ | <i>Lepidonotus dentatus</i> Okuda, 1954 |
| 794 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ヤチウロコムシ | <i>Lepidonotus elongatus</i> Marenzeller, 1902 |
| 795 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ヤチウロコムシと思われる1種 | <i>Lepidonotus elongatus</i> Marenzeller, 1902? |
| 796 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | フサウロコムシ | <i>Lepidonotus tenuisetosus</i> (Gravier, 1902) |
| 797 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | フサウロコムシ亜科の1種 | Lepidonotinae sp. |
| 798 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ウロコムシ科の1種 | Polynoidea sp. |
| 799 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ウロコムシ科の1種 (A) | Polynoidea sp. A |
| 800 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ウロコムシ科 | Polynoidea | ウロコムシ科の1種 (B) | Polynoidea sp. B |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|---------|--------------|-----------|-----------------|--------------------------------|---|
| 801 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ノラリウロコムシ科 | Sigalionidae | <i>Euthalenessa</i> 属の1種 | <i>Euthalenessa</i> sp. |
| 802 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ノラリウロコムシ科 | Sigalionidae | <i>Psammolice</i> 属の1種 | <i>Psammolice</i> sp. |
| 803 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ノラリウロコムシ科 | Sigalionidae | <i>Sigalion</i> 属の1種 | <i>Sigalion</i> sp. |
| 804 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ノラリウロコムシ科 | Sigalionidae | <i>Sthenelais</i> 属の1種 | <i>Sthenelais</i> sp. |
| 805 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | ノラリウロコムシ科 | Sigalionidae | ノラリウロコムシ科の1種 | Sigalionidae sp. |
| 806 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | タンザクゴカイ科 | Chrysopetalidae | <i>Bhawania</i> 属の1種 | <i>Bhawania</i> sp. |
| 807 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | サシバゴカイ目 | Phyllodocida | タンザクゴカイ科 | Chrysopetalidae | タンザクゴカイ科の1種 | Chrysopetalidae sp. |
| 808 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ウミケムシ目 | Amphinomida | ウミケムシ科 | Amphinomidae | ハナオレウミケムシ | <i>Eurythoe complanata</i> (Pallas, 1766) |
| 809 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ウミケムシ目 | Amphinomida | ウミケムシ科 | Amphinomidae | <i>Linopherus</i> 属の1種 | <i>Linopherus</i> sp. |
| 810 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ウミケムシ目 | Amphinomida | ウミケムシ科 | Amphinomidae | <i>Pareurythoe</i> 属の1種 | <i>Pareurythoe</i> sp. |
| 811 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ウミケムシ目 | Amphinomida | ウミケムシ科 | Amphinomidae | ウミケムシ | <i>Cloeia flava pulchell</i> Baird, 1868 |
| 812 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ウミケムシ目 | Amphinomida | ウミケムシ科 | Amphinomidae | <i>Eurythoe</i> 属の1種 | <i>Eurythoe</i> sp. |
| 813 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ウミケムシ目 | Amphinomida | ウミケムシ科 | Amphinomidae | ウミケムシ科の1種 | Amphinomidae sp. |
| 814 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | スゴカイイソメ | <i>Diopatra sugokai</i> Izuka, 1907 |
| 815 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | <i>Diopatra</i> 属の1種 | <i>Diopatra</i> sp. |
| 816 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | エノシマイソメ | <i>Kinbergonuphis enoshimaensis</i> Imajima, 1986 |
| 817 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | <i>Kinbergonuphis</i> 属の1種 | <i>Kinbergonuphis</i> sp. |
| 818 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | アマクサイソメ | <i>Onuphis amakusaensis</i> Maekawa et Hayashi, 1999 |
| 819 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | シジキイソメ | <i>Onuphis shijikiensis</i> Maekawa et Hayashi, 1999 |
| 820 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | キタイソメ | <i>Onuphis shirikishinaensis</i> (Imajima, 1960) |
| 821 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ナナテイソメ科 | Onuphidae | ナナテイソメ科の1種 | Onuphidae sp. |
| 822 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | イソメ科 | Eunicidae | イワムシ | <i>Marphysa sanguinea</i> (Montagu, 1815) |
| 823 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | イソメ科 | Eunicidae | <i>Marphysa</i> 属の1種 | <i>Marphysa</i> sp. |
| 824 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | イソメ科 | Eunicidae | <i>Marphysa</i> 属と思われる1種または複数種 | <i>Marphysa</i> ? sp. or spp. |
| 825 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | イソメ科 | Eunicidae | <i>Nematonereis</i> 属の1種 | Nematonereis sp. |
| 826 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | イソメ科 | Eunicidae | イソメ科の1種 | Eunicidae sp. |
| 827 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | フツウギボシイソメ | <i>Lumbrineris latreilli</i> (Audouin et Milne-Edwards, 1834) |
| 828 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | <i>Lumbrineris</i> 属の1種 | <i>Lumbrineris</i> sp. |
| 829 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | ナガギボシイソメ | <i>Scoletoma heteropoda</i> (Marenzeller, 1879) |
| 830 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | カタマガリギボシイソメ | <i>Scoletoma longifolia</i> (Imajima et Higuchi, 1975) |
| 831 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | カタマガリギボシイソメと思われる1種 | <i>Scoletoma longifolia</i> (Imajima et Higuchi, 1975)? |
| 832 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | コアシギボシイソメ | <i>Scoletoma nipponica</i> (Imajima et Higuchi, 1975) |
| 833 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | <i>Scoletoma</i> 属の1種 | <i>Scoletoma</i> sp. |
| 834 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ギボシイソメ科 | Lumbrineridae | ギボシイソメ科の1種 | Lumbrineridae sp. |
| 835 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | オエノニ科 | Oeononidae | セグロイソメ | <i>Arabella iricolor</i> (Montagu, 1804) |
| 836 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | オエノニ科 | Oeononidae | セグロイソメと思われる1種 | <i>Arabella iricolor</i> (Montagu, 1804)? |
| 837 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | オエノニ科 | Oeononidae | <i>Arabella</i> 属と思われる1種 | <i>Arabella</i> ? sp. |
| 838 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | オエノニ科 | Oeononidae | <i>Dilonereis</i> 属と思われる1種 | <i>Dilonereis</i> ? sp. |
| 839 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | オエノニ科 | Oeononidae | オエノニ科の1種 | Oeononidae sp. |
| 840 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソメ目 | Eunicida | ビクイソメ科 | Lysaretidae | アカムシ | <i>Halla okudai</i> Imajima, 1967 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|----------|-------------|----------|------------------|--------------------------------|---|
| 841 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イソム目 | Eunicida | コイソム科 | Dorvilleidae | コイソム科の1種 | Dorvilleidae sp. |
| 842 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ホコサキゴカイ目 | Orbinidia | ホコサキゴカイ科 | Orbiniidae | ナガホコムシ | <i>Haploscoloplos elongatus</i> (Johnson, 1901) |
| 843 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ホコサキゴカイ目 | Orbinidia | ホコサキゴカイ科 | Orbiniidae | <i>Haploscoloplos</i> 属と思われる1種 | <i>Haploscoloplos</i> ? sp. |
| 844 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ホコサキゴカイ目 | Orbinidia | ホコサキゴカイ科 | Orbiniidae | <i>Naineris</i> 属の1種 | <i>Naineris</i> sp. |
| 845 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ホコサキゴカイ目 | Orbinidia | ホコサキゴカイ科 | Orbiniidae | <i>Protoariciella</i> 属と思われる1種 | <i>Protoariciella</i> ? sp. |
| 846 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ホコサキゴカイ目 | Orbinidia | ホコサキゴカイ科 | Orbiniidae | <i>Leodamas</i> 亜属の1種 | <i>Scoloplos (Leodamas)</i> sp. |
| 847 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ホコサキゴカイ目 | Orbinidia | ホコサキゴカイ科 | Orbiniidae | ホコサキゴカイ科の1種 | Orbiniidae sp. |
| 848 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | ケンサキシピオ | <i>Aonides oxycephala</i> (Sars, 1862) |
| 849 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Aonides</i> 属の1種 | <i>Aonides</i> sp. |
| 850 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Dispio</i> 属の1種 | <i>Dispio</i> sp. |
| 851 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Dispio</i> 属と思われる1種 | <i>Dispio</i> ? sp. |
| 852 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | ツノスピオ | <i>Malacoceros indicus</i> (Fauvel, 1928) |
| 853 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Malacoceros</i> 属の1種 | <i>Malacoceros</i> sp. |
| 854 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Paraprionospio</i> 属の1種 | <i>Paraprionospio</i> sp. |
| 855 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | ヨツバナスピオ A型 | <i>Paraprionospio</i> sp. form A |
| 856 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Paraprionospio</i> 属と思われる1種 | <i>Paraprionospio</i> ? sp. |
| 857 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Polydora</i> 属の1種 | <i>Polydora</i> sp. |
| 858 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Polydora</i> 属と思われる1種 | <i>Polydora</i> ? sp. |
| 859 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | ヤマトスピオ | <i>Prionospio (Minuspio) japonica</i> Okuda, 1935 |
| 860 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | イガタマスピオ | <i>Prionospio (Minuspio) multibranchiata</i> Berkeley, 1927 |
| 861 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | マエラスピオ | <i>Prionospio (Minuspio) pulchra</i> Imajima, 1990 |
| 862 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | ドロオニスピオ | <i>Pseudopolydora</i> sp. |
| 863 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Pseudopolydora</i> 属の1種 | <i>Pseudopolydora</i> sp. |
| 864 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Pseudopolydora</i> 属と思われる1種 | <i>Pseudopolydora</i> ? sp. |
| 865 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Rhynchospio</i> 属の1種 | <i>Rhynchospio</i> sp. |
| 866 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Scolecopsis</i> 亜属の1種 | <i>Scolecopsis (Scolecopsis)</i> sp. |
| 867 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Scolecopsis</i> 属の1種 | <i>Scolecopsis</i> sp. |
| 868 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | <i>Spio</i> 属の1種 | <i>Spio</i> sp. |
| 869 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | スピオ科の1種 | Spionidae sp. |
| 870 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | スピオ科の1種または複数種 | Spionidae sp. or spp. |
| 871 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | スピオ科 | Spionidae | スピオ科の複数種 | Spionidae spp. |
| 872 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | トゥクリゴカイ科 | Poecilochaetidae | カザリトゥクリゴカイ | <i>Poecilochaetus elongatus</i> Imajima, 1989 |
| 873 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | スピオ目 | Spionida | トゥクリゴカイ科 | Poecilochaetidae | ノポリトゥクリゴカイ | <i>Poecilochaetus trilobatus</i> Imajima, 1989 |
| 874 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetoptera | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | ツバサゴカイ | <i>Chaetopterus cautus</i> Marenzeller, 1879 |
| 875 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetoptera | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | <i>Chaetopterus</i> 属の1種 | <i>Chaetopterus</i> sp. |
| 876 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetoptera | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | <i>Dasybranchus</i> 属と思われる1種 | <i>Dasybranchus</i> ? sp. |
| 877 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetoptera | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | ムギワラムシ | <i>Mesochaetopterus japonicus</i> Fujiwara, 1934 |
| 878 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetoptera | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | ムギワラムシと思われる1種 | <i>Mesochaetopterus japonicus</i> Fujiwara, 1934? |
| 879 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetoptera | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | スナタバムシと思われる1種 | <i>Mesochaetopterus minutus</i> Potts, 1914? |
| 880 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetoptera | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | <i>Phyllochaetopterus</i> 属の1種 | <i>Phyllochaetopterus</i> sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|-----------|---------------|-----------|----------------|--|--|
| 881 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetopterida | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | <i>Spiochaetopterus okinawaensis</i> と思われる1種 | <i>Spiochaetopterus</i> cf. <i>okinawaensis</i> Nishi et Bhaud, 2000 |
| 882 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetopterida | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | アシビキツバサゴカイ | <i>Spiochaetopterus okudai</i> Gitay, 1969 |
| 883 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetopterida | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | <i>Spiochaetopterus</i> 属の1種 | <i>Spiochaetopterus</i> sp. |
| 884 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetopterida | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | ツバサゴカイ科の1種 | Chaetopteridae sp. |
| 885 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ツバサゴカイ目 | Chaetopterida | ツバサゴカイ科 | Chaetopteridae | ツバサゴカイ科の1種または複数種 | Chaetopteridae sp. or spp. |
| 886 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | モロテゴカイ目 | Magelonida | モロテゴカイ科 | Magelonidae | モロテゴカイ | <i>Magelona japonica</i> Okuda, 1937 |
| 887 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | モロテゴカイ目 | Magelonida | モロテゴカイ科 | Magelonidae | <i>Magelona</i> 属の1種 | <i>Magelona</i> sp. |
| 888 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ミズヒキゴカイ目 | Cirratulida | ミズヒキゴカイ科 | Cirratulidae | ミズヒキゴカイ | <i>Cirriformia tentaculata</i> (Montagu, 1808) |
| 889 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ミズヒキゴカイ目 | Cirratulida | ミズヒキゴカイ科 | Cirratulidae | <i>Cirratulus</i> 属の1種 | <i>Cirratulus</i> sp. |
| 890 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ミズヒキゴカイ目 | Cirratulida | ミズヒキゴカイ科 | Cirratulidae | <i>Tharyx</i> 属の1種 | <i>Tharyx</i> sp. |
| 891 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ミズヒキゴカイ目 | Cirratulida | ミズヒキゴカイ科 | Cirratulidae | ミズヒキゴカイ科の1種 | Cirratulidae sp. |
| 892 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ミズヒキゴカイ目 | Cirratulida | ヒメエラゴカイ科 | Paraonidae | ハルトマンヒメエラゴカイ | <i>Aricidea (Aedicira) pacifica</i> Hartman, 1944 |
| 893 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ミズヒキゴカイ目 | Cirratulida | ヒメエラゴカイ科 | Paraonidae | ヒメエラゴカイ科と思われる1種 | Paraonidae? sp. |
| 894 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | クシイトゴカイ目 | Ctenodrilida | クシイトゴカイ科 | Ctenodrilidae | クシイトゴカイ科の1種 | Ctenodrilidae sp. |
| 895 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | オフェリアゴカイ目 | Ophelida | オフェリアゴカイ科 | Opheliidae | ツツオオフェリア | <i>Armandia lanceolata</i> Willey, 1905 |
| 896 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | オフェリアゴカイ目 | Ophelida | オフェリアゴカイ科 | Opheliidae | <i>Armandia</i> 属の1種 | <i>Armandia</i> sp. |
| 897 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | オフェリアゴカイ目 | Ophelida | オフェリアゴカイ科 | Opheliidae | <i>Euzonus</i> 属の1種 | <i>Euzonus</i> sp. |
| 898 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | オフェリアゴカイ目 | Ophelida | オフェリアゴカイ科 | Opheliidae | ニッボンオフェリア | <i>Travisia japonica</i> Fujiwara, 1933 |
| 899 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | オフェリアゴカイ目 | Ophelida | オフェリアゴカイ科 | Opheliidae | オフェリアゴカイ科の1種 | Opheliidae sp. |
| 900 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | オフェリアゴカイ目 | Ophelida | トノサマゴカイ科 | Scaligregmidae | トノサマゴカイ | <i>Scalibregma inflatum</i> Rathke, 1843 |
| 901 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ダルマゴカイ目 | Sternaspida | ダルマゴカイ科 | Sternaspidae | ダルマゴカイ | <i>Sternaspis scutata</i> (Ranzani, 1807) |
| 902 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Amphitrite</i> 属の1種 | <i>Amphitrite</i> sp. |
| 903 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Branchiocapitella</i> 属の1種 | <i>Branchiocapitella</i> sp. |
| 904 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Capitella</i> 属の1種 | <i>Capitella</i> sp. |
| 905 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | チリメントゴカイ | <i>Dasybranchus caducus</i> (Grube, 1846) |
| 906 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Dasybranchus</i> 属の1種 | <i>Dasybranchus</i> sp. |
| 907 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Decamastus</i> 属と思われる1種 | <i>Decamastus</i> ? sp. |
| 908 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | ホソイトゴカイ | <i>Heteromastus</i> sp. |
| 909 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Heteromastus</i> 属の1種 | <i>Heteromastus</i> sp. |
| 910 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Heteromastus</i> 属と思われる1種 | <i>Heteromastus</i> ? sp. |
| 911 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Parheteromastus</i> 属の1種 | <i>Parheteromastus</i> sp. |
| 912 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Notodasus</i> 属と思われる1種 | <i>Notodasus</i> ? sp. |
| 913 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Notodasus</i> 属と思われる1種 (大型種) | <i>Notodasus</i> ? sp. (large) |
| 914 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | シダレイトゴカイ | <i>Notomastus latericeus</i> Sars, 1851 |
| 915 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Notomastus</i> 属の1種 | <i>Notomastus</i> sp. |
| 916 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Notomastus</i> 属の1種 (A) | <i>Notomastus</i> sp. A |
| 917 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Notomastus</i> 属の1種 (B) | <i>Notomastus</i> sp. B |
| 918 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | <i>Notomastus</i> 属と思われる1種 | <i>Notomastus</i> ? sp. |
| 919 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | アリアケイトゴカイ | <i>Parheteromastus</i> cf. <i>tenuis</i> Monro, 1937 |
| 920 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | イトゴカイ科の1種 | Capitellidae sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|-----|-------|----------|-----|------------|---------|-------------|----------|---------------|-----------------------------------|--|
| 921 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | イトゴカイ科の1種 (大型種) | Capitellidae sp. (large) |
| 922 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | イトゴカイ科の1種 (中型種) | Capitellidae sp. (medium) |
| 923 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | イトゴカイ科 | Capitellidae | イトゴカイ科の1種または複数種 | Capitellidae sp. or spp. |
| 924 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タケフシゴカイ科 | Maldanidae | ハカマタテタケフシゴカイ | <i>Clymenura (Cephalata) longicaudata</i> Imajima et Shiraki, 1982 |
| 925 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タケフシゴカイ科 | Maldanidae | <i>Clymenura</i> 属の1種 | <i>Clymenura</i> sp. |
| 926 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タケフシゴカイ科 | Maldanidae | Euclymeninae 亜科の1種 | Euclymeninae sp. |
| 927 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タケフシゴカイ科 | Maldanidae | タケフシゴカイ科の1種 | Maldanidae sp. |
| 928 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タマシキゴカイ科 | Arenicolidae | イソタマシキゴカイ | <i>Abarenicola pacifica</i> Healy et Wells, 1959 |
| 929 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タマシキゴカイ科 | Arenicolidae | タマシキゴカイ | <i>Arenicola basiliensis</i> Nonato, 1958 |
| 930 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タマシキゴカイ科 | Arenicolidae | タマシキゴカイと思われる1種 | <i>Arenicola basiliensis</i> Nonato, 1958? |
| 931 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タマシキゴカイ科 | Arenicolidae | タマシキゴカイ科の1種 | Arenicolidae sp. |
| 932 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | イトゴカイ目 | Capitellida | タマシキゴカイ科 | Arenicolidae | タマシキゴカイ科の複数種 | Arenicolidae spp. |
| 933 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | チマキゴカイ目 | Oweniida | チマキゴカイ科 | Oweniidae | チマキゴカイ | <i>Owenia</i> sp. |
| 934 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | ウミイサゴムシ科 | Pectinariidae | ウミイサゴムシ | <i>Lagis bocki</i> (Hessle, 1917) |
| 935 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | ウミイサゴムシ科 | Pectinariidae | <i>Lagis</i> 属の1種 (ウミイサゴムシ?) | <i>Lagis</i> sp. |
| 936 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | ウミイサゴムシ科 | Pectinariidae | <i>Pectinaria aegyptia</i> と思われる種 | <i>Pectinaria</i> cf. <i>aegyptia</i> (Savigny, 1818) |
| 937 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | ウミイサゴムシ科 | Pectinariidae | ウミイサゴムシ科の1種 (A) | Pectinariidae sp. A |
| 938 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | ウミイサゴムシ科 | Pectinariidae | ウミイサゴムシ科の1種 (B) | Pectinariidae sp. B |
| 939 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | カザリゴカイ科 | Ampharetidae | <i>Amphicteis</i> 属の1種 | <i>Amphicteis</i> sp. |
| 940 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | カザリゴカイ科 | Ampharetidae | カザリゴカイ科の1種 | Ampharetidae sp. |
| 941 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | カンテンフサゴカイ | <i>Anaeania</i> sp. |
| 942 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Lysilla</i> 属の1種 | <i>Lysilla</i> sp. |
| 943 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Lysilla</i> 属と思われる1種 | <i>Lysilla</i> ? sp. |
| 944 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Loimia</i> 属の1種 | <i>Loimia</i> sp. |
| 945 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Loimia</i> 属の1種 (A) | <i>Loimia</i> sp. A |
| 946 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Loimia</i> 属の1種 (B) | <i>Loimia</i> sp. B |
| 947 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Loimia</i> 属の1種 (B) と思われる種 | <i>Loimia</i> sp. B? |
| 948 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Loimia</i> 属と思われる1種 | <i>Loimia</i> ? sp. |
| 949 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Neoamphitrite</i> 属の1種 | <i>Neoamphitrite</i> sp. |
| 950 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Polycirrus</i> 属の1種 | <i>Polycirrus</i> sp. |
| 951 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Streblosoma</i> 属の1種 | <i>Streblosoma</i> sp. |
| 952 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Streblosoma</i> 属と思われる1種 | <i>Streblosoma</i> ? sp. |
| 953 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Terebella</i> 属の1種 | <i>Terebella</i> sp. |
| 954 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | ハクメニッポンフサゴカイ | <i>Thelepus japonicus</i> Marenzeller, 1884 |
| 955 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | ニッポンフサゴカイ | <i>Thelepus</i> cf. <i>setosus</i> (Quatrefages, 1865) |
| 956 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | ニッポンフサゴカイと思われる種 | <i>Thelepus</i> cf. <i>setosus</i> (Quatrefages, 1865)? |
| 957 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | <i>Thelepus</i> 属の1種 | <i>Thelepus</i> sp. |
| 958 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | フサゴカイ科 | Terebellidae | フサゴカイ科の1種 | Terebellidae sp. |
| 959 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | フサゴカイ目 | Terebellida | - | - | フサゴカイ目の1種 | Terebellida sp. |
| 960 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | <i>Chone</i> 属の1種 | <i>Chone</i> sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|--------|-----------|---------|--------------|---------|-----------------|----------|---------------|-------------------------------|---|
| 961 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | Fabricinae 亜科の1種 | Fabricinae sp. |
| 962 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | <i>Laonome</i> 属の1種 | <i>Laonome</i> sp. |
| 963 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | <i>Potamilla</i> 属の1種 | <i>Potamilla</i> sp. |
| 964 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | ミナミエラコ | <i>Pseudopotamilla myriops</i> (Marenzeller, 1884) |
| 965 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | <i>Pseudopotamilla</i> 属の1種 | <i>Pseudopotamilla</i> sp. |
| 966 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | <i>Sabella</i> 属と思われる1種 | <i>Sabella</i> ? sp. |
| 967 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | <i>Sabella</i> 属と思われる1種 (大型種) | <i>Sabella</i> ? sp. (large) |
| 968 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | ケヤリムシ | <i>Sabellastarte japonica</i> (Marenzeller, 1885) |
| 969 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | Sabellinae 亜科の1種 | Sabellinae sp. |
| 970 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | ケヤリムシ科の1種 | Sabellidae sp. |
| 971 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ケヤリムシ科 | Sabellidae | ケヤリムシ科の1種 (小型種) | Sabellidae sp. (small) |
| 972 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | カンザシゴカイ科 | Serpulidae | カナヤドリカンザシ | <i>Ficopomatus enigmaticus</i> (Fauvel, 1923) |
| 973 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | カンザシゴカイ科 | Serpulidae | エソカサネカンザシ | <i>Hydroides ezoensis</i> Okuda, 1934 |
| 974 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | カンザシゴカイ科 | Serpulidae | ヤッコカンザシ | <i>Pomatoleios kraussi</i> (Baird, 1865) |
| 975 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | カンザシゴカイ科 | Serpulidae | カンザシゴカイ科の1種 | Serpulidae sp. |
| 976 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | ケヤリムシ目 | Sabellida | ウズマキゴカイ科 | Spirorbidae | ウズマキゴカイ科の1種 | Spirorbidae sp. |
| 977 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | - | - | - | - | 多毛綱の1種 | Polychaeta sp. |
| 978 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | - | - | - | - | 多毛綱の1種 (幼体) | Polychaeta sp. (juvenile) |
| 979 | 環形動物門 | Annelida | 多毛綱 | Polychaeta | - | - | - | - | 多毛綱の1種または複数種 | Polychaeta sp. or spp. |
| 980 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | イトミミズ目 | Tubificida | イトミミズ科 | Tubificidae | イトミミズ科の1種 | Tubificidae sp. |
| 981 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | イトミミズ目 | Tubificida | イトミミズ科 | Tubificidae | <i>Tubificoides</i> 属の1種 | <i>Tubificoides</i> sp. |
| 982 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | イトミミズ目 | Tubificida | ヒメミミズ科 | Enchytraeidae | ヒメミミズ科の1種 | Enchytraeidae sp. |
| 983 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | 後生殖門目 | Opisthopora | フトミミズ科 | Eudrilidae | イソミミズ | <i>Pontodrilus litoralis</i> (Grube, 1855) |
| 984 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | 後生殖門目 | Opisthopora | フトミミズ科 | Eudrilidae | イソミミズと思われる1種 | <i>Pontodrilus cf. litoralis</i> (Grube, 1855) |
| 985 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | 後生殖門目 | Opisthopora | フトミミズ科 | Eudrilidae | イソミミズと思われる1種 | <i>Pontodrilus litoralis</i> (Grube, 1855)? |
| 986 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | 後生殖門目 | Opisthopora | フトミミズ科 | Eudrilidae | フトミミズ科の1種 | Eudrilidae sp. |
| 987 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | 後生殖門目 | Opisthopora | ツリミミズ科 | Lumbricidae | ツリミミズ科と思われる1種 | Lumbricidae? sp. |
| 988 | 環形動物門 | Annelida | 貧毛綱 | Oligochaeta | - | - | - | - | 貧毛綱の1種 | Oligochaeta sp. |
| 989 | 環形動物門 | Annelida | ヒル綱 | Hiridinea | 咽蛭目 | Arhynchobdellae | インビル科 | Erpobdellidae | シマイシビル | <i>Erpobdella lineata</i> (O. F. Müller, 1774) |
| 990 | 環形動物門 | Annelida | ヒル綱 | Hiridinea | 吻蛭目 | Rhynchobdellae | ウオビル科 | Piscicolidae | ヒダビル | <i>Trachelobdella okae</i> Moore, 1924 |
| 991 | 環形動物門 | Annelida | ヒル綱 | Hiridinea | 吻蛭目 | Rhynchobdellae | ウオビル科 | Piscicolidae | <i>Pontobdella</i> 属の1種 | <i>Pontobdella</i> sp. |
| 992 | 環形動物門 | Annelida | ヒル綱 | Hiridinea | 吻蛭目 | Rhynchobdellae | ウオビル科 | Piscicolidae | ウオビル科の1種 | Piscicolidae sp. |
| 993 | ユムシ動物門 | Echiura | ユムシ綱 | Echiuroidea | ユムシ目 | Xenopneusta | キタユムシ科 | Echiuridae | キタユムシ | <i>Echiurus echiurus echiurus</i> (Pallas, 1766) |
| 994 | ユムシ動物門 | Echiura | ユムシ綱 | Echiuroidea | ユムシ目 | Xenopneusta | キタユムシ科 | Echiuridae | ドクテユムシ | <i>Arhynchite arhynchite</i> (Ikeda, 1924) |
| 995 | ユムシ動物門 | Echiura | ユムシ綱 | Echiuroidea | ユムシ目 | Xenopneusta | キタユムシ科 | Echiuridae | サビネミドリユムシ | <i>Anelassorhynchus sabinus</i> (Lanchester, 1905) |
| 996 | ユムシ動物門 | Echiura | ユムシ綱 | Echiuroidea | ユムシ目 | Xenopneusta | キタユムシ科 | Echiuridae | ミドリユムシ | <i>Anelassorhynchus mucosus</i> (Ikeda, 1904) |
| 997 | ユムシ動物門 | Echiura | ユムシ綱 | Echiuroidea | ユムシ目 | Xenopneusta | キタユムシ科 | Echiuridae | スジユムシ | <i>Ochetostoma erythrogrammon</i> Leuckart et Rüppell, 1828 |
| 998 | ユムシ動物門 | Echiura | ユムシ綱 | Echiuroidea | ユムシ目 | Xenopneusta | キタユムシ科 | Echiuridae | タテジマユムシ | <i>Listriolobus sorbillans</i> (Lampert, 1883) |
| 999 | ユムシ動物門 | Echiura | ユムシ綱 | Echiuroidea | ユムシ目 | Xenopneusta | ユムシ科 | Urechidae | ユムシ | <i>Urechis unicinctus</i> (von Drasche, 1881) |
| 1000 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | スジホシムシ目 | Sipunculiformes | スジホシムシ科 | Sipunculidae | スジホシムシ | <i>Sipunculus nudus</i> Linnaeus, 1766 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----------|-------------------|-----------|----------------------|-----------|-------------------|------------------------------|---|
| 1001 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | スジホシムシ目 | Sipunculiformes | スジホシムシ科 | Sipunculidae | <i>Sipunculus</i> 属の1種または複数種 | <i>Sipunculus</i> sp. or spp. |
| 1002 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | スジホシムシ目 | Sipunculiformes | スジホシムシ科 | Sipunculidae | スジホシムシモドキ | <i>Siphonosoma cumanense</i> (Keferstein, 1867) |
| 1003 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | スジホシムシ目 | Sipunculiformes | スジホシムシ科 | Sipunculidae | スジホシムシモドキと思われる1種 | <i>Siphonosoma cumanense</i> (Keferstein, 1867)? |
| 1004 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | スジホシムシ目 | Sipunculiformes | スジホシムシ科 | Sipunculidae | アマミスジホシムシモドキ | <i>Siphonosoma funafuti</i> (Shiple, 1898) |
| 1005 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | スジホシムシ目 | Sipunculiformes | スジホシムシ科 | Sipunculidae | ミナミスジホシムシモドキ(仮称) | <i>Siphonosoma australe takatsukii</i> Sato, 1935 |
| 1006 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | スジホシムシ目 | Sipunculiformes | スジホシムシ科 | Sipunculidae | ミナミスジホシムシモドキ(仮称)と思われる1種 | <i>Siphonosoma australe takatsukii</i> Sato, 1935? |
| 1007 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | フクロホシムシ目 | Golfingiiformes | フクロホシムシ科 | Golfingiidae | クロホシムシ | <i>Thysanocardia nigra</i> (Ikeda, 1904) |
| 1008 | 星口動物門 | Sipuncula | スジホシムシ綱 | Sipunculidea | フクロホシムシ目 | Golfingiiformes | フクロホシムシ科 | Golfingiidae | <i>Nephasoma</i> 属の1種 | <i>Nephasoma</i> sp. |
| 1009 | 星口動物門 | Sipuncula | サメハダホシムシ綱 | Phascolosomatidea | サメハダホシムシ目 | Phascolosomatiformes | サメハダホシムシ科 | Phascolosomatidae | サメハダホシムシ | <i>Phascolosoma scolops</i> (Selenka et de Man, 1858) |
| 1010 | 星口動物門 | Sipuncula | サメハダホシムシ綱 | Phascolosomatidea | サメハダホシムシ目 | Phascolosomatiformes | サメハダホシムシ科 | Phascolosomatidae | アンテラサメハダホシムシ | <i>Antillesoma antillarum</i> (Grube et Oersted, 1858) |
| 1011 | 星口動物門 | Sipuncula | サメハダホシムシ綱 | Phascolosomatidea | タテホシムシ目 | Aspidosiphoniformes | タテホシムシ科 | Aspidosiphonidae | ミューラータテホシムシ | <i>Aspidosiphon (Aspidosiphon) muelleri</i> Diesing, 1851 |
| 1012 | 星口動物門 | Sipuncula | サメハダホシムシ綱 | Phascolosomatidea | タテホシムシ目 | Aspidosiphoniformes | タテホシムシ科 | Aspidosiphonidae | カドタテホシムシ | <i>Aspidosiphon (Paraspidosiphon) laevis</i> de Quatrefages, 1865 |
| 1013 | 星口動物門 | Sipuncula | サメハダホシムシ綱 | Phascolosomatidea | タテホシムシ目 | Aspidosiphoniformes | タテホシムシ科 | Aspidosiphonidae | <i>Aspidosiphon</i> 属の1種 | <i>Aspidosiphon</i> sp. |
| 1014 | 星口動物門 | Sipuncula | - | - | - | - | - | - | 星口動物門の1種 | Sipuncula sp. |
| 1015 | 星口動物門 | Sipuncula | - | - | - | - | - | - | 星口動物門の1種または複数種 | Sipuncula sp. or spp. |
| 1016 | 節足動物門 | Arthropoda | 節口綱 | Merostomata | 剣尾目 | Xiphosura | カプトガニ科 | Limulidae | カプトガニ | <i>Tachypleus tridentatus</i> (Leach, 1819) |
| 1017 | 節足動物門 | Arthropoda | 蜘蛛綱 | Arachnida | カニムシ目 | Pseudoscorpiones | コケカニムシ科 | Neobisiidae | ウミカニムシ | <i>Halobisium orientale japonicum</i> Morikawa |
| 1018 | 節足動物門 | Arthropoda | 蜘蛛綱 | Arachnida | 真正クモ目 | Araneae | - | - | 真正クモ目の1種 | Araneae sp. |
| 1019 | 節足動物門 | Arthropoda | ウミグモ綱 | Pycnogonidea | 皆脚目 | Pantopoda | ヨロイウミグモ科 | Pycnogonidae | <i>Pycnogonida</i> 属の1種 | <i>Pycnogonida</i> sp. |
| 1020 | 節足動物門 | Arthropoda | ウミグモ綱 | Pycnogonidea | 皆脚目 | Pantopoda | - | - | 皆脚目の1種 | Pantopoda sp. |
| 1021 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | ソコムジンコ目 | Harpacticoida | - | - | ソコムジンコ目の1種 | Harpacticoida sp. |
| 1022 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | ムカシフジツボ科 | Archaeobalanidae | シロフジツボ | <i>Chirona (Striatobalanus) tenuis</i> (Hoek, 1883) |
| 1023 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | イワフジツボ科 | Chthamaliidae | イワフジツボ | <i>Chthamalus challengeri</i> Hoek, 1883 |
| 1024 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | ドロフジツボ | <i>Fistrobalanus kondakovi</i> (Tarasov et Zevina, 1963) |
| 1025 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | シロスジフジツボ | <i>Fistrobalanus albicostatus</i> (Pilsbry, 1916) |
| 1026 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | タテジマフジツボ | <i>Amphibalanus amphitrite</i> (Darwin, 1854) |
| 1027 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | アミメフジツボ | <i>Amphibalanus variegatus</i> (Darwin, 1854) |
| 1028 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | アメリカフジツボ | <i>Amphibalanus eburneus</i> (Gould, 1841) |
| 1029 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | ヨーロッパフジツボ | <i>Amphibalanus improvisus</i> (Darwin, 1854) |
| 1030 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | サラサフジツボ | <i>Amphibalanus reticulatus</i> (Utinomi, 1967) |
| 1031 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | サラサフジツボと思われる1種 | <i>Amphibalanus reticulatus</i> (Utinomi, 1967)? |
| 1032 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | サンカクフジツボ | <i>Balanus trigonus</i> Darwin, 1854 |
| 1033 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | フジツボ科 | Balanidae | フジツボ科の1種 | Balanidae sp. |
| 1034 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | クロフジツボ科 | Tetraclitidae | タイワンクロフジツボ | <i>Tetraclita formosana</i> Hiro, 1939 |
| 1035 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 無柄目 | Sessilia | - | - | フジツボ亜目の1種または複数種 | Balanomorpha sp. or spp. |
| 1036 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 根頭目 | Rhizocephala | フクロムシ科 | Sacculinidae | フクロムシ科の1種 | Sacculinidae sp. |
| 1037 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 根頭目 | Rhizocephala | ツブフクロムシ科 | Thompsoniidae | アナジャコフクロムシ | <i>Thompsonia</i> sp. |
| 1038 | 節足動物門 | Arthropoda | 顎脚綱 | Maxillopoda | 根頭目 | Rhizocephala | - | - | 根頭目の1種 | Rhizocephala sp. |
| 1039 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 口脚目 | Stomatopoda | フトユビシャコ科 | Gonodactylidae | コトグフトユビシャコ | <i>Gonodactylus viridus</i> (Serene, 1954) |
| 1040 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 口脚目 | Stomatopoda | ハナシャコ科 | Odontodactylidae | モンハナシャコ | <i>Odontodactylus scyllarus</i> (Linnaeus, 1758) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|-------------|-----------|------------------|------------------------------------|--|
| 1041 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 口脚目 | Stomatopoda | シャコ科 | Squillaidae | シャコ | <i>Oratosquilla oratoria</i> (de Haan, 1844) |
| 1042 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 口脚目 | Stomatopoda | シャコ科 | Squillaidae | <i>Leptosquilla</i> 属の1種 | <i>Leptosquilla</i> sp. |
| 1043 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 口脚目 | Stomatopoda | ヒメシャコ科 | Nannosquillaidae | <i>Pullosquilla littoralis</i> | <i>Pullosquilla littoralis</i> (Michel et Manning, 1971) |
| 1044 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 口脚目 | Stomatopoda | - | - | 口脚目の1種または複数種 | Stomatopoda sp. or spp. |
| 1045 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 薄甲目 | Leptostraca | コノハエビ科 | Nebaliidae | コノハエビ | <i>Nebalia japonensis</i> Claus, 1888 |
| 1046 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | アミ目 | Mysida | アミ科 | Mysidae | コクボフクロアミ | <i>Archaomysis kokuboi</i> Li, 1964 |
| 1047 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | アミ目 | Mysida | アミ科 | Mysidae | エゾイサザアミ | <i>Neomysis mirabilis</i> (Czerniavsky, 1882) |
| 1048 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | アミ目 | Mysida | アミ科 | Mysidae | ニホンイサザアミ | <i>Neomysis japonica</i> Nakazawa, 1910 |
| 1049 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | アミ目 | Mysida | アミ科 | Mysidae | クロイサザアミ | <i>Neomysis avatschensis</i> (Brandt, 1851) |
| 1050 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | アミ目 | Mysida | アミ科 | Mysidae | <i>Neomysis</i> 属の1種 | <i>Neomysis</i> sp. |
| 1051 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ヒゲナガヨコエビ科 | Ampithoidae | ニッポンモバヨコエビ | <i>Ampithoe lacertosa</i> (Bate, 1958) |
| 1052 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ヒゲナガヨコエビ科 | Ampithoidae | モズミヨコエビ | <i>Ampithoe valida</i> Smith, 1873 |
| 1053 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ヒゲナガヨコエビ科 | Ampithoidae | モズミヨコエビ近似種 | <i>Ampithoe</i> aff. <i>valida</i> Smith, 1873 |
| 1054 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ヒゲナガヨコエビ科 | Ampithoidae | <i>Ampithoe</i> 属の1種 | <i>Ampithoe</i> sp. |
| 1055 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ヒゲナガヨコエビ科 | Ampithoidae | <i>Ampithoe</i> 属の1種 (1) | <i>Ampithoe</i> sp. 1 |
| 1056 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ヒゲナガヨコエビ科 | Ampithoidae | <i>Ampithoe</i> 属の1種 (2) | <i>Ampithoe</i> sp. 2 |
| 1057 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ユンボソコエビ科 | Aoridae | ニホンドロソコエビ | <i>Grandidierella japonica</i> Stephensen, 1938 |
| 1058 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ユンボソコエビ科 | Aoridae | シマドロソコエビ | <i>Grandidierella fasciata</i> Ariyama, 1996 |
| 1059 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ユンボソコエビ科 | Aoridae | <i>Grandidierella</i> 属の1種 | <i>Grandidierella</i> sp. |
| 1060 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ユンボソコエビ科 | Aoridae | <i>Aoroides</i> 属の1種 | <i>Aoroides</i> sp. |
| 1061 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ドロクダムシ科 | Corophiidae | アリアケドロクダムシ | <i>Corophium acherusicum</i> Costa, 1853 |
| 1062 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ドロクダムシ科 | Corophiidae | ニホンドロクダムシ | <i>Corophium voltator japonica</i> Hirayama, 1984 |
| 1063 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ドロクダムシ科 | Corophiidae | <i>Corophium volutator</i> 近似種 | <i>Corophium</i> aff. <i>volutator</i> (Pallas, 1766) |
| 1064 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ドロクダムシ科 | Corophiidae | <i>Corophium</i> 属の1種 | <i>Corophium</i> sp. |
| 1065 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ドロクダムシ科 | Corophiidae | <i>Corophium</i> 属の1種または複数種 | <i>Corophium</i> sp. or spp. |
| 1066 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ドロクダムシ科 | Corophiidae | <i>kamaka</i> 属の1種 | <i>Kamaka</i> sp. |
| 1067 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ドロクダムシ科 | Corophiidae | ドロクダムシ科の1種 | Corophiidae sp. |
| 1068 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | カマキリヨコエビ科 | Ischyroceridae | <i>Jassa</i> 属の1種 | <i>Jassa</i> sp. |
| 1069 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | アゴナガヨコエビ科 | Pontogeneiidae | アゴナガヨコエビ | <i>Pontogeneia rostrata</i> Gurjanova, 1938 |
| 1070 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | アゴナガヨコエビ科 | Pontogeneiidae | <i>Pontogeneia</i> 属の1種 | <i>Pontogeneia</i> sp. |
| 1071 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ウラシマヨコエビ科 | Calliopidae | ウラシマヨコエビ科の1種 | Calliopidae sp. |
| 1072 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | キタヨコエビ科 | Anisogammaridae | ヒヌマヨコエビ | <i>Jesogammarus hinumensis</i> Morino, 1993 |
| 1073 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | キタヨコエビ科 | Anisogammaridae | <i>Jesogammarus</i> 属の1種 | <i>Jesogammarus</i> sp. |
| 1074 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | キタヨコエビ科 | Anisogammaridae | トゲオヨコエビ | <i>Eogammarus kygi</i> (Derzhavin, 1923) |
| 1075 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | キタヨコエビ科 | Anisogammaridae | <i>Eogammarus possjeticus</i> | <i>Eogammarus possjeticus</i> (Tzvetkova, 1967) |
| 1076 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | キタヨコエビ科 | Anisogammaridae | <i>Eogammarus</i> 属の1種 | <i>Eogammarus</i> sp. |
| 1077 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | キタヨコエビ科 | Anisogammaridae | <i>Locustogammarus locustoides</i> | <i>Locustogammarus locustoides</i> (Brandt, 1851) |
| 1078 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | キタヨコエビ科 | Anisogammaridae | キタヨコエビ科の1種 | Anisogammaridae sp. |
| 1079 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | メリタヨコエビ科 | Melitidae | シミズメリタヨコエビ | <i>Melita shimizui</i> (Ueno, 1940) |
| 1080 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | メリタヨコエビ科 | Melitidae | シミズメリタヨコエビ近似種 | <i>Melita</i> aff. <i>shimizui</i> |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|-----------|-----------|-----------------|---|---|
| 1081 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | メリタヨコエビ科 | Melitidae | ヒゲツノメリタヨコエビ | <i>Melita setiflagella</i> Yamato, 1988 |
| 1082 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | メリタヨコエビ科 | Melitidae | ナガタメリタヨコエビ | <i>Melita nagatai</i> Yamato, 1986 |
| 1083 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | メリタヨコエビ科 | Melitidae | <i>Melita</i> 属の1種 | <i>Melita</i> sp. |
| 1084 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | メリタヨコエビ科 | Melitidae | <i>Elasmopus</i> 属の1種 | <i>Elasmopus</i> sp. |
| 1085 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ヒサシソコエビ科 | Phoxocephalidae | ヒサシソコエビ科の1種 | Phoxocephalidae sp. |
| 1086 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ツノヒゲソコエビ科 | Haustoriidae | ツノヒゲソコエビ科の1種 | Haustoriidae sp. |
| 1087 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ナミノリソコエビ科 | Dogielinotidae | <i>Dogielinotus moskvitini</i> | <i>Dogielinotus moskvitini</i> (Derzhavin, 1930) |
| 1088 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ナミノリソコエビ科 | Dogielinotidae | キタナミノリソコエビ | <i>Haustorioides munsterhjelmii</i> Oldevg, 1958 |
| 1089 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ナミノリソコエビ科 | Dogielinotidae | <i>Haustorioides</i> 属の1種 | <i>Haustorioides</i> sp. |
| 1090 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ナミノリソコエビ科 | Dogielinotidae | ナミノリソコエビ科の1種 | Dogielinotidae sp. |
| 1091 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | モクズヨコエビ科 | Hyalidae | フサグモクズ | <i>Hyalae barbicornis</i> Hiwatari et Kajihara, 1981 |
| 1092 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | モクズヨコエビ科 | Hyalidae | <i>Hyalae</i> 属の1種 | <i>Hyalae</i> sp. |
| 1093 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | モクズヨコエビ科 | Hyalidae | モクズヨコエビ科の1種 | Hyalidae sp. |
| 1094 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Traskorchestia ochotensis</i> | <i>Traskorchestia ochotensis</i> (Brandt, 1851) |
| 1095 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Platorchestia joi</i> | <i>Platorchestia joi</i> Stock et Biernbaum, 1994 |
| 1096 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ニホンヒメハマトビムシ | <i>Platorchestia pachypus</i> (Derzhavin) |
| 1097 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ヒメハマトビムシ | <i>Platorchestia platensis</i> (Krøyer, 1845) sensu lato |
| 1098 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ヒメハマトビムシと思われる1種 | <i>Platorchestia platensis</i> (Krøyer, 1845) sensu lato? |
| 1099 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Platorchestia pacifica</i> | <i>Platorchestia pacifica</i> Miyamoto et Morino, 2004 |
| 1100 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Platorchestia pacifica</i> とと思われる1種 | <i>Platorchestia</i> cf. <i>pacifica</i> |
| 1101 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ニホンオカトビムシ | <i>Platorchestia japonica</i> (Tattersall, 1922) |
| 1102 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ニホンオカトビムシと思われる1種 | <i>Platorchestia</i> cf. <i>japonica</i> |
| 1103 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Platorchestia</i> 属の1種 | <i>Platorchestia</i> sp. |
| 1104 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ホンハマトビムシ | <i>Paciforchestia pyatakovi</i> (Derzhavin, 1937) |
| 1105 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Paciforchestia</i> 属の1種 (A) | <i>Paciforchestia</i> sp. A |
| 1106 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Paciforchestia</i> 属の1種 (B) | <i>Paciforchestia</i> sp. B |
| 1107 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | <i>Parorchestia</i> 属の1種 (sensu Morino) | " <i>Parorchestia</i> " sp. 1 sensu Morino |
| 1108 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ハマトビムシ科の1種 (1) | Talitridae sp. 1 |
| 1109 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ハマトビムシ科の1種 | Talitridae sp. |
| 1110 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ハマトビムシ科の1種または複数種 | Talitridae sp. or spp. |
| 1111 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ハマトビムシ科 | Talitridae | ハマトビムシ科と思われる1種 | Talitridae? sp. |
| 1112 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | - | - | ヨコエビ亜目の1種 | Gammaridea sp. |
| 1113 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | - | - | ヨコエビ亜目の1種または複数種 | Gammaridea sp. or spp. |
| 1114 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ワレカラ科 | Caprellidae | トゲワレカラ | <i>Caprella scaura</i> Templeton, 1836 |
| 1115 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | ワレカラ科 | Caprellidae | <i>Caprella</i> 属の1種 | <i>Caprella</i> sp. |
| 1116 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | - | - | ワレカラ亜目の1種 | Caprellidea sp. |
| 1117 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | - | - | ワレカラ亜目の1種または複数種 | Caprellidea sp. or spp. |
| 1118 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 端脚目 | Amphipoda | - | - | 端脚目の1種 | Amphipoda sp. |
| 1119 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | スナウミナナフシ科 | Anthuridae | ムロミスナウミナナフシ | <i>Cyathura muromiensis</i> Nunomura, 1974 |
| 1120 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | スナウミナナフシ科 | Anthuridae | シンジコスナウミナナフシ | <i>Cyathura shinjikoensis</i> Nunomura, 2001 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|---------|------------|----------------|------------------------------------|---|
| 1121 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | スナウミナナフシ科 | Anthuridae | <i>Cyathura</i> 属の1種 | <i>Cyathura</i> sp. |
| 1122 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | スナウミナナフシ科 | Anthuridae | スナウミナナフシ科の1種 | Anthuridae sp. |
| 1123 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ウミナナフシ科 | Paranthuridae | <i>Paranthura japonica</i> | <i>Paranthura japonica</i> Richardson, 1909 |
| 1124 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ウミミズムシ科 | Janiridae | ウミミズムシ | <i>Janiropsis longiantennata</i> Thielemann |
| 1125 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ヒラタウミミズムシ科 | Jaeropsidae | ヒラタウミミズムシ | <i>Jaeropsis lobata</i> Richardson, 1899 |
| 1126 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ヘラムシ科 | Idoteidae | オホーツクヘラムシ | <i>Idotea ochotensis</i> Brandt, 1851 |
| 1127 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ヘラムシ科 | Idoteidae | ワラジヘラムシ | <i>Synidotea laevidorsalis</i> (Miers, 1881) |
| 1128 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ヘラムシ科 | Idoteidae | ホソヘラムシ | <i>Cleantis planicauda</i> Benedict, 1899 |
| 1129 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | スナホリムシ科 | Cirolanidae | ヒメスナホリムシ | <i>Excirokana chiltoni</i> (Richardson, 1950) |
| 1130 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | スナホリムシ科 | Cirolanidae | ナギサスナホリムシ | <i>Eurydice nipponica</i> (Bruce et Jones, 1981) |
| 1131 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | スナホリムシ科 | Cirolanidae | スナホリムシ科の1種 | Cirolanidae sp. |
| 1132 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | ヨツバコツブムシ | <i>Sphaeroma retrolaevis</i> Richardson, 1904 |
| 1133 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | ハバヒロコツブムシ | <i>Chitonosphaeroma lata</i> (Nishimura, 1968) |
| 1134 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | ナナツバコツブムシ | <i>Sphaeroma sieboldii</i> Dollfus, 1888 |
| 1135 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | イワホリコツブムシ | <i>Sphaeroma wadai</i> Nunomura, 1994 |
| 1136 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | シマントコツブムシ | <i>Sphaeroma shimantoensis</i> (Nunomura, 2003) |
| 1137 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | <i>Sphaeroma</i> 属の1種 | <i>Sphaeroma</i> sp. |
| 1138 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | シナコツブムシ | <i>Gnorimosphaeroma chinense</i> (Tattersall, 1921) |
| 1139 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | チョウセンコツブムシ | <i>Gnorimosphaeroma nactongensis</i> Kwon et Kim, 1987 |
| 1140 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | イソコツブムシ | <i>Gnorimosphaeroma rayi</i> Hoestlandt, 1969 |
| 1141 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | フタゲイソコツブムシ | <i>Gnorimosphaeroma hoestlandti</i> Kim et Kwon, 1985 |
| 1142 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | マルコツブムシ | <i>Gnorimosphaeroma ovatum</i> (Gurjanova, 1933) |
| 1143 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | マルコツブムシ近似種 | <i>Gnorimosphaeroma</i> aff. <i>ovatum</i> (Gurjanova, 1933) |
| 1144 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | <i>Gnorimosphaeroma</i> 属の1種 | <i>Gnorimosphaeroma</i> sp. |
| 1145 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | <i>Gnorimosphaeroma</i> 属の1種または複数種 | <i>Gnorimosphaeroma</i> sp. or spp. |
| 1146 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | <i>Gnorimosphaeroma</i> 属の複数種 | <i>Gnorimosphaeroma</i> spp. |
| 1147 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | <i>Cymodoce</i> 属の1種 | <i>Cymodoce</i> sp. |
| 1148 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | ウミセミ亜科の1種 | Dynameninae sp. |
| 1149 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | コツブムシ科 | Sphaeromatidae | コツブムシ科の1種 | Sphaeromatidae sp. |
| 1150 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | <i>Pseudione longicauda</i> | <i>Pseudione longicauda</i> Shiino, 1937 |
| 1151 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | <i>Progebiophilus villosus</i> | <i>Progebiophilus villosus</i> Shino, 1964 |
| 1152 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | マドカアナジャコヤドリムシ | <i>Gyge ovalis</i> (Shiino, 1939) |
| 1153 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | スナモグリヤドリムシ | <i>Ione cornuta</i> Bate, 1864 |
| 1154 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | <i>Coxalione inaequalis</i> | <i>Coxalione inaequalis</i> Bourdon, 1977 |
| 1155 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | マメコブシヤドリムシ | <i>Apocepon pulcher</i> Nierstrasz et Brender a Brandis, 1930 |
| 1156 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | <i>Aporobopyrus</i> 属の1種 | <i>Aporobopyrus</i> sp. |
| 1157 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | <i>Argeia</i> 属の1種 | <i>Argeia</i> sp. |
| 1158 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | エビヤドリムシ科 | Bopyridae | エビヤドリムシ科の1種 | Bopyridae sp. |
| 1159 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | - | - | ヤドリムシ亜目の1種 | Epicaridea sp. |
| 1160 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | - | - | ヤドリムシ亜目の1種または複数種 | Epicaridea sp. or spp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-------|------------|-----------|-----------------|------------------------------|--|
| 1161 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | グソクムシ科 | Aegidae | タラノシラミ | <i>Rocincla maculata</i> Schiodde et Meinert, 1879 |
| 1162 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | フナムシ科 | Ligiidae | フナムシ | <i>Ligia exotica</i> Roux, 1828 |
| 1163 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | フナムシ科 | Ligiidae | キタフナムシ | <i>Ligia cinerascens</i> (Budde-Lund, 1828) |
| 1164 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | フナムシ科 | Ligiidae | リュウキュウフナムシ | <i>Ligia ryukyensis</i> Nunomura, 1983 |
| 1165 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | フナムシ科 | Ligiidae | <i>Ligia</i> 属の1種 | <i>Ligia</i> sp. |
| 1166 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | フナムシ科 | Ligiidae | ニホンヒメフナムシ | <i>Ligidium japonicum</i> Verhoeff, 1918 |
| 1167 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | フナムシ科 | Ligiidae | フナムシ科の1種 | <i>Ligiidae</i> sp. |
| 1168 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ヒグナガラジムシ科 | Olibrinidae | <i>Olibrinus</i> 属の1種 | <i>Olibrinus</i> sp. |
| 1169 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ワラジムシ科 | Porcellionidae | ワラジムシ | <i>Porcellio scaber</i> Latreille, 1804 |
| 1170 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | タマワラジムシ科 | Scyphacidae | リュウキュウタマワラジムシ | <i>Alloniscus ryukyensis</i> Nunomura, 1984 |
| 1171 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ウミベワラジムシ科 | Scyphacidae | ニホンハマワラジムシ | <i>Armadilloniscus japonicus</i> Nunomura, 1984 |
| 1172 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ミギワワラジムシ科 | Marinoniscidae | イリエミギワワラジムシ | <i>Marinoniscus aestuari</i> Nunomura, 1992 |
| 1173 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ミギワワラジムシ科 | Marinoniscidae | <i>Marinoniscus</i> 属の1種 (1) | <i>Marinoniscus</i> sp. 1 |
| 1174 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | - | - | ワラジムシ垂目の1種 | <i>Oniscidea</i> sp. |
| 1175 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | オカダンゴムシ科 | Armadillidiidae | オカダンゴムシ | <i>Armadillidium vulgare</i> (Latreille, 1940) |
| 1176 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ハマダンゴムシ科 | Tyliidae | ハマダンゴムシ | <i>Tylos granuriferus</i> Budde-Lund, 1885 |
| 1177 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ハマダンゴムシ科 | Tyliidae | ハマダンゴムシと思われる1種 | <i>Tylos granuriferus</i> Budde-Lund, 1885? |
| 1178 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | ハマダンゴムシ科 | Tyliidae | ハマダンゴムシ科の1種 | <i>Tyliidae</i> sp. |
| 1179 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 等脚目 | Isopoda | - | - | 等脚目の1種 | <i>Isopoda</i> sp. |
| 1180 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | タナイス目 | Tanaidacea | タナイス科 | Tanaidae | キスイタナイス | <i>Sinelobus</i> sp. |
| 1181 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | タナイス目 | Tanaidacea | タナイス科 | Tanaidae | <i>Tanais</i> 属の1種 | <i>Tanais</i> sp. |
| 1182 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | タナイス目 | Tanaidacea | タナイス科 | Tanaidae | タナイス科の1種 | <i>Tanaidae</i> sp. |
| 1183 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | タナイス目 | Tanaidacea | アブセウデス科 | Apsseudidae | アブセウデス科の1種 | <i>Apsseudidae</i> sp. |
| 1184 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | クーマ目 | Cumacea | ナギサクーマ科 | Bodotriidae | ナギサクーマ科と思われる1種 | <i>Bodotriidae?</i> sp. |
| 1185 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | クーマ目 | Cumacea | - | - | クーマ目の1種 | <i>Cumacea</i> sp. |
| 1186 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | クルマエビ | <i>Marsupenaeus japonicus</i> (Bate, 1888) |
| 1187 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | ヨシエビ | <i>Metapenaeus ensis</i> (de Haan, 1844) |
| 1188 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | モエビ | <i>Metapenaeus moyebi</i> (Kishinouye, 1896) |
| 1189 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | <i>Metapenaeus</i> 属の1種 | <i>Metapenaeus</i> sp. |
| 1190 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | <i>Penaeus</i> 属 (広義) の1種 | <i>Penaeus</i> sp. |
| 1191 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | サルエビ | <i>Trachysalambria curvirostris</i> (Stimpson, 1860) |
| 1192 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | フトミソエビ | <i>Melicertus laticulatus</i> (Kishinouye, 1896) |
| 1193 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クルマエビ科 | Penaeidae | クルマエビ科の1種 | <i>Penaeidae</i> sp. |
| 1194 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | テナガカクレエビ | <i>Kemponia grandis</i> (Stimpson, 1860) |
| 1195 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | セシエルカクレエビ | <i>Kemponia seychellensis</i> (Borradaile, 1915) |
| 1196 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | スネナガスジエビ | <i>Palaemon debilis</i> Dana, 1852 |
| 1197 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | イソスジエビ | <i>Palaemon pacificus</i> (Stimpson, 1860) |
| 1198 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | スジエビ | <i>Palaemon paucidens</i> (de Haan, 1844) |
| 1199 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | スジエビモドキ | <i>Palaemon serrifer</i> (Stimpson, 1860) |
| 1200 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | ユビナガスジエビ | <i>Palaemon macrodactylus</i> Rathbun, 1902 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|----------|---------|--------------|---|--|
| 1201 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | スジエビモドキもしくはユビナガスジエビ | <i>Palaemon serrifer</i> or <i>P. macrodactylus</i> |
| 1202 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | <i>Palaemon</i> 属の1種 | <i>Palaemon</i> sp. |
| 1203 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テナガエビ科 | Palaemonidae | シラタエビ | <i>Exopalaemon orientis</i> (Holothuis, 1951) |
| 1204 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ロウソクエビ科 | Processidae | カワリロウソクエビ | <i>Processa dimorpha</i> Hayashi, 1975 |
| 1205 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ロウソクエビ科 | Processidae | ヤエヤマロウソクエビ | <i>Nikoides gurneyi</i> Hayashi, 1975 |
| 1206 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モエビ科 | Hippolytidae | キノボリエビ | <i>Merguia oligodon</i> (de Man, 1888) |
| 1207 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ツノメエビ科 | Ogyrididae | ツノメエビ | <i>Ogyrides orientalis</i> Stimpson, 1860 |
| 1208 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | セジロムラサキエビ | <i>Athanas japonicus</i> Kubo, 1936 |
| 1209 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | ムラサキトゲテッポウエビ | <i>Athanas parvus</i> de Man, 1910 |
| 1210 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | オートヒメテッポウエビ | <i>Automate dolichognatha</i> de Man, 1888 |
| 1211 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | ミノナアシソテッポウエビ | <i>Alpheus</i> sp. 1 aff. <i>gracilipes</i> Stimpson, 1860 |
| 1212 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | テッポウエビ | <i>Alpheus brevicristatus</i> de Haan, 1844 |
| 1213 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | テッポウエビと思われる種 | <i>Alpheus</i> cf. <i>brevicristatus</i> de Haan, 1844 |
| 1214 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | ニセオニテッポウエビ近縁種 | <i>Alpheus</i> sp. 2 aff. <i>rapacida</i> de Man, 1908 |
| 1215 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | トウソクテッポウエビ | <i>Alpheus rapax</i> Fabricius, 1978 |
| 1216 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | ハシソテッポウエビ | <i>Alpheus dolichodactylus</i> Ortmann, 1890 |
| 1217 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | エドワールテッポウエビ | <i>Alpheus edwardsii</i> (Audouin, 1826) |
| 1218 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | サビロテッポウエビ | <i>Alpheus</i> sp. 3 aff. <i>edwardsii</i> (Audouin, 1826) |
| 1219 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | マンガローブテッポウエビ | <i>Alpheus euphrosyne richardsoni</i> Yaldwyn, 1971 |
| 1220 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | <i>Alpheus malabaricus</i> | <i>Alpheus malabaricus</i> (Fabricius, 1775) |
| 1221 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | マツトゲテッポウエビ | <i>Alpheus hoplocheles</i> Coutiere, 1897 |
| 1222 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | マダラテッポウエビ | <i>Alpheus pacificus</i> Dana, 1852 |
| 1223 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | イソテッポウエビ | <i>Alpheus lobidens lobidens</i> de Haan, 1849 |
| 1224 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | フトオビソテッポウエビ | <i>Alpheus</i> sp. 4 aff. <i>lobidens lobidens</i> de Haan, 1849 |
| 1225 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | カワテッポウエビ(仮称) | <i>Alpheus</i> sp. 5 aff. <i>lobidens lobidens</i> de Haan, 1849 |
| 1226 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | <i>Alpheus lobidens polynesica</i> と思われる種 | <i>Alpheus</i> sp. 6 cf. <i>lobidens polynesica</i> Banner et Banner, 1974 |
| 1227 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | イソテッポウエビ近縁種 | <i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i> de Haan, 1849 |
| 1228 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | トゲイソテッポウエビ(仮称) | <i>Alpheus</i> sp. 7 |
| 1229 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | <i>Alpheus lobidens</i> と思われる種 | <i>Alpheus</i> cf. <i>lobidens</i> |
| 1230 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | 同定不能の <i>Alpheus</i> 属の1種 | <i>Alpheus</i> sp. |
| 1231 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | クボミテッポウエビ | <i>Stenalpheops anacanthus</i> Miya, 1997 |
| 1232 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | テッポウエビ科の1種 | Alpheidae sp. |
| 1233 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | テッポウエビ科 | Alpheidae | テッポウエビ科の1種または複数種 | Alpheidae sp. or spp. |
| 1234 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | タラバエビ科 | Pandalidae | ミツクリエビ | <i>Petalopsis pacifica</i> (Doflein, 1902) |
| 1235 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | エビジャコ科 | Crangonidae | ウリタエビジャコ | <i>Crangon uritai</i> Hayashi et Kim, 1999 |
| 1236 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | エビジャコ科 | Crangonidae | カシオベエビジャコ | <i>Crangon casiope</i> De Man, 1906 |
| 1237 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | エビジャコ科 | Crangonidae | アムールエビジャコ | <i>Crangon amurensis</i> Brashnikov, 1907 |
| 1238 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | エビジャコ科 | Crangonidae | <i>Crangon propinquus</i> | <i>Crangon propinquus</i> Stimpson, 1860 |
| 1239 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | エビジャコ科 | Crangonidae | <i>Crangon</i> 属の1種 | <i>Crangon</i> sp. |
| 1240 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | エビジャコ科 | Crangonidae | エビジャコ科の1種 | Crangonidae sp. 1 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|----------|----------------|----------------|---------------------------|--|
| 1241 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | - | - | 「長尾垂目」の1種 | "Macrura" sp. |
| 1242 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アメリカザリガニ科 | Cambaridae | アメリカザリガニ | <i>Procambarus clarkii</i> (Girard, 1852) |
| 1243 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ハサミシャコエビ科 | Laomediidae | ハサミシャコエビ | <i>Laomedea astacina</i> de Haan, 1849 |
| 1244 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オキナワアナジャコ科 | Thalassinidae | オキナワアナジャコ | <i>Thalassina anomala</i> (Herbst, 1804) |
| 1245 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | Strahlaxiidae科 | Strahlaxiidae | ヤハズアナエビ | <i>Neaxius acanthus</i> (A. Milne-Edwards, 1878) |
| 1246 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | ニホンスナモグリ | <i>Nihonotrypaea japonica</i> (Ortmann, 1891) |
| 1247 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | ハルマンスナモグリ | <i>Nihonotrypaea harmandi</i> (Bouvier, 1901) |
| 1248 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | スナモグリ | <i>Nihonotrypaea petalura</i> (Stimpson, 1860) |
| 1249 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | ブビスナモグリ | <i>Callianassa bouvieri</i> Nobili, 1904 |
| 1250 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | Calliax 属の1種 | <i>Calliax</i> sp. |
| 1251 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | Calliixina sakaii | <i>Calliixina sakaii</i> (de Saint Laurent, 1979) |
| 1252 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | Corallichirus tridentatus | <i>Corallichirus tridentatus</i> (von Martens, 1869) |
| 1253 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | スナモグリ科の1種 | Callianassidae sp. |
| 1254 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | スナモグリ科の1種(幼体) | Callianassidae sp. (larva) |
| 1255 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナモグリ科 | Callianassidae | スナモグリ科の1種または複数種 | Callianassidae sp. or spp. |
| 1256 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | アナジャコ | <i>Upogebia major</i> (de Haan, 1841) |
| 1257 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | ヨコヤアナジャコ | <i>Upogebia yokoyai</i> Makarov, 1938 |
| 1258 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | ヨコヤアナジャコと思われる1種(巢穴) | <i>Upogebia yokoyai</i> Makarov, 1938? (burrow) |
| 1259 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | バルスアナジャコ | <i>Upogebia issaeffi</i> (Balss, 1913) |
| 1260 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | コブシアナジャコ | <i>Upogebia pugnax</i> de Man, 1905 |
| 1261 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | Upogebia 属の1種 | <i>Upogebia</i> sp. |
| 1262 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | ナルトアナジャコ | <i>Austinogebia narutensis</i> (Sakai, 1986) |
| 1263 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | アナジャコ科の1種 | Upogebiidae sp. |
| 1264 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ科 | Upogebiidae | アナジャコ科の1種または複数種 | Upogebiidae sp. or spp. |
| 1265 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | アナジャコ下目 | Thalassinidea | アナジャコ下目の1種(巢穴) | Thalassinidea sp. (burrow) |
| 1266 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | テナガツノヤドカリ | <i>Diogenes nitidimanus</i> Terao, 1913 |
| 1267 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | テナガツノヤドカリと思われる1種 | <i>Diogenes cf. nitidimanus</i> Terao, 1913 |
| 1268 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | アンバルツノヤドカリ | <i>Diogenes leptocerus</i> Forest, 1956 |
| 1269 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | マルテツノヤドカリ | <i>Diogenes avarus</i> Heller, 1865 |
| 1270 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | コブヨコバサミ | <i>Clibanarius infraspinitus</i> Hilgendorf, 1869 |
| 1271 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | ツマキヨコバサミ | <i>Clibanarius englaucus</i> Ball et Haig, 1971 |
| 1272 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | ツメナガヨコバサミ | <i>Clibanarius longitarsus</i> (de Haan, 1849) |
| 1273 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | タテジマヨコバサミ | <i>Clibanarius striolatus</i> Dana, 1852 |
| 1274 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | マダラヨコバサミ | <i>Clibanarius humilis</i> (Dana, 1851) |
| 1275 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | ランソソヨコバサミ | <i>Clibanarius ransonii</i> Forest, 1953 |
| 1276 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | Clibanarius 属の1種 | <i>Clibanarius</i> sp. |
| 1277 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | ツマジロザンゴヤドカリ | <i>Calcinus latens</i> (Randall, 1840) |
| 1278 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | スベスベザンゴヤドカリ | <i>Calcinus laevimanus</i> (Randall, 1839) |
| 1279 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | コモンヤドカリ | <i>Dardanus megistos</i> (Herbst, 1804) |
| 1280 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤドカリ科 | Diogenidae | ヤドカリ科の1種 | Diogenidae sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|----------|---------|-----------------|------------------|--|
| 1281 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オカヤドカリ科 | Coenobitidae | サキシマオカヤドカリ | <i>Coenobita perlatus</i> H. Milne Edwards, 1837 |
| 1282 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オカヤドカリ科 | Coenobitidae | ナキオカヤドカリ | <i>Coenobita rugosus</i> H. Milne Edwards, 1837 |
| 1283 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オカヤドカリ科 | Coenobitidae | オカヤドカリ科の1種 | <i>Coenobita</i> sp. |
| 1284 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ホンヤドカリ科 | Paguridae | ホンヤドカリ | <i>Pagurus filholi</i> (de Man, 1887) |
| 1285 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ホンヤドカリ科 | Paguridae | ユビナガホンヤドカリ | <i>Pagurus minutus</i> Hess, 1865 |
| 1286 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ホンヤドカリ科 | Paguridae | ケアシホンヤドカリ | <i>Pagurus lanuginosus</i> de Haan, 1849 |
| 1287 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ホンヤドカリ科 | Paguridae | テナガホンヤドカリ | <i>Pagurus middendorffii</i> Brandt, 1851 |
| 1288 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ホンヤドカリ科 | Paguridae | ホンヤドカリ科の1種または複数種 | <i>Paguridae</i> sp. or spp. |
| 1289 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | サンゴカニダマシ | <i>Enosteoides melissa</i> (Miyake, 1942) |
| 1290 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | イソカニダマシ | <i>Petrolisthes japonicus</i> (de Haan, 1849) |
| 1291 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | カニダマシ科の1種と思われる1種 | <i>Petrolisthes</i> cf. <i>lamarckii</i> (Leach, 1820) |
| 1292 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | ヤドリカニダマシ | <i>Polyonyx sinensis</i> Stimpson, 1858 |
| 1293 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | ウチノミカニダマシ | <i>Polyonyx utinomii</i> Miyake, 1953 |
| 1294 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | ウチノミカニダマシと思われる種 | <i>Polyonyx</i> cf. <i>utinomii</i> Miyake, 1953 |
| 1295 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | カニダマシ科の1種 | <i>Polyonyx</i> sp. |
| 1296 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | ドロカニダマシ | <i>Raphidopus ciliatus</i> Stimpson, 1858 |
| 1297 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カニダマシ科 | Porcellanidae | カニダマシ科の1種または複数種 | <i>Porcellanidae</i> sp. or spp. |
| 1298 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナホリガニ科 | Hippidae | スナホリガニ | <i>Hippa pacifica</i> (Dana, 1852) |
| 1299 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | - | - | 異尾下目の1種または複数種 | <i>Anomura</i> sp. or spp. |
| 1300 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヘイケガニ科 | Dorippidae | ヘイケガニ | <i>Heikea japonica</i> (von Siebold, 1824) |
| 1301 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カラッパ科 | Calappidae | ソデカラッパ | <i>Calappa hepatica</i> (Linnaeus, 1758) |
| 1302 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カラッパ科 | Calappidae | コブカラッパ | <i>Calappa gallus</i> (Herbst, 1803) |
| 1303 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | キンセンガニ科 | Matutidae | キンセンガニ | <i>Matuta lunaris</i> (Forskål, 1775) |
| 1304 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | キンセンガニ科 | Matutidae | コモンガニ | <i>Matuta banksii</i> Leach, 1817 |
| 1305 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | マメコブシガニ | <i>Philyra pisum</i> de Haan, 1841 |
| 1306 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | アマミマメコブシガニ | <i>Philyra taekoa</i> Takeda, 1972 |
| 1307 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | ヒラコブシガニ | <i>Philyra syndavtyla</i> Ortmann, 1892 |
| 1308 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | ヒシガタコブシガニ | <i>Leucosia rhomboidalis</i> de Haan, 1841 |
| 1309 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | ツノナガコブシガニ | <i>Leucosia anatum</i> (Herbst, 1783) |
| 1310 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | タテジマコブシガニ | <i>Leucosia craniolaris</i> (Linnaeus, 1758) |
| 1311 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | コブシガニ科の1種 | <i>Leucosia</i> sp. |
| 1312 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | ジュウイチトゲコブシ | <i>Arcania undecimspinosa</i> de Haan, 1841 |
| 1313 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | コブシガニ科 | Leucosiidae | ロツカコブシ | <i>Nurcia japonica</i> Sakai, 1935 |
| 1314 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クモガニ科 | Majidae | マメツブガニ | <i>Paratymolus pubescens</i> Miers, 1879 |
| 1315 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クモガニ科 | Majidae | イッカククモガニ | <i>Pyromaia tuberculata</i> (Lockington, 1877) |
| 1316 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クモガニ科 | Majidae | クモガニ科の1種 | Majidae sp. |
| 1317 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ツノガニ科 | Pisidae | ツノガニ | <i>Hyastenus diacanthus</i> (de Haan, 1837) |
| 1318 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ワタクズガニ科 | Mithracidae | ワタクズガニ | <i>Micippa thalia</i> (Herbst, 1804) |
| 1319 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ワタクズガニ科 | Mithracidae | コワタクズガニ | <i>Micippa philyra</i> (Herbst, 1803) |
| 1320 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤワラガニ科 | Hymenosomatidae | アリアケヤワラガニ | <i>Elamenopsis ariakensis</i> Sakai, 1969 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|----------|----------|-----------------|--------------------------|--|
| 1321 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤワラガニ科 | Hymenosomatidae | トウヨウヤワラガニ | <i>Halicarcinus orientalis</i> Sakai, 1932 |
| 1322 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤワラガニ科 | Hymenosomatidae | <i>Halicarcinus</i> 属の1種 | <i>Halicarcinus</i> sp. |
| 1323 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤワラガニ科 | Hymenosomatidae | アシソヤワラガニ | <i>Neorhynchoplax setirostris</i> (Stimpson, 1858) |
| 1324 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤワラガニ科 | Hymenosomatidae | オキナワヤワラガニ | <i>Neorhynchoplax okinawaensis</i> (Nakasono et Takeda, 1994) |
| 1325 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヤワラガニ科 | Hymenosomatidae | ヤワラガニ科の1種 (1) | Hymenosomatidae sp. 1 |
| 1326 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヒシガニ科 | Parthenopidae | ホソウデヒシガニ | <i>Parthenope valida laciniata</i> de Haan, 1839 |
| 1327 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ヒシガニ科 | Parthenopidae | <i>Rhinolambrus</i> 属の1種 | <i>Rhinolambrus</i> sp. |
| 1328 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | クリガニ科 | Atelecyclidae | クリガニ | <i>Telmessus cheiragonus</i> (Tilesius, 1812) |
| 1329 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イチョウガニ科 | Cancriidae | イボイチョウガニ | <i>Cancer gibbosulus</i> (de Haan, 1833) |
| 1330 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | クメジマハイガザミモドキ | <i>Libystes villosus</i> Rathbun, 1924 |
| 1331 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | チチュウカイミドリガニ | <i>Carcinus aestuarii</i> Nard, 1847 |
| 1332 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | シワガザミ | <i>Liocarcinus corrugatus</i> (Pennant, 1777) |
| 1333 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ノコギリガザミ | <i>Scylla serrata</i> (Forskål, 1755) |
| 1334 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | トゲノコギリガザミ | <i>Scylla traquebarica</i> (Fabricius, 1798) |
| 1335 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | タイワンガザミ | <i>Portunus (Portunus) pelagicus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 1336 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ガザミ | <i>Portunus (Portunus) trituberculatus</i> (Miers, 1876) |
| 1337 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ツノナシボガザミ | <i>Portunus brocki</i> (de Haan, 1887) |
| 1338 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ケブカガザミ | <i>Portunus pubescens</i> (Dana, 1852) |
| 1339 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | イボガザミ | <i>Portunus (Monomia) gladiator</i> Fabricius, 1798 |
| 1340 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | サメハダヒメガザミ | <i>Portunus (Cycloachelous) granulatus</i> (H Milne Edwards, 1934) |
| 1341 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | イシガニ | <i>Charybdis japonica</i> (A. Milne-Edwards, 1861) |
| 1342 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | トウヨウイシガニ | <i>Charybdis orientalis</i> Dana, 1852 |
| 1343 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | カワレイシガニ | <i>Charybdis variegata</i> (Fabricius, 1798) |
| 1344 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | フタハベニツケガニ | <i>Thalamita sima</i> H. Milne Edwards, 1834 |
| 1345 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | フタハベニツケモドキ | <i>Thalamita admete</i> (Herbst, 1803) |
| 1346 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ミナミベニツケガニ | <i>Thalamita crenata</i> (Latreille, 1829) |
| 1347 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ヒメフタハベニツケガニ | <i>Thalamita integra</i> Dana, 1852 |
| 1348 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | アマミベニツケガニ | <i>Thalamita stimpsoni</i> A. Milne-Edwards, 1861 |
| 1349 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | カロリンベニツケガニ | <i>Thalamita parvidens</i> (Rathbun, 1907) |
| 1350 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ミナミベニツケモドキ | <i>Thalamita danae</i> Stimpson, 1858 |
| 1351 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ガザミ科 | Portunidae | ベニツケガニ | <i>Thalamita prymna</i> (Herbst, 1803) |
| 1352 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | エンコウガニ科 | Goneplacidae | メクラガニ | <i>Typhrocarcinus villosus</i> Stimpson, 1858 |
| 1353 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ムツアシガニ科 | Hexapodidae | ムツアシガニ | <i>Hexapinus sexpes</i> (Fabricius, 1798) |
| 1354 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ムツアシガニ科 | Hexapodidae | ヒメムツアシガニ | <i>Hexapinus anfractus</i> (Rathbun, 1910) |
| 1355 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イソオウギガニ科 | Eriphiidae | カノコセヒロガニ | <i>Epixanthus dentatus</i> (White, 1847) |
| 1356 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イソオウギガニ科 | Eriphiidae | イソオウギガニ | <i>Eriphia sebana</i> (Shaw et Nodder, 1803) |
| 1357 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イソオウギガニ科 | Eriphiidae | ヤクジママガニ | <i>Baptozium vinosus</i> (H. Milne Edwards, 1834) |
| 1358 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | ケブカガニ | <i>Pilumnus vespertilio</i> (Fabricius, 1793) |
| 1359 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | ヒメケブカガニ | <i>Pilumnus minutus</i> de Haan, 1835 |
| 1360 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | トラノオガニモドキ | <i>Pilumnus trispinosus</i> (Sakai, 1965) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|----------|---------|--------------|-------------------------|---|
| 1361 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | スエヒロイボテガニ | <i>Actumnus setifer</i> (de Haan, 1833) |
| 1362 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | トラノオガニ | <i>Pilumnopeus indicus</i> (de Man, 1887) |
| 1363 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | トラノオガニと思われる1種 | <i>Pilumnopeus indicus</i> (de Man, 1887)? |
| 1364 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | ミナミトラノオガニ | <i>Pilumnopeus marginatus</i> (Stimpson, 1838) |
| 1365 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | マキトラノオガニ | <i>Pilumnopeus makianus</i> (Rathbun, 1929) |
| 1366 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ケブカガニ科 | Pilumnidae | マルミトラノオガニ | <i>Heteropanope glabra</i> Stimpson, 1858 |
| 1367 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オウギガニ科 | Xanthidae | シワオウギガニ | <i>Macromedaeus distinguendus</i> (de Haan, 1835) |
| 1368 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オウギガニ科 | Xanthidae | オウギガニ | <i>Leptodius exaratus</i> (H. Milne Edwards, 1834) |
| 1369 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オウギガニ科 | Xanthidae | ムツハオウギガニ | <i>Leptodius sanguineus</i> (H. Milne Edwards, 1834) |
| 1370 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オウギガニ科 | Xanthidae | コオウギガニ | <i>Leptodius gracilis</i> (Dana, 1852) |
| 1371 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オウギガニ科 | Xanthidae | ヒツメガニ | <i>Etisus laevimanus</i> Randall, 1840 |
| 1372 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オウギガニ科 | Xanthidae | ヒツメオウギガニ | <i>Phymodius unguilatus</i> (H. Milne Edwards, 1834) |
| 1373 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オウギガニ科 | Xanthidae | オウギガニ科の1種 | Xanthidae sp. |
| 1374 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | オカガニ科 | Gecarcinidae | ミナミオカガニ | <i>Cardisoma carnifex</i> (Herbst, 1796) |
| 1375 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イワガニ科 | Grapsidae | ハシリイワガニ | <i>Metopograpsus messor</i> (Forskål, 1775) |
| 1376 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イワガニ科 | Grapsidae | ハシリイワガニモドキ | <i>Metopograpsus thukuhar</i> (Owen, 1839) |
| 1377 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イワガニ科 | Grapsidae | クワイハシリイワガニ | <i>Metopograpsus latifrons</i> (White, 1847) |
| 1378 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イワガニ科 | Grapsidae | ヒメイワガニ | <i>Pachygrapsus minutus</i> A. Milne-Edwards, 1873 |
| 1379 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イワガニ科 | Grapsidae | ヒメイワガニと思われる1種 | <i>Pachygrapsus minutus</i> A. Milne-Edwards, 1873? |
| 1380 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イワガニ科 | Grapsidae | チゴイワガニ | <i>Ilyograpsus cf. nodulosus</i> Sakai, 1983 |
| 1381 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | イワガニ科 | Grapsidae | イワガニ科の1種または複数種 | Grapsidae sp. or spp. |
| 1382 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | タイワンヒライソモドキ | <i>Ptychognathus ishii</i> Sakai, 1939 |
| 1383 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ヒメヒライソモドキ | <i>Ptychognathus capillidigitatus</i> Takeda, 1984 |
| 1384 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ヒライソモドキ | <i>Ptychognathus glaber</i> Stimpson, 1858 |
| 1385 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ケフサヒライソモドキ | <i>Ptychognathus barbatus</i> (A. Milne-Edwards, 1873) |
| 1386 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | トゲアシヒライソガニモドキ | <i>Parapyxidognathus deianira</i> (de Man, 1888) |
| 1387 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ヒラモクスズガニ | <i>Utica borneensis</i> de Man, 1895 |
| 1388 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | トリウミアカインソモドキ | <i>Acmaeopleura toriumii</i> Takeda, 1974 |
| 1389 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | コウナグイワガニモドキ | <i>Pseudograpsus elongatus</i> (A. Milne-Edwards, 1873) |
| 1390 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | モクスズガニ | <i>Eriocheir japonicus</i> (de Haan, 1835) |
| 1391 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ヒメモクスズガニ | <i>Neeriocheir leptognathus</i> (Rathbun, 1913) |
| 1392 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | イソガニ | <i>Hemigrapsus sanguineus</i> (de Haan, 1835) |
| 1393 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ケフサイソガニ | <i>Hemigrapsus penicillatus</i> (de Haan, 1835) |
| 1394 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ヒメケフサイソガニ | <i>Hemigrapsus sinensis</i> Rathbun, 1929 |
| 1395 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | スネナグイソガニ | <i>Hemigrapsus longitarsis</i> (Miers, 1879) |
| 1396 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | <i>Hemigrapsus</i> 属の1種 | <i>Hemigrapsus</i> sp. |
| 1397 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ミナミヒライソモドキ | <i>Thalassograpsus harpax</i> (Hilgendorf, 1892) |
| 1398 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ヒライソガニ | <i>Gaetice depressus</i> (de Haan, 1833) |
| 1399 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | オキナワヒライソガニ | <i>Gaetice unguilatus</i> Sakai, 1939 |
| 1400 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクスズガニ科 | Varunidae | ハマガニ | <i>Chasmagnathus convexus</i> (de Haan, 1833) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|----------|------------|---------------|---------------------------|---|
| 1401 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクズガニ科 | Varunidae | アシハラガニ | <i>Helice (Helice) tridens tridens</i> (de Haan, 1835) |
| 1402 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクズガニ科 | Varunidae | ヒメアシハラガニ | <i>Helice (Helicana) japonica</i> K. Sakai et Yatsuzuka, 1980 |
| 1403 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクズガニ科 | Varunidae | ミナミアシハラガニ | <i>Helice leachi</i> Hess, 1865 |
| 1404 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクズガニ科 | Varunidae | タイワンアシハラガニ | <i>Helice formosensis</i> Rathbun, 1931 |
| 1405 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクズガニ科 | Varunidae | <i>Helice</i> 属の1種 | <i>Helice</i> sp. |
| 1406 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクズガニ科 | Varunidae | ミゾテアシハラガニ | <i>Sarmatium striaticarpus</i> Davie, 1992 |
| 1407 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | モクズガニ科 | Varunidae | モクズガニ科の1種 | Varunidae sp. |
| 1408 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | アカテガニ | <i>Chiromantes haematocheir</i> (de Haan, 1833) |
| 1409 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | クロベンケイガニ | <i>Chiromantes dehaani</i> (H. Milne Edwards, 1853) |
| 1410 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | クシテガニ | <i>Parasesarma plicatum</i> (Latreille, 1803) |
| 1411 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | カクベンケイガニ | <i>Parasesarma pictum</i> (de Haan, 1835) |
| 1412 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | ユビアカベンケイガニ | <i>Parasesarma acis</i> Davie, 1993 |
| 1413 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | キノボリベンケイガニ | <i>Parasesarma leptosomum</i> (Hilgendorf, 1878) |
| 1414 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | <i>Parasesarma</i> 属の1種 | <i>Parasesarma</i> sp. |
| 1415 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | フタバカクガニ | <i>Perisesarma bidens</i> (de Haan, 1835) |
| 1416 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | オオベンケイガニ | <i>Neopisesarma lafondi</i> (Jaquinot et Lucas, 1853) |
| 1417 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | ベンケイガニ | <i>Sesarmops intermedium</i> (de Haan, 1835) |
| 1418 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | ヒメベンケイガニ | <i>Nanosarma gordonii</i> (Shen, 1935) |
| 1419 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | アシハラガニモドキ | <i>Neosarmatium smithi</i> (H. Milne Edwards, 1853) |
| 1420 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | ウレベンケイガニ | <i>Clistocoeloma sinensis</i> Shen, 1933 |
| 1421 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | フジテガニ | <i>Clistocoeloma villosum</i> (A. Milne-Edwards, 1869) |
| 1422 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | <i>Clistocoeloma</i> 属の1種 | <i>Clistocoeloma</i> sp. |
| 1423 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | イワヒベンケイガニ | <i>Metasesarma obesum</i> (Dana, 1851) |
| 1424 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | ベンケイガニ科の1種 | Sesarmidae sp. |
| 1425 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ベンケイガニ科 | Sesarmidae | ベンケイガニ科の1種または複数種 | Sesarmidae sp. or spp. |
| 1426 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ミナミコメツキガニ科 | Mictyridae | ミナミコメツキガニ | <i>Mictyris brevidactylus</i> Stimpson, 1858 |
| 1427 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | クロピンノ | <i>Pinnotheres boninensis</i> Stimpson, 1858 |
| 1428 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | オオシロピンノ | <i>Pinnotheres sinensis</i> Shen, 1932 |
| 1429 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | マルピンノ | <i>Pinnotheres cyclinus</i> Shen, 1932 |
| 1430 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | フタバピンノ | <i>Pinnotheres bidentatus</i> Sakai, 1939 |
| 1431 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | シロナマコガニ | <i>Pinnixa tumida</i> Stimpson, 1858 |
| 1432 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ラスバンマメガニ | <i>Pinnixa rathbuni</i> Sakai, 1934 |
| 1433 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ラスバンマメガニと思われる1種 | <i>Pinnixa rathbuni</i> Sakai, 1934? |
| 1434 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ギボシマメガニ | <i>Pinnixa balanoglossasa</i> Sakai, 1934 |
| 1435 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | アカホシマメガニ | <i>Pinnixa haematosticta</i> Sakai, 1934 |
| 1436 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ハサミカクレガニ | <i>Mortensenella forceps</i> Rathbun, 1909 |
| 1437 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ウモレマメガニ | <i>Pseudopinnixa carinata</i> (Ortmann, 1894) |
| 1438 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ミナミヨコナガピンノ | <i>Tetrias fischeri</i> (A. Milne-Edwards, 1867) |
| 1439 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ヨコナガモドキ | <i>Asthenognathus inaequipes</i> Stimpson, 1858 |
| 1440 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | ヨコナガピンノ | <i>Tritodynamia japonica</i> Ortmann, 1894 |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|------------|-----|--------------|-----|----------|------------|----------------|-----------------------------|---|
| 1441 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | オオヨコナガビンノ | <i>Tritodynamia rathbuni</i> Shen, 1932 |
| 1442 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | メナズビンノ | <i>Xenopthalmus pinnotherides</i> White, 1846 |
| 1443 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | カクレガニ科の1種 | Pinnotheridae sp. |
| 1444 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | カクレガニ科 | Pinnotheridae | カクレガニ科の複数種 | Pinnotheridae spp. |
| 1445 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ツノメガニ | <i>Ocypode ceratophthalma</i> (Pallas, 1772) |
| 1446 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | スナガニ | <i>Ocypode stimpsoni</i> Ortmann, 1897 |
| 1447 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | スナガニ (巢穴) | <i>Ocypode stimpsoni</i> Ortmann, 1897 (burrow) |
| 1448 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ナンヨウスナガニ | <i>Ocypode sinensis</i> Dai, Song et Yang, 1985 |
| 1449 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | シオマネキ | <i>Uca arcuata</i> (de Haan, 1833) |
| 1450 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ヤエヤマシオマネキ | <i>Uca dussumieri</i> (H. Milne Edwards, 1852) |
| 1451 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | リュウキュウシオマネキ | <i>Uca coarctata</i> (H. Milne Edwards, 1852) |
| 1452 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ヒメシオマネキ | <i>Uca vocans</i> (Linnaeus, 1758) |
| 1453 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ルリマダラシオマネキ | <i>Uca tetragonon</i> (Herbst, 1790) |
| 1454 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ルリマダラシオマネキと思われる1種 | <i>Uca tetragonon</i> (Herbst, 1790)? |
| 1455 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ベニシオマネキ | <i>Uca crassipes</i> (Adams et White, 1848) |
| 1456 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ハクセンシオマネキ | <i>Uca lactea</i> (de Haan, 1835) |
| 1457 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | オキナワハクセンシオマネキ | <i>Uca perplexa</i> (H. Milne Edwards, 1837) |
| 1458 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | シモフリシオマネキ | <i>Uca triangularis triangularis</i> (A. Milne-Edwards, 1873) |
| 1459 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | コメツギガニ | <i>Scopimera globosa</i> de Haan, 1835 |
| 1460 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | チゴガニ | <i>Ilyoplax pusilla</i> (de Haan, 1835) |
| 1461 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ハラグクレチゴガニ | <i>Ilyoplax deschampsii</i> (Rathbun, 1918) |
| 1462 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ツノメチゴガニ | <i>Tmethypocoelis choreutes</i> Davie et Kosuge, 1995 |
| 1463 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | メナガオサガニ | <i>Macrophthalmus serenei</i> Takeda et Komai, 1991 |
| 1464 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ミナミメナガオサガニ | <i>Macrophthalmus milloti</i> Crosnier, 1965 |
| 1465 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ミナミオサガニ | <i>Macrophthalmus brevis</i> (Herbst, 1804) |
| 1466 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ヒメカクオサガニ | <i>Macrophthalmus boscii</i> Audouin, 1825 |
| 1467 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | フタハオサガニ | <i>Macrophthalmus convexus</i> Stimpson, 1858 |
| 1468 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | オサガニ | <i>Macrophthalmus abbreviatus</i> Manning et Holthuis, 1981 |
| 1469 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ヤマトオサガニ | <i>Macrophthalmus japonicus</i> (de Haan, 1835) |
| 1470 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ヒメヤマトオサガニ | <i>Macrophthalmus banzai</i> Wada et Sakai, 1989 |
| 1471 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | ヨコシオサガニ | <i>Macrophthalmus definitus</i> White, 1848 |
| 1472 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | <i>Macrophthalmus</i> 垂属の1種 | <i>Macrophthalmus (Macrophthalmus) sp.</i> |
| 1473 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | <i>Macrophthalmus</i> 属の1種 | <i>Macrophthalmus sp.</i> |
| 1474 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | <i>Macrophthalmus</i> 属の複数種 | <i>Macrophthalmus spp.</i> |
| 1475 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | スナガニ科 | Ocypodidae | オサガニ科の1種 | Macrophthalmidae sp. |
| 1476 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ムツハアリアケガニ科 | Camptandriidae | ムツハアリアケガニ | <i>Camptandrium sexdentatum</i> Stimpson, 1858 |
| 1477 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ムツハアリアケガニ科 | Camptandriidae | アリアケガニ | <i>Cleistostoma dilatatum</i> de Haan, 1833 |
| 1478 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ムツハアリアケガニ科 | Camptandriidae | アリアケモドキ | <i>Deiratonotus cristatus</i> (de Man, 1895) |
| 1479 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ムツハアリアケガニ科 | Camptandriidae | アリアケモドキと思われる1種 | <i>Deiratonotus cf. cristatus</i> (de Man, 1895) |
| 1480 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | ムツハアリアケガニ科 | Camptandriidae | カワスナガニ | <i>Deiratonotus japonicus</i> (Sakai, 1934) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|---------------|--------|---------------|---------|---------------|------------|-----------------|---------------------------------|--|
| 1481 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | - | - | 短尾下目の1種 (メガロバ幼生) | <i>Brachyura</i> sp. (megalopa) |
| 1482 | 節足動物門 | Arthropoda | 軟甲綱 | Malacostraca | 十脚目 | Decapoda | - | - | 短尾下目の1種または複数種 | <i>Brachyura</i> sp. or spp. |
| 1483 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 粘管目 | Collembola | - | - | 粘管目の1種 | <i>Collembola</i> sp. |
| 1484 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 毛翅目 | Trichoptella | - | - | 毛翅目の1種 | <i>Trichoptella</i> sp. (larva) |
| 1485 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 鞘翅目 | Coleoptera | ミズスマシ科 | Gyrinidae | ミズスマシ科の1種 | Gyrinidae sp. |
| 1486 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 膜翅目 | Hymenoptera | アリ科 | Formicidae | アリ科の1種 | Formicidae sp. |
| 1487 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 双翅目 | Diptera | ユスリカ科 | Chironomidae | ヒトエグサガガンボ | <i>Limonia (Dycranomyia) monostromia</i> Tokunaga, 1953 |
| 1488 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 双翅目 | Diptera | ユスリカ科 | Chironomidae | ユスリカ科の1種 | Chironomidae sp. |
| 1489 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 双翅目 | Diptera | ユスリカ科 | Chironomidae | ユスリカ科の1種または複数種 | Chironomidae sp. or spp. |
| 1490 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | 双翅目 | Diptera | - | - | 双翅目幼虫 | Larva of Diptera |
| 1491 | 節足動物門 | Arthropoda | 昆虫綱 | Insecta | - | - | - | - | 昆虫綱幼虫 | Larva or Ninph? of Insecta |
| 1492 | 節足動物門 | Arthropoda | 倍脚綱 | Diplopoda | - | - | - | - | ヤスデ類 | Diplopoda sp. or spp. |
| 1493 | 触手動物門 | Tentaculata | 筈虫綱 | Phoronida | - | - | - | - | 筈虫綱の1種 | Phoronida sp. |
| 1494 | 触手動物門 | Tentaculata | 苔虫綱 | Bryozoa | 唇口目 | Cheilostomata | チゴケムシ科 | Watersipora | チゴケムシ | <i>Watersiporidae subovoidea</i> (D'Orbigny, 1852) |
| 1495 | 触手動物門 | Tentaculata | 腕足綱 | Brachiopoda | 舌殻目 | Lingulida | シャミセンガイ科 | Lingulidae | ミドリシャミセンガイ | <i>Lingula anatina</i> (Lamarck, 1801) |
| 1496 | 触手動物門 | Tentaculata | 腕足綱 | Brachiopoda | 舌殻目 | Lingulida | シャミセンガイ科 | Lingulidae | <i>Lingula</i> 属の1種 | <i>Lingula</i> sp. |
| 1497 | 毛顎動物門 | Chaetognatha | 現生矢虫綱 | Sagittoidea | 膜筋目 | Phragmophora | イソヤムシ科 | Spadellidae | ナイカイヤムシ | <i>Sagitta crassa</i> Tokioka, 1938 |
| 1498 | 毛顎動物門 | Chaetognatha | 現生矢虫綱 | Sagittoidea | 膜筋目 | Phragmophora | イソヤムシ科 | Spadellidae | イソヤムシ科の1種 | Spadellidae sp. |
| 1499 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | ヒメギボシムシ | <i>Ptychodera flava</i> Eschscholtz, 1825 |
| 1500 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | ワグツミギボシムシ | <i>Balanoglossus carnosus</i> (Willey, 1899) |
| 1501 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | ワグツミギボシムシと思われる1種 | <i>Balanoglossus carnosus</i> (Willey, 1899)? |
| 1502 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | ミサキギボシムシ | <i>Balanoglossus misakiensis</i> Kuwano, 1902 |
| 1503 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | ミサキギボシムシと思われる1種 | <i>Balanoglossus misakiensis</i> Kuwano, 1902? |
| 1504 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | <i>Balanoglossus</i> 属の1種 | <i>Balanoglossus</i> sp. |
| 1505 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | <i>Balanoglossus</i> 属と思われる1種 | <i>Balanoglossus</i> ? sp. |
| 1506 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | ギボシムシ科の1種 | Ptychoderidae sp. |
| 1507 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ギボシムシ科 | Ptychoderidae | ギボシムシ科の複数種 | Ptychoderidae spp. |
| 1508 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | ハネナシギボシムシ科 | Spengeliidae | <i>Spengelia</i> 属と思われる1種 | <i>Spengelia</i> ? sp. |
| 1509 | 半索動物門 | Hemichordata | ギボシムシ綱 | Enteropneusta | - | - | - | - | ギボシムシ綱の1種 | Enteropneust sp. |
| 1510 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | モミジガイ目 | Paxillosida | スナヒトデ科 | Luidiidae | スナヒトデ | <i>Luidia quinaria</i> von Martens, 1865 |
| 1511 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | モミジガイ目 | Paxillosida | モミジガイ科 | Astropectinidae | トゲモミジガイ | <i>Astropecten polyacanthus</i> Müller et Troscher, 1842 |
| 1512 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | モミジガイ目 | Paxillosida | モミジガイ科 | Astropectinidae | モミジガイ | <i>Astropecten scoparius</i> Valenciennes, 1842 |
| 1513 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | アカヒトデ目 | Valvatida | イトマキヒトデ科 | Asterinidae | イトマキヒトデ | <i>Asterina pectinifera</i> Müller et Troschel, 1842 |
| 1514 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | アカヒトデ目 | Valvatida | イトマキヒトデ科 | Asterinidae | ヌノメイトマキヒトデ | <i>Asterina batheri</i> Goto, 1929 |
| 1515 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | アカヒトデ目 | Valvatida | カスリモミジガイ科 | Archasteridae | カスリモミジガイ | <i>Archaster typicus</i> Müller et Troschel, 1840 |
| 1516 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | アカヒトデ目 | Valvatida | コブヒトデ科 | Oreasteridae | コブヒトデ | <i>Protoreaster nodosus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 1517 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | ルソンヒトデ目 | Spinulosida | ヒメヒトデ科 | Echinasteridae | ヒメヒトデ | <i>Henricia nipponica</i> Uchida, 1928 |
| 1518 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ヒトデ綱 | Asteroidea | マヒトデ目 | Forcipulatida | マヒトデ科 | Asteriidae | マヒトデ | <i>Asterias amurensis</i> Lütken, 1871 |
| 1519 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | スナクモヒトデ科 | Amphiuridae | ウデナガメガネクモヒトデ | <i>Amphiura (Fellaria) vadicola</i> Matsumoto, 1915 |
| 1520 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | スナクモヒトデ科 | Amphiuridae | <i>Amphiura (Fellaria)</i> 属の1種 | <i>Amphiura (Fellaria)</i> sp. |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|---------------|--------|---------------|---------|-----------------|------------|----------------|------------------------------|---|
| 1521 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | スナクモヒトデ科 | Amphiuridae | <i>Amphiura</i> 属の1種 | <i>Amphiura</i> sp. |
| 1522 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | スナクモヒトデ科 | Amphiuridae | カキクモヒトデ | <i>Amphioplus (Lymnella) japonicus</i> (Matsumoto, 1915) |
| 1523 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | トグクモヒトデ科 | Ophiotrichidae | ナガトグクモヒトデ | <i>Ophiotrix exigua</i> Lyman, 1874 |
| 1524 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | フサクモヒトデ科 | Ophiocomidae | ゴマフクモヒトデ | <i>Ophiocoma dentata</i> Müller et Troschel, 1842 |
| 1525 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | フサクモヒトデ科 | Ophiocomidae | ウデフリクモヒトデ | <i>Ophiocoma scolopendrina</i> (Lamarck, 1816) |
| 1526 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | フサクモヒトデ科 | Ophiocomidae | クサイロチビクモヒトデ | <i>Ophiactis affinis</i> Duncan, 1879 |
| 1527 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | ニホンクモヒトデ科 | Ophiolepididae | ダングクモヒトデ | <i>Ophiolepis cincta</i> Müller et Troschel, 1842 |
| 1528 | 棘皮動物門 | Echinodermata | クモヒトデ綱 | Ophiuroidea | クモヒトデ目 | Ophiurida | - | - | クモヒトデ目の1種 | Ophiurida sp. |
| 1529 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ホンウニ目 | Temnopleuroidea | サンショウウニ科 | Temnopleuridae | ツマジロナガウニ | <i>Echinometra</i> sp. |
| 1530 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ホンウニ目 | Temnopleuroidea | サンショウウニ科 | Temnopleuridae | コシダカウニ | <i>Mespilia globulus</i> (Linnaeus, 1758) |
| 1531 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ホンウニ目 | Temnopleuroidea | サンショウウニ科 | Temnopleuridae | サンショウウニ | <i>Temnopleurus toreumaticus</i> (Leske, 1778) |
| 1532 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ホンウニ目 | Temnopleuroidea | サンショウウニ科 | Temnopleuridae | キササンショウウニ | <i>Temnopleurus hardwickii</i> (Gray, 1855) |
| 1533 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ホンウニ目 | Temnopleuroidea | サンショウウニ科 | Temnopleuridae | シマダングラウニ | <i>Salmacis</i> sp. |
| 1534 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ホンウニ目 | Temnopleuroidea | ナガウニ科 | Echinometridae | ムラサキウニ | <i>Anthodiaris crassispina</i> (A. Agassiz, 1863) |
| 1535 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ホンウニ目 | Temnopleuroidea | - | - | ホンウニ目の1種 | Echinoidea sp. |
| 1536 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | タコノマクラ目 | Clypeasteroidea | カシバン科 | Laganidae | ヨツアナカシバン | <i>Peronella japonica</i> Mortensen, 1948 |
| 1537 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | タコノマクラ目 | Clypeasteroidea | カシバン科 | Laganidae | ミナヨツアナカシバン | <i>Peronella lesueuri</i> Valenciennes, 1841 |
| 1538 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | タコノマクラ目 | Clypeasteroidea | ヨウミヤクカシバン科 | Scutellidae | ハスノハカシバン | <i>Scaphechinus mirabilis</i> A. Agassiz, 1863 |
| 1539 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | タコノマクラ目 | Clypeasteroidea | スカシカシバン科 | Astriclepidae | スカシカシバン | <i>Astriclepeus manni</i> (Verrill, 1867) |
| 1540 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | タコノマクラ目 | Clypeasteroidea | - | - | カシバン亜目の1種 | Laganina sp. |
| 1541 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ブンブク目 | Spatangoida | ブンブクチャガマ科 | Schizasteridae | セイトカブンブク | <i>Moira lachesinella</i> Morlensen, 1930 |
| 1542 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | ブンブク目 | Spatangoida | ヒラタブンブク科 | Loveniidae | ヒラタブンブク | <i>Lovenia elongata</i> (Gray, 1845) |
| 1543 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ウニ綱 | Echinoidea | - | - | - | - | 不正形類の1種 | Irregularia sp. |
| 1544 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 樹手目 | Dendrochirotida | グミモドキ科 | Phylloporidae | <i>Stolus sacellus</i> | <i>Stolus sacellus</i> (Selenka, 1867) |
| 1545 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 樹手目 | Dendrochirotida | グミモドキ科 | Phylloporidae | <i>Thyonidiella</i> 属の1種 | <i>Thyonidiella</i> sp. |
| 1546 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | クロナマコ科 | Holothuriidae | クリイロナマコ近似種 | <i>Actinopyga</i> sp. |
| 1547 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | クロナマコ科 | Holothuriidae | フタスジナマコ | <i>Bohadschia bivitata</i> (Mitsukuri, 1912) |
| 1548 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | クロナマコ科 | Holothuriidae | クロナマコ | <i>Holothuria (Holodeima) atra</i> Jä ger, 1833 |
| 1549 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | クロナマコ科 | Holothuriidae | トラフナマコ | <i>Holothuria (Mertensiothuria) perricax</i> Selenka, 1867 |
| 1550 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | クロナマコ科 | Holothuriidae | ニセクロナマコ | <i>Holothuria (Mertensiothuria) leucospira</i> Brandt, 1835 |
| 1551 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | クロナマコ科 | Holothuriidae | ハネジナマコ | <i>Holothuria (Metiatyla) scabra</i> Jä ger, 1833 |
| 1552 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | クロナマコ科 | Holothuriidae | <i>Holothuria erinaceus</i> | <i>Holothuria erinaceus</i> Semper, 1867 |
| 1553 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 楯手目 | Aspidochirotida | シカクナマコ科 | Stichopodidae | マナマコ | <i>Apostichopus japonicus</i> (Selenka, 1867) |
| 1554 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | オオイカリナマコ | <i>Synapta maculata</i> (Chamisso et Eysenhardt, 1821) |
| 1555 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | フトゲイカリナマコ | <i>Protankyra autopista</i> (von Marenzeller, 1881) |
| 1556 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | トゲイカリナマコ | <i>Protankyra bidentata</i> (Woodward et Barrett, 1858) |
| 1557 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | ヒモイカリナマコ | <i>Patinapta ooplax</i> (von Marenzeller, 1882) |
| 1558 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | ウテワイカリナマコ | <i>Labidoplax dubia</i> (Semper, 1868) |
| 1559 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | <i>Leptosynapta</i> 属と思われる1種 | <i>Leptosynapta</i> ? sp. |
| 1560 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | イカリナマコ科の1種 (B) | Synaptidae sp. B |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|---------------|---------|---------------|---------|-------------------|----------|------------------|---------------------------|---|
| 1561 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | イカリナマコ科の1種 | Synaptidae sp. |
| 1562 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | イカリナマコ科 | Synaptidae | イカリナマコ科の1種または複数種 | Synaptidae sp. or spp. |
| 1563 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | 無足目 | Apodida | クルマナマコ科 | Chiridotidae | ムラサキクルマナマコ | <i>Polycheira fusca</i> (Quoy et Gaimard, 1833) |
| 1564 | 棘皮動物門 | Echinodermata | ナマコ綱 | Holothuroidea | - | - | - | - | ナマコ綱の1種 | Holothuroidea sp. |
| 1565 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マメボヤ目 | Enterogona | ヘンゲボヤ科 | Polycitoridae | <i>Eudistoma</i> 属と思われる1種 | <i>Eudistoma</i> ? sp. |
| 1566 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マメボヤ目 | Enterogona | ユウレイボヤ科 | Cionidae | カクユウレイボヤ | <i>Ciona intestinalis</i> (Lesueur, 1767) |
| 1567 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マメボヤ目 | Enterogona | ユウレイボヤ科 | Cionidae | ユウレイボヤ | <i>Ciona savignyi</i> Herdman, 1882 |
| 1568 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マメボヤ目 | Enterogona | ナツメボヤ科 | Asciidae | スジキレボヤ | <i>Ascidia sydnensis</i> (Stimpson, 1855) |
| 1569 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | イタボヤ科 | Botryllidae | イタボヤ | <i>Botryllus schollosseri</i> Oka, 1927 |
| 1570 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | シロボヤ科 | Styelidae | シロボヤ | <i>Styela plicata</i> (Lesueur, 1823) |
| 1571 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | シロボヤ科 | Styelidae | シロボヤと思われる1種 | <i>Styela plicata</i> (Lesueur, 1823)? |
| 1572 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | シロボヤ科 | Styelidae | エボヤ | <i>Styela clava</i> Herdman, 1881 |
| 1573 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | シロボヤ科 | Styelidae | フタスジボヤ | <i>Styela canopus</i> (Savigny, 1816) |
| 1574 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | マボヤ科 | Pyuridae | カラスボヤ | <i>Pyura vittata</i> (Stimpson, 1852) |
| 1575 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | マボヤ科 | Pyuridae | マクラボヤ | <i>Pyura mirabilis</i> (Drasche, 1884) |
| 1576 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | マボヤ目 | Pleurogona | マボヤ科 | Pyuridae | <i>Herdmania pallida</i> | <i>Herdmania pallida</i> (Heller, 1878) |
| 1577 | 脊索動物門 | Chordata | ホヤ綱 | Ascidacea | - | - | - | - | ホヤ綱の1種 | Ascidacea sp. |
| 1578 | 脊索動物門 | Chordata | ナメクジウオ綱 | Leptocardia | ナメクジウオ目 | Amphioxi | ナメクジウオ科 | Branchiostomidae | ヒガシナメクジウオ | <i>Branchiostoma japonicum</i> (Willey, 1897) |
| 1579 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | ウナギ目 | Anguilliformes | ウナギ科 | Anguillidae | ウナギ | <i>Anguilla japonica</i> Temminck et Schlegel, 1846 |
| 1580 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | ウナギ目 | Anguilliformes | ウミヘビ科 | Ophichthidae | ソラウミヘビ | <i>Leiuranus semichinctus</i> (Lay et Bennett, 1839) |
| 1581 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | ウナギ目 | Anguilliformes | ウミヘビ科 | Ophichthidae | ウミヘビ亜科の稚魚 | Ophichthinae sp. |
| 1582 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | コイ目 | Cypriniformes | コイ科 | Cyprinidae | コイ | <i>Cyprinus carpio</i> Linnaeus, 1758 |
| 1583 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | コイ目 | Cypriniformes | コイ科 | Cyprinidae | オйкаワ | <i>Zacco platypus</i> (Temminck et Schlegel, 1846) |
| 1584 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | サケ目 | Salmoniformes | シラウオ科 | Salangidae | シラウオ | <i>Salangichthys microdon</i> Bleeker, 1860 |
| 1585 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | サケ目 | Salmoniformes | サケ科 | Salmonidae | サケ | <i>Oncorhynchus keta</i> (Walbaum, 1792) |
| 1586 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | トゲウオ目 | Gasterosteiformes | トゲウオ科 | Gasterosteidae | トミヨ | <i>Pungitius sinensis</i> (Guichenot, 1869) |
| 1587 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | トゲウオ目 | Gasterosteiformes | ヨウジウオ科 | Syngnathidae | オクヨウジ | <i>Urocampus nanus</i> Günther, 1870 |
| 1588 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | トゲウオ目 | Gasterosteiformes | ヨウジウオ科 | Syngnathidae | ヨウジウオ | <i>Syngnathus schlegelii</i> Kaup, 1856 |
| 1589 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | トゲウオ目 | Gasterosteiformes | ヨウジウオ科 | Syngnathidae | ガンテンイシヨウジ | <i>Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus</i> (Cantor, 1849) |
| 1590 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | トゲウオ目 | Gasterosteiformes | ヨウジウオ科 | Syngnathidae | カワヨウジ | <i>Hippichthys (Hippichthys) spicifer</i> (Rüppell, 1838) |
| 1591 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | ボラ目 | Mugiliformes | ボラ科 | Mugilidae | ボラ | <i>Mugil cephalus cephalus</i> Linnaeus, 1758 |
| 1592 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | カサゴ目 | Scorpaeniformes | ハオコゼ科 | Tetrarogidae | ハオコゼ | <i>Hypodytes rubripinnis</i> (Temminck et Schlegel, 1843) |
| 1593 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | カサゴ目 | Scorpaeniformes | カジカ科 | Cottidae | <i>Myoxocephalus</i> 属の1種 | <i>Myoxocephalus</i> sp. |
| 1594 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | カサゴ目 | Scorpaeniformes | カジカ科 | Cottidae | アサヒアナハゼ | <i>Pseudoblennius cottoides</i> (Richardson, 1848) |
| 1595 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | サンフィッシュ科 | Centrarchidae | オウケチバス | <i>Micropterus salmoides</i> (Lacepède, 1802) |
| 1596 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | テンジクダイ科 | Apogonidae | ハワイマトイシモチ | <i>Apogonichthys waikiki</i> Jordan et Evermann, 1903 |
| 1597 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | テンジクダイ科 | Apogonidae | ネンツダイ | <i>Apogon semilineatus</i> Temminck et Schlegel, 1842 |
| 1598 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | タイ科 | Sparidae | クロダイ | <i>Acanthopagrus schlegelii</i> (Bleeker, 1854) |
| 1599 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | スズメダイ科 | Pomacentridae | スズメダイ科の1種 | Pomacentridae sp. |
| 1600 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | シマイサキ科 | Teraponidae | コトヒキ | <i>Terapon jarbua</i> (Forskäl, 1775) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|----------|------|--------------|------|-------------|--------|---------------|---------------------------|---|
| 1601 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | シマイサキ科 | Teraponidae | シマイサキ | <i>Rhyncopelates oxyrhynchus</i> (Temminck et Schlegel, 1842) |
| 1602 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ベラ科 | Labridae | キュウセン | <i>Halichoeres poecilopterus</i> (Temminck et schlegel, 1845) |
| 1603 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ゲング科 | Zoarcidae | ナガガジ | <i>Zoarcus elongatus</i> Kner, 1868 |
| 1604 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | イソギンボ科 | Blenniidae | トサカギンボ | <i>Omobranchus fasciolatoiceps</i> (Richardson, 1846) |
| 1605 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | イソギンボ科 | Blenniidae | ニジギンボ | <i>Petrosirtes breviceps</i> (Valenciennes, 1836) |
| 1606 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ネズツボ科 | Callionymidae | ハナヒヌメリ | <i>Paradiplogrammus enneactis</i> (Breker, 1879) |
| 1607 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ネズツボ科 | Callionymidae | ネズツボ科の複数種 | Callionymidae spp. |
| 1608 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | タバクチ | <i>Apocryptodon punctatus</i> Tomiyama, 1934 |
| 1609 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | トカゲハゼ | <i>Scartelaos histophorus</i> (Valenciennes, 1837) |
| 1610 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ムツゴロウ | <i>Boleophthalmus pectinirostris</i> (Linnaeus, 1758) |
| 1611 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | トビハゼ | <i>Periophthalmus modestus</i> Cantor, 1842 |
| 1612 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ミナトビハゼ | <i>Periophthalmus argentilineatus</i> Valenciennes, 1837 |
| 1613 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ワラスボ | <i>Odontamblyopus lacepedii</i> (Temminck et Schlegel, 1845) |
| 1614 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ヒゲワラスボ | <i>Taenioides limicola</i> Smith, 1964 |
| 1615 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ミミズハゼ | <i>Luciogobius guttatus</i> Gill, 1859 |
| 1616 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ミミズハゼと思われる1種 | <i>Luciogobius guttatus</i> Gill, 1859? |
| 1617 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ヒモハゼ | <i>Eutaenichthys gilli</i> Jordan et Snyder, 1901 |
| 1618 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | タネハゼ | <i>Callogobius tanegasimae</i> (Snyder, 1908) |
| 1619 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ミナマイソハゼ | <i>Eviota japonica</i> Jewett et Lachner, 1983 |
| 1620 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ドロメ | <i>Chaenogobius glosus</i> (Guichenot, 1882) |
| 1621 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ウキゴリ | <i>Gymnogobius urotaenia</i> (Hilgendorf, 1879) |
| 1622 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ニクハゼ | <i>Gymnogobius heptacanthus</i> (Hilgendorf, 1879) |
| 1623 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | クボハゼ | <i>Gymnogobius scrobiculatus</i> (Takagi, 1957) |
| 1624 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ヘビハゼ | <i>Gymnogobius mororanus</i> (Jordan et Snyder, 1901) |
| 1625 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | エドハゼ | <i>Gymnogobius macrognathos</i> (Bleeker, 1860) |
| 1626 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | チクゼンハゼ | <i>Gymnogobius uchidai</i> (Takagi, 1957) |
| 1627 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ピリンゴ | <i>Gymnogobius breunigii</i> (Steindachner, 1880) |
| 1628 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ウロハゼ | <i>Glossogobius olivaceus</i> (Temminck et Schlegel, 1845) |
| 1629 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ツムギハゼ | <i>Yangethys criniger</i> (Valenciennes, 1837) |
| 1630 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | マハゼ | <i>Acanthogobius flavimanus</i> (Temminck et Schlegel, 1845) |
| 1631 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | アシシロハゼ | <i>Acanthogobius lactipes</i> (Hilgendorf, 1879) |
| 1632 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | マサゴハゼ | <i>Pseudogobius masago</i> (Tomiyama, 1936) |
| 1633 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | クモハゼ | <i>Bathygobius fuscus</i> (Rüppell, 1830) |
| 1634 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ハゴロモハゼ | <i>Myersina macrostoma</i> Herre, 1934 |
| 1635 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ホシハゼ | <i>Asterropteryx semipunctata</i> Rüppell, 1830 |
| 1636 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ヒメハゼ | <i>Favonigobius gymnauchen</i> (Bleeker, 1860) |
| 1637 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ミナミヒメハゼ | <i>Papillogobius reichei</i> (Bleeker, 1853) |
| 1638 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | <i>Papillogobius</i> 属の1種 | <i>Papillogobius</i> sp. |
| 1639 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ヒナハゼ | <i>Redigobius bikolanus</i> (Herre, 1927) |
| 1640 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | アベハゼ | <i>Mugilogobius abei</i> (Jordan et Snyder, 1901) |

| No. | 門 | phylum | 綱 | class | 目 | order | 科 | family | 和名 | Scientific Name (Genus, Species, Auther, year) |
|------|-------|----------|------|--------------|------|-------------------|----------|----------------|-----------------------------------|--|
| 1641 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | イズマハゼ | <i>Mugilogobius</i> sp. 1 |
| 1642 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | キラハゼ | <i>Acentrogobius viridipunctatus</i> (Valenciennes, 1837) |
| 1643 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | スジハゼA種 | <i>Acentrogobius</i> sp. A |
| 1644 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | スジハゼB種 | <i>Acentrogobius</i> sp. B |
| 1645 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | スジハゼの1種 | <i>Acentrogobius</i> sp. |
| 1646 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | <i>Acentrogobius</i> 属の1種 | <i>Acentrogobius</i> sp. |
| 1647 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | <i>Acentrogobius</i> 属の1種 (稚魚) | <i>Acentrogobius</i> sp. (larva) |
| 1648 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | クロコハゼ | <i>Drombus</i> sp. |
| 1649 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ゴマハゼ | <i>Pandaka</i> sp. A |
| 1650 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ギンボハゼ | <i>Parakaemia ornata</i> Whitley, 1951 |
| 1651 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ゴクラクハゼ | <i>Rhinogobius giurinus</i> (Rutter, 1897) |
| 1652 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | <i>Rhinogobius</i> 属の1種 (ヨシノボリ種群) | <i>Rhinogobius</i> sp. |
| 1653 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | アカオビシマハゼ | <i>Tridentiger trigonocephalus</i> (Gill, 1859) |
| 1654 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | シモフリシマハゼ | <i>Tridentiger bifasciatus</i> Steindachner, 1881 |
| 1655 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | アカオビシマハゼもしくはシモフリシマハゼ | <i>Tridentiger trigonocephalus</i> or <i>T. bifasciatus</i> |
| 1656 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | シロチチブ | <i>Tridentiger nudicervicus</i> Tomiyama, 1934 |
| 1657 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ヌマチチブ | <i>Tridentiger brevispinis</i> Katsuyama, Arai et Nakamura, 1972 |
| 1658 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | チチブ | <i>Tridentiger obscurus</i> (Temminck et Schlegel, 1845) |
| 1659 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ショウキハゼ | <i>Tridentiger barbatus</i> (Günther, 1861) |
| 1660 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | チワラスボ | <i>Taenioides cirratus</i> (Blyth, 1860) |
| 1661 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | ハゼ科 | Gobiidae | ハゼ科の1種 | Gobiidae sp. |
| 1662 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | オオメワラスボ科 | Microdesmidae | サツキハゼ | <i>Parioglossus dotui</i> Tomiyama, 1958 |
| 1663 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | スズキ目 | Perciformes | オオメワラスボ科 | Microdesmidae | クロユリハゼ亜科の1種 | Ptereleotrinae sp. |
| 1664 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | カレイ目 | Pleuronectiformes | ササウシノシタ科 | Soleidae | セトウシノシタ | <i>Pseudaesopia japonica</i> (Bleeker, 1860) |
| 1665 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | フグ目 | Tetraodontiformes | カワハギ科 | Monacanthidae | アミメハギ | <i>Rudarius ercodes</i> Jordan et Fowler, 1902 |
| 1666 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | フグ目 | Tetraodontiformes | フグ科 | Tetraodontidae | クサフグ | <i>Takifugu niphobles</i> (Jordan et Snyder, 1901) |
| 1667 | 脊索動物門 | Chordata | 硬骨魚綱 | Osteichthyes | フグ目 | Tetraodontiformes | フグ科 | Tetraodontidae | サザナミフグ | <i>Arothron hispidus</i> (Linnaeus, 1758) |

卷末別表2 地域別出現種リスト

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 | |
|------------------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|-----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 | 157 |
| <i>Cliona inconstans</i> | | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| <i>Cliona</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| クロイソカイメン | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ダイダイイソカイメン | | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| ナミイソカイメン | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| コエダカイメン | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| イソカイメン属の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Callyspongia</i> 属の1種 (1) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Callyspongia</i> 属の1種 (2) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ムラサキカイメン | | | | | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| <i>Haliclona</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Microxina</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 海綿動物門の1種または複数種 | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ミズクラゲ | | | | | | | 3 | 1 | 2 | | | 6 |
| ハナギンチャク科の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ムラサキハナギンチャク | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| キクメイシモドキ | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| <i>Porites</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| オヨギソギンチャク | | | | | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| チグレソギンチャク | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| タテジマイソギンチャク | | 4 | | | | 4 | 5 | 3 | 4 | 2 | | 22 |
| <i>Aiptasia</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Aiptasiogeton</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| <i>Paraiptasia</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 5 | | 5 |
| <i>Epiphellia australis</i> 近似種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Epiphellia</i> 属の1種 (O) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Epiphellia</i> 属の1種 (R) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Andwakia</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ホウザワイソギンチャク | 2 | 1 | | | | | | | | | | 3 |
| <i>Synandwakia</i> 属の1種 | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| <i>Halcampactis</i> 近縁属の1種 | | 2 | | | | 1 | | | 2 | | | 5 |
| <i>Stephensonactis</i> 属の1種 | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| ハリアクテス科の1種 | | | | | | | 2 | | | | | 2 |
| マキガイイソギンチャク | | | | | | 1 | | | 1 | 2 | | 4 |
| <i>Halcampa</i> 近似属の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Edwardsia</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ミナミムシモドキギンチャク | | | | | | | | | 1 | 6 | | 7 |
| ムシモドキギンチャク | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 3 |
| <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (K) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (M) | | | | | | 2 | | | 2 | | | 4 |
| <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (NO) | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (aff. Y) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Edwardsioides</i> 属の1種 (nov.?) | | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| ホソイソギンチャク近似種 | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| <i>Nematostella</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ムシモドキギンチャク科の1種 | | | | | | 1 | | | 1 | 2 | | 4 |
| ヨロイイソギンチャク | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| クロガネイソギンチャク | 2 | 1 | 2 | | | | | | | | | 5 |
| クロガネイソギンチャク近似種 | | | 1 | | 1 | | | | 5 | | | 7 |
| <i>Anthopleura</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Anthostella</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| スナイソギンチャク | | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| <i>Entacmaea</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| インワケイソギンチャク | | | | | 1 | 2 | | 1 | 8 | | | 12 |
| インワケイソギンチャク近縁種 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| ハナワケイソギンチャク | | | | | | | | | 4 | | | 4 |
| ニンジンイソギンチャク | | | | | | 1 | | 2 | | | | 3 |
| <i>Paranemonia</i> 属の1種 (2) | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| <i>Paranemonia</i> 近縁属の1種 | | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 |
| <i>Paranemonia</i> 近縁属の1種 (2) | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Acthelmis</i> 近似属の1種 (J) | | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 |
| <i>Acthelmis</i> 近似属の1種 (B) | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Calamactinia</i> 近縁属の1種 | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| <i>Calamactis</i> 近縁属の1種 (B) | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Halcampoides</i> 近縁属の1種 | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Harenactis</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| イソギンチャク目の1種 | | | 3 | | | | 1 | | | 4 | | 8 |
| イソギンチャク目の1種 (A) | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| イソギンチャク目の1種 (B) | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| イソギンチャク目の1種または複数種 | | | | | | 1 | | | | | | 1 |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|-----------------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 |
| スナギンチャク目の1種 | | | 2 | | | | | | | | 2 |
| ウミサボテン | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| ホソウミエラと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヤナギウミエラと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| チョウセンウスヒラムシ | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| <i>Notoplana</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Diplandros</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Cryptocelis amakusaensis</i> | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| <i>Cryptocelis</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | | 1 | | 2 |
| クリトセリス科の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Pseudostylochus maculatus</i> | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Pseudostylochus meridialis</i> | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Pseudostylochus stimpsoni</i> | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| <i>Pseudostylochus</i> 属の1種 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | 3 |
| カリオヒラムシ科の1種 | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| <i>Leptostylochus</i> 属の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Stylochus aomori</i> | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| <i>Stylochus orientalis</i> | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Stylochus uniporus</i> | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Stylochus</i> 属の1種 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| スチロヒラムシ科の1種 | | | | | | | | 1 | 3 | | 4 |
| ホソヒラムシ科の1種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| スティロクス上科の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ツノヒラムシ上科の1種 | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| 無吸盤亜目の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 多岐觸目の1種 (A) | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 多岐觸目の1種 (B) | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 多岐觸目の1種 | | | | | | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 9 |
| 渦虫綱の1種 | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 |
| <i>Paucumara</i> 属の1種 | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ケファロツリックス科の1種 | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| ケンサキヒモムシ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| クリゲヒモムシ科の1種 (1) | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 古紐虫目の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 古紐虫目の1種 (A) | | | 7 | | | | | | | | 7 |
| 古紐虫目の1種 (B) | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 古紐虫目と思われる1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Micrura</i> 属と思われる1種 (1) | | | | | | 4 | | | | | 4 |
| <i>Lineopsella</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| リネウス科の1種 (異紐虫目の1種 B) | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| リネウス科の1種 (1) | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| リネウス科の1種 (2) | | 3 | | | | | | | | | 3 |
| リネウス科の1種 (3) | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| クロスジヒモムシ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ナミヒモムシ | | 5 | 1 | | 1 | 5 | | 2 | 12 | 1 | 27 |
| ナミヒモムシと思われる1種 | | | | | | | | 1 | 4 | | 5 |
| オロチヒモムシ | | 4 | | | | | | | | | 4 |
| <i>Cerebratulus</i> 属と思われる1種 (1) | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Cerebratulus</i> 属と思われる1種 (2) | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| オロチヒモムシ科の1種 | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| 異紐虫目の1種 (A) | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 異紐虫目の1種 | 1 | 1 | | | | | 1 | 1 | 4 | | 8 |
| 異紐虫目の1種または複数種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 無針綱の1種 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 4 | | 7 |
| 無針綱と思われる1種 | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 |
| メノコヒモムシ科と思われる1種 (A) | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 紐形動物門の1種 | 1 | | | | | 1 | | | 7 | 2 | 11 |
| 紐形動物門の1種または複数種 | 1 | | | | | 2 | | | | 1 | 4 |
| ウスヒザラガイ | | | | | | 2 | 1 | 2 | 2 | 5 | 12 |
| ホソウスヒザラガイ | | 1 | | | | 1 | | | 1 | | 3 |
| ヤスヒザラガイ | | 1 | | | | | | 2 | 2 | 2 | 7 |
| ウスヒザラガイ科の1種または複数種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| オニヒザラガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒザラガイ | | | | | | | 2 | 2 | 4 | | 8 |
| ヒメケハダヒザラガイ | | 3 | | | | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 | 12 |
| ケハダヒザラガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ケハダヒザラガイと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 新ヒザラガイ目の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| シロガイ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| コガモガイ | | | | | | | | | 1 | | 1 |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|---------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 |
| コウダカアオガイ | | 1 | | | | 1 | | 1 | 1 | | 4 |
| クサイロアオガイ | | | | | | | 1 | 2 | 1 | | 4 |
| カスミアオガイ | | 3 | | | | | | 1 | | | 4 |
| クモリアオガイ | | 2 | | | | | | | | | 2 |
| アオガイ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ツボミ | | 3 | 2 | | | 2 | | 3 | 6 | | 16 |
| ツボミと思われる1種 | | | | | | | 1 | | 1 | | 2 |
| ヒメコザラ | 1 | 5 | | | | 2 | 8 | 11 | 13 | 5 | 45 |
| ウノアシ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| リュウキュウウノアシ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| リュウキュウアオガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| コガモガイ科の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| サルアワビ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| スカシガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ヒラスカシガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| チグサガイ | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| クマノコガイ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| キヌシタダミ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| イワカワチグサ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| インダタミ | | 2 | | | | 3 | 7 | 4 | 4 | 5 | 25 |
| コシダカガンガラ | | 1 | | | | 1 | 1 | 3 | 2 | | 8 |
| ハブタエシタダミ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ニシキウス | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| <i>Trochus</i> 属の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| キサゴ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| イボキサゴ | | 2 | 1 | | | 1 | 1 | 2 | 7 | | 14 |
| リュウキュウカタベ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| オオウラウスガイ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| エゾザンショウ | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| スガイ | | 2 | 1 | | 1 | 6 | 6 | 6 | 8 | | 30 |
| カンギク | | | | | | | | | 1 | 13 | 14 |
| カノコガイ | | | | | | 1 | 4 | 4 | 12 | 8 | 29 |
| インマキ | | | 1 | | 2 | 4 | 9 | 11 | 11 | 1 | 39 |
| ハナガスミカノコ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヒメカノコ | | | | | | | | 1 | 3 | 3 | 7 |
| リュウキュウアマガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| アマガイ | | | | | | | 1 | | 6 | | 7 |
| ニシキアマオブネ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| インダタミアマオブネ | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| マングローブアマガイ | | | | | | | | | | 8 | 8 |
| アラスジアマガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| キバアマガイ | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| アマオブネ | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 |
| オオマルアマオブネ | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| ヒラマキアマオブネ | | | | | | | | | | 7 | 7 |
| マルアマオブネ | | | | | | | | | 2 | 13 | 15 |
| ヒロクチカノコ | | | | | | 2 | 2 | 7 | 11 | 10 | 32 |
| ニセヒロクチカノコ | | | | | | | | | | 7 | 7 |
| シマカノコ | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| ドングリカノコ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| キンランカノコ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| クサイロカノコ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ミヤコドリ | | | | | | 1 | 3 | | 2 | 3 | 9 |
| ヒナユキスズメ | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| ユキスズメ科の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| スクミリンゴガイ | | | | | | | | | 3 | 1 | 4 |
| サキボソカニモリ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| コゲツノブエ | | | | | | 3 | 5 | 1 | 1 | 6 | 16 |
| コオロギ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ウミニナカニモリ | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| カヤノミカニモリ | | | | | | | | | 1 | 10 | 11 |
| セムシツノブエ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ミツカドカニモリ | | | | | | | | | | 5 | 5 |
| タケノコチグサカニモリ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| カニモリガイ | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| トウガタカニモリ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| タケノコカニモリ | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| オニツノガイ科の複数種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ホソウミニナ | 9 | 10 | 5 | | | 12 | 8 | 12 | 26 | | 82 |
| リュウキュウウミニナ | | | | | | | | | 1 | 7 | 8 |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|-----------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 |
| ウミミナ | | 8 | 1 | | 1 | 10 | 5 | 6 | 22 | 5 | 58 |
| イボウミミナ | | 1 | | | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 8 | 17 |
| クロヘナタリ | | | | | | | | 3 | 8 | | 11 |
| シマヘナタリ | | | | | | | | 3 | 11 | | 14 |
| フトヘナタリ | | 6 | 1 | | | 9 | 9 | 12 | 22 | 10 | 69 |
| イトカケヘナタリ | | | | | | | | | 2 | 1 | 3 |
| ヘナタリ | | | | | | 7 | 1 | 5 | 15 | 10 | 38 |
| カワアイ | | 3 | | | | 4 | 1 | 4 | 10 | 5 | 27 |
| キバウミミナ | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| マドモチウミミナ | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| ネジヒダカワニナ | | | | | | | | | | 5 | 5 |
| タケノコカワニナ | | | | | | | 1 | 1 | 5 | | 7 |
| トウガタカワニナ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| カワニナ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| チリメンカワニナ | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ウネハマツボ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| シマモツボ | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ツヤモツボ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| オニノツノガイ上科の1種または複数種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ゴマフニナ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| チャイロタマキビ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| コウダカタマキビ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ホソスジウスラタマキビ | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| ヒメウスラタマキビ | | | | | | | | | 2 | 9 | 11 |
| イロタマキビ | | | | | | | | | | 11 | 11 |
| ウスラタマキビ | | | | | | | | | | 8 | 8 |
| マルウスラタマキビ | | | | | | | 6 | 8 | 17 | | 31 |
| タマキビ | | 7 | 1 | | | 7 | 9 | 11 | 15 | 1 | 51 |
| アツタマキビ | 2 | 1 | | | | | | | | | 3 |
| エゾタマキビ | 6 | 1 | | | | | | | | | 7 |
| クロタマキビ | 8 | 1 | | | | | | | | | 9 |
| アラレタマキビ | | | | | | 1 | 3 | 2 | 1 | | 7 |
| イボタマキビ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| タイワンタマキビ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| コビトウラウス | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| チャツボ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ワカウラツボ | | | | | | 2 | 2 | 3 | 3 | | 10 |
| カワグチツボ | | 1 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | | 12 |
| マンガルツボ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| サザナミツボ | | | | | | | 1 | 2 | | | 3 |
| アツクチナタネツボ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| <i>Falsicingula</i> 属の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| クリイロカワザンショウ | | 5 | 4 | | | 5 | 8 | 12 | 11 | | 45 |
| オオクリイロカワザンショウ | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| アマグリイロカワザンショウ | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| キントニイロカワザンショウ | | 1 | | | 2 | | 3 | 8 | 1 | | 15 |
| <i>Angustassiminea</i> 属の1種 | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| ツブカワザンショウ | | 2 | | | | | 2 | 10 | 7 | | 21 |
| ヒラドカワザンショウ | | 6 | 4 | | 1 | | 6 | 12 | 18 | | 47 |
| カワザンショウガイ | | 1 | 3 | | 2 | 7 | 5 | 4 | 4 | | 26 |
| ムシヤドリカワザンショウ | | 6 | 2 | | 1 | 4 | 4 | 7 | 5 | | 29 |
| ヨシダカワザンショウ | | 3 | | | 2 | 1 | | 7 | 1 | | 14 |
| テシオカワザンショウ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| オブチカワザンショウ | | 2 | | | | | | | | | 2 |
| イヨカワザンショウ | | | | | | | | 4 | 1 | | 5 |
| ヤミカワザンショウ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヒメカワザンショウ | | | | | 2 | | | 3 | 2 | | 7 |
| マツカウウラカワザンショウ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| マツシマカワザンショウ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| アッケシカワザンショウ | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| <i>Assiminea</i> 属の1種 | 2 | 4 | | | | | | | | | 6 |
| <i>Assiminea</i> 属の1種 (A) | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Assiminea</i> 属の1種 (B) | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| カハタレカワザンショウ | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| オイランカワザンショウ | | | | | | | | | | 8 | 8 |
| スミヨウカワザンショウ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヘソカドガイ | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ウスイロヘソカドガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| オオウスイロヘソカドガイ | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| アズキカワザンショウ | | | | | | | | | 10 | | 10 |

| 和名 | 各地域調査地数 | | | | | | | | | | | 全国 |
|------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|--|----|
| | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | | |
| カワザンショウ科の1種または複数種 | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| クビキレガイ | | | | | | | | | | 6 | | 6 |
| ヤマトクビキレガイ | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| クビキレガイモドキ | 7 | | | | | | | | | | | 7 |
| シラギク | | | | | | | 1 | 1 | 2 | | | 4 |
| ウミゴマツボ | | | 1 | | | 1 | 4 | 3 | | | | 9 |
| ミヤジマウミゴマツボ | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ミズゴマツボ | | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 |
| トライミスゴマツボ | | | | | | | | | 4 | | | 4 |
| <i>Stenothyra</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | | | 2 | | 3 |
| クモガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| オハクログガイ | | | | | | | | | | 4 | | 4 |
| シドロ | | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| ネジマガキ | | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| サザナミスイショウ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| スイショウガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| フウリンチドリ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| キクスズメ | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| カリバガサガイ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| エゾフネガイ | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| シマメノウフネガイ | | 2 | 1 | | | 1 | | 2 | 9 | | | 15 |
| ヒラフネガイ | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| クチキレヘビガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| フタモチヘビガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ミジンムカデガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| リュウキュウムカデガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| オレンジヘビガイ | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| オオヘビガイ | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 3 |
| オミナエシダカラ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ナツメモドキ | | | | | | | | | | 4 | | 4 |
| キイロダカラ | | | | | | | | | | 6 | | 6 |
| ハナビラダカラ | | | | | | | | | | 5 | | 5 |
| メダカラ | | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| ハナツトガイ科の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| アダムスタマガイ | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ヒラセタマガイ | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| チシマタマガイ | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| タマネコガイ | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ネコガイ | | | | | | 1 | | 2 | | | | 3 |
| サキグロタマツメタ | | 3 | 1 | | | 2 | | | 4 | | | 10 |
| ウスイロタマツメタと思われる1種 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| ツメタガイ | | | 3 | | | 3 | 1 | 2 | 6 | | | 15 |
| ツメタガイ (卵) | | | 4 | | | | | 1 | 2 | | | 7 |
| リスガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| クチグロタマガイ | | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| ゴマフダマ | | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| ホウシュノタマ | | | | | | | | | 2 | 15 | | 17 |
| ホウシュノタマ (卵) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ハギノツユ | | | | | | | 1 | | 1 | | | 2 |
| ロウイロトミガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| シロヘソアキトミガイ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| タマガイ科の1種 (卵) | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ハブタエセキモリ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヒモイカリナマコツマミガイ | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| クロナマコヤドリニナ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| カシバンヤドリニナ | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ヤセフタオビツマミガイ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| カスリモミジヒトデヤドリニナ | | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| カスリモミジヒトデヤドリニナと思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| カゴメガイ | | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| ウネレイシダマシ | | | | | | | | | | 8 | | 8 |
| ヒメヨウラク | | | 1 | | | | | | 2 | | | 3 |
| レイシダマシ | | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| レイシダマシモドキ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| エゾチヂミボラ | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| チヂミボラ | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| <i>Ocenebra</i> 属の1種 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| アカニシ | | | 1 | | | 2 | 1 | 3 | 2 | | | 9 |
| ツノアカニシ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| レイシ | | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 |

| 和名 | 各地域調査地数 | | | | | | | | | | | 全国 |
|------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|-----|----|
| | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | | |
| イボニシ | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 | 157 | |
| ウニレイシダマシ | | 1 | | | 1 | 3 | 4 | 5 | 5 | | 19 | |
| コイワニシ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| テツレイシ | | | | | | | | | | 2 | 2 | |
| アッキガイ科の複数種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| フトコロガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| マルテンスマツムシ | | | | | | | | | 7 | | 7 | |
| ムギガイ | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | |
| ムシエビ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| アラムシロ | | 5 | 7 | | 2 | 8 | 8 | 10 | 25 | 1 | 66 | |
| クロスジムシロ | 3 | | | | | 1 | | | | 2 | 6 | |
| ウネムシロ | | 1 | | | | | | 1 | | | 2 | |
| アオモリムシロ | 5 | 2 | | | | | | | | | 7 | |
| キヌボラ | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| ヒメムシロ | 2 | | | | | | | 1 | | 1 | 4 | |
| オマセムシロ | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| イボヨフバイ | | | | | | | | | 1 | 5 | 6 | |
| ムシロガイ | | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 5 | |
| アツムシロ | | | | | | | | | | 4 | 4 | |
| アワムシロ | | | | | | | | | | 2 | 2 | |
| カニノテムシロ | | | | | | | | | 1 | 11 | 12 | |
| オオカニノテムシロ | | | | | | | | | | 3 | 3 | |
| ウネハナムシロ | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| リュウキュウムシロ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| カラムシロ | | | | | | | | | 4 | | 4 | |
| ヒロオビヨフバイ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ホラダマシ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| シマベッコウバイ | | | | | | | | | | 6 | 6 | |
| ヒメエゾボラ | 3 | | | | | | | | | | 3 | |
| ミクリガイ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| エゾバイ科の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| マクラガイ | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | |
| ナガシマヤタテ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| Mitra 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| イモフデガイ | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | |
| フデガイ科の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| カノコシボリミノムシ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| オオミノムシ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| オリイレボラ | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| ロウソクガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| アンボンクロザメ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| コモンイモ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| キヌカツギイモ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| マダライモ | | | | | | | | | | 3 | 3 | |
| カニモリタケ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ムシロタケ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| シュマダラギリ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ベニタケ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| スタレグルマ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| カキウラクチキレモドキ | | | | | | 1 | 6 | 7 | | | 14 | |
| ヨコイトカケギリ | | | | | | | | 2 | | | 2 | |
| Syrnola 属と思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| カゴメイトカケクチキレ | | | | | | | | 2 | | | 2 | |
| シゲヤサイトカケギリ | | 1 | | | | | | 1 | | | 2 | |
| オオクチキレ | | | | | | | | | | 2 | 2 | |
| ナガメアラレクチキレ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| Odostomia 属の1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| エバラクチキレ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| クチキレガイ | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | |
| ネコノミクチキレ | | | | | | | | | | 3 | 3 | |
| シイノミクチキレ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ヒガタヨコイトカケギリ | | | | | | | | 1 | 2 | 1 | 4 | |
| ミスジヨコイトカケギリ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ヨコスジギリ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| Turbonilla 属の1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| トウガタガイ科の1種 | | | | | | | | 2 | | 1 | 3 | |
| ムラクモキジヒキガイ | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| カヤノミガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| コシイノミガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| ツララガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 | |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|-----------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 |
| キヌタレガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| フネガイ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| エガイ | | | | | | | | | 2 | 3 | 5 |
| トマヤエガイ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| カリガネエガイ | | | | | | | 3 | 3 | 5 | 5 | 16 |
| ササゲミエガイ | | | | | | | | 3 | 1 | | 4 |
| クイチガイサルボウ | | | | | | | | 2 | 1 | | 3 |
| サルボウ | | 1 | 2 | | | 2 | | 1 | 7 | | 13 |
| アカガイ | | | | | | | | 1 | 5 | | 6 |
| ハイガイ | | | | | | | | | 7 | | 7 |
| ミミエガイ | | | | | | | | | 1 | 3 | 4 |
| スキゲヒバリ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒバリガイモドキ | | | | | | | 3 | | 3 | 7 | 13 |
| リュウキュウヒバリガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| サザナミマクラ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| コケガラス | | | | | | | | 1 | 10 | | 11 |
| ヒバリガイ | | | | | | | | | 6 | | 6 |
| ホソスジヒバリ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ホトトギス | 2 | 5 | 8 | | 1 | 9 | 6 | 5 | 9 | | 45 |
| ムラサキイガイ | | 9 | 1 | | 1 | 2 | 2 | 1 | 6 | | 22 |
| クジャクガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒメイガイ | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ムラサキインコ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| クログチ | | | | | | 5 | 9 | 10 | 4 | 1 | 29 |
| コウロエンカワヒバリガイ | | | | | 2 | 2 | 4 | 6 | 11 | | 25 |
| イガイ科の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| タイラギ | | | | | | | 1 | 4 | 14 | | 19 |
| ヘリトリアオリ | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| マクガイ | | | | | | | | | | 6 | 6 |
| シュモクアオリ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| シロアオリ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| クロシュミセン | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ニワトリガキ | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| ミドリアオリ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| アコヤガイ | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 3 | 6 |
| ハボウキガイ | | | | | | | | 1 | 2 | 2 | 5 |
| イワカワハゴロモ | | | | | | | | | | 7 | 7 |
| ユキミノガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| フクレユキミノ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| アズマニシキ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| シロスジナデシコ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ウミギク | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| メンガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ナミマガシワ | | | | | 1 | 2 | 2 | 1 | 5 | | 11 |
| マガキ | | 10 | 3 | | 1 | 12 | 12 | 14 | 25 | 3 | 80 |
| マガキと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| イワガキ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ノコギリガキ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| イタボガキ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| クロヒメガキ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| オハグログキモドキ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ニセマガキ | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| ケガキ | | | | | | 1 | 4 | | 1 | | 6 |
| オハグログキ | | | | | | | | | 1 | 4 | 5 |
| Saccostrea 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| カブラツキガイ | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| シワツキガイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒメツキガイ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ウメノハナガイ | | | 1 | | | | 2 | 2 | | 6 | 11 |
| チヂミウメノハナ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒメシオガマ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ウソシジミ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| フタバシラガイ科の1種(1) | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| フタバシラガイ科の1種(2) | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ケントリガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ヒノマルズキン | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| Arthritica 属の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| アリアケケボリガイ | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| ツルマルケボリガイ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヒナノズキン | | | | | | | | | 2 | | 2 |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|---------------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 |
| シナヤカスエモノガイ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ミミイカ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| イカ類の1種(卵塊) | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| マダコ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| アナダコ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| テナガダコ | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| Anaitides 属の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| ホソミサシバ | 2 | 1 | 1 | | | 1 | | 2 | | | 7 |
| マダラサシバ | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 |
| マダラサシバと思われる1種 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| Eumida 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Nereiphylla castanea とと思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ウロコサシバ | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| Phyllodoce papillosa | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Phyllodoce 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| サンバゴカイ科の1種 | | | 1 | | | | | | 4 | | 5 |
| Glycera brevicirris | | | | | | | | | 1 | 5 | 6 |
| Glycera sagittariae とと思われる1種 | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| Glycera macintoshii | | | 4 | | | 10 | 4 | 3 | 19 | 2 | 42 |
| チロリ | 2 | 1 | 4 | | | | 2 | | 16 | 2 | 27 |
| Glycera onomichiensis | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| Glycera oxycephala | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Glycera pacifica | | 3 | | | | | | | 2 | | 5 |
| Glycera pacifica とと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Glycera tridactyla | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| Glycera alba | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| Glycera 属の1種 | 1 | | 3 | | 1 | | 3 | 5 | | | 13 |
| Glycera 属の1種 (1) | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| Glycera 属の1種 (2) | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ヒナサキチロリ | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| チロリ科の1種 | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| Glycinde 属の1種 | 3 | | | | | | | | | | 3 |
| Glycinde 属と思われる1種 | 3 | | | | | | | | | | 3 |
| ヤマトキョウスチロリ | | | | | | 6 | 3 | 5 | 18 | | 32 |
| ヤマトキョウスチロリと思われる1種 | | 1 | | | | | | | 1 | | 2 |
| Goniada 属の1種 | 1 | | | | | | 1 | | 4 | 2 | 8 |
| ニカイチロリ科の1種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| Ophiidromus 属の1種 | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| Gyptis 属の1種 | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 |
| Gyptis 属と思われる1種 | | | 2 | | | 2 | | 1 | | | 5 |
| オトヒメゴカイ科の1種 | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | 4 |
| Cabira 属の1種 | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| クシカギゴカイ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Sigambra 属の1種 | | | 1 | | | | 1 | | | | 2 |
| ケナガシリス | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Opisthosyllis 属の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ヒトゲシリス | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| カスリシリス | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ミドリシリス | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| Typosyllis 属の1種 | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | 3 |
| コケゴカイ | | 6 | 9 | | 1 | 6 | 8 | 6 | 23 | 11 | 70 |
| コケゴカイ近似種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| キレコミゴカイ | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| Ceratonereis 属の1種 | | | | 1 | | | | | 1 | | 2 |
| アリアケカワゴカイ | | | | | | | | | 6 | | 6 |
| ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ | 10 | 12 | 6 | | 3 | 7 | 7 | 5 | 15 | 1 | 66 |
| Leonnates persicus とと思われる1種 | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| オイワケゴカイ | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | 3 |
| Namalycastis 属の1種 | | | | | | | | | 2 | 4 | 6 |
| Neanthes glandicincta とと思われる1種 | | | | | | | | | 3 | 5 | 8 |
| アシナガゴカイ | | | 4 | | | 1 | 2 | | 1 | | 8 |
| ジャムシ | 4 | 1 | | | | | | | | | 5 |
| オウギゴカイ | | 1 | 2 | | | 2 | | | 1 | | 6 |
| ウチワゴカイ | | | 1 | | | | | | 10 | | 11 |
| フツウゴカイ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| Nereis 属の1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| エゾゴカイ | 5 | 1 | | | | | | | | | 6 |
| ニシキゴカイ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Perinereis Weihouensis とと思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| クマドリゴカイ | | | | | | | 2 | | 1 | 3 | 6 |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 | |
|--------------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|-----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 | 157 |
| スナインゴカイ | | 2 | | | | | 1 | 7 | 10 | 23 | 5 | 48 |
| イシインゴカイ | | | | | | | 1 | 2 | | 1 | | 5 |
| <i>Perinereis nuntia</i> の1亜種 | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ツルヒゲゴカイ | 2 | | | | | | | | 1 | | | 3 |
| イトメ | 2 | 8 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 15 | 1 | | 30 |
| <i>Tylorrhynchus</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ゴカイ科の1種 | | 1 | | | | | | 2 | | 1 | | 4 |
| ゴカイ科の1種 (断片) | | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| <i>Aglaophamus</i> 属の1種 | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ハヤテシロガネゴカイ | 2 | 2 | 2 | | | 1 | | | | | | 7 |
| フトエラシロガネゴカイ | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| ミナミシロガネゴカイ | | 2 | 1 | | | 4 | | 1 | 1 | 2 | | 11 |
| <i>Nephtys</i> 属の1種 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | 4 |
| シロガネゴカイ科の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| トゲイカリナマコウロコムシ | | | | | | | | | 4 | | | 4 |
| <i>Arctonoella</i> 属の1種 | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| キセイウロコムシ亜科の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ゴマフウロコムシ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| マダラウロコムシ | | 1 | | | | | | | | 1 | | 2 |
| <i>Harmothoe</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | | 2 | 2 | | 5 |
| マダラウロコムシ亜科の1種 | | | | | | | | | 2 | 2 | | 4 |
| アナジャコウロコムシ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ナガウロコムシ | | | | | | | 1 | | 1 | | | 2 |
| ナガウロコムシと思われる1種 | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| <i>Lepidasthenia</i> 属の1種 | | | 1 | | | 1 | | 2 | | | | 4 |
| ハモチウロコムシ | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ヤチウロコムシ | | | | | | 1 | 1 | | 1 | | | 3 |
| ヤチウロコムシと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| フサウスウロコムシ | | | | | | | | 1 | | 1 | | 2 |
| フツキウロコムシ亜科の1種 | | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 |
| ウロコムシ科の1種 | | | | | | | | | 6 | 1 | | 7 |
| ウロコムシ科の1種 (A) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ウロコムシ科の1種 (B) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Euthalenessa</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Psammolice</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Sigalion</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Sthenelais</i> 属の1種 | | | | | | | | 1 | 2 | 1 | | 4 |
| ノラリウロコムシ科の1種 | | | | | | | | 1 | | 3 | | 4 |
| <i>Bhawania</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| タンザクゴカイ科の1種 | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ハナオレウミケムシ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Linopherus</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| <i>Pareurythoe</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ウミケムシ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Eurythoe</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ウミケムシ科の1種 | | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| スゴカイイソメ | | 3 | 6 | | | 3 | 1 | 3 | 16 | 1 | | 33 |
| スゴカイイソメ (棲管) | | | 3 | | | 4 | | | 2 | | | 9 |
| <i>Diopatra</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| エノシマイソメ | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Kinbergonuphis</i> 属の1種 | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| アマクサイソメ | | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| シジキイソメ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| キタイソメ | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| ナナテイソメ科の1種 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | 3 |
| ナナテイソメ科の1種 (棲管) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| イワムシ | | 2 | 1 | | | 3 | 2 | 2 | 11 | 9 | | 30 |
| <i>Marphysa</i> 属の1種 | | 1 | | 1 | | | | | 4 | 1 | | 7 |
| <i>Marphysa</i> 属と思われる1種または複数種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Nematonereis</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| イソメ科の1種 | | | 1 | | | | 1 | | 10 | 6 | | 18 |
| イソメ科の1種 (断片) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| フツウギボシイソメ | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| <i>Lumbrineris</i> 属の1種 | 1 | 1 | | | | | | | | | | 2 |
| ナガギボシイソメ | | | | | | | | | 1 | 3 | | 4 |
| カタマガリギボシイソメ | | | 3 | | | | | | | | | 3 |
| カタマガリギボシイソメと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| コアシギボシイソメ | 1 | 4 | 1 | | | 8 | 3 | 4 | 20 | 1 | | 42 |
| <i>Scoletoma</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | 1 | | | | 2 |
| ギボシイソメ科の1種 | 1 | | 1 | | | | | 1 | 1 | 9 | 5 | 18 |

| 和名 | 各地域調査地数 | | | | | | | | | | | 全国 |
|-----------------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|-----|----|
| | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | | |
| ダルマガカイ | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 | 157 | |
| <i>Amphitrite</i> 属の1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| <i>Branchiocapitella</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| <i>Capitella</i> 属の1種 | 3 | 2 | 2 | | | 2 | | | | | 9 | |
| チリメントゴカイ | | | 2 | | | 1 | | | 4 | 5 | 12 | |
| <i>Dasybranchus</i> 属の1種 | | | 1 | | | 1 | | | | 5 | 7 | |
| <i>Decamastus</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ホソイトゴカイ | | | | | | | | | 12 | | 12 | |
| <i>Heteromastus</i> 属の1種 | 9 | 13 | 7 | | 1 | 3 | 1 | 5 | 6 | 7 | 52 | |
| <i>Heteromastus</i> 属と思われる1種 | | 1 | | | | | | | 1 | | 2 | |
| <i>Parheteromastus</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| <i>Notodasus</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | 1 | 5 | 6 | |
| <i>Notodasus</i> 属と思われる1種 (大型種) | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| シダレイトゴカイ | | | 1 | | | | 1 | | 3 | | 5 | |
| <i>Notomastus</i> 属の1種 | 1 | 7 | 2 | | 1 | 1 | 9 | 7 | 13 | 11 | 52 | |
| <i>Notomastus</i> 属の1種 (A) | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| <i>Notomastus</i> 属の1種 (B) | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| <i>Notomastus</i> 属と思われる1種 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 3 | |
| アリアケイトゴカイ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| イトゴカイ科の1種 | 2 | | | 1 | | 1 | 1 | 3 | 7 | 3 | 18 | |
| イトゴカイ科の1種 (大型種) | | | | | | | | | 4 | | 4 | |
| イトゴカイ科の1種 (中型種) | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| イトゴカイ科の1種 (断片) | | | | | | | | | 5 | 1 | 6 | |
| イトゴカイ科の1種または複数種 | | | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | | 4 | |
| イトゴカイ科の1種または複数種 (棲管) | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| ハカマタテタケフシゴカイ | | | | | | | | | | 4 | 4 | |
| <i>Clymenura</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| Euclymeninae 亜科の1種 | | | 2 | | | | | | | 1 | 3 | |
| タケフシゴカイ科の1種 | | | 1 | | | | | | | 2 | 3 | |
| イソタマシキゴカイ | 8 | | | | | | | | | | 8 | |
| タマシキゴカイ | | 3 | 5 | | | 2 | | 2 | 4 | 1 | 17 | |
| タマシキゴカイ (卵) | | | 6 | | | | | | | | 6 | |
| タマシキゴカイ (糞塊) | | | 2 | | | | | | 1 | | 3 | |
| タマシキゴカイと思われる1種 | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | |
| タマシキゴカイ科の1種 | | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| タマシキゴカイ科の複数種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| チマキゴカイ | | | | | | | | | 7 | | 7 | |
| ウミイサゴムシ | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | 3 | |
| <i>Lagis</i> 属の1種 (ウミイサゴムシ?) | | | | | | | 1 | | | | 1 | |
| <i>Pectinaria aegyptia</i> と思われる種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ウミイサゴムシ科の1種 (A) | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ウミイサゴムシ科の1種 (A) (棲管) | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ウミイサゴムシ科の1種 (B) | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| <i>Amphicteis</i> 属の1種 | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| カザリゴカイ科の1種 | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| カンテンフサゴカイ | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| <i>Lysilla</i> 属の1種 | | | | | | | 1 | | | 1 | 2 | |
| <i>Lysilla</i> 属と思われる1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 | |
| <i>Loimia</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 5 | 5 | |
| <i>Loimia</i> 属の1種 (A) | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| <i>Loimia</i> 属の1種 (B) | | | | | | | | | 7 | | 7 | |
| <i>Loimia</i> 属の1種 (B) と思われる種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| <i>Loimia</i> 属と思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| <i>Neoamphitrite</i> 属の1種 | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| <i>Polycirrus</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| <i>Streblosoma</i> 属の1種 | | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| <i>Streblosoma</i> 属と思われる1種 | | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| <i>Terebella</i> 属の1種 | | 1 | 1 | | | | 1 | | | | 3 | |
| ヒヤクメニッポンフサゴカイ | | 2 | 1 | | | 2 | 1 | 1 | 9 | | 16 | |
| ニッポンフサゴカイ | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| ニッポンフサゴカイと思われる種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| <i>Thelepus</i> 属の1種 | | | | | | | 2 | 1 | | 1 | 4 | |
| フサゴカイ科の1種 | 1 | | | | | | | | 1 | 3 | 5 | |
| フサゴカイ科の1種 (断片) | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| フサゴカイ目の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| <i>Chone</i> 属の1種 | 1 | | | | | | | 3 | 2 | | 6 | |
| Fabricinae 亜科の1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| <i>Laonome</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| <i>Potamilla</i> 属の1種 | | 1 | | | | | 2 | 2 | | | 5 | |
| ミナミエラコ | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | |

| 和名 | 北海道 各地域調査地数 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|---------------------------------------|----------------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| フジツボ亜目の1種または複数種 | | | | | | 2 | | | | | 2 |
| フクロムシ科の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| アナジャコフクロムシ | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| 根頭目の1種 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 3 |
| コトゲフトユビシャコ | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| モンハナシャコ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| シャコ | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| <i>Leptosquilla</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Pullosquilla littoralis</i> | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 口脚目の1種または複数種 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| コノハエビ | 1 | 1 | | | | | | | | | 2 |
| コクボフクロアミ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| エソイサザアミ | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| ニホンイサザアミ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| クロイサザアミ | 2 | 4 | | | | | | | | | 6 |
| <i>Neomysis</i> 属の1種 | 1 | 1 | | | | | | | | | 2 |
| ニッポンモバヨコエビ | 1 | | | | | | 2 | | | | 3 |
| モズミヨコエビ | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| モズミヨコエビ近似種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Ampithoe</i> 属の1種 | 1 | 7 | | | | | 2 | 3 | 5 | 1 | 19 |
| <i>Ampithoe</i> 属の1種 (1) | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 |
| <i>Ampithoe</i> 属の1種 (2) | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ニホンドロソコエビ | 1 | 7 | 2 | | | 2 | 4 | 4 | 3 | | 23 |
| シマドロソコエビ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Grandierella</i> 属の1種 | 1 | | 1 | | | | | | 2 | 2 | 6 |
| <i>Aoroides</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| アリアケドロクダムシ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ニホンドロクダムシ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Corophium volutator</i> 近似種 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| <i>Corophium</i> 属の1種 | 1 | 4 | 1 | | | 1 | | 2 | 3 | | 12 |
| <i>Corophium</i> 属の1種または複数種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>kamaka</i> 属の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| ドロクダムシ科の1種 | | | | | | | 1 | | 6 | | 7 |
| <i>Jassa</i> 属の1種 | 1 | 1 | | | | | | | | | 2 |
| アゴナガヨコエビ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Pontogeneia</i> 属の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| ウラシマヨコエビ科の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| ヒヌマヨコエビ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Jesogammarus</i> 属の1種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| トゲオヨコエビ | 7 | | | | | | | | | | 7 |
| <i>Eogammarus possjeticus</i> | 5 | 5 | | | | | 1 | | 1 | | 12 |
| <i>Eogammarus</i> 属の1種 | 5 | | | | | | | | | | 5 |
| <i>Locustogammarus locustoides</i> | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| キタヨコエビ科の1種 | 3 | 1 | | | | | | | | | 4 |
| シミズメリタヨコエビ | | 6 | | | | | 2 | | | | 8 |
| シミズメリタヨコエビ近似種 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ヒゲツノメリタヨコエビ | | 5 | | | 1 | 1 | 3 | 1 | | | 11 |
| ナガタメリタヨコエビ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Melita</i> 属の1種 | | 2 | | | 1 | | 3 | | | | 6 |
| <i>Elasmopus</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒサシソコエビ科の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| ツノヒゲソコエビ科の1種 | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| <i>Dogielinotus moskvitini</i> | 3 | | | | | | | | | | 3 |
| キタナミノリソコエビ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| <i>Haustorioides</i> 属の1種 | 2 | 1 | | | | | | | | | 3 |
| ナミノリソコエビ科の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| フサゲモクス | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | 3 |
| <i>Hyale</i> 属の1種 | 2 | 1 | | | | 1 | | 1 | 1 | 2 | 8 |
| モクスヨコエビ科の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| <i>Traskorchestia ochotensis</i> | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| <i>Platorchestia joi</i> | 1 | 1 | | | | | | 2 | 2 | | 6 |
| ニホンヒメハマトビムシ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| ヒメハマトビムシ | 2 | 8 | 2 | | 1 | | 5 | 2 | | | 20 |
| ヒメハマトビムシと思われる1種 | 1 | | 1 | | | | | | | | 2 |
| <i>Platorchestia pacifica</i> | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| <i>Platorchestia pacifica</i> と思われる1種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ニホンオカトビムシ | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| ニホンオカトビムシと思われる1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Platorchestia</i> 属の1種 | 9 | 3 | 2 | | | | 1 | 2 | 2 | | 19 |
| ホソハマトビムシ | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|---|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 |
| <i>Paciforchestia</i> 属の1種 (A) | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Paciforchestia</i> 属の1種 (B) | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Parorchestia</i> 属の1種 (sensu Morino) | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 |
| ハマトビムシ科の1種 (1) | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ハマトビムシ科の1種 | 2 | | 1 | | 1 | | | | 4 | | 8 |
| ハマトビムシ科の1種または複数種 | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| ハマトビムシ科と思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヨコエビ亜目の1種 | 1 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | 4 |
| ヨコエビ亜目の1種または複数種 | | | 2 | | | 4 | 3 | | | | 9 |
| トゲワレカラ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Caprella</i> 属の1種 | 2 | | | | | | | 1 | 1 | | 4 |
| ワレカラ亜目の1種 | 1 | | | | | | | | 3 | | 4 |
| ワレカラ亜目の1種または複数種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 端脚目の1種 | | | 3 | | | | | | | | 3 |
| ムロミスナウミナナフシ | | | 1 | | 1 | | | | 1 | | 3 |
| シンジコスナウミナナフシ | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| <i>Cyathura</i> 属の1種 | | 5 | | | 3 | | 1 | 2 | 1 | | 12 |
| スナウミナナフシ科の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Paranthura japonica</i> | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ウミミズムシ | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| ヒラタウミミズムシ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| オホーツクヘラムシ | 1 | 1 | | | | | | | | | 2 |
| ワラジヘラムシ | | 1 | 1 | | | | | | 1 | | 3 |
| ホソヘラムシ | | | | | | 2 | | | | | 2 |
| ヒメスナホリムシ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ナギサスナホリムシ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| スナホリムシ科の1種 | | | 1 | | | | | | 1 | | 2 |
| ヨツバコツブムシ | | 3 | | | | | 5 | 1 | 2 | | 11 |
| ハバヒロコツブムシ | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| ナナツバコツブムシ | | | | | | | 1 | | 2 | | 3 |
| イワホリコツブムシ | | | | | | | 5 | 4 | 2 | | 11 |
| シマントコツブムシ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Sphaeroma</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| シナコツブムシ | 4 | 5 | | | 1 | | 2 | | 1 | | 13 |
| チョウセンコツブムシ | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| イソコツブムシ | | | | | | 3 | 1 | | | | 4 |
| フタゲイソコツブムシ | 1 | 1 | 1 | | | | 3 | 3 | 1 | | 10 |
| マルコツブムシ | 2 | 1 | | | | 1 | | | | | 4 |
| マルコツブムシ近似種 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| <i>Gnorimosphaeroma</i> 属の1種 | 4 | 5 | | | | | 3 | 1 | 4 | | 17 |
| <i>Gnorimosphaeroma</i> 属の1種または複数種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| <i>Gnorimosphaeroma</i> 属の複数種 | 4 | | | | | | | | 1 | | 5 |
| <i>Cymodoce</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ウミセミ亜科の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| コツブムシ科の1種 | 1 | | | | | | | | | 1 | 2 |
| <i>Pseudione longicauda</i> | | 1 | 1 | | | | 1 | | 3 | | 6 |
| <i>Progebiophilus villosus</i> | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| マドカアナジャコヤドリムシ | | 3 | | | | | | 5 | 1 | | 9 |
| スナモグリヤドリムシ | | 1 | 1 | | | | | | 1 | | 3 |
| <i>Coxalione inaequalis</i> | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 |
| マメコフシヤドリムシ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Aporobopyrus</i> 属の1種 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| <i>Argeia</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| エビヤドリムシ科の1種 | | 1 | 1 | | | | 1 | | 2 | | 5 |
| ヤドリムシ亜目の1種 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ヤドリムシ亜目の1種または複数種 | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| タラノシラミ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| フナムシ | | 2 | 3 | | | 2 | 9 | 3 | 7 | | 26 |
| キタフナムシ | | 9 | 4 | | 2 | | | | | | 15 |
| リュウキュウフナムシ | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| <i>Ligia</i> 属の1種 | 1 | | 1 | | | | | 1 | 2 | | 5 |
| ニホンヒメフナムシ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| フナムシ科の1種 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| <i>Olibrinus</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ワラジムシ | 3 | 3 | | | 1 | | | | | | 7 |
| リュウキュウタマワラジムシ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ニホンハマワラジムシ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| イリエミギワラジムシ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| <i>Marinoniscus</i> 属の1種 (1) | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ワラジムシ亜目の1種 | | | | | | | | 1 | | | 1 |

| 和名 | 各地域調査地数 | | | | | | | | | | | 全国 |
|---------------------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|----|
| | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | | |
| オキナワアナジャコ | | | | | | | | | | 1 | 3 | 4 |
| オキナワアナジャコ (塚) | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ヤハズアナエビ | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ニホンスナモグリ | | 12 | 8 | | | 4 | 7 | 6 | 12 | 3 | 52 | |
| ニホンスナモグリ (巢穴) | | | 2 | | | | | | | | 2 | |
| ハルマンスナモグリ | 1 | 2 | | | | 1 | 1 | 1 | 4 | | 10 | |
| ハルマンスナモグリ (巢穴) | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| スナモグリ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ブイエスナモグリ | | | | 1 | | | | | 3 | 8 | 12 | |
| <i>Calliax</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| <i>Callixina sakaii</i> | | | | | | | | | | 2 | 2 | |
| <i>Corallichirus tridentatus</i> | | | | | | | | | | 2 | 2 | |
| <i>Corallichirus tridentatus</i> (巢穴) | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| スナモグリ科の1種 (幼体) | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| スナモグリ科の1種 | | | | | 2 | | | 1 | 4 | | 7 | |
| スナモグリ科の1種または複数種 | | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| スナモグリ科の1種または複数種 (巢穴) | | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| アナジャコ | 6 | 6 | 6 | | | 5 | 3 | 3 | 10 | | 39 | |
| アナジャコ (巢穴) | | | 1 | | | | | | 1 | | 2 | |
| ヨコヤアナジャコ | | 13 | 2 | | 1 | 1 | 4 | 10 | 12 | 5 | 48 | |
| ヨコヤアナジャコ (巢穴) | | | | | | | | | 4 | 1 | 5 | |
| ヨコヤアナジャコと思われる巢穴 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| バルスアナジャコ | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 3 | |
| コブシアナジャコ | | | | | | | | | 2 | 2 | 4 | |
| <i>Upogebia</i> 属の1種 | | | 1 | | | | 1 | | 1 | 1 | 4 | |
| ナルトアナジャコ | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| アナジャコ科の1種 | | | | | | | | | 4 | | 4 | |
| アナジャコ科の1種または複数種 | | | | | | 3 | | | | | 3 | |
| アナジャコ下目の1種 (巢穴) | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| テナガツノヤドカリ | | | 2 | | | | | 3 | 5 | | 10 | |
| テナガツノヤドカリと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| アンバルツノヤドカリ | | | | | | | | | 2 | 7 | 9 | |
| マルテツノヤドカリ | | | | | | | | | | 5 | 5 | |
| コブヨコバサミ | | | 1 | | | | 2 | | | | 3 | |
| ツマキヨコバサミ | | | | 1 | | | | | | 1 | 2 | |
| ツメナガヨコバサミ | | | | | | | | 1 | 2 | 16 | 19 | |
| タテジマヨコバサミ | | | | 1 | | | | | 1 | 13 | 15 | |
| マダラヨコバサミ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ランソソヨコバサミ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| <i>Clibanarius</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 3 | 3 | |
| ツマジロサンゴヤドカリ | | | | | | | | | | 2 | 2 | |
| スベスベサンゴヤドカリ | | | | | | | | | | 4 | 4 | |
| コモンヤドカリ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ヤドカリ科の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| サキシマオカヤドカリ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ナキオカヤドカリ | | | | | | | | | | 5 | 5 | |
| <i>Coenobita</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| ホンヤドカリ | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 4 | |
| ユビナガホンヤドカリ | | 9 | 8 | | 1 | 8 | 12 | 13 | 25 | 10 | 86 | |
| ケアシホンヤドカリ | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| テナガホンヤドカリ | 3 | | | | | | | | | | 3 | |
| ホンヤドカリ科の1種または複数種 | | | | | | | 1 | | | | 1 | |
| サンゴカニダマシ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| イソカニダマシ | | | | 1 | | | 2 | 1 | | | 4 | |
| <i>Petrolisthes lamarckii</i> と思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ヤドリカニダマシ | | | | | | | 1 | 1 | 9 | | 11 | |
| ウチノミカニダマシ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ウチノミカニダマシと思われる種 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| <i>Polyonyx</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ドロカニダマシ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| カニダマシ科の1種または複数種 | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| スナホリガニ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| 異尾下目の1種または複数種 | 1 | | | | | 8 | | | | | 9 | |
| ヘイケガニ | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| ソデカラッパ | | | | | | | | | | 5 | 5 | |
| コブカラッパ | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| キンセンガニ | | | | | | | 2 | 1 | 2 | 1 | 6 | |
| コモンガニ | | | | | | | | | | 3 | 3 | |
| マメコブシガニ | | 3 | 4 | | | 9 | 2 | 4 | 18 | | 40 | |
| アマミマメコブシガニ | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | |

| 和名 | 各地域調査地数 | | | | | | | | | | | 全国 |
|--------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|---|-----|
| | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | | |
| ハシリイワガニモドキ | | | | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 1 | 6 | 8 |
| クイラハシリイワガニ | | | | | | | | | | | 8 | 8 |
| ヒメイワガニ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ヒメイワガニと思われる1種 | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| チゴイワガニ | | | | | | | 3 | 1 | 4 | | | 8 |
| イワガニ科の1種または複数種 | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| タイワンヒライソモドキ | | | | | | | | 4 | 2 | 3 | 1 | 10 |
| ヒメヒライソモドキ | | | | | | | | 3 | | 2 | 4 | 9 |
| ヒライソモドキ | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| ケフサヒライソモドキ | | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| トゲアシヒライソガニモドキ | | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 |
| ヒラモクスガニ | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| トリウミアカイソモドキ | | 1 | | | | 1 | 5 | 2 | 3 | 1 | | 13 |
| コウナガイワガニモドキ | | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| モクスガニ | | 3 | | | | 2 | 6 | 1 | 3 | | | 15 |
| ヒメモクスガニ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| イソガニ | | | 1 | | | 2 | 2 | 3 | 2 | | | 10 |
| ケフサイソガニ | 3 | 13 | 11 | | 2 | 15 | 14 | 15 | 34 | | | 107 |
| ヒメケフサイソガニ | | | | | | | | 1 | 1 | 4 | | 6 |
| スネナガイソガニ | | 1 | | | | | | 2 | 3 | 6 | | 12 |
| <i>Hemigrapsus</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ミナミヒライソモドキ | | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| ヒライソガニ | | | | 1 | | 2 | 2 | 5 | 12 | 2 | | 24 |
| オキナワヒライソガニ | | | | | | | | | 1 | 5 | | 6 |
| ハマガニ | | | | | | 2 | 9 | 7 | 18 | 2 | | 38 |
| アシハラガニ | | 9 | 8 | | 1 | 6 | 11 | 11 | 32 | | | 78 |
| ヒメアシハラガニ | | | | | | 5 | 6 | 11 | 15 | 1 | | 38 |
| ミナミアシハラガニ | | | | 1 | | | | | 1 | 5 | | 7 |
| タイワンアシハラガニ | | | | | | | | | 1 | 3 | | 4 |
| <i>Helice</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ミゾテアシハラガニ | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| モクスガニ科の1種 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | 3 |
| アカテガニ | | 6 | 5 | | 2 | 4 | 8 | 5 | 10 | | | 40 |
| クロベンケイガニ | | 6 | 7 | | 2 | 7 | 9 | 5 | 16 | 2 | | 54 |
| クシテガニ | | | 2 | | | 1 | 2 | 6 | 19 | 3 | | 33 |
| カクベンケイガニ | | | 3 | | | 1 | 7 | 7 | 16 | 2 | | 36 |
| ユビアカベンケイガニ | | | | | | 2 | 9 | 11 | 12 | 7 | | 41 |
| キノボリベンケイガニ | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| <i>Parasesarma</i> 属の1種 | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| フタバカクガニ | | | | | | | 10 | 6 | 9 | 13 | | 38 |
| オオベンケイガニ | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ベンケイガニ | | | 1 | | 1 | 1 | 4 | 3 | 8 | 1 | | 19 |
| ヒメベンケイガニ | | | | | | | 5 | 1 | 1 | | | 7 |
| アシハラガニモドキ | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ウモレベンケイガニ | | | 3 | | | 2 | 7 | 2 | 6 | | | 20 |
| フジテガニ | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 3 |
| <i>Clistoaeloma</i> 属の1種 | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| イワトビベンケイガニ | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ベンケイガニ科の1種 | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| ベンケイガニ科の1種または複数種 | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| ミナミコムツキガニ | | | | | | | | | 2 | 16 | | 18 |
| クロビンノ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| オオシロビンノ | | | | | | | | 1 | 1 | | | 3 |
| マルビンノ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| フタハビンノ | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| シロナマコガニ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ラスバンマメガニ | 1 | | 2 | | | | | | | 5 | | 8 |
| ラスバンマメガニと思われる1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ギボシマメガニ | | | | | | | | | 1 | 3 | | 4 |
| アカホシマメガニ | | | 1 | | | | | | 1 | 3 | | 5 |
| ハサミカクレガニ | | | | | | | | | 1 | 4 | | 5 |
| ウモレマメガニ | | | | | | 1 | 1 | | 1 | | | 3 |
| ミナミヨコナガビンノ | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヨコナガモドキ | | | | | | | | | 4 | | | 4 |
| ヨコナガビンノ | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| オオヨコナガビンノ | | | | | | | | | 8 | | | 8 |
| メナンビンノ | | | | | | | | | 1 | 6 | | 7 |
| カクレガニ科の1種 | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| カクレガニ科の複数種 | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ツノメガニ | | | | | | | | | 1 | 3 | | 4 |

| 和名 | 北海道 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 | |
|------------------------|---------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|-----|
| | 各地域調査地数 | 18 | 15 | 12 | 1 | 5 | 16 | 14 | 19 | 38 | 19 | 157 |
| スナガニ | | 3 | 2 | | | | 1 | 4 | 2 | 2 | | 14 |
| スナガニ (巢穴) | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ナンヨウスナガニ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| シオマネキ | | | | | | | | 6 | 7 | 12 | 1 | 26 |
| ヤエヤマシオマネキ | | | | | | | | | | 9 | | 9 |
| リュウキュウシオマネキ | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ヒメシオマネキ | | | | | | | | | 2 | 12 | | 14 |
| ルリマダラシオマネキ | | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| ルリマダラシオマネキと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ベニシオマネキ | | | | 1 | | | | | 1 | 9 | | 11 |
| ベニシオマネキ (巢穴) | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| ハクセンシオマネキ | | | | | | | | 10 | 4 | 15 | | 29 |
| オキナワハクセンシオマネキ | | | | | | | | | | 2 | 15 | 17 |
| シモフリシオマネキ | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| コムツキガニ | | 9 | 10 | | | 9 | 11 | 8 | 24 | 9 | | 80 |
| チゴガニ | | 8 | 9 | | | 6 | 11 | 8 | 26 | 2 | | 70 |
| ハラククレチゴガニ | | | | | | | | | 6 | | | 6 |
| ツノメチゴガニ | | | | | | | | | 2 | 8 | | 10 |
| メナガオサガニ | | | | | | | | | 3 | 9 | | 12 |
| ミナミメナガオサガニ | | | | | | | | | 2 | 3 | | 5 |
| ミナミオサガニ | | | | | | | | | 1 | 4 | | 5 |
| ヒメカクオサガニ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| フタハオサガニ | | | | | | | | | 2 | 13 | | 15 |
| フタハオサガニ (巢穴) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| オサガニ | | | 6 | | | 4 | 5 | 6 | 17 | | | 38 |
| ヤマトオサガニ | | 8 | 8 | | | 8 | 11 | 9 | 24 | | | 68 |
| ヒメヤマトオサガニ | | | | | | | 6 | 5 | 11 | 3 | | 25 |
| ヨコスジオサガニ | | | | | | | | | | 4 | | 4 |
| Macrophthalmus 亜属の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Macrophthalmus 属の1種 | | | | | | | | | 3 | 1 | | 4 |
| Macrophthalmus 属の複数種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| オサガニ科の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ムツハリアケガニ | | | | 1 | | 1 | 1 | | 10 | | | 13 |
| アリアケガニ | | | | | | | | | 13 | | | 13 |
| アリアケモドキ | 4 | 9 | | | | 1 | 1 | 4 | 8 | 1 | | 28 |
| アリアケモドキと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| カワスナガニ | | | | | | | 1 | 3 | 1 | | | 5 |
| 短尾下目の1種 (メガロバ幼生) | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 短尾下目の1種または複数種 | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 粘管目の1種 | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 毛翅目の1種 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| ミズスマシ科の1種 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| アリ科の1種 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| ヒトエグサガガンボ | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ユスリカ科の1種 | 2 | | | | | 1 | | | | | | 3 |
| ユスリカ科の1種または複数種 | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| 双翅目幼虫 | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 昆虫綱幼虫 | | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| ヤスデ類 | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| 箒虫綱の1種 | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| チゴケムシ | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ミドリシャミセンガイ | | | | | | | | 2 | 9 | | | 11 |
| Lingula 属の1種 | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ナイカイヤムシ | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| イソヤムシ科の1種 | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ヒメギボシムシ | | | | | | | | | | 4 | | 4 |
| ヒメギボシムシ (糞塊) | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ワダツミギボシムシ | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ワダツミギボシムシ (糞塊) | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ワダツミギボシムシと思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ミサキギボシムシ | | | | | | 3 | | | | | | 3 |
| ミサキギボシムシと思われる1種 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 3 |
| Balanoglossus 属の1種 | | | | | | | | | 4 | | | 4 |
| Balanoglossus 属と思われる1種 | 1 | | | | | | | | 4 | 1 | | 6 |
| ギボシムシ科の1種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ギボシムシ科の複数種 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| Spengelia 属と思われる1種 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ギボシムシ綱の1種 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| スナヒトデ | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| トゲモミジガイ | | | | | | | | 1 | | | | 1 |

| 和名 | 北海道 各地域調査地数 | 東北 | 関東 | 小笠原 | 日本海 | 中部東海 | 近畿 | 中国四国 | 九州 | 沖縄 | 全国 |
|--------------------------------|----------------|----|----|-----|-----|------|----|------|----|----|----|
| コイ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| オイカワ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| シラウオ | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| サケ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| トミヨ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| オクヨウジ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ヨウジウオ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ガンテンイシヨウジ | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 |
| カワヨウジ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ボラ | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| ハオコゼ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Myoxocephalus</i> 属の1種 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| アサヒアナハゼ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| オオクチバス | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ハワイマトイシモチ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ネンブツダイ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| クロダイ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| スズメダイ科の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| コトヒキ | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| シマイサキ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| キュウセン | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ナガガジ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| トサカギンボ | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| ニジギンボ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ハナビヌメリ | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 |
| ネズツボ科の複数種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| タビラクチ | | | | | | | 1 | 1 | 6 | | 8 |
| トカゲハゼ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ムツゴロウ | | | | | | | | | 8 | | 8 |
| トビハゼ | | | 3 | | | 2 | 7 | 6 | 22 | 1 | 41 |
| ミナミトビハゼ | | | | | | | | | 2 | 7 | 9 |
| ワラスボ | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| ヒゲワラスボ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ミミズハゼ | | 1 | | | 1 | | 5 | | 1 | | 8 |
| ミミズハゼと思われる1種 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ヒモハゼ | | 7 | 1 | | | 2 | 2 | 5 | 7 | | 24 |
| タネハゼ | | | | | | | 1 | | | 1 | 2 |
| ミナミノハゼ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ドロメ | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| ウキゴリ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ニクハゼ | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| クボハゼ | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 3 |
| ヘビハゼ | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| エドハゼ | | 7 | 1 | | | | 1 | 2 | 3 | | 14 |
| チクゼンハゼ | | 4 | 1 | | | | 2 | | 3 | | 10 |
| ピリンゴ | 3 | 2 | | | | | 3 | | 5 | | 13 |
| ウロハゼ | | | | | | | 2 | | 2 | | 4 |
| ツムギハゼ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| マハゼ | | 2 | | | | | 7 | 1 | 2 | | 12 |
| アシシロハゼ | | 2 | | | | | | 2 | 3 | | 7 |
| マサゴハゼ | | | | | | | 5 | 1 | 5 | 1 | 12 |
| クモハゼ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ハゴロモハゼ | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ホシハゼ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒメハゼ | | 1 | 2 | | | 1 | 9 | 4 | 9 | | 26 |
| ミナミヒメハゼ | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 4 |
| <i>Papillogobius</i> 属の1種 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒナハゼ | | | | | | | 2 | | 1 | | 3 |
| アベハゼ | | | 3 | | | 1 | 10 | 4 | 8 | | 26 |
| イズミハゼ | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| キララハゼ | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| スジハゼA種 | | 1 | | | | 1 | 1 | 2 | 8 | 3 | 16 |
| スジハゼB種 | | | | | | | 1 | | 2 | | 3 |
| スジハゼの1種 | | 1 | 1 | | | | 3 | | | | 5 |
| <i>Acentrogobius</i> 属の1種 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Acentrogobius</i> 属の1種 (稚魚) | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| クロコハゼ | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | 3 |
| ゴマハゼ | | | | | | | 1 | | 1 | | 2 |
| ギンボハゼ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| ゴクラクハゼ | | | | | | | 2 | | 1 | | 3 |

卷末図 主要種・注目種の分布図(30種)

分布図凡例

干潟に出現した底生動物の個体数の多寡

A (多) : 2名の調査者が10分間スコップで掘り返す内, 1回の掘り返しで1個体以上出現.

C (普通) : 全掘り返し回数の中で2個体以上出現, Aよりも少ない.

R (少) : 全掘り返し回数の中で1個体のみ出現.

+ : 枠外で出現, 個体数の多寡は不明.

塩性湿地・マングローブ湿地に出現した底生動物の個体数の多寡

A (多) : 10個体以上出現.

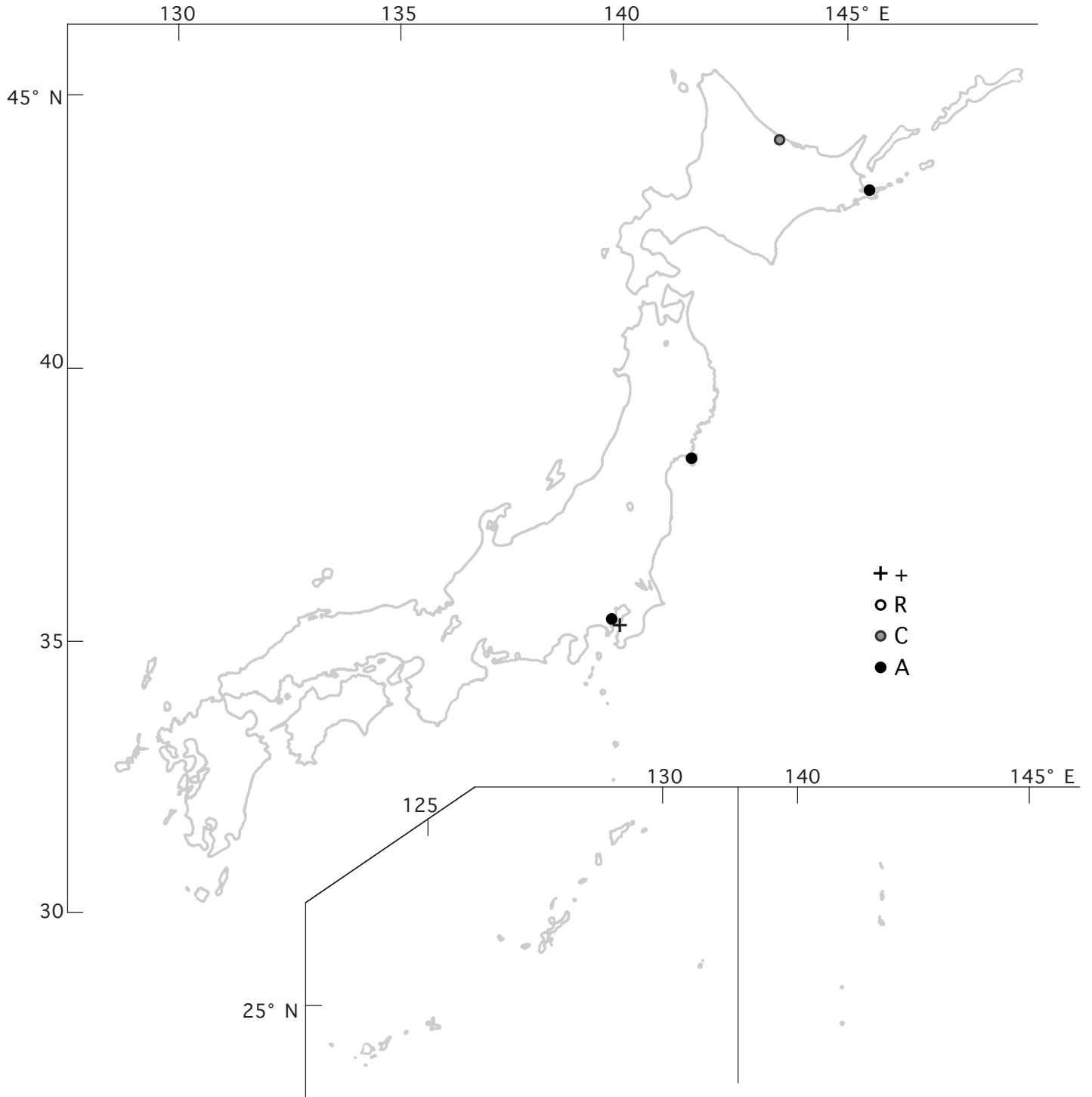
C (普通) : 2～9個体出現.

R (少) : 1個体のみ出現.

+ : 枠外で出現, 個体数の多寡は不明.

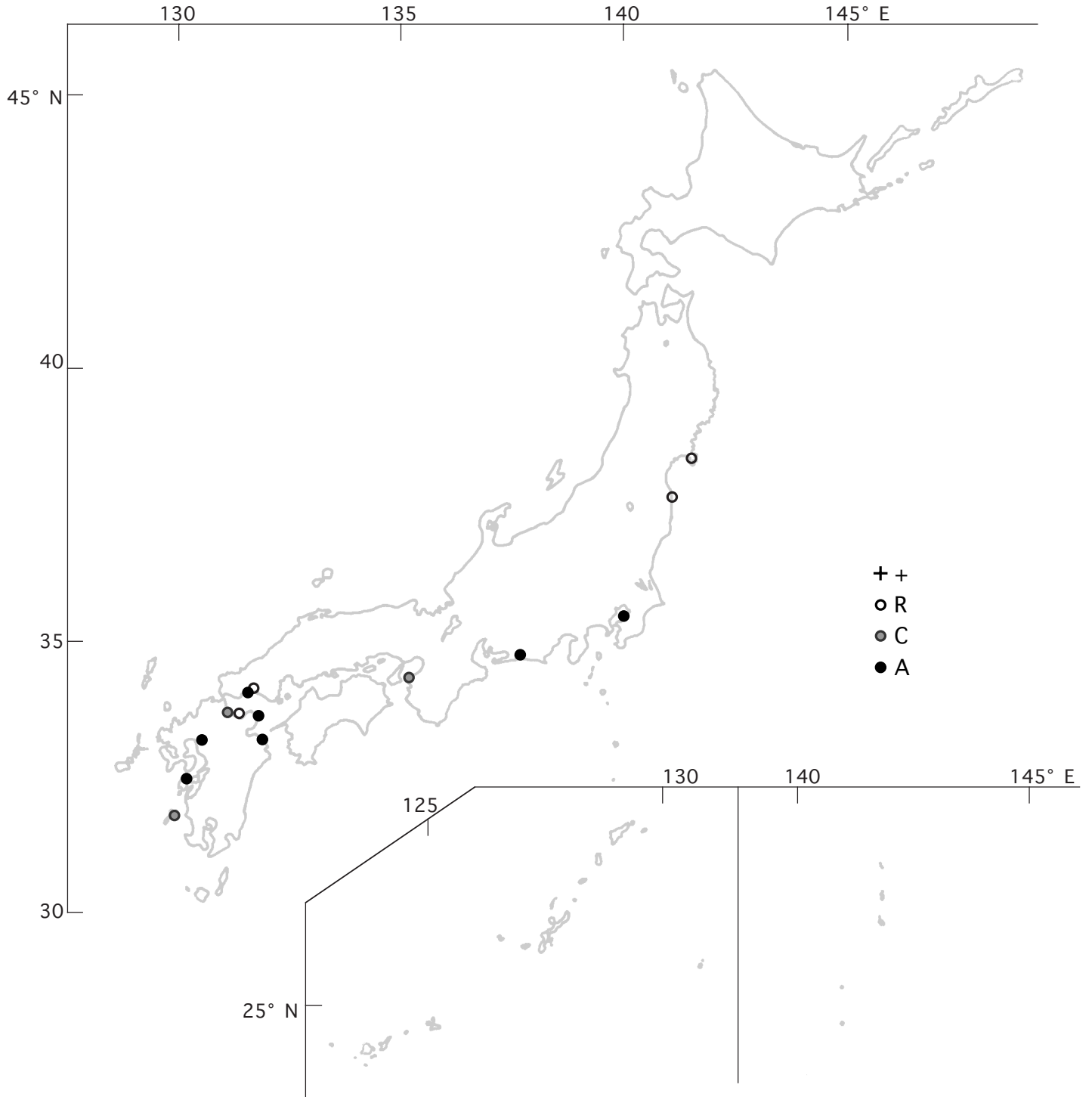
クロガネイソギンチャク

Anthopleura kurogane Uchida et Muramatsu, 1958



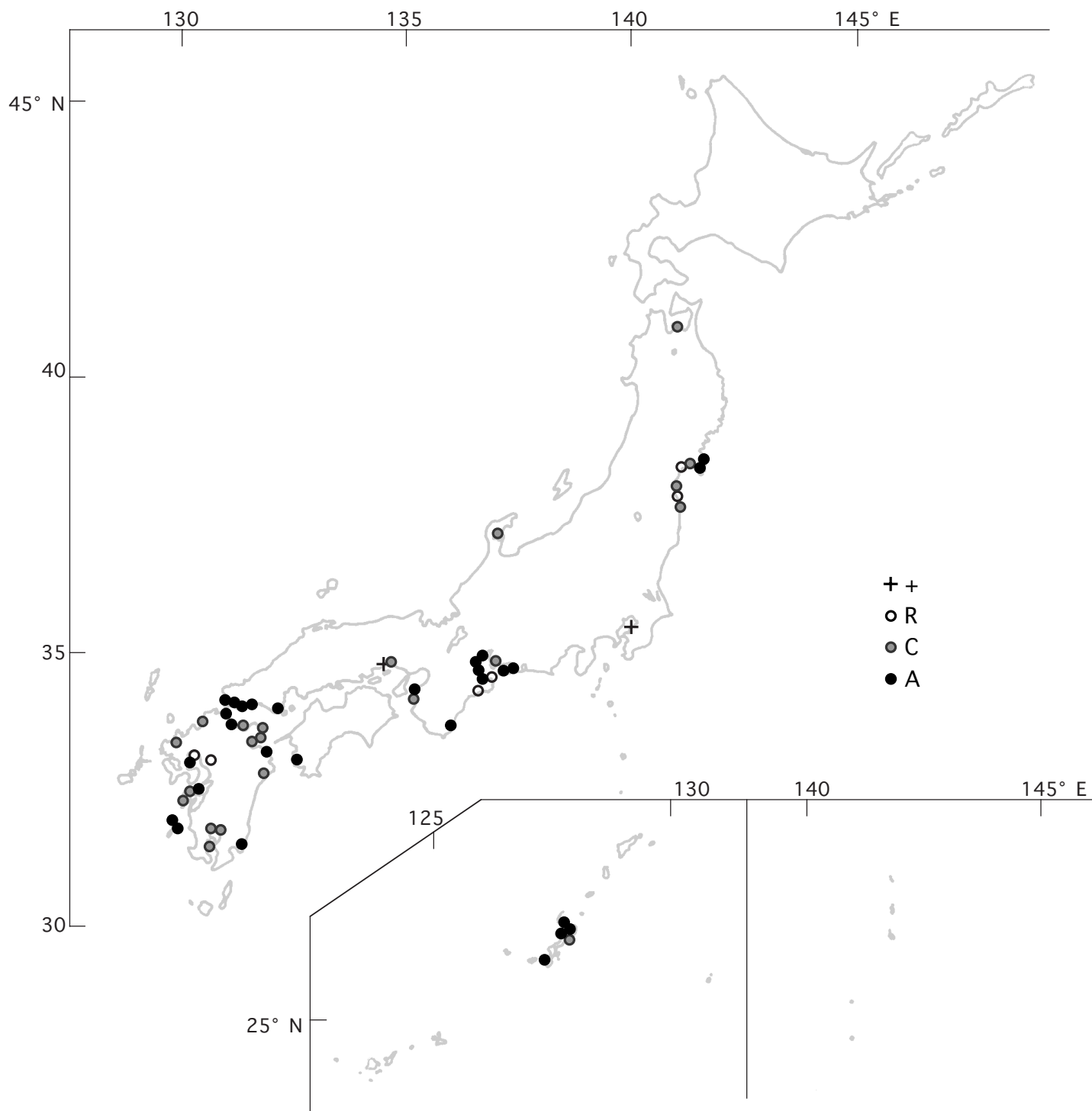
イボキサゴ

Umbonium (Suchium) moniliferum (Lamarck, 1822)



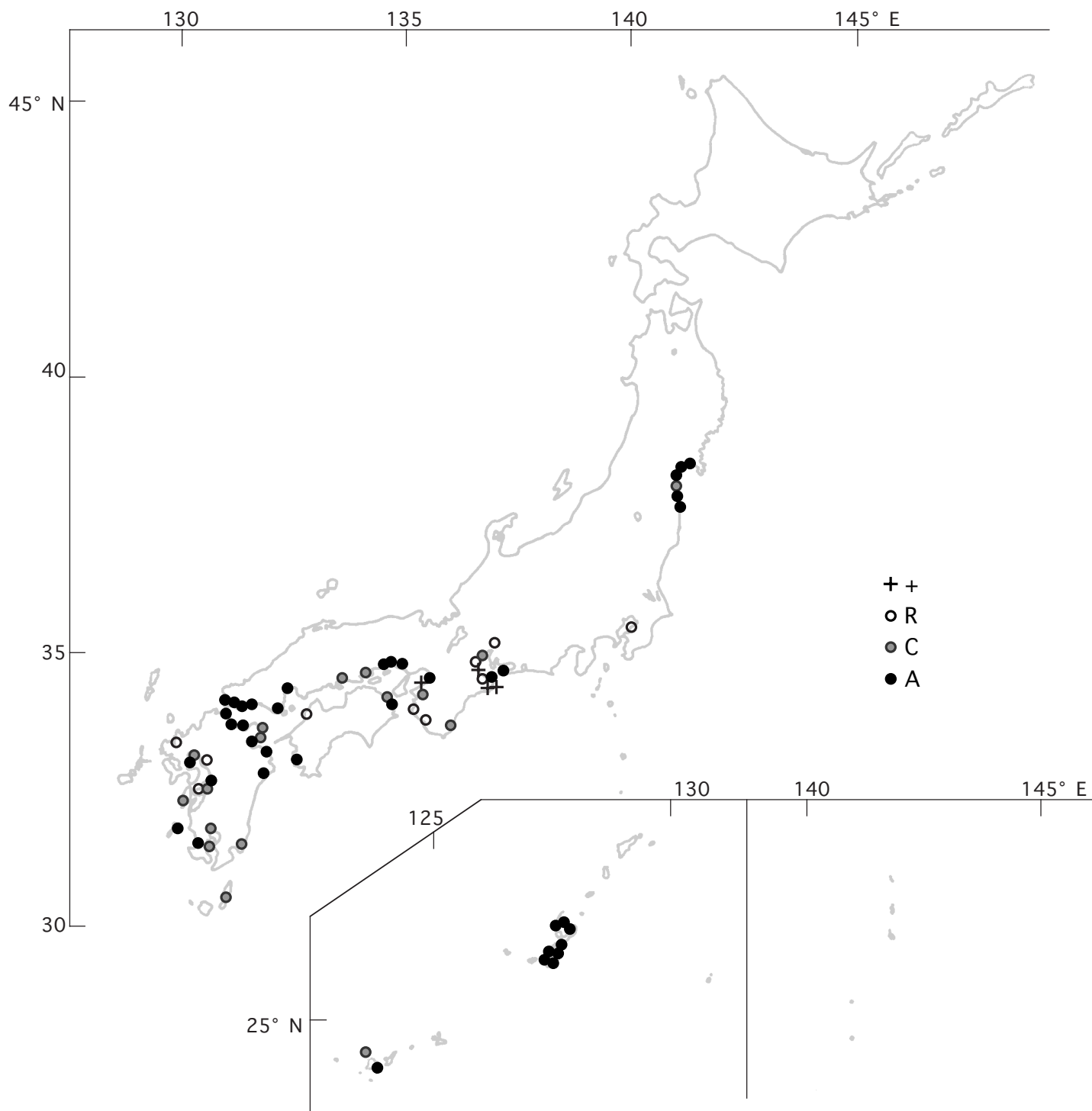
ウミニナ

Batillaria multiformis (Lischke, 1869)



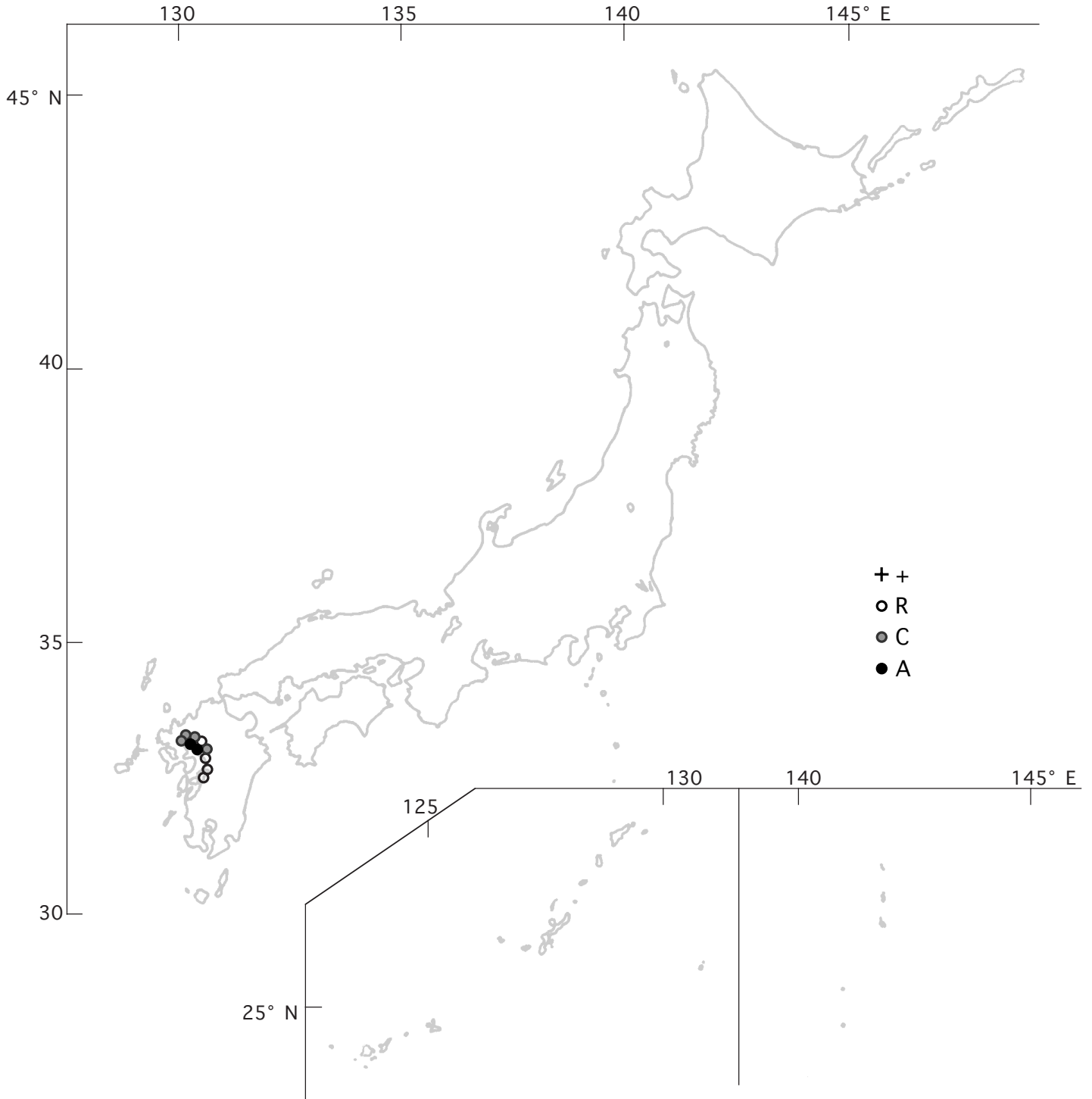
フトヘナタリ

Cerithidea (Cerithidea) rhizophorarum A. Adams, 1855



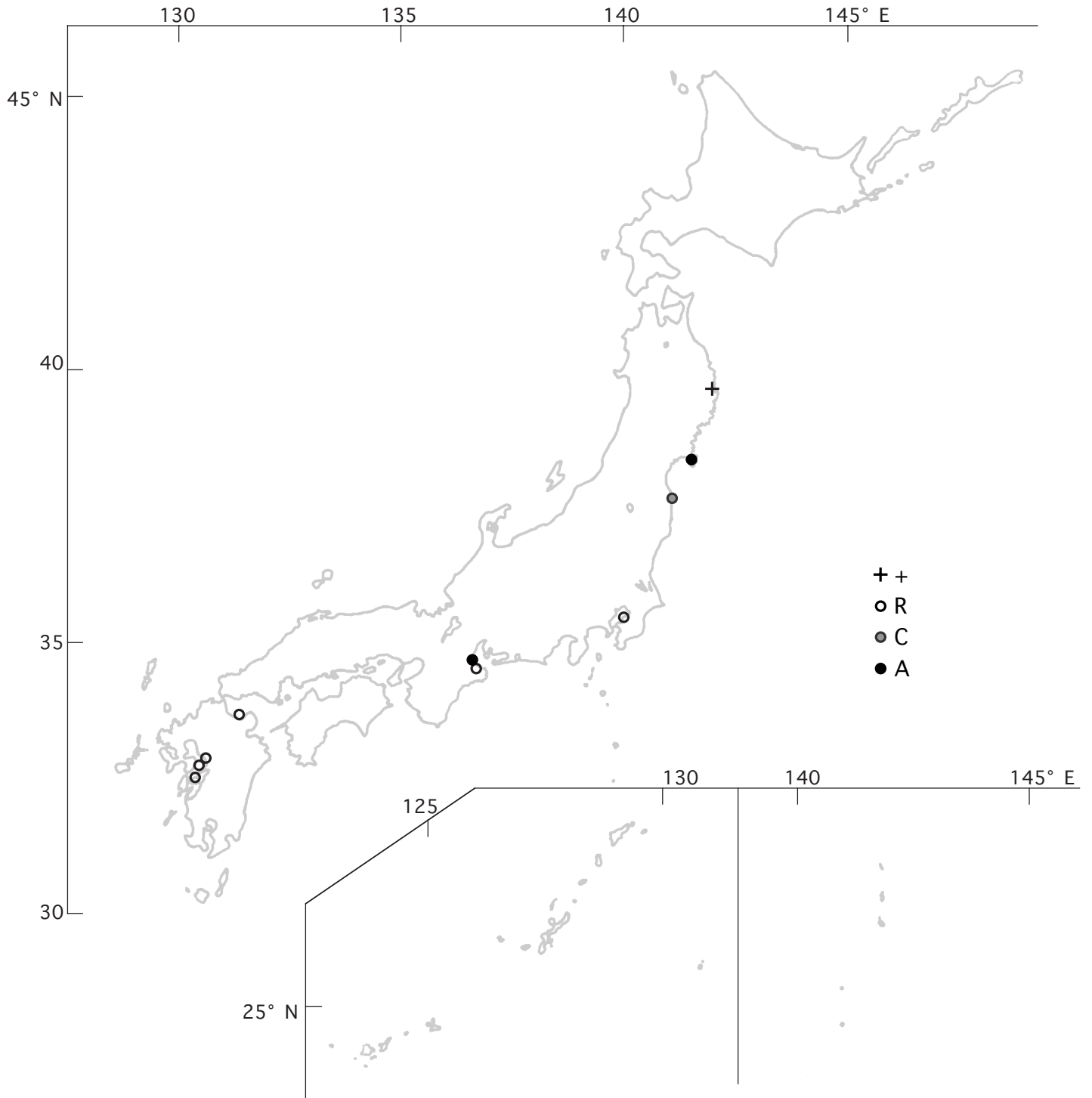
アズキカワザンショウ

Pseudomphala miyazakii (Habe, 1943)



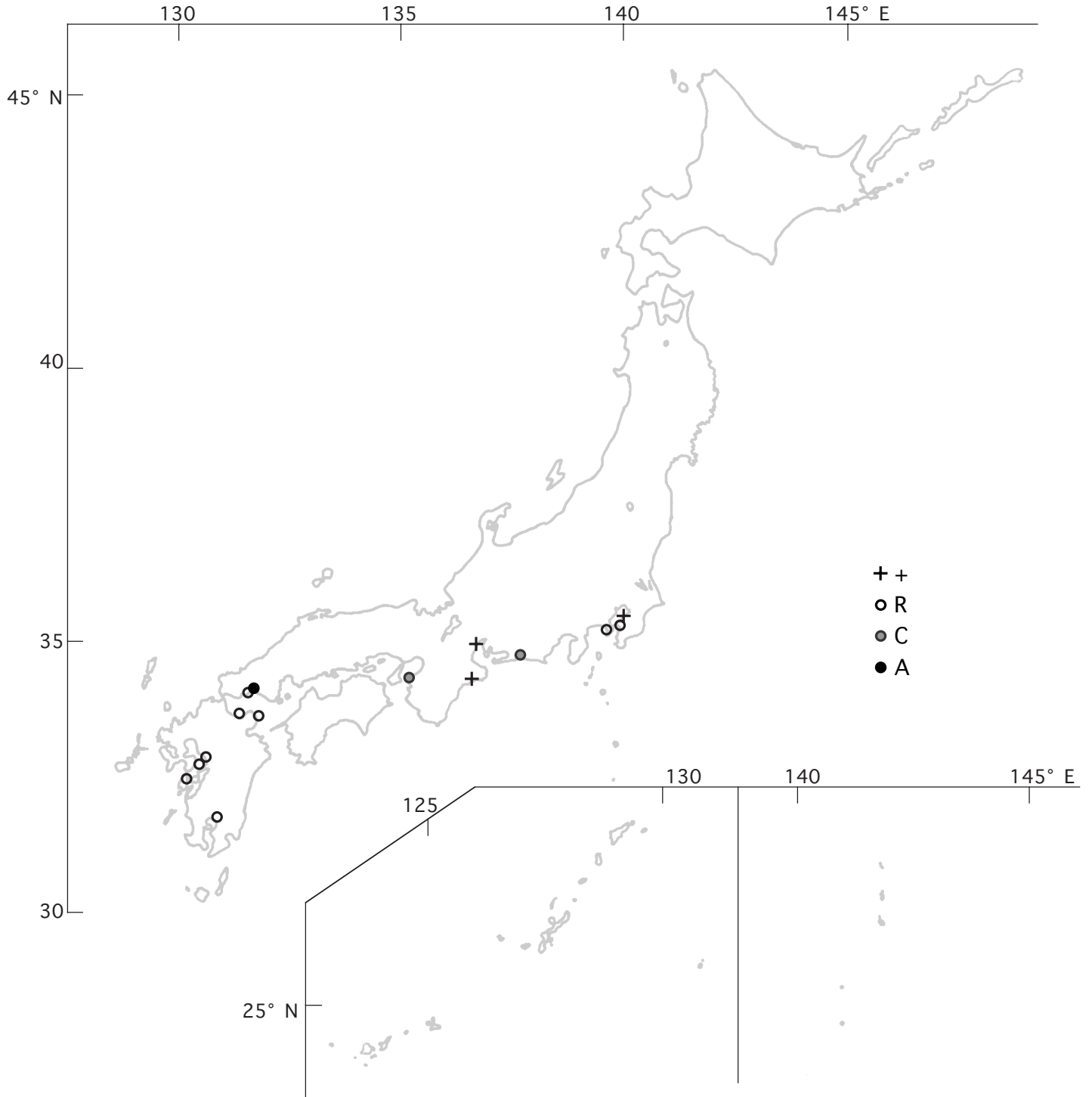
サキグロタマツメタ

Euspira fortunei (Reeve, 1855)



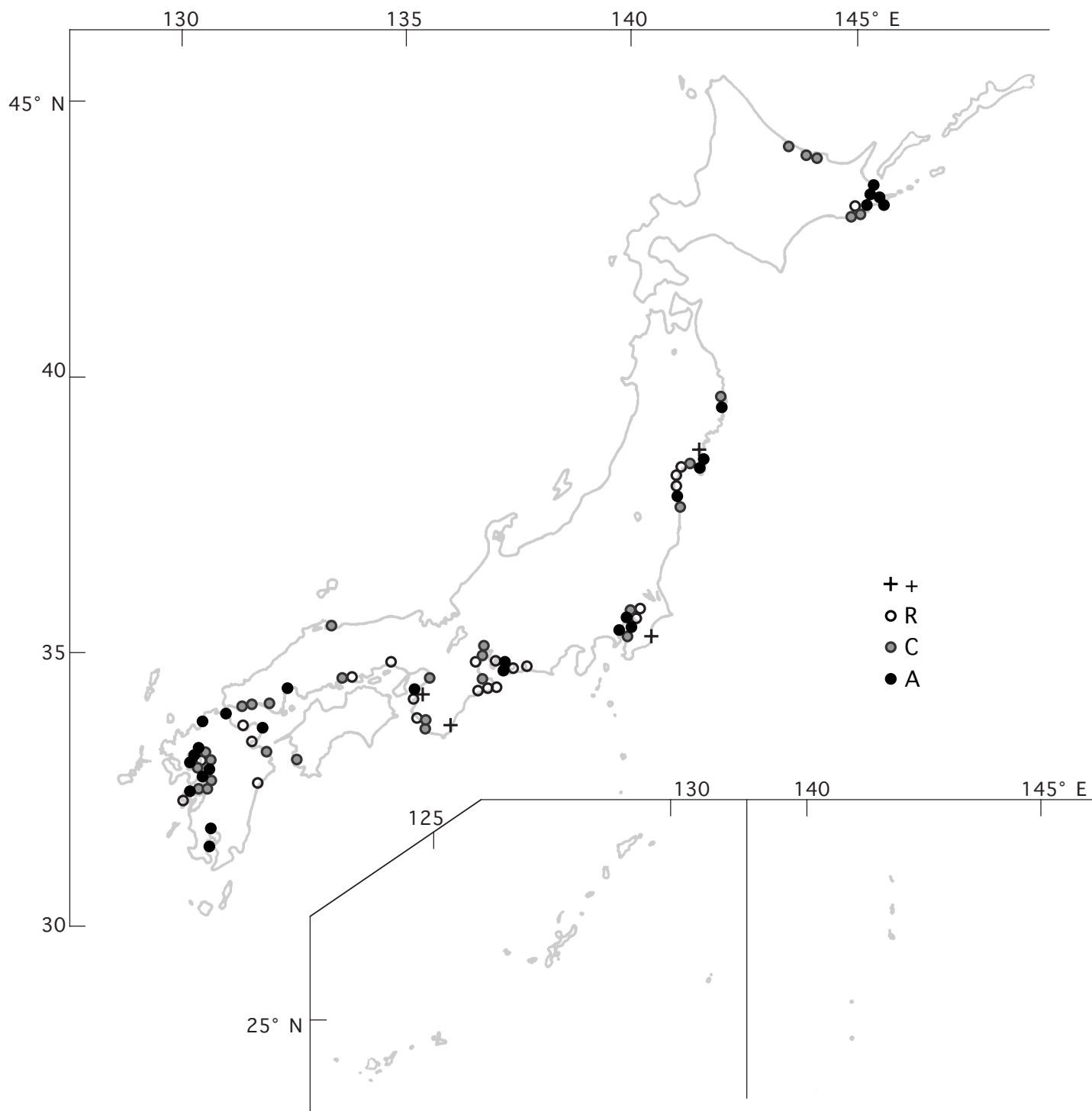
ツメタガイ

Glossaulax didyma (Röding, 1798)



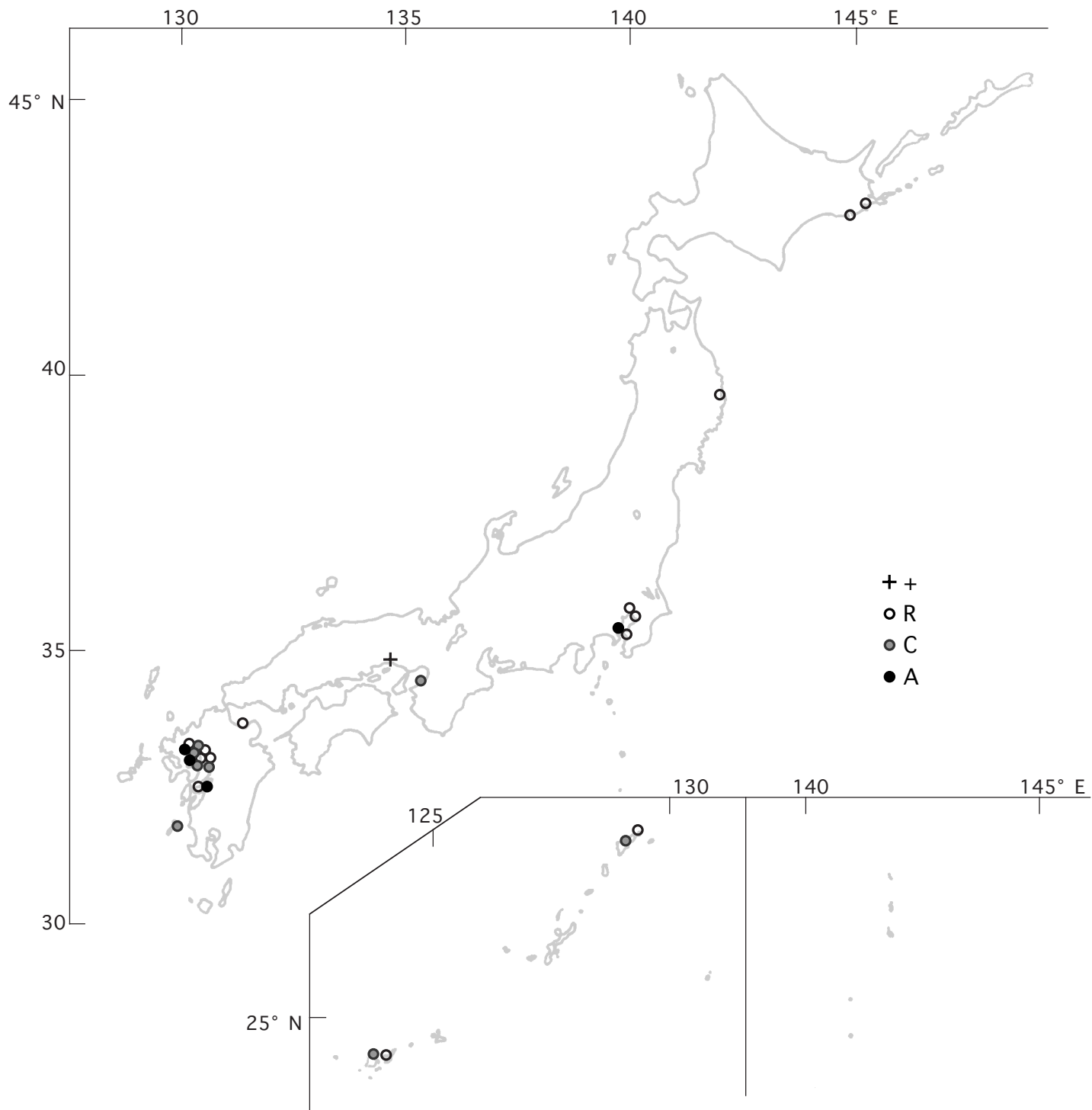
アサリ

Ruditapes philippinarum (Adams et Reeve, 1850)



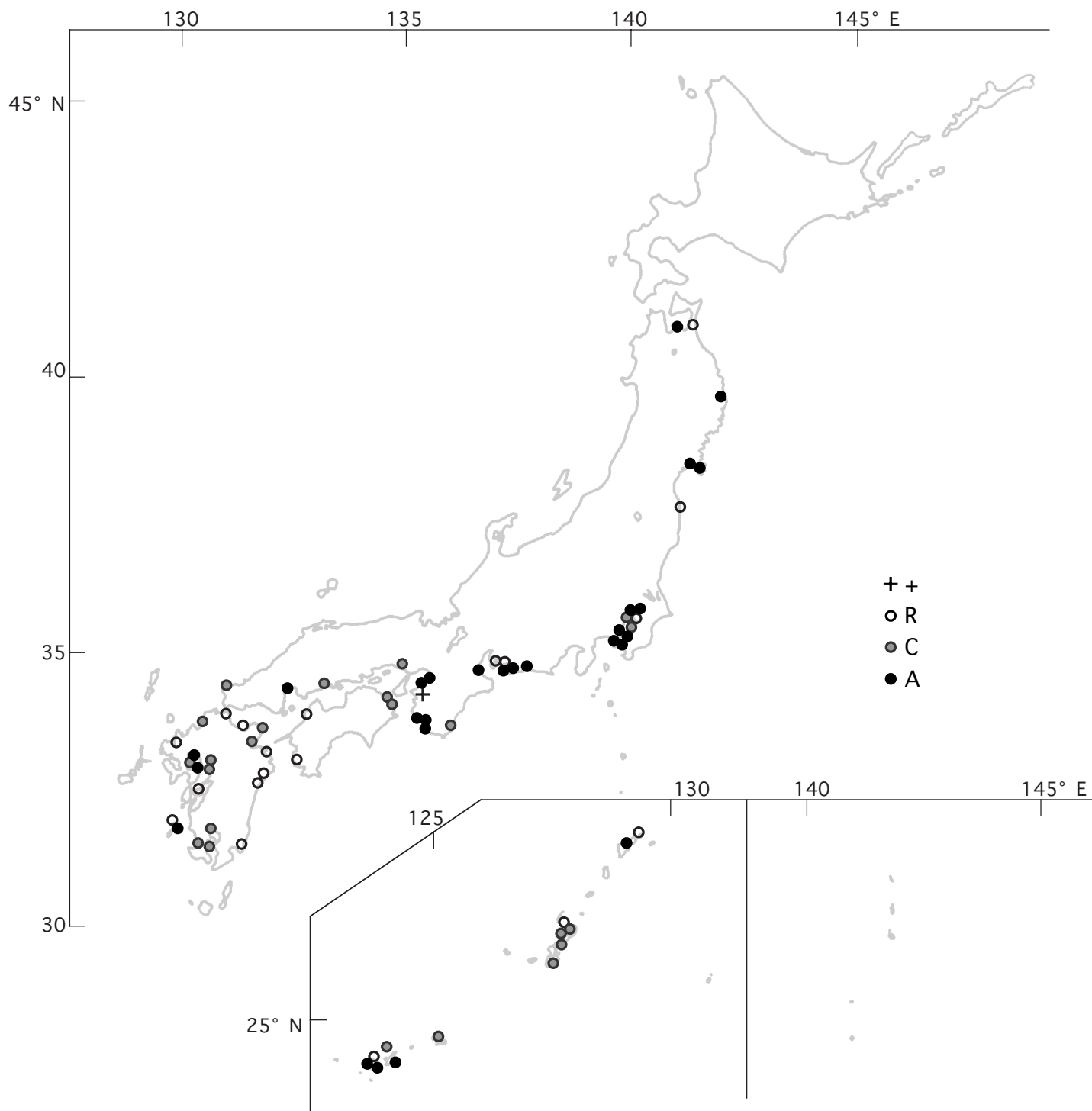
チロリ

Glyceria nicobarica Grube, 1868



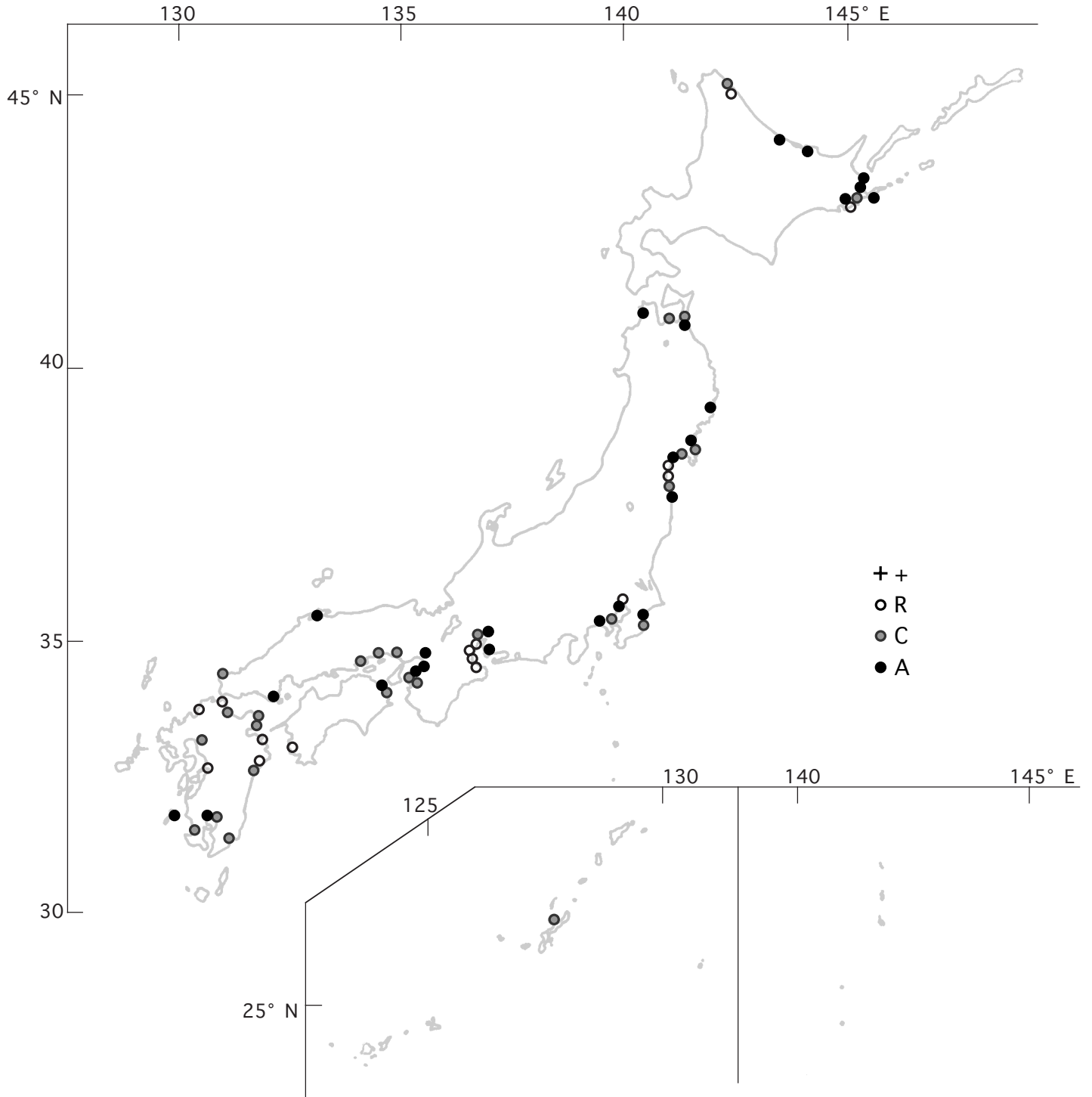
コケゴカイ

Ceratonereis erythraeensis Fauvel, 1918



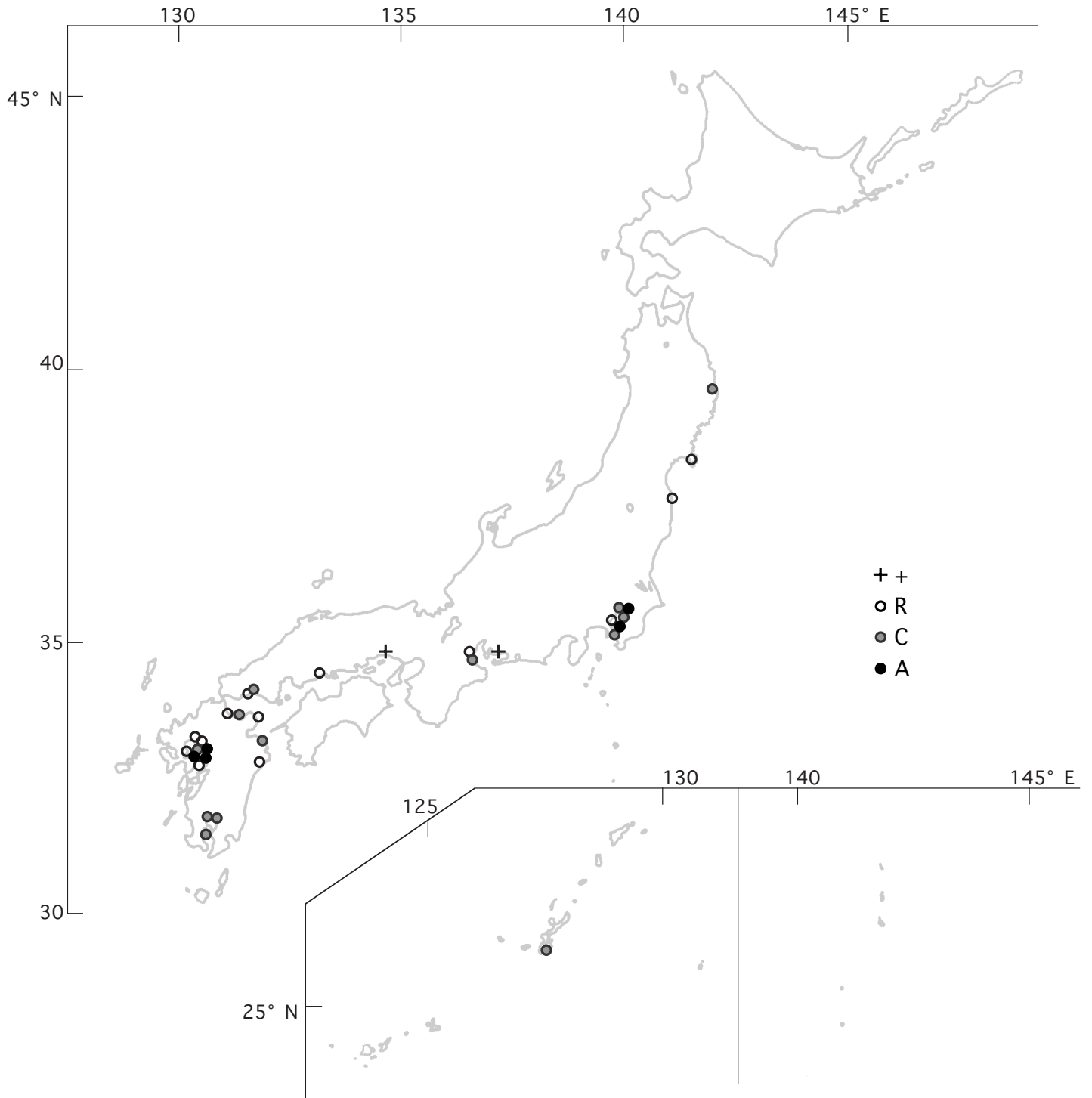
ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ

Hediste spp. (*Hediste atoka* or *H. diadroma*)



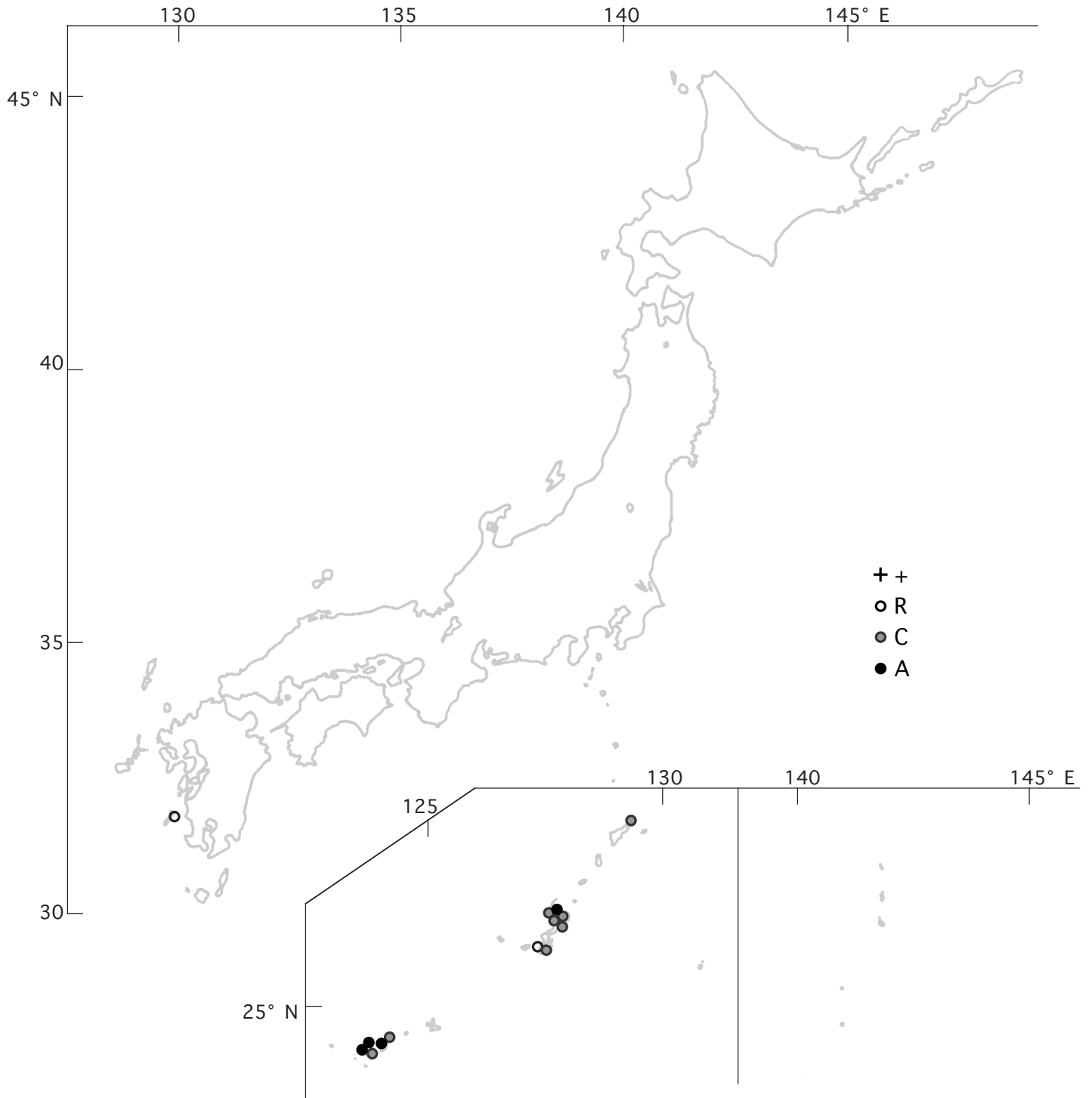
スゴカイイソメ

Diopatra sugokai Izuka, 1907



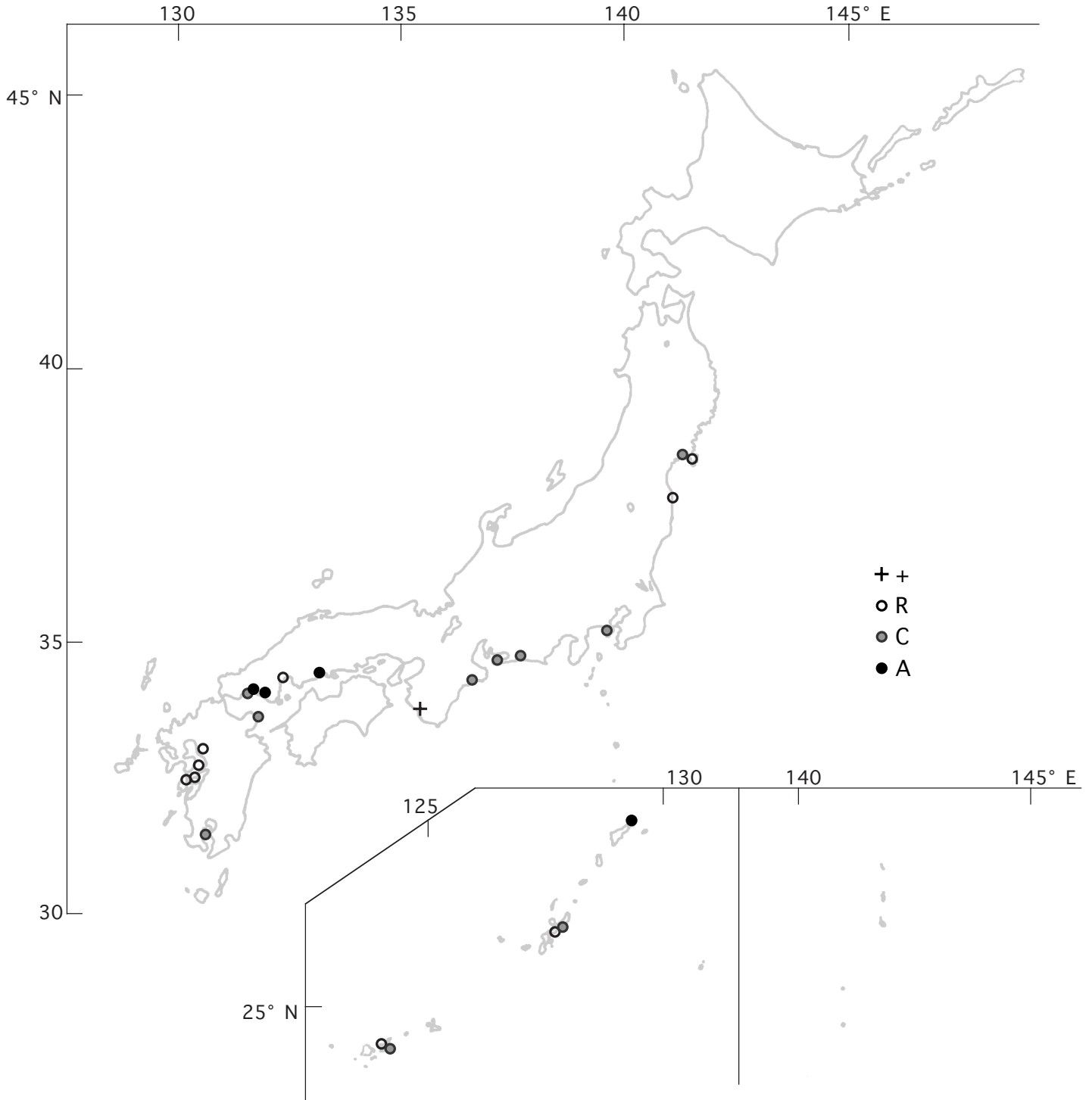
タテジマユムシ

Listriolobus sorbillans (Lampert, 1883)



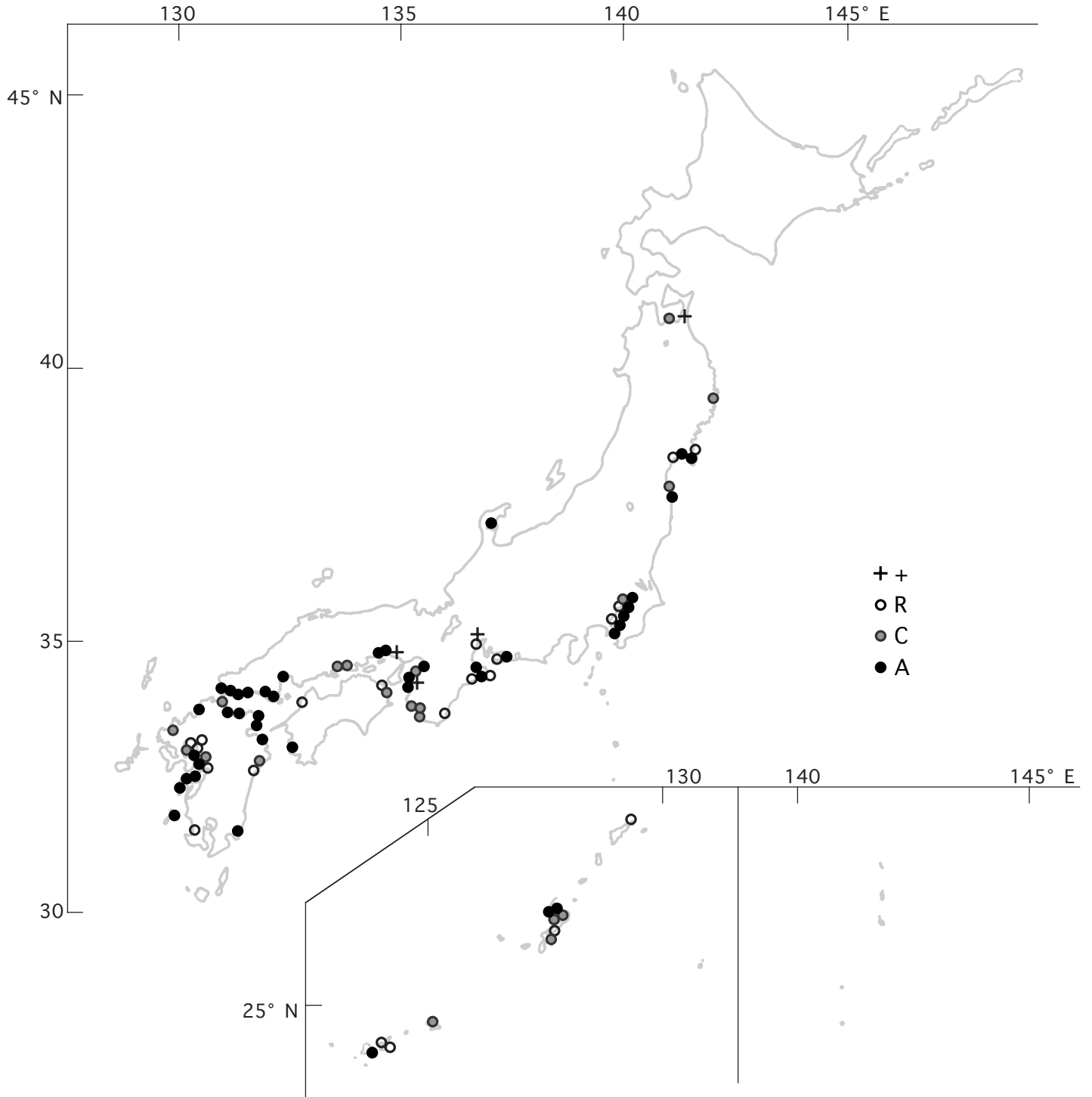
スジホシムシモドキ

Siphonosoma cumanense (Keferstein, 1867)



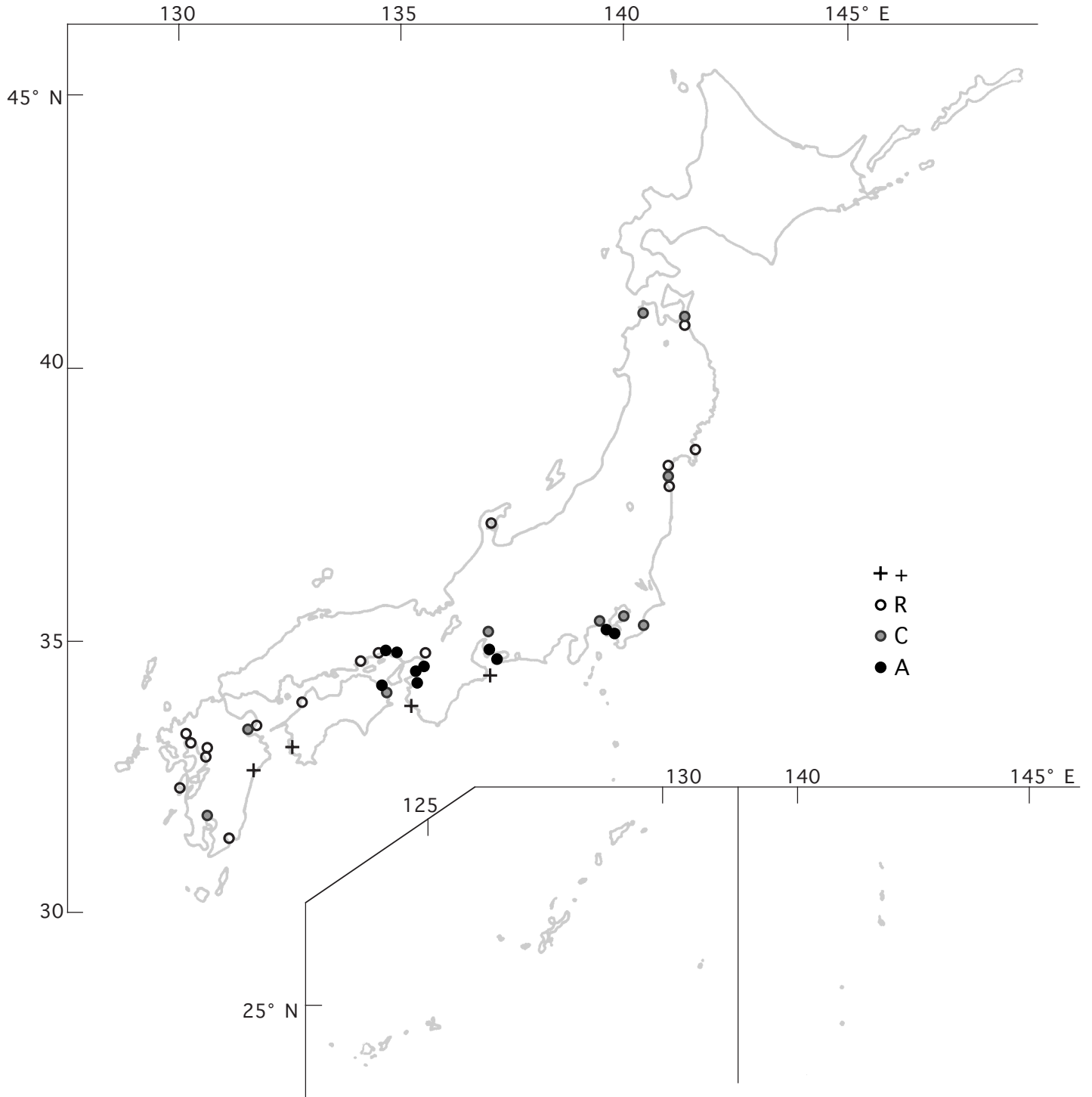
ユビナガホンヤドカリ

Pagurus minutus Hess, 1865



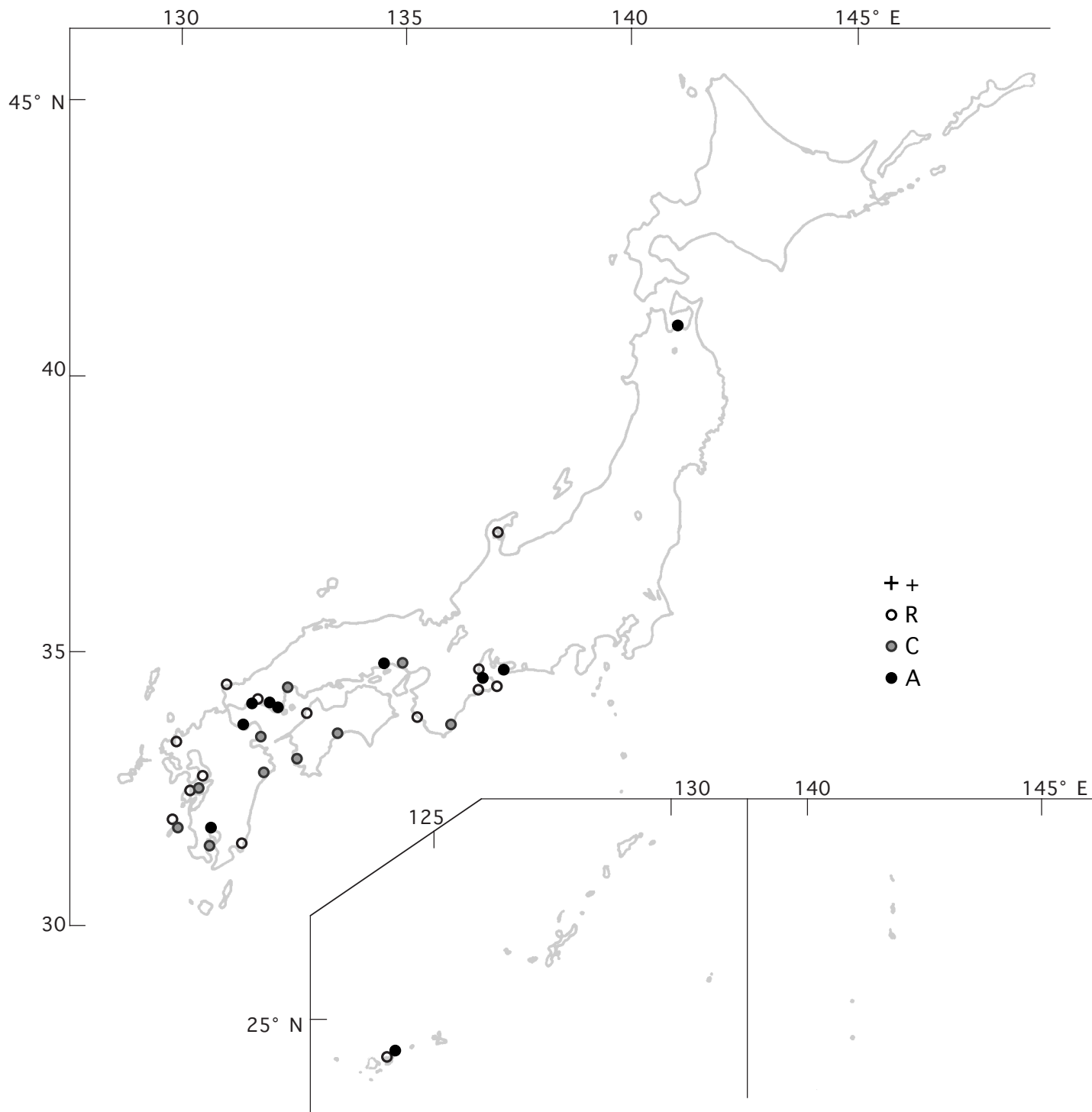
アカテガニ

Chromantes haematocheir (de Haan, 1833)



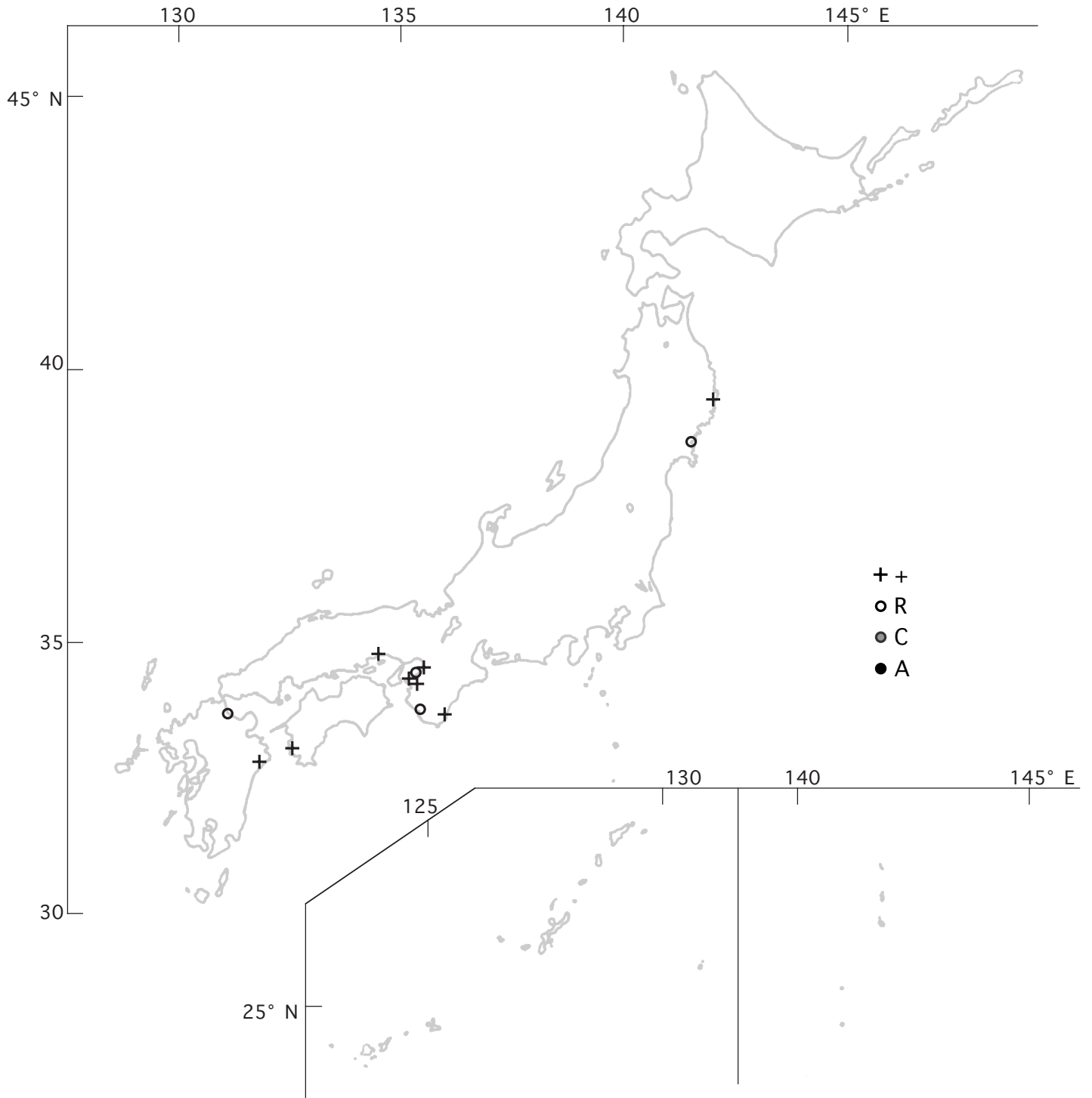
ヒモイカリナマコ

Patinapta ooplax (von Marenzeller, 1882)



マハゼ

Acanthogobius flavimanus (Temminck et Schlegel, 1845)



第7回 自然環境保全基礎調査

浅海域生態系調査（干潟調査）業務報告書

平成 19(2007)年 3 月

環境省自然環境局 生物多様性センター

〒 403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

電話：0555-72-6033 FAX：0555-72-6035

業務名 平成 18 年度自然環境保全基礎調査

浅海域生態系調査（干潟調査）委託業務

請負者 特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合

〒 160-0023 東京都中央区日本橋富沢町 5-10-802

電話：03-5614-2150 Fax：03-6806-4187

編集 飯島明子（日本国際湿地保全連合）

協力 多留聖典、森上需